

# プリキュアと謎のデュエリスト

リゲイン

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

次元旅行者のジャツカルはエクシース次元で黒咲瑠璃とのデュエル中に謎の声を聞く。それは伝説の戦士達を救ってほしいというものだった。そして、No. 21氷結のレディ・ジャステイスで瑠璃のモンスターであるL1アセンブリーナイチンゲールに攻撃しようとしたとき謎の光に包まれて、消えてしまう。そして、そこは別の世界に来てしまう

## 目次

デュエルの無い世界 プリキュアアラモードとの出会い	1
反逆の竜と革命の鳥	10
いちかの思い 輝け水晶の翼	20
プリキュア5と合流 記憶のカードと恐怖のデストロイ	29
あおいの力 甦れ！冥界の騎士	38
奇跡の光 アクセルシンクロ	49
プリンセスプリキュアと鍵のナンバーズ	62
恐怖!! No. 92の力	77
相性バラバラゆかりとあきら 希望の剣ホープ降臨	86
バッドエンドを打ち倒せ 合体せよグレートマグナス	96
あきらの恋？全てを貪れ悪魔の竜	111
ひまりの思いダブルチューニング 今こそ目覚めよスカーレットノ ヴァ	121
望む思い 混沌の力ホープレイ	135
壊滅！エクシーズ次元 怨みから生まれたRUM	145
ノイズを倒せ！顕現せよ超銀河眼の時空龍	154
新しい召喚法 リンク召喚 魔法界での激闘	166
絶望を希望に 悪を切り裂けホープレイV	177
響の怒り 闇に堕ちし反逆の牙	190
あきらへの思い 奇跡の融合究極竜騎士	201
勝利を我が手に ホープ剣ライトニングファイナーレ	217
きららの夢 進化する希望の光	228
敵を倒せ 新たななる竜	239
エレンの願いとせつなの祈り 闇の翼と恨みの猛毒竜	249

目覚める霸王竜 その名はズアーク	260
ハピネスチャージと合流 今こそ羽ばたけ究極の鳥	273
奇跡の光 ゼアルIV（フォース）出来上がり	286
打倒レツド 闇を斬れホープレイヴィクトリー	298
今こそ力に GOデルタアクセルシンクロ	310
洗脳されたジャツカル ショコラの怒りと新たなホープ	319
ナンバーズ総進撃 キングジコチューを倒せ	333
すべてを爆撃せよ 迫り来るダークフオール	345
眠らされた街 2体の竜の轟く咆哮	355
恐ろしき計画 次元統合	365
この力はみくのために 要塞の隼飛び立つ	377
蘇るフュージョン ホープの新たな力	388
狙われたジャツカル 誕生新たな力	398
吠えるジェラート 集いし願いフォルスシンクロ	409
新たなナンバーズ 強力なシンクロモンスター超重蒸気テツドウ	420
トイマジンを救え シンクロ召喚白鬮気白鯨	435
操られたいちか 進化する星屑の竜	449
サラマンダー男爵の力 強力なCN。	463
恐怖！暗黒方界邪神降臨	478
闇を斬れ ジャステイスソード	487
すべてを跳ね返せミラーフォースドラゴン	502
新たな力	518
平和な世界へ	531
番外編 帰ってきたジャツカル 新たな力	539

新たな世界 ハグプリとの合流

546

すべて滅殺マキシマムとギガレイズ

552

目覚めよ幻魔の力

557

マキシマム召喚 合体ゼアルVI

561

奇跡のゼアル ゼアル完全体

564

新たなナンバーズ

567

インフェルニティの猛攻

570

まなつのやる気を取り戻せ 究極の奇跡

574

到着すこやか市 ナンバーズ総合戦

577

怒りのプレデタープランツ

581

聖なる騎士 新たな究極のゼアル

584

運命と思い

587

思いよ届け!!クリスタルクリアウイングシンクロドラゴン飛翔

589

サイバーダークエンドドラゴン5連打

592

宝玉達の力 偽りのナンバーズ

595

新たな力 トリプルチューニング

598

生まれるナンバーズ1000 新たなスターヴヴェノム

601

新たなプリキュア キュアファイナレ ナンバーズ総出撃

603

強敵 時械神

607

悪夢、インファイニティーダークホープ

611

剣闘獣の力

615

DDD異次元の王 倒せゼツタイヤラネーダ

618

黒き翼 羽ばたく

621

闇のフィールを撃ち破れ

624

ライディングデュエルアクセラレーション	628
地獄のえん魔竜王	630
深紅の眼と強靱の刃	633
輝け 銀河の眼	636
DDD再び	640
燃える転生炎獣ヴァイオレットキマイラ	644
混沌幻魔現る 放て虚無幻影羅生悶	647
新たな弾丸 ヴァレルの脅威たち	650
新たに羽ばたく黒き翼	653
取り戻せレシピツピを	656
現れよ、C i N o 1 0 0 0 夢幻虚光神ヌメロニアヌメロニア	659
昆虫たちの怒り	662
新たな超銀河	665
新たな世界	667
漆黒の宝玉獣	670
黒き翼とオレンジのツバサ	673
ましろんは私が守る 目覚める虎子王と女帝王	677
ヒーローの出番です 漆黒のヒーロー現る	680
舞い戻る死神	683
転生リンク召喚 転生炎獣	685
融合幻魔の力	688
王者の鼓動と新たなナンバーズ	691
新たな力 地縛の力	695
舞い上がれ新たな青い目の龍	698

スカイランドへ 奇跡を起こす超銀河

恐怖 暗黒界域

轟け 運命のTG

敵を討て 三幻神



700

702

704

706

デュエルの無い世界　プリキュアアラモードとの出会

ジャツカル「やるじゃねえか、ここまで楽しませてくれるとはな、さすがは準の妹か」

黒咲瑠璃「私もよ、ここまで楽しませてくれるなんて思ってた」

ジャツカル「だがこれで終わりだ、俺はランク5のCNo. 101 S・H・Dark・KnightのORUを1つ使いオーバーレイ現れる!No. 21氷結のレディ・ジャステイス」

CNo. 101 S・H・Dark・Knight

水族／エクシーズ／効果

攻撃力2800　守備力1500　ORU　6個　(効果によるもの)　ランク6

レベル5モンスター×3

1ターンに1度相手フィールドに特殊召喚されたモンスター1体を選択しORUにする。またORUを持つているこのカードが破壊され墓地にS・H・Ark・Knightが存在する時、墓地から特殊召喚するその後、自分はこのカードの元々の攻撃力のライフを回復する。効果で特殊召喚場合、このターンは攻撃出来ない

天城カイト「ここでさらにナンバーズか、これでは、瑠璃も無理だな」

黒咲準「そんなことは無い!!」

天城カイト「ナンバーズはナンバーズでしか破壊出来ない効果を持つている」

ジャツカル「わけあるか、ナンバーズはナンバーズ以外でも倒せるわ」

黒咲準「だそうだ」

天城カイト「ぐぬぬ」

氷結のレディ・ジャステイス



水族／エクシード／効果

攻撃力500 守備力500 ORU 5個 ランク6

レベルのモンスター×2

このカードは自分のランク5のXモンスターからORUを1つ使いXモンスターの上に重ねて召喚出来る。①このカードの攻撃力はORUの数×1000アップする②1ターンに1度ORUを使い相手フィールドの守備表示モンスターを全て破壊する

ジャツカル「バトルだ、氷結のレディ・ジャステイスでアセンブリーナイチンゲールを」

その時

??? 「助けてください」

ジャツカル「瑠璃、負けそうだからと言って助けを乞うなどデュエリストとしてどうかと思うが」

黒咲瑠璃 「?何も言っていないわよ」

ジャツカル 「何だと」

??? 「伝説の戦士達を助けてください」

ジャツカル 「またか、瑠璃では無いとなるとサヤカか?」

笹山サヤカ 「私も何も」

ジャツカル 「?失礼した、バトル続行!氷結のレディ・ジャステイスでアセンブリーナイチンゲールを攻撃」

LLアセンブリーナイチンゲール

鳥獣族／エクシード／効果

攻撃力1000(元々の攻撃力は0) 守備力1000(元々の守備

力は0) ORU 5個 ランク1

レベル1モンスター×2体以上

①このカードの攻撃力はORU数×200アップ②直接攻撃が出来るORUの数までバトルフェイズに攻撃可能③1ターンに1度ORUを使いエンドフェイズまでLLモンスターは戦闘・効果では破壊出来ず自分が受ける戦闘ダメージは0になる。相手のターンでも発動可

アセンブリーナイチンゲール 攻撃力1000VS氷結のレディ・

ジャステイス 攻撃力5000

ジャツカル「これで俺の勝ち」

その時、まばゆい光に包まれてジャツカルは消える

天城カイト「ジャツカルが」

黒咲瑠璃「消えた」

黒咲準「一体どこへ」

黒咲瑠璃「兄さんこう言う時って」

黒咲準「分かんないがあいつは逃げる男ではない」

天城カイト「とにかく、探すぞ」

その頃、ジャツカルは

ジャツカル「なんだったんだ、一体、確か、俺は瑠璃とデュエルしていた、そしてレディ・ジャステイスでアセンブリーナイチンゲールを攻撃し勝てる寸前だった、そして、気づいたらここにいた、だが、ここはどこだ、エクシズ次元では無さそうだが、とにかく、どうにかして戻らなければ、そのためには移動手段を得るか」

そして、20分後

ジャツカル「一体ここはどこだ？そう言えば飯まだだったな・・・んっ？キラキラパティスリー？あそこで聞いてみるか」

宇佐美いちか「いらっしやいませ」

立神あおい「何かご注文ですか？」

ジャツカル「(まずは移動手段だな) Dホイール無いか？」

有栖川ひまり「Dホイール？」

宇佐美いちか「あのここはスイーツショップですけど」

ジャツカル「スイーツショップ？Dホイールはどこに行けば入手出来る？」

立神あおい「だからDホイールってなんなんだよ」

琴爪ゆかり「何かあったの？」

剣城あきら「どうしたの？騒がしいけど」

宇佐美いちか「ゆかりさん、あきらさん、この人をどうにかしてください」

有栖川ひまり「言ってることが分からなくて」

劍城あきら「？何かありましたか？」

ジャツカル「Dホイールが欲しいんだが」

琴爪ゆかり「Dホイール？」

ジャツカル「お前らが乗ってるバイクって言えば分かるか」

劍城あきら「私達はバイクは乗りませんけど」

ジャツカル「はっ？だってここはシンクロ次元だろ」

立神あおい「シンクロ次元？ここはいちご坂町だけど」

ジャツカル「・・・いちご坂町？と言うことは別世界って事か・・・

それより腹減った」

劍城あきら「よかつたらここで食べていかない？スイーツなら出せるけど」

ジャツカル「助かる」

宇佐美いちか「それより貴方は？」

ジャツカル「我はジャツカル、ただのデュエリストだ、エクシース次元つてところから来たつて言うか飛ばされた」

立神あおい「？どういう事？」

ジャツカル「俺はデュエルモンスターズを武器に戦う」

琴爪ゆかり「デュエルモンスターズ？聞いたこと無いわね」

ジャツカル「聞いたこと無いのか？」

劍城あきら「ええ、ここには無いからね」

ジャツカル「そうか・・・じゃあDホイールも知らないか」

有栖川ひまり「はい」

宇佐美いちか「でも貴方はどうしてここに？」

ジャツカル「知らんが伝説の戦士達を助けてくれつて声が聞こえただけだ」

立神あおい「そうだったの」

ジャツカル「まつ、そう言うことだ、それより、このチョコレートうまいな」

劍城あきら「ありがとう、それ私が作ったんです」

ジャツカル「そうか・・・」

宇佐美いちか「どうしたんですか？」

ジャツカル「この店に何かいるな、それも二匹」

立神あおい「そ、そんなこと」

ジャツカル「俺には分かる・・・その人形に化けてる二匹」  
ペコリン「何で分かったペコ」

長老「ワシらを簡単に見つけるとは侮れないジャバ」

ジャツカル「悪いな、気配がただけだ」

ペコリン「仕方ないペコ」

ジャツカル「まあいい、お前らがなんだろうか驚かんがな、って何だよ、誰だチョコレートを灰にすり替えたやつは」

宇佐美いちか「まさか!!」

立神あおい「あいつらが」

劍城あきら「ジャツカルさんはここで待っててください」

ジャツカル「はっ?」

琴爪ゆかり「また貴方だったの」

ビタード「なんだ、お前らか、ここにキラキラルの気配があるから来たのによ」

ジャツカル（なんだ?あいつ見るからに気に入らねえ）

宇佐美いちか「みんな行くよ」

4人「うん」

5人「キュアラモードデコレーション」

宇佐美いちか「シヨートケーキ」

キュアホイップ「キュアホイップ出来上がり」

キュアジェラート「キュアジェラート出来上がり」

キュアカスタード「キュアカスタード出来上がり」

キュアマカロン「キュアマカロン出来上がり」

キュアシヨコラ「キュアシヨコラ出来上がり」

5人「キラキラプリキュアアラモード」

ジャツカル「あいつら変身出来るんだ、いいノリしてんじゃん」

ビタード「プリキュア来たか」

キュアシヨコラ「お前は許さない」

キュアマカロン「もう一度倒してあげるわ」

ビタード「やれるものならやってみな」

キュアジェラート「無駄だね」

キュアカスタード「よそ見は」

キュアホイップ「厳禁よ」

そう言つてキラキラルを使つて攻撃する

ビタード「ぐああああ」

キュアカスタード「やりました」

ジャツカル「あのバカ、フラグを立てやがった」

ビタード「無駄だ」

キュアホイップ「なっ、効いてない!!」

キュアシヨコラ「お前の相手は」

キュアマカロン「こつちよ」

ビタード「邪魔だ」

キュアマカロン キュアシヨコラ「なっ、きやあああ」

ビタード「お前達も消えろ」

そう言つて衝撃波を放つと変身解除に追い込む

ビタード「大したこと無いな」

ペコリン「プリキュアがピンチペコどうすればいいペコ」

ジャツカル「俺が奴を倒す、待ってな」

ペコリン「でも危ないペコ」

ジャツカル「安心しろ、じゃっ、行つてくるわ」

ビタード「お前らのキラキラルをよこせ」

琴爪ゆかり「ここまでなの」

宇佐美いちか「あいつ以前より強くなってる」

立神あおい「くそう、ここで終わってたまるか」

ビタード「無駄だ、もうお前らは終わりだ」

その時

ジャツカル「スクラップにされし怨念どもよ、その怨みにて新たな

竜を産み出さん、シンクロ召喚、現れるスクラップドラゴン」

スクラップドラゴン

ドラゴン族／シンクロ／効果

攻撃力2800 守備力2000 レベル8

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

1ターンに1度自分及び相手フィールドに存在するカードを1枚ずつ選択し破壊する。このカードが相手によって墓地に送られた場合自分の墓地のスクラップシンクロモンスター以外のスクラップと名のついたモンスターを1体選択して特殊召喚する

ビタード「何!!ぐああああ」

立神あおい「ジャツカルさん」

宇佐美いちか「すごい・・・」

ビタード「なんだ貴様、プリキュアの仲間か?」

ジャツカル「気に入らねえな、俺の食事の邪魔しやがって」

ビタード「なんだと、ふざけるな、貴様、プリキュアの仲間かって聞いているんだ」

ジャツカル「違う」

ビタード「じゃあ、すつこんでな、貴様の出る幕では無い」

ジャツカル「大丈夫か?」

宇佐美いちか「ええ、なんとか」

ジャツカル「お前達はそこで休んでろ、あいつは俺がやる」

立神あおい「だけど」

ジャツカル「任せな、俺がやってやるから」

有栖川ひまり「すみません」

ジャツカル「気にするな」

ビタード「貴様、俺を無視とは無い度胸してるな」

そう言つて、衝撃波を放つ

ビタード「これで終わったな、威勢よく出てきた割には大したこと無いな」

ジャツカル「貴様が大したこと無いな」

ビタード「何!!」

ジャツカル「我は罨<sup>トラップ</sup>カードガード・ブロックを発動した」

ガード・ブロック

罨カード

相手のターンの戦闘ダメージ計算時に発動することが出来る。その戦闘でおこる自分へのダメージを0にして自分はカードを1枚ドロースする

ジャツカル「これで我はダメージは受けずに1ドローが出来る」

ビタード「ぐぬぬ、ござかしいマネを」

ジャツカル「手札は今2さして次はどうなるかな、ドロー、来たぜ、これでお前も終わりだな」

ビタード「何!!」

ジャツカル「我は手札から魔法カード融合を発動 我は手札の<sup>マジック</sup>デステニーヒーローとD—HEROとD—HEROドグマガイを融合 青き血を持つ英雄よ 正義を教説する英雄よ、神秘の渦で一つとなりて新たな英雄産み出すがいい融合召喚、出でよ<sup>ドラグーン</sup>D r a g o o n D—E N D

D r a g o o n D—E N D

戦士族／融合／効果

攻撃力3000 守備力3000 レベル10

D—HERO B l o o—D+D—HEROドグマガイ

このカードは上記のカードでしか融合召喚出来ない。①1ターンに1度相手のモンスターを1体選択して発動する。そのモンスターを破壊し、表側表示のモンスターを破壊した場合攻撃力分のダメージを相手に与える。効果を仕様した場合、自分はバトルフェイズは行えない。②このカードが墓地に存在する場合自分のスタンバイフェイズに自分の墓地からD—HEROを1体除外して墓地から特殊召喚できる

ビタード「おのれ、プリキユアもろとも消し去ってやる」

ジャツカル「消えるのはお前だ、D r a g o o n D—E N D、デス・オブ・Dバースト」

ビタード「バカな、ぐあああああ」

琴爪ゆかり「やった」

剣城あきら「すごい、あれが彼の戦い方」

立神あおい「ありがとう、助かったよ」

ジャツカル「気にするな、ただ、私の食事の邪魔をされたくなかつただけだ、私は食事に戻る、そうだ、しばらくは世話になるかもしれないからな、よろしく」

琴爪ゆかり「ふふふ、面白いわ、彼」

剣城あきら「そうだね」



## 反逆の竜と革命の鳥

あおい「ごめんなさい、助けてくれて」

ジャツカル「気にするな、ただ、私の食事の邪魔をされたくなくなっただけだ」

5人「・・・」

ジャツカル「お前らは危なっかしくて見てられん、特にお前はな」

あおい「な、撫でるな」

ひまり「デレましたね」

ゆかり「ふふふ、面白いわ」

いちか「それより自己紹介まだでしたね、私は宇佐美いちかです」

あおい「立神あおいです」

ひまり「私は有栖川ひまりです」

ゆかり「琴爪ゆかりよ、よろしく」

あきら「剣城あきらです、よろしく」

ジャツカル「そいつらは？」

ひまり「その子達はペコリンと長老です、妖精なんですよ」

ジャツカル「妖精ねえ」

あおい「あれっ、驚いてないですね」

ジャツカル「そんなの精霊みたいなものだろ」

いちか「まあ、そうですね」

あきら「それより、寝泊まりする場所はあるんですか？」

ジャツカル「寝泊まりする場所？無いな」

あきら「だったら、うちに来てください」

ジャツカル「いいのか？」

あきら「はい」

ゆかり「あきらったら大胆に誘うのね」

あきら「ゆかり、そんなわけ」

あおい「本当は、ジャツカルさんとムフフフ」

あきら「そ、そんなんじゃないって」

ジャツカル「お前ら止めてやれ、あきらが困ってるじゃねえか」

あきら「ジャツカルさん」  
いちか「とにかく、今日は帰りましょう、もう遅いですし」  
ひまり「そうですね」  
ジャツカル「そうだな、悪いな、あきら」  
あきら「いいんですよ」  
そして、劍城家  
あきら「あのジャツカルさん」  
ジャツカル「どうした？」  
あきら「どうしてそこまでデュエルに」  
ジャツカル「亡くなった恋人との約束を果たすためだ」  
あきら「亡くなった恋人との約束」  
ジャツカル「デュエルで笑顔を、恋人はそう言ってた」  
あきら「デュエルで笑顔を・・・」  
ジャツカル「それより、なぜ同じ布団で寝てるんだ」  
あきら「布団が無かったからです」  
ジャツカル「それなら仕方ないな、あとさ、敬語じゃなくていいぞ」  
あきら「ええ、分かったわ」  
そして、次の日  
あおい「あきらさん」  
あきら「どうしたの？」  
あおい「昨日、どうでした？」  
あきら「な、何が」  
あおい「ジャツカルさんとです」  
あきら「ジャツカルさんとは何も無い」  
ゆかり「本当かしら、焦ってるわよ」  
ジャツカル「どうした？」  
ひまり「あきらさんとなんかあったんですか？」  
ジャツカル「別に」  
いちか「そうですね」  
ひまり「それより、私プリンを作って見たんです、どうですか？」  
ジャツカル「そうだな、その前に招かざる客を追い払ってからだな」

あおい「招かざる客？まさか」

ジャツカル「ああ、そうだ、そこにいるのは分かってんだ大人しく出てきた方がいいぞ」

プルプル「俺様の気配に気づくとはやるじゃねえか」

ひまり「あいつはあのときの」

プルプル「プリキュアかあ、ちょうどいいキラキラ頂くぞ」

ジャツカル「悪いがキラキラは渡さん」

プルプル「面白い貴様もプリキュアもろとも始末する、ここが貴様らの墓場だ」

5人「キュアラモードデコレーション」

ひまり「プリン」

デュエルディスク「デュエルモードスタンバイ」

5人「キラキラプリキュアアラモード」

キュアホイップ「みんな行くよ」

4人「うん」

ジャツカル「ターゲット確認リベレート開始する」

キュアカスタード「本気で」

キュアジェラート「行くよ」

プルプル「無駄だ」

ジャツカル「まずは小手調べ」

キュアジェラート「まずは何が来るのかな楽しみ」

キュアマカロン「そうね、前回はシンクロと融合今回は何かしら」

キュアシヨコラ「二人とも観戦してないで手伝ってよ」

ジャツカル「まずはスケール0霸王門零とスケール13の霸王門無<sup>インフィニティ</sup>限でペンデュラムスケールをセッティング」

霸王門零

スケール0

悪魔族／ペンデュラム／効果

攻撃力0 守備力0 レベル7

ペンデュラム効果 ①フィールドに霸王龍ズアークがある時、自分が受けるダメージは0になる。②1ターンの1度ペンデュラムゾー

ンに霸王門無限がある時発動できる。自分のペンデュラムゾーンのカードを2枚破壊しデッキから融合またはフュージョンカードを手札に加える

効果①1ターンの1度霸王門零と自分の表側表示のカードを1枚を破壊してドラゴンの融合またはシンクロモンスターを攻撃力 守備力を0とし特殊召喚されシンクロ エクシーズの素材には出来ない②モンスターゾーンのこのカードが破壊されたときペンデュラムゾーンに置く

霸王門無限

スケール13

悪魔族／ペンデュラム／効果

攻撃力0 守備力0 レベル7

ペンデュラム効果①自分のフィールドにモンスターが存在する場合ペンデュラム召喚は出来ない。この効果は無効化されない②1ターンの1度自分のフィールドに霸王龍ズアークが存在する場合、相手フィールドの表側表示のモンスターを1体選択しそのモンスターの攻撃力分ライフを回復する

効果 ①1ターンの1度このカードと表側表示ののカードを選択し破壊しドラゴンのエクシーズまたはペンデュラムモンスターを攻撃力 守備力を0にし効果は無効化され特殊召喚されシンクロ エクシーズの素材に出来ない②このカードが破壊されたときペンデュラムゾーンに置く

プルプル「なんだそれは？」

ジャツカル「ペンデュラム召喚は決められたスケールの間のレベルのモンスターを同時召喚する、例えば5〜9の場合は6〜8のレベルのモンスターを同時召喚出来る」

プルプル「今回の場合は0〜13、と言うことは」

キュアマカロン「1〜12のモンスターを」

キュアジェラート「同時召喚するって事か」

ジャツカル「そうだ、ペンデュラム召喚、来いレベル5ウイング・イーグル 鎧武者斬鬼 スクラップソルジャーレベル3スフィラス

レディ」

鎧武者斬鬼

戦士族

攻撃力1500 守備力1700 レベル5

一騎討ちを好む。一瞬の隙について居合い抜きで攻撃！

ウイング・イーグル

鳥獣族

攻撃力1800 守備力1500 レベル5

はるか上空から獲物を探し、狙った獲物は逃がさない

スクラップソルジャー

戦士族／チューナー

攻撃力2100 守備力700 レベル5

フィールド上に表側表示で存在するこのカードが攻撃対象にされたときバトルフェイズ終了時にこのカードを破壊する。このカードがスクラップと名のついたカードによって破壊されたときスクラップソルジャー以外のスクラップモンスターを1体手札に加える。このカードはスクラップモンスターのシンクロ召喚に使用できない

スフィラスレディ

岩石族

攻撃力400 守備力1400 レベル3

美女と思い近づく、首筋を噛まれて全身の血を吸われてしまう

プルプル「4体同時召喚だ!!」

キュアシヨコラ「すごい、ペンデュラム召喚」

キュアホイツプ「あんなこと出来たんだ」

キュアカスタード「予想外です」

プルプル「だが、いくら呼び出そうと俺様には勝てない」

ジャツカル「それはどうかな」

プルプル「何!!」

ジャツカル「我はウイング・イーグルと鎧武者斬鬼でオーバーレイ、終焉を守りし者よ、愚かな者に滅びを与えよ エクシーズ召喚 現れろ！終焉の守護者アドレウス」

終焉の守護者アドレウス

悪魔族／エクシース／効果

攻撃力2600 守備力1700 ランク5

レベル5モンスター×2

1ターンに1度このカードのエクシース素材を1つ使い相手  
フィールド上の表側表示のカードを1枚破壊する

プルプル「なんだあれは!!」

ジャツカル「驚くのはまだ早いスクラップソルジャーとスフィラス  
レデイでチューニング スクラップにされし怨念どもよ、その怨みに  
て新たな竜を産み出さんシンクロ召喚現れるスクラップドラゴン」

キュアシヨコラ「ペンデュラム召喚からシンクロ召喚 エクシース  
召喚へ繋げた」

キュアマカロン「ふふふ、面白いわ」

プルプル「愚かなこの俺様に勝てると思ってるのか?」

ジャツカル「・・・スクラップドラゴンがやられたか、だが、問題  
は無い」

キュアホイップ「ジャツカルさん、私達が時間を稼ぎます」

キュアカスタード「だから逆転の一手を引き当ててください」

ジャツカル「すまないな、お前ら、さあ、我のターンだ（これは  
ファントムナイト  
幻影騎士団シャドーベイルこれでは、まだ足りない、せめてもう一枚  
レベル4が来れば）リバースセットしてエンド」

キュアマカロン「くっ、ダメだったようね」

キュアホイップ「こうなったら私達が彼の力に」

キュアジェラート「そうだね、ジャツカルさん」

ジャツカル「なんだ?」

キュアジェラート「1ターンに1枚なら私達が1枚つつやっていき  
ます、それでなんとか」

ジャツカル「分かった」

キュアジェラート「まずは私が」

プルプル「行かせるか」

キュアマカロン「ジェラートの」

キュアシヨコラ「邪魔はさせないよ」

キュアジェラート「まずは1枚目」

ジャツカル「何を引いた？」

キュアジェラート「えっと、アポピスの化神です」

キュアカスタード「次は私ですね」

プルプル「おのれ、逃がさん」

キュアジェラート「ウオオオオオ」

プルプル「くっ」

キュアカスタード「私が引いたカードはスカルイーグルです」

ジャツカル「フィールドにだせ」

キュアカスタード「はい」

キュアマカロン「次は私のようなね」

プルプル「おのれ」

キュアジェラート「マカロンの邪魔は」

キュアホイップ「させない」

キュアマカロン「私もスカルイーグル」

キュアカスタード「これで、同じレベルのモンスターが2体揃いました」

キュアマカロン「来るわよ、ジェラート」

キュアシヨコラ「さて、私が」

ジャツカル「次で最後の可能性もあるからな」

キュアシヨコラ「分かった、さて、私の引いたのはRUMデスダブ

ルフォース」

ジャツカル「来た、これで勝利は確定した」

プルプル「勝利は確定だと？面白い」

ジャツカル「まずは2枚のリバース発動幻影騎士団シャドーベイルアポピスの化神」

幻影騎士団シャドーベイル

罨カード

①自分の表側表示のモンスターを1体選択、選択したモンスターの攻撃力 守備力を300あげる

②このカードが墓地に存在する場合相手の攻撃宣言時に発動可能。  
このカードは通常モンスター（戦士族・闇・レベル4・攻撃力0・守備力300）として特殊召喚する（罨カードとしては扱わない）このカードがフィールドから離れたとき除外される

アポピスの化神

罨カード

自分・相手のスタンバイフェイズ発動可能。このカードは発動後、通常モンスター（爬虫類族・地・レベル4・攻撃力1600／守備力1800）となり特殊召喚する。このカードは罨カードとしても扱う  
ジャツカル「シャドーベイルの効果によりアポピスの攻撃力 守備力が300アップ」

プルプル「俺様に歯向かうとは消えるがいい」

キュアシヨコラ「そうはいかないよ」

プルプル「なんだと!!」

ジャツカル「その瞬間シャドーベイルの効果を発動、攻撃してきたときこのカードを守備表示で特殊召喚する」

キュアカスタード「今です」

ジャツカル「ああ、我はシャドーベイルとアポピスの化神でオーバレイ！漆黒の竜よ、その力で悪を倒し反逆せよ、エクシーズ召喚、現れる四天の竜の1体ダークリベリオンエクシーズドラゴン」

ダークリベリオンエクシーズドラゴン

ドラゴン族／エクシーズ／効果

攻撃力2500 守備力2000 ランク4

レベル4モンスター×2

このカードのORUを2つ使い、相手のフィールドの表側表示モンスターを攻撃力を半分にしてその数値分このカードの攻撃力をあげる

プルプル「なんだあの竜は!!」

ジャツカル「まだまだ、スカルイーグル2体でオーバレイ！運命の黒き翼よ、今羽ばたけ！エクシーズ召喚RRデビルイーグル」

RRスカルイーグル



鳥獣族／効果

攻撃力1000 守備力500 レベル3

スカルイーグルの効果は1ターンに1度しか使用できない。①ORUのこのカードがエクシーズモンスターの効果使用のために使われたとき墓地のこのカードを除外して墓地のRRモンスターを手札に加える②フィールドのこのカードを素材としてエクシーズ召喚されたときエクシーズ召喚されたモンスターは攻撃力は300上がる

RRデビルイーグル

鳥獣族／エクシーズ／効果

攻撃力1000 守備力0 ランク3

レベル3のRR×2

デビルイーグルの効果は1ターンに1度しか使用できない。①このカードのORUを一つ使い、相手フィールド上に特殊召喚された表側表示のモンスターを選択し、相手に選択したモンスターの元々の攻撃力分のダメージを与える

プルプル「こざかしい、消えろ」

キュアジェラート「デビルイーグルが」

キュアシヨコラ「破壊された」

ジャツカル「それはどうかな？」

プルプル「何!!」

ジャツカル「速攻魔法RUMデスダブルフォース」

デスダブルフォース

速攻魔法

このターン戦闘で破壊されたRRモンスター1体を対象にして発動可能。そのモンスターを特殊召喚してそのモンスターの倍のランクのエクシーズモンスターを特殊召喚する

ジャツカル「我はデビルイーグルでオーバーレイ、黒き翼よ、今、すべてをなぎ倒し攻め来る敵を殲滅せよ、ランクアップエクシーズチェンジ、現れるランク6！RRレボリユーションファルコン」

RRレボリユーションファルコン

鳥獣族／エクシーズ／効果

攻撃力2000 守備力3000 ランク6  
レベル6×3

①このカードのORUを一つ使い、このターンこのカードは相手モンスターにすべてに攻撃する②このカードが特殊召喚された表側表示のモンスターと戦闘する場合そのモンスターの攻撃力 守備力を0にする③RRのエクシーズモンスターを素材としてるとき1ターンに1度相手モンスターを1体選択して破壊しその攻撃力の半分のダメージを与える

キュアマカロン「デビルイーグルが」

キュアシヨコラ「進化した」

キュアジェラート「違う、多分ランクアップだよ」

プルプル「なんだと!!」

ジャツカル「行くぞ、ダークリベリオンエクシーズドラゴンで攻撃！クラツシュオブリベリオン」

プルプル「おのれ」

ジャツカル「まだまだ、RRレボリューションファルコンで攻撃、デスオブバード」

プルプル「甘かったな、耐えたぞ」

ジャツカル「それは」

キュアジェラート「どうかな？」

プルプル「ぐああああああ」

キュアジェラート「やった」

ジャツカル「よくやったな」

キュアジェラート「なっ、撫でるなあ」

キュアマカロン「本当にかわいいわ」

キュアシヨコラ「そうだね」

キュアホイップ「さてみんなあいつも倒したし戻ろう」

ジャツカル「そうだな、さてとゆっくりプリンを食うか」

キュアホイップ「うふふふ、みんな本当に元気だね」

## いちかの思い 輝け水晶の翼

いちか 「ふんふんふーん」

ゆかり 「いちか、いつにもまして機嫌がいいじゃない」

いちか 「ゆかりさん、今日は私の誕生日なんです」

ゆかり 「あらっ？ そうなの？ 知らなかったわ」

あきら 「あつ、いちかちゃん、ゆかり」

いちか 「あきらさん」

あきら 「どうしたの？ 機嫌がいいみたいだけど」

ゆかり 「今日、いちかの誕生日なんですって」

あきら 「そうなんだ、おめでとう、いちかちゃん」

いちか 「ありがとうございます、あきらさん」

あおい 「そっか今日、いちかの誕生日か」

ひまり 「おめでとうございます、いちかちゃん」

いちか 「ありがとうございます」

ゆかり 「そうだ、あきら」

あきら 「んっ？ どうしたの？」

ゆかり 「あれからジャツカルさんとはどうなったの？」

あきら 「ジャツカルさんとはただの仲間だよ」

ゆかり 「そう」

あきら 「なんでにやついてるんだよ」

ゆかり 「何でもないわよ」

ひまり 「そう言えばジャツカルさんはどこに行ったんでしょう」

あきら 「うーん、分からないな、私も聞かされてないから、でも工

具箱を持ってどこかに行ったけど」

いちか 「工具箱を？」

あきら 「うん」

その時

あおい 「なんだろう、この音」

ゆかり 「バイクじゃない」

ひまり 「でもなんでバイク？」

ジャツカル「お前ら、どうした？」

ひまり「ジャツカルさん」

あおい「何それ？バイク？」

ジャツカル「これ？Dホイール」

ゆかり「Dホイールって確か、以前、貴方が言ってた」

ジャツカル「そうだ、ここにはデュエルモンスターズが無いだから自分で作った」

あきら「これ自分で作ったなんてすごい」

ジャツカル「それほどでもない、ただ部品集めに苦労したがな」

あおい「すごい、乗せてもらってもいいですか？」

ジャツカル「ああ、構わない」

そして、20分後

あおい「すごく気持ちよかった」

ジャツカル「もういいか？」

あおい「あつ、はい」

ジャツカル「それより、いちか、これ」

いちか「これは？」

ジャツカル「誕生日なんだろう？プレゼント」

いちか「私ジャツカルさんに誕生日だとは・・・」

ジャツカル「んっ？ああ、あおいから聞いた」

いちか「あ、ありがとうございます」

ジャツカル「言っておくが、その中食い物だから雑に扱うなよ」

いちか「食べ物？ちよつと開けてみてもいいですか？」

ジャツカル「ああ」

いちか「えつとこれは？」

ゆかり「マカロンね」

いちか「そういうことでは無くてなんで金色なのかって事です」

ジャツカル「我が1億かけて作ったからな」

5人「1億!!」

ひまり「ただいちかちゃんの誕生日だけで1億って」

あおい「さ、さすがにそれは」

ゆかり「やり過ぎってどうか予想外だったわ」

あきら「確かに」

ペコリン「でもすごい、キラキラルの量ペコ」

ジャツカル「? 気に入らなかつたか?」

いちか「い、いえそんなことでは」

ジャツカル「すまない、誰かの誕生日を祝ったことがなく何を渡せばいいのかが分からなかつただけだ」

ひまり「別に謝らないでください」

あおい「でも1億つて事はジャツカルさんの家つてすごい、お金持ち?」

ジャツカル「金持ちでは無いただデュエルモンスターズの全米チャンプになつてからちよくちよくオファー等が来てそのお礼金として貰つていたものを貯めてたらこうなつた」

あおい「全米チャンプつて」

あきら「ジャツカルさんつてそんなにすごかつたなんて」

ひまり「今のうちにサインもらつた方がいいでしょうか」

ジャツカル「お前ら私の話題はいいからいちかの誕生日に移行するぞ」

ゆかり「そうね、すっかり忘れてたわ」

ひまり「ショートケーキも作りました」

ジャツカル「さて始めるか」

その時

マキャロンヌ「あらつ? 美味しそうなキラキラルもらつてもいいかしら?」

ゆかり「マキャロンヌ!!」

ジャツカル「貴様に渡すものは無い」

マキャロンヌ「あらつ見ない顔ね、プリキュアでは無いようね」

ジャツカル「貴様は分かるようだな、それとも他が無能過ぎたか?」

マキャロンヌ「あらつ、お褒めに預かり光栄マキャ」

いちか「とにかくいくよ」

4人「キュアラモードデコレーション」

フエニツクス「デュエルモードオートパイロット スタンバイ」  
ジャツカル「行くぞ」

キュアホイップ キュアジェラート キュアカスタード「はあああ  
あ」

マキャロンヌ「無駄無駄、お前たちの攻撃は効かないマキャ」

キュアマカロン「だったら私が相手よ」

マキャロンヌ「以前はやられたけど、そうは行かないマキャ」

キュアマカロン「ぐっ」

キュアシヨコラ「皆!!」

マキャロンヌ「さてと、次はお前マキャ」

キュアシヨコラ「くっ」

ジャツカル「(奴の武器はあの舌か、なら) 決めるか」

キュアシヨコラ「まずい」

ジャツカル「我は手札からインヴェルズ・マデイスをペンデュラム  
召喚」

インヴェルズ・マデイス

悪魔族／効果

攻撃力2200 守備力0 レベル5

インヴェルズと名のついたモンスターをリリースして召喚したと  
き1000ライフを払い自分の墓地からインヴェルズを特殊召喚す  
る

マキャロンヌ「何!!ぐぎやあああ」

キュアマカロン「あれは、霸王門零に霸王門無限」

ジャツカル「やはり、貴様の武器はその舌らしいな」

マキャロンヌ「ぐぬぬ、すごい、攻撃力マキャ」

ジャツカル「これでも攻撃力は2500だが」

キュアジェラート「私達も負けてられない」

キュアカスタード「そうですね」

キュアマカロン「ホイップの誕生日は邪魔はさせない」

キュアホイップ「皆・・・」

マキャロンヌ「下らない、そのキラキラいただくわ」

ジャツカル「しまった!!」

キュアジェラート「せつかくジャツカルさんが作ったマカロンを」  
キュアカスタード「許しません」

マキヤロンヌ「邪魔だ」

キュアジェラート キュアカスタード キュアマカロン キュア  
シヨコラ「きやああああ」

マキヤロンヌ「お前もよ」

ジャツカル「インヴェルズマデイス!!」

マキヤロンヌ「無駄よ、キラキラルを吸収した私には勝てない」

ジャツカル「仕方無い、来い!ゴブリンドバーグ」

ゴブリンドバーグ

戦士族／効果

攻撃力1400 守備力0 レベル4

効果 このカードが召喚したとき手札からレベル4以下のモンス  
ターを特殊召喚する

ジャツカル「ゴブリンドバーグの効果発動、手札からダークリゾ  
ネーターを特殊召喚」

ダークリゾネーター

悪魔族／チューナー

攻撃力1300 守備力300 レベル3

1ターンに1度戦闘では破壊されない

ジャツカル「我はレベル4のゴブリンドバーグにレベル3のダーク  
リゾネーターをチューニング 美しき翼 光の速さにて敵を討たん

シンクロ召喚 今こそ我が元へ甦れ四天の竜 クリアウイングシ  
ンクロドラゴン」

クリアウイングシンクロドラゴン

ドラゴン族／シンクロ／効果

攻撃力2500 守備力2000 レベル7

①1ターンに1度、このカード以外のレベル5以上のモンスター効  
果が発動されたとき、その発動を無効にし破壊する②1ターンに1  
度、フィールドのレベル5以上のモンスター1体のみ対象とするモン

スター効果を無効にして破壊する③このカードの効果で破壊した場合、このカードの攻撃力は破壊したモンスター元々の攻撃力分アップする

キュアマカロン「シンクロドラゴン」

キュアカスタード「あの時のエクシーズドラゴンと関係がありそうですね」

キュアジェラート「確かに四天の竜って言ってるし」

マキャロンヌ「クリアウイングシンクロドラゴン？どんな奴を出そうが無駄な事よ、消えなさい」

ジャツカル「まずい、罫カード発動 ガードブロック」

キュアシヨコラ「危なかった」

キュアホイップ「もうやめて」

キュアジェラート「ホイップ」

キュアホイップ「もうやめてよ」

キュアシヨコラ「何弱気なってるの？ホイップらしくないよ」

キュアホイップ「無理だよ、もう勝てない」

キュアマカロン「何いってるの？諦めちゃダメ」

キュアホイップ「だってそうでしょ、ジャツカルさんの出したあのクリアウイングシンクロドラゴンでさえ倒されそうになったんだよ、もう無理だよ」

ジャツカル「なぜ諦める」

キュアホイップ「えっ」

ジャツカル「さつさと奴を潰しキラキラルを取り返すそして、あなたの誕生日祝う」

キュアホイップ「でもどうやって」

ジャツカル「祈れ、奴を倒したいと、そうすれば奇跡は必ず起こる、必ず答えてくれる」

キュアホイップ「だけど・・・」

ジャツカル「やる前から諦めるな、自分を信じろ」

キュアホイップ「分かった（あいつを倒せる力が欲しい）」

そう願うとショートケーキが光り1枚のカードが現れる



キュアジェラート「あれは」

キュアシヨコラ「カスタードが作ったショートケーキが」

キュアマカロン「光ってる」

ジャツカル「いや、あれは」

キュアカスタード「新しいカード」

マキャロンヌ「何をやろうともう無駄よ」

ジャツカル「そいつはどうか？」

マキャロンヌ「何？」

ジャツカル「無駄なのはお前だ、所詮は貴様も無能だったか」

マキャロンヌ「なんですって」

ジャツカル「ホイップ、その竜はお前が召喚しろ」

キュアホイップ「私が？」

ジャツカル「ああ、素材は我が揃える、やってみろ」

キュアホイップ「はい」

マキャロンヌ「無駄なのは分かってる、それをまだやろうって言うの」

キュアシヨコラ「二人の邪魔は」

キュアジェラート「させないよ」

ジャツカル「我はSRドミノバタフライを召喚」

SRドミノバタフライ

機械族／ペンデュラム／チューナー／効果

攻撃力100 守備力300 レベル2 スケール8

ペンデュラム効果 SRドミノバタフライの②の効果は1ターンに1度しか使えない①自分は風属性のモンスターしかペンデュラム召喚出来ない。この効果は無効化されない②手札から風属性のモンスターを1体すてて、除外されてる自分の風属性モンスターを手札に加える

効果 このカードをシンクロ素材にするときドラゴン族・機械族の風属性モンスターのシンクロ召喚にしか使用出来ない。エクストラデッキから特殊召喚されたこのカードがシンクロ召喚の素材になったとき除外される

ジャツカル「スターチェンジャーを発動これでSRドミノバタフライのレベルを2から1にする」

スターチェンジャー

速攻魔法

表側表示の自分のモンスターを1体選択してその次の効果から使用する

選択したモンスターのレベルを1あげる

選択したモンスターのレベルを1下げる

ジャツカル「今だ、ホイップ」

キュアホイップ「はい、私はレベル1となったSRドミノバタフライとレベル7のクリアウイングシンクロドラゴンをチューニング美しき翼よ、我が願いと共に水晶の翼となりて今、飛翔せよ、シンクロ召喚、羽ばたけクリスタルウイングシンクロドラゴン」

クリスタルウイングシンクロドラゴン

ドラゴン族／シンクロ／効果

攻撃力3000 守備力2500 レベル8

チューナー＋チューナー以外のシンクロモンスター1体以上

①1ターンに1度このカード以外のモンスター効果が発動したとき、発動を無効にして破壊する。このカードの効果で破壊した場合このカードの攻撃力はエンドフェイズ時まで破壊したモンスターの元々の攻撃力分アップする②このカードのレベル5以上のモンスターと戦闘する場合、ダメージ計算時のみ戦闘を行う相手モンスターの攻撃力分アップ

キュアシヨコラ「ホイップの願いが新たな竜を産み出した」

キュアマカロン「しかも、ホイップがシンクロ召喚するなんてね、面白いわ」

キュアホイップ「出来た・・・私にもシンクロ召喚出来た」

マキャロンヌ「バカな、新しいドラゴンだ!!」

キュアホイップ「これで終わらせる、クリスタルウイングシンクロドラゴン、あいつを倒して、烈風のクリスタルスラッシュ」

マキャロンヌ「何!!この私が・・・ぐああああ」

キュアジェラート「すごい・・・すごいよホイップ」

キュアホイップ「私だつてどうやったか記憶にはないけど、あいつを倒したいと、思っただけそしたらクリスタルウィングシンクロドラゴンが」

キュアマカロン「そうだったのね」

そう言うと、空に謎の穴があき吸い込み始める

ジャツカル「まずい」

キュアホイップ「やばい!!」

5人「きやああああ」

ジャツカル「うわあああああ」

ひまり「いったい、何が」

あきら「分からないけど、変なところに飛ばされたようだね」

ゆかり「ここは？」

ジャツカル「よくは分からんな、だが、どこかの学校の前のようだ」

あおい「えーと、サンクルミエール学園だつて」

ジャツカル「つまり、また別な世界に来てしまったようだ、しかも、いちか達ごと」

5人「えっ」

## プリキュア5と合流 記憶のカードと恐怖のデストローイ

ひまり「しかし、前は酷い目に会いましたね」

いちか「そうだね、別世界に飛ばされちゃったみたいだし」

あおい「それよりどうやって戻る？」

あきら「そうだね、それよりジャツカルさんは？」

ゆかり「なんか、Dホイールがどこかにいったらしくて探してるって」

その頃、ジャツカルは

ジャツカル「どこいった、俺のDホイールは」

工藤真由「何かしらこれ？バイク」

宮本佳那子「誰のバイクだろう」

工藤真由「とにかく先生に言わないと」

小々田コージ「どうしたんだい二人とも授業始まるよ」

工藤真由「小々田先生、このバイクここに停めてあつたんですけど」

小々田コージ「困ったな、ここは僕がやっておくから二人は授業の準備してて」

工藤真由 宮本佳那子「分かりました」

小々田コージ「それにしても、こんなところにバイクを止めとくなんていったい誰が」

ジャツカル「あんた人のDホイールで何してるんだ？」

小々田コージ「これ君のかい？」

ジャツカル「そうだ」

小々田コージ「ここは学校だよ、それに君は免許持ってるの」

ジャツカル「今どかす、Dホイールの免許は持っている」

その頃、ひまり達は

あきら「しかし、遅いなあ、どこ行ったんだろ、ジャツカルさん」

ひまり「そうですね」

その時

スコルプ「ドリームコレットはどこだ？」

いちか「何あいつ」

あおい「分からないけど、暴れてるのは確かだね」

ひまり「とにかく止めましょう」

あおい「そこでなにやってるの？」

スコルプ「なんだ貴様ら？俺が誰だか知ってるのか？」

ゆかり「知らないわ、だけど暴れてるようなら私達が相手よ」

スコルプ「私はエターナルの幹部スコルプ、さっさとドリームコ

レットを渡してもらおうか」

あきら「エターナル？」

あおい「それになんなのドリームコレットって」

ひまり「そんなの持ってません」

スコルプ「だったら力づくでも居場所を教えてもらわないとな、現  
れるホシイナー」

彫像ホシイナー「ホシイナー」

あおい「なんだよあいつ」

あきら「彫像が」

いちか「怪物に」

ひまり「皆さん行きましょう」

4人「うん」

彫像ホシイナー「ホシイナー」

あきら「危ない!!ぐっ」

いちか「あきらさん」

スコルプ「止めをさせ、ホシイナー」

彫像ホシイナー「ホシイナー」

夢原のぞみ「そこまでよ、エターナル」

夏木りん「今は授業中なんだから邪魔しないで」

春日野うらら「のぞみさん、あそこに人が」

秋元こまち「あなた関係の無い人達まで傷つけたの？」

水無月かれん「絶対に許さない」

美々野くるみ「皆、行くよ」

5人「うん、プリキュア・メタモルフオーゼ」  
美々野くるみ「スカイローズ・トランスレイト」  
キュアドリーム「大いなる希望の力 キュアドリーム」  
キュアルージュ「情熱の赤い炎 キュアルージュ」  
キュアレモネード「はじけるレモンの香り キュアレモネード」  
キュアミント「安らぎの緑の大地 キュアミント」  
キュアアクア「知性の青き泉 キュアアクア」  
ミルキイローズ「青い薔薇は秘密のしるし ミルキイローズ」  
5人「YESプリキュア5」  
いちか「すごい」  
ひまり「私達の他にもプリキュアが」  
キュアドリーム「大丈夫？あいつは私達に任せて」  
あきら「しかし」  
キュアルージュ「私達なら大丈夫」  
キュアレモネード「あなた達は早く」  
その頃、ジャツカルは  
ジャツカル「あのな、いい加減Dホイール返してくんねえか？」  
小々田コージ「ダメだよ、バイクをこんなところに停めたんだから」  
ジャツカル「停めてねえし、それにバイクじゃねえしDホイールだ  
し」  
小々田コージ「分かった、分かった、それでそのDホイールをこんな  
なところに停めちゃだめだよ」  
ジャツカル「分かった」  
小々田コージ「それならいいけど」  
ジャツカル「だったら早く・・・この気配、闇の力か」  
小々田コージ「君も感じたのか？」  
ジャツカル「俺もってことはあんたもか？」  
小々田コージ「ああ、感じた」  
ジャツカル「闇の力を感じれるなんて貴様ただ者でないな」  
小々田コージ「そうだね」  
ジャツカル「Dホイールの件はあとにしてくれ、俺は行くからな」

小々田コージ「僕も連れてつてくれる？」  
ジャツカル「なぜだ？」

小々田コージ「プリキュア達が心配だから」  
ジャツカル「プリキュア・・・多分大丈夫だろ、俺もプリキュアを連れてきたんだからな」

小々田コージ「他のプリキュアを」  
ジャツカル「ああ、とにかく行くからなDホイール見張っててくれよ」

小々田コージ「でも君は？」  
ジャツカル「俺は大丈夫だ、飛んでいく、来いRRファジーレイニアス」

RRファジーレイニアス  
鳥獣族／効果

攻撃力500 守備力1500 レベル4

RRファジーレイニアスの① ②の効果はそれぞれ1ターンに1度しか使えない、このカードの効果を発動するターン自分はRRモンスターしか特殊召喚出来ない。①自分フィールドにファジーレイニアス以外のRRがいるときこのカードを手札から特殊召喚する。②このカードが墓地へ送られたときデッキからRRファジーレイニアスを1体手札に加える

その頃、ドリーム達は

いちか「大丈夫ですか？」

夢原のぞみ「なんとか」

あおい「いったいどうなってるの？」

夏木りん「分からないけど、急にホシイナーの力が強くなった」

スコルプ「なんだか分からないがドリームコレットを早く渡した方が身のためだぞ」

春日野うらら「冗談じゃない、誰もあなた達になんか渡しません」

スコルプ「そうか・・・なら消えろ」

秋元こまち「ここまでなの」

その時

ジャツカル「罨カード発動 R・R・R発動。我はファジーレイニアスを対象にデッキから同名モンスターを特殊召喚する。このカードで特殊召喚モンスターが存在するとき攻撃、効果対象は不可能となる」

レイドラブターズレプリカ  
R・R・R

レイドラブターズ  
このカードはルール上 R R カードとしても扱う。①自分フィールドのRRモンスター1体を対象に発動可能。その同名を特殊召喚する。この効果で特殊召喚したモンスターが自分フィールドに表側表示で存在する限り相手は対象モンスターに攻撃対象にする事もできず、効果対象にも出来ない

夢原のぞみ「えっ、誰？」

いちか「ジャツカルさん」

夏木りん「えっと」

ひまり「大丈夫です、私達の味方です」

春日野うらら「味方って」

あきら「ジャツカルさん、気をつけてあのホシイナーって怪物急に強くなって」

ジャツカル「急に強くだと？だが関係ない」

ゆかり「あの自信・・・まさかあのファジーレイニアスってモンスター、多分、同じレベルじゃない」

ジャツカル「そうだ、我はファジーレイニアス2体でオーバーレイ2体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築エクシーズ召喚！暗闇より獲物を捕らえすべてを抉れ 来いRRフォースストリクス」

RRフォースストリクス

鳥獣族／エクシーズ／効果

レベル4モンスター×2

①このカードの攻撃力 守備力はこのカード以外の自分フィールドの鳥獣族モンスター数×500ポイントアップする。②1ターンの1度ORUを1つ使用してデッキから鳥獣族 闇属性 レベル4モンスターを1体手札に加える



水無月かれん「何あれ」

美々野くるみ「鳥よね」

秋元こまち「でもどうして鳥が？」

ひまり「あれが彼の戦い方なんです、彼はデュエルモンスターズを使つて戦っているんです」

夏木りん「そうなんだ」

ジャツカル「(一応奴がどんな戦略で来るかは分からん以上まずは守備で様子見しておくか)さてどうくる？方が一だ、リバースセットしておくか」

スコルプ「下らんな、やれホシイナー」

彫像ホシイナー「ホシイナー」

ジャツカル「かかったな、リバースオープンRRレディネス、これでフォースストリクスは破壊されない」

RRレディネス

罨カード

①このターン、自分フィールドのRRモンスターは戦闘破壊されない

②墓地にRRモンスターがいるときこのカードを除外してこのターン自分が受けるダメージはすべて0になる

スコルプ「下らん、ホシイナー」

彫像ホシイナー「ホシイナー」

ジャツカル「何!!」

あきら「どうしてRRレディネスが」

あおい「破壊された」

彫像ホシイナー「ホシイナー」

ジャツカル「なぜだ・・・」

そう言つて警戒してるジャツカルとホシイナーの腕に数字が浮かび上がる

ゆかり「しかし、なぜ急に強く・・・」

ジャツカル「分かった、このトリックが(どうもレディ・ジャステイス以外見当たらないと思つたらこっちに飛ばされた時にばらまかれ

たのか、俺の記憶のカード ナンバーズが) ようやく見つけたぜ、返してもらおうか俺の物を」

あきら「どういうこと?」

春日野うらら「でも何か分かったみたいですけど」

夏木りん「あなた達、彼と一緒にいたんでしょ、何か言つてなかったの?」

ゆかり「知らないわ、だって彼、自分の事はあまり話さなかったもの」

ジャツカル「貴様がどうやってそのカードを手に入れたか知らんが返してもらおうか、我が記憶を」

あきら「記憶ってどういう」

ジャツカル「こうなったら魔法カード融合エツジンプトマホークとファーニマルキャットを融合。悪魔を切り裂く悪魔の爪よ 癒しの獣と一つとなりて新たな力と姿を今見せよ融合召喚現れよ、深き闇に引きずり込む海の魔物デストロイ・ハーケン・クラーケン、さらに融合回収で融合とファーニマルキャットを戻し再び融合エツジンプソウとファーニマルライオを融合 すべてを扶る悪魔の歯よ 気高き獣よ今一つとなりて新たな力を産み出さん融合召喚 すべてを抉り取る百獣の王デストロイ・ホイールソウ・ライオ」

デストロイ・ハーケン・クラーケン

悪魔族／融合／効果

攻撃力2200 守備力3000 レベル8

エツジンプモンスター+ファーニマルモンスター

①1ターンに1度、相手フィールドのモンスターを選択し墓地へ送る。この効果を使用したとき直接攻撃出来ない。②このカードは1度のバトルフェイズ中に2回攻撃出来る。③このカードが戦闘を行つたバトルフェイズ終了時に守備表示にする

デストロイ・ホイールソウ・ライオ

悪魔族／融合／効果

攻撃力2400 守備力2000 レベル7

エツジンプソウ+ファーニマルモンスター

このカードは融合召喚でしか召喚出来ない

デストロイ・ホイールソウ・ライオの効果は1ターンに1度しか使  
用できず、この効果を使用発動するターン直接攻撃出来ない。①相手  
フィールド上の表側表示モンスターを1体破壊し相手に元々の攻撃  
力分のダメージを与える

融合賢者

魔法カード

墓地の融合と融合召喚にしたモンスター1体を手札に戻す

夏木りん「すごい」

水無月かれん「連続融合」

ジャツカル「これで終わりだ、デストロイ・ホイールソウ・ライオ  
デスカッター デストロイ・ハーケン・クラーケン デストマホー  
ク」

彫像ホシイナー「ホシイナー」

スコルプ「おのれ・・・覚えてろ」

美々野くるみ「すごい」

秋元こまち「私達を苦戦させたホシイナーを一撃で」

ジャツカル「返してもらったぞ、我が記憶の1枚を（これでようや  
く）くっ、やはり」

あきら「大丈夫？ジャツカルさん」

ジャツカル「大丈夫だ」

あおい「たかがカードでしょ、大げさじゃない？」

ジャツカル「触るなそのカードに」

あきら「でもどういう」

(そう言っであきらが触れてしまう)

あきら「(何・・・これ、どういう事) 今のは」

ゆかり「どうしたの？」

あきら「分からない、このカードに触れたとたんどこの場所かは分  
からないけど、破滅したの」

ひまり「それって、まさか」

ジャツカル「そうだ、俺の記憶」

夏木りん「えっといってる意味が分からないんだけど」

秋元こまち「そうね、そのカードはなんなのかしら、触れてはいけないってどういう」

ジャツカル「そのカードはナンバーズって呼ばれるエクシーズモンスターでも特殊な力を持っている、普段なら俺以外の者が持つと心の闇を増幅させるけど、あきらには私の記憶が流れ込んだようだ」

夏木りん「だから触れてはいけないって」

水無月かれん「とにかく詳しいことはナッツハウスで聞いわ」

秋元こまち「そうね」

## あおいの力 甦れ！冥界の騎士

りん「つまりあなた達もプリキュアって事？」

ひまり「はい、私達はキラキラプリキュアアラモードです」

かれん「それで、あのジャツカルって人は？」

こまち「そう言えば、貴方、そのデュエルモンスターズ？だっけ？

それが彼の戦い方って言ってたけどどういうこと？」

ゆかり「彼は元々違う次元から来たの」

くるみ「どういうこと？」

あきら「彼はただの次元旅行者だったの、彼のたどり着いたエクスーツ次元ってところにいたらしくそこではデュエルモンスターズを使って勝敗を決めてるらしいんです」

うらら「そうだったんですか」

りん「それよりさ、私達こうやって普通に話してるけど、自己紹介まだだったわね」

いちか「そうでした、私は宇佐美いちか」

あおい「立神あおいです」

ひまり「有栖川ひまりです」

ゆかり「琴爪ゆかり、高校生よ」

あきら「剣城あきら、私もゆかりと同じで高校生だけど、フレンドリーにいい」

のぞみ「夢原のぞみです」

りん「夏木りんです」

うらら「春日野うららです、女優を目指しています」

こまち「秋元こまちよ、小説家を目指してるわ」

かれん「水無月かれんよ、よろしく」

くるみ「美々野くるみよ」

ひまり「それにしても、私達以外にもプリキュアがいたなんて驚きでした」

こまち「私達もよ、だけどまだまだまだプリキュアはいるわよ」

いちか「そうなんですか？」

りん「それよりさ、ジャツカルさんが使った罠、RRレディネスだっけ？あれなんで破壊されたの？」

ひまり「そこまでは分からないです」

ジャツカル「そこは俺が言うから安心しろ」

ゆかり「ジャツカルさん」

ジャツカル「あのホシイナーって野郎がRRレディネスを破壊出来たのはこのカードが奴にとりついてたからだ」

のぞみ「それって、ナンバーズってカードですよ」

ジャツカル「ああ、あれはNo. 23冥界の霊騎士ランスロット、ORUを一つ使用することで相手のモンスター効果 魔法 罠の発動を無効にする効果を持っている」

りん「まさか、ホシイナーな急に強くなったのも」

ジャツカル「ああ、ランスロットが凶暴化させた」

ひまり「つまり、ホシイナーが攻撃したときにRRレディネスが発動したからランスロットの能力が発動されて無効化させられたって事ですか？」

うらら「でもナンバーズって貴方の記憶なんですよ、それなのになぜ凶暴化させたりするんですか？」

ジャツカル「そこまでは知らんな、だが我が持ってるのでNo. 21氷結のレディジャステイスとNo. 23冥界の霊騎士ランスロットの2枚残り98枚そしてオーバーハンドレットナンバーズと呼ばれる101〜107がある。それらすべてを集めなければならぬ」

あきら「残り105体」

ひまり「それより、どういうことですか？ナンバーズが貴方の記憶って」

ジャツカル「ナンバーズは、俺の過去に失った記憶を我らの技術でカード1枚1枚に納めこんだ」

ゆかり「我らって事は貴方は一体」

ジャツカル「いずれわかるさ、いずれな」

かれん「そうなの」

その時

ココ「大変ココ、闇の力ココ」

ナツツ「ここからずいぶん近いナツ」

のぞみ「まさか、またナイトメア」

シロップ「だけど普通の力じゃないロブ」

いちか「それって」

ジャツカル「多分、ナンバーズが関わってるに違いない、俺も微妙だが、ナンバーズの気配を感じた」

いちか「のぞみ「みんないくよ」

全員「うん」

ジャツカル「さて我也行くか、それとDホイールの件悪かったな」

ココ「気づいてたココ？」

ジャツカル「ああ、あんたも闇の力を感じられる、だからだ」

ココ「・・・」

ジャツカル「我は行くか」

そして20分後

アラクネア「フッフ、プリキュアいいところに来たわね」

のぞみ「ナイトメア、貴方の好きにはさせない」

いちか「あなた達は私達で倒す」

アラクネア「あれっ？誰かしら？見たこともない顔ね」

ひまり「そう・・・でも私達もプリキュアですから」

アラクネア「お前たちもか、いいだろう、相手してやる、コワイナー」

骸骨コワイナー「コワイナー」

あおい「何あれ、ホシイナーと違う」

りん「あいつはアラクネア私達に変身した最初に戦ったナイトメ

アってやつらよ」

のぞみ「だけど、このままじゃまずいよ、いくよ」

5人「プリキュア・メタモルフオーゼ」

美々野くるみ「スカイローズ・トランススレイト」

5人「キュアラモードデコレーション」

ドリーム達5人「Yesプリキュア5」

ホイップ達5人「キラキラプリキュアアラモード」

アラクネア「面白い殺れ、コワイナー」

骸骨コワイナー「コワイナー」

キュアミント「プリキュア・ミントシールド」

キュアカスタード「させません」

骸骨コワイナー「コワイナー」

キュアミント「あなた達やるじゃない」

キュアカスタード「ありがとうございます」

アラクネア「くっ、コワイナー」

骸骨コワイナー「コワイナー」

そう言うと、コワイナーはトークンを生み出す

キュアアクア「何あれ!!」

キュアルージュ「アラクネア、何をやったの?」

アラクネア「私は知らん、コワイナーにこんな力があるなど知らなかったんだ」

キュアレモネード「コワイナーが消えた」

キュアシヨコラ「ちよつと伏せてて」

キュアドリーム「えっ」

キュアシヨコラ「そこ」

骸骨コワイナー「コワイナー」

アラクネア「どういうことだ」

キュアシヨコラ「悪いけど私は鼻が効くのさ、犬の能力を持ってるから」

アラクネア「なんだと」

骸骨コワイナー「コワイナー」

キュアドリーム「今度は全体攻撃」

キュアルージュ「どうなってるのよ」

キュアマカロン「(もしかして・・・)みんなあのコワイナーには2体のナンバーズが」

キュアジェラート「どういうこと?」

キュアマカロン「私、見たの、48と91の文字が浮かび上がるの」  
骸骨コワイナー「コワイナー」



キュアミント「なにこれ」

骸骨コワイナー「コワイナー」

全員「きゃああああ」

キュアホイップ「まさか、まだナンバーズが」

アラクネア「なんだか知らないけど、さつさとドリームコレットを渡しな」

キュアドリーム「嫌だ」

アラクネア「だったら終わらせろ、コワイナー」

骸骨コワイナー「コワイナー」

キュアドリーム「くっ」

ジャツカル「俺は手札から工作列車シグナルレッドを特殊召喚」

工作列車シグナルレッド

機械族／効果

攻撃力1000 守備力1300 レベル3

①相手モンスターの攻撃宣言時にこのカードを手札から特殊召喚し、そのモンスターの攻撃対象をこのカードに移す。このカードはその戦闘では破壊されない

アラクネア「何!!」

ジャツカル「悪いな遅れた」

キュアホイップ「ジャツカルさん」

アラクネア「貴様、邪魔する気か?」

ジャツカル「俺は手札からSRドミノバタフライを召喚、さらにスターチェンジャーを2枚使いドミノバタフライとシグナルレッドのレベルを1上げる」

アラクネア「おのれ私を無視するとはいい度胸ね」

ジャツカル「我は、レベル3のドミノバタフライにレベル4のシグナルレッドでチューニング」

キュアシヨコラ「レベル7クリアウイングシンクロドラゴンかな」

ジャツカル「疾風の風よ、透明なる翼を強化しさらに激しく舞い上がれ シンクロ召喚 来い!クリアウイングファストドラゴン」

クリアウイングファストドラゴン

ドラゴン族／シンクロ／ペンデュラム／効果

攻撃力2500 守備力2000 レベル7 スケール4

ペンデュラム効果 クリアウイングファストドラゴンのペンデュラム効果は1ターンに1度しか使用出来ない① レベルの合計が7になるように自分フィールドの表側表示のスピードロイド1体とチューナー以外のモンスターを墓地に送りこのモンスターをペンデュラムゾーンから特殊召喚する

効果 チューナー+チューナー以外の風属性1体以上

クリアウイングファストドラゴンの①の効果は1ターンに1度しか使用出来ない。①エクストラデッキから特殊召喚された相手フィールド上のモンスターを1体選択しそのモンスターの攻撃力はターン終了時まで0になり効果は無効化される。

この効果は相手のターンでも使用可能②モンスターゾーンのこのカードが戦闘 効果で破壊されたとき自分のペンデュラムゾーンに置く

キュアシヨコラ「クリアウイング」

キュアジェラート「ファストドラゴン」

ジャツカル「クリアウイングファストドラゴンはチューナーと非チューナーの風属性のみで出来る」

キュアジェラート「待つて、シグナルレッドは風属性では無いよでもなんで」

ジャツカル「幻惑の巻物の効果だ」

幻惑の巻物

装備魔法

装備モンスターを指定した属性に変更する

アラクネア「そんな奴で何が出来るというのかしら?」

ジャツカル「行くぞ、クリアウイングファストドラゴンで攻撃する」

アラクネア「やっちまいな、コワイナー」

骸骨コワイナー「コワイナー」

ジャツカル「何!!クリアウイングファストドラゴン!!」

キュアシヨコラ「ジャツカルさん」

ジャツカル「なんだ？」

キュアシヨコラ「あいつはナンバーズを3体あります」

ジャツカル「3体だと!!」

キュアマカロン「ええ、あいつは48と91よ」

キュアルージュ「あとは40」

ジャツカル「No. 48シャドーリッチ、No. 91サンダース  
パークドラゴン、そして40ギミックパペットヘブンスストリングス  
の3枚か、とにかくリバースセットだ」

アラクネア「なんだか知らないけど、終わらせなコワイナー」

骸骨コワイナー「コワイナー」

ジャツカル「そうは行くか罨カード ドレインシールド」

ドレインシールド

罨カード

相手のモンスターの攻撃宣言時に発動可能。 攻撃モンスターの攻  
撃を無効にして攻撃力分回復する

ジャツカル「まずいな、 霸王門零と霸王門無限でペンデュラムス  
ケールをセツティング」

キュアルージュ「一体どうすればいいのよ」

キュアジェラート「もう無理です、あいつはナンバーズの力を得て  
ます、そんな奴に勝てるわけ」

キュアアクア「諦めちゃダメ、私達はどんなときも、諦めないで戦っ  
てきた」

ミルキイローズ「ここで諦めてたら伝説の戦士じゃなくなる」

ジャツカル「伝説の戦士だと」

???（伝説の戦士達を救ってください）

ジャツカル「そうか、あの時の意味はこいつらの事か、ペンデュラ  
ム召喚、来いThe tripping MERCURY The  
grand JUPITER」

The tripping MERCURY

水族／効果

攻撃力2000 守備力2000 レベル8

①このカードがアドバンス召喚に成功したとき発動可能。フィールド上のモンスターすべてを表側攻撃表示にする②このカードはモンスター3体をリリースして召喚することも出来る。③このカードの②の方法で召喚したこのカードがモンスターゾーンにある限り、相手モンスターの攻撃力はそのモンスターの攻撃力分ダウンする④このカードはバトルフェイズ中に2回攻撃出来る

The grand JUPITER

戦士族／効果

攻撃力2500 守備力2000 レベル8

①1ターンに1度手札を2枚捨て相手フィールド上の表側表示のモンスター1体選択して発動可能。その表側表示のモンスターを装備カード扱いとしてこのカードに装備する②このカードの攻撃力はこのカードの効果で装備した元々の攻撃力分アップする③自分・相手のエンドフェイズにこのカードの効果で装備したモンスターを自分のフィールドに特殊召喚する

キュアミント「一気に2体の同時召喚」

キュアレモネード「すごい・・・」

キュアジェラート「でも同時召喚してもどうやって倒せばいいの？

(どうにかしてあいつを倒さないとこの町が破壊される)」

アラクネア「これで終わりなさい、コワイナー」

骸骨コワイナー「コワイナー」

全員「きやああああ」

あおい「あいつは、あいつだけは許さない」

その時

冥界の霊騎士ランスロット「小娘気に入ったぞ」

あおい「誰？」

冥界の霊騎士ランスロット「どうにかして奴を潰したい、その思いに答え俺が力を貸してやる」

あおい「あんたは冥界の霊騎士ランスロット」

冥界の霊騎士ランスロット「俺を召喚しろ、The tripping Mercury The grand Jupiterもど

ちらもレベル8だ」

あおい「だけど、どうやって・・・私 デュエルディスクって言うの持ってないし」

冥界の霊騎士ランスロット「主のを借りればいいだろ」

あおい「そっか、分かった、やってみる、ジャツカルさん」

ジャツカル「なんだ」

あおい「デュエルディスク貸してください」

ジャツカル「いいがどうする気だ？ 奴を倒す策が無いとやられにくいようなものだ」

あおい「策ならあります」

ジャツカル「・・・分かった、やってみる」

あおい「はい」

りん「どうする気なの？」

あおい「(お願い力を貸して)私はThe tripping ME R C U R Y と The grand J U P I T E R で オーバーレイ、2体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築エクシース召喚 今こそ開け冥界の門 生ある敵を今こそ倒せ」

ジャツカル「あいつ、あの召喚口上はまさか、奴を呼び出す気が・・・あおい待て、あいつを呼び出せばどうなるか分かってるのか」

くるみ「何よあいつって」

ゆかり「まさか・・・ナンバーズを」

あおい「エクシース召喚 今こそ復活せよ！ 甦れ N o . 2 3 冥界の霊騎士ランスロット」

N o . 2 3 冥界の霊騎士ランスロット

アンデット族／エクシース／効果

攻撃力2000 守備力1500 ランク8

レベル8のモンスター×2

①ORUを持っているこのカードは直接攻撃出来る②このカードが相手に戦闘ダメージを与えた時、相手フィールド上の表側表示のモンスターを1体破壊する③1ターンに1度このカード以外のモンス

ター効果 魔法 罨が発動されたときORUを1つ使いその発動を無効にする

いちか「あおちゃん大丈夫なの」

あおい「あ、あおちゃん!!」

いちか「うん、あおいだからあおちゃん」

あおい「まあいいけど、私は大丈夫だよ」

いちか「よかった」

ひまり「なんとも無いならよかったです」

いちか「そうだねひまりん」

ひまり「ひまりん？」

いちか「うん」

ジャツカル「どういうことだ、ランスロットはあおいを認めたって事か」

あおい「呼び方はどうでもいいや、ランスロットで攻撃」

アラクネア「無駄よ、コワイナーを倒さない限りは私には届かない」

ジャツカル「それはどうかな？冥界の霊騎士ランスロットはORUを持つているとき相手にダイレクトアタックすることが可能、どんなに壁を並べようが、ランスロットのORUを削らない限りは無駄だ」  
アラクネア「なんだと、ぐああああ」

あおい「ランスロットの効果発動、相手にダメージを与えた時、相手のモンスターを1体破壊する、つまり、コワイナーには消えてもらうわよ」

ジャツカル あおい「怨念の剣 グラッジソード」

骸骨コワイナー「コワイナー」

いちか「あおちゃんすごい」

あおい「どうでもいいけど、急にあおちゃんって呼ぶから何かと思っただじゃない」

ひまり「中良さそうですね」

かれん「そうね、まるでのぞみとりんみたいね」

りん「私達は違うわよ」

こまち「またまた照れちゃって」

りん「照れてないし」

あきら「なかなかやるじゃない、あおいも」

ゆかり「そうね、面白いわ」

あおい「そうだ、ジャツカルさん」

ジャツカル「どうした？」

あおい「これ、あいつが持ってたナンバーズです。あとランスロットをお返しします」

ジャツカル「ああ、助かる」

うらら「お疲れ様です、あおいさん」

あおい「本当に疲れたわ」

## 奇跡の光 アクセルシンクロ

あきら「あれっ、ジャツカルさんは？」

ゆかり「分からないわ」

りん「そう言えば、かれんとあのあおいちゃんって娘と一緒に出掛けたわよ」

ひまり「でもなんでかれんさんとあおいさんと一緒に？」

うらら「そう言えば、エンジンが調子が悪いからかれんさんに一緒に来てもらうように言ってみましたよ、あおいさんはただの付き添いですけど」

こまち「でもなんでエンジンなのは分からないけど」

ゆかり「多分、Dホイールの事ね」

くるみ「Dホイール？」

いちか「Dホイールってデュエルで使用するバイクなんです」

こまち「そんなのがあるのね」

ジャツカル「帰ったぞ」

かれん「疲れた」

あおい「私はすごく面白かった」

あきら「ジャツカルさん、遅かったですね」

ジャツカル「ああ、ちよっとエンジンが会うのがなかなか無くてな」

あきら「そうですか」

ジャツカル「なんかあったのか？」

ゆかり「多分、あきらはヤキモチ妬いてるだけだと思っわ」

ジャツカル「悪かったな、あきら」

あきら「もう心配したんだから」

ゆかり「妬いてるあきらかわいいわ」

こまち「そうね」

あきら「お前ら・・・」

くるみ「結構モテるわね」

ジャツカル「あまりからかうな」

かれん「それよりどうするの？」



ジャツカル「何が？」

かれん「そのナンバーズってカード探しよ、どこを探せばいいの」  
ジャツカル「知らねえ、だけどき、片っ端からやってけば見つかる  
んじゃないね、それに場所も分からないのに迂闊に探し回るわけにもい  
かないし」

その時

りん「のぞみバカじゃないの、そんなんだから学習しないって言わ  
れるのよ」

のぞみ「だって」

ジャツカル「どうした？」

りん「なんかのぞみがナンバーズは危険だからジャツカルさんに連  
絡しようと言ったんですけど、ナンバーズを持ってきてしまつて」

ジャツカル「のぞみ、お前ナンバーズをこっちに渡して貰おうか」  
のぞみ「でも害が無いようですし」

りん「いくら害が無いからってナンバーズなのよ」

ジャツカル「それでなんのナンバーズなんだ？」

りん「よくは分からないんですが多分、63と7だと思いましたが」  
ジャツカル「なんだラッキーストライプとおしやもじソルジャー  
か」

ひまり「あれっ、ジャツカルさんの反応がいつもと違いますね」

ジャツカル「ラッキーストライプは所持者の運を急激にあげる事が  
出来、おしやもじソルジャーは全く害が無い存在だ」

りん「そうなんですか？」

その時、周りの景色が変わる

ジャツカル「景色が変わった？（何者かがフィールド魔法を張った  
のか）」

ひまり「何ですかこれ」

いちか「私達の服も変わった？」

あおい「何あれ？豆の木？」

ジャツカル「これは昔読んだジャックと豆の木に似てる気がするん  
だが」

うらら「皆さん気をつけてください、これはエターナルの罠です」  
ひまり「エターナルの」

かれん「ええ、これはエターナルの幹部シビレッタって奴の作り出した空間何です」

ゆかり「ふふふ、面白いわ」

ジャツカル「ゆかりの言う通りだ面白くなりそうだ」

あおい あきら「なんであの二人楽しんでるの?」

ジャツカル「さていくか」

全員「はい」

そして頂上

ひまり「大きい扉ですね」

ジャツカル「とにかく、蹴破るか、おらあ、エターナルだかなんだか知らんが出てこいよ」

ひまり うらら「ちよつと声が大きいです」

シビレッタ「どうやらプリキュアが来たようだね、そっちの連中は見ない顔だが誰だい」

いちか「私達もプリキュアよ」

シビレッタ「ほう、お前らもプリキュアかい、ならそっちの奴は誰だい?」

ジャツカル「そんなことはどうでもいい、さつさと相手は誰だ? 貴様が相手してくれるのか?」

シビレッタ「そこまで焦らなくてもいいんじゃないのかい、ちゃんと相手は用意してあるんだからねえ、出てきなよ、ホシイナー」

ジャツカル「ほう、こいつがホシイナーか」

のぞみ いちか「皆いくよ」

全員「うん」

プリキュア5「プリキュア・メタモルフオーゼ」

くるみ「スカイローズ・トランススレイト」

プリキュアアラモード「キュアラモード・デコレーション」

フェニックス「デュエルモード オートパイロットスタンバイ」

ジャツカル「まずは貴様の力、見せてもらおうぞ、我は手札からカイ

ザーブラッドヴォルスを特殊召喚、さらにセイクリッド・ポルクスを召喚、さらにセイクリッド・ポルクスの効果でセイクリッドモンスターを通常召喚に加えもう一度召喚する来いセイクリッド・グレディ、グレディの効果手札からセイクリッドモンスターを特殊召喚する、来なセイクリッド・カウスト、カウストの効果ポルクスとグレディのレベルを5にする」

カイザーブラッドヴォルス

獣戦士族／効果

攻撃力1900 守備力1200 レベル5

①自分のフィールドにモンスターが存在しない場合、このカードは手札から特殊召喚出来る。

②このカードが戦闘で相手モンスターを破壊した場合に発動する。このカードの攻撃力は500アップする③このカードが戦闘で破壊されたとき破壊したモンスターの攻撃力を500ダウンする。

セイクリッド・ポルクス

戦士族／効果

攻撃力1700 守備力600 レベル4

①このカードが召喚に成功したターン、自分は通常召喚に加えて一度だけ自分のメインフェイズにセイクリッドモンスター1体を召喚出来る

セイクリッド・カウスト

獣戦士族／効果

このカードはシンクロ素材には出来ない。フィールド上のセイクリッドと名のついたモンスター1体を選択し以下の効果から1つ選択し発動できるこの効果は1ターンに2度まで使用可能

●選択したモンスターのレベルを1上げる

●選択したモンスターのレベルを1下げる

セイクリッド・グレディ

魔法使い族／効果

攻撃力1600 守備力1400 レベル4

①このカードが召喚に成功した時発動できる。手札のレベル4の

セイクリッドモンスターを1体特殊召喚する

キュアジェラート「マジ、一気に4体も召喚した」

キュアシヨコラ「しかもペンデュラム無しで」

キュアマカロン「それに同じレベルが3体ね」

キュアルージュ「うわっ、すご」

ジャツカル「行くぞ、我はボルクス グレディでオーバーレイ2体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築エクシーズ召喚

運命の輝き！今こそ掴め 現れるセイクリッド・プレアデス」

セイクリッド・プレアデス

戦士族／エクシーズ／効果

攻撃力2500 守備力1500 ランク5

光属性レベル5×2

①1ターンに1度ORUをつかいフィールド上のカードを1枚その持ち主の手札に戻す。この効果は相手のターンでも使用可能

キュアアクア「ちよつと本気出しすぎじゃない？」

ジャツカル「セイクリッド・プレアデスの効果発動ORUを一つつかい」

シビレツタ「何をする気か知らないけどさせないよ、ホシイナー」

ジャツカル「何!!効果が」

キュアカスタード「発動されない」

キュアルージュ「まさかナンバーズが」

ジャツカル「そうか・・・あの奴にとりついてるナンバーズ分かった」

キュアアクア「なんなのよ、あいつにとりついてるナンバーズって」

ジャツカル「No.25重装光学撮影機フォークスフォース」

キュアドリーム「フルメタル?えつと」

ミルキイローズ キュアルージュ「フルメタルフォトグライド!!」

キュアドリーム「？」

キュアルージュ「バカなあんたには理解出来ないわよ」

ジャツカル「フォークスフォースは相手のモンスターの効果を無効化する効果があるだがこれは無効化出来まい魔法カード 死者蘇生」

シビレッタ「死者蘇生？」

ジャツカル「このカードは敵味方関係無しに墓地からモンスター1体を甦らせる」

シビレッタ「残念だったね、その効果は不発だよ」

ジャツカル「ORUとして使用されたカードはどこにいくと思う？」

シビレッタ「使用されたカード・・・まさか」

ジャツカル「そうだ、甦れセイクリッド・グレディ」

キュアカスタード「同レベルのモンスターが2体ですね」

我は2体のモンスターでオーバーレイ！2体のセイクリッド・グレディとセイクリッド・カウストでオーバーレイネットワークを構築エクシーズ召喚 眩き光よすべてを打ち砕け 現れるセイクリッド・ビーハイブ、さらにセイクリッド・プレアデス1体でオーバーレイネットワークを構築エクシーズチェンジ聖なる光よ、愚かな愚行を浄化せよ！来いセイクリッドトレミスM7」

セイクリッド・ビーハイブ

機械族／エクシーズ／効果

攻撃力2400 守備力1000 ランク4

レベル4セイクリッド×2

①1ターンに1度、自分のセイクリッドモンスターが戦闘を行うダメージ開始時からダメージ計算前までにORUを1つ使いそのモンスターの攻撃力をエンドフェイズ時まで1000上げる。この効果は相手のターンでも使用可能

セイクリッドトレミスM7

機械族／エクシーズ／効果

攻撃力2700 守備力2000 ランク6

レベル6モンスター×2

このカードはセイクリッドトレミスM7以外の自分フィールド上のセイクリッドエクシーズモンスターの上に重ねてエクシーズ召喚することも可能。この方法で召喚した場合このターンはこのカード

の効果は使えない。①1ターンに1度このカードのORUを1つ使  
い自分または相手のフィールド・墓地のモンスターカード1枚をその  
モンスターの持ち主の手札に戻す

キュアジェラート「ちよつとさすがに3回連続エクシーズってやり  
すぎじゃない」

キュアアクア「それほど本気って事ね」

シビレッタ「おのれ、ホシイナーやれ」

巨人ホシイナー「ホシイナー」

ジャツカル「セイクリッド・ビーハイブ!!」

キュアホイップ「行くよ」

ジャツカル「助かる、ホイップ」

キュアホイップ「いえいえ」

ジャツカル「次は俺だドロー(くっ、こいつじゃない)」

キュアルージュ「どうしたのかな?」

キュアカスタード「まずいです、いいカードが引けなかったんだと  
思います」

キュアアクア「じゃあどうするの」

キュアマカロン「私達が手伝うしかないわね」

キュアミント「手伝うってどうやって?」

キュアホイップ「私達もカードを引くのよ」

ミルキイローズ「分かったわ、やってみる」

キュアドリーム「皆、援護するよ」

全員「うん」

ジャツカル「その前にこのフィールドではやりにくい、フィールド  
を変えようか」

シビレッタ「私が用意したフィールドが気に入らないって言うのか  
い」

ジャツカル「ああ、気に入らないね、まだこっちの方がいいフィー  
ルド魔法Kozumo—エメラルドポリス」

Kozumo—エメラルドポリス

フィールド魔法

①1ターンに1度、除外されている自分のKozumoモンスター1体を選択し手札に戻し、自分はそのモンスターの元々のレベル×100ライブポイントを失う。②1ターンに1度、自分のメインフェイズに手札のKozumoモンスターを相手に見せ、デッキに戻してシャッフルする。そして戻した数だけデッキからドロウする。③フィールド上のこのカードが効果で破壊されたとき、デッキからKozumoモンスターを1体手札に加える

キュアマカロン「すごい」

キュアミント「景色が」

キュアシヨコラ「変わり、未来都市みたいになった」

ジャツカル「そっか、お前らの前ではフィールド魔法を使うのははじめてか」

ミルキイローズ「とつても綺麗」

キュアホイップ「はい」

ミルキイローズ「とにかく、私達も加勢するわ」

ジャツカル「頼む」

ミルキイローズ「まずは私ね」

シビレッタ「どこへ行くのかは知らないけど、行かせないよ、ホシイナー」

巨人ホシイナー「ホシイナー」

キュアミント「邪魔はさせないよ、プリキュア・ミントリフレクシオン」

ミルキイローズ「まずは1枚目、ジャツカルさんこれを」

ジャツカル「ああ、ダークリゾネーターを召喚、行くぞ、レベル5のカイザーブラッドヴォルスにレベル3のダークリゾネーターをチューニング、今こそ、羽ばたけ、希望の翼 美しき姿を今、見せよ、シンクロ召喚 現れるレベル8スターダストドラゴン」

スターダストドラゴン

ドラゴン族／シンクロ／効果

攻撃力2500 守備力2000 レベル8

チューナー＋チューナー以外のモンスター1体以上

フィールド上のカードを破壊する効果を持つ魔法 罨 モンス  
ター効果の効果が発動したとき、このカードをリリースすること  
によってその効果を無効にして破壊する。この効果でリリースされ墓  
地に存在するこのカードを自分フィールド上に特殊召喚する

キュアシヨコラ「すごく」

キュアアクア「綺麗」

キュアルージュ「あのドラゴンすごい」

キュアレモネード「でもあのホシイナーに効果無効があるなら効果  
を使っても意味は無いと思います」

ジャツカル「確かに意味はないよな、だけどそこからどうするかを  
考えるのがデュエルだ」

キュアシヨコラ「次は私が行くよ」

キュアマカロン「お願いね、シヨコラ」

キュアマカロン「ええ、次は何かな？捕食植物コーデイセツプス」

捕食植物コーデイセツプス

植物族／効果

攻撃力0 守備力0 レベル1

①自分のスタンバイフェイズに墓地のこのカードを除外して自分  
の墓地のレベル4以下の捕食植物を2体特殊召喚する。効果を使用  
したターンは通常召喚は行えず融合モンスターしか召喚出来ない

キュアレモネード「次は私です、私は人喰い植物です」

ジャツカル「待て、レモネード」

キュアレモネード「はい」

ジャツカル「そのカードはモンスターゾーンに置かなくていい」

キュアレモネード「なぜですか？」

ジャツカル「俺の狙ってるのはレベル1のチューナーだからだ」

キュアレモネード「わ、分かりました」

キュアマカロン「次は私ね、さあ、何が出るかしら？レベル1の  
チューナー、ガード・オブ・フレムベルね」

ガード・オブ・フレムベル

ドラゴン族／チューナー



攻撃力1000 守備力2000 レベル1

炎を自在に操ることが出来る。フレムベルの護衛戦士。灼熱のバリアを作り出して敵の攻撃を跳ね返す

ジャツカル「よし、これで行ける、レベル1捕食植物コーデイセツプスとレベル1ガード・オブ・フレムベルでチューニング 炎の竜よ、自らを滅ぼし者を弱体化させよ、シンクロ召喚焰紫竜ピュラリス」

焰紫竜ピュラリス

爬虫類族／シンクロ／チューナー

攻撃力800 守備力1400 レベル2

チューナー+チューナー以外のモンスター1体

このカードがフィールド上から墓地に送られたとき、相手フィールド上のすべてのモンスターの攻撃力を500下げる

キュアマカロン「私達は貴方なんかには負けないわ」

キュアルージュ「そうよ、プリキュア・ルージュバーニング」

キュアレモネード「プリキュア・プリズムチェーン」

シビレッタ「おのれ、ホシイナー」

巨人ホシイナー「ホシイナー」

キュアマカロン「そうは、いけない、もう何もやらせない」

その時、光がマカロンを包み込み一瞬消えてしまう

キュアマカロン「ここは一体・・・あれは？カード？でも白紙」

そこまで言うとは白紙のカードに絵が映し出される

キュアマカロン「これはシユーツイングスタードラゴン？これを使えって事？でも、いつものシンクロ召喚方法とは違う・・・何これ、なんだらう、召喚方法が分かる、ふふふ、面白いわ、力を貸してシユーツイングスタードラゴン」

そう言うに戻ってくる

キュアショコラ「マカロン 大丈夫？」

キュアマカロン「ええ、ジャツカルさんDホイール貸してくれますか」

ジャツカル「ああいいが」

キュアマカロン「あいつは、私が倒す」

ジャツカル「分かった」

キュアマカロン「行くわよ、レベル2チューナー焰紫竜ピュラリスにレベル8スターダストドラゴンをチューニング、今こそ、集え、希望の光、絆の力で敵を撃て、アクセルシンクロ」

シビレッタ「何!!消えた」

巨人ホシイナー「ホシイナー?」

キュアマカロン「今ここに生来せよ、シユーツィングスタードラゴン」

ジャツカル「アクセルシンクロ」

キュアシヨコラ「シユーツィングスタードラゴン」

キュアジェラート「すごい」

キュアアクア「とても綺麗すぎる」

キュアミント「今までの者よりも」

シユーツィングスタードラゴン

ドラゴン族/シンクロ/効果

攻撃力3300 守備力2500 レベル10

シンクロチューナー1体+ スターダストドラゴン

以下の効果はそれぞれ1ターンに1度ずつ使用できる●自分のデッキの上から5枚めくりこのターンこのカードはその中のチューナーの数だけ攻撃出来る。その後めくったカードはデッキに戻しシャッフルする●フィールド上のカードを破壊する効果が発動されたときその効果を無効にして破壊する●相手モンスターの攻撃宣言時このカードを除外して相手モンスター1体の攻撃を無効にすることが出来る。エンドフェイズ時、この効果で除外したこのカードを特殊召喚する

キュアマカロン「私はシユーツィングスタードラゴンの効果を発動デッキから5枚ひいてチューナーの数だけ攻撃する、行くよ、来たわ、」

シビレッタ「何!!」

キュアマカロン「私がひいたカードはチューナーモンスターXXセイバーフラムナイト ゾンビキヤリア 水晶機巧リオン Aマイン

ド　そしてワンショットロケット」

キュアシヨコラ「と言うことはシューティングスタードラゴンは5回の攻撃」

キュアレモネード「すごいです」

キュアドリーム「これで終わりよ、プリキュア・シューティングスター」

キュアマカロン「シューティングスタードラゴンで攻撃　ミラクルシューティングスターソニック」

巨人ホシイナ「ホシイナ」

キュアドリーム「やった」

キュアルージュ「ドリーム、喜ぶのはいいけど、ナンバーズを返した方がいいんじゃない？」

キュアドリーム「分かった、これお返しします」

ジャツカル「ああ、すまない」

キュアマカロン「なんとか一件落着よね・・・あつ、そうだ、ジャツカルさん、こいつが持っていたナンバーズ回収しないと」

ジャツカル「そうだったな」

キュアマカロン「あと・・・」

ジャツカル「どうした？」

キュアマカロン「こいつが持っていたナンバーズですけど、多数あつたようです」

ジャツカル「多数？」

キュアマカロン「それがこれです」

キュアシヨコラ「マカロン持っても大丈夫なの？」

キュアマカロン「今はねなんともないわ、何か記憶みたいなのが流れ込んできたけど」

ジャツカル「マカロンありがとう、　N.O. 25 重装光学撮影機  
フォーカスフォース　N.O. 28 タイタニックモス　N.O. 35 ラ  
ベノスタランチュラ　N.O. 70 デットトリーシン　N.O. 77  
ザ・セブン・シンズ　N.O. 84 ペインゲイナー回収完了」

キュアルージュ「とうかなんでこいつの持ってたほとんどのナン

バース？虫なのよ」

ジャツカル「それもそうだな、あとキュアドリームが持っていたナンバースNo.7ラツキーストライプ No.63おしやもじソルジャー」

その時、再び次元が裂け別な場所に飛ばされる

りん「なんなのよ急に」

ジャツカル「お前たちの世界に来たときと同じだ」

あきら「つまりまた別な場所に？」

ゆかり「そのようね」

## プリンセスプリキュアと鍵のナンバーズ

「あおい「また別世界に飛ばされた」

うらら「ここはどこなんでしょうか？」

ひまり「そうですね」

瀬川ひとみ「ごきげんよう」

西峰あやか「ごきげんよう」

ジャツカル「そう言うことねえ」

ゆかり「そう言うことですね」

ジャツカル「俺たちは遊びに来てるんじゃない」

ゆかり「そうよ」

如月れいこ「ごきげんよう、ようこそノーブル学園へ」

ゆかり ジャツカル「ごきげんよう」

りん「あれえ、遊びに来てるんじゃないって言った二人がなぜか、もう馴染んでるし」

ジャツカル「我はただその場のルールをだな」

ゆかり「そうよ」

りん「だからと言ってもう馴染むなんて早すぎますよ」

かれん「さすがりんね」

こまち「本当ね」

りん「どういうことですか？」

かれん こまち「なんでもないわ」

あおい「そう言えばジャツカルさんとあきらさんは？」

うらら「そう言えば見てないですね」

くるみ「あの二人ならあそこに」

あきら「ちよつといいかな？」

七瀬ゆい「は、はい」

ジャツカル「あんたはこれと同じものを見なかったか？」

七瀬ゆい「見てないですけど」

ジャツカル「これと同じものを見たら触れるな闇に飲み込まれてし

まうぞ」

七瀬ゆい「えっ、はい」

海藤みなみ「貴方達、ここがノーブル学園って知っててナンパしてるのかしら？」

ジャツカル「なんだ貴様ら？」

天ノ川きらら「それはこつちのセリフよ、あんた達見ない顔だけどいきなりナンパってどういう趣味してるのよ」

七瀬ゆい「待って、この人達はただ」

ジャツカル「あんたは下がってろ、我に牙を向けたことを後悔させてやるぞ」

天ノ川きらら「いいわ、どうせあんたは私が倒すんだから」

あきら「ダメだこれは」

ゆかり「どうしたの？」

うらら「何の騒ぎ何ですか？」

あきら「実は・・・」

説明中

かれん「つまり、ナンバーズの事を聞いてたらナンパと勘違いされ今に至るってわけ」

あきら「そう言うこと」

紅城トワ「きらら、まずはあの方に謝ったほうが」

天ノ川きらら「冗談じゃないわ、あんなナンパ野郎に謝るもんですか」

海藤みなみ「だけど私達の勘違いってことも」

天ノ川きらら「みなみんは黙ってて、プリキュア・プリンセスエンゲージ」

ジャツカル「面白い、貴様がプリキュアだろうと関係ない、我に牙をむくと言うなら容赦はしない」

キュアトウインクル「行くわよ、きらきら星よ、プリキュア・トウインクルハミング」

ジャツカル「何!!」

キュアトウインクル「やった」

ジャツカル「貴様は甘い」

キュアトウインクル「なっ、無傷!!」

ジャツカル「我は手札から工作列車シグナルレッドを特殊召喚」

キュアトウインクル「そんな列車いっただしたのよ」

ジャツカル「工作列車シグナルレッドの効果、相手の攻撃時に特殊召喚し、このカードに移し変えて、ダメージ計算を行う、このカードはその戦闘では破壊されんぞ」

キュアトウインクル「くっ、こいつ」

ジャツカル「まずは小手調べ我は彼岸の悪鬼バルバリツチャを特殊召喚」

彼岸の悪鬼バルバリツチャ

悪魔族／効果

攻撃力1700 守備力1000 レベル3

このカードの①③の効果は1ターンに1度いずれか1つしか使用できない。①自分フィールド上に魔法 罫が存在しない場合発動可能。このカードを特殊召喚する②自分フィールド上に彼岸モンスターがいればこのカードは破壊される③このカードが墓地へ送られた場合自分の墓地の彼岸カード3枚除外して除外した数×300ダメージを与える

キュアトウインクル「そんなものを呼び出すなんて趣味悪いわね」

ジャツカル「彼岸の悪鬼バルバリツチャの効果、自分フィールド上に彼岸モンスター以外が存在すればこのカードを墓地に送る」

キュアトウインクル「はあ？自害？何がしたかったのよ」

ジャツカル「我はダークビショップデーモンを通常召喚」

ダークビショップデーモン

悪魔族／効果

攻撃力300 守備力1400 レベル3

このカードのコントローラーは自分のスタンバイフェイズが来るごとに500ポイント払う。自分フィールド上に存在するデーモンと名のついたモンスターが相手のコントロールするカードの効果対象になったときその処理を行うときにサイコロを1回ふる。1・3・

6が出た場合その効果を無効にして破壊する

キュアトウインクル「さっきの奴といい弱そうね」

海藤みなみ「油断しないで」

キュアトウインクル「分かってるわよ」

ジャツカル「確かにダークビショップデーモンの攻撃力は300しかない」

キュアトウインクル「たった300?そんなんで私を倒すって事?」

ジャツカル「安心しろまだ、続きがある、俺はシグナルレッドとダークビショップデーモンをオーバーレイ2体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築、強大な力を持ちし空母よ、その力にて敵を破壊せよ エクシーズ召喚発条空母ゼンマイテイ」

発条空母ゼンマイテイ

機械族／エクシーズ／効果

攻撃力1500 守備力1500 ランク3

レベル3モンスター×2

①1ターンに1度ORUを1つ使い発動可能。手札・デッキからゼンマイモンスターを1体特殊召喚する。②フィールド上の表側表示のゼンマイモンスターが戦闘以外で破壊されたときORUを1つ使いそのモンスターを手札に加える

キュアトウインクル「今度は何を呼ぶと思ったらそんな船みたいなのでどう倒す気?」

春野はるか「見た目で判断しちゃダメだよ」

キュアトウインクル「いいのよ、事実だし、きらきら流れ星よ プリキュア・ミーティアハミング」

ジャツカル「やるじゃん、ゼンマイテイを倒すなんてな」

キュアトウインクル「やっぱり大したこと無いじゃない」

ジャツカル「リバース2枚セットしエンド」

キュアトウインクル「大したこと無いのね貴方、きらきら星よ、プリキュア・トウインクルハミング」

紅城トワ「きらら、無闇に攻撃するのは危険ですわ」



キュアトウインクル「大丈夫よ、大したこと無いし」  
ジャツカル「いや、彼女の言う通りだ、無闇に攻撃するのは危険だ」  
キュアトウインクル「そんなはったりが私に聞くと」  
ジャツカル「はったりかどうかはやってみるか？」  
ゆかり「あれは本気ね」  
あおい「そうだね、はったりじゃないわ」  
ジャツカル「罨カード 決別」  
決別

罨カード

手札の魔法カードを1枚墓地へ送りそのバトルフェイズを終了する。フィールド上の表側表示のモンスターはターン終了時まで効果は無効になる

ジャツカル「決別の効果により貴様の攻撃は失敗に終わる」  
キュアトウインクル「くっ」

ジャツカル「我のターンそうだな、魚ギョ戦士を召喚」  
魚ギョ戦士

魚族

攻撃力1250 守備力900 レベル4

魚に手足が生えた魚人獣。鋭い歯で噛みついてくる

ジャツカル「さらに、二重召喚を発動」

二重召喚

魔法カード

このターンもう一度通常召喚を行う

ひまり「ここまでやるなんてすごいです」

りん「確かにね」

ジャツカル「今度は海を守る戦士を召喚」

海を守る戦士

水族

攻撃力1300 守備力1000 レベル4

海を汚すやつらを徹底的に攻撃するマーマン戦士

キュアトウインクル「ここは陸よ、そんな魚と半魚人を出してなに

になるって言うの」

ジャツカル「魚ギョ戦士も海を守る戦士もレベル4」

あきら「同レベルが2体、エクシーズで畳み掛ける気ね」

ジャツカル「我は魚ギョ戦士と海を守る戦士でオーバーレイ2体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築エクシーズ召喚 漆黒の海の底より現れ地上のすべてを噛み砕け！現れる、バハムートシャーク」

バハムートシャーク

海竜族／エクシーズ／効果

攻撃力2600 守備力2100 ランク4

水属性レベル4モンスター×2

1ターンに1度ORUを使い水属性・ランク3以下のエクシーズモンスターを1体エクストラデッキから特殊召喚する。この効果を使用するとこのターンこのカードは攻撃出来ない

キュアトウインクル「なんかヤバそうなのが出てきたね」

ジャツカル「我はバハムートシャークの効果を発動、ORUを1つ使いエクストラデッキからランク3・水属性のエクシーズモンスターを呼び出す」

キュアトウインクル「まあいいわ、何を呼び出そうと私には勝てないし」

ジャツカル「我は牙鯨帝シャーク・カイゼルを呼び出す」

牙鯨帝シャーク・カイゼル

魚族／エクシーズ／効果

攻撃力1800 守備力2000 ランク3

レベル3のモンスター×3体以上（最大5体まで）

1ターンに1度ORUを1つ使いこのカードにシャークカウンターを1つ置く。また、このカードが戦闘を行う場合ダメージステップの間、このカードの攻撃力はカウンターの数×1000ポイントアップする

キュアトウインクル「（ここに来てサメが2匹さすがにこれはまずいかな、しかもあの2匹は攻撃してくる、勝てるのかな）さすがにま

ずいかな」

ジャツカル「我はシャーク・カイゼルで攻撃」

キュアトウインクル「まずい、きやあああ」

ジャツカル「我はこれにて終了だ」

キュアトウインクル「何でシャーク・カイゼルだけ？バハムートシャークってサメは攻撃しないわけ？」

ジャツカル「勘違いするな、バハムートシャークは効果を使ったらこのターンは攻撃不可能になっているのだ」

キュアトウインクル「（なんとか助かったわ、だけどバハムートシャークの攻撃を立て続けに食らえばさすがにプリキュアとは言えども、ダメージは覚悟した方がいいわね）」

ジャツカル「どうした？貴様の番だぞ」

キュアトウインクル「分かっているわよ」

海藤みなみ「きらら本当に彼の話を聞いた方が」

キュアトウインクル「みなみんはいい加減黙ってて」

海藤みなみ「しよぼーん」

あきら「よしよし、大丈夫？」

海藤みなみ「うわああああ」

キュアトウインクル「みなみん、何してるのよ、そいつもゆいゆいをナンパしてたのよ」

春野はるか「違うのきららちゃん」

キュアトウインクル「あー、もう、とにかく目の前の奴を倒さないと気がすまない、シャランラ銀河よプリキュア・ギヤラクシーコーラス」

ジャツカル「何!!バハムートシャーク シャーク・カイゼル!!」

キュアトウインクル「どうかしら？お得意のサメはもう出ないかしら？」

ジャツカル「貴様、銀河も使えたのか？」

キュアトウインクル「それが何？」

ジャツカル「真の銀河使いは我一人だ、我のターン」

キュアトウインクル「何いつてるのよ、あんた？」

ジャツカル「我は、霸王門零と霸王門無限でペンデュラムスケールをセツティング、ペンデュラム召喚、来よ、我が僕どもよ」

あおい「ペンデュラム来たああああ」

かれん「テンション高いわね」

ひまり「だってあの有名なペンデュラムなんですよ」

こまち「そう言われても知らないし」

いちか「見てれば分かります」

ジャツカル「ペンデュラム召喚 来い ヘルドラゴン ランスリン ドブルムでオーバーレイ2体のモンスターでオーバーレイ 2体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築エクシーズ召喚 銀河の竜よ、影の如く守り抜け！現れよギャラクシーステルスドラゴン、さらに、幻木龍を召喚さらに、幻水龍を特殊召喚、さらに、幻木龍の効果で幻水龍と同じレベル8に幻木龍と幻水龍でオーバーレイ、銀河の龍よ。銀河の眼に力宿りて、新たな力を産み出さん、エクシーズ召喚！来よ！ギャラクシーステルスドラゴン」

ギャラクシーステルスドラゴン

ドラゴン族／エクシーズ／効果

攻撃力3000 守備力2500 ランク8

レベル8のモンスター×2

①1ターンに1度ORUを使い相手の表側表示のコントロールをエンドフェイズ時まで得る。この効果でコントロールを得たモンスターはギャラクシーステルスドラゴンとして扱い攻撃力は3000になり効果は無効になる

ギャラクシーステルスドラゴン

ドラゴン族／効果

攻撃力2000 守備力1600 ランク4

ドラゴン族レベル4×2

①1ターンに1度ORUを使い手札のドラゴン族を1体特殊召喚する②このカードがモンスターゾーンに存在するときこのカード以外のギャラクシーステルスは効果の対象にならず効果では破壊できない

ヘルドラゴン

ドラゴン族／効果

攻撃力2000 守備力0 レベル4

このカードは攻撃したターンのエンドフェイズに破壊される。フィールド上のこのカードが破壊された時モンスター1体をリリースすることで特殊召喚する

ランスリンドブルム

ドラゴン族／効果

攻撃力1800 守備力1200

このカードが守備モンスターを攻撃したとき貫通ダメージを与える

幻木龍

ドラゴン族／効果

攻撃力1000 守備力1400 レベル4

1ターンに1度自分フィールド上のドラゴン族・水属性モンスターを選択して発動出来る。このカードのレベルは選択したモンスターと同じになる

幻水龍

ドラゴン族／効果

攻撃力1000 守備力2000 レベル8

自分フィールド上に地属性のモンスターが存在するときこのカードは手札から特殊召喚出来る。この方法による幻水龍の特殊召喚は1ターンに1度しか行えない

キュアトウインクル「嘘!!ドラゴンが2体」

ゆかり「どう思う?」

紅城トワ「さすがのきさらもこれは」

ジャツカル「行くぞ、殲滅のギャラクシー」

キュアトウインクル「どうしたのかしら?」

ジャツカル「この気配、もしかしたらナンバーズか)とにかく一旦、勝負はお預けだ」

キュアトウインクル「ちよつとどこに行くのよ」

海藤みなみ「どうしたのかしら?」

あきら「もしかしたらナンバーズを見つけたのかも知れない」

紅城トワ「そのナンバーズってなんですか？」

ゆかり「よくは分からないけど、ナンバーズはジャツカル記憶らしいのよ」

あきら「それで、私とジャツカルさんで一緒にその彼女とナンバーズのありかを聞いてたら貴方たちが来てそれでそさっきの子が私達をナンパだと勘違いしてたってわけ」

海藤みなみ「そうだったの・・・きららが人の話を聞かなかったあまりにとんだご迷惑を、私は海藤みなみ」

春野はるか「私は春野はるか」

紅城トワ「紅城トワですわ」

海藤みなみ「さっきの子が天ノ川きららよ」

のぞみ「夢原のぞみです」

りん「夏木りんです」

うらら「春日野うららです」

こまち「秋元こまちです」

かれん「水無月かれんよ」

くるみ「美々野くるみよ、宜しく」

いちか「宇佐美いちかです」

ひまり「有栖川ひまりです」

あおい「立神あおいです」

ゆかり「琴爪ゆかりよ」

あきら「剣城あきらだよ」

あおい「彼がジャツカルさん」

ゆかり「私達はプリキュアなの」

春野はるか「プリキュアですか？」

あきら「うん、でもはるかさん達の方が先輩ですけど」

海藤みなみ「そう言えばジャツカルさんは？なんのためにこの世界に？」

あおい「よくは分からないけどなんかエクシード次元ってところにいて伝説の戦士達を救ってって声が聞こえたら私達の世界にいたら

しくて」

春野はるか「エクシード次元？」

紅城トワ「そう言えばさっきのギャラクシーアイズサイフアドラゴンってドラゴンを召喚する時もエクシード召喚って言ってましたわ、それとなにか関係してるのでは」

その時

蟬ゼツボーグ「ゼツボーグ」

海藤みなみ「こう言うときにゼツボーグが」

いちか「皆さん行きましょう」

全員「はい」

その頃、ジャツカルは

ジャツカル「見つけた、ナンバーズ、しかし、こんなところにナンバーズがあつたとはなしかもNo. 39 希望皇ホープ・・・誰だそこにいるのは？」

アロマ「待ってほしいロマ」

パフ「殺さないでパフ」

ジャツカル「なんだ？てめえら？」

アロマ「なんだ、デイスダークかと思ったロマ」

ジャツカル「全く人違いも甚だしいぞ」

パフ「ごめんパフ」

ジャツカル「全く・・・そうだ、なあ聞きたいことがあるんだがいか？」

アロマ「何ロマ？」

ジャツカル「なぜこのナンバーズがここにあるか分かるか？」

アロマ「ナンバーズって何ロマ？」

ジャツカル「このカードの事だ」

アロマ「知らないロマ」

パフ「よくは分からないけど2日前に急に現れたパフ」

ジャツカル「急にだど？」

パフ「そうパフ」

ジャツカル「分かった・・・」

アロマ「どうしたロマ?」

ジャツカル「お前達はそこにいろ、闇の気配だ」

アロマ「分かったロマ」

その頃、フローラ達は

キュアフローラ「くつ、シャット、一体ゼツボーグに何をしたの?」

シャット「知らない、普通にゼツボーグを作っただけ、急なパワー

アップは知らない」

キュアトウインクル「とぼけないで」

キュアシヨコラ「あいつは嘘は言ってないよ」

キュアマーマイド「何でわかるの」

キュアシヨコラ「あいつの、頭のところに数字が浮かび上がった、

あれはナンバーズに乗っ取られているのよ」

キュアフローラ「ナンバーズってそんな事も出来るの?」

キュアマカロン「ええ、可能よ」

シャット「なんだか知らないけどプリキュアに勝てる、ゼツボーグ

あとは止めを刺すのみ」

蝉ゼツボーグ「ゼツボーグ」

その時

ジャツカル「美しき白百合の騎士よ、今こそ華麗に戦場に立て!シ

ンクロ召喚フルール・ド・シュヴァリエ」

フルール・ド・シュヴァリエ

戦士族/シンクロ/効果

攻撃力2700 守備力2300 レベル8

フルール・シンクロン+チューナー以外のモンスター1体以上

相手が魔法 罫カードを発動したとき発動可能。その発動を無効

にして破壊する。この効果は自分のターン1度だけ発動する

ジャツカル「やれ、フルール・ド・シュヴァリエ」

シャット「なんであろうが奴も始末するのみ」

蝉ゼツボーグ「ゼツボーグ」

ジャツカル「まさかフルール・ド・シュヴァリエが倒されるとはな、

ならペンデュラム召喚現れよ我が僕どもよ泥に潜み棲む者 魂を狩



る者 闇魔界の霸王 サイバーチュチュボン」

泥に潜み棲む者

岩石族

攻撃力1200 守備力1300 レベル4

足元がドロドロと溶けだしたらこいつが現れる前兆だ

魂を狩る者

獣戦士族

攻撃力1100 守備力1000 レベル4

剣で斬りつけられた者は魂を抜かれてしまう

サイバーチュチュボン

戦士族／効果

攻撃力1800 守備力1600 レベル5

①このカードは自分の手札・フィールドから戦士族または天使族モンスター1体をリリースして特殊召喚出来る②このカードが儀式召喚のためにリリースされた場所、自分の墓地の儀式魔法を1枚手札に戻す

闇魔界の霸王

悪魔族

攻撃力2000 守備力1530 レベル5

強大な闇の力を使い、まわりのものを全て破壊する

キュアトウインクル「4体同時召喚!？」

キュアスカーレット「すごいですわ」

キュアフローラ「あれが・・・ペンデュラム召喚の」

キュアマーマイド「本当の力」

キュアマカロン「それだけじゃないわ、多分、召喚したのは同レベルのモンスター」

キュアシヨコラ「そうか、エクシーズ召喚」

ジャツカル「我は泥に潜み棲む者と魂を狩る者でオーバレイ深海に潜む悪魔、今こそ闇に潜み獲物を食らえエクシーズ召喚!現れよ深淵に潜む者 さらに、サイバーチュチュボンと闇魔界の霸王でオーバレイ終焉を守りし者よ愚か者に滅びを与えよ エクシーズ召喚

！終焉の守護者アドレウス」

深淵に潜む者

海竜族／エクシーズ／効果

攻撃力1700 守備力1400 ランク4

このカードが水属性のモンスターをORUにしてるとき自分フィールド上の水属性モンスターの攻撃力は500アップする。また、1ターンに1度、このカードのORUを1つ使用し、このターン、相手は墓地で発動する魔法 罨 モンスター効果は発動できない

終焉の守護者アドレウス

悪魔族／エクシーズ／効果

攻撃力2600 守備力1700 ランク5

レベル5モンスター×2

1ターンに1度ORUを1つ使い、相手の表側表示で存在するカードを1枚選択し破壊する

キュアカスタード「ジャツカルさん、あのゼツボーグって奴ナンバースに支配されてます」

ジャツカル「分かった」

キュアマーマイド「あと、ゼツボーグ私達の攻撃が受け付けません」

ジャツカル「つまり、戦闘破壊出来ないナンバースか、だが効果では破壊できる、終焉の守護者アドレウスの効果発動ORUを一つ使い、貴様を破壊する、デミス・オブ・ブレイク」

蝉ゼツボーグ「ゼツボーグ」

シャット「くっ、覚えている」

キュアホイツプ「やった」

キュアアクア「すごいじゃない、私達を苦戦した相手を簡単に倒すなんて」

ジャツカル「・・・」

キュアレモネード「どうしたんですか？」

ジャツカル「まだだ」

キュアミント「えっ」

ジャツカル「まだ終わってはいねえ」

キュアルーージュ「それってどういう」

ジャツカル「確かにN.O. 66マスターキービートルは落ちてきた、奴の気配は、まだ残ってる」

そう言うと、蝉ゼツボーグが突如姿を変えて復活来た、ジャツカル達はこの最悪な状況に罅を開けられるか

## 恐怖!! No. 92の力

終焉の守護者アドレウスの効果で倒されたはずの蟬ゼツボーグ、しかし姿を変えて復活した蟬ゼツボーグ、果たしてプリキュア達は倒せるか

蟬ゼツボーグ(変異体)「ゼツボーグ」

キュアジェラート「ちよつとどうするの?」

キュアドリーム「ここは私に任せてください、プリキュア・シューティングスター」

蟬ゼツボーグ(変異体)「ゼツボーグ」

キュアドリーム「嘘!! 全く聞いてない」

ジャツカル「ならば、魔法カードライトニングボルテックス」

ライトニングボルテックス

魔法カード

手札を1枚捨て敵モンスターを全て破壊する

ジャツカル「消え去れ」

キュアジェラート「やった!!」

ジャツカル「本当にやったのか? いや、まだだ」

キュアルージュ「あいつ、不死身なの?」

メツボーグ「メツボーグ」

キュアフローラ「あれはメツボーグ」

キュアマーマイド「どうなってるのよ」

キュアショコラ「多分、ナンバーズが関係してるのかと」

ジャツカル「だったらアドレウスの効果発動、デミス・オブ・ブレイク」

キュアトウインクル「今度こそ」

メツボーグ「メツボーグ」

キュアマカロン「アドレウスと深淵に潜む者が」

キュアスカレット「消えましたわ」

キュアホイップ「一体どうなってるの」

ジャツカル「くそつ、アドレウスと深淵に潜む者が除外されただ

と) お前ら一旦、退け」

全員「分かりました」

メツボーグ「メツボーグ」

くるみ「なんなのよ、あいつは」

あきら「多分、ナンバーズが関係してるんだと」

ジャツカル「・・・」

ひまり「どうかしましたか?」

ジャツカル「すまない、俺がミスしたせいだ」

あきら「ミスって何か?」

ジャツカル「俺がアドレウスの効果で奴を倒さなければ復活し新たな強化して復活する事もなかった」

あおい「そんなジャツカルさんの責任では無いです、復活するなんて誰も思っていないです」

みなみ「そうですよ、私達もメツボーグにあんな能力があること思ってませんでしたし」

ひまり「でも、アドレウスと深淵に潜む者が消えたのはどうしてですか?」

ジャツカル「消えたんじゃない、除外されたんだ」

いちか「除外って・・・そんな」

トワ「それより、そのメツボーグに乗っ取っていたナンバーズってのは」

ジャツカル「奴に乗っ取っていたナンバーズはNo. 53偽骸神Heart  
earth No. 92偽骸神龍Heart  
earth Dragon」

あおい「それって強いのか?」

ジャツカル「ああ、俺もさすがに苦戦した相手その2だったかな」  
はるか「じゃあ、とてもきついつて事?」

いちか「そんな奴倒せるのですか?」

ジャツカル「倒す方法は無いわけでは無い」

きらら「その方法って」

ジャツカル「今のあいつはHeart earth Dragon

の力を得ている、だったら効果を無効化させる」

きらら「でもそんな方法あるの」

うらら「フォーカスフォースですね」

りん「確かにあれはナンバースだし効果も無効化出来るわね」

ジャツカル「いや、今回使うのは、フォーカスフォースではない」

ひまり「なんでですか？」

ジャツカル「あれはレベル6のモンスターを2体必要とする、それに今回の場合はコストが重い」

みなみ「確かに除外されては意味が無いわね」

のぞみ「じゃあ、どうするんですか？」

ジャツカル「このカードを使う」

ゆかり「エフェクトヴェーラー」

あきら「どうやらエフェクトヴェーラーには手札から捨てるだけで効果を無効化出来るようだよ」

ジャツカル「そうだ、奴の効果はフィールドのみに影響する、手札への影響は0って訳だ」

かれん「確かに引き当てれば勝てる確率が上がるわね」

その時

ジャツカル「闇の力、奴か」

のぞみ「とにかく急ぐわよ」

全員「分かりました」

ジャツカル「さてと行くか」

そして20分後

メツボーグ「メツボーグ」

ジャツカル「さあ俺達が相手だ」

メツボーグ「メツボーグ」

ジャツカル「来い、聖騎士の三兄弟を召喚」

聖騎士の三兄弟

戦士族／効果

攻撃力1200 守備力2400 レベル4

①このカードが成功した時、手札から聖騎士モンスターを2体まで

特殊召喚する②このカードは自分フィールド上に聖騎士モンスターが3体存在している場合のみ攻撃が可能③1ターンに1度、自分の墓地から聖騎士及び聖剣カードを合計3枚対象して発動可能。そのカード3枚をデッキに加えてシャッフル。その後、自分は1枚ドロウすると聖騎士ボールスを特殊召喚」

聖騎士ボールス

戦士族／効果

攻撃力1700 守備力900 レベル4

①このカードがフィールドにあるかぎり、通常モンスターとして扱う②このカードが聖剣装備魔法を装備している限りこのカードは効果モンスター扱いになり以下の効果を得る●このカードはレベルが1つ上がり闇属性になる●自分のメインフェイズに発動可能。デッキから聖剣カードを3枚相手に見せ相手はそこからランダムに1枚選ぶ。そのカードを加え残りは墓地へ送る。聖騎士ボールスの効果は1ターンに1度しか使えない

聖騎士アルトリウス

戦士族

攻撃力1800 守備力1800 レベル4

聖騎士団に所属する聡明な青年騎士。導かれるかの如く分け入った森の中、ついに運命にたどり着く。そして青年は大きな一歩を踏み出すのだ。これは始まりであり大いなる叙事詩である

キュアマカロン「聖騎士ボールス 聖騎士の三兄弟 聖騎士アルトリウスどれもレベルは4ね」

キュアスカレット「と言うことはエクシーズ召喚って奴ですわね」

キュアシヨコラ「そうだよ」

ジャツカル「我は聖騎士の三兄弟と聖騎士ボールスでオーバーレイ！混沌を切り裂く眩き光 聖なる力 邪悪な闇 今、追いつわん、エクシーズ召喚 聖騎士皇アルトリウス」

聖騎士皇アルトリウス

戦士族／エクシーズ／効果

聖騎士と名のつくレベル4のモンスター×2

このカードがエクシーズ召喚に成功した時、自分の墓地の聖剣と名のつく装備魔法を3種類選択してこのカードに装備する。また、1ターンに1度自分フィールド上の聖剣と名のつく装備魔法の数まで相手のフィールドの魔法 罫カードを破壊する

ジャツカル「さらに、二重召喚を発動、我はもう一度通常召喚を行う、我は聖騎士ベデイヴィエールを召喚」

聖騎士ベデイヴィエール

戦士族／効果

攻撃力1600 守備力1500 レベル4

①このカードが召喚 特殊召喚に成功したときデッキから聖剣カードを1枚墓地へ送る。

②このカードがフィールドに表側表示で存在するときフィールドの聖剣カードとその装備可能なモンスターを選択しその装備魔法を正しい対象に移し変える。この効果は相手ターンでもしよ可能

ジャツカル「まずは、ベデイヴィエールの効果発動、デッキから女神の聖剣エアトスを墓地へ。さらに、2体のモンスターでオーバーレイ 聖なる剣よ、歯向かう邪悪を切り裂くがいい エクシーズ召喚

H C エクスカリバー」

H C エクスカリバー

戦士族／エクシーズ／効果

攻撃力2000 守備力2000 ランク4

戦士族モンスター×2

1ターンに1度、このカードのORUを2つ使い、このカードの攻撃力は次の相手のエンドフェイズまで倍になる

キュアアカスタード「一気にエクシーズモンスターが2体」

キュアアクア「すごい・・・」

ジャツカル「まだまだ、H C エクスカリバーの効果発動ORUを2つ使い、攻撃力を倍にする。エクスカリバーの攻撃力は2000」

キュアマーマイド「その倍って事は」



キュアシヨコラ「攻撃力4000!!」

キュアジェラート「なんだか分からないけど燃えてきたー」

エクスカリバー攻撃力2000↓攻撃力4000

キュアドリーム「さてエクスカリバーとアルトリウスに続くぞ決定」

メツボーグ「メツボーグ」

ジャツカル「くっ、エクスカリバー!!」

キュアルージュ「ちよつと大丈夫?」

キュアフローラ「エフエクトヴェーラーはまだ来ないの?」

ジャツカル「まだ来ねえ、どうすれば・・・」

メツボーグ「メツボーグ」

ジャツカル「仕方ない・・・霸王門零と霸王門無限でペンデュラムスケールをセツティング、ペンデュラム召喚 灼熱の炎を纏え獄炎のカース・オブ・ドラゴン 二色の眼の龍 オッドアイズ・ドラゴン 魔界劇団デビルヒール」

獄炎のカースオブドラゴン

ドラゴン族／効果

攻撃力2000 守備力1500 レベル5

①このカードが召喚 特殊召喚されたときフィールドのフィールド魔法を対象に選択し破壊する。②1ターンに1度自分のメインフェイズに発動可能。融合モンスターカードによって決められたこのカードを含む融合素材モンスターを自分のフィールド上から墓地へ送りそのモンスターをエクストラデッキから特殊召喚する

魔界劇団デビルヒール

悪魔族／ペンデュラム／効果

攻撃力3000 守備力2000 レベル8 スケール1

ペンデュラム効果

1ターンに1度自分フィールド上の魔界劇団モンスター1体リリースし相手モンスター1体を選択して発動可能。そのモンスターの攻撃力はリリースしたモンスターの元々の攻撃力分ダウンする

効果 ①このカードが召喚 特殊召喚されたとき相手の表側表示

モンスターの攻撃力を自分フィールド上の魔界劇団モンスター数×1000ポイントダウンする②このカードが戦闘で破壊したとき自分の墓地の魔界台本魔法カードを自分フィールド上にセットする

オッドアイズドラゴン

ドラゴン族／効果

①このカードが戦闘で相手モンスターを破壊した時、そのモンスターの攻撃力の半分のダメージを与える

キュアスカーレット「まだエフェクトヴェーラーってカードは来てないようですわ」

キュアアクア「それにレベルもバラバラ、エクシーズどころかシンクロも出来ない」

ジャツカル「さてどうするか・・・（これは禁じられた聖杯、これは選択モンスターの攻撃力を500上げ効果を無効にする速攻魔法、エフェクトヴェーラー無くても勝てる）」

メツボーグ「メツボーグ」

キュアミント「プリキュア・ミントシールド」

ジャツカル「悪いな」

キュアミント「大丈夫です、それより、早くエフェクトヴェーラーを」

ジャツカル「その事だが、大丈夫だ」

キュアミント「えっ」

メツボーグ「メツボーグ」

キュアマーマイド「そうは行かない、プリキュア・マーマイドリップル」

キュアスカーレット「プリキュア・フェニックスブレイズ」

キュアミント「分かったわ、私達に任せてください」

ジャツカル「頼む」

キュアマーマイド「ミントまだエフェクトヴェーラーは引けないの？」

キュアミント「ううん、エフェクトヴェーラーは無くても勝てるって」

キュアマカロン「本当？」

キュアミント「ただし準備が必要って言ってた」

キュアシヨコラ「それまで私達でサポートするしかないわね」

キュアルージュ「そうだね」

ジャツカル「まずは、魔界大道具ニゲ馬車を発動」

魔界大道具ニゲ馬車

永続魔法

①このカードが魔法 罨ゾーンにある時、自分の魔界劇団モンスターは1ターンに1度破壊されない②1ターンに1度自分のフィールド上の魔界劇団モンスターを選択する。そのモンスターはエンドフェイズ時まで相手の効果対象にはならない③自分のエクストラデッキに表側表示の魔界劇団ペンデュラムモンスターが存在しセットされたこのカードが効果で破壊されたとき相手フィールドのカードすべてを手札に戻す

キュアカスタード「あのカードで対処出来るんですか？」

ジャツカル「まあ黙って見てな、何でも始まるときってオープンニングがあるだろそれと同じだ。魔法カード 魔界台本オープンニングセレモニー発動」

キュアジェラート「オープンニングセレモニー？」

魔界台本オープンニングセレモニー

魔法カード

オープンニングセレモニーの①②の効果はそれぞれ1ターンに1度しか使用できない①自分フィールド上の魔界劇団モンスターの数×500自分は回復する②自分のエクストラデッキに表側表示の魔界劇団ペンデュラムモンスターが存在しセットされたこのカードが効果で破壊場合発動可能。自分は手札から5枚になるようにドロースる

ジャツカル「これでそろそろ終わりにするか、行け！獄炎のカーズ・

オブ・ドラゴン オッドアイズドラゴン 魔界劇団デビルヒール」

キュアシヨコラ「なんであれじゃ、倒せないし返り討ちに会うだけなのに」

ジャツカル「大丈夫だシヨコラ、言ったよな勝てるって」  
キュアフローラ「でもどうやって?」

ジャツカル「速攻魔法、禁じられた聖杯」

禁じられた聖杯

速攻魔法

フィールド上の表側表示モンスターを1体選択し攻撃力を5000  
上げ効果は無効化される

ミルキイローズ「禁じられた聖杯?」

ジャツカル「禁じられた聖杯は相手モンスターを選択し攻撃力を5  
00上げ効果は無効にする」

キュトウインクル「と言うことは」

キュアマカロン「あいつは攻撃力が上がるけど」

キュアシヨコラ「ナンバーズの効果は受けない」

キュアアクア「これで勝てる」

ジャツカル「これで終わりだ」

メツボーグ「メツボーグ!!」

キュアジェラート「やった、今度こそ」

ジャツカル「偽骸神Heart Heart 義骸神龍Heart

earth Dragon確保そして希望皇ホープも確保」

キュアジェラート「勝ったああああ」

ミルキイローズ「やっと倒せた」

キュアスカレット「凄かったですわね」

キュアカスタード「今日は休みましょう」

キュアレモネード「そうですね、疲れました」

キュアフローラ「さて次も頑張ろう」

相性バラバラゆかりとあきら 希望の剣ホープ降臨

ある日の朝

ゆかり「私の方がジャツカルさんにふさわしいわ」

あきら「ゆかりより私の方がいいと思う」

ゆかり「なんでそう言いきれなのよ」

あきら「だつてゆかりはジャツカルさんの事知らないところもあるじゃない」

ゆかり「どういう事よ」

あきら「私はジャツカルさんと一緒に住んでいるの、それで分かってきたのよ、彼の気持ち」

ゆかり「あつ、それは」

みなみ「どうしたのよ一体」

あおい「どつちがジャツカルさんにふさわしい女かって事でもめてるんですよ」

ひまり「だから、止めたくても止められないんです」

きらら「どうにかならないの?」

かれん「ああいうのは気がすむまでやらせとけばいいのよ」

あおい「もういいわ、分かった私が止めてくる」

ゆかり「だから、ジャツカルさんはあきらとは釣り合わないわ」

あおい「ちよつと二人とも」

ゆかり「どうしたのよ」

あおい「あきらさんにちよつとね、ジャツカルさんについて話があつて」

あきら「話?」

あおい「私知ってるんだけど、あきらさんさジャツカルさんが寝るときキスしてたよね、あれからどうなったんですか?」

ゆかり「あきらそんなことしてたの?」

あきら「し、知らないよそんなこと」

あおい「じゃあ、この写真は何ですか?」

ゆかり「んっ?どれ?・・・あきらこれどういう事?」

あきら「し、仕方無かったんだよ、あまりにもジャツカルさんの寝顔がかわいかったから」

ゆかり「じゃあ、この手は何?」

あきら「それはちよつとしたスキンシップで」

あおい「そう言えばあきらさん、昨夜の10時ごろジャツカルさんと何してたんですか? 変な声を出してましたよね?」

ゆかり「変な声?」

あおい「はい、確かあんつかそこダメとか」

ゆかり「あきら、ジャツカルさんと何をしてたのかしら?」

うらら「それなら私も知ってますよ、昨日の夜トイレから戻ってきたとき、気持ちいいって言っていました」

こまち「なんだか楽しそうね」

りん「本当ね」

きらら「まあいいんじゃない、見てる方も楽しいですし」

トワ「そうですね」

くるみ「そうね、まるでのぞみとりんを見てるようで飽きないわのぞみ「なんでよ、くるみ」

りん「そんなわけない」

あきら「変な誤解してるようだけど、私は、ジャツカルさんにマッサージしてもらってただけなんだけどな、ゆかりやあおいが思ってるのとは違うよ、ジャツカルさんに聞けば分かるよ」

ゆかり「本当かしら?」

あおい「本当はあんなことやこんなことしてたんじゃないんですか?」

ジャツカル「なんだ? 朝っぱらから元気が有り余ってるのはいいが騒がしいぞ」

あおい「ジャツカルさん」

ジャツカル「んっどうした?」

ゆかり「昨日あきらと何してたんですか?」

ジャツカル「何ってマッサージをして上げてただけだが、お前たちもやって欲しかったのか」

あきら「ほら、私のいった通りでしょ」

ジャツカル「何かあったのか？」

あきら「昨夜ジャツカルさんとあんなことやこんなことをしてたつて勘違いされて」

ジャツカル「はあ？」

あおい「だってあきらさん、変な声出てましたし」

ジャツカル「我も予想外だったぞ、あれは、あんなかわいらしい声も出るんだな」

ゆかり「じゃあ、そこはダメってのは」

ジャツカル「ああ、あれはあれだ、腰をやろうとしたらな言われたからな、俺はもういいか？フェニックスの修理があるんだが」

トワ「フェニックスって？」

いちか「ジャツカルさんのDホイールの名前です」

トワ「そう言えばシンクロとかエクシーズとかってなんですか？」  
ひまり「説明しますーシンクロモンスターってのはチューナーモンスターと非チューナーモンスターのレベルの合計をしてその合計のレベルのモンスターが召喚出来るんです、ただし、シンクロとエクシーズには特定の種族や属性のモンスターやシンクロの場合は特定のモンスターを使うこともあります。エクシーズモンスターは同じレベルのモンスターや先ほども言ったように特定の種族や属性のモンスターを最低で2体最高で5体を重ねて召喚する事が出来るんです、注意すべきなのはエクシーズモンスターはレベルではなくランクと言うものを持っているのでレベル関連のカードには引っ掛からないのが特徴です」

いちか「ひまりんすごい」

ゆかり「いつの間にそんな知識をつけたの？」

ひまりん「ジャツカルさんを見てるうちに分かってしまっただけ」

あきら「そうだったんだ」

アロマ「大変、闇の力ロマ」

みなみ「分かったわ、みんないきましょ」

いちか「そう言えばジャツカルさんは？」

アロマ「ちよつと用事があるって行つてどこかへ言ったロマ」  
きらら「しょうがない、私達だけで行きましよう」

トワ「そうですわね」

そして20分後

クローズ「人間どもがさつさと絶望にそまっちまいな」

キュアフローラ「クローズ、そんなことはさせない」

クローズ「プリキュア、来たか、それとなんだてめえら？」

キュアカスタード「私達もプリキュアです」

クローズ「ほう、プリキュアがまだいたとはな、ちよつどいい貴様  
ら全員、ぶつ潰してやるぜ、ゼツボーグ」

撮影器具ゼツボーグ「ゼツボーグ」

キュアドリーム「プリキュア・シューティングスター」

キュアレモネード「プリキュア・レモネードフラッシュ」

撮影器具ゼツボーグ「ゼツボーグ」

キュアジェラート「そうはさせない、これでも食らえ」

撮影器具ゼツボーグ「ゼツボーグ」

キュアジェラート「効いてない」

キュアカスタード「まさか、ナンバーズが？」

ミルキイローズ「ナンバーズの気配は無いわ、あいつはもともと強  
くなつたんじやない」

キュアシヨコラ「それよりジャツカルさんはどこ言ったの、こんな  
一大事の時に」

キュアマカロン「大丈夫よ、彼なら必ず来る」

キュアアキラ「そうよ、それまであいつを引き付けて少しでもダ  
メージを与えないとね」

キュアルージュ「だったら私がプリキュア・ルージュバーニング」

撮影器具ゼツボーグ「ゼツボーグ」

キュアルージュ「くっ、相殺!!」

クローズ「どうした？プリキュアの力はそんなものか？だがプリ  
キュアに止めを刺してやる、まずはお前からだキュアフローラ」

キュアフローラ「えっ、まずい」



その時

ジャツカル「すべてを凍てつかせる悪魔よ、今こそ闇の扉をいざ開かん！シンクロ召喚！氷結のフィッツジェラルド」

氷結のフィッツジェラルド

悪魔族／シンクロ／効果

攻撃力2500 守備力2500 レベル5

闇属性チューナー+チューナー以外の獣族モンスター1体

このカードが攻撃する場合、相手はダメージステップ終了時まで魔法・罫を発動することは出来ない。このカードが戦闘によって破壊された場合、自分フィールド上にモンスターが存在しない場合墓地から表側守備表示で特殊召喚する

ジャツカル「悪い、ちよつと探してたパーツが見つからなくて遅れた」

キュアシヨコラ「ジャツカルさん、遅いです」

ジャツカル「寂しかったか、悪かったな」

キュアマカロン「シヨコラ照れてるじゃない」

キュアシヨコラ「ち、違うわ」

クローズ「なんだてめえ？」

ジャツカル「小僧、口の聞き方には気をつけろ」

クローズ「なんだと？ゼツボーグやっちまいな」

撮影器具ゼツボーグ「ゼツボーグ」

ジャツカル「儀式魔法 高等儀式術発動」

高等儀式術

儀式魔法

手札の儀式モンスター1体を選択し、そのカードとレベルの合計が同じになるように自分のデッキから通常モンスターを墓地に送り選択した儀式モンスターを特殊召喚する

クローズ「何!!」

キュアホイップ「儀式魔法」

ジャツカル「我が選択するのはレベル7ローガーディアン、よつてデッキからレベル4の幻殻竜とレベル4の忍犬ワンダードッグを墓

地に送り祈りの力よ、新たな法の番人を呼び覚まさん、儀式召喚！現れよローガーディアン」

ローガーディアン

戦士族／儀式

攻撃力2050 守備力2500 レベル7

ローの祈りにより降臨。場か手札からレベルの数が7個以上になるように墓地へ送る

キュアスカーレット「シンクロ エクシーズ ペンデュラム 儀式

4つの召喚方を覚えてるなんてすごいですわ」

キュアジェラート「4つじゃない融合を入れた5つよ」

ジャツカル「さらにE・HEROボルテックを召喚」

E・HEROボルテック

雷族／効果

攻撃力1000 守備力1500 レベル4

①このカードが相手に戦闘ダメージを与えたとき、除外されている自分のE・HEROモンスターを特殊召喚する

クローズ「下らんヒーローだとそんなもの潰してやるぜ、ゼツボーグ」

ジャツカル「バカだなお前」

クローズ「なんだと!!」

ジャツカル「速攻魔法マスクチェンジ発動」

マスクチェンジ

速攻魔法

自分のフィールド上のHEROモンスター1体を選択し発動可能。その選択したモンスターを墓地へ送り同じ属性のM・HEROを特殊召喚する

ジャツカル「このカードはHEROを1体選び新たなHEROを生み出す」

クローズ「なんだと!!貴様のフィールドにいるHEROは」

ミルキイローズ「E・HEROボルテックのみ」

ジャツカル「我はE・HEROボルテックを墓地へまばゆき閃光よ、

邪悪な闇を照らし出し悪の力を浄化せよ、変身召喚 来い！M・HERO光牙」

キュアマカロン「融合召喚ってあんなことも出来るのね、フッフ、面白いわ」

クローズ「なんだと!!姿が変わっただと」

キュアトウインクル「それにM・HEROって」

ジャツカル「そして、魔法カード融合発動、我は手札のE・HEROネクロダークマンとD・HEROデイシジョンガイ 暗闇より死を与えし英雄よ 戦場に倒れし事を決意し英雄よ 神秘の渦で一つとなりて新たな英雄を誕生させよ！融合召喚今こそ神を崇拝する英雄V・HEROアドレイション」

V・HEROアドレイション

戦士族／融合／効果

攻撃力2800 守備力2100 レベル8

HEROモンスター×2

①1ターンに1度相手フィールド上のモンスター1体とこのカード以外のHEROモンスターを選択し発動しその相手モンスターの攻撃力・守備力はターン終了時まで選択したモンスターの攻撃力分ダウンする

ジャツカル「アドレイションの効果発動、我は光牙を選択し貴様の攻撃力・守備力を光牙の攻撃力2500ダウン」

キュアシヨコラ「これなら、行ける」

キュアマカロン「シヨコラ待って」

キュアトウインクル「危ないわ」

撮影器具ゼツボーグ「ゼツボーグ」

キュアシヨコラ「まずい、きやああああ」

ジャツカル「馬鹿か、なぜ無闇に行つた、いくら攻撃力が下がつてるとはいえ、危険だぞ」

キュアシヨコラ「だってジャツカルさんだけに危険な事はさせられない、だから、私も戦う」

ジャツカル「シヨコラ」

その時

ジャツカル「これは・・・まさか、ナンバーズがシヨコラが我に對する思いに答えてるのか」

キュアシヨコラ「これは一体」

ジャツカル「シヨコラ、ナンバーズを使え」

キュアシヨコラ「ナンバーズを？」

ジャツカル「ああ」

クローズ「どうしたもう終わりか？」

ジャツカル「我はゴブリンドバーグを召喚、そして手札からマジカル・ゴーストを特殊召喚」

マジカル・ゴースト

アンデット族

攻撃力1300 守備力1400

相手に魔法をかけて恐怖と混乱に陥れ攻撃する

キュアシヨコラ「私はマジカル・ゴーストとゴブリンドバーグでオーバーレイ、白き翼よ、我が思いに答え今こそ、悪を打ち倒せ エクシーズ召喚No. 39 希望皇ホープ」

キュアマカロン「シヨコラが」

キュアレモネード「ナンバーズを」

キュアジェラート「召喚した」

キュアシヨコラ「希望皇ホープ・・・私の思いに答えたナンバーズ」  
No. 39 希望皇ホープ

戦士族／エクシーズ／効果

攻撃力2500 守備力2000 ランク4

レベル4モンスター×2

自分または相手モンスターの攻撃宣言時このカードのORUを1つ使いそのモンスターの攻撃を無効にする。ORUがない状態で攻撃を受けたときこのカードを破壊する

ジャツカル「おかしい、我的手札のカードがまだ反応している・・・

なんだこのカードは？ZW？なんだか分からんが、使ってみるか」

キュアシヨコラ「ジャツカルさん？攻撃を」

ジャツカル「いやまだだ、あと少し準備をする」

キュアシヨコラ「分かりました」

ジャツカル「我はZWイーグルクロウを希望皇ホープに装備」

ZWイーグルクロウ

鳥獣族／効果

攻撃力2000 守備力1200 レベル5

自分のライフが相手より2000以上少ないときこのカードを特殊召喚出来る。自分のメインフェイズに攻撃力2000ポイントアップの装備カード扱いで希望皇ホープと名のついたカードに装備する。またこのカードが装備カードになっている場合1ターンに1度相手がフィールド上で発動した罠カードの効果は無効にする

ジャツカル「イーグルクロウの効果でホープの攻撃力は2000アップする」

希望皇ホープ 攻撃力2500↓4500

ジャツカル「シヨコラ今だ」

キュアシヨコラ「分かった、希望皇ホープで攻撃」

ジャツカル「ホープの効果を発動しろシヨコラ」

キュアシヨコラ「?分かった、ホープの効果発動、このカードのORUを使い攻撃を無効にする」

クローズ「馬鹿か、そんなこととして意味あるのか?」

ジャツカル「意味ならある速攻魔法ダブルアップチャンス」

ダブルアップチャンス

速攻魔法

モンスターへの攻撃が無効になったとき発動可能。攻撃力を倍にして相手にもう一度攻撃する

キュアドリーム「ここで速攻魔法?」

キュアスカレット「でもなんで?」

ジャツカル「ダブルアップチャンスは攻撃が無効になったとき発動可能なカード攻撃力を倍にしてもう一度攻撃する事が出来る」

希望皇ホープ 攻撃力4500↓攻撃力9000

キュアマカロン「攻撃力」

キュアルーージュ「9000」

キュアアクア「すごい……たった1枚であそこまで攻撃力をあげれるなんて」

キュアシヨコラ ジャツカル「希望皇ホープ ホープ剣ネクサス イーグルスラッシュ」

撮影器具ゼツボーグ「ゼツボーグ」

キュアマカロン「思いの力がナンバーズを引き寄せ新しい力を与えた……どうやらジャツカルさんにふさわしいのはあきららの方かもね、ふふふ、これから面白くなりそうね」

ジャツカル「さてと、次の場所に行くか、その前にシヨコラ」

キュアシヨコラ「はい？」

ジャツカル「溜まつてるんだったら言え、俺で良ければ相手するぞ」

キュアシヨコラ「えつとなんの事ですか？」

ジャツカル「あおいからこんなメールが来てたからな」

キュアシヨコラ「!!あ、あおい、この馬鹿」

キュアジェラート「ごめんなさい」

バッドエンドを打ち倒せ 合体せよグレートマグナス

ゆかり「今度はどんなプリキュアに会えるのか楽しみね」

ジャッカル「そうだな、どんな奴に会えるか楽しみだぜ」

トワ「なんか、楽しそうですわ」

あきら「そうだね」

くるみ「なんここには戦闘バカしかいないのよ」

りん「戦闘バカって言うかこの状況を楽しんでるわ」

かれん「というかあの4人にてるわね」

ひまり「そう言えばここは？」

いちか「七色ヶ丘だつて」

こまち「七色ヶ丘つてスマイルプリキュアがいるところよね」

ひまり「と言うことは、スマイルプリキュアに会いに行きましょう」

きらら「ひまりん、でもどこを探すの？」

いちか「そうだよ、ひまりん」

くるみ「こっちはこっちで意気投合してるし」

みなみ「と言うかジャッカルさんどこかに行っちゃったわ」

ひまり「情報収集へ行きました」

トワ「情報収集ですか？」

いちか「ええ、ジャッカルさんはまずは情報収集をする事が必要つ

て言っていました」

きらら「情報収集ねえ」

その頃、ジャッカルは

ジャッカル「まずはこのプリキュアはどこだ？」

星空みゆき「痛い」

日野あかね「ほんまにみゆきはドジやなあ」

黄瀬やよい「いいじゃん、みゆきちゃらしいし」

緑川なお「そうだけどき、プリキュアのリーダーがドジばかりやつ

てて大丈夫なの？」

星空みゆき「うるさいなあ、はっぷつぷー」

青木れいか「でも私達なら大丈夫ですよ」

ジャツカル「(プリキュアだと・・・そうか奴等が) おいお前ら」  
星空みゆき「はい」

ジャツカル「貴様ら、プリキュアか?」

日野あかね「そうやけど、あんた誰や?」

ジャツカル「我が名はジャツカル」

青木れいか「来たこと無いですね」

緑川なお「もしかしてバッドエンドの仲間?」

ジャツカル「バッドエンド?なんの事だ?」

黄瀬やよい「どうやら違うようだよ」

星空みゆき「ねえ信じてみようよ」

青木れいか「そうですねよ簡単に疑っては失礼ですよ、もし違ったら  
どうするんですか?」

その時

ジャツカル「もしもし?あきらかどうした?分かった、今からプリ  
キュアを見つけたから連れて帰る場所は・・・キラキラパティス  
リー・・・ああ、分かった」

星空みゆき「今のあきらかって誰ですか?」

ジャツカル「キラキラプリキュアアラモードのキュアショコラ」

日野あかね「なんや?聞いたことの無いプリキュアやな」

緑川なお「なんか美味しそうな名前」

青木れいか「そう言えばキラキラパティスリーって」

ジャツカル「あきら達がいるスイーツショップ、行くか?」

全員「はい」

そして20分後

ジャツカル「悪いなまたせた」

いちか「気にしないでください」

ひまり「どうでしたか?」

ジャツカル「まあまあだな」

ゆかり「その人達は?」



その時

のぞみ「みゆきちゃん」

星空みゆき「のぞみさん」

ひまり「のぞみさん知り合いですか？」

のぞみ「うん」

のぞみ達説明中及び自己紹介中

ゆかり「じゃあ、貴方達がスマイルプリキュア」

緑川なお「君達がプリキュアアラモード」

ジャツカル「・・・」

はるか「どうしたんですか？」

ジャツカル「この気配、闇の力」

その時

キャンディ「みんなバッドエンド空間クル」

あきら「バッドエンド空間？」

日野あかね「バッドエンド空間はバッドエンド帝国が街の人を強制的に絶望させる空間の事なんや」

星空みゆき「私達スマイルプリキュアに慣れる条件が絶望の力を乗り越える事なんです」

あおい「えつとどういう事？」

ジャツカル「俺で言えばフィールド魔法見たいな物だ」

あおい「そういうことか」

ジャツカル「とにかく行くぞ」

全員「うん」

少女達変身および移動中

アカオーニ「人間どのもつとバッドエナジーを発するオニ」

キュアハッピー「そこまでよ」

アカオーニ「ちようどいいオニ、プリキュア、今日はすごい力が湧いてくる、今ならお前らを倒すチャンスオニ」

キュアサニー「なんやあいつ、いつもと様子がちゃうで」

キュアジェラート「ちよつと私達を忘れないでくれる」

アカオーニ「お前から見たこと無いプリキュアオニ」

キュアピース「それよりどういう事？なんかいつもと力が違う」  
キュアマーチ「プリキュア・マーチシユート」

アカオーニ「無駄オニ」

キュアマーチ「マーチシユートが」

キュアビユーティ「簡単に防がれた」

キュアハッピー「いつもより防御が上がってる」

アカオーニ「これでも食らうオニ」

キュアマーチ「なにあいつ攻撃力も上がってる」

キュアシヨコラ「ジャツカルさん、これつてもしかして」

ジャツカル「間違いねえな、ナンバーズがあいつを強力にしている」

アカオーニ「これで終わりオニ」

キュアミント「プリキュア・ミントリフレクション」

アカオーニ「そんな薄っぺらいバリアで防げると思ったら大間違いオニ」

キュアジェラート「これでも食らえ」

キュアマーマイド「プリキュア・マーマイドリップル」

アカオーニ「邪魔するなオニ」

ジャツカル「仕方ねえ、ナンバーズが関わつてるとすれば我が動くか」

アカオーニ「これで今度こそ終わりオニ」

ジャツカル「気に入らねえな」

アカオーニ「何？」

ジャツカル「お前、今、勝つたと思ってるな、絶対に勝つではなく勝つた、そういう顔をしている」

アカオーニ「貴様、何が言いたいオニ、それになぜバッドエンド空間の中でも平気オニ」

ジャツカル「悪いが絶望は嫌と言うほどしてきたこれ以上は無」  
アカオーニ「そもそもプリキュアではない奴はすっこんでた方が身のためオニ」

ジャツカル「貴様は俺が倒す、所詮は雑魚の遠吠えにしか過ぎない」  
アカオーニ「貴様、プリキュアを倒す前にお前から倒すオニ」

ジャツカル「我に勝てると思ってるのか？我は手札からカラクリ忍者 参参九を召喚」

カラクリ忍者参参九

機械族／効果

攻撃力1200 守備力1200 レベル3

このカードは攻撃可能な場合は必ず攻撃しなければならぬ。フィールドのこのカードが攻撃対象になったとき表示形式を守備表示にする。このカードがリバースしたときフィールド上に存在するモンスター1体を墓地へ送る。このカードは相手プレイヤーに直接攻撃をする

キュアサニー「ちよつ、なんやあれ」

キュアビューティ「さつき忍者って言っていました」

キュアサニー「そう言うことちゃう、うちが言いたいののはアカンベエでは無いのにどこから出てきよったって事が言いたいんや」

キュアカスタード「説明します、あれが彼の戦い方です。彼はデュエルモンスターズを武器にしています、そのなかでも彼は全ての召喚方法、融合 シンクロ エクシーズ ペンデュラム 儀式、融合は特定のカードと融合のカードがあれば出来、シンクロはチューナーと非チューナーを特定の数でレベルの合計のモンスターの召喚、エクシーズは同レベルのモンスターが2体〜5体での召喚、ペンデュラムは特定のスケール例えば2〜6だとすれば3〜5の同時召喚儀式は手札フィールドのモンスターを特定のレベルになるように墓地へ送り召喚が出来ます」

キュアハッピー「えつとどういう事」

キュアビューティ「つまり、簡単に言えばモンスターによって召喚方法が違うって事です」

キュアカスタード「そう言うことです」

キュアサニー「それよりあいつがあそこまで強くなってる理由ってなんやねん」

キュアシヨコラ「多分、あいつにはナンバーズってカードが乗り移ってるんだよ」

キュアマーチ「えっとそのナンバーズって」

キュアマカロン「ナンバーズは人間などの心の闇を増幅させることが出来るカードよ、まあ例外はあるけどそれによってそうなった人間達は暴れ始めるの」

キュアジェラート「まあ、ナンバーズは彼の記憶のカードらしいんだけど」

ジャツカル「さらに二重召喚発動、これでもう一度召喚が可能になる、我はメカニカルスネイルを召喚」

メカニカルスネイル

機械族

攻撃力800 守備力1000 レベル3

機械に改造されたカタツムリ。しかし、スピードはあまり変わらな

い  
キュアスカーレット「これでレベル3のモンスターが2体ですわ」

ジャツカル「我はカラクリ忍者参参九とメカニカルスネイルでオーバレイ2体のモンスターでオーバレイネットワークを構築エクシーズ召喚 戦場に倒れし騎士達の魂よ 今こそ地獄の果てより甦り、邪悪な敵を斬り裂くがいい 現れる、幻影騎士団ブレイクソード」

幻影騎士団ブレイクソード

戦士族／エクシーズ／効果

攻撃力2000 守備力1000 ランク3

レベル3モンスター×2

①1ターンに1度ORUを使い自分もしくは相手のモンスターを選択して、破壊する。②エクシーズ召喚されたこのカードが破壊されたとき自分の墓地の幻影騎士団モンスター2体を対象にしてそのモンスターを特殊召喚する。この効果で特殊召喚されたモンスターはレベルが1上がりこの効果を使用したターン自分は闇属性しか特殊召喚出来ない

キュアマーチ「忍者とカタツムリで、騎士になった？」

キュアトウインクル「あれがエクシーズ召喚よ」

キュアマーチ「て言うかあれお化け!!？」

キュアフローラ「違うわ、あんな姿してるけど戦士族らしいの」  
キュアスカレット「フローラ大変ですわ」

キュアフローラ「どうしたの？」

キュアスカレット「マーメイドが気絶してますわ」

キュアシヨコラ「よしよし、大丈夫」

ジャツカル「お前ら少し静かにせい」

キュアシヨコラ「ごめんなさい」

アカオーニ「よそ見は厳禁オニ」

ジャツカル「まずい、ブレイクソード!!リバーセット、ターンエンド」

アカオーニ「もう終わりオニ?なら決めるオニ」

ジャツカル「罨カード 血の代償」

血の代償

永続罨

500ポイント払いモンスターを召喚する

アカオーニ「これでも食らうオニ」

ジャツカル「手札からシグナルレッドを特殊召喚、お前面白いな気に入った殺すのは最後にしてやる」

キュアマカロン「よし、なんとか交わしたわ」

ジャツカル「我はカラクリ無双八壱八を召喚」

カラクリ無双八壱八

機械族／効果

攻撃力2100 守備力1100 レベル4

このカードは攻撃可能なら攻撃しなければならない。フィールド上に表側表示で存在このカードが攻撃対象になった時守備表示にする。このカードが攻撃した場合バトルフェイズ終了後に守備表示になる

ジャツカル「さらに血の代償の効果で500ライフを払いチューナーモンスター超重武者タマCを召喚」

超重武者タマC

機械族／チューナー／効果

攻撃力100 守備力800 レベル2

タマCの効果は1ターンに1度しか使えない①自分フィールドに超重武者モンスター以外のモンスターが存在せず自分の墓地に魔法罨が存在しない場合、相手フィールド上の表側表示モンスター1体を対象として発動出来る。そのモンスターとこのカードを墓地に送り2体の元々のレベル合計と同じレベルを持つ超重武者シンクロモンスター1体エクストラデッキからシンクロ召喚扱いで特殊召喚する

キュアマーマイド「チューナーって事は」

キュアスカレット「シンクロですわね」

ジャツカル「まだだ、さらに手札から魔法石の採掘を発動」

魔法石の採掘

魔法カード

手札を2枚捨て、墓地の魔法カードを1枚戻す

ジャツカル「手札に戻すのは二重召喚そして発動」

キュアトウインクル「あれは確か、通常召喚をもう一度行える効果」

キュアビューティ「ということは、もう1体何かを出す気ですね」

ジャツカル「カラクリ武者六参壱八を召喚」

キュアハッピー「またカラクリだね」

キュアサニー「せやけど、やったれ」

ジャツカル「我はりバース1セットターンエンド」

キュアシヨコラ「何で？」

キュアマカロン「何かを企んでるわねふふふ、面白いわ」

アカオーニ「全くただのこけおどしオニ、せつかくの攻撃チャンス

も無駄にしたオニ」

ジャツカル「お前、バカだな」

アカオーニ「何？」

ジャツカル「罨カード発動緊急同調」

緊急同調

罨カード

バトルフェイズ中にシンクロ召喚を行う

キュアジェラート「緊急同調?」

キュアカスタード「何ですかあれ」

ジャツカル「緊急同調はバトルフェイズ中にシンクロ召喚出来るカードだ」

アカオーニ「そんなのインキチ効果オニ」

ジャツカル「知るか、そんなの、俺はレベル2超重武者タマCにレベル4カラクリ武者六参壱八そしてレベル4のカラクリ無双八壱八をチューニング」

キュアビューテイ「レベル4と4と2」

キュアハッピー「ということは」

キュアドリーム「レベルの合計は」

キュアドリーム「キュアハッピー」9」

キュアルージュ「キュアサニー」答えは10」

ジャツカル「・・・(ダメだあいつら早くなんとかしないと)正義の

決戦平気よ、全てを撃ち抜け闇を制して光に鉄槌をシンクロ召喚

A・O・Jデイスイシブ・アームズ」

A・O・Jデイスイシブアームズ

機械族／シンクロ／効果

攻撃力3300 守備力3300 レベル10

チューナー＋チューナー以外のモンスター2体以上

相手フィールド上に光属性が表側表示で存在するとき1ターンに1度次の効果から1つ選択して発動する●相手フィールド上にセットされたカードを1枚破壊する●手札を1枚墓地へ送ることで相手フィールド上の魔法 罫カードを全て破壊する●自分の手札を全て捨てて相手の手札を確認して光属性を全て墓地へ送り送った相手のモンスターの合計分のダメージを与える

キュアピース「なんかかっこいいの来たー」

キュアサニー「キュアマーチ」すこぶるどうでもいい」

キュアミント「だけど・・・あいつはナンバーズの力を得ている簡単には勝てないわ」

キュアホイップ「確かに」

ジャツカル「リバーオープン 決別」

アカオーニ「無駄オニ」

ジャツカル「何!! 決別が破壊されただど!!」

アカオーニ「お前も消えるオニ」

ジャツカル「デイサイシブアームズ!!」

キュアサニー「今、何が起こったん」

キュアシヨコラ「厄介だね、多分、魔法 罨 モンスター効果を無効にして破壊したあとさらに破壊能力」

ジャツカル「まさか、あいつに憑依してるナンバーズはNo. 74

No. 80か」

アカオーニ「無駄オニ、今度はこれオニ」

ジャツカル「トークンを大量にまさか、No. 42もか」

アカオーニ「どうしたオニ?」

キュアサニー「まだやで、プリキュア・サニーファイヤー」

キュアルージュ「プリキュア・ルージュバーニング」

ジャツカル「助かった、俺は霸王門零と霸王無限でペンデュラムスケールをセツティング、ペンデュラム召喚我が僕どももよ我に使えよ、フーコーの魔砲石 レッドレイヤー イーグルアイ ブルーレイヤー スネークパーム」

フーコーの魔砲石

魔法使い族／ペンデュラム

攻撃力2200 守備力1200 レベル5 スケール2

ペンデュラム効果①このカードを発動したターンのエンドフェイズにフィールド上の表側表示の魔法 罨カードを1枚選択して破壊する

無幻の空間をさ迷う機械仕掛けの生命体だったはずである。一番の謎は、過去の記憶が殆ど残っていない・事だ。その理由・・・なのか、・・・干渉・・・拒・・・ている？

超量士レッドレイヤー

戦士族／効果

レッドレイヤーの②③の効果は1ターンに1度しか使用できない。



① 自分のフィールド上にモンスターが召喚 特殊召喚されたときこのカードは手札から特殊召喚できる。②このカードが召喚 特殊召喚に成功したとき、自分の墓地の超量カード1枚手札に加える③このカードが墓地に送られたときレッドレイヤー以外の超量モンスターを1体特殊召喚する

イーグルアイ

鳥獣族／効果

攻撃力1300 守備力1200 レベル3

このカードが召喚 特殊召喚に成功したとき罨カードを発動する事は出来ない

超量士ブルーレイヤー

ブルーレイヤーの①②の効果は1ターンに1度しか使用できない。このカードが召喚 特殊召喚に成功したときデッキからブルーレイヤー以外のカードを手札に加える。②このカードが墓地に送られたとき、自分の墓地の超量カードを3枚まで選んでデッキに戻す

スネークパーム

植物族

攻撃力1000 守備力1200 レベル4

多くのヘビが集まり擬態している。近づくとバラバラになり襲いかかる

キュアマカロン「一気に5体同時召喚とは面白いわね」

キュアトウインクル「マジ!!ペンデュラム召喚ってあんなこと出来るの?」

アカオーニ「ますますインキチオニ」

ジャツカル「まずはフーコーの魔砲石とレッドレイヤーでオーバーレイ全てを噛み砕く赤き獅子よ、今こそ高らかに吠えるエクシーズ召喚 マグナライガー、次はブルーレイヤーとイーグルアイでオーバーレイ 深海より爆撃する青きイルカよ、深海より現れる!エクシーズ召喚 グランパルス」

超量機獣マグナライガー

機械族／エクシーズ／効果

攻撃力2600 守備力2000 ランク5  
レベル5モンスター×2

①ORUがないこのモンスターは攻撃出来ない。②1ターンに1度ORUを使いフィールド上のモンスターを破壊する、レッドレイヤーを素材にしてるとき相手のターンでも発動可能③1ターンに1度自分のメインフェイズ時に自分の手札・フィールド上の超量士モンスターを1体このカードのORUにする

超量機獣グランパルス

機械族／エクシース／効果

攻撃力1800 守備力2800 ランク3  
レベル3モンスター×2

①ORUが無いこのカードは攻撃不可②1ターンに1度ORUを使いフィールド上の魔法 罫カードを1枚破壊するブルーレイヤーを素材にしてるとき相手のターンでも発動可能③1ターンに1度自分のメインフェイズ時自分手札・フィールド上の超量士モンスターをORUにする

ジャツカル「そして我は超量士グリーンレイヤーを召喚」

超量士グリーンレイヤー

魔法使い族／効果

攻撃力1600 守備力1400 レベル4

グリーンレイヤーの①②の効果は1ターンに1度しか使えない①このカードが召喚 特殊召喚に成功したとき手札から超量モンスターを1体特殊召喚する。②このカードが墓地へ送られたとき、手札の超量モンスターを墓地へ捨ててデッキから1枚ドロウする  
キュアスカレット「すごい、ペンデュラムからエクシースに見事繋げましたわ」

キュアシヨコラ「ちよつと本気出しすぎだと思う」

キュアマカロン「そりゃあ、ナンバーズがあるって分かった以上はね」

ジャツカル「我はグリーンレイヤーとスネークパームでオーバーレイ、緑の怪鳥よ、雷雲の中より飛来せよエクシース召喚超量機獣エア

ロボロス」

超量機獣エアロボロス

機械族／エクシーズ／効果

攻撃力2200 守備力2400 ランク4

レベル4モンスター×2

①ORUが無いとき攻撃不可②1ターンに1度ORUを使いこのカード以外の表側表示のモンスターを裏側守備表示にする③1ターンに1度自分のメインフェイズ時に自分の手札・フィールド上の超量士モンスターをORUにする

キュアサニー「なんやねん、一気に召喚しよった」

キュアカスタード「当然ですよ、彼、デュエルモンスターの全米チャンプになったことがありますし」

キュアマーチ「全米チャンプって」

キュアマーマイド「すごすぎだわ」

ジャツカル「今度はこれだ、墓地から超量必殺アルファンボールを発動」

超量必殺アルファンボール

魔法カード

①自分のフィールド上に超量士モンスターが3種類以上存在しているとき相手のターン全てデッキに戻しその後相手はエクストラデッキから召喚条件を無視してモンスター1体を特殊召喚する②自分の墓地からこのカード超量妖精アルファンを除外しデッキからマグナキヤリアを発動する

アカオーニ「何がしたいか分からんがそうはさせないオニ」

ジャツカル「アルファンボールとアルファンを除外デッキから超量機艦マグナキヤリアを発動する」

超量機艦マグナキヤリア

フィールド魔法

①手札を1枚捨て自分フィールド上の超量士モンスター1体を対象とし同じ属性の超量機獣エクシーズモンスターを特殊召喚する。  
②フィールドゾーンのこのカードを墓地へ送り自分フィールド上の

超量機獣エクシーズモンスターを3種類を1体ずつ対象にエクストラデッキからグレートマグナスを特殊召喚し対象モンスター全てをORUにする

アカオーニ「そうは行かないオニ」

キュアビューティ「させません、プリキュア・ビューティブリザード」

キュアスカレット「プリキュア・フェニックスブレイズ」

ジャツカル「我はエアロボロス グランパルス マグナライガーでオーバードレイ混沌を切り裂く正義の力よ、邪悪な敵を打ち倒せ エクシーズ召喚！合体せよ超量機神王グレートマグナス」

キュアサニー「もはやロボットやん」

キュアシヨコラ「もう何でもありになってるね」

キュアピース「かっこいい」

キュアカスタード「かっこいいです」

ジャツカル「なんだお前らグレートマグナスのかっこよさが分かるとは勲章ものだな、だがもつとかっこいいのを見せてやる、罨カード発動超量機神剣マグナスレイヤー」

超量機神王グレートマグナス

機獣族／エクシーズ／効果

攻撃力3600 守備力3200 ランク12

レベル12モンスター×3

①このカードのORUの数によって以下の種類の効果を得る●2種類以上1ターンに1度自分 相手のメインフェイズごとにORUを1つ使いフィールドのカードを1枚デッキに戻す●4種類以上このカードは超量以外の効果は受けない●6種類以上相手はカード効果でデッキからカードに加えることは出来ない②このカードが墓地へ送られたとき、自分の墓地から超量機獣エクシーズモンスターを3種類を1体ずつ選んで特殊召喚する

超量機神剣マグナスレイヤー

罨カード

①自分フィールド上の超量モンスター1体を対象に装備カード扱

いで装備する。②装備モンスターは攻撃力がそのモンスターの数×100ポイントアップする、守備モンスターを攻撃した場合守備力を越えてれば貫通ダメージを与える③バトルフェイズに装備されているこのカードを墓地へ送りこのターン1度のバトルフェイズに3回まで攻撃が可能

キュアピース「剣が出たー」

キュアカスタード「かっこいいです」

キュアミント「なんかあつちは意気投合してるわ」

ジャツカル「お前は最後に殺すと約束したな」

アカオーニ「それがどうしたオニ」

ジャツカル「あれは嘘だ、やれ超量機神王グレートマグナス、奴を潰せこの瞬間マグナスレイヤーの効果で攻撃力はランクの数×100アップ、グレートマグナスのランクは12」

キュアマカロン「つまり12×100だから」

キュアアクア「攻撃力は1200アップ」

グレートマグナス攻撃力3600↓攻撃力4800

ジャツカル「これで終わりだ、超量機神剣疾風火炎將軍返し」

アカオーニ「バカな、プリキュアでもない貴様なんかには負けるなんて認めないオニ」

キュアサニー「いくらなんでもすぎやろ」

キュアピース「なんかかっこよかった」

キュアハッピー「ほんとだね」

キュアピース「正直口ボッターよりかっこよかった」

キュアカスタード「特に最後かっこよかったですね」

キュアマカロン「本当に面白かったわ」

キュアシヨコラ「マカロンまで・・・」

## あきらの恋？全てを貪れ悪魔の竜

なお「そう言えば、ジャツカルさんって別次元から来たって聞きましたが」

ジャツカル「ああ、エクシード次元の事か？それがどうかした？」  
なお「そのエクシード次元ってどんなところですか？」

ジャツカル「どんなところってこんなところだ」

れいか「すごく綺麗ですね」

ゆかり「それで、隣に映ってるのは？」

ジャツカル「彼女は黒咲瑠璃、俺がこっちに来る前デュエルしてた相手だ」

あおい「結構かわいいじゃん」

うらら「あおいさんまさか」

あきら「・・・(なんだろうこの気持ちジャツカルさんを見るとドキドキする)」

ゆかり「どうしたの？あきら」

あきら「ゆかりちよつといい？」

ゆかり「何？」

あきら「よく分からないんだけど、ジャツカルさんを見ると胸がドキドキするんだけど」

ゆかり「あきら、ジャツカルさんに恋してるんじゃない」

あきら「私が恋を」

ゆかり「素直に気持ちを伝えたら？」

あきら「でも恥ずかしいよ」

いちか「すみません、話聞いちゃいました」

あきら「気にしないで、ジャツカルさんには言わないで私から言うから」

いちか「分かっています」

あきら「ありがとう、いちかちゃん」

あおい「ふーん、あきらさん、ジャツカルさんの事好きなんだ」

あきら「でもどうすればいいかな直接言うのはやっぱり恥ずかしい

よ

いちか「うーん、あつ、キラつとひらめいた、言葉で言えないなら手紙で言えればいいんじゃないですか、もしあれならプレゼントを送ってそれと一緒に手紙をもって手段もあります」

あきら「ありがとう、いちかちゃん」

いちか「気にしないでください、仲間ですし応援させていただきま

す」

ゆかり「さっそくやってみたら?」

あきら「ゆかりもありがとう」

ジャツカル「あきら、ちよつといいか?」

あきら「えっ、は、はい」

ジャツカル「実はな」

あきら「ご、ごめんなさい、ちよつと用事があるので後ででいいですか?」

ジャツカル「?用事があるなら仕方無いか、じゃあ、後で話すわ、どうしても言いたい事だったんだが」

あきら「ごめんなさい」

ゆかり「なにやってるのよ」

あきら「やつぱりダメだった(なにやってるんだろう私さつき言え

ばよかった)」

そして、その夜

あきら「これで大丈夫かな」

その時、誰かがドアをノックする

あかね「あきらさん、何してるん?」

あきら「あかねさん、何でもないです」

あかね「ふーん、それラブレターやろ、もしかしてあのジャツカルつ

て人の事好きなんか?」

あきら「えっ、はい」

あかね「そんなんやったら当たって砕けろや、あつでも砕けたらあ

かな」

あきら「そうですね」

あかね「でもその気持ち分かるで、それじゃ、もう寝るから、頑張りや、応援しとるで」

あきら「はっ、はい」

そして、次の日

あきら「(今日こそは言わないと、でも言えないし渡せない)ジャツカルさん」

ジャツカル「どうした？」

あきら「きよ、今日はいい天気ですね」

ジャツカル「? そうだな、見れば分かるけど」

あきら「そ、そうですね、あははは」

ジャツカル「? なんかあいつおかしいぞ……この気配、闇の力か」  
そして、20分後

ウルフルン「人間ども絶望しろ」

キュアハッピー「ウルフルン」

キュアサニー「ここから先にはいかせへんで」

キュアカスタード「貴方はここで食い止めます」

ウルフルン「ほう、他にもプリキュアがいたとはな、まあいい、お前達を倒す、出でよ」

ジャツカル「フィールド魔法 紫炎の霞城発動」

紫炎の霞城

フィールド魔法

六武衆と名のついたモンスターを攻撃するとき、攻撃モンスターの攻撃力は500下がる

ウルフルン「なんだこれは!!」

キュアサニー「なんや急に周りが変わり城が出てきおった」

ジャツカル「ターゲット確認リベレートを開始する」

キュアマカロン「ジャツカルさん」

ウルフルン「おのれ、貴様が誰だか知らんが潰す、出でよアカンベエ」

手紙アカンベエ「アカンベエ」

キュアマカロン「あいつあんなことも出来たのね」



キュアハッピー「バッドエンドなら誰でも出来ます」

キュアジェラート「じゃあ、前回のあいつも」

キュアピース「確かに出来るよ」

キュアシヨコラ「何するのよ」

ウルフルン「何?」

キュアシヨコラ「せっかくジャツカルさんのために書いたラブレターに何するのよ、あんただけは許さない」

全員「・・・」

ジャツカル「なあ、今、我のためにラブレターを書いたと言ったのか?」

キュアシヨコラ「・・・あつ・・・(どうしよう、言っちゃった、しかもみんないる前で)」

ウルフルン「下らん、愛など絶望に変えてやるぜ、アカンベエ」

手紙アカンベエ「アカンベエ」

キュアシヨコラ「貴方がどう思おうとかまわさない、だけど私はジャツカルさんが好きだから」

ジャツカル「・・・(あの馬鹿本人がいる前でそれを言うか普通)」

キュアカスタード「ジャツカルさん大丈夫ですか?」

キュアアクア「どう?ジャツカルさんの様子は?」

キュアカスタード「完全にフリーズしてます」

キュアマカロン「そりゃあ、本人がいる前であんなこと言われたらねえ、そうなるわ」

キュアサニー「しかし大胆な告白するで、確かに当たって砕けろつて言ったのはうちやけど」

キュアマーチ「これってどうすればいいのかな?」

キュアビューティ「わ、分かりません」

キュアシヨコラ「仕方ないよ、私だつて」

キュアレモネード「あ、あのシヨコラ」

キュアシヨコラ「何?」

ミルキイローズ「何、暴露してるのよ、完全にジャツカルさんフリーズしてるわよ」

キュアシヨコラ「あつ：（しまった、ついつい頭に来て言っちゃった、ジャツカルさんに嫌われたかな）」

キュアビュートイ「ジャツカルさんしっかりしてください」

ジャツカル「あつ、わ、悪い」

キュアレモネード「大丈夫ですか？」

ジャツカル「だ、大丈夫だ、いきなりあんな感じで暴露されるとは思わなんだ」

キュアトウインクル「誰だっと思わないわよ」

キュアスカーレット「大胆ですわね」

ジャツカル「ま、まあいい、気をとり直して覚悟しろよ、狼野郎」

キュアシヨコラ「ど、どうしよう」

ジャツカル「とにかく仕切り直し、我は六武衆ザンジを召喚さらに真六武衆キザンを特殊召喚」

六武衆ザンジ

戦士族／効果

攻撃力1800 守備力1300 レベル4

自分フィールドに六武衆ザンジ以外の六武衆と名のついたモンスターが存在する限り、このカードが攻撃を行ったモンスターをダメージステップ終了時に破壊する。このカードが破壊される時このカード以外の六武衆と名のついたモンスターを代わりに破壊する事が出来る

真六武衆キザン

戦士族／効果

攻撃力1800 守備力500 レベル4

自分フィールド上に真六武衆キザン以外の六武衆と名のついたモンスターが表側表示する場合、このカードは手札から特殊召喚出来る。自分フィールド上に六武衆と名のついたモンスターが2体以上いるときこのカードの攻撃力 守備力は300アップする

キュアトウインクル「レベル4モンスターが二体来るわね」

ジャツカル「我は六武衆ザンジと真六武衆キザンでオーバーレイ2体の六武衆でオーバーレイ 主を守りし影よ、影武者たる者その使命

を今果たせ、エクシーズ召喚六武衆の影 紫炎」

六武衆の影 紫炎

戦士族／エクシーズ／効果

六武衆と名のついたレベル4のモンスター×2

1ターンに1度、このカードのORUを1つ使い、自分フィールド上の攻撃力2000未満の六武衆と名のついたモンスター1体を選択し発動する事が出来る。選択したモンスターの元々の攻撃力はエンドフェイズ時まで2000になる。この効果は相手のターンでも発動可能

キュアスカーレット「そう言えば、このフィールド魔法ってどんな効果があるんですの?」

ジャツカル「紫炎の霞城は六武衆と名のついたモンスターを攻撃するとき、攻撃モンスターの攻撃力を500下がる」

キュアマーマイド「つまり紫炎も六武衆ってついている、あいつの攻撃力は下がるって訳ね」

ジャツカル「そうだ」

ウルフルン「やれアカンベエ」

手紙アカンベエ「アカンベエ」

ジャツカル「紫炎の霞城の効果発動、六武衆と名のついたモンスターを攻撃するとき、攻撃力をダウン、さらにリバースセットだ」

手紙アカンベエ「アカンベエ」

キュアマーマイド「行くよ、プリキュア・マーマイドリップル」

キュアドリーム「プリキュア・シューティングスター」

ジャツカル「我は星因子シヤムを召喚」

星因子シヤム

戦士族／効果

攻撃力1400 守備力1800 レベル4

星因子シヤムの効果は1ターンに1度しか使えない、①このカードが召喚 反転召喚 特殊召喚に成功した場合に発動可能。相手に1000ダメージを与える

ジャツカル「さらにリバースオープン血の代償、さらに効果発動来

い星因子ペテルギウス」

星因子ペテルギウス

戦士族／効果

攻撃力700 守備力1900 レベル4

星因子ペテルギウスの効果は1ターンに1度しか使えない①このカードが召喚 反転召喚 特殊召喚に成功した場合、星因子ペテルギウス以外の自分の墓地のサテラナイトカード1枚を対象に発動可能。このカードを墓地へ送り対象のカードを手札に加える

キュアマカロン「同レベルのモンスターが2体来るわね」

ジャツカル「いいや、まだまだ我は二重召喚を発動、手札から星因子シリウスを召喚」

星因子シリウス

星因子シリウスの効果は1ターンに1度しか使えない①このカードが召喚 反転召喚 特殊召喚にした場合、自分の墓地のテラナイトモンスター5体を対象に、その5体をデッキに戻してシャツフルする。その後、自分はデッキから1枚ドローする

キュアジェラート「同レベルのモンスターが3体」

キュアフローラ「分からないわ、さっきの六武衆の影紫炎みたいに特定のモンスターって可能性も」

キュアマカロン「それよりシヨコラはどこいったの？」

キュアカスタード「実はシヨコラは精神的にきてた見たいでこの戦いが終わるまで休むって言ってました」

キュアホイップ「そりゃあ、本人がいる前であんなこと言ったらねえ」

ジャツカル「我は星因子シリウス ペテルギウス シヤムでオーバーレイ3体のテラナイトでオーバーレイネットワークを構築 星々の輝きよ、新たな輝きを生み出し星の騎士を生み出さん！来よ星輝士トライブエール」

星輝士トライブエール

戦士族／エクシーズ／効果

攻撃力2100 守備力2500 ランク4

レベル4のテラナイトモンスター×3

このカードをエクシース召喚するターン、自分はテラナイトモンスターしか特殊召喚出来ない。①このカードがエクシース召喚に成功した場合、このカード以外のフィールド上のカードを持ち主の手札に戻す②1ターンに1度ORUを使用し相手の手札をランダムに1枚を選んで墓地へ送る③ORUを持ったこのカードが墓地へ送られた時自分のテラナイトモンスターを1体特殊召喚する

ウルフルン「行けアカンベエ」

ウルフルン「アカンベエ」

ジャツカル「馬鹿な紫炎、トライヴェールを1撃だと」

ウルフルン「どうした？もう終わりか？」

ジャツカル「まだだ、ドロロー・・・これは、来たぜ貴様を倒す、いいカードが」

ウルフルン「何!!」

ジャツカル「決める前に貴様に言いたい事がある」

ウルフルン「なんだ？」

ジャツカル「シヨコラの思いを踏みにじった貴様は最高の滅びを迎えさせてやる、このカードを使つてな」

ウルフルン「やれるもんならやってみな」

ジャツカル「そのつもりだ、その前に、お前ら下がつてな巻き込まれたくなければ」

キュアマカロン「分かったわ、みんな下がるよ」

全員「うん」

ジャツカル「魔法カード融合手札の捕食植物ドロソフィルム・ヒドラと手札のThe supremacy SUNを融合 虫を捕食する植物よ天空に輝く太陽を食らい新たな力を今、見せる融合召喚、現れ出でよ、すべてを捕食する邪悪な四天の竜グリーンディーヴェノムフュージョンドラゴン」

グリーンディーヴェノムフュージョンドラゴン

ドラゴン族／融合／効果

攻撃力3300 守備力2500 レベル10

捕食植物モンスター＋元々のレベルが8以上の闇属性モンスター

このカードは融合召喚でのみエクストラデッキから特殊召喚出来る①1ターンに1度、フィールド上の表側表示モンスターを1体選び発動する。ターン終了時まで効果は無効になり攻撃力が0になる②このカードが破壊され墓地に送られた時フィールド上のモンスターすべてを破壊する。その後、自分の墓地からレベル8以上の闇属性モンスターを除外してこのカードを墓地から特殊召喚する

ウルフルン「なんだこの毒々しい竜は」

キュアカスタード「あれが四天の竜」

キュアサニー「なんて禍々しいんや」

ジャツカル「確かに愛など下らん物だとは思っていた・・・だがなそんなのは単なるまやかしに過ぎなかった、エクシーズ次元へ行きそれが分かった、だからな俺にも分かるシヨコラの気持ちだが、これを侮辱するやつは何人たりとも生きては帰さん、やれグリーディーヴェノムフュージョンドラゴン デス・オブ・グリーディー」

ウルフルン「馬鹿な貴様ごときに負けるなど、あり得ん、ぐあああああ」

キュアサニー「なんやあの竜」

キュアマーチ「ウルフルンを」

キュアフローラ「食べた・・・」

ジャツカル「これで分かったか、シヨコラの痛みが」

そう言うのと全員変身解除する

ジャツカル「あきら、ちよつといいか」

あきら「えつ、はい（多分、私、嫌われたかな）」

ジャツカル「我は誰とも付き合う気は無い・・・」

あきら「そう・・・ですよね」

ジャツカル「だけだよ、お前のその思い伝わったぞ、普段は却下してるがあきらお前の勇氣には負けたよ」

あきら「と言うことは付き合ってくれますか?」

ジャツカル「ああ、俺の完敗だ」

あきら「ありがとうございます」

ジャツカル「そうだ、あと」

あきら「はい」

ジャツカル「全員がいる前であんなこと言わないでくれ、フリーズ  
しちまったじゃねえか」

あきら「ご、ごめんなさい」

ゆかり「よかったわね、あきら」

あきら「ありがとう、みんなが協力してくれたから」

ひまりの思いダブルチューニング　今こそ目覚めよ  
スカーレットノヴァ

ひまり「ジャツカルさん」

ジャツカル「どうした？」

ひまり「聞きたい事あるんですけど」

ジャツカル「なんだ？」

ひまり「私もいちかちやん達みたいにシンクロ召喚かエクシーズ召喚または融合召喚してみたいです」

ジャツカル「確かにいいけど、あいつらにはなにかを守りたいって気持ちがあつたから出来ただけで、無理にすれば体に負担がかかる特に呼びあつてない限りきついぞ」

ひまり「そうですか」

ジャツカル「お前も必ず出来る。なにかを守りたいって思えばいい、自分を信じろ」

ひまり「はい」

いちか「ひまりんいる？」

ひまり「どうしたんですか？」

いちか「砂糖ってどこにあるの？」

ひまり「棚の一番上に」

いちか「でももう無いよ」

ひまり「もうですか？勝ってきます」

いちか「ごめんね、頼んで」

ジャツカル「俺も行くよ、ひまり一人じゃ心配だからな」

いちか「お願いしてもいいですか？」

ジャツカル「ああ、我も買いたいのあるからな」

かれん「最近、敵がナンバーズの影響受けてるからちようどいいんじゃないですか？」

ジャツカル「かれん何が言いたい？」

かれん「いえ、何にも」



ジャツカル「じゃ、行ってくるわ」

ひまり「何かごめんなさい、ついてきてもらって」

ジャツカル「気にすることはない、それよりお前強くなりたいらしいが無理して強くなるな」

ひまり「ですが、強くなれないと守れないじゃないですか」

ジャツカル「確かに強くなれないと守れない、だが無理に強くなるうとすると、自分の身を滅ぼしかねん」

ひまり「？」

ジャツカル「俺も一度、強くなりたいと思ったときがあった・・・だがその結果、我が身を滅ぼそうとしてしまった、そして手に入れたのが破滅になりかねない力だった」

ひまり「それってどういう」

ジャツカル「お前達には話して無かったな、我が何があったかって」  
ひまり「はい」

ジャツカル「まあ、我が全米チャンプになる前はとても弱かった。だけど俺は強くなりたいと思っていた、その結果、決闘竜を生み出してしまった」

ひまり「決闘竜？」

ジャツカル「邪悪な力を持つ11体のドラゴンだそのうちの9体は  
我の元にある」

ひまり「？」

ジャツカル「その決闘竜の名は閃こう竜スターダスト えん魔竜  
レッドデーモン 玄翼竜ブラックフェザー 月華竜ブラックロー  
ズ 妖精竜エンシエント 機械竜パワーツール れん獄竜オーガド  
ラグーン 冥界龍ドラゴネクロ 冥界濁龍ドラゴキユートス魔王龍  
ベエルゼ 魔王超龍ベエルゼウスだ」

ひまり「もし使ってしまった場合はどうなるんですか？」

ジャツカル「それは俺にも分からない、暴走してしまうか闇に飲ま  
れるか」

ひまり「そうなんですか・・・」

ジャツカル「あいつらには言わないでほしい、心配をかけたくない

からなとくにあきらには、あともし我が決闘竜を使って暴走とかを起  
こしたら止めてくれ」

ひまり「分かりました」

ジャツカル「そろそろつくな」

ひまり「勝つてきますね砂糖を」

ジャツカル「ああ、我も終わったら電話する」

ひまり「はい」

ジャツカル「気を付けてな」

そして20分後

ひまり「ジャツカルさんは欲しいのあつたんですか？」

ジャツカル「ああ、あつた」

ひまり「では戻りましょう」

ジャツカル「そうだな」

ひまり「ジャツカルさん」

ジャツカル「どうした？」

ひまり「決闘竜についてですけど」

ジャツカル「どうした？」

ひまり「いえ何でもないです」

ジャツカル「そうか」

ひまり「(もしジャツカルさんが決闘竜を使って締まったら私に止  
められるかな)もし決闘竜を使って暴走してしまったら止められるか  
心配です」

ジャツカル「その時は無理するな」

ひまり「はい」

ジャツカル「この気配・・・敵か」

ひまり「えっ、じゃあ、私も」

ジャツカル「ひまり、お前は皆を呼んでこい、あと冷蔵庫に入れる  
のあるからそれも入れた方がいい」

ひまり「分かりました」

いちか「ひまりん達遅いな」

ゆかり「確かにそうね」

その時

ひまり「皆さん」

きらら「どうしたのひまりん、そんなに急いで」

かれん「ジャツカルさんは？」

ひまり「ジャツカルさんは敵が出たって行って向かいました」

全員「えっ」

ひまり「さきいつててください、私も後から追います」

いちか「分かった」

その頃

ジョーカー「これほど暴れてるのにプリキュアは遅いですね」

ジャツカル「見つけたぞ、今回は貴様か？」

ジョーカー「何ですか貴方は？どうやらプリキュアでは無いようですが」

ジャツカル「あいつらはまだ来ない、それまで我が相手してやるよ」  
ジョーカー「いいでしょう、貴方を倒してプリキュアを誘き出すと  
しましょう」

ジャツカル「やれるものならやってみな」

ジョーカー「いいでしょう」

ジャツカル「まずは小手調べ、我はファイヤーハンドを召喚」

ファイヤーハンド

炎族／効果

攻撃力1600 守備力1000 レベル4

①このカードが相手に破壊されたとき、相手モンスターを破壊して  
デッキからアイスハンドを特殊召喚する

ジョーカー「何ですかそれは？」

ジャツカル「やってみれば分かる」

ジョーカー「そうですね、なら消えなさい」

ジャツカル「ファイヤーハンドが墓地へ行ったときデッキからアイ  
スハンドを特殊召喚」

アイスハンド

水族／効果

攻撃力1400 守備力1600 レベル4

①このカードが相手によって墓地へ送られた時、相手のフィールド上の魔法 罫を1枚破壊する。その後、デッキからファイヤーハンドを特殊召喚する

ジョーカー「新たな腕ですか、まあいいでしょう」

ジャツカル「私のターンドロ、私はプロミネンスハンドを特殊召喚」

プロミネンスハンド

炎族／効果

攻撃力600 守備力2000 レベル4

①自分フィールド上にマジックハンド ファイヤーハンド アイハンドのいずれかがいるときこのカードは手札から特殊召喚出来る

ジャツカル「さらにマジックハンドを召喚」

マジックハンド

魔法使い族／効果

攻撃力800 守備力1600 レベル4

①このカードが表側表示である時1度だけ相手がドロ以外でデッキから手札に加えたとき、そのカードを墓地へ送り800ダメージを与える

ジョーカー「いくら手を並べようと無駄な事を」

ジャツカル「我はプロミネンスハンド アイハンド マジックハンドでオーバーレイ3体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築エクシーズ召喚恐怖なる闇よ、世界を侵略する糧となれエクシーズ召喚！現れよヴェルズ・ウロボロス、リバースセット」

ヴェルズ・ウロボロス

ドラゴン族／エクシーズ／効果

攻撃力2750 守備力1950 ランク4

レベル4 モンスター×3

1ターンに1度ORUを1つ使い以下の効果から1つ選択する。それぞれ1度しか選択出来ない●相手フィールド上に存在するカー

ドを1枚選択し手札に戻す●相手の手札をランダムに1枚選んで墓地へ送る●相手の墓地に存在するカードを1枚選び除外する

キュアマーチ「何あれ!!」

キュアビューティ「どうやらあそこのようですね」

キュアマカロン「ジャツカルさん」

ジャツカル「お前から来たか」

ジョーカー「おやおや、他にもプリキュアがいましたか」

キュアシヨコラ「あいつは・・・」

キュアビューティ「あいつはジョーカーバッドエンド帝国の幹部です」

キュアホイップ「幹部がまた」

ジャツカル「お前達は下がってる、やれヴェルズ・ウロボロス」

ジョーカー「無駄ですよ、仕方ないこれならどうですか？」

バッドエンドハッピー「ようやく私達の出番だね」

バッドエンドサニー「また復活出来るとは思ってたで」

バッドエンドピース「復活されてどんな気持ち？」

バッドエンドマーチ「見せてあげるよあたしの直球勝負」

バッドエンドビューティ「美しくない」

キュアジェラート「何か出てきた」

キュアハッピー「あれはバッドエンドプリキュア」

キュアサニー「うちらをさんざん苦しめた悪のプリキュアや」

バッドエンドハッピー「覚えてくれたんだ嬉しいよハッピー」

キュアホイップ「そうはいかないよ」

バッドエンドハッピー「何あんた？邪魔」

キュアホイップ「きゃああああ」

キュアジェラート「ホイップ」

バッドエンドサニー「行くで、バッドエンドファイヤー」

キュアルージュ「プリキュアルージュバーニング」

バッドエンドサニー「無駄やで」

キュアシヨコラ「そうはいかないよ」

バッドエンドサニー「うちらを甘く見ない方がええでバッドエンド

ファイヤー」

キュアシヨコラ「なっ」

ジャツカル「ちつ、我は手札から除雪機関車ハッスルラッセル特殊召喚」

除雪機関車ハッスルラッセル

機械族／効果

攻撃力2500 守備力3000 レベル10

自分の魔法 罨カードが存在するとき相手モンスターの直接攻撃宣言時にこのカードを手札から特殊召喚する。その後、魔法 罨ゾーンのカードをすべて破壊し破壊したカード数×200のダメージを与える。またこのカードがフィールド上に存在するとき自分は機械族しか特殊召喚出来ない

キュアシヨコラ「助かりましたジャツカルさん」

バッドエンドピース「あははは、大したこと無い」

キュアピース「まだだもん」

キュアトウインクル「プリキュア・ギャラクシーコーラス」

キュアレモネード「プリキュア・レモネードフラッシュ」

バッドエンドピース「あはははは、バッドエンドサンダー」

ジャツカル「させるか、手札から工作列車シグナルレットを特殊召喚」

バッドエンドピース「誰？邪魔するの？」

ジャツカル「我のターンドロー、我はグランエルアイン、召喚」

機皇兵グランエルアイン

機械族／効果

攻撃力1600 守備力1200 レベル4

このカードの攻撃力はこのカード以外の機皇モンスターの数×100ポイントアップする。このカードの召喚に成功したとき相手モンスター1体の攻撃力を半分にする

ジャツカル「さらにデリックレーンを特殊召喚」

重機貸列車デリックレーン

機械族／効果

攻撃力2800 守備力2000 レベル10

デリックレーンの①の効果は1ターンに1度しか使えない①自分フィールド上に機械族・地属性のモンスターが召喚 特殊召喚されたときこのカードを手札から特殊召喚する。この効果で特殊召喚されたときこのカードの攻撃力 守備力は半分になる②ORUのこのカードがエクシーズモンスターの効果を発動するために使用され墓地へ送られた時相手のカードを1枚破壊する

デリックレーン 攻撃力2800↓1400 守備力2000↓1000

バッドエンドマーチ「何するかは知らないけど、やらせないよバッドエンドシユート」

キュアミント「彼の邪魔はさせない、プリキュア・ミントシールド」  
キュアマーチ「プリキュア・マーチシユート」

ジャツカル「我はハッスルラッセルとデリックレーンでオーバーレイ、貧欲なる大蜘蛛よ、すべてを食らいつくす悪魔となれエクシーズ召喚No.35ラベノスタランチュラ」

キュアマーチ「い、嫌ああああ」

ジャツカル「どうした？」

キュアビューティ「マーチは虫が嫌いなんです」

ジャツカル「しかし、これはソリッドビジョン、立体映像だぞ、我慢しろ」

バッドエンドビューティ「どこを見てるのかしら？バッドエンドブリザード」

キュアジェラート「ウオー、そうはいかないよ」

バッドエンドビューティ「何!!」

ジャツカル「いくら我でも6人相手はさすがに無理か（仕方ないこれを使うしか）魔法カード融合、我は牛頭鬼と地獄の門番イルブラッドを融合 冥界に潜みし牛よ、地獄の門を守りし悪意の塊よ、今一つとなりて滅びの龍を今こそ生み出せ融合召喚冥界龍ドラゴネクロ（ひまり、あとは頼んだ）」

冥界龍ドラゴネクロ

ドラゴン族／融合／効果

攻撃力3000 守備力0 レベル8

アンデット族モンスター×2

このカードは融合召喚でのみエクストラデッキから特殊召喚出来る。このカードと戦闘を行うモンスターはその戦闘では破壊されない。またこのモンスターと戦闘を行ったダメージステップ終了時にそのモンスターの攻撃力は0となりそのモンスターの元々のレベル攻撃力を持つダークソウルトークン（アンデット族・闇・レベル?：攻撃力?／守備力0）1体を自分フィールド上に特殊召喚する。冥界龍ドラゴネクロは自分フィールド上に1体しか存在出来ない

キュアカスタード「皆さん遅れてすみません、状況はどうですか?」  
キュアジェラート「今、ジャツカルさんが冥界龍ドラゴネクロって龍を出して優勢だよ」

キュアカスタード「冥界龍ドラゴネクロ!!ジャツカルさん、どうしてドラゴネクロを?」

ジャツカル「キュアカスタードか・・・俺は大丈夫だ」

キュアサニー「どうしたん?あの龍についてなんか知ってるんか」

キュアカスタード「それは・・・」

キュアビューティ「教えてくれませんか、あの龍はいつたい?」

キュアカスタード「それは・・・出来ません」

キュアホイップ「なんで?」

キュアカスタード「ジャツカルさんに言わないでくれって言われて」

キュアレモネード「どういうことですか?」

キュアカスタード「皆さんに心配かけたくないからって言ってます、とくにシヨコラには」

キュアシヨコラ「それってどういう・・・」

キュアマカロン「お願い教えて、そうでなければ私達もどうすることも出来ないの」

キュアカスタード「でも」

キュアシヨコラ「ジャツカルさんには私達が後で謝るから」



キュアカスタード「分かりました、実は・・・あのドラゴネクロつて龍」

少女説明中

キュアシヨコラ「じゃあ、あのドラゴネクロつて龍は決闘竜の1枚で使えば暴走する危険性もしくは闇に飲まれてしまう可能性があるってこと？」

キュアカスタード「はい」

ジャツカル「ドラゴネクロ、奴等を潰せ」

ドラゴネクロ「グオオオオ」

キュアレモネード「じゃあ、どうすれば・・・」

ジャツカル「我は・・・手札から霸王門零と霸王門無限でペンデュラムスケールをセツティング」

バッドエンドハッピー「今さら何をしようって言うの？」

バッドエンドサニー「無駄やで、どうあがいても、絶望しかあらへん」

ジャツカル「それはどうかな・・・これで、我は・・・ぐつレベル1と12のモンスターが同時召喚出来る」

バッドエンドマーチ「ふーん、同時召喚ねえ」

バッドエンドピース「それってズルじゃん」

キュアシヨコラ「まずい、ここは私が」

キュアカスタード「ここは私がやります」

ジャツカル「待て、決闘竜が出ている状態だ、無理だ・・・」

キュアカスタード「私だつて皆を守りたいんです、だから私も皆の力に」

その時、デツキが光出す

キュアカスタード「これは・・・私が貴方達全員倒して見せます」  
ジョーカー「貴方一人で何が出来る？」

キュアカスタード「行きます、ペンデュラム召喚現れてカイザーブラッドヴォルス　ダークリゾネーター　ダブルリゾネーター  
ウエザ」

ウエザ

水族

攻撃力1000 守備力900 レベル3

雨を操る精霊。台風を呼び出し様々なものを吹き飛ばす

ダブルリゾネーター

悪魔族／チューナー／効果

攻撃力0 守備力0

ダブルリゾネーターの②の効果は1ターンに1度しか使用できない。①このカードの召喚 特殊召喚に成功したときフィールド上の表側表示のモンスター1体をチューナーとして扱う。②墓地のこのカードを除外し、自分のフィールド上の悪魔族モンスターを1体をチューナーとして扱う

キュアカスタード「私はレベル5カイザーブラッドヴォルスとレベル3ダークリゾネーターをチューニング、守りし思いを受け継ぎしその力を邪悪なものを焼き払えシンクロ召喚レッドデーモンズドラゴン」

レッドデーモンズドラゴン

ドラゴン族／シンクロ／効果

攻撃力3000 守備力2000 レベル8

このカードが相手フィールド上に存在する守備表示モンスターを攻撃した場合、ダメージ計算後相手フィールド上に存在する守備表示モンスターをすべて破壊する。このエンドフェイズ時にこのターン攻撃してないモンスターをすべて破壊する

バッドエンドピース「そんな竜1体で私達に勝てるわけ？」

キュアカスタード「いえ、まだですダブルリゾネーターの効果発動、私はウエザを選択してチューナー扱いにします、そしてレベル8レッドデーモンズドラゴンにレベル1ダブルリゾネーターとウエザをダブルチューニング思いと力を一つに合わせるとき新たな赤き竜を地底より復活させるシンクロ召喚今こそ目覚めよスカーレッドノヴァドラゴン」

スカーレッドノヴァドラゴン

ドラゴン族／シンクロ／効果

攻撃力3500 守備力3000レベル12  
チューナー2体+レッドデーモンズドラゴン

①このカードの攻撃力は墓地のチューナーモンスターの数×500アツプする②このカードは相手のカード効果では破壊されない③相手のモンスターの攻撃宣言時にその攻撃モンスター1体1体を対象と発動出来る。フィールドのこのカードが除外し、その攻撃を無効にする④このカードの③の効果で除外されたターンのエンドフェイズに発動する。その効果で除外されているこのカードを特殊召喚する

キュアアクア「スカーレットノヴァドラゴン」

キュアマカロン「ダブルチューニング・・・ふふふ、面白いわ」

キュアジェラート「燃えてきたー」

キュアカスタード「ダブルチューニング・・・これが私の力・・・カードが私の思いに答えてくれた」

ジャツカル「よかったな・・・カスタード・・・ぐつ、これが決闘竜」

キュアカスタード「ドラゴネクロ、私に力を」

バッドエンドマーチ「下らない、バッドエンドシユート」

バッドエンドビューティ「バッドエンドブリザード」

キュアカスタード「バトルします、ドラゴネクロで攻撃、ネクロゴンドの波動 改」

バッドエンドビューティ「何!!」

バッドエンドマーチ「そんな馬鹿な」

キュアカスタード「スカーレットノヴァドラゴンで攻撃、殲滅のバーニングフレア」

スカーレットノヴァドラゴン攻撃力3500↓攻撃力4500

バッドエンドピース「なんなのこの攻撃力」

バッドエンドサニー「あかん、こんな耐えられへん」

バッドエンドハッピー「私達より攻撃力を上回るなんて」

ジョーカー「ありえない」

キュアカスタード「説明します、スカーレットノヴァドラゴンの攻

撃力は墓地のチューナーモンスターの数×500上がります、私の墓地のチューナーモンスターはダブルリゾネーターとダークリゾネーターだけ攻撃力は1000アップして攻撃力4500になります」

「ジョーカー」ありえない、ありえない、ぐあああああ

ジャツカル「あいつ決闘竜の1体のドラゴネクロを従えただけでなく最強の地縛神を目覚めさせやがった」

ひまり「ようやく、倒せました、あつ、ジャツカルさんごめんなきい、口止めされてたのに喋ってしまいました」

ジャツカル「仕方ないよ、場合が場合だったから」

ゆかり「すごいじゃない、あなた」

いちか「そうだよひまりん」

かれん「まさか、ここまで成長してたとはね」

ジャツカル「確かにね、お前は・・・よく・・・頑張った」

あきら「ジャツカルさん、どうしたの」

かれん「大丈夫よ、ただ眠ってるだけ」

あかね「多分、疲れたんやな」

れいか「そうですね」

あおい「決闘竜・・・厄介だよね」

あきら「そうだね」

いちか「どうしたのひまりん」

ひまり「バッドエンドプリキュア達を倒したらナンバーズが出てきました」

あおい「ほんとだ」

ひまり「バッドエンドハッピーからはNo. 64古狸三太夫バッドエンドサニーからはNo. 61ヴォルカザウルス バッドエンドピースからはNo. 106巨岩掌ジャイアントハンド バッドエンドマーチからはNo. 54反骨の闘士ライオンハート バッドエンドビューティからは銀河眼の時空竜ジョーカーって奴からはとても多いですNo. 8紋章王ゲノムヘリター No. 13ケインズデビル No. 15強欲のサラメーヤ No. 24竜血鬼ドラギュラス No. 31アベルスデビル nNo. 38希望魁竜タイタニツ

クギヤラクシー N.O. 45滅亡の預言者クランブルロゴス N.O.  
55ゴゴゴゴライアス N.O. 56ゴールドラット N.O. 59背  
反の料理人 N.O. 83ギヤラクシークイーンN.O. 85クレイ  
ジーボックス N.O. 86HCロンゴミアントです」

あきら「こんなに多数のナンバーズにとりつかれてはそれは狂暴性  
も増すね」

ゆかり「そうね」

## 望む思い 混沌の力ホーププレイ

いちか「前回のひまりんすごかったね」

かれん「そうね、ダブルチューニングしちゃうし、何より決闘竜を従えちゃうし」

ひまり「たまたまです」

あかね「でもたまたまなんてすごいやん、やろうと思っても出来へんのやろ」

ゆかり「そうね、それよりあきらは？」

あおい「そう言えばジャツカルさんもないね」

あかね「そう言えば、ジャツカルさんとあきらさんは二人でどこか行っちゃったで」

きらら「つまり、二人だけでデートって事ね」

みなみ「違うと思うわ」

その頃、ジャツカルとあきは

ジャツカル「別に我一人でも大丈夫だぞ、あきら」

あきら「そうですけど、ひまりから決闘竜の事を聞いたらとても心配で」

ジャツカル「心配かけたのは悪かった、だけど我は大丈夫だぞ」

あきら「ですけど・・・」

ジャツカル「(この気配、ナンバーズ)あきら、悪いな、闇の気配を感じた、しかもナンバーズだ、あきら、すぐ戻る、みんなに電話で伝えてくれ、注意しろと」

あきら「分かったわ」

その頃、別の場所では

キュアメロディ「なんなのよ、あのネガトーン何て強さなの」

キュアリズム「以前よりパワーアップしてる」

キュアビート「そんなはずは」

キュアミューズ「でも私達の浄化技が効いてない」

バストラ「これでプリキュアも終わりだな」

バリトン「さっさとヒーリングチェストを渡した方が身のためだ

ぞ」

キュアメロディ「誰が渡すものですか、貴方達に」

フアルセット「ならば、仕方ない、行け！ネガトーン」

ロードローラーネガトーン「ネガトーン」

キュアメロディ「まずい、変身が」

バストラ「これで終わりにしろ」

ジャツカル「鋼鉄の力が全てを守る盾となる シンクロ召喚、守れ

ジャンクガードナー」

ジャンクガードナー

戦士族／シンクロ／効果

攻撃力1400 守備力2600 レベル6

ジャンクシンクロン+チューナー以外の1体以上

1ターンに1度相手フィールド上に存在するモンスターを1体選択し表示形式を変更する。この効果は相手のターンでも使用可能また、このカードが墓地へ送られた時フィールド上のモンスター1の表示形式を変更する

北条響「ここまでなの？あれっ？」

南野奏「何あれ？」

黒川エレン「分からないけど、私達を守ってくれてるみたいよ」

バストラ「おのれ、邪魔するな、ネガトーン」

ロードローラーネガトーン「ネガトーン」

ジャツカル「集いし絆が新たな地平へと誘う、シンクロ召喚、打ち砕けロードウォリアー」

北条響「助かった」

ジャツカル「とにかく退け、お前達では勝てない」

北条響「だけど、腰が抜けて動けないんです」

ジャツカル「だったら乗れ、我が送っていく」

北条響「誰だか分かりませんがありがとうございます」

ジャツカル「仲間のところに向かうがちよっと待ってろ」

南野奏「えっ、はい」

ジャツカル「あきら待たせたな」

あきら「大丈夫です」

北条響「誰ですか？」

あきら「私は剣城あきら キュアシヨコラだよ」

調辺アコ「キュアシヨコラ？聞いたことないわ」

ジャツカル「当たり前だ、新人だからな」

北条響「そうだったの？私は北条響 キュアメロディよ」

南野奏「南野奏 キュアリズムです」

黒川エレン「黒川エレン キュアビートよ」

調辺アコ「調辺アコ キュアミューズよ」

ジャツカル「我はジャツカルただの次元旅行者だ。そう言えば、あきら、異常は無かったか？」

あきら「はい」

北条響「そう言えば、あきらさんって男性なのにプリキュアなんですな」

あきら「うん女の人だよ」

南野奏「このバカ響あきらさんに失礼でしょ、すみません」

あきら「大丈夫、気にしてないよ、よく勘違いされるし」

北条響「あきらさんとジャツカルって仲いいんですね、もしかしてデキてるんですか？」

南野奏「はあ、このバカ響、あんたはなんでプライバシーを考えないのよ、すみません、本当にバカなんですよ」

ジャツカル「別に、事実だし」

北条響「ほらあ、言ったでしょ」

調辺アコ「あんたは少し反省したらどうなの？」

北条響「本当にあんたって生意気」

ジャツカル「なあ、少し黙ってくれないか？」

北条響「ごめんなさい」

その時、爆音が聞こえる

ジャツカル「今のはキラキラパティスリーのところからだ」

あきら「みんな間に合って」

その頃、キラキラパティスリーでは



バストドラ「こんなところにも、プリキュアがいたとはな」  
バリトン「ちようどいい、こいつらを倒し、スイートプリキュアを  
誘き出すのだ」

フアルセット「やれ、ネガトーン」

ロードローラーネガトーン「ネガトーン」

キュアジェラート「なんだよ、あいつ強い」

キュアマカロン「多分、ナンバーズにとりつかれてるわ」

バストドラ「これで終わりだ」

ジャツカル「行け！ロードウオリアー」

バストドラ「また、お前か、邪魔するな」

ジャツカル「ロードウオリアー!! だったらこれはどうだ、ラインモ  
ンスタースピアホイール」

ラインモンスタースピアホイール

獣戦士族／効果

攻撃力500 守備力500 レベル3

1ターンに1度このカード以外の自分フィールド上の獣戦士族を  
1体選択し、選択したモンスターとこのカードはそれぞれのレベルの  
合計したレベルになる

ジャツカル「さらにリバースセットだ」

バストドラ「何を仕掛けたかは知らないが、俺達には勝てないぞ」

キュアアクア「そうはいかない、プリキュア・サファイアアロー」

ジャツカル「罨カード発動、血の代償」

ロードローラーネガトーン「ネガトーン」

ジャツカル「くっ、スピアホイール」

キュアメロディ「プリキュア・ミュージッククロンド」

キュアビート「プリキュア・ハートフルビートロック」

ジャツカル「我は手札からレベル5の超重武者ビッグワラーGの特  
殊召喚」

超重武者ビッグワラーG

機械族／効果

①自分の墓地に魔法 罨カードが無いときこのカードは特殊召喚

出来る。この方法で特殊召喚した場合自分は超重武者モンスターしか特殊召喚出来ない②機械族モンスターをアドバンス召喚する場合このカードは2体分のリリースに出来る

ジャツカル「超重武者グロウーVを召喚」

超重武者グロウーV

機械族／効果

攻撃力100守備力1000レベル3

①自分の墓地に魔法 罫カードが無いときに墓地へ送られた時デッキ5枚確認して好きな順番でデッキの上に戻す。②相手モンスターの直接攻撃宣言時、墓地のこのカードを除外して自分の一番上のカードをめくりそのカードが超重武者モンスターなら手札に加えその攻撃モンスターの攻撃力を0にする。違った場合は墓地へ送る

ジャツカル「さらに血の代償の効果発動ライフを500払い手札からチューナーモンスター超重武者タマーCを召喚」

キュアマカロン「ジャツカルさんのフィールドにチューナーと非チューナーが来た」

キュアシヨコラ「それだけじゃない、タマーCは2」

キュアカスタード「超重武者グロウーVは3」

ミルキイローズ「超重武者ビッグワラーGは5ね」

キュアトウインクル「2と3と5合計は10ね」

ジャツカル「行くぞ、レベル2タマーCにレベル3グロウーVそしてレベル5のビッグワラーGをチューニング」

キュアメロデイ「チューニング？」

キュアリズム「チューニングって音楽用語だよね」

キュアビート「見たところ音楽とは無縁よね」

キュアミューズ「そうね、何をしようと言うのかしら」

キュアスカーレット「見てなさい、今から分かりますわ」

ジャツカル「荒ぶる神よ、美しき者が立つ戦場に今こそ出陣せよ！シンクロ召喚レベル10動かさること山の如し 超重荒神スサノ

ー

超重荒神スサノー

機械族／シンクロ／効果

攻撃力2400 守備力3800 レベル10

機械族チューナー+チューナー以外の超重武者モンスター1体以上

このカードはルール上超重武者としても扱う。①このカードは表守備表示のまま攻撃出来る。その場合守備力を攻撃力として扱う②1ターンに1度、自分の墓地に魔法 罫カードが存在しない場合、相手の墓地の魔法 罫カードを1枚対象としてそのカードをセットする。この効果でセットしたカードはフィールドから離れた場合は除外される、この効果は相手のターンでも発動可能

キュアマーマイド「いきなりレベル10のシンクロモンスター本気ね」

キュアフローラ「しかも守備力3800ね」

キュアサニー「確かに守備力3800やけど守りやから、攻撃出来へんちやうんか」

キュアピース「確かにそうだね」

バストラ「守りじゃ攻撃は出来ないな」

ジャツカル「それはどうかな？」

バストラ「何？」

ジャツカル「超重荒神スサノオで攻撃、クサナギソード・悪・即斬」

キュアルージュ「ちよつと待って、守備なのに攻撃出来るの？」

ジャツカル「超重武者のシンクロモンスターは守備表示でも攻撃が可能だ」

キュアメロディ「えつと、いろいろありすぎて分からなくなってる」

キュアミント「それが彼の戦い方よ」

キュアマーチ「彼はデュエルモンスターズを使って戦うんです」

キュアビート「そうなんだ」

バストラ「おのれ、ネガトーンやれ」

ロードローラーネガトーン「ネガトーン」

ジャツカル「あれはNo. 17 No. 19 No. 22 No.

30 No. 36 No. 44 No. 46 No. 73 No. 78の9体だと) まずい、スサノオ」

キュアリズム「本当になんなのよ、あのネガトーンの強さ」

キュアレモネード「多分、ナンバーズにとりつかれています」

キュアビート「何? そのナンバーズって」

キュアジェラート「ナンバーズは彼の記憶のカードで人間の心の闇を増幅させるんです」

キュアミューズ「なんなのよ、その危険なカードは」

キュアビート「つまり、そのナンバーズってカードがああ、ネガトーンに?」

キュアビューティ「そう言うことです」

キュアハッピー「でもどうするの? スサノオがやられたよ」

キュアアキラ「確かにそうね」

ジャツカル「(どうすれば、奴を) 我のターン(一体どうすれば) 我はジエムタートルを召喚」

ジエムタートル

岩石族/効果

攻撃力0 守備力2000レベル4

リバース デッキからジエムナイトフュージョン1枚を手札に加える

ジャツカル「血の代償の効果発動、手札から牛頭鬼を召喚」

牛頭鬼

アンデット族/効果

攻撃力1700 守備力800 レベル4

牛頭鬼の効果は1ターンに1度しか使用できない①自分のメインフェイズに発動可能。デッキからアンデット族モンスターを1体墓地へ送る②このカードが墓地へ送られた時自分の墓地の牛頭鬼以外のアンデット族モンスターを1体除外して発動可能。手札からアンデット族モンスター1体を特殊召喚する

キュアシヨコラ「おかしい」

キュアメロディ「何が?」

キュアシヨコラ「いつものジャツカルさんとは違うの」  
キュアリズム「どういうこと？」

キュアシヨコラ「いつもなら、ここでいつきに決めるんだけど、今日は違う」

ジャツカル「我はジェムタートルと牛頭鬼でオーバーレイ、我が戦いはここから始める、白き翼に望みを託せ、エクシーズ召喚希望皇ホープ」

バストラ「どうした？最初の余裕は？行け！ネガトーン」

ロードローラーネガトーン「ネガトーン」

ジャツカル「くっ、ホープの効果発動、ムーンバリア」

キュアアクア「一体どうしたんだろう、いつもと確かに違う」

キュアカスタード「どうしたんですか？」

ジャツカル「今のままでは勝てない、奴には」

キュアルージュ「そんな、勝てないってどうするのよ」

ジャツカル「力だ、力をもっと力を」

その時、エクストラデツキが光出す

ジャツカル「エクストラデツキが」

キュアシヨコラ「光ってる」

ジャツカル「このカードは：：：こんなカード入っていなかった：：：まさかこのカードを使えってことか、お前ら、奴を倒す」

キュアメロディ「倒すってさっき倒せないって」

ジャツカル「いや、こっちには切り札がある、それを使う」

キュアシヨコラ「分かった、貴方を信じるわ」

ジャツカル「俺はホープ1体でオーバーレイ」

キュアシヨコラ「ホープ1体でオーバーレイ？」

キュアサニー「エクシーズって同レベルのモンスターが2体以上では無いんか」

ジャツカル「黒き翼、混沌の力を見にまとい、邪悪な闇を切り裂け！エクシーズ召喚！現れ！混沌を希望の光に変える使者！C N O .

39 希望皇ホープレイ」

C N O . 39 希望皇ホープレイ

戦士族／エクシーズ／効果

攻撃力2500守備力2000ランク4

光属性×4

このカードは希望皇ホープの上に重ねてエクシーズ召喚をする。自分のライフが1000以下の場合このカードのORUを1つ使いエンドフェイズ時までこのカードの攻撃力を500ポイントアップさせ相手フィールド上のモンスター1体の攻撃力を1000ポイント下げる

キュアシヨコラ「ホープが進化した？」

キュアマカロン「それにカオスナンバーズって」

バストラ「カオスナンバーズだと!!」

バリトン「どうしますか？バストラ様」

ファルセット「このままではまずいです」

バストラ「おのれ、行け、ネガトーン」

ロードローラーネガトーン「ネガトーン」

ジャツカル「ホープレイの効果発動ORUを2つ使い貴様のネガトーンの攻撃力を1つにつき1000ポイントさげこっちの攻撃力を500あげる」

キュアメロディ「ホープレイの攻撃力は2500」

キュアビート「1つにつき500あげるって事は」

キュアトウインクル「2つだから1000ポイントアップ」

キュアスカレット「それだけじゃありませんわ、相手の攻撃力を1000ポイント下げる能力もありますわ」

キュアマーマイド「つまり、相手は2000下がるってことね」

ホープレイ 攻撃力2500↓攻撃力3500

ジャツカル「これで終わらせる、やれ、ホープレイ、ホープ剣力オスラツシクロニクル」

ロードローラーネガトーン「ネガトーン」

バストラ「くっ、ネガトーンが覚えている」

黒川エレン「助けてくれてありがとうございます」

ジャツカル「気にすることはない、我はただお前たちと協力しろっ

て声に導かれたただけだ」

北条響「そうだったの」

ジャツカル「とにかく飯食いたい」

南野奏「私、スイーツで良ければ作ります」

いちか「私達も手伝います」

## 壊滅！エクシード次元 怨みから生まれたRUM

あきら「あれっ？ジャツカルさんは？」

いちか「いませんけど」

響「そう言えばさつき、私にフェニックスの部品が欲しいからどこへいけばいいのかって聞いてきたよ、フェニックスって不死鳥だよね？その部品ってどういうこと？」

ひまり「説明します、フェニックスって言うのはジャツカルさんのDホイールの名前です」

エレン「Dホイール？」

ひまり「簡単に言えばバイクです」

響「そうだったのね」

その時

あおい「誰かの電話鳴ってるけどいいの？」

いちか「それジャツカルさんの電話です」

ひまり「でないほうがいいと思います」

あきら「すでに出てるよ、あおいが」

あおい「もしもし」

カイト「お前誰だ？」

あおい「私は立神あおいですけど」

カイト「ジャツカルはいるか？」

あおい「いませんけど」

カイト「どこにいるか知らんが、緊急事態だ」

あおい「緊急事態って」

カイト「とにかく、あんたでいい、ジャツカルに伝えておけ、アカデミアが来てエクシード次元が壊滅して準の妹の瑠璃がさらわれたと」

あおい「ちよつと待ってよ、貴方こそ名前をいった方がいいんじゃないの？」

カイト「天城カイトだ」

あおい「分かった、そう伝えておく、でもちよつと待って、どうやっ



て電話を繋げたわけ？」

カイト「時空の歪みで一時的に繋がったものだ」

あおい「ありがとう、伝えておくわ」

あきら「どうしたの？」

あおい「最悪だよ、こんなこと」

いちか「あおちゃん、何かあったの？」

あおい「私達には関係ないけどさ、エクシード次元が減んだって」

ゆかり「あおい、そんな冗談つまらないわ」

あおい「冗談じゃない、エクシード次元が減んで溜璃って子がアカ

デミアって連中にさらわれたってカイトって人から電話があったの」

あきら「でも待って、エクシード次元とこっちでは連絡がとれない

んだよね、どうやって電話してきたの？」

あおい「なんか時空の歪みで一時的に繋がったって言ってた」

ゆかり「そうだったの」

響「一つ聞いていいかな」

ひまり「はい」

エレン「そのエクシード次元って」

ゆかり「エクシード次元はジャツカルさんが旅してた次元の一つ、

ほら、エクシード召喚って使ってたでしょ、あれを使うのよ」

ジャツカル「帰ったぞ・・・どうした？」

あおい「ジャツカルさん」

ジャツカル「どうしたあおい？」

あおい「さつき、天城カイトって人から電話がありました」

ジャツカル「カイトから？だが繋がらないはずだが」

あおい「時空の歪みで一時的に繋がったって言ってました」

ジャツカル「それでカイトはなんか言ってたか？まああいつの事

だ、どうせ遅いとかで文句でもいいにかけたんだろ」

あおい「実は違うんです」

ジャツカル「どうした？言いたいことがあるならちゃんと言ってく

れないと困るんだが」

あおい「それが悪い知らせでもですか」

ジャツカル「まあ聞くだけは聞いてやる、それで何があつた？」

あおい「実は・・・エクシード次元が壊滅したとのことです」

ジャツカル「エクシード次元が・・・壊滅、誰が・・・誰がやった？ 瑠璃達は無事なのか」

ゆかり「あおいの話ではアカデミアって連中がエクシード次元を壊滅させ瑠璃って子をさらっていったって」

ジャツカル「瑠璃がさらわれた・・・俺のせいだ、俺がこっちに来なければ、瑠璃も失わずエクシード次元も壊滅させられる事はなかった」

あかね「なあ、ご飯出来たで」

あおい「今いきます」

奏「スイーツもあるよ」

いちか「ほんとに」

ジャツカル「・・・」

れいか「ジャツカルさんは全然食べてないですが体調が優れないんですか？」

あかね「うちの料理が不味かったとか」

奏「スイーツが余計だったかしら」

あおい「違います、実は彼すごいショック受けてて」

奏「何で？」

エレン「なんか彼が旅してた次元、エクシード次元って次元があるらしいんだけど、エクシード次元がアカデミアって連中に滅ぼされ、あげくの果てに瑠璃って子をアカデミアにさらわれたらしいの」

あかね「内容がちんぷんかんぷんや」

なお「つまり、彼が旅してた次元エクシード次元にアカデミアって敵が瑠璃って子がアカデミアって連中にさらわれたのが自分のせいだって言った」

ピーちゃん（いいこと聞かせてもらった）

ジャツカル「エクシード次元が壊滅した・・・瑠璃がさらわれた・・・なぜだ？なぜ瑠璃が・・・あいつとの決着はまだついてないのに」

あきら「ジャツカルさん」

ジャツカル「あきらかどうした?」

あきら「これは何も知らない私が言うのもなんですけどその瑠璃って娘多分、大丈夫だと思います、そのアカデミアって連中も何か目的があつてさらったんだと思います、その目的が完成するまでは殺さな

いと思います、それにエクシーズ次元にはカイトつて人がいるんですよ?」

ジャツカル「確かに、向こうにはカイトだけじゃない瑠璃の兄、準もいる」

あきら「その二人もデュエルは強いんですね?」

ジャツカル「ああ、確かに強い」

あきら「だったら、安心していいんじゃないですか?」

ジャツカル「あきら、そうだな」

その時

メフィスト「見つけたぞ、プリキュアはどこだ?」

ジャツカル「なんだ貴様?」

メフィスト「俺はメフィスト、さあ、プリキュアはどこだ」

ジャツカル「あきら、響達を呼んでこい、ここは俺が食い止める」

あきら「分かりました」

ジャツカル「貴様はここで食い止める」

メフィスト「なんだ貴様?」

ジャツカル「我はジャツカル、プリキュアの仲間だ」

その頃、あきらは

あきら「はあはあ、早く伝えないと、みんな」

響「どうしたの?」

あきら「どうしたの?」

エレン「メフィストが」

あおい「誰なんですか?そのメフィストつて」

アコ「メフィストは私のパパなんです」

奏「メフィストは一度解放されたはずでは」

いちか「みんな行くよ」

全員「うん」

そして20分後

キュアシヨコラ「あそこ」

ジャツカル「やるじゃねえか、ここまで楽しませるとはな」

ドラグニティナイトトライデント

ドラゴン族／シンクロ／効果

攻撃力2400 守備力1700 レベル7

ドラゴン族チューナー+チューナー以外の鳥獣族1体以上

1ターンに1度自分のフィールド上のカードを3枚選んで墓地へ送り、あいてのエクストラデッキを確認し効果を発動するために送った枚数分だけカードを選んで墓地へ送る

ジャツカル「さらにドラグニティナイトトゲイボルグの効果発動ア  
ルティメットファルコンを除外ゲイボルグの攻撃力を4000アツ  
プする」

ドラグニティナイトトゲイボルグ

ドラゴン族／シンクロ／効果

攻撃力2000 守備力1100 レベル6

ドラゴン族チューナー+チューナー以外の鳥獣族1体以上

このカードが戦闘を行うダメージステップ時に1度だけ自分の墓地の鳥獣族を除外して発動可能。このカードの攻撃力は除外したモ  
ンスターの攻撃力分アップする

ジャツカル「行け、ゲイボルグ トライデント」

メフィスト「無駄だ」

ジャツカル「何!!」

キュアマカロン「ジャツカルさん」

ジャツカル「お前ら」

キュアメロディ「メフィストどうしてこんなことするの?」

メフィスト「ヒーリングチェストを頂くためだ」

キュアメロディ「ヒーリングチェストは渡さない」

メフィスト「いいのか?なら滅ぶのを待つか?エクシーズ次元みた  
いに」

キュアリズム「エクシーズ次元、確かジャツカルさんが言った」  
ジャツカル「エクシーズ次元みたいにと・・・貴様がエクシーズ次元を瑠璃を」

キュアビート「まずいわ、ジャツカルさんが」

キュアミューズ「どうしてパパが」

キュアビューティ「もしかしたらメフィストは勘違いをしてるんじゃないでしょうか？」

キュアメロディ「どういうこと」

キュアジェラート「多分、あいつは私達がエクシーズ次元に関係してるって思ってるようだけど、私達は全く関係は無いよ」

キュアアクア「ジャツカルさん少しは冷静に」

ジャツカル「離せ、奴がエクシーズ次元を滅ぼしたって言うのなら容赦はしない、奴がアカデミアなら奴を潰す」

キュアサニー「一体どうしたんや？」

キュアカスタード「多分、メフィストの勘違いがジャツカルさんを」  
キュアミューズ「待って、あれはパパの勘違いなの、パパはシヨコラ達がエクシーズ次元から来たって思い込んでるの」

ジャツカル「じゃあ、なぜ奴はエクシーズ次元の事を知っている？知らないはずの奴が」

キュアマカロン「私達の話盗み聞きしてたんだと思います」

ジャツカル「離せ、奴を倒し瑠璃の居場所を聞き出す」

キュアビート「待って、あのイヤホンを破壊すれば」

ジャツカル「離せ、我はペンデュラム召喚、出でよ我が僕どもよ」  
キュアホイップ「どうするの、ジャツカルさんが怒りに任せて暴走してる」

ジャツカル「来い聖騎士アルトリウス 聖騎士の三兄弟、我は2体のモンスターでオーバーレイ2体の戦士族でオーバーレイネットワークを構築エクシーズ召喚 輝かしき太古の王よ、その力で国をまとめよ エクシーズ召喚CHキングアーサー」

CHキングアーサー

戦士族／エクシーズ／効果

攻撃力2400 守備力1200 ランク4

戦士族レベル4 モンスター×2

このカードが戦闘によって破壊される場合ORUを1つ使うことができる。この効果でORUが使用された場合このカードの攻撃力を500ポイントアップし、相手に500のダメージを与える

キュアルージュ「どうするの、完全に暴走してるわよ」

キュアマーメイド「多分、メフィストを倒すまで止まらないでしょうね」

メフィスト「また貴様か、用はないのだ」

ジャツカル「黙れ、貴様に用は無くてもこっちにはあるんだよ、貴様がアカデミアの手下なら関係ない見せてやるぞ、我が憎しみを怨みを魔法カードRUMバリアンズフォース発動」

RUMバリアンズフォース

魔法カード

自分のエクシーズモンスターを1体選択し同じ種族でランクが高いCNoまたはCXと名のついたモンスター1体を選択したモンスターの上に重ねて特殊召喚をする。その後相手フィールド上にエクシーズモンスターにORUがある場合相手のORUを自分のエクシーズモンスターのORUにする

ジャツカル「我はCHキングアーサーでオーバーレイ1体のモンスターでオーバーレイネットワークを再構築カオスエクシーズチェンジ太古の王よ、混沌の力で生まれ変わり新たな伝説を作り上げる！来いCX CHレジェンドアーサー」

CX CHレジェンドアーサー

戦士族／エクシーズ／効果

攻撃力3000 守備力2400 ランク5

レベル5のモンスター×3

このカードは1ターンに1度戦闘では破壊されない。またこのカードがCHキングアーサーをORUにしてるとき以下の効果を得る●このカードが戦闘でモンスターを破壊したときこのカードからORUを1つ使い、破壊したモンスターを除外し、その元々の攻撃力

分のダメージを与える

キュアシヨコラ「カオスエクシーズ」

キュアレモネード「何あのモンスター」

キュアマカロン「まるでジャツカルさんの怨みが乗り移ったモンスターね」

キユスカーレット「それだけじゃありませんわ」

キュアトウインクル「あのレジエンドアーサーってモンスターの周りの禍々しいオーラあれはまるでジャツカルさんの怨みが具現化されてるみたい」

ジャツカル「貴様を殲滅する、やれレジエンドアーサー呪刀ムラマサ、碎け散れ炎呪滅殺剣」

メフィスト「ぐあああああ」

キュアミューズ「パパ」

メフィスト「俺は何を、アコ、どうしてここに?」

キュアビート「貴方は何者かによって操られました、多分、ノイズだと思いますが」

ジャツカル「我はCHレジエンドアーサーの効果発動」

キュアメロディ「待って、メフィストは元に戻ったのよ、ノイズに操られてただけなの」

ジャツカル「黙れ、そいつはエクシーズ次元を滅ぼした権化生きて返すわけには行かない」

メフィスト「待ってくれ、エクシーズ次元とはなんの事だ?」

ジャツカル「惚けるな、貴様はアカデミアの手先、そして瑠璃を誘拐した、どこにいる、瑠璃はどこにいる?なぜ?エクシーズ次元を攻撃した?」

メフィスト「俺は本当に知らないエクシーズ次元?アカデミア?なんの話だ、それに瑠璃って娘も知らない」

ジャツカル「黙れ、CHレジエンドアーサーの効果発動、ORUを一つ使い、破壊したモンスターの元々の攻撃力分ダメージを与える、電光一闪 雷神具斬」

キュアミント「プリキュア・ミントリフレクション」

ジャツカル「邪魔をするなキュアミント」

キュアミント「彼は本当に知らないわ」

キュアシヨコラ「もうやめて、貴方はそんなことをする人じゃない、  
お願い怒りを静めて、元の優しいジャツカルさんに戻って」

「そう言つて変身を解除する

あきら「お願い・・・」

ジャツカル「あきら・・・」

キュアメロデイ「それにしても、一体ノイズはなんでこんなことを」  
キュアビート「分からない」

あきら「よかった、戻ってくれて」

ジャツカル「あきら、ごめん、ありがとう怒りを押さえてくれて」

あきら「よしよし、大丈夫、私がついてるから」



## ノイズを倒せ！顕現せよ超銀河眼の時空龍

ジャツカル「我の手で罪の無い奴を殺そうとしてしまった、こんなんじゃない、アカデミアって連中とやってるのが変わらない」

メフィスト「ちよつといいかな？」

ジャツカル「なんだ？」

メフィスト「詳しい事はアコ達から聞いた、俺の誤解が君を怒らせてしまったようだ、本当にすまないと思っっている」

ジャツカル「その事はもういい、我の方こそ関係の無いあんたを娘の前で手にかけてようとしていた、すまない」

メフィスト「いや、もういい、それより君ならこの事を知っていると思っつてね」

ジャツカル「この事？これはなぜあんたがナンバーズを持っている？」

メフィスト「2日前だ、これを持ってからの、記憶が無い」

ジャツカル「それで気づいたのが昨日だったって事か」

メフィスト「やはり君はこのカードについて知っているようだな」

ジャツカル「知ってるも何もそれは俺の記憶の1枚、ナンバーズは他の人間が持てば心の闇を増幅させられ欲望のままに暴れてしまう」

メフィスト「そうだったのか・・・」

ジャツカル「悪いが俺はこれからやる必要がある、もういいか？」

メフィスト「ああ、すまない」

ジャツカル「別にいい」

あきら「ジャツカルさん」

ジャツカル「どうしたあきら」

あきら「私にも手伝わせてください」

ジャツカル「別に構わんが」

あきら「ありがとうございます」

響「あれっ、ジャツカルさん達は？」

ひまり「外で作業しますよ」

響「あっ、そうなの、ありがとう」

あきら「ジャツカルさん」

ジャツカル「あきら」

あきら「どうしました？」

ジャツカル「どうした？先に話せ」

あきら「ジャツカルさんって昨日みたいに暴走してしまった時の記憶ってあるんですか？」

ジャツカル「ああ、残っている」

あきら「そうですね・・・」

ジャツカル「なあ、あきら」

あきら「はい」

ジャツカル「すまなかったな、昨日はあんな姿を見せてしまって」

あきら「大丈夫です、でも初めてでした、ジャツカルさんがあそこまで感情的になったのは」

ジャツカル「すまなかったな、あきら、この戦いが終わったらここを出てく」

あきら「なんでですか？」

ジャツカル「これ以上お前達に迷惑はかけられない」

あきら「嫌です、ジャツカルさん、出ていかないで、また暴走してしまった場合は私が止めますから」

ジャツカル「分かった、お前をおいてどこにも行かないから」

その時

響「あつ、お邪魔でしたか？」

ジャツカル「別に、何か用か？」

響「もうすぐ昼ですので呼びに来たんですけど」

ジャツカル「もうそんな時間か、行こうか、あきら」

あきら「はい」

響「ジャツカルさん」

ジャツカル「なんだ？」

響「あれはバイクですよね」

ジャツカル「あれはDホイールデュエルで使う」

響「そうなんですか」

そして20分後

ジャツカル「さてと、どうするかな」

その時

ノイズ（完全体）「フハハハハ、人間どもよ、俺の前に膝まづけ」

ジャツカル「なんだ今の？」

響「あいつはノイズ」

あきら「ノイズ？」

エレン「あいつは人間の負の感情が具現化したものよ」

ジャツカル「負の感情が具現化（前回のカオスエクシーズと同じものか）、俺が行く、奴を潰しに」

ゆかり「いいえ、私達も行くわ」

かれん「貴方だけに戦わせてられないから」

ひまり「そうです、決闘竜を召喚して暴走したら意味無いじゃないですか」

ジャツカル「分かった、行くぞ」

全員「はい」

メフィスト「待ってくれ、ノイズと戦いに行くなら、ナンバーズが俺が持っていたナンバーズを持っていつてくれ、このカードは君に返した方がいい」

ジャツカル「ああ、すまないな、さてと、行くか」

ノイズ（完全体）「プリキュア出てこい」

ジャツカル「深海に潜む竜よ、今、地上に解き放たれ復活せよ、シンクロ召喚！来い！神海竜ギシルノドン」

神海竜ギシルノドン

海竜族／シンクロ／効果

チューナー＋チューナー以外のレベル3モンスター1体

フィールド上に表側表示で存在するレベル3以下のモンスターが墓地に送られたとき、このカードの攻撃力はエンドフェイズ時まで3000になる

キュアメロディ「プリキュア・ミュージッククロンド」

キュアジェラート「うおおおおお」

ノイズ（完全体）「なんだ貴様ら邪魔だ」

ジャツカル「悪いが貴様の好き勝手にはさせないんだよな」

キュアホイップ「私達プリキュアがいる以上は」

キュアメロディ「貴方の思い通りには行かない」

キュアミューズ「私達でもう一度貴方を倒す」

ノイズ（完全体）「ほうまだプリキュアがいたとはな、面白くなってきた」

ジャツカル「行くぞ、ペンデュラム召喚、来いアマゾネス女王、密林の黒竜王　アーティファクトモラルタ　アーティファクトデスサイズ」

アーティファクトモラルタ

天使族／効果

攻撃力2100　守備力1400　レベル5

このカードは魔法カード扱いとして手札から魔法　罨ゾーンにセットすることが出来る。魔法　罨ゾーンにセットされたこのカードが相手ターン中に破壊された時特殊召喚する。相手ターン中にこのカードが特殊召喚された場合相手フィールド上のカードを1枚選んで破壊する

アーティファクトデスサイズ

天使族／効果

攻撃力2200　守備力900

①このカードは魔法カード扱いとして手札から魔法　罨ゾーンにセット出来る。②魔法　罨ゾーンにセットされたカードが相手のターン中に破壊された時特殊召喚する③相手のターンにこのカードが特殊召喚されたとき。このターン相手はエクストラデッキからモンスターを特殊召喚することができない

アマゾネス女王

戦士族／効果

攻撃力2400　守備力1800　レベル6

このカードがフィールド上に存在するときアマゾネスモンスターは戦闘では破壊されない

## 密林の黒竜王

### ドラゴン族

攻撃力2100 守備力1800 レベル6

密林に生息する漆黒のドラゴン。バリバリと木を食べる

まずはアーティファクトデスサイズとアーティファクトモラルタ  
でオーバーレイ すべてをかみ砕きし悪魔よ三つ首の獣となりて我  
がもとに来よ！エクシーズ召喚！地獄の番犬強欲のサラメーヤ さ  
らに密林の黒竜王とアマゾネス女王でオーバーレイ竜の血を吸う吸  
血鬼よ、その血をエネルギーに変え悪を滅ぼせエクシーズ召喚！現れ  
よ竜血鬼ドラギユラス

### No. 14 強欲のサラメーヤ

#### 獣族／エクシーズ／効果

攻撃力2500 守備力1500 ランク5

レベル5モンスター×2

①このカードがモンスターゾーンに存在する限り、相手の効果で発  
生する自分への効果ダメージは代わりに相手が受ける②このカード  
が戦闘で相手モンスターを破壊した時、このカードのORUを一つ使  
い破壊したモンスターの元々の攻撃力を持つモンスターをすべて破  
壊する

### No. 24 竜血鬼ドラギユラス

#### 幻竜族／エクシーズ／効果

攻撃力2400 守備力2800 ランク6

レベル6モンスター×2

①1ターンに1度このカードのORUを使いエクストラデッキか  
ら特殊召喚された表側表示モンスターを1体裏側守備表示に変える。  
②表側表示のこのモンスターが相手効果でフィールドを離れたとき  
このカードを裏側守備表示で特殊召喚する③このカードがリバース  
されたとき、フィールドのカードを1枚選んで破壊する

### キュアカスタード「一気にナンバーズが」

キュアビート「2体」

ノイズ（完全体）「下らん、消えろ」

ジャツカル「くつ、ナンバース2体が」

キユアミューズ「全滅した」

ジャツカル「まだまだ、今度はこれだ、ペンデュラム召喚現れるEM  
タグ・ダガーマン カイザーブラッドヴォルス 水晶機巧 サル  
ファフナー 真竜騎将ドライアスⅢ世 ゴーストパンピング」

EMタグ・ダガーマン

戦士族／ペンデュラム／効果

攻撃力2000 守備力600 レベル5 スケール2

ペンデュラム効果

EMタグ・ダガーマンのペンデュラム効果は1ターンに1度しか使えない①このカードを発動したターン自分のメインフェイズ時に自分の墓地のEMモンスターを手札に加える

効果

EMタグ・ダガーマンの効果は1ターンに1度しか使えない。①このカードがペンデュラム召喚に成したとき自分のメインフェイズに手札からEMモンスターを墓地へ送り自分はデッキから1枚ドロースする

水晶機巧サルファフナー

機械族／効果

攻撃力2000 守備力1500 レベル5

水晶機巧サルファフナーの①②の効果は1ターンに1度しか使えない。①このカードが手札 墓地び存在する場合水晶機巧サルファフナー以外のクリストロンモンスター手札から捨ててこのカードを守備表示で特殊召喚する。その後自分フィールド上のカードを1枚選んで破壊する。②フィールド上のこのカードが戦闘 効果で破壊されたとき発動可能デッキからクリストロンモンスターを1枚守備表示で特殊召喚する

真竜騎将ドライアスⅢ世

幻竜族／効果

攻撃力2100 守備力2800 レベル6

このカードを表側表示でアドバンス召喚する場合モンスターの代

わりに自分フィールド上の永続魔法 永続罨カードをリリース出来る①アドバンス召喚した表側表示のこのカードがフィールドから離れた場合デッキから真竜モンスターを1体特殊召喚する。②このカードがモンスターゾーンに存在する限り、このカード以外の真竜モンスターは相手の効果対象にならず相手の効果で破壊されない

ゴーストパンピング

アンデット族／効果

攻撃力1800 守備力2000 レベル6

闇くらましの城がフィールド上に存在してる限りこのカードの攻撃力 守備力が1ターン事に100ポイントアップする。この効果は5ターン目まで続く

キュアビート「一気に5体」

キュアメロデイ「同時召喚した」

キュアマカロン「これがペンデュラム召喚の力よ」

キュアシヨコラ「それにレベル5が3体レベル6が2体」

キュアマーマイド「エクシーズ召喚する気ね」

ジャツカル「我は、レベル5EMタグ・ダガーマン カイザーブラッドヴォルス 水晶機巧サルファフナーでオーバーレイ闇を司る偽りの神よ、我がもとに現れよエクシーズ召喚！No. 53偽骸神Heart-earth さらにドライアスⅢ世とゴースト王パンピングでオーバーレイNo. 25重装光撮影機フォークスフォース」

No. 53 偽骸神Heart-earth

悪魔族／エクシーズ／効果

攻撃力100 守備力100 ランク5

レベル5モンスター×3

1ターンに1度攻撃対象に選択されたときこのカードの攻撃力は攻撃対象の攻撃力分アップする。フィールド上のこのカードが破壊されるとき、代わりにこのカードのORUを1つ使う。エクシーズを持つていないこのカードで効果で破壊されるとき、破壊されたとき墓地から偽骸神Heart-earth dragonを1体特殊召喚出来る」

No. 25 重装光撮影機フォークスフォース

機械族／エクシース／効果

攻撃力2800 守備力2400ランク6

レベル6モンスター×2

1ターンに1度ORUを使い相手の効果をターン終了まで無効にする。この効果は相手のターンにも使用可能

キュアシヨコラ「すごい」

キュアメロデイ「一体どうするの?」

ノイズ(完全体)「食らえ」

ジャツカル「フォークスフォース!!だがHeart-earTHはORUを使い破壊されない」

ノイズ(完全体)「どうした?」

ジャツカル「くっ」

ノイズ(完全体)「だったらもう一回だ」

ジャツカル「Heart-earTHの効果発動、私のターン…何も来ん」

ノイズ(完全体)「行くぞ」

ジャツカル「Heart-earTHが」

ノイズ(完全体)「これで終わりだ」

キュアシヨコラ「ジャツカルさんが」

キュアマカロン「負けた!!」

キュアメロデイ「いやまだよ」

キュアカスタード「どういう事ですか?」

キュアビート「ほら彼のフィールド」

キュアスカーレット「新しいナンバーズが出現してますわ」

キュアマーマメイド「一体どうして」

ジャツカル「Heart-earTHの効果発動ORUが無くなったこのカードをORUとしてHeart-earTH-dragonを特殊召喚する」

No. 92 偽骸神龍Heart-earTH dragon

ドラゴン族／エクシース／効果



攻撃力0 守備力0 ランク9  
レベル9 モンスター×2

このカードは戦闘では破壊されず戦闘で発生するダメージは相手が受ける。相手のエンドフェイズ時、ORUを一つ使い相手フィールドに召喚 特殊召喚 セットされたカードをすべて除外する ORUを持つてる状態で破壊されたとき、このカードを墓地から特殊召喚しこのカードの攻撃力はこの効果で除外されているカードの数×1000ポイントになる

キュアレモネード「そんな効果が」

ジャツカル「私のターン、ペンデュラム召喚コスモクイーン 黄昏の忍者將軍ゲツガ」

黄昏の忍者將軍ゲツガ

戦士族／効果

攻撃力2000 守備力3000 レベル8

このカードは忍者モンスターを1体リリースしてアドバンス召喚出来る。ゲツガの効果は1ターンに1度しか発動できない。① このカードが攻撃表示で存在する場合ゲツガ以外の忍者モンスター2体を特殊召喚する

コスモクイーン

魔法使い族

攻撃力2900 守備力2450 レベル8

宇宙に存在する星を統治していると言う女王

キュアサニー「なんや？忍者なのに將軍なんか？」

俺は2体のモンスターでオーバーレイ 銀河より受け継ぎし竜よ、今こそ時空を越え新たな力を生み出さん エクシーズ召喚！銀河眼の時空竜」

No.107 銀河眼の時空竜

ドラゴン族／エクシーズ／効果

レベル8 モンスター×2

自分のバトルフェイズ開始時に1度、このカードのORUを使いこのカード以外の効果は無効化され表側表示のモンスターすべて、その

攻撃力 守備力は元々の数値となる。この効果を適用したターン相手がカード効果を使用するたびにこのカードの攻撃力は1000上がり1度のバトルフェイズに2回攻撃する

キュアピース「なんかかっこいいドラゴン来たー、しかも変形もかっこいい」

キュアジェラート「いくらなんでもかっこよすぎ」

ミルキイローズ「ギヤラクシーアイズタキオンドラゴン、厄介な能力持ってるわね」

ノイズ（完全体）「今さらそんな竜を出しても無駄だ」

キュアリズム「プリキュア・ミュージッククロンド」

キュアビート「ハートフルビートロック」

ノイズ（完全体）「無駄だ」

キュアビート「まずい、ハートフルビートロックがタキオンドラゴンに」

ジャツカル「タキオンドラゴン!!」

キュアビート「ごめんなさい、ジャツカルさん」

ジャツカル「気にするな、まだ方法はある」

キュアメロディ「待って、Heart-earTH dragonの様子か」

ジャツカル「何!!Heart-earTH dragonが」

キュアショコラ「破壊された!？」

ノイズ（完全体）「どうした?もう終わりか」

キュアトウインクル「ジャツカルさん、あいつナンバーズにとりつかれています、番号は69です」

ジャツカル「ナンバーズ69だと!!クソッだからHeart-earTH dragonの効果が無効化させられたのか」

キュアマカロン「本当にあるんですよね、逆転する方法」

ジャツカル「ああ、まだある(そうあのカードが引ければ)我のターンドロー!!来たぜ、この時を、そして逆転の時を」

ノイズ（完全体）「逆転?バカか、貴様に逆転する手段は無い」

ジャツカル「いや、このカードが勝利の鍵だ、我はRUM七皇の剣

をシヨコラお前に見せ発動」

RUM七皇の剣

魔法カード

自分のドローフエイズ時に通常ドロートしたときこのカードを公開し続ける事で、メインフェイズ1に発動する。CNo以外のNo・101～107を持つモンスターをエクストラデッキもしくは墓地から特殊召喚してCNoにランクアップさせる。七皇の剣はデュエル中に1度しか使えない

キュアシヨコラ「何で私？」

キュアマカロン「いいんじゃない？ジャツカルさんの恋人だもんね」

キュアシヨコラ「ば、バカ、言うな」

ノイズ（完全体）「ザ・セブンス・ワンだと？そんなもので何が出来る？それに貴様のフィールドにはランクアップできるものがない」

キュアアクア「確かにそうね」

キュアミューズ「今さらRUMなんてなんの意味が？」

ジャツカル「ノイズ、策士策に溺れたな」

ノイズ（完全体）「負け惜しみか、くだらん」

ジャツカル「負け惜しみでは無い七皇の剣はエクストラデッキもしくは墓地から101～107のモンスターを特殊召喚しランクアップさせる」

ノイズ（完全体）「なんだと!!」

ジャツカル「貴様がハートフルビートロックを跳ね返しタキオンドラゴンを墓地に送ってくれたから発動条件は満たされたんだよ、タキオンドラゴンでオーバーレイカオスエクシーズチェンジ、逆巻く銀河を貫き時間を空間を支配し新たな竜へと生まれ変われエクシーズ召喚！今こそ我らに勝利をもたらせ顕現せよ超銀河眼の時空竜」

CNo107超銀河眼の時空竜

ドラゴン族／エクシーズ／効果

攻撃力4500 守備力3000 ランク9

レベル9モンスター×3

1ターンに1度ORUを使いこのカード以外の表側表示のカードの効果は無効になり相手はフィールド上の効果は使用できない。またNo.107銀河眼の時空竜をORUにしているとき以下の効果を得る。●自分フィールド上のモンスターを2体リリースしてこのカードは1度のバトルフェイズに3回まで攻撃出来る

ジャツカル「ネオタキオンの効果発動、ORUを1つ使いすべての効果を無効にする、タイムタイラント」

ノイズ（完全体）「なんだと!!」

やよい「キン○ギドラ来たー」

あかね「それは別や」

りん「それよりなんで私達の変身解けてるの?」

ジャツカル「知らんがフィールドすべてだからお前らまで含まれてしまったんだろ」

あきら「そうなんだ」

ジャツカル「これで終わりだノイズ、ネオタキオンで攻撃、滅殺のタキオンストライクバースト」

ノイズ（完全体）「バカな、この俺が」

ゆかり「やったわ」

あきら「ジャツカルさん」

ジャツカル「みんなお疲れさん、帰ってパーティーだ、俺の奢りで」  
全員「やったー」

その頃、別のところでは

キュアマジカル「はあはあ、なんなのあいつ」

キュアマミラクル「つ、強すぎる」

キュアフエリーチェ「ダメージが私達にも来る」

スバルダ「どうしたんだい?プリキュア?もう終わりかい」

キュアマミラクル「いったん退こうよ」

キュアマジカル「キュアフエリーチェ「うん」

## 新しい召喚法 リンク召喚 魔法界での激闘

響「おかしいな、どこへ行ったんだらう」

奏「どうしたの？」

響「ジャツカルさんがどこいったか知らない？」

ひまり「ジャツカルさんはあきらさんと一緒にDホイールで出掛けましたよ」

ゆかり「つまり、あきらとデートつて事ね、ふふふ」

いちか（ゆかりさんが何かをたくらんでる）

その頃、ジャツカルとあきらは

ジャツカル「悪いな私の買い物に付き合ってもらって」

あきら「大丈夫ですよ」

ジャツカル「しかし、ここはどこなんだろうな？」

あきら「そうですね」

ジャツカル「周りは手品？してるようだが」

その時

トツド「あれは、手品じゃないよ、魔法さ」

ジャツカル「魔法？」

トツド「そう、ここは魔法商店街だからね」

あきら「魔法商店街ですか」

トツド「ここでは魔法を使っているんだ」

ジャツカル「ふーん、魔法をねえ、一つ聞いていいか？」

トツド「どうしたんだい？」

ジャツカル「ここはどこだ？」

トツド「ここは魔法界さ」

ジャツカル「魔法界ねえ」

トツド「それより、お兄さん達男二人でどこへ行く気だったのか？」

あきら「私、女性ですから」

トツド「すまんすまん、男性に見えたから」

あきら「気にしないでください、間違われるのはいつもなので」

その時、爆音が聞こえた

ジャツカル「なんだ今のは？」

トツド「多分、闇の魔法使いが暴れてるんだよ、伝説の魔法使いプリキュアが倒してくれるはずなんだけど」

ジャツカル「場所はどこだ？」

トツド「多分、この角を曲がったところだと思うが」

ジャツカル「そっか、行くぞ、あきら」

トツド「待ちな、さすがに危ないよ」

ジャツカル「大丈夫だ、あきらはプリキュアだし我は戦えるし」

トツド「君もプリキュアだったのか？」

あきら「はい」

ジャツカル「さてと、行くか」

その頃、別の場所では

スパルダ「どうしたんだい、プリキュアたいしたことないね」

朝比奈みらい「なんなのあいつ以前より強くなってる」

十六夜リコ「嘘でしょ、そんなことあり得ない」

花海ことは「でも私達の魔法が通用するけどダメージを食らってしまおう」

スパルダ「これで終わりだね、プリキュア」

その時

ジャツカル「虚空より生まれし伝説の魔法使いよ、今こそ伝説の魔法を解き放てエクシーズ召喚現れよ、虚空の黒魔導師 美しき女帝よ、神聖なる力で嫉妬の炎を今、燃やせ エクシーズ召喚魔導皇聖トリス」

虚空の黒魔導師

魔法使い族／エクシーズ／効果

攻撃力2300 守備力2800 ランク7

魔法使い族レベル7モンスター×2

ORUを持ったこのカードがフィールド上に存在する限り自分は相手のターンに速攻魔法カード 罨カードを手札から発動できる。その際にORUを1つ使う。このカードが相手の戦闘または効果で破壊された時手札・デッキから魔法使い族・闇属性モンスター1体を

特殊召喚しその後フィールド上のカードを1枚破壊する

魔導皇聖トリス

魔法使い族／エクシーズ／効果

攻撃力2000 守備力1700 ランク5

魔法使い族レベル5モンスター×2

このカードの攻撃力は自分フィールド上のORUの数×300アップする。また1ターンに1度このカードのORUを使い自分のデッキをシャッフルしてその後デッキの上から5枚めくりその中の魔導書とついた数だけフィールド上のモンスターを破壊する。その後めくったカードを好きな順番でデッキの上に戻す

十六夜リコ「えっ、何？」

花海ことは「魔法使い？」

朝比奈みらい「でもあんな魔法使いは見たことないよ」

ジャツカル「お前ら大丈夫か？」

朝比奈みらい「はい」

ジャツカル「姉ちゃんよお、遊んで欲しければ我が遊んでやるよ」

スバルダ「貴様」

ジャツカル「そうだ、姉ちゃんにプレゼントがあつたんだ」

スバルダ「プレゼントだと？」

ジャツカル「ああ、エメラルドしかないがいいか？」

スバルダ「エメラルドだと」

十六夜リコ「嘘!!あの人エメラルド持ってるの?」

キュアシヨコラ「持つてるよ、でも君達が思ってるのとは違うけどね」

ジャツカル「来い!ジエムナイトエメラル」

ジエムナイトエメラル

岩石族／効果

攻撃力1800 守備力800 レベル4

①自分のフィールド上の通常モンスターとこのカードを除外し、自分の墓地のジエムナイト融合モンスターを特殊召喚する

ジャツカル「さてと、あとは奴を倒すか」

朝比奈みらい「待ってください」

ジャツカル「なんだ？」

花海ことは「私達の攻撃力を奪って自分の攻撃力に変えてるんです」

ジャツカル「(だとしたら、ナンバーズか、しかも面倒な奴が乗り移ってるな)とにかく退くぞ、シヨコラ」

キュアシヨコラ「退くって事はあいつもナンバーズに」

ジャツカル「ああ、とてつもなく面倒な奴らだ、姉ちゃん、今日のところは退いてやる、それと我の大事なものを預けておくぞ」

スパルダ「逃げたか」

十六夜リコ「なんで逃げるのよ」

花海ことは「それにナンバーズって？」

ジャツカル「ナンバーズは私の記憶の一枚であり人間の心の闇を増幅させることができる」

あきら「でもいつもと同じなら逃げる必要は」

ジャツカル「無理だ、奴に憑依してたナンバーズは最も面倒で厄介なナンバーズだ」

あきら「そんなに厄介何ですか？」

ジャツカル「ああ、奴に憑依してたナンバーズは、No. 96ブラックミストだ、ブラックミストは相手のモンスターの攻撃力を半分に自分の攻撃力に変換する効果だ」

あきら「また面倒な効果だね」

ジャツカル「ああ、ついたぞキラキラパティスリーだ」

モフルン「甘い臭いがするモフ」

ジャツカル「そう言えば、名前聞いていいか」

朝比奈みらい「朝比奈みらいです」

十六夜リコ「十六夜リコよ」

花海ことは「花海ことはです」

ジャツカル「我はジャツカルだ、この子が剣城あきら キュアシヨコラだ、帰ったぞ」

響「ジャツカルさん、遅かったですね」



ジャツカル「ああ、ナンバーズを持つてた敵と遭遇してな」

響「じゃあ、なんで戻ってきたんですか？」

あきら「どうやら今回は厄介な効果を持ったナンバーズらしくてね、危険なんだって」

ゆかり「つまり、普通とは違うってこと？」

ジャツカル「ああ、さすがの我也面倒な効果と思わなかったぜ、敵だとな」

あきら「だけど、ジャツカルさんにごここまで言わせるって言うのは相当よ」

ひまり「そこまで厄介な奴もいるんですか？」

ジャツカル「ああNo. 96ブラックミストは攻撃力1000だ」

きらら「はあ？たかが攻撃力1000？そんな奴に戻ってきたんですか？」

ひまり「きららさん、攻撃力で判断しては行けません」

こまち「そうね、人も見た目と内面は違うって言うように、多分、そのコート・オブ・アームズはともかくブラックミストってナンバーズも攻撃力で判断すると痛い目を見るってことよ」

ジャツカル「確かにこまちの言う通りだ、ブラックミストは攻撃力の半分を吸収する」

朝比奈みらい「そんな強力なモンスターなんてどう倒すんですか？」

ジャツカル「倒す方法はある」

奏「でもどうやって」

ジャツカル「効果を無効化させる」

エレン「効果無効、確かに有効ね」

ジャツカル「今回、使うナンバーズはNo. 8紋章王ゲノムヘリター」

れいか「紋章王ゲノムヘリターって確か、ジョーカーから回収したナンバーズですよね？」

ジャツカル「それとNo. 81超弩級砲塔列車スペリオルドーラ」  
アコ「スペリオルドーラってパパがジャツカルさんに渡したナン

バース」

ジャツカル「そうだ、その二つを使えばうまく行く可能性がある」  
その時「敵だ」

朝比奈みらい「まさか、スバルダが」

ジャツカル「あと1つ妙な気配を感じる」

十六夜リコ「もしかしたらヨクバールまで」

ジャツカル「仕方ない行くか」

そして20分後

スバルダ「さつさと出てきなよ、プリキュアどもよ」

ジャツカル「姉ちゃん、貴様に預けた私の大事なものを返しにもらいに来たぜ」

スバルダ「また貴様か、魔法入りました！出でよヨクバール」

ネコの毛+バイクヨクバール「ヨクバール」

ジャツカル「我に特殊召喚で挑むとは愚かなそれにバイクで挑もう

とはいいだろう」

スバルダ「やっちまいな、ヨクバール」

ネコの毛+バイクヨクバール「ヨクバール」

ジャツカル「我は手札からジェムナイトサファイアを召喚」

ジェムナイトサファイア

水族

攻撃力0 守備力2100 レベル4

サファイアのパワーで水を自由自在に操り、敵からの攻撃を優しく包み込んでしまう。その静かなる守りは仲間からも信頼されているらしい

キュアミラクル「ジェムナイトサファイアって事はサファイアね」

ジャツカル「さらに二重召喚来いジェムナイトアレキサンド」

ジェムナイトアレキサンド

岩石族／効果

攻撃力1800 守備力1200 レベル4

このカードをリリースすることでデッキからジェムナイトと名のついた通常モンスターを1体特殊召喚する

キュアマジカル「今度はアレキサンドライトね」

ジャツカル「我は2体のモンスターでオーバーレイ、漆黒の闇より聞こえし羽音よ、邪悪な闇を打ち消すがいい現れよ、インヴェルズローチ」

インヴェルズローチ

悪魔族／エクシース／効果

攻撃力1900 守備力0 ランク4

レベル4モンスター×2

このカードのORUを一つ使いレベル5以上のモンスターの特殊召喚を無効にする

キュアルージュ「何あれ？ゴキブリ？」

ジャツカル「そうだローチだからゴキブリだろ」

全員「・・・」

ネコの毛＋バイクヨクバール「ヨクバール」

ジャツカル「ちっ」

キュアカスタード「あなたの相手はこっちです」

ネコの毛＋バイクヨクバール「ヨクバール」

キュアレモネード「プリキュア・プリズムチェーン」

キュアカスタード「はああああ」

ジャツカル「我は霸王門零と霸王門無限でペンデュラムスケールをセッティング、ペンデュラム召喚来よ紋章獣ベルナースファルコン紋章獣ツインヘッドイーグル」

キュアアクア「よし、ペンデュラム召喚決まった」

キュアミラクル「すごすぎるよ、ねっ、マジカル」

キュアマジカル「べ、別にすごくないし」

キュアフエリーチェ「認めたほうがいいんじゃない？」

キュアマジカル「・・・」

ジャツカル「現れよ、ナイトエクスプレスナイト、さらに来いデリックレーン」

キュアドリーム「やるじゃん」

ジャツカル「我は2体のモンスターでオーバーレイ、大地を揺るがす地響きよ、今こそ敵地に出撃せよ、No. 81超弩級砲塔列車スペリオルドーラさらにベルナーズファルコンとツインヘッドイーグルでオーバーレイ運命を決めし紋章を相手のすべてを奪いされ、来いNo. 8紋章王ゲノムヘリター」

No. 8ゲノムヘリター

サイキツク族／エクシーズ／効果

紋章獣と名のついたレベル4モンスター×2

1ターンに1度相手のエクシーズモンスターを1体せんたくし同名カードとなり同じ攻撃力と効果を得る、その後選択したモンスターの攻撃力は0になるこのカードの効果はエンドフェイズ時まで適用される

No. 81超弩級砲塔列車スペリオルドーラ

機械族／エクシーズ／効果

攻撃力3200 守備力4000 ランク10

レベル10のモンスター×2

①1ターンに1度ORUを使いフィールド上の表側表示のモンスターを1体選択する。そのモンスターはこのカード以外の効果は受けない。この効果は相手のターンでも発動可能

ジャツカル「行け！スペリオルドーラ、ゲノムヘリター」

キュアマラクル「ダメよ、今のままじゃ」

キュアメロデイ「大丈夫よ、彼なら」

ジャツカル「ゲノムヘリターの効果発動貴様に憑依してるNo. 69コート・オブ・アームズの効果と名前と攻撃力を得る」

スパルダ「くっ、ならばこれならどうだ」

キュアマジカル「気をつけてあれは攻撃力を吸収するわ」

ジャツカル「スペリオルドーラの効果発動、ORUを使いスペリオルドーラ自身は他の効果を受けない」

ミルキイローズ「うまい、これなら」

スパルダ「おのれ」

ジャツカル「何!!スペリオルドーラ」

キュアホイップ「どうするの？まずいよ」

ジャツカル「まずい、今回の計画はスペリオルドローラとゲノムヘリターがいてこそ完成するだが、スペリオルドローラがやられた以上どうすることも」

その時、手札の左右とエクストラデッキが光る

ジャツカル「なんだこれは、剛鬼スープレックスと剛鬼ライジングスコープオ？こんなカード私のデッキに入ってたなかった」

剛鬼ザグレートオーガ「俺の力を使え」

ジャツカル「なんだ貴様？」

剛鬼ザグレートオーガ「俺は剛鬼ザグレートオーガ、リンクモンスターだ」

ジャツカル「リンクモンスター？」

剛鬼ザグレートオーガ「ああ、まずは剛鬼スープレックスをだせそして剛鬼ライジングスコープオをだせそこからその2体を墓地へ送り俺をだせ」

ジャツカル「だが・・・」

剛鬼ザグレートオーガ「俺を信じろ、あいつに勝ちたいならな」

ジャツカル「分かった」

スパルダ「どうした？もうおしまいか？所詮、邪魔をするからこうなるのよ」

ジャツカル「確かにおしまいだな」

キュアシヨコラ「ちよつとジャツカルさん、諦めるの？」

キュアマカロン「どうして」

ジャツカル「いや、終わるのは貴様のほうだ」

スパルダ「私が？面白い」

ジャツカル「我は剛鬼スープレックスを召喚、さらに剛鬼ライジングスコープオを特殊召喚」

剛鬼スープレックス

戦士族／効果

攻撃力1800 守備力0 レベル4

こもカード名の②の効果は1ターンに1度しか使えない①この

カードが召喚に成功したとき発動出来る。手札から剛鬼モンスターを特殊召喚する②このカードがフィールドから墓地へ送られた時デッキから剛鬼スープレックス以外の剛鬼カードを1枚手札に加える

剛鬼ライジングスコープ

戦士族／効果

攻撃力2300 守備力0 レベル5

このカード名の②の効果は1ターンに1度しか使えない。①自分フィールド上のモンスターが存在しない場合または剛鬼モンスターのみの場合、このカードはリリースなしで召喚出来る②このカードがフィールドから墓地へ送られた時デッキから剛鬼ライジングスコープ以外の剛鬼モンスターを手札に加える

キュアシヨコラ「剛鬼モンスター？レベルは4と5だしどういこうと？」

キュアマカロン「それじゃあ、シンクロもエクシーズも融合も使えないわ」

キュアジェラート「一体どうする気？」

スパルダ「そんな雑魚2体呼ぼうが私の敵ではない」

キュアマジカル キュアミラクル 「プリキュア・ルビーパツシヨナーレ」

ネコの毛+バイクヨクバール「ヨクバール」

スパルダ「くっ、オボエテロー」

キュアレモネード キュアカスタード「逃がしません」

スパルダ「何!!」

ジャツカル「お前は終わりだ、我は剛鬼スープレックスと剛鬼ライジングスコープを墓地へ怒涛なる鬼よ手に持つ斧ですべてを粉碎せよリンク召喚剛鬼ザグレートオーガ」

剛鬼ザグレートオーガ

戦士族／リンク／効果

攻撃力2600 LINK3 リンクマーカー 下／右下／左下  
剛鬼モンスター2体以上

①このカードがモンスターゾーンに存在する場合フィールド上のモンスターの攻撃力はそのモンスターのもともとの守備力分ダウンする。②このカードが戦闘・効果で破壊される場合代わりにこのリンク先の自分のモンスター1体を破壊できる

スバルダ「なんだと!!」

キュアジェラート「リンク召喚!!」

キュアシヨコラ「融合 シンクロ エクシーズ ペンデュラム 儀式以外の第6の召喚方法」

キュアマカロン「リンク召喚 ふふふ面白いわ」

ジャツカル「さらにゲノムヘリターの効果を発動貴様のNo.96を選択これで名前と効果、攻撃力をコピーそして貴様のNo.96は攻撃力は0になり効果も無効になる」

スバルダ「バカな、この私が」

ジャツカル「止めた、剛鬼ザグレートオーガ、粉碎爆裂斧」

十六夜リコ「すごい・・・あの破壊力」

ゆかり「確かにあれは・・・」

あかね「あんなのがあったんなら、なんでもうちよい早く使わなかったん？」

ジャツカル「今日誕生したばかりだ」

なお「そうなんだ」

ゆかり「ますます面白くなってくるわね」

ジャツカル「ナンバーズ回収完了（リンク召喚我を楽しませてくれるな、これからも頼むぜ剛鬼ザグレートオーガ）」

## 絶望を希望に 悪を切り裂けホーププレイV

リコ「それにしても、彼すごいわ」

みらい「確かになんか分からないけどすごい」

リコ「でもあれって魔法なのかしら？」

いちか「あれは魔法じゃないです」

ジャツカル「いちかここは我が説明する」

いちか「分かりました」

ジャツカル「あれは魔法では無くリアルソリットビジョンだ」

リコ「リアルソリットビジョン？」

ジャツカル「お前らの言葉で言えば立体映像だ、このようにデブリドラゴン」

デブリドラゴン

ドラゴン族／チューナー

攻撃力1000 守備力2000 レベル4

この召喚に成功したとき自分の墓地にある攻撃力500以下のモンスターを特殊召喚する。この効果で特殊召喚した効果モンスターの効果は無効化される

。このカードはドラゴン族モンスターのシンクロ素材にしか使用できない。また他のシンクロ素材モンスターはレベル4以外のモンスターでなければならぬ

ジャツカル「こいつはデブリドラゴンだ」

みらい「今ドラゴンって言いました？」

ジャツカル「ああ、どうだかつこいいだろ」

みらい「ドラゴンなんて初めて見たよ、ワクワクもんだあ」

ジャツカル「他にもドラゴンやペガサスも出せるがまあペガサスは無いがな」

リコ「ペガサスにドラゴンもうなんでもありね」

ことは「はー、すごい」

ジャツカル「おい、そこカードに触れるな」

ことは「？」



ジャツカル「そのカードはナンバーズって呼ばれるカード人間の心の闇を増幅させる」

リコ「まさか、そんなわけあるわけ無いでしょ、そもそもたかがカードなんだし、私は戻るわね」

みらい「リコ、もう・・・ごめんなさいジャツカルさん」

ジャツカル「気にするな」

その頃、リコは

リコ「全くなんなのよ、本当に、私だってみらい達みたいに、頑張ってるんだから、でも最近、ヨクボールもろくに倒せてないし力が欲しい」

その時

No. 102 光天使グローリアスヘイロー「そこまでして力が欲しいか？」

リコ「誰？」

No. 103 神葬令嬢ラグナゼロ「私達は貴方に味方をする者」

リコ「味方？」

No. 102 光天使グローリアスヘイロー「俺たちはナンバーズ」

リコ「ナンバーズ？確か人間の心の闇を増幅させるっていう？そんなのあるわけ無いじゃない、そもそも力を貸すって言ってもどうすることも出来ないなら頼まないわよ」

No. 103 神葬令嬢ラグナゼロ「でも貴方は、強くなりたいって願っている」

No. 102 光天使グローリアスヘイロー「だったら、貸してやるよ、敵を倒せる力を」

リコ「・・・分かったわ、力を貸して」

No. 102 光天使グローリアスヘイロー「そうだ、それでいい」

リコ「何この力・・・きやああああ」

そして次の日

みらい「あの、リコを見ませんでしたか？」

響「見てないけど」

あかね「確かに見てへんで」

ひまり「家じゃないんですか？」

みらい「昨日からずっと戻ってきてないんです」

きらら「家出したんじゃない？」

みなみ「それはないと思うわ、昨日会ったばかりだけど彼女しつかりしてそうじゃない」

エレン「でもこまちさんも言ってたじゃないですか、ナンバーズも人も見た目で判断しちゃいけないって」

その時

モフルン「闇の気配モフ」

のぞみ「じゃあみんな行こう」

全員「うん」

ジャツカル「待て、ナンバーズの気配を感じるそれも3体」

あきら「じゃあ、今回もナンバーズが」

いちか「そうなりますね」

同時刻、別な場所では

バツティ「まさか、貴様一人にヨクボールが倒されるとは」

キュアマジカル（光天使グロリアスヘイロー）「貴様ごときでは勝

てない」

バツティ「おのれ、やれヨクボール」

飯盒十蜂の巣ヨクボール「ヨクボール」

キュアマジカル（光天使グロリアスヘイロー）「愚かな、俺は俺自身の効果を発動、ORUを一つ使い相手のモンスターの攻撃力を半分にして、その効果を無効にする、聖なる光によって無力になるがいい」

飯盒十蜂の巣ヨクボール「ヨクボール!!」

バツティ「バカな、ヨクボール」

キュアマジカル（神葬令嬢ラグナゼロ）「愚かね、これで終わりよ」

飯盒十蜂の巣ヨクボール「ヨクボール」

バツティ「ちっ、ヨクボールが、オボエテロー」

キュアマジカル「すごい、なんだか力が湧いてきたわ」

その時

キュアマジカル「マジカル」

キュアマジカル「ミラクル フェリーチエ」

キュアフエリーチエ「ヨクバールは？」

キュアマジカル「大丈夫、私達が倒したから」

ジャツカル「(この気配ナンバーズか、もしかしたらあいつに) 待て！ミラクル、フェリーチエ、マジカルに近づくな」

キュアミラクル「何言ってるんですか？」

ジャツカル「貴様誰だ？マジカルの体から離れろ」

キュアシヨコラ「どういうこと？」

キュアマカロン「考えられるのはあのこナンバーズに憑依されてるってことね」

ジャツカル「貴様がナンバーズだってことは分かっている」

キュアミラクル「何いつてるのですか？マジカルがナンバーズに憑依って」

ジャツカル「早く出てこい」

キュアマジカル(光天使グローリアスヘイロー)「まさか、俺の気配を感じ取れる奴がいたとはな」

ジャツカル「やはりな、だが一匹だけじゃないよな」

キュアマジカル(神葬令嬢ラグナゼロ)「よく分かったわね」

キュアマジカル(光天使グローリアスヘイロー)「貴様何者だ？」

ジャツカル「やはりナンバーズを持つものどうしは引き合う運命らしいな」

キュアマジカル(光天使グローリアスヘイロー)「ナンバーズを持つものだと？ということはお前もナンバーズを」

ジャツカル「そうだ」

キュアマジカル(神葬令嬢ラグナゼロ)「よく分かったわね」

ジャツカル「貴様らオーバーハンドレットナンバーズかシャイニング ラグナゼロ グローリアスヘイロー」

キュアマジカル(光天使グローリアスヘイロー)「気づかれないと思ってたんだがな」

キュアミラクル「どういうこと？」

キュアシヨコラ「ナンバーズに憑依されてるんだよ」

ジャツカル「仕方ない少し眠ってる」

そう言うした後頭部を殴る

キュアマジカル「うっ」

ジャツカル「ナンバーズ回収完了」

キュアマジカル「私は一体・・・」

ジャツカル「大丈夫か？」

キュアマジカル「えっ、はい、でも私は一体」

ジャツカル「お前は3体のナンバーズに憑依されてただけだ、これで分かっただろ、ナンバーズがどれだけ危険なものかと言うのが」

キュアマジカル「はい、ごめんなさい」

ジャツカル「だが心を強く持て、そうすればナンバーズも力をかしてくれる」

キュアマジカル「はい」

その時

ドクロクシー「見つけたぞ伝説の魔法使いプリキュア」

キュアビュートイ「あいつは？」

キュアマジカル「あいつはドクロクシー」

ドクロクシー「お前達を倒しエメラルドを貰う」

キュアミラクル「そうは」

ジャツカル「貴様に渡す物などなにもない」

ドクロクシー「なんだ、貴様？」

キュアシヨコラ「私達も忘れないでもらおうか」

ドクロクシー「貴様らもプリキュアか？いいだろう、相手になってやる」

ジャツカル「おい、俺を忘れるんじゃないぞ」

ドクロクシー「そうだったな、まとめてきな一人残らず蹴散らしてやる」

キュアメロディ「プリキュア・ミュージッククロンド」

キュアビート「ハートフルビートロック」

ドクロクシー「無駄だ」

ジャツカル「まずは小手調べ、我は鎧ねずみを召喚」

鎧ねずみ

獣族

攻撃力950 守備力1100 レベル3

鎧のようにかたい毛で体を守ることができるネズミ

キュアアクア「たった1体を召喚？」

キュアミューズ「でも攻撃力低いわ」

ジャツカル「忘れたか、私の新たな力を」

キュアリズム「そっか、リンク召喚」

ジャツカル「そう言うことだ、私は鎧ねずみ1体を墓地に聖杯の竜よ、今こそ力をリンク召喚聖杯竜イムドゥーク」

聖杯竜イムドゥーク

ドラゴン族／リンク／効果

攻撃力800 LINK1 リンクマーカール上

トークン以外の通常モンスター1体

①このカードがモンスターゾーンに存在する限り、自分は通常召喚に加え1度だけ自分のメインフェイズに聖杯モンスターを1体召喚できる②このカードがこのカードのリンク先の相手モンスターと戦闘する場合ダメージステップ開始時に発動できる。そのモンスターを破壊する③このカードがフィールドから墓地へ送られた場合手札から聖杯モンスターを1体特殊召喚する

ドクロクシー「なんだか知らんが消えろ」

ジャツカル「聖杯竜イムドゥーク!!何!!ぐっ、なぜ我にダメージが、いや、ライフが半分になったのか・・・まさか、奴のナンバーズは」

キュアシヨコラ「なんでジャツカルさんのライフが半分に？」

ジャツカル「今のはNo.6先史遺産アトランタル」

ドクロクシー「何が言いたいが分からんが俺の中にとてつもない力があるのは間違いないな」

ジャツカル「聖杯竜イムドゥークの効果が発動、このカードが墓地へ送られた場合手札から聖杯モンスターを特殊召喚する来い！星遺物聖杯」

## 星遺物聖杯

### 機械族／効果

攻撃力0 守備力0 レベル5

このカード名が②③の効果はそれぞれ1ターンに1度しか使えない。①エクストラデッキからモンスターが特殊召喚された場合、このカードをリリースしてそのモンスターを墓地へ送る②通常召喚したこのカードがフィールドから離れた時デッキから星遺物聖杯以外の聖杯モンスターを特殊召喚する③墓地のこのカードを除外してデッキから星遺物モンスターを1体手札に加える。この効果は墓地へ送られたターンは発動できない

キュアアクア「レベル5のモンスターね」

ジャツカル「次は我だ、我はレベル3チューナー霞の谷の祈禱師を召喚」

### 霞の谷の祈禱師

鳥獣族／チューナー／効果

攻撃力1200 守備力1200 レベル3

自分フィールド上のこのカード以外のモンスターを手札に戻す事でこのカードの攻撃力はエンドフェイズ時まで500アップする。この効果は1ターンに1度しか使えない

キュアリズム「チューナーモンスター、シンクロ召喚ね」

ジャツカル「我はレベル5の星遺物聖杯にレベル3の霞の谷の祈禱師をチューニング怒りの念動よ、邪悪な悪魔を生み出しすべてを壊せシンクロ召喚来い！メンタルスフィアデーモン」

メンタルスフィアデーモン

サイキック族／チューナー／効果

攻撃力2700 守備力2300 レベル8

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

このカードが戦闘によってモンスターを墓地へ送ったとき破壊したモンスターのものもとの攻撃力分回復する。サイキック族モンスター1体を体とする魔法 罫カードが発動された時1000ライフを払う事で発動を無効にして破壊する

ジャツカル「やれ、メンタルスファイアデーモン スファイアオーバーロードフレア」

ドクロクシー「無駄だ」

ジャツカル「何!! 攻撃を無効化しやがった、あいつNo. 9天蓋星ダイソンスファイアの能力まで」

キュアジェラート「これでも食らえ」

キュアメロディ「やった」

キュアホイップ「やったね、ジェラート」

キュアマカロン「ジェラート?」

キュアジェラート「がはっ、なんで?」

キュアシヨコラ「なんでジェラートが攻撃したのにダメージを」

キュアマジカル「もしかしてあれもナンバーズの能力?」

ジャツカル「そうだ、今のはNo. 105BK流星のセスタスだ」

ドクロクシー「これでも食らえ」

キュアミラクル「あれは、暗黒の魔法」

ジャツカル「くっ」

ドクロクシー「どうした?」

ジャツカル「罨カード時の機械タイムマシンを発動、メンタルスファイアデーモンをフィールドに戻す」

時の機械タイムマシン

罨カード

破壊されたモンスターをフィールドに戻す

ジャツカル「やれメンタルスファイアデーモン」

ドクロクシー「無駄だ」

キュアフェリーチェ「あれは、私達が倒したヨクバール」

ジャツカル「ぶっ潰せメンタルスファイアデーモン」

キュアミント「やった?」

ジャツカル「メンタルスファイアデーモンの効果発動」

ドクロクシー「そうは行くかよ」

ジャツカル「メンタルスファイアデーモン!!」

キュアトウインクル「メンタルスファイアデーモンが破壊された」

ジャツカル「まさか、貴様No. 104 仮面魔踏士シヤイニングの効果を」

キュアフローラ「どうするの?」

ジャツカル「任せろ、霸王門零と霸王門無限でペンデュラムスケールをセッティング ペンデュラム召喚来い!クリフオート・ツール アーティファクトデスサイズ トワイライトロード・ソーサラーライラ」

クリフオート・ツール

機械族/ペンデュラム

攻撃力1000 守備力2800 レベル5 スケール9

ペンデュラム効果

①自分はクリフオートモンスターしかペンデュラム召喚出来ない。  
この効果は無効化されない②1ターンに1度800ライフを払い  
デッキからクリフオート・ツール以外のクリフオートカードを手札に  
加える

システムをレプリカモードで起動する準備をしています

実行中にエラーが発生しました

次の不明な発信元からのプログラムを実行しようとしています

実行を許可しますか

システムを自立モードで起動します

アーティファクトデスサイズ

天使族/効果

攻撃力2200 守備力900 レベル5

このカードは魔法カード扱いとして手札から魔法 罫ゾーンに  
セットする。セットされたこのカードが相手ターンに墓地に送られ  
た時このカードは特殊召喚できる

トワイライトロード・ソーサラーライラ

魔法使い族/効果

攻撃力1700 守備力200 レベル4

①1ターンに1度魔法 罫カードの効果が発動したとき、自分の手  
札・墓地からライトロードモンスターを1枚除外して魔法・罫カード



を1枚破壊する。②1ターンに1度このカード以外の自分のライトロードモンスターが効果を発動したときデッキの上から3枚墓地へ送る

ジャツカル「そしてRe：EXを召喚」

Re：EX

恐竜族／効果

攻撃力1900 守備力1200 レベル4

①このカードがエクストラデッキから召喚されたモンスターとバトルするときダメージステップの間だけ攻撃力 守備力を800アップする

ジャツカル「まずは、トワイライトロード・ソーサラーライラとRe：EXをオーバーレイ白き翼よ 我が思いに答え悪を打ち倒せエクシーズ召喚No. 39希望皇ホープ」

キュアシヨコラ「あれば、希望皇ホープ」

ジャツカル「まだまだ、クリフオート・ツールとアーティファクトデスサイズでオーバーレイ響け咆哮 百獣の王の威厳よ すべてを切り裂く剣となれエクシーズ召喚ZW獣王獅子武装」

ZW獣王獅子武装

獣族／エクシーズ／効果

攻撃力3000 守備力1200 ランク5  
レベル5モンスター×2

このカードは直接攻撃出来ない。1ターンに1度このカードのORUを使いデッキからZWと名のついたモンスターを手札に加える。またこのモンスターを攻撃力3000アップの装備カード扱いとして希望皇ホープと名のついたモンスターに装備する。装備モンスターが攻撃した場合バトルフェイズ中に装備モンスターは相手モンスターにもう1度攻撃できる

キュアマカロン「ZWのエクシーズモンスター」

キュアシヨコラ「すごすぎる」

キュアジェラート「ライオアームズ、親近感を感じる」

ドクロクシー「何を出そうがむだだ、消えろ」

ジャツカル「ホープの効果発動　ムーンバリア」  
キュアマジカル「でも防いだのはいいけどどうするの?」

ジャツカル「確かになどうすつかな」

ドクロクシー「これで終わりだ」

キュアビート「そうはさせないビートバリア」

ドクロクシー「むだだ」

キュアビート「えっ、きゃああああ」

キュアメロディ「ビート」

キュアルージュ「どうするの?強すぎない?」

キュアビート「まだよ、私達は負けられない、そうすれば地球は悪の手に落ちてしまう、そんなことは阻止する。それが私達の使命だから」

その時、エクストラデツキが光出す

キュアビート「これは?」

ジャツカル「ホーププレイを現れたのと同じ光…もしかすると、ビート」

キュアビート「はい」

ジャツカル「ホープにこのRUMを使え」

キュアビート「分かりました、私はRUMリミテッドバリアンズフォースを発動」

RUMリミテッドバリアンズフォース

魔法

自分のフィールドのランク4のエクシーズモンスター1体を選択しランクが1つ高いCNoと名のついたモンスター1体を選択した自分のモンスターの上に重ねて特殊召喚する

キュアビート「黒き翼　今混沌の壁を打ち破り、悪を断ち切る力になれカオスエクシーズチェーンジ儂くも一筋の希望の光CNo. 39  
希望皇ホープレイV」

希望皇ホープレイV

戦士族／エクシーズ／効果

攻撃力2600　守備力2000　ランク5

レベル5モンスター×3

このカードが破壊された時自分の墓地のエクシーズモンスターを1体選択しエクストラデッキに戻す。また希望皇ホープを素材としてるとき以下の効果を得る●1ターンに1度このカードのORUを使い相手モンスターを1体破壊して、破壊したモンスターの攻撃力分のダメージを与える

キュアメロディ「ビートがナンバーズを」

キュアミューズ「ビートなんともないの？」

キュアビート「どうやら大丈夫みたい」

ジャツカル「ビートライオアームズの効果を使え」

キュアビート「分かったわ、その前に・・・(ビート、ライオアームズのテキスト確認中)私はライオアームズの効果発動ORUを1つ使いたいデッキからZW荒鷲激神爪を手札に」

ドクロクシー「無駄だ、出でよヨクバール」

キュアミラクル「なっ、ドクロクシーもヨクバールを」

キュアビート「関係無いわ、むしろ、出したお陰であなたの敗北は近づいたわ」

ドクロクシー「なんだと!!」

キュアビート「ホープレイVの効果発動ORUを使い相手モンスターを破壊する、つまりそのヨクバールを破壊そして攻撃力分のダメージを与える」

ドクロクシー「何!!ぐあああああ」

キュアビート「そして荒鷲激神爪と獣王獅子武装をホープレイVに装備」

ホープレイV攻撃力2600↓攻撃力7600

キュアビート「バトルよ、ホープレイVで攻撃」

ジャツカル「ライオアイーグル」

キュアビート「ビートロック」

ドクロクシー「バカな、この俺が貴様らごときにぐあああああ」

キュアビート「やった」

あかね「なあ、大ダメージ与えといてさらに追い討ちをかけるよう

にダメージを与えるって殺意高すぎやろ」

なお「確かにそうだね」

ジャツカル「さてと」

あおい「ジャツカルさん」

ジャツカル「どうした？」

あおい「獣王獅子武装だけは少し出しててもらえませんか？」

ジャツカル「いいけど」

あおい「ありがとうございます、お前もライオンなんだな、私もラ

イオンのプリキュアになるんだ」

ジャツカル「獣王獅子武装とじゃれあいたいだけか」

あきら「でもライオン同士気が合うのかもね、私とジャツカルさん

のように」

ジャツカル「そうかもな」

## 響の怒り 闇に堕ちし反逆の牙

ジャツカル「なぜあいつらの思いに反応した、最初のクリスタルウイングから始まりホーププレイにホーププレイVそしてZW何かしらの共通点があると言うのか」

響「あの失礼します」

ジャツカル「誰だ？」

響「私です」

ジャツカル「響お前だったのか、どうした？」

響「奏見ませんでしたか？」

ジャツカル「いや見てないけど」

響「そうですか、ありがとうございます」

ジャツカル「ああ、それはそうと、いつまでそこにいるんだお前は？」

エレン「あれ、バレちゃいましたか」

ジャツカル「気配を消してようが我には簡単にバレるぞ」

エレン「さすがです」

ジャツカル「それで何か用か？まさかかくれんぼしに来たんじゃないよな」

エレン「はい、カードを落としてたようだから持ってきたんです」

ジャツカル「すまないな」

エレン「あの」

ジャツカル「なんだ？」

エレン「これってモンスターですよ、それなのに魔法ゾーンにセット出来るのはなんですか？」

ジャツカル「詳しいことは知らんが、それがアーティファクトの共通効果だ、それよりアーティファクトの意味分かるか？」

エレン「いえ」

ジャツカル「アーティファクトの意味は人工物を意味するもつと専門的になると考古学的見地では古代の人工遺物って意味だ、それにカードを見てもわかる通り、武器の姿をしてるからな」

エレン「確かに武具の姿をしています、もしかしてそれがセット出来る理由なのかも知れませんか」

ジャツカル「ああ」

あきら「失礼します、あつ、お邪魔でしたか?」

ジャツカル「いや大丈夫だ、何かようか?」

あきら「実は、申し上げにくいんですが・・・」

ジャツカル「どうした?」

あきら「実は、ひまりちゃんがジャツカルさんの大事にしてた壺を割っちゃつて」

ジャツカル「?」

あきら「あの瓢箪型の壺です」

ジャツカル「ああ、あれ、別にいいよ、あれどうせ処分しようと思つてたしそれに失敗作を作ってしまったようだな」

あきら「そうなんですかあ、でもなんで失敗作を飾って置いたんですか?」

ジャツカル「実は、瑠璃が大事にしてた壺を割っちゃつてしまったみたいでそれで失敗作の壺を飾ってるようにしてるんだ」

あきら「そうですね、良かった、ジャツカルさんがよく見ていたので、大事にしてた壺なのかどうか心配で」

ジャツカル「でも教えてくれてありがとな、んっ」

あきら「ジャツカルさん、いきなりキスは・・・」

ゆかり「あらっ、お楽しみだったみたいね」

あきら「ゆかり!!」

ゆかり「ジャツカルさんともうそんな関係だったのね、うふふ、ジャツカルさんに用事があったから来たんだけどまさか面白いことが見れるなんてね」

あきら「い、いやこれは違うんだゆかり」

ゆかり「何が違うのかしら?どう見てもあきらがジャツカルさんを押し倒してるようにしか見えないわ」

あきら「ゆかり誤解だよ」

ゆかり「誤解ねえ、うふふ、そうとは思えないわね、まあ、特別な

時間を邪魔する気は無いから」

あきら「誤解だつてゆかり」

ジャツカル「・・・」

あきら「どうしたんですか？」

ジャツカル「敵だ」

あきら「えっ」

ジャツカル「行くぞ」

あきら「はい」

その頃別な場所では

キュアフローラ「何こいつら？」

キュアジェラート「強すぎる」

シャーキンス「我々に勝とうと思ってるのが間違いである」

ベニーギョ「あたし達に歯向かうからこうなるのよ」

キュアハッピー「なんなのあいつら」

キュアマジカル「あいつらは終わりなき混沌の首領デウスマストの

部下、シャーキンスとベニーギョよ」

キュアフェリーチェ「でもデウスマストは私達で倒したはず」

キュアミラクル「だけどこのままでは私達は負けてしまう」

シャーキンス「まさか、プリキュアが他にもいたのは驚きだが、そ

のしぶといのにも驚きである」

ベニーギョ「だけど、あんた達もこれで終わりね」

その時

ジャツカル「伝説の魔法使いよ、幻想の世界より今こそ姿を現せ、エ

クシーズ召喚 来い！伝説の大魔法使い！幻想の黒魔導師」

幻想の黒魔導師

魔法使い族／エクシーズ／効果

攻撃力2500 守備力2100 ランク7

レベル7モンスター×2

このカードは自分フィールド上のランク6魔法使い族エクシーズモンスターに重ねてエクシーズ召喚することも出来る。幻想の黒魔導師の②の効果は1ターンに1度しか使えない①1ターンに1度0

RUを一つ使い手札 デッキから魔法使い族の通常モンスター1体特殊召喚する。②魔法使い族の通常モンスターの攻撃宣言時、相手フィールド上のカードを1枚破壊しそのカードを除外する

キュアマミラクル「今伝説の大魔法使いつて言いました？」

ジャツカル「ああ、言ったぞ」

シャーキンス「ふん、伝説の大魔法使いだかなんだか知らないが邪魔をするならここで消させてもらうぞ」

ジャツカル「くつ、きついか、ならこれはどうだ？来いランチャーコマンダー」

ランチャーコマンダー

サイバース族／効果

攻撃力1700 守備力1200 レベル4

①このカードがモンスターゾーンにある限り、このカード以外の自分フィールド上のサイバース族モンスターの攻撃力 守備力は300アップする。②1ターンに1度自分フィールド上のサイバース族モンスター1体をリリースし相手フィールドの表側表示モンスターを1体破壊する

ジャツカル「さらに手札からバックアップ・セクレタリーを特殊召喚」

バックアップ・セクレタリー

サイバース族／効果

攻撃力1200 守備力1800 レベル3

このカード名の①の方法による特殊召喚は1ターンに1度しかできない。①自分フィールド上にサイバース族モンスターがいるとき、このカードは手札から特殊召喚出来る

シャーキンス「そんなもんで勝てるわけが無いのである」

ジャツカル「それはどうかな？」

ベニーギョ「だったらやってみなよ」

ジャツカル「ああやってやるぜ、我は、ランチャーコマンダーとバックアップセクレタリーを墓地へ」

キュアアクア「来るわね、リンク召喚」



ジャツカル「強力な蜂ども、その一刺しで悪魔を滅ぼせ、リンク召喚来い！ハニーボット」

ハニーボット

サイバース族／リンク／効果

攻撃力1900 リンク2 リンクマーカー右／左

①このカードのリンク先のモンスターは効果の対象にならず戦闘では破壊されない

ジャツカル「やれ、ハニーボット」

シャーキンス「くだらんこれでも食らうのである」

キュアサニー「あかん、リンク召喚でも勝てへん」

ベニーギョ「これでもくらいな」

全員「きやああああ」

響「まずい、変身が」

いちか「どうするの？ヤバイよ」

ベニーギョ「どうした？貴様らの力はそんなものか？」

ジャツカル「我は、罨カード発動光のピラミッド」

光のピラミッド

永続罨

自分フィールド上のこのカードがフィールドから離れた場合、自分フィールド上のアンドロスフィックス スフィックスステレリアを破壊して除外する

ジャツカル「さらに我は、500ずつ、つまり、1000ポイントライフを払い手札からアンドロスフィックスとスフィックスステレリアを特殊召喚」

アンドロスフィックス

獣族／効果

攻撃力3000 首尾りよ気2500 レベル10

光のピラミッドがフィールド上に存在するとき500ポイント払って特殊召喚する。このターンは召喚 特殊召喚出来ないこのカードは墓地から特殊召喚出来ない。このカードが守備モンスターを攻撃したとき守備力が攻撃力を越えてれば貫通ダメージを与える

スフィinksステレーイア

獣族／効果

攻撃力2500 守備力3000 レベル10

効果はアンドロスフィinksと同じ

ジャツカル「さあどうする？この2体を突破するか？」

シャーキンス「くだらん、お前が何を出そうと無駄である」

ベニーギョ「消えるがいい」

ジャツカル「確かにやるなアンドロスフィinksとスフィinks  
テレーイアを同時破壊するとはなだけど、それが選択のミスをしたつ  
て事だ、けどな、さらに500ポイント支払い 王家の墓を守りし  
王よ、獣の力を解き放ち今、獣の長を呼び出さん来い！スフィinks  
アンドロジュネス」

スフィinksアンドロジュネス

獣族／効果

攻撃力3500 守備力3000 レベル10

このカードは通常召喚出来ない。自分フィールド上のアンドロス  
フィinksとスフィinksステレーイアが同時破壊されたとき、500  
ポイント支払う事で手札またはデッキから特殊召喚出来る。この  
カードが特殊召喚に成功したとき500ポイント払う事エンドフェ  
イズ時終了まで攻撃力は3000アップする

エレン「召喚条件がアンドロスフィinksとスフィinksステレー  
イアの同時破壊」

りん「だけど攻撃力は3000なんかなるわ」

ジャツカル「我は、500ポイント支払い攻撃力を3000アップ  
する」

あおい「と言うことは、攻撃力6500」

かれん「よくはさ分からないけど、500払って攻撃力を3000  
にするって相当強くない？」

ひまり「確かにそうですね」

ジャツカル「バトルだ、スフィinksアンドロジュネスで攻撃」  
響「やった？」

ベニーギョ「バカな奴だ、仲間を傷つけるとも知らずに」

ジャツカル「エレン!!」

シャーキンス「攻撃力6500とか化け物級の攻撃を食らってはさすがに一溜まりもないかも知れなかったからな、ちょうど近くに盾があつたから助かつたのである」

ジャツカル「貴様ら」

シャーキンス「お前のモンスターの攻撃で仲間は瀕死である」

ベニーギョ「どうした？何も出来ないか？」

響「どうして・・・どうしてエレンを貴方達は絶対に許さない」

奏「響落ち着いて」

みなみ「そうですよ」

アコ「怒り任せじや何もならないわ」

響「許さない、貴方達は絶対に」

そう言うときエクストラデツキが光る

ジャツカル「またか・・・」

響「あいつらはなんとしても私が倒す、エレンを盾にしたあいつらを」

その時

霸王眷竜ダークリベリオン「小娘、なんとしても倒したいその気持ち気に入った」

響「誰？」

霸王眷竜ダークリベリオン「俺は霸王眷竜ダークリベリオン、小娘、名は？」

響「北条・・・響」

霸王眷竜ダークリベリオン「響、まずは、フィールド上に閥属性レベル4のペンデュラムモンスターを2体並べろ」

響「分かったわ」

霸王眷竜ダークリベリオン「お前の仲間を傷つけたあいつらを潰す、そのためには俺も力を貸すぞ」

響「お願いエレンを助けて、だから力を貸して霸王眷竜ダークリベリオン」

霸王眷竜ダークリベリオン「分かった」

響「ジャツカルさん、お願いがあります」

ジャツカル「なんだ？」

響「フィールド上に閻属性レベル4のペンデュラムモンスターを2体召喚してくれませんか？」

ジャツカル「分かった、我は、魔装戦士ドラゴノックスを召喚さらに二重召喚ダークドリアードを召喚」

魔装戦士ドラゴノックス

戦士族／ペンデュラム／効果

攻撃力1500 守備力1500 レベル4 スケール7

ペンデュラム効果①相手モンスターへの攻撃宣言時に発動可能。このカードを破壊しバトルフェイズを終了する

効果①1ターンに1度手札を1枚すて墓地の戦士族または魔法使い族を裏守備表示で特殊召喚する

ダークドリアード

魔法使い族／ペンデュラム／効果

攻撃力1800 守備力1400 レベル4 スケール5

ペンデュラム効果①自分フィールドの地 水 炎 風属性モンスターの攻撃力 守備力は自分フィールド上の属性の種類×200アップする

効果①このカードが召喚 特殊召喚に成功したとき発動可能。

デッキから地 水 炎 風属性のモンスターを1体ずつ選び好きな順番でデッキの上に戻す

響「私は魔装戦士ドラゴノックスとダークドリアードでオーバーレイ2体の閻属性レベル4ペンデュラムモンスターでオーバーレイネットワークを構築エクシーズ召喚！闇に堕ちし反逆の竜 その力で歯向かう者を殲滅せよエクシーズ召喚！今こそ目覚めよ霸王竜に支えし眷族よ霸王眷竜ダークリベリオン」

霸王眷竜ダークリベリオンドラゴン族／エクシーズ／効果

攻撃力2500 守備力2000 ランク4

閻属性レベル4のペンデュラムモンスター×2

①1ターンに1度このカードが相手モンスターと戦闘するときダメージ計算前にこのカードのORUを1つ使いターン終了時までその相手モンスターの攻撃力を0にしその元々の攻撃力分だけアツプする②自分・相手のバトルフェイズ時にこのカードをエクストラデッキに戻して発動可能、自分のエクストラデッキの表側表示のペンデュラムモンスターの中から霸王眷竜または霸王門モンスターを2体まで選び守備表示で特殊召喚する

あおい「あれはダークリベリオンエクシードドラゴン？」

ゆかり「似てるけど違うわ」

いちか「確かにあの禍々しい姿、普通じゃない」

あきら「あれは・・・」

ゆかり「知ってるの？」

あきら「霸王眷竜ダークリベリオン」

いちか「何ですか？その霸王眷竜って」

あきら「よくは分からないけど、ジャツカルさんから聞いたことがあるの、欲望により生まれし霸王の竜と眷族の竜、その力怒りや憎しみなり、その竜の名は霸王眷竜オツドアイス 霸王眷竜クリアウイング 霸王眷竜スターヴヴェノムそして霸王眷竜ダークリベリオンその竜まとめし者霸王竜ズアーク」

ゆかり「霸王眷竜に霸王竜・・・」

いちか「確かに召喚口上？変だった」

ひまり「どこがですか？」

いちか「ダークリベリオンエクシードドラゴンの場合は漆黒の竜よその力で悪を倒し反逆せよだったよね、でもあれは闇に堕ちし反逆の竜その力で歯向かう者を殲滅せよだったの」

ひまり「・・・」

いちか「どうしたの？ひまりん」

ひまり「その霸王眷竜って決闘竜に似てます」

あきら「決闘竜ってジャツカルさんが以前使ってた」

ひまり「はい、閃こう竜スターダストはスターダストドラゴン えん魔竜レッドデーモンはレッドデーモンズドラゴン 月華竜ブラッ

クローズはブラッククローズドラゴン 玄翼竜ブラックフェザーはブラックフェザードラゴン 機械竜パワーツールはパワーツールドラゴン 妖精竜エンシエントはエンシエントフェアリードラゴンを元にしてるらしいです」

あきら「じゃあ霸王眷竜も」

ゆかり「そうね、クリアウイングはクリアウイングシンクロドラゴン スターヴヴェノムはスターヴヴェノムフュージョンドラゴン オッドアイズはオッドアイズペンデュラムドラゴン ダークリベリオンはダークリベリオンエクシーズドラゴンを元にしてるんじゃないかしら」

響「貴方達は許さない、バトル、霸王眷竜ダークリベリオンで攻撃、その瞬間効果発動、ORUを一つ使い、貴方の攻撃力を0にして元々の攻撃力をプラスする」

ベニーギョ「何!!」

響「憤激のデスデイストラクション」

ベニーギョ「何ぐああああああ」

響「次は貴方よ」

シャーキンス「来いよ、ダークリベリオン、効果なんか捨ててかかってこい」

響「憤激のデスデイストラクション」

シャーキンス「バカな、この俺が、お許してくださいデウスマスト様、ぐああああああ」

響「はあはあ、なんとか勝てた」

ジャツカル「エレン大丈夫か？」

エレン「ううん、はい、なんとか」

ジャツカル「すまない、我が攻撃したあまりにお前を傷つけてしまった」

エレン「そんなジャツカルさんの責任ではありません」

リコ「そうだよ、エレンさんを盾にしたあいつらが悪いんだし」

あきら「霸王眷竜ダークリベリオン・・・なんて攻撃力なの」

ゆかり「確かにね」

あおい「ジャツカルさんが敵じゃなくてよかった」  
かれん「そうね、万が一敵だしたら私たちで耐えられたかどうか」  
ジャツカル「とにかく次行くか」  
全員「はい」

## あきらへの思い 奇跡の融合究極竜騎士

ジャツカル「なあ、あきらといちかどこいった?」

ゆかり「あきらなら買い物行ったわよ、いちかはあそこ」

ジャツカル「助かる、いちか」

いちか「はい」

ジャツカル「我なりにスイーツを考えてみたんだが、どうだ?」

いちか「んっ?とてもいいですね、これ商品にしてもいいですか?」

ジャツカル「ああ」

いちか「でもなんて名前ですり出しましょう」

ジャツカル「それなら書いてないか?そこに」

いちか「あつ、書いてありました、えっと、スターダストマフィン、レッドデーモンケーキ、ブラックフェザープリン、ブラックローズマカロン、パワーツール八つ橋、エンシエントアイス」

ゆかり「なかなかいいじゃない」

ジャツカル「そうだな、題名は決闘竜スイーツってどうだ?」

ひまり「すごいですね」

あおい「デュエルドラゴンスイーツか、うまそうだな」

なお「本当に美味しそう」

れいか「なお、まだですよ」

ゆかり「このマカロン美味しそうね」

ジャツカル「俺は部屋で寝る」

いちか「えっ、何ですか?」

ジャツカル「昨日徹夜で考えてたからな、眠いんだ」

ひまり「そうだったんですか」

ジャツカル「あきらが戻ってきたら教えてくれ」

ひまり「分かりました」

そして20分後

ゆかり「あきら、遅いわね」

いちか「そうですね」

あおい「大変だ、これ見てくれ」



りん「どうしたのよ、そんなに騒いで」

あおい「さつきこんなのが届いたんです」

響「何これ？」

エレン「これって脅迫状だよね」

あおい「そうだジャツカルさんを起こさないと」

いちか「私起こしてきます」

ひまり「お願いします」

いちか「ジャツカルさん、起きてください、大変です」

ジャツカル「なんだ、何か用か」

いちか「あきらさんが、あきらさんが誘拐されました」

ジャツカル「何!!」

いちか「条件としてはプリキュアを連れてくることらしくて、これが脅迫状です」

ジャツカル「お前の仲間は預かった、返して欲しければプリキュアを連れてこいだと、ふざけるな・・・この我が見つけたら、潰す」

いちか「ちよつとジャツカルさん」

ジャツカル「犯人はフレッシュプリキュアか」

いちか「どこ行くんですか？」

ジャツカル「フレッシュプリキュアをぶっ潰す」

のぞみ「待つてラブちゃん達がそんなことしないよ」

ゆかり「でも犯人はフレッシュプリキュアだって書いてあるじゃない」

あおい「それって訳があるんじゃない？」

いちか「大変だよ、みんな」

リコ「どうしたのよ、そんなにあわてて」

いちか「ジャツカルさんがフレッシュプリキュアを潰しに行くって言っちゃった」

ゆかり「まずいわね、彼は本気よ」

響「確かに洗脳が解けたメフィストも殺そうとしてたし」

その頃、あきは

あきら「ここは？うっ!!そっか誰かに殴られて気絶して」

キュアパッション?」「ようやく目が覚めた?」

あきら「誰だ?」

キュアベリー?」「私達はフレッシュプリキュア」

あきら「同じプリキュアなのに何でこんなことを?」

キュアパイン?」「あらっ? 貴方もプリキュアだったの? まあいいわ、だったら他のプリキュアの居場所を教えなさい」

あきら「誰がお前らなんか」

キュアピーチ?」「そう・・・だったら仕方ないわね」

あきら「がはっ、必ず助けに来てくれる、みんなが」

キュアパッション?」「無理ね、ここは、私達の隠れ家見つけれられるはずが無いわ」

あきら「がはっ、がはっ (ジャッカルさん助けて)」

ノーザ「よくやった、ナキワメーケ、これでプリキュアの仲はバラバラね」

コピーナキワメーケ「ナキワメーケ!!」

その頃、ジャッカルは

ジャッカル「どこだフレッシュプリキュア」

桃園ラブ「みんなダンスがうまくなったね」

蒼乃美希「ここまでこなすなんて私完璧ってほどじゃないわ」

山吹祈里「今度の大会で優勝出来るって私信じてる」

東せつな「プリキュアの方も精一杯頑張るわ」

ジャッカル「プリキュアだと・・・(確かさつき聞いた話では四ツ葉町を守ってるのがフレッシュプリキュアだと聞いたが、もしかしてあいつらがあきらを)」

桃園ラブ「さて、もう一回やろう、みんなで幸せゲットだよ」

その時

ジャッカル「見つけたぞ、貴様らがフレッシュプリキュアか?」

山吹祈里「誰?」

東せつな「貴方は一体?」

ジャッカル「我は貴様らを倒す者だ」

蒼乃美希「私達を倒すって何か怨みでもあるの?」

ジャツカル「黙れ貴様らに意見する余地は無い、行くぞ」

ノーザ「ふふふ、どうなったか見に来たけど面白い事になってるとはね、プリキュアを倒そうとしてるものがあるじゃない、まあいいわ、人質もいるし、問題は無いわね、しかし、見ない顔だけどプリキュアでは無さそうね」

東せつな「ちよつと待って、私達が貴方に何をしたの？私達貴方に怨まれる覚えは無いわ」

ジャツカル「自分達がやったことも忘れてるとはな、いい思い出させてやるよ」

山吹祈里「まともに会話出来る状態では無さそうね」

蒼乃美希「もしかしてラビリンズじゃない？私達を倒すって言うてたし」

桃園ラブ「だったら行くよ」

蒼乃美希 山吹祈里 東せつな「うん」

4人「チェンジプリキュアビートアップ」

キュアピーチ「ピンクのハートは幸せの愛あるしるしもぎたてフレツシュ キュアピーチ」

キュアベリー「ブルーのハートは希望のしるしみたてフレツシュ キュアベリー」

キュアパイン「イエローハートは祈りのしるし とれたてフレツシュ キュアパイン」

キュアパッション「真っ赤な幸せのあかし、うれたてフレツシュ キュアパッション」

キュアピーチ「さあ、どう来るのかしら？」

キュアベリー「関係ないわ、あいつを倒す、プリキュア・エスポワールシャワー」

ジャツカル「何!!」

キュアベリー「大したこと無かったわね」

キュアパッション「いや、まだよ」

キュアベリー「えっ？」

ジャツカル「我は手札から工作列車シグナルレッドを特殊召喚」

キュアパッション「何あれ？ナキワメーケではない」

ジャツカル「シグナルレツドは相手の攻撃宣言時に手札から特殊召喚するそしてこのターンシグナルレツドは破壊されない」

キュアパイン「と言うことは、攻撃しても倒せないって事ね」

ジャツカル「そうだ」

キュアピーチ「待って、私達が貴方に何をしたの？理由を教えてください」  
ジャツカル「だったら、あきらはどこだ？あきららはプリキュアだやられるはずがない」

キュアパッション「そのあきらって人は知らないわ」

キュアベリー「彼女もプリキュアなんでしょ、だったら、信じて待とうよ」

ジャツカル「ふざけるな、貴様らが誘拐しておいてどこに連れてった？もしかして貴様らアカデミアって連中か？」

キュアピーチ「待って、なんの事？本当に」

ジャツカル「黙れ我はストーンアルマジラーを召喚」

ストーンアルマジラー

岩石族

攻撃力800 守備力1200 レベル3

体が石のように堅い毛で覆われており、守りがたい

キュアピーチ「私達は本当にやってない

ジャツカル「じゃあ、この脅迫状はなんだ？」

キュアパイン「脅迫状？」

キュアパッション「ちよつと何よこれ」

キュアパイン「確かに私達の名前だけど本当に知らないわ」

ジャツカル「惚けるな、我はストーンアルマジラーとシグナルレツドでオーバレイ2体のモンスターでオーバレイネットワークを構築エクシーズ召喚！戦場に倒れし騎士達の魂よ 地獄の果てから甦り邪悪な敵を斬り裂くがいい。来い！幻影騎士団ブレイクソード」  
キュアピーチ「今度は違うやつが出てきた？」

ジャツカル「バトル、幻影騎士団ブレイクソードでキュアベリーにダイレクトアタック」

キュアベリー「えっ、ちよっ、私から？何で？」

キュアピーチ「さあ？」

キュアベリー「さあつてこらっ、パインもパッションも哀れんだ目をしない」

キュアパイン「話してる間にあのブレイクソードって奴来てるよ」

キュアベリー「えっ、嘘でしょ、あー、もう、プリキュアエスポワールシャワーフレッシュ」

ジャツカル「ちっ、相討ちか」

キュアベリー「なんとか相討ちに持ち込めたけど次はどうしようか」

キュアパイン「ベリーがまた油断してるよ」

ジャツカル「リバーズ2セットターンエンド」

キュアパッション「行くよ、プリキュア・ハピネスハリケーン」

キュアパイン「プリキュア・ヒーリングブレア」

キュアベリー「キュアピーチ「ダブルプリキュアキック」

ジャツカル「やつてくれるじゃん、だけど甘い」

キュアパイン「えっ」

ジャツカル「我はリバーズ発動、針虫の巣窟」

針虫の巣窟

罨カード

自分のデツキの上から5枚墓地に送る

ジャツカル「針虫の巣窟は自分のデツキの上5枚墓地に送る」

キュアピーチ「自分のカードを墓地に」

キュアパッション「そんなことして何に」

ジャツカル「さらに、我は捕食惑星を発動」

捕食惑星

永続罨

捕食惑星の①の効果は1ターンに1度しか使えない①このカードが魔法 罨ゾーンに存在し捕食カウンターが乗っているモンスターが離れた場合。デツキからプレデターカードを1枚手札に加える②墓地のこのカードを除外して自分の手札 フィールドから融合に決

められた融合素材モンスターを墓地へ送りその融合モンスター1体をエクストラデッキから融合召喚する。ただしこの効果で召喚するモンスターは捕食植物しか融合素材に出来ない

ジャツカル「さらに、融合発動、我は手札の捕食植物オフリスコーピオと幻影騎士団クラックヘルムを融合猛毒を持ちしランの花よひび割れし鎧と一つとなりて新たな植物に生まれ変わらん融合召喚すべてを食らう巨大花捕食植物キメラフレッシュ」

捕食植物キメラフレッシュ

植物族／融合／効果

攻撃力2500 守備力2000 レベル7

捕食植物モンスター+闇属性モンスター

①1ターンに1度、このカードのレベル以下のモンスターを選択して除外する②このカードが相手の表側表示モンスターとバトルする場合相手モンスターの攻撃力は1000ポイントアップダウンこのカードの攻撃力を1000ポイントアップする③このカードが墓地へ送られたとき次のスタンバイフェイズにデッキから融合またはフュージョンと名のついたカードを手札に加える

ジャツカル「さらに、サイクロンと魔法石の採掘、このカードで手札を2枚捨て墓地の魔法カードを戻す、我は融合のカードを戻す」

サイクロン

速攻魔法

フィールド上の魔法 罨カードを1枚破壊する

ジャツカル「我は捕食惑星を破壊」

キュアパイン「そして魔法石の採掘で融合が手札に」

キュアパッシュョン「融合って事は」

ジャツカル「そうだが我は墓地の捕食惑星の効果発動墓地のこのカードを除外して融合召喚を行う、我はキメラフレッシュと手札のDDヴァイステュポーンを融合すべてを捕食する巨大花よゼウスに匹敵する怪物と交わりて悪魔を滅ぼす多肉植物とならん融合召喚現れよ！捕食植物ドラゴスタペリア」

ドラゴスタペリア

植物族／融合／効果

攻撃力2700 守備力1900 レベル8

融合モンスター＋闇属性モンスター

①1ターンに1度相手の表側表示モンスター1体に捕食カウンターをのせる。捕食カウンターが置かれたレベル2以上のモンスターはレベル1になる。この効果は相手のターンのターンでも仕様可能②このカードがモンスターゾーンに存在する限り相手が発動した捕食カウンターが置かれているモンスターの効果は無効化される

ジャツカル「我はキュアベリー貴様に捕食カウンターを与える」

キュアベリー「捕食カウンター？ってなにこれ」

キュアパッション「大丈夫？今外すから」

キュアパイン「それより美希ちゃん変身が」

蒼乃美希「どうなってるの」

ジャツカル「ドラゴスタペリアがフィールド上に存在する時捕食カウンターが乗った者の効果は無効化される」

キュアパッション「つまりあいつの効果を使われればこっちの変身能力が強制解除されるって訳ね」

ジャツカル「そうだ、さっさとあきらの居場所を教えろ、さもなければ、このままバトルを行う」

キュアピーチ「私達は本当に知らないわ」

キュアパッション「これは・・・まさか!!」

ジャツカル「だったら、ドラゴスタペリアで」

キュアパッション「待って、犯人なら私知ってるわ」

ジャツカル「何!!誰だ、教えろ」

キュアパッション「それはラビリンスの幹部のノーザって奴です、さっきその脅迫状を見てみたら、ラビリンスのマークが浮かび上がってました」

ジャツカル「だったら、早く我をそのラビリンスって場所に行かせろ」

キュアパイン「それは無理、ラビリンスは危険なのよ」

ジャツカル「だが、こっちにはあきらの命がかかっている」

キュアピーチ「あきらさんの事は私達で救出しますですから」  
キュアパッション「分かったわ、ただし、約束してください、さっきのドラゴスタペリアの能力で与えられた捕食カウンターをはずしてください」

ジャツカル「分かったよ」

そして20分後

キュアパッション「ここが、ラビリンズです」

ジャツカル「そうか・・・(ここにあきらが)」

キュアパイン「一つ聞かせてくれませんか」

ジャツカル「なんだ？」

キュアパイン「貴方とそのあきらさんって人とはどういう関係何ですか？」

ジャツカル「我の大切な人だ」

キュアピーチ「みんな行くよ」

全員「うん」

サウラー「んっ？あれはイス戻ってきてくれたのか？」

キュアパッション「私は戻らない何度言えば分かるの？」

サウラー「そうか・・・」

ジャツカル「おい貴様」

サウラー「なんだ？」

ジャツカル「ここにノーザって野郎があきらって女の子を連れてきたと思われるがどこにいる？」

サウラー「そう言えば、ノーザはこの2階の一番右の部屋で監禁するって言ってたぞ」

ジャツカル「そうか・・・助かる」

サウラー「お、おい、ノーザは危険だ」

ジャツカル「関係ない、我はあきらが戻ればいい」

その頃、あきは

あきら「はあはあ」

コピーキュアピーチ「なかなかやるじゃない、ここまでやっても喋らないとは」



コピーキュアパイン「大人しくしゃべった方がいいと思うわ」

コピーキュアベリー「そうよ、無理しても意味はない」

コピーキュアパッション「そこまでして何の意味がある？」

あきら「ふぎけないで、私は仲間を裏切らない」

コピーキュアパイン「そう、じゃあ消えて、プリキュア・ヒーリング」

その時

ジャツカル「黒き翼翻し降り注ぎ雨と共に放て雷撃の一撃シンクロ

召喚A B F 涙雨のチドリ」

A B F 涙雨のチドリ

鳥獣族／シンクロ／効果

攻撃力2600 守備力2000 レベル7

チューナー＋チューナー以外のモンスター1体以上

①BFをシンクロ素材にしたときこのカードはチューナーとして扱う②このカードの攻撃力は墓地のBFモンスター数×300アツプする③このカードが破壊され墓地へ送られたとき、チドリ以外の自分の墓地の鳥獣族シンクロモンスター1体を特殊召喚する

コピーキュアパイン「がはっ、何者？」

ジャツカル「貴様ら、返して貰うぞ、あきらを」

あきら「ジャツカル・・・さん」

ジャツカル「あきら大丈夫か？」

あきら「なんとかは・・・ゲホッ」

ジャツカル「無理はするな、ちゃんと捕まってる」

あきら「ごめんなさい」

ジャツカル「すまん、遅くなって」

あきら「大丈夫です」

コピーキュアピーチ「おのれ、邪魔はしないでもらいたいわね」

コピーキュアパッション「他のプリキュアの居場所を教えなさい」

ジャツカル「いいぜ、教えてやる、ただし、我を倒せたらな、まあ

たがが偽物の分際で倒せるとは思えないのがな」

あきら「偽物？」

ジャツカル「ああ、本物なら連れてきた、安心しろ」

コピーキュアベリー「おのれ、プリキュア・エスパワールシャワー」

ジャツカル「無駄だ、我はBF隠れ簀のチームを召喚」

隠れ簀のチーム

鳥獣族／チューナー／効果

攻撃力800 守備力1200 レベル3

隠れ簀のチームの②の効果はデュエル中に1度しか使えない①  
表側表示のこのカードがフィールドから離れた場合自分フィールド  
上にスチームトークン（水族 風 レベル1 攻撃力100 守備力  
100）を1体特殊召喚する②このカードが墓地にある場合自分の  
フィールド上のモンスターを1体リリースしてこのカードを特殊召  
喚する、この効果で特殊召喚した場合BFのシンクロ素材にしか出来  
ない

ジャツカル「さらに、BF黒槍のブラストを特殊召喚」

BF黒槍のブラスト

鳥獣族／効果

①自分フィールドに黒槍のブラスト以外のBFがいるときこの  
カードは手札から特殊召喚出来る②このカードが守備表示のモン  
スターを破壊したとき貫通ダメージを与える

ジャツカル「黒き翼翻し雷鳴と共に走れ電光の斬激ABF驟雨のラ  
イキリ」

鳥獣族／シンクロ／効果

攻撃力2600 守備力2000 レベル7

チューナー＋チューナー以外のモンスター1体以上

①BFモンスターを素材としてシンクロ召喚を行ったときこの  
カードはチューナーとして扱う②1ターンに1度このカード以外の  
自分フィールド上のBFモンスターの数まで相手フィールド上の  
カードを対象にして破壊する

ジャツカル「さらに、リビングデットの呼び声」

リビングデットの呼び声

永続罨

自分の墓地からモンスター1体を特殊召喚する、そのモンスターがフィールドを離れたときこのカードを破壊する

ジャツカル「戻ってこい、黒槍のブラスト」

コピーキュアピーチ「バカな、なんなのあの展開力」

あきら「すごい」

ジャツカル「まだだ、A B F 驟雨のライキリの効果1ターンに1度自分のフィールド上のライキリ以外のB Fの数だけ破壊する」

コピーキュアパツシヨン「なっ、ライキリ以外って事は」

あきら「涙雨のチドリと黒槍のブラストのもよって2枚？破壊ね」

ジャツカル「そうだ、ターゲツトは貴様と貴様だ」

コピーキュアパツシヨン「なっ!!」

コピーキュアベリー「私達」

ジャツカル「さっさと消え去れ、この偽りの姿をした者共よ」

コピーキュアベリー「ぐああああ」

コピーキュアパツシヨン「この私達が」

コピーキュアピーチ「バカな、なんなのあの力」

ジャツカル「まだだ、我は二重召喚発動、もう一度召喚する、来い

！チューナーモンスター弔風のデス」

弔風のデス

鳥獣族／効果

攻撃力1000 守備力1000 レベル4

デスの①に効果は1ターンに1度しか使えない①このカードが召喚 特殊召喚に成功したとき自分のB Fモンスターを対象にして以下の効果を発動する●対象のモンスターのレベルを1あげる●対象のモンスターのレベルを1下げる②墓地に送られたエンドフェイズ時に自分は1000のダメージを受ける

ジャツカル「我は黒槍のブラストのレベルを1下げる」

黒槍のブラスト レベル4↓レベル3

ジャツカル「さらに、スターチェンジャーを発動、これで黒槍のブラストのレベルをさらに、下げる」

黒槍のブラスト レベル3↓レベル2

ジャツカル「レベル4の弔風のデスにレベル2となった黒槍のブラストをチューニング黒き翼勝利を意味する英雄の力を受け今こそ我に勝利をもたらせ！シンクロ召喚！現れるBF星影のノートウング」  
星影のノートウング

鳥獣族／シンクロ／効果

攻撃力2400 守備力1600 レベル6

チューナー＋チューナー以外のモンスター1体以上

ノートウングの①の効果は1ターンに1度しか使用できない。①このカードが特殊召喚に成功したとき相手に800のダメージを与え、相手表側表示モンスターを1体の攻撃力 守備力を800下げる  
②このカードがモンスターゾーンに存在し続ける時自分は通常召喚に加え1度だけ自分のBFモンスターを召喚する

あきら「すごい、このターンで3体のブラックフェザーのシンクロモンスターが3体」

コピーキュアピーチ「バカな、この私が負ける」

ジャツカル「覚えておけ、所詮、紛い物では勝てないって事を、行け、星影のノートウング、奴にダイレクトアタック」

コピーキュアピーチ「なっ、この私が、うわあああああ」

コピーナケワメーケ「ナケワメーケ」

ジャツカル「奴が本体か」

ノーザ「まさかプリキュアでもないあんたに私のコピーがやられるとはね」

ジャツカル「なんだ貴様」

キュアパッション「気をつけてあいつがノーザよ」

ジャツカル「そうか・・・貴様が、よくもあきらを誘拐して下らん脅迫状を送ってきてくれたな」

ノーザ「それがどうした？」

ジャツカル「貴様を潰す」

ノーザ「お前が？私を？下らない冗談ね」

ジャツカル「冗談ではない行け、涙雨のチドリ 驟雨のライキリ」

ノーザ「下らん、弱いわね」

ジャツカル「ライキリとチドリが一瞬で」  
ノーザ「貴様も邪魔」

ジャツカル「ノートウング!!リバース2枚セットターンエンド、この瞬間弔風のデスで我は1000のダメージを受ける」

ノーザ「弱いわね、やりなさいナケワメーケ」

コピーナケワメーケ「コピー」

ジャツカル「何!!驟雨のライキリ 涙雨のチドリ 星影のノートウングをコピーしやがった」

ノーザ「やれ、コピー達よ」

ジャツカル「まずい!!」

ノーザ「どうした打つ手もあるまい」

キュアパイン「どうしよう、強すぎる」

あきら「今のつて確か」

ジャツカル「そうだ、ライキリの効果だ」

あきら「コピーなのに効果も使えるつて事?」

ジャツカル「そうなるな、ピーチ」

キュアピーチ「何?」

ジャツカル「お前達はコピーの方を頼む、我はノーザを潰す」

キュアピーチ「分かったわ」

ジャツカル「我は手札から王家の神殿を発動」

王家の神殿

永続魔法

王家の神殿の① ②の効果は1ターンに1度しか使用できない。

①自分は罫カードを1枚セットしたターンに発動出来る②自分フィールド上の聖獣セルケットとこのカードを墓地へ送りエクストラデッキから融合モンスターを1体選択し特殊召喚する

キュアピーチ「行くよ、ラブサンシャイン」

キュアベリー「エスポワールシャワー」

キュアパイン「ヒーリングブレア」

3人「フレッシュユ」

キュアパッション「吹き荒れる幸せの嵐 プリキュア・ハピネスハ

リケーン」

4人「これで終わりよ、ラツキークローバードランドファイナーレ」

ジャツカル「やった」

ジャツカル「我はセルケトを召喚」

聖獣セルケト

天使族／効果

①自分フィールド上に王家の神殿が存在しない場合このカードは破壊される。②このカードがモンスターゾーンにいるとき破壊したモンスターは除外される③このカードが戦闘で破壊した場合攻撃力を500アップする

ジャツカル「あきら、お前の敵とつてやるからな・・・ノーザ貴様は許さん、貴様を倒す、この我が」

ノーザ「どうやって倒す？さつきも無駄だったではないか」

ジャツカル「だが今度はどうかな？我はセルケトと王家の神殿を墓地へ青眼の究極竜」

青眼の究極竜

ドラゴン族／融合

攻撃力4500 守備力3800 レベル12

青眼の白龍＋青眼の白龍＋青眼の白龍

キュアピーチ「すごい」

キュアベリー「なんか強そうね、あの竜」

ジャツカル「さらに、融合発動」

あきら「ここで融合」

ジャツカル「我は青眼の究極竜とカオスソルジャーで融合、青き眼を持つ三つ首竜よ、混沌を斬りさく騎士と一つとなりて新たな力を産み出さん、融合召喚、現れろ！究極竜騎士マスターオブドラゴンナイト」

究極竜騎士

ドラゴン族／融合

攻撃力5000 守備力5000 レベル12

カオスソルジャー＋青眼の究極竜

このカードは融合召喚でしか特殊召喚出来ない。①このカードの攻撃力は自分フィールド上のドラゴン族モンスター数×500アツプする

ジャツカル「あきらが世話になったな、だったらそのお礼だ、苦しまずに消してやるこれで終わりだノーザ、究極竜騎士で攻撃ギヤラクシーストリーム」

ノーザ「無駄だ」

ジャツカル「無駄なのは貴様だ」

ノーザ「バカな、この私が最高幹部である私がぐああああ」

桃園ラブ「やった」

蒼乃美希「ノーザを一撃で」

山吹祈里「倒した」

東せつな「なんて破壊力なの」

ジャツカル「お前ら、すまなかったな」

桃園ラブ「気にしないでください、あんなことがあったら勘違いもします」

ジャツカル「ありがとう、さて戻るぞ、皆が心配してる」

あきら「はい」

ジャツカル「お前らも来い」

4人「はい、ありがとうございます」

勝利を我が手に　ホープ剣ライトニングファイナーレ

ラブ「つまりあなた達は新人だって事ね」  
せつな「よろしくね」

いちか「はい」

あおい「それよりさ」

ジャツカル「おいちよつといいか？」

全員「はい」

ジャツカル「誰だ？壁にでかい穴を開けたバカは？」

ゆかり「私じゃないです」

あきら「私は入りましたけど、違います」

りん「私は下にいました」

いちか「そう言えばあおちゃん数分前、ゆかりさんの手伝いしてて椅子投げてなかった？」

ひまり「そう言えば、その後手が滑って椅子がどこかに飛んでっ  
たっつて」

響「そう言えば、上にいたとき椅子が飛んできてジャツカルさんの部屋の壁を壊してたような」

ジャツカル「あおい、お前か？（怒）」

あおい「ま、まさかそんなわけ」

きらら「大人しく、自分のやったこと認めた方がいいわよ」

うらら「もう誤魔化しは聞かないと思いますよ」

あおい「うっ・・・だけど、私はゆかりさんが届かない場所に置いただけで」

あかね「そろそろ堪忍した方がええで」

なお「嘘つくなんて筋が通らないよ」

れいか「そうですよ、嘘をつくって事は隠したいことがあるからです」

トワ「そうですわ、お兄様も嘘つくことはいけないって言ってますわ」

リコ「そろそろ諦めた方がいいんじゃない」



あおい「うつ、ごめんなさい、私です」

ジャツカル「馬鹿かお前はそもそもお前は何の考えも無しに投げ  
るんだ？お前は馬鹿か？」

あおい「それは・・・」

ジャツカル「そもそもお前は何を考えてゆかりの手伝ってたんだ  
？」

あおい「うつ、うわあああ」

あきら「よしよし、大丈夫？」

ひまり「ジャツカルさん、そのくらいにした方が・・・」

ジャツカル「・・・今日はひまりに免じて許してやる、ただし、壁  
直しとけよ」

あおい「分かりました」

ラブ「皆さん」

ジャツカル「？」

ラブ「これから暇ですか？」

ジャツカル「確かに暇だが」

いちか「私達も暇です」

ラブ「でしたらトリニテイのステージを見に行きませんか？」

きらら「トリニテイって？」

ジャツカル「それってVHERO？」

ラブ「違います、ダンスユニットの名前です」

ジャツカル「あつ、そうなの、ダンスは苦手だな」

あおい「ジャツカルさんが踊るわけでは無いと思いますよ」

美希「確かにそうですね」

あおい「私は残ります、ジャツカルさんの部屋の壁を直します」

祈里「分かったわ」

そして20分後

ジャツカル「なかなかのダンスだが・・・（何か嫌な予感がする）」

ひまり「うまいですね」

こまち「そうですね」

サウラー「下らん、笑顔だ、まあいい、ナキサケーベ我に使えよ」

ステレオナキサケーベ「ナキサケーベ」

ジャツカル「ちつ、我の邪魔をするか」

いちか「みんな行くよ」

全員「うん」

ジャツカル「我は手札からバイスドラゴンを特殊召喚、さらにダークリゾネーターを召喚そしてレベル3のダークリゾネーターにレベル5のバイスドラゴンをチューニング業火の炎と共に地獄の果てより甦れシンクロ召喚」

キュアカスタード「レベル8と言うことはレッドデーモンズドラゴンですね」

ジャツカル「邪魔する連中をすべて焼き払え、レッドデーモンズドラゴンズカーライト」

レッドデーモンズドラゴンズカーライト

ドラゴン族／シンクロ／効果

攻撃力3000 守備力2500 レベル8

チューナー＋非チューナー1体以上

①このカード名はレッドデーモンズドラゴンとしても扱う②1ターンの1度このカード以外の攻撃力を持つ特殊召喚されたモンスターをすべて破壊し破壊した数×500のダメージを与える

キュアシヨコラ「レッドデーモンズドラゴンズカーライト」

キュアトウインクル「レッドデーモンズドラゴンの進化版ってところね」

キュアパッション「彼つてあんなドラゴンも出せたの？」

キュアマカロン「あれはシンクロ召喚よ」

キュアパイン「シンクロ召喚？」

キュアカスタード「説明します、シンクロ召喚はチューナーと非チューナーを墓地へ送り、レベルの合計を合わせたカードを召喚出来るんです。それだけじゃありません、ジャツカルさんは他にエクシーズ召喚多数召喚を行うペンデュラム召喚そしてリンク召喚、儀式召喚です」

キュアパイン「あとは私達の時に使った融合召喚ね」

ジャツカル「レッドデーモンズドラゴンスカーライト、奴を焼き払えアブソリユートオメガフォース」

ステレオナキサケーベ「ナキサケーベ!!」

ジャツカル「何!!(バカなレッドデーモンズドラゴンスカーライトの効果が効かないだと)」

ステレオナキサケーベ「ナキサケーベ!!」

キュアルージュ「レッドデーモンズドラゴンスカーライトの効果  
が」

ミルキイローズ「効いてない!!」

ジャツカル「バカな、奴の攻撃力はレッドデーモンズドラゴンスカーライトより下なはず・・・(もしかして攻撃力をあげたのか)」

キュアフエリーチエ「どういうこと」

キュアマジカル「まさか、ナンバーズが!!」

キュアミラクル「でも何のナンバーズが」

ジャツカル「もしかしたら奴はN.O.73アビススピラツシュだとしたら」

キュアフローラ「アビススピラツシュ?」

ジャツカル「ああ、アビススピラツシュはORUを1つ使い、アビスピラツシュ自信の攻撃力を倍にするつまり2400が4800になりレッドデーモンズドラゴンスカーライトの効果は通らないって事だ」

キュアパッション「えっと、そのナンバーズって?」

ジャツカル「ナンバーズは私の記憶のカード、人間に憑依して操る事も出来る」

キュアパイン「つまりそのナンバーズってカードがナキサケーベに憑依してそれをナキサケーベが能力で攻撃力を上げたって事?」

ジャツカル「ああ」

キュアフエリーチエ「とにかく、そのナンバーズの力を押さえればなんとかなるんですよね」

ジャツカル「ああ」

キュアフエリーチエ「だったら、私が!!」

ジャツカル「待て、万が一他のナンバーズも乗り移ってる事も考えられる」

キュアマジカル「そっか、今までもそうだったよね」  
キュアベリー「そうなの？」

キュアメロディ「はい」

ステレオナキサケーベ「ナキサケーベ」

キュアシヨコラ「レッドデーモンズドラゴンスカーライトが」

キュアマーチ「やられた」

ジャツカル「我は手札から紫炎の道場、六武衆の結束」

六武衆の結束

六武衆と名のついたモンスターが召喚 特殊召喚された度に、このカードに武士道カウンターを1個乗せる（最大2個まで）このカードを墓地に送る事でこのカードに乗っている武士道カウンターの数だけ自分のデッキからドロースする

紫炎の道場

六武衆と名のついたモンスターが召喚 特殊召喚される度にこのカードに武士道カウンターを1つ置く。このカードを墓地に送る事でこのカードに乗っている武士道カウンターの数以下のレベルを持つ六武衆または紫炎と名のつく効果モンスターを1体を自分のデッキから特殊召喚する

ジャツカル「我は真六武衆カゲキを召喚」

真六武衆カゲキ

戦士族／効果

攻撃力200 守備力2000 レベル3

このカードが召喚に成功したとき手札からレベル4以下と名のつくモンスター1体を特殊召喚する事が出来る。自分フィールド上に真六武衆カゲキ以外の六武衆モンスターがいる限りこのカードの攻撃力は1500ポイントアップする

キュアスカーレット「真六武衆カゲキの攻撃力って」

キュアホイップ「攻撃力は200だよ」

キュアルージュ「何で知ってるのよ」

キュアカスタード「だって私達デツキ見ましたし」

ジャツカル「お前から見たのか？」

キュアシヨコラ「見たつて言うか、みゆきさんとのぞみさんがデツキを落としてしまつてその時に」

キュアマカロン「元通りに戻しましたけど」

ジャツカル「ああ、ありがとな」

キュアトウインクル「でも攻撃力200で何が出来るのよ」

ジャツカル「さらに六武衆の結束と紫炎の道場に武士道カウンターを1つ乗せる」

キュアマーマイド「武士道カウンター？」

キュアリズム「カウンターは初めてね」

キュアミューズ「でも、確かにトウインクル言う通り攻撃力真六武衆カゲキの攻撃力はたったの200そんなじゃあのナキサケーベにやられるわ」

ジャツカル「確かに真六武衆カゲキの攻撃力は200だがお前たちと同じでカゲキは仲間がいれば強くなる」

キュアミラクル「でも召喚出来ないよ」

ジャツカル「確かになだが、カゲキの能力により手札からレベル4以下の六武衆と名のつくカードを特殊召喚する、来い六武衆ヤイチ、そして紫炎の道場と六武衆の結束にカウンターが追加される」

六武衆ヤイチ

戦士族／効果

攻撃力1300 守備力800 レベル4

自分フィールド上ヤイチ以外の六武衆が存在する場合1ターンに1度フィールド上にセットされた魔法 罨カードを破壊出来る。この効果を発動するターンこのカードは攻撃出来ない。またこのカードが破壊されるとき他の六武衆モンスターを代わりに破壊する

ステレオナキサケーベ「ナキサケーベ」

キュアミント「そうはいかない、プリキュア・ミントシールド」

ジャツカル「助かる」

キュアスカーレット「プリキュア・フェニックスブレイズ」

ミルキイローズ「ミルキイローズブリザード」

紫炎の道場 カウンター1↓カウンター2

六武衆の結束 カウンター1↓カウンター2

ジャツカル「さらに六武衆の結束の効果このカードを墓地に送り、デッキから2枚ドロウするそして手札から六武衆キザンを特殊召喚、さらに紫炎の道場に武士道カウンターを一つ追加される」

キュアパッション「彼のフィールドには六武衆が3体」

ジャツカル「さらに、二重召喚を発動さらに六武衆ニサシを召喚」

紫炎の道場カウンター2↓カウンター4

六武衆ニサシ

戦士族／効果

攻撃力1400 守備力700 レベル4

自分フィールドにニサシ以外の六武衆モンスターがいる限りこのカードは1度のバトルフェイズ中に2回攻撃する。このカードが破壊されるときこのカード以外の六武衆モンスターを代わりに破壊する事が出来る

キュアサニー「六武衆モンスターが2体これは来るで」

ジャツカル「我は真六武衆キザンと六武衆ニサシでオーバーレイ主を守りし影よ 影武者たる者 その使命を今果たせエクシーズ召喚六武衆の影紫炎」

ジャツカル「さらに、紫炎の霞城発動」

キュアピーチ「なにこれ？」

キュアパイン「お城だよね」

キュアベリー「なんでお城がここに？」

ジャツカル「これがフィールド魔法だ」

キュアパッション「フィールド魔法？」

ジャツカル「フィールド魔法は様々な効果を持っている、紫炎の霞城の場合は六武衆モンスターを攻撃する場合相手は攻撃力が5000ダウンする」

キュアパイン「つまり、今の彼のフィールドのモンスターを攻撃したらナキサケーベの攻撃力が下がるって事ね」

ジャツカル「そうだ、それと、紫炎の道場の効果発動、このカードを墓地に送り、デッキからカウンター個数以下の六武衆モンスターを特殊召喚する」

キュアパッション「紫炎の道場に乘つてた武士道カウンターの数は4つ」

キュアフローラ「つまり、レベル4以下のモンスターを特殊召喚出来るってわけね」

ジャツカル「そうだ、来い、六武衆カモン」

六武衆カモン

戦士族／効果

攻撃力1500 守備力1000 レベル3

自分フィールド上にカモン以外の六武衆モンスターがいるとき1ターンに1度フィールド上にある表側表示の魔法 罨カードを破壊する。この効果を発動するターンこのカードは攻撃出来ない。このカードが墓地に送られる時、他の六武衆モンスターを破壊する

ステレオナキサケーベ「ナキサケーベ」

ジャツカル「何!!全滅だ」と

ステレオナキサケーベ「ナキサケーベ」

ジャツカル「なぜ、奴が全滅出来る」

キュアシヨコラ「ジャツカルさんあいつの肩のあたり、数字が」

ジャツカル「まさか、ナンバーズがもう一体」

キュアシヨコラ「ええ」

ジャツカル「考えられるのはNo. 51怪腕のフィニッシュホールドだつて事だ」

キュアメロディ「怪腕のフィニッシュホールド?」

ジャツカル「ああ、あいつの効果はバトル終了時にORUを使い、カウンターを増やし3つたまったら、相手フィールド上のカードをすべて破壊する効果を持っている、しかも戦闘では破壊されない」

キュアリズム「どうするのよ」

キュアメロディ「私に任せて」

キュアミューズ「ちよつと、メロディ」

キュアメロディ「プリキュア・ミュージッククロンド」

ステレオナキサケーベ「ナキサケーベ」

キュアメロディ「あれっ？効いてない」

キュアリズム「バカじゃないの？貴方、さつき聞いてなかったの？

戦闘では破壊されないのよ、それなのになんで技を撃ち込むのよ」

キュアピーチ「私達で時間を稼ぎます、ジャツカルさんはいかにかい方法を」

ジャツカル「分かった」

フレッシュプリキュア4人「行くよ、ラッキークローバーグランドファイナーレ」

ステレオナキサケーベ「ナキサケーベ」

キュアパッション「あれっ？やった？」

キュアベリー「なんだ弱いじゃない」

キュアジェラート「待つて後ろ」

キュアパッション「えっ？」

ステレオナキサケーベ「ナキサケーベ」

フレッシュプリキュア4人「きやああああ」

キュアパイン「何あいつ攻撃力が上がってる」

キュアパッション「もしかしたら、あいつナンバーズが、あれはN

0.62」

ジャツカル「どうするか」

キュアホイップ「きらっつと閃いた」

ジャツカル「何か分かったのか？」

キュアホイップ「はい、ホープをランクアップさせましょう」

ジャツカル「だがな・・・いや、ホイップありがと、行けるぞ、奴を倒せる」

キュアパッション「ジャツカルさんあいつにN0.62も憑依します」

ジャツカル「N0.62・・・だが、関係ない、これで勝てる、我はゴブリンドバグを召喚し魂を狩る者を特殊召喚さらに2体でオーバーレイ現れる希望皇ホープ」



ステレオナキサケーベ「ナキサケーベ」  
キュアマジカル「なんで今さらホープ」

ジャツカル「こうするだけだ、ホープ1体でオーバーレイ、混沌を切り裂く希望の光、閃光の如く現れよ！シャイニングエクシーズチェンジ、現れるSNO・39希望皇ホープザライトニング」

SNO・39ホープザライトニング

戦士族／エクシーズ／効果

攻撃力2500 守備力2000 ランク5

光属性レベル5モンスター×3

このカードは自分フィールド上のランク4希望皇ホープモンスターに重ねてエクシーズ召喚出来る。このカードはエクシーズ素材には出来ない①このカードが戦闘を行う場合相手はダメージステツプまでカード効果を発動できない②このカードが希望皇ホープモンスターをエクシーズ素材にしているときダメージ計算時にこのカードのORUを2つ使い、ダメージ計算時のみこのカードの攻撃力を5000になる

キュアマーチ「希望皇」

キュアカスタード「ホープザライトニング」

ジャツカル「バトル、ホープザライトニングで攻撃その瞬間効果発動、ORUを一つ使い、攻撃力を5000とする」

キュアパッション「でも攻撃力をあげても、あいつは戦闘では破壊されないわ」

ジャツカル「だがホープザライトニングが攻撃するとき、効果は発動できない」

キュアサニー「なんやろ、すごい殺意の塊やないか」

キュアピーチ「私達も続くよ」

キュアベリー キュアパイン キュアパッション「うん」

フレツシュプリキュア4人「ラッキークローバードランドファイナーレ」

ジャツカル「ホープ剣ライトニングスラッシュ」

ジャツカル キュアピーチ「食らえホープ剣ライトニングファイナー

レ」

ステレオナキサケーベ「ナキサケーベ」

キュアパツシヨン「やった」

ジャツカル「ナンバーズ回収完了」

あきら「やったね、ジャツカルさん」

ジャツカル「ああ皆のお陰だありがとう」

ゆかり「いいのよ、私は面白かったし」

やよい「ホープがかったこよかった」

れいか「そうですね」

## きららの夢 進化する希望の光

きらら「はあ」

トワ「どうしたんですの？きらら」

きらら「このままでモデルになれるのかなって思ってた」

トワ「そう言えばきららの夢ってトップモデルになることでしたよね」

きらら「うん」

ジャツカル「お前ならなれるんじゃないか？」

きらら「ジャツカルさん」

ジャツカル「きらら」

きらら「はい」

ジャツカル「お前は自分の道を見失うな、お前には夢があるんだから、我みたいに夢なんかとつくの昔に断たれたわけではないんだ、だから、諦めるな」

きらら「えっ？それってどういう・・・」

ジャツカル「その言葉の意味だ、我はとつくの昔に夢を断たれた」

きらら「ちよっと」

トワ「きらら、足元に何か落ちてますわ」

きらら「なにこれ？写真？」

あおい「それはジャツカルさんがエクシード次元にいた頃の写真です」

きらら「エクシード次元？」

ひまり「彼は次元旅行者でエクシード次元ってところから来たんです」

きらら「そうだったの」

トワ「それよりこの女の子は誰んですの？なんか、はるかに似てる感じがするんですわ」

ゆかり「彼女は黒咲瑠璃、ジャツカルさんがこっちに来る前にデュエルしてた相手よ」

きらら「それでその瑠璃って娘は今？」

あきら「それが分からないんだ、多分、どこかで生きてるとは思うんだけど」

トワ「それって」

いちか「瑠璃って娘アカデミアって連中に誘拐されたらしくて」

きさら「そうだったの、そう言えばさつきジャツカルさんは夢はとつくの昔に断られたって言ってたけど・・・」

あきら「多分、恋人の事だよ、ジャツカルさんの恋人は殺されたんだって言ってた、彼がデュエルで戦ってるのは恋人の言ったデュエルで笑顔をつて言葉を実行してるんじゃないかな」

きさら「彼にそんな過去が」

ゆかり「でもさ、今はあきらが恋人なんだよね」

あきら「そうだね」

ジャツカル「私の記憶のナンバーズ・・・なぜにばらまかれたんだ、あきら達は関係ないのに、ナンバーズの回収に彼女達を巻き込めない」

あきら「ジャツカルさん」

ジャツカル「どうした？」

あきら「私達は気にしてないです」

ジャツカル「なんの事だ？」

あきら「ジャツカルさん、貴方はナンバーズ回収に私達を巻き込んだ事に責任を感じてるんですよね？」

ジャツカル「聞いてたのか？」

あきら「ごめんさい、聞くつもりは無かったです」

ジャツカル「気にするな・・・」

あきら「どうしたんですか？」

ジャツカル「敵だ」

あきら「行きましょう」

ジャツカル「ああ、だけど、今回は闇の力が違う」

あきら「どういう事ですか？」

ジャツカル「まるで、生命力が無い」

あきら「どういう事ですか？」

ジャツカル「簡単に言えば機械生命体だ」

ラブ「それは、ラビリンスの首領メビウスです」

あきら「メビウスって」

せつな「ラビリンスの正体は巨大コンピュータなんです」

ゆかり「つまり、そのメビウスって奴を倒せばいいのね」

祈里「はい、ですが、メビウスは情報を管理することが出来ます」

ジャツカル「くだらん、さっさとそのメビウスって機械生命体を

ぶっ壊せば済むんだろ？だったら行くぞ、さっさと」

せつな「分かりました」

きらら「待つてください」

ジャツカル「どうした？」

きらら「私も行きます」

せつな「分かりました、行くよ、アカルン、私達をラビリンスへ」

アカルン「キー」

ジャツカル「ついたな」

あきら「そうですね」

ジャツカル「さて行くぞ、お前ら」

全員「はい」

ジャツカル「ラビリンス・・・ここにはいい思い出はねえな」

あきら「そうですね」

ラブ「ここがメビウスのいる部屋です」

メビウス「来たか、プリキュア」

あきら「こいつがメビウス」

ジャツカル「コンピュータって事だけあるな」

きらら「そうですね」

メビウス「何しに来た？プリキュア」

ジャツカル「悪いが貴様を破壊しに来た」

メビウス「なんだ、貴様？プリキュアでは無いな、だが貴様は我と

同じ力を持っている」

ジャツカル「同じ力だと？」

メビウス「そうだ、この力だ」

ジャツカル「あれはナンバーズ」

ラブ「とにかく皆行くよ」

全員「うん」

キュアピーチ「メビウス貴方には理解は出来ないよ」

キュアトウインクル「私達には夢があるだから、負けられない」

メビウス「他にもプリキュアがいたとはな、だが我の治安は絶対だ」

ジャツカル「くだらんな」

メビウス「何？」

ジャツカル「貴様は恐怖で支配してるだけだ」

キュアシヨコラ「確かに彼の言う通りよ、貴方は間違ってる」

キュアマカロン「貴方はナンバーズによって暴走してるだけ」

メビウス「くだらん、夢だの愛だの、そんなものは必要ない」

ジャツカル「そうか・・・まあどっちにしる貴様を破壊する目的は

あるんだ、破壊させてもらうぞ、我はワンショットロケットを召喚」

ワンショットロケット

機械族／チューナー

攻撃力0 守備力0 レベル2

このカードが攻撃する場合このカードは戦闘では破壊されない。

そのダメージ計算後攻撃対象のモンスターは攻撃力の半分のダメージを与える

メビウス「ワンショットロケット、攻撃力 守備力共に0」

ジャツカル「そう言えばあいつコンピュータだったな、まあいい、

我は二重召喚を発動、そして地竜星ヘイカン召喚」

地竜星ヘイカン

幻竜族／効果

攻撃力1600 守備力0 レベル3

このカードの効果は1ターンに度しか使えない①フィールド上のこのカードが戦闘または効果で破壊されたときデッキから竜星モンスターを1体守備表示で召喚する②1ターンに1度相手のメインフェイズおよびバトルフェイズに自分フィールド上の竜星モンスターのみをシンクロ素材としてシンクロ召喚を行う③このカードを

シンクロ素材にしたときは戦闘では破壊されない

メビウス「地竜星ヘイカン攻撃表示 攻撃力1600」

ジャツカル「さらに2枚セットしてターンエンド」

キュアトウインクル「攻撃力1600ねえ、どうするのかしら？」

メビウス「これでも食らえ」

ジャツカル「(電磁エネルギーでの攻撃か、多分、テラバイトの影響で攻撃力が上がってるのには間違いない) 我は罨カード決別を発動、手札のピースの輪を墓地へ攻撃を無効化させる」

メビウス「何!!」

ジャツカル「私のターンドロ、我はレベル2のワンショットロケットにレベル3の地竜星ヘイカンをチューニング天と地の間に現れし竜よ、今こそ、おろかな奴に天罰を下せシンクロ召喚、来い! 源竜星ボウテンコウ」

源竜星ボウテンコウ

幻竜族/シンクロ/チューナー/効果

攻撃力0 守備力2800 レベル5

自分は源竜星ボウテンコウを1ターンに1度しか特殊召喚出来ない。①このカードが特殊召喚に成功した場合、デッキから竜星カードを1枚手札に加える②1ターンに1度デッキか幻竜族モンスターを墓地へ送りそのモンスターのレベルと同じになる③表側表示のこのカードが墓地へ送られたとき、デッキから竜星モンスターを1体特殊召喚する

ジャツカル「我は手札からバイスドラゴンを特殊召喚、さらにダークリゾネーターを召喚、我はレベル3のダークリゾネーターにレベル5バイスドラゴンをチューニング絆の力よ、光を作り敵を討て! シンクロ召喚スターダストドラゴン」

メビウス「スターダストドラゴン攻撃力2500」

キュアパッション「そう言えばさつきから思ってたけど、メビウスは彼の出したモンスターのデータを読み取ってない?」

キュアショコラ「そうね」

メビウス「食らえ」

ジャツカル「ターゲットはスターダストドラゴンか!!だがそうはいかん、我はスターダストドラゴンをリリース攻撃を無効、そしてスターダストドラゴンを帰還」

メビウス「こうなったら、貴様らのデータを管理してやる」

キュアベリー「気をつけてデータを管理されたら、何もかもが決められるわ」

キュアマカロン「それってどういう」

キュアパイン「つまり、寿命とかもあいつに決められてしまうって事」

キュアジェラート「冗談じゃない、私達の寿命などを決められてたまるか、うおおおお」

メビウス「無駄だ」

キュアジェラート「くっ」

メビウス「天ノ川きらら12才 立神あおい14才 琴爪ゆかり1

7才 剣城あきら17才」

キュアパイン「まずいわ、皆データが」

メビウス「あとは貴様だけだ」

ジャツカル「管理出来るならしてみろ」

メビウス「いいだろう」

キュアシヨコラ「まずい、ジャツカルさんのデータまで」

メビウス「・・・なぜだ、なぜ貴様のデータが管理出来ない」

キュアパイン「どうしたのかな？」

ジャツカル「残念だったな、我は管理出来ない」

メビウス「貴様、人間か？」

ジャツカル「さあな、だが、我は一度死んだ、死人だからだ、年齢つて概念は無い」

キュアシヨコラ「それってどういう事」

キュアマカロン「分からないわ、初めて聞いた」

キュアジェラート「どういう事ですか、それって」

ジャツカル「我は次元旅行者になる前は普通の人間だったが、我は交通事故で一度、命を落としているだが気づいたら生き返ってた、



我は何があつたのかが分からなくてな、すまん、シヨコラ今まで黙ってて」

キュアシヨコラ「そうだったんですか……だけど話してくれて気持ちかがスツキリしました」

キュアマカロン「確かにそれは言いにくいわね」

キュアトウインクル「そうね」

ジャツカル「だから、我は貴様ごときにデータを管理される必要は無いそれどころか貴様は我を管理することが出来ない」

メビウス「なんだと!!」

キュアトウインクル「冗談じゃないわ、あんたの思い通りにさせてたまるものですか、私には夢があるの、こんなところで寿命を決められる覚えは無い」

ジャツカル「トウインクルの言う通りだ、我にもまだやるべき事がある貴様の都合のいい通りに動くはずがない、我はガード・オブ・フレムベルを召喚」

メビウス「ガード・オブ・フレムベル攻撃力100」

ジャツカル「さらに霸王門零と霸王門無限でペンデュラムスケールをセツティングペンデュラム召喚現れる超重武者装留チュウサイ」

超重武者装留チュウサイ

機械族／効果

攻撃力0 守備力0 レベル1

チュウサイの③の効果は1ターンに1度しか使えない①自分のメインフェイズに自分フィールド上の超重武者に手札またはフィールドから装備する②このカード効果でされてる場合装備モンスターにしか攻撃出来ない③このカード効果で装備した自分モンスターをリリースして超重武者モンスターを1体特殊召喚する

メビウス「超重武者装留チュウサイ 攻撃力0そいつらでどうする気だ？」

ジャツカル「レベル1のガード・オブ・フレムベルにレベル1のチュウサイをチューニング今こそTGレシプロドラゴンフライ」

TGレシプロドラゴンフライ

昆虫族／シンクロ／効果

攻撃力300 守備力300

チューナー＋チューナー以外のモンスター1体

1ターンに1度このカード以外自分フィールド上の表側表示で存在するTGカードを選択して選択したモンスターを墓地へ送るさらに墓地へ送るさらに墓地へ送ったモンスターのシンクロモンスター1組が自分の墓地に揃ってれば1組を自分フィールド上に特殊召喚する

ジャツカル「どうした？ 貴様の力見せてみる」

メビウス「ふぎけるな、貴様、さつき夢と言ったなそんなのは不必要」

キュアトウインクル「違う！ 人間には夢があるから頑張れる、機械生命体の貴方には理解出来ない」

ジャツカル「これは、新たな力、トウインクルの夢を守りたいという思いにカードが答えたのか）我はスターブラスト発動1500払いボウテンコウのレベルを2に変更そうだ、トウインクルその思いをカードに込めるボウテンコウとレシプロドラゴンフライそしてスターダストドラゴンでシンクロ召喚しろ」

キュアトウインクル「分かりました」

スターブラスト

魔法

手札またはフィールド上のモンスターを1体選びエンドフェイズまでレベル1つにつき500ポイント支払う

キュアトウインクル「私はレベル2となったボウテンコウレシプロドラゴンフライそしてレベル8のスターダストドラゴンをチューニング集いし思いが新たな夢の扉を開く、光指す道となれリミットオーバーアクセルシンクロ現れなさい今こそ夢を取り戻せシューティン グクエーサードラゴン飛翔」

シューティン グクエーサードラゴン

ドラゴン族／シンクロ／効果

攻撃力4000 守備力4000 レベル12

シンクロモンスター1体のチューナー1体+チューナー以外のシンクロモンスター2体以上

このカードはシンクロ召喚でしか特殊召喚出来ない。このカードはシンクロ素材にしたチューナー以外の数まで1度のバトルフェイズに攻撃出来る。1ターンに1度魔法 罫 モンスター効果の発動を無効にし破壊することが出来る。このカードがフィールドから離れた場合シューティングスタードラゴンを1体エクストラデッキから特殊召喚する

キュアトウインクル「シューティングクエーサードラゴン」

キュアシヨコラ「あんなドラゴンがいたなんて」

キュアジェラート「燃えてきたー」

キュアパッション「トウインクルのラビリンスの皆の夢を取り戻したいそして自分の夢を叶えたいそう言う思いから産まれたカード」

ジャツカル「貴様は罪の無いラビリンスの人々を苦しめ自由を奪った懺悔の用意は出来てるか？メビウス」

キュアトウインクル「メビウス、お覚悟は宜しくて？」

メビウス「覚悟？懺悔？そんなのはする必要がない」

ジャツカル「そうか・・・ならしかたない」

キュアトウインクル「行くよ、シューティングクエーサードラゴン、皆の夢を取り戻すよ」

シューティングクエーサードラゴン「グオアアア」

キュアトウインクル「ギンガ プリキュアギヤラクシーコーラス」

ジャツカル「シューティングクエーサードラゴン、天地創造撃ドリームネクサスシューティングスター」

キュアトウインクル ジャツカル「天地創造撃ドリームギヤラクシーコーラス」

メビウス「貴様らごときに負ける我では・・・なんだこの力は？」

ジャツカル「メビウス、貴様はデータに頼りすぎてた、だから予想外の事態が起きようが対処しきれてなかったって事だ」

キュアトウインクル「私達を強くするのは、人々の思いそして人々の夢を守る力」

ジャツカル キュアトウインクル「それが絆の力だ」

メビウス「絆の力だと、この我がそんな弱き者共に、ぐああああ」

ジャツカル「貴様に足りなかったのは、心だ、チェックメイト」

キュアトウインクル「ごきげんよう」

メビウス「おのれ、こうなったら、貴様らを道連れにしてやる」

ジャツカル「お前らは早く行け、奴は自爆する気だ」

キュアトウインクル「だけどジャツカルさんは？」

ジャツカル「我は大丈夫だ」

キュアショコラ「だけど・・・」

ジャツカル「早く行け、パッション、テレポート頼めるか？」

キュアパッション「はい、アカルン」

アカルン「キー」

ジャツカル「さて、ナンバースを回収した、あとは・・・」

せつな「みんな大丈夫？」

あきら「大丈夫です」

きらら「ですがジャツカルさんが」

ゆかり「彼なら大丈夫よ、多分」

ジャツカル「神の力よ、赤き竜を今日覚めさせ古代の竜達を目覚めさせん、シンクロ召喚現れよ決闘竜 アルティマヤ・ツイオルキン」

アルティマヤ・ツイオルキン

ドラゴン族／シンクロ／効果

攻撃力0 守備力0 レベル0

ルール上このカードのレベルは12として扱う。このカードはシンクロ召喚出来ず自分のフィールド上のレベル5以上のチューナーとチューナー以外のモンスター1体ずつ墓地へ送った場合のみ特殊召喚出来る。①1ターンに1度自分のフィールド上に魔法 罨カードがセットされたときエクストラデッキからパワーツールシンクロモンスターまたはレベル7・8のドラゴン族シンクロモンスターを1体特殊召喚する②フィールド上のこのカードは他のシンクロモンスターがいるとき攻撃及び効果の対象にならない

せつな「ジャツカルさん」

祈里「無事だったんですね」

ジャツカル「ああ」

あきら「でもそのドラゴンは何？決闘竜って言ってましたし」

ジャツカル「こいつはメビウスのナンバーズテラバイトと共にあそこの格納庫に会ったものだ、だが、こいつを入手してから決闘竜の闇のファイルが消えているんだ」

きらら「そうだったんですか、でも無事でよかったです」

## 敵を倒せ 新たな竜

リコ「いったい、今度はどこ？」

みらい「希望ヶ花市ですって」

りん「今度はハートキャッチプリキュアですね」

あきら「そう言えばジャツカルさんは？」

ゆかり「そう言えばどこいったのかしら」

かれん「分からないわ」

その頃、ジャツカルは

ジャツカル「ここは面白いものがおおいな」

その時

明堂院いつき「そこで、何してるの？ここの生徒じゃないよね」

ジャツカル「なんだ？貴様？敵では無きそうだな」

明堂院いつき「ボクは明堂院いつき、ここの生徒会長をやってるんだ、君は？」

ジャツカル「我はジャツカル、いつき、あんたに聞きたい事がある」

明堂院いつき「聞きたいこと？」

ジャツカル「この世界のプリキュアはどこだ？」

明堂院いつき「それならボクだよ、ボクはキュアサンシャイン

ジャツカル「まさか一人じゃないよな」

明堂院いつき「はい」

その時

花咲つぼみ「生徒会長遅いです」

来海えりか「遅いよ・・・だれ？この人」

花咲つぼみ「まさか生徒会長の恋人ですか？」

ジャツカル「な訳ねえだろ、それに恋人ならいる」

花咲つぼみ「そうなんですか？」

ジャツカル「そうだ、我はただ、プリキュアを探してるだけだ」

花咲つぼみ「プリキュアは私達ですがなぜですか？」

来海えりか「もしかしたら、あんた砂漠の使徒？だとしたら容赦は

しないよ」

花咲つぼみ「ちよつとえりか、人の話を聞きましょう」  
来海えりか「仕方無いでしょ、プリキュアを探してるって言ってるし、砂漠の使徒としか考えられないし、プリキュア・オープンマイハート」

ジャツカル「はあ結局こうなるのか」

キュアマリン「いくつしゅ、マリンシユート」

ジャツカル「面倒だな（しかし、手札から発動できるカードがねえな、なら）」

キュアマリン「やったつしゅ」

ジャツカル「あの程度の攻撃で我を倒そうとしてるのか？下らん」  
キュアマリン「嘘！効いてない」

ジャツカル「我はシウルブの魔導騎兵を召喚」

シウルブの魔導騎兵

恐竜族／ペンデュラム／効果

攻撃力1500 守備力1800 レベル4 スケール3

ペンデュラム効果

効果①このカードはモンスターゾーンに存在する限りペンデュラムモンスター以外のモンスターが発動した効果は受けない

キュアマリン「うわっ、なんか出た」

明堂院いつき「あれはデザトリアン・・・にはおかししいしスナツキーにしては姿が違う」

ジャツカル「リバーズ2枚セットターンエンド」

キュアマリン「何で来ようが関係は無いよ、プリキュア・ブルーフォルテウエイブ」

ジャツカル「そうは行くか、手札から工作列車シグナルレッドを特殊召喚、このカードに攻撃を移し破壊されない」

キュアマリン「今度は列車」

花咲つぼみ「マリン落ち着いてください、彼は砂漠の使徒ではありません」

キュアマリン「だけど私達を探してるのは事実だよ、それに変な奴

も出してくるし」

明堂院いつき「でもあれはデザトリアンでもスナツキーでも無いよ」

ジャツカル「お前らいい、誤解してるなら、力づくでも誤解を解く、それだけだ」

明堂院いつき「だけど」

ジャツカル「我は手札からディノンの鋼鉄騎兵を召喚、さらに血の代償」

ディノンの鋼鉄騎兵

恐竜族／ペンデュラム／効果

攻撃力1600 守備力2600 レベル4 スケール5

ペンデュラム効果

効果①このカードがペンデュラムモンスターと戦闘を行う場合ダメージステップ開始時に発動可能。このカードの攻撃力 守備力半分になる

ジャツカル「さらに血の代償の効果を発動、500払い手札からチューナーモンスター、Xセイバーエアベルンを召喚」

Xセイバーエアベルン

獣族／チューナー／効果

攻撃力1600 守備力200 レベル3

①このカードが直接攻撃で相手に戦闘ダメージを与えたとき相手の手札をランダムに1枚捨てる

その時

みなみ「あらっ？楽しそうなことしてるじゃない」

ゆかり「本当ね」

あおい「しばらく見てようよ」

あきら「ダメだから、止めようよ、ねっ」

ジャツカル「お前ら、どうしてここに？」

きらら「私達ねジャツカルさんが遅くて探しに来たら、この状況だったって訳」

りん「どうしてこうなってるの？」



明堂院いつき「実は、えりかもといマリンが彼の事を敵だと思って、先にケンカをふっかけちゃって」

花咲つぼみ「本当にごめんなさい」

ゆかり「別に謝らなくていいわよ、そのお陰で面白いことになってるし」

かれん「結局今どういう状況なの？」

明堂院いつき「今、彼がシユルブの魔導騎兵よディノンの鋼鉄騎兵とシグナルレッドとチューナーモンスターのXセイバーエアベルンを召喚したところです」

響「あちゃー、レベル4が2体とチューナーと非チューナーかあ、以外と本気ね、彼」

ジャツカル「我はシユルブの魔導騎兵とディノンの鋼鉄騎兵でオーバレー」

あきら「何が来るのかな？」

ゆかり「ホープだったりしてね」

あかね「あかんって相手はうちらと同じプリキュアや、ホープなんて殺意の高いのはあかん」

きらら「いいんじゃない、殺っちゃっても」

こまち「そうですよ、先にケンカをふっかけて来たんですもの」

あかね「天ノ川さん、それトップモデルになる人のセリフやない、あと過激発言はよさんかい」

ジャツカル「2体のモンスターでオーバレーネットワークを構築エクシーズ召喚！ 邪悪を食らえ肉食恐竜よ、その炎を巻き上げ愚かな者を焼き払えエクシーズ召喚！ 現れるエヴォルカイザーラギア」

エヴォルカイザーラギア

恐竜／エクシーズ／効果

攻撃力2400 守備力2000 ランク4

恐竜族レベル4モンスター×2

①このカードのORUを2つ使い以下の効果を発動する●魔法

罨カードが発動されたときその効果を無効にして破壊する●自分または相手が召喚 特殊召喚した際それを無効にして破壊する

あかね「良かったホープとちやう」

きらら ゆかり「ちつ、ホープじゃないの、期待しちゃったわ」

あかね「せやからなんでやねん」

りん「あかねさんも大変だね」

あかね「ツツコミはりんさんの仕事でもあるんやで」

ジャツカル「レベル3シグナルレットとレベル3Xセイバーエアベルンをチューニング強固な骨格に守られし者よ、その力で悪を倒せシンクロ召喚甲化鎧骨格インゼクトロンパワー」

甲化鎧骨格

機械族／シンクロ／効果

攻撃力2500 守備力1600 レベル6

チューナー＋チューナー以外のモンスター1体以上

①このカードがシンクロ召喚に成功した場合発動する。このターン、このカードは戦闘 効果では破壊されない

明堂院いつき「すごい・・・あの状況から形成が逆転した」

花咲つぼみ「というか、さつきと姿が違いますよね」

ゆかり「あれがシンクロ召喚にエクシーズ召喚よ」

月影ゆり「なかなかやるじゃない、彼」

ゆかり「そうね」

月影ゆり「私は月影ゆり、明堂学園の高等部よ、私もプリキュアだけどね」

ゆかり「あらっ？貴方も高校生なのね」

月影ゆり「貴方もって事は貴方も？」

ゆかり「ええ、私とあそこにいるあきらは高校生よ、私は琴爪ゆかりよろしく先輩」

月影ゆり「ええ、それに同学年だし先輩じゃなくていいわよ」

ゆかり「あらっ？そう、じゃあゆりさん」

ジャツカル「どうしたシンクロ、エクシーズの前に臆して足が動かぬか」

キュアマリン「そ、そんなわけないでしょ（ヤバい足が動かないどころじゃないチビっちゃった）」

リコ「強がってないで怖いなら、怖いって言いなさいよ」  
みらい「リコがそれを言っちゃう?」

リコ「私は強がってないし計算通りだし」

ことは「はー、強がってるよね」

あおい「同じ青のプリキュアとして恥ずかしい」

あきら「よしよし、大丈夫」

ひまり「でもすごいです、あそこでシンクロ エクシーズと決め  
ちやっただすし」

いちか「そうだね、でもあおちゃんやひまりんもすごいわ」

ひまり「そんなことはないです」

ジャツカル「どうした?早くしろ」

来海えりか「勘違いしてごめんなさい」

ジャツカル「ギブアップか、下らん、貴様はたるんどるぞ」

クモジャキー「そうぜよ、貴様はプリキュアとしてたるんでるぜよ」

花咲つぼみ「クモジャキー」

あおい「あいつは?」

明堂院いつき「あいつは砂漠の使徒の幹部クモジャキー」

ジャツカル「ちっ、幹部かよ、面倒だな」

クモジャキー「プリキュア今日こそ倒してやるぜよ、こいデザトリ  
アン」

バイクデザトリアン「デザトリアン」

のぞみ「みんな行くよ」

少女達変身中

クモジャキー「他にもプリキュアがいたのか」

バイクデザトリアン「僕はただ早く走りたかっただけなのに」

ジャツカル「・・・(あの野郎、我のDホイールを勝手に)早く走り  
たかった?」

バイクデザトリアン「僕はただ早く走りたかった、それなのに練習  
しても上手くならないんだ」

キュアフローラ「それは無いと思うよ、夢があるなら諦めちゃダメ  
だよ」

クモジャキー「下らん、夢だと、そんなの無駄なだけぜよ」

キュアメロディ「他人の夢を馬鹿にするなんて、絶対に」

ジャツカル「おいてめえ、私のDホイールを勝手に使ってたんだ？」

キュアメロディ「・・・私の決め台詞が」

クモジャキー「それがどうしたんぜよ」

ジャツカル「私の物を勝手に使うなどいい度胸してるな」

バイクデザトリアン「もつと早く走りたかった」

ジャツカル「貴様は黙ってる、今度余計な事を口を縫い合わすぞ、貴様の努力が足りねえから今に至ってるんじゃないやねえのか？そもそもな、貴様、自分に甘すぎたんじゃねえのか？それを早く走れないせいにして悔しければ努力してみやがれ」

キュアマカロン「まさか敵に対してジャツカルさんが説教するとはね」

クモジャキー「下らん、努力なんて」

ジャツカル「貴様は黙ってる、そもそも、てめえが事の始まりなんだよ、お前が私のDホイールを勝手に使ったからな」

キュアシヨコラ「なんだろう、敵がかわいそうになってきた」

ジャツカル「そんなことはどうでもいい、さっさとやるぞ、我は手札から妖仙獣右鎌神柱と妖仙獣左鎌神柱でペンデュラムスケールをセッティング」

妖仙獣左鎌神柱

岩石族／ペンデュラム／効果

攻撃力0 守備力2100 レベル4

ペンデュラム効果 ①自分のフィールド上の妖仙獣モンスターが戦闘 効果で破壊される場合代わりにこのカードを破壊する

効果 ①このカードが召喚に成功した場合このカードを守備表示にする。②このカード以外の自分フィールド上の妖仙獣モンスターを対象に出来ない

妖仙獣右鎌神柱

岩石族／ペンデュラム／効果

攻撃力0 守備力2100 レベル4 スケール5

ペンデュラム効果 ①1ターンに1度もう片方のペンデュラムゾーンに妖仙獣カードがある場合このカードのスケールはエンドフェイズまで1になるこの効果の発動、自分は妖仙獣しか特殊召喚出来ない

効果 ①このカードが召喚に成功した場合このカードを守備表示にする②このカードがモンスターゾーンに存在するとき相手は他の妖仙獣を攻撃する事は出来ない

キュアジェラート「霸王門以外の新しいペンデュラムモンスター」  
キュアトウインクル「妖仙獣」

ジャツカル「我は右鎌神柱の効果スケールを1にするが妖仙獣モンスターしか特殊召喚出来なくなる、大地より目覚めし妖の長、怒れる烈風を纏いて大地を抉り現れよ ペンデュラム召喚 今ここに出現せよ 魔妖仙獣大刃禍是」

魔妖仙獣 大刃禍是

獣族／ペンデュラム／効果

攻撃力3000 守備力300 レベル10 スケール7

ペンデュラム効果 ①自分フィールドの妖仙獣モンスターは攻撃宣言時にバトルフェイズ終了時まで攻撃力が300上がる

効果 このカードはペンデュラム召喚でしか特殊召喚出来ない①このカードのペンデュラム召喚は無効化されない②このカードが召喚 特殊召喚に成功した場合フィールド上のカード2枚まで対象にして持ち主の手札に戻す。③このカードを特殊召喚したターンのエンドフェイズ時に手札に戻る

キュアムーンライト「なかなかやるじゃない」

キュアサンシャイン「マリンよかったね、あそこで誤解したままじゃなくて、あのまま誤解した状態だったら、完全び大刃禍是の餌食だったんじゃない？」

キュアマリン「うん、そうかも知れない」

キュアカスタード「確かに彼は執念深いところありますからね」

キュアマリン「・・・嘘」

キュアアクア「嘘じゃないわよ」

キュアマーチ「確かに執念深いところあるから」

ジャツカル「やれ大刃禍是 ウインドカツティング」

クモジャキー「やるじゃねえか」

キュアサンシャイン「ゴールドフォオルテバースト」

バイクデザトリアン「ぼわわわわー」

ジャツカル「ありがとな、キュアサンシャイン」

キュアサンシャイン「気にしないでください」

キュアムーンライト「貴方はクモジャキーを」

ジャツカル「ああ、だが大刃禍是はエンドフェイズ時に手札に戻る」  
クモジャキー「そうはいかんぜよ、ビツクバンクモジャキースペシャル」

キュアマーマイド「ペンデュラムカードが」

キュアホイップ「破壊された!!」

ジャツカル「これはまずいね、行けバニシングレイニアス」

RRバニシングレイニアス

鳥獣族／効果

攻撃力1300 守備力1600 レベル4

①このカードが召喚 特殊召喚に成功したターンの自分のメインフェイズに1度だけ手札のレベル4以下のRRを特殊召喚する

ジャツカル「我は来いRRナパームドラゴニアス」

①1ターンに1度自分のメインフェイズに相手に600ダメージを与える。この効果発動後自分はRR以外のモンスター効果を発動できない②このカードが戦闘で破壊されたときにデッキからRRモンスター1体を特殊召喚する。特殊召喚したモンスター効果は無効になる

キュアカスタード「レベル4が2体来ます」

ジャツカル「我はナパームドラゴニアスとバニシングレイニアスを墓地へ、見せてやる我が新たな竜 今こそ電脳世界より現れし竜よ、不正たる者を排除せよ、リンク召喚ファイアウォールドラゴン」

ファイアウォールドラゴン

サイバース族／リンク／効果

攻撃力2500リンク4 リンクマークー 上／下／右／左

①このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り1度だけこのカードと相互リンクしているモンスターの数まで自分または相手のフィールド・墓地のモンスターを対象にそのモンスターを手札に戻す②このカードのリンク先のモンスターが戦闘で破壊された時手札からモンスター1体を特殊召喚する

キュアピース「なんかかっこいいドラゴン来たー」

キュアジェラート「燃えて来たー」

ジャツカル「バトル、ファイアウォールドラゴンで殲滅のファイヤーストリーム」

クモジャキー「ビツクバンクモジャキースペシャル」

ジャツカル「我の勝ちだ、砕け散れ」

クモジャキー「何、ぐおおお」

ジャツカル「お前では勝てなかったな、その理由はただ一つ我を甘く見ていたって事だ」

明堂院いつき「すごい・・・」

月影ゆり「ええ、あの人の戦い普通じゃない」

花咲つぼみ「そうですね、あそこまでカードを扱えるなんて思っ  
ませんでした」

あきら「あれがジャツカルさんの戦い方だからね」

来海えりか「そうなんだ」

ゆかり「なかには強力な効果を持つてるモンスターもいるんだけど  
ね」

かれん「でもそう思うと彼が敵じゃなくてよかったと思えるわね」

あかね「そうやな（正直ホープ系統の効果は食らいたくないしほん  
ま味方でよかったで）」

エレンの願いとせつなの祈り 闇の翼と恨みの猛毒  
竜

いつき「あれが彼の戦い方だったなんて知らなかった」

つぼみ「私もです。あんな戦い方する人始めてみました」

みなみ「初めは私達もそうでした」

トワ「私達も初めはそうでしたわ」

エレン「でも全部が全部安全ではないのよ、彼の使うカードは」

ゆり「どういう事？」

あきら「彼の持つナンバーズってカードは人間が持つと心の闇を増幅させるんです」

いつき「そうなんだ」

ゆかり「だけどナンバーズは全部が全部危険じゃないのよ」

つぼみ「そうなんですか？」

のぞみ「うん、おしゃもじソルジャーやラツキーストライプはそうでもなかったのよ、おしゃもじソルジャーは本当に無害でラツキーストライプは所持者の運をあげるんだって」

えりか「いろいろあるのね」

いつき「そう言えばそのナンバーズって？」

あきら「ナンバーズは彼の記憶のカードらしいのよ」

ゆり「記憶のカード？」

ひまり「はい、詳しくは分かりませんがジャツカルさんはそう言うてました」

あおい「なあ、ジャツカルさん見なかった？」

いちか「見てないけどどうしたの？あおちゃん」

あおい「ちよつとね、ジャツカルさんに渡したいものがあって」

ひまり「渡したいもの？」

あおい「うん、これ見つけてさ」

ゆかり「これってナンバーズじゃない」

いつき「これがナンバーズってカード」



あおい「はい」

つぼみ「でもなんともないんですか？」

あおい「どうやらこのフォーチュンチュンってカード何も無いみたい」

ジャツカル「どうした？お前ら」

あおい「ジャツカルさん、ちょうどよかったです」

ジャツカル「？」

あおい「あのこれを、渡したくて」

ジャツカル「これはナンバーズか、ありがとよ、あおい」

あおい「えへへ、誉められた」

ゆかり「デレたわね」

あきら「そうだね」

ジャツカル「さてと」

あきら「どこへ行くんですか？」

ジャツカル「ちよつと買い物」

いつき「買い物ですか？」

ジャツカル「ああ」

あきら「手伝いますか？」

ジャツカル「大丈夫だ」

いつき「分かりました」

ジャツカル「一旦忘れ物を取りに来ただけだ」

あおい「そうだったんですか」

あかね「そう言えばうちらはどうするん？」

あきら「そうだね、これからどうしようか」

その時、爆音が聞こえる

あきら「何この音？」

いつき「もしかしたら砂漠の使徒が」

その頃、別な場所では

サソリーナ「いいわよおん、デザトリアン」

コブラージャ「さすがのプリキュアも僕たち2人とデザトリアン2体はきついだらうけどね」

トラックデザトリアン「心配になって落ち着いてられない」

ジャングルジムデザトリアン「もつと遊んでいたいよ」

キュアビート「ハートフルビートロック」

キュアトウインクル「プリキュア・トウインクルハミング」

コブラージャ「何？」

キュアブロッサム「コブラージャ サソリーナ心の花を利用するなんて許せません」

サソリーナ「コブラージャ、どういう事？プリキュアがあんなにいるとは聞いてないわよん」

コブラージャ「くつ、4人だけだと思ってたんだけど、まあいいだろ、やれデザトリアン」

キュアマリン「どうするの？」

キュアサンシャイン「とにかく早く浄化しないと心の花が枯れてしまう」

キュアジェラート「だったら動きを止めます、うおーー」

コブラージャ「くつ、この声は目障りだね、消えろ」

キュアジェラート「えっ、きやあああ」

キュアシヨコラ「ジェラート」

キュアマカロン「強い、あいつらも幹部なの？」

キュアムーンライト「ええ、あいつらはコブラージャとサソリーナどっちも幹部ね」

その頃、ジャツカルは

ジャツカル「とにかく、早く戻らないとな・・・この気配、闇の力、さつさと潰すか」

その頃、ホイップ達は

キュアカスタード「幹部が2体にデザトリアンが2体できてきつすぎます」

トラックデザトリアン「家族が心配だ、早く帰らないと」

ジャングルジムデザトリアン「もつと遊んでいたいよ、帰りたくない」

キュアマーマイド「くつ、戦ってるぶんには問題ないけど負の感情

を暴露されては戦いにくいわね」

キュアスカレット「そうですわね」

コブラージャ「これで終わりだね」

サソリーナ「やっちゃってよおんデザトリアン」

キュアアキラ「くっ、ここまで」

その時

ジャツカル「丑の力を持つ者よ、その斧で敵を倒し猛威を震え エクシーズチェンジ突撃せよ、十二獣ブルホーン」

十二獣ブルホーン

獣戦士族／エクシーズ／効果

攻撃力？ 守備力？ ランク4

レベル4モンスター×2

十二獣ブルホーンの効果は1ターンの1度、自分の十二獣モンスターのの上に重ねてエクシーズ召喚出来る①このカードの攻撃力 守備力はこのカードがエクシーズ素材として十二獣モンスターのそれぞれの数値分攻撃力アップする②1ターンの1度このカードのORUを1つ使いデッキから通常召喚可能な獣戦士族1体を手札に加える

ジャツカル「十二獣のエクシーズモンスターの攻撃力は元々決められてないつまり0扱いになる」

キュアマーチ「でもあの十二獣ブルホーンは簡単にあいつらにダメージを与えたよ」

ジャツカル「確かに、だが、十二獣エクシーズには共通効果がある、それはエクシーズ素材の十二獣モンスターのそれぞれの数値分アップする、つまり元々の攻撃力ではなくその時点の攻撃力だと言うことだ、我が十二獣モンスターを素材としたのは十二獣ラビーナ 十二獣ラムそこから十二獣ハマーコングへ、その時点で攻撃力は1200さらにそこからワイルドボウへその時点でワイルドボウの攻撃力は800+400+1200となり2400さらにそこから十二獣タイグリスへ」

キュアビュートイ「と言うことはタイグリスの攻撃力は800+4

00+1200+2400で」

キュアドリーム キュアハッピー キュアピース「攻撃力は3400」

キュアビューティ キュアアクア「攻撃力3600」

ミルキイローズ「あんた達はバカなんだから黙ってなさいよ」

ジャツカル「そこから十二獣ライカへと言うことは2400+3600で攻撃力6000さらに十二獣ブルホーンへと繋がると9600」

キュアシヨコラ「ブルホーンの攻撃力は9600」

キュアピース「えっと、どういう事？」

ジャツカル「プロレスラーを考えてくれれば分かると思うが、プロレスラーって練習すればするほど強くなるだろ、だけど練習メニューによっても変わる、それと同じだ。プロレスラーを十二獣エクシードと置き換えて練習メニューをORUに置き換えるつまり、十二獣は練習メニューつまり、ORUの十二獣の数だけ強くなるって事だ」

キュアパッション「そう言うこと分かったわ」

コブラージャ「おのれ僕たちを忘れるとはいい度胸してるね」

サソリーナ「私は無視されるのが嫌いなのおおん」

ジャツカル「あつ、お前らいたんだ」

全員「・・・」

キュアアクア「もしかして無視してたんじゃなくて、気づかなかっただけ」

キュアカスタード「そのようですね」

コブラージャ「まさか、気づかなかったとはね」

サソリーナ「結構傷つくわあん」

コブラージャサソリーナ「こうなったらやれデザトリアン」

トラックデザトリアン「家族の安全が気になって落ち着かない」

ジャングルジムデザトリアン「もつと遊んでたい」

ジャツカル「仕方ねえ、悩み解決といきますか、おい、お前、家族の安全が気になって落ち着かないって言ってたが、我も同じだ、友達をアカデミアって連中に誘拐された、あげくの果てにはエクシード次

元が壊滅、そのせいで全く落ち着かねえ、何があつたか知らねえが我にもそう言う気持ちは無事だと思わないでどうする？」

トラックデザトリアン「……」

ジャツカル「大事な者なら信じてやれ」

トラックデザトリアン「……」

ジャツカル「あとは頼んだ」

キュアブロッサム「分かりました、ハートキャッチオーケストラ

トラックデザトリアン「ほわわわー」

ジャツカル「さて次は……お前は知らん」

全員「ええええ」

キュアカスタード「何ですか？」

ジャツカル「我は、気に入らねえ者にはしない」

キュアブロッサム「気に入らないって何ですか？」

ジャツカル「なんとなく」

キュアジェラート「なんとなくってちゃんとした理由は？」

ジャツカル「無い」

キュアフローラ「だからって、そんな」

コブラージャ「悩みを解決するとか言つといてしないとかお前、そ

れでも人間か？」

ジャツカル「お前が言うな」

全員「それは分かる」

ジャツカル「そもそも我は、人間ではないかといって死人でも無い、だがこれだけは言える一度死んでいる、なぜか知らんが助かったとな」

キュアサンシャイン「それってどういう事？」

キュアリズム「私達にも分からないのよ、それが」

コブラージャ「おのれ、こうなったら、ダークブレスレットの力」

サソリーナ「受けてみなさい」

キュアミューズ「どうするのよ、パワーアップしてるじゃない」

ジャツカル「俺がやる、ブルホーンでオーバレイ」

キュアメロディ「そう言えばいたね、ブルホーン」

キュアレモネード「すっかり忘れてました」

キュアベリー「なんか今のブルホーンの気持ち分かる気がする」

ジャツカル「竜の力を持ちし者よその手の槍で大地を震撼させよ、エクシーズ召喚十二獣ドラংশア」

十二獣ドラংশア

獣戦士族／エクシーズ／効果

攻撃力？ 守備力？ ランク4

獣戦士ドラংশアは1ターンに1度同名カード以外の十二獣モンスターの上に重ねてエクシーズ召喚出来る。①このカードの攻撃力守備力はこのカードがエクシーズ素材にしてる十二獣モンスター  
の攻撃力のそれぞれの数値分アップする。②1ターンに1度この  
カードのORUを1つ使用してフィールドの表側表示のカード1枚  
を対象に破壊する。この効果は相手ターンでも使用可能

キュアビート「今度は竜の十二獣」

キュアパッション「確か、ブルホーンの攻撃力は9600それに6  
000プラスすると」

キュアマカロン「攻撃力15600ね」

ジャツカル「リバースカードセットターンエンド」

コブラージャ「おのれ貴様を倒す」

サソリーナ「行きなさい、デザトリアンあいつを倒すわよおん」

ジャングルジムデザトリアン「食らえ」

ジャツカル「リバースカード」

ジャングルジムデザトリアン「無駄だ」

ジャツカル「なに、リバースカードが発動できない!!」

キュアシヨコラ「どういう事?」

ジャツカル「もしかして、あのデザトリアンナンバーズに」

キュアピース「嘘!!」

ジャツカル「考えられるのは、それだ、多分あのデザトリアンもし  
くは幹部のどちらかの怒りによってナンバーズを引き寄せたんだろ  
う」

サソリーナ「これでそいつも終わりよおん」

ジャツカル「くっ、ドラংশア」

キュアパッション「どうにかして倒さないと（お願い何でもいから力を貸して）」

キュアビート「私達は負けられない、だから力が欲しい」

その時

霸王眷竜クリアウイング「ならば力を貸してやろうか」

霸王眷竜スターヴヴェノム「奴らは気に入らねえだから力を貸すぞ」

キュアパッション「誰？」

霸王眷竜クリアウイング「俺は霸王眷竜クリアウイング」

霸王眷竜スターヴヴェノム「霸王眷竜スターヴヴェノム」

霸王眷竜クリアウイング「貴様ら名は」

キュアビート「キュアビート 黒川エレンよ」

キュアパッション「東せつな キュアパッションよ」

霸王眷竜クリアウイング「エレン、俺を呼べ」

霸王眷竜スターヴヴェノム「我らを呼べばあんな奴らにも勝てる」

キュアパッション「でも召喚方法が」

霸王眷竜クリアウイング「俺はチューナーとチューナー以外の闇属性ペンデラムモンスターだ」

霸王眷竜スターヴヴェノム「闇属性ペンデラムモンスターをリ

リースするだけだ」

キュアビート「分かったわ」

キュアパッション「任せて」

キュアビート「ジャツカルさん」

ジャツカル「なんだ」

キュアパッション「私達にそれを貸してください」

ジャツカル「分かったやってみろ」

2人「はい」

キュアビート「まずは私からドロー、よし、私はチューナーモンスター霞の谷の祈禱師を召喚そして二重召喚でPMキャップチャーを召喚」

PMキヤップチャー

アンデット族／ペンデュラム／効果

攻撃力1800 守備力0 レベル4 スケール5

ペンデュラム効果 ①自分のアンデット族がペンデュラム召喚に成功したときそのモンスターは戦闘 効果では破壊されない

効果①このカードが戦闘で破壊したとき自分の墓地のペンデュラムモンスターを1体手札に加える

キュアビート「私は霞の谷の祈禱師とPMキヤップチャーでチューニング 闇たる翼美しく輝かせ、今こそ悪魔を打ち倒せ！シンクロ召喚刻め心のビート霸王眷竜クリアウイング」

霸王眷竜クリアウイング

ドラゴン族／シンクロ／効果

攻撃力2500 守備力2000 レベル7

チューナー+チューナー以外の闇属性ペンデュラムモンスター1体以上

①このカードがシンクロ召喚に成功したとき相手表側表示のモンスターをすべて破壊する。②1ターンに1度このカードが相手モンスターと戦闘を行う場合ダメージ計算前に発動できる。そのモンスターを破壊して元々の攻撃力分のダメージを相手に与える③このカードが墓地に存在するとき自分フィールドの霸王眷竜モンスター2体をリリースして墓地から特殊召喚出来る

キュアパッション「私は手札から死者蘇生を発動、墓地からPMキヤップチャーを特殊召喚さらに手札から霸王眷竜ダークヴルムを召喚私はダークヴルムとPMキヤップチャーをリリースペンデュラムを引き上げしアンデットよ霸王の眷族と一つとなりて今こそすべてを破壊する竜を誕生させよ！融合召喚！現れよ恨みをまといし猛毒竜 霸王眷竜スターヴヴェノム」

霸王眷竜スターヴヴェノム

ドラゴン族／融合／効果

攻撃力2800 守備力2000 レベル8

闇属性ペンデュラムモンスター×2



このカードは融合召喚及び以下の召喚方法のみ特殊召喚出来る●  
自分フィールドの上記のカードをリリースした場合にエクストラ  
デッキから特殊召喚出来る（融合は必要としない）①1ターンに1度  
このカード以外の自分または相手フィールド 墓地のモンスターを  
1体選択して発動出来る。エンドフェイズ時まで選択したモンス  
ターと同じカード名 効果を得る。このターン自分のモンスターが  
守備表示モンスターを攻撃したとき守備力が攻撃力を越えてれば貫  
通ダメージを与える

キュアシヨコラ「霸王眷竜スターヴヴェノム」

キュアマカロン「霸王眷竜クリアウイング」

キュアピーチ「すごい」

コブラー ज्या「そんな竜2体呼んだところで何になる?」

キュアパッション「私は霸王眷竜スターヴヴェノムの効果発動1  
ターンに1度フィールドまたは墓地のこのカード以外のモンスター  
を選択し名前と効果を得る」

コブラー ज्या「何!!」

キュアパッション「私が選ぶのは霸王眷竜クリアウイング」

キュアビート「2体の霸王眷竜クリアウイングで攻撃」

キュアパッション「その瞬間霸王眷竜クリアウイングの効果発動、  
バトルするときダメージ計算前に戦闘を行うモンスターを1体破壊  
して元々の攻撃力分のダメージを与える」

キュアビート「破壊するのは貴方達のデザトリアン」

コブラー ज्या「何!!」

サソリーナ「これってまずいパターンわよおん」

キュアビート「破壊しろ霸王眷竜クリアウイング、ダークネスミ  
ラー」

ジャングルジムデザトリアン「ほわわわー」

コブラー ज्या「なっ、ぐあああああ」

サソリーナ「ダークブレスレットの力より上回ってる、これは一時  
撤退した方がいいわねえん」

コブラー ज्या「そうだね、サソリーナ」

「キュアビート「逃がさない」

キュアパッション「旋風のヴェノムハリケーン」

キュアビート「響音のクリアビートロック」

コブラージャ「僕たちが負けるなど」

サソリーナ「あり得ないわぁん」

キュアパッション「ありがとう、スターヴヴェノム」

キュアビート「助かったよクリアウイング」

霸王眷竜クリアウイング「グアアオ」

霸王眷竜スターヴヴェノム「グオオオオ」

キュアビート「そう言えばナンバースを」

キュアパッション「クイーンオブナイツ マジカルクラウンミツシ

ングソード ハートランドドラコ デステニーレオそしてマシユマツ

ク回収したわ」

ジャツカル「助かった」

## 目覚める霸王竜 その名はズアーク

あきら「そう言えばナンバーズがあそこまで影響を及ぼしているなんて思わなかった」

ゆかり「確かに、あれは予想外ね」

いつき「あれが、ナンバーズの力なの？」

りん「確かに、そうよ」

ゆり「でもそのナンバーズってカードなんでしょ？なんで、暴走なんかを？」

ひまり「分かりません、しかし、ただのカードではなく、ジャツカルさんの記憶のカードなんです」

つぼみ「記憶のカードってどういう事ですか？」

きらら「そこまでは分からないわ、だけど、ナンバーズはジャツカルさん以外が手にすると危険って事ね」

のぞみ「だけど、ナンバーズは危険な物だけではないみたいです」

あおい「そうそう」  
のぞみ「ラツキーストライプとおしやもじソルジャーは無害でしたよ」

あおい「あとこのフォーチュンチュンもそうらしいよ」

いちか「あおちゃん、なんでナンバーズを？」

あおい「さつき、ジャツカルさんが落とされた見たいで返そうと思つて」

ひまり「それならいいですけどもし、ナンバーズによって暴走していたらどうしてたんですか？」

あおい「そこまでは考えてなかった、でも大丈夫、異常は無いつて前回証明されてるし」

みなみ「大丈夫って・・・暴走したら本当にどうするのよ」

あおい「ごめんごめん」

ジャツカル「どうした？」

あおい「ジャツカルさんちちょうどよかったです」

ジャツカル「？」

あおい「あのこれを」

ジャツカル「それはナンバーズどうしてこれを？」

あおい「さつき落として行きました」

ジャツカル「ありがとうあおい」

あおい「えへへ」

ゆかり「デレたわね」

いちか「あおちゃんかわいい」

うらら「あおいさんかわいいです」

あおい「か、かわいいって言うな」

あきら「よしよし大丈夫？」

あおい「あきらさん」

ジャツカル「でも確かに、かわいかったぞ」

あおい「／＼／＼」

いちか「もしかしてジャツカルさんの事好きになったのあおちやん」

あおい「な、なにいつてるの」

れいか「大丈夫ですよ、恋をするのもそれも道ですよ」

あおい「そ、それは・・・」

いちか「あおちゃん、すごい照れてるね」

あおい「て、照れてないし」

リコ「そろそろ、認めた方がいいよ」

あおい「う、うるさい」

あきら「と言うことは、私とは恋のライバルかな」

あおい「な、何言ってるんだよ、あり得ないし」

あきら「かわいい」

きらら「それより、どうするんですか？」

ジャツカル「何が？」

きらら「ナンバーズ回収です」

ジャツカル「そんなのナンバーズを持ってそんな奴らを片っ端から

潰していくしかないな」

くるみ「まあジャツカルさんらしいと言えはらしいんですけどね」

あきら「でも思いきった事をしますね」

ジャツカル「まあ、誰がナンバーズを持つてるかも知らんのにやつてくのも出来ないからな、だったら、ナンバーズを持ってそうなのやつを片っ端から潰していくって方法しかないだろ」

あきら「それもそうですね」

ゆかり「彼の考えとても面白いわ」

ひまり「ジャツカルさんとゆかりさんって似た者同士ですね」

うらら「そうですね」

響「それより、私達はこれからどうします?」

奏「バカじゃないの、まずは敵を倒さないと状況を把握しなさいよ」  
ジャツカル「だが、その肝心の敵がどこにいる? 探さないと敵を潰すって言っても無理じゃね」

奏「正論過ぎて返す言葉もございません」

響「あはははは、奏正論言われてる」

奏「うるさい」

ジャツカル「・・・おかしい」

あきら「何がですか?」

ジャツカル「あの星、妙だ」

きさら「星・・・ですか? 見えませんけど」

あかね「何がどのようなにおかしいか言ってくれへんと分からへん」  
ジャツカル「悪いな、だが、言ってもいいが、ますます分からなくなると思うぞ」

全員「?」

ジャツカル「あれは太陽ではないのは事実、今日は惑星直列の日だが、外合が行われてない、ましてや近日点にしてはおかしすぎる地球に近づきつつあるのは事実、確かに、パティスリーの地下に星の光年を求める機械を設置した、あれを見てくる」

いちか「いつの間にそんなものを」

ジャツカル「いちかは我に言ったよな、使っていない部屋は自由に使つていいとだから使わせてもらった」

そして20分後

ゆかり「どうだったの？」

ジャツカル「やはりおかしい」

みらい「何がですか？」

ジャツカル「星の移動距離だ」

全員「？」

ジャツカル「1光年は30万km/秒×60秒×60分×24時間×365日÷9兆4800kmなんだがあの星は4倍になっている」

あかね「ジャツカルさんちよつとたんま、みゆきがショートしてしまつとるんです」

ジャツカル「やつぱりな、天文用語がまぎつちまうから分からなくなるそれでショートしたんだろ」

れいか「それってつまり」

ジャツカル「つまりボーリングを考えろ、ボーリングのピンを全部倒すにはボールをまっすぐ投げる必要がある、だがボールが少しでもずれてしまうと全部は倒れない、つまり惑星をボーリングのボール我が見た星をボーリングのピンと例える、惑星直列を行うためにはボーリングのピンをすべて倒す必要がある、だが我の見た星はピンが1本だけ倒れない状態なのだ、普段なら全部倒すのが普通だって事だ」

みなみ「簡単に言えば一つだけ異常な動きって事ですか？」

ジャツカル「そう言うことだ」

響「うーん、天文用語を出されてもますます分からないよお」

ジャツカル「それにおかしいのは、あの星は砂漠ばかりで生命反応が1つある、あとは、城がある程度だ」

つぼみ「もしかして」

ひまり「どうしたんですか？」

いつき「多分、あれは惑星城だよ」

あおい「惑星城？」

ゆり「惑星城は砂漠の使徒の首領デューンがいる場所なんです、だけど、デューンは倒したはず」

はるか「つまり首領と戦うって事ですか？」

いつき「そう言うことだね」

あきら「でもどうやっていくの？」

せつな「それなら大丈夫ですよ、アカルン」

アカルン「キー」

せつな「私達を惑星城に連れてって」

アカルン「キー」

つぼみ「ここが惑星城です」

ジャツカル「間違いねえな、我が見たのと同じ景色だ」

美希「もうやだ、こんな砂ばつかりのところ」

きらら「そうですね」

ジャツカル「お前たち一応変身しとけ、敵が来たらすぐ戦闘に入れるようにな」

全員「はい」

デューン「来たか、キュアブロッサム、ブロッサム達はまだしも、他の連中は見ない顔だが誰だ？」

キュアドリーム「私達もプリキュアよ」

デューン「他にもプリキュアがいたんだ、僕は砂漠の使徒の首領デューン、よろしく」

キュアシヨコラ「あいつから、とんでもない力を感じる」

キュアメロディ「関係ない、プリキュア・ミュージッククロンド」

デューン「無駄だよ」

キュアメロディ「ミュージッククロンドが」

キュアマカロン「無力化された」

キュアドリーム「プリキュア・シューティングスター」

ミルキイローズ「ミルキイローズ・ブリザード」

デューン「まずい!!うわあああ」

キュアドリーム「やった」

デューン「効かないよ、そんな技」

キュアドリーム ミルキイローズ「きやあああ」

キュアサンシャイン「おかしい、デューンにはあんな攻撃力は無かったのに」

ジャツカル（もしかしてナンバーズか奴にとりついてるのは、94

と12)

デューン「無駄だよ」

ジャツカル「(あれは95だったら、これで)業火の炎をと共に地獄の果てより甦れシンクロ召喚 邪魔する者を焼き払えレッドデーモンズドラゴンスカーライト」

デューン「そう言えば君もいたね、いいよプリキュアもろとも葬つてあげるよ」

ジャツカル「無駄だ、レッドデーモンズドラゴンスカーライトの効果このカードより攻撃力の低いモンスターをすべて破壊して破壊したモンスター数×500ダメージを与える、消え去れ、アブソリュートオメガフォース」

デューン「ちっ、ぐあああああ」

キュアリズム「ジャツカルさん」

キュアマリン「今度こそやったっしゅ」

ジャツカル「いや、まだだ」

キュアムーンライト「あいつ、不死身なの?」

デューン「そのドラゴンやるじゃん、だけど、消えなよ」

キュアミント「そうはいかないわ、プリキュア・ミントリフレクシオン」

デューン「無駄なのに」

キュアミント「えっ、きゃあああ」

デューン「邪魔されたけど、そのドラゴン貰うよ」

キュアアクア「なにいつてるのあいつ」

デューン「ほら、こっちに来なよ」

キュアトウインクル「嘘、レッドデーモンズドラゴンスカーライトが」

キュアスカーレット「あいつの元へ」

ジャツカル「面倒なナンバースにとりつかれたなお前」

キュアジェラート「どういう事?」

ジャツカル「奴にとりついてるのは、ビッグアイ クリムゾンシャドー 銀河眼の光子竜皇 クリスタルゼロ ギャラクシーアイズ



「ダークマタードラゴン」

キュアサニー「ギヤラクシーアイズモンスターが2対もなんかチート臭がするんやけど」

ジャツカル「確かに、強力なカードばかりだ、しかもレッドデーモンズドラゴンスカークライトは奴の手中にある、ヤバイな、これは」

どうするのよ「こうなったら、あれを使うか、霸王門零と霸王門無限でペンデュラムスケールをセッティング、来い！ ONiサンダー手をつなぐ魔人、2対のモンスターでオーバーレイ、来い漆黒の竜よ、その力で悪を倒し反逆せよ、エクシーズ召喚四天の竜の1体ダークリベリオンエクシーズドラゴン」

ONiサンダー

雷族／効果

攻撃力 900 守備力 400 レベル 4

①このカードの召喚に成功したときデッキからONiサンダー以外の雷族・光属性・レベル4モンスターを1体手札に加える

手をつなぐ魔人

悪魔族／効果

攻撃力 1000 守備力 1600 レベル 4

①このカードがモンスターゾーンに存在する限り相手は他のモンスターを攻撃することは出来ない②このカードの守備力はこのカード以外の自分のフィールド上のモンスターの元々の守備力の合計分アップする

デューン「無駄だよ、僕はレッドデーモンズドラゴンスカークライトだっけ？こいつの効果使わせて貰うよ」

ジャツカル「何!!」

キュアホイップ「確かレッドデーモンズドラゴンスカークライトの効果果って」

キュアマーマイド「スカークライト以下の攻撃力を持つモンスターをすべて破壊する効果」

キュアカスタード「それだけじゃない、さらに破壊したモンスター数×500のダメージを与えてしまいます」

キュアフェリーチェ「ダークリベリオンエクシードドラゴンの攻撃力は2500」

キュアミラクル「スカーライトより攻撃力が下」

デューン「確かアブソリュートオメガフォースだっけ」

ジャツカル「ちっ」

デューン「僕はレッドデーモンズドラゴンズスカーライトで攻撃」

キュアアクア「そうはさせない、プリキュア・アクアトルネード」

キュアスカーレット「プリキュア・フェニックスブレイズ」

デューン「無駄だつて言ってるでしょ」

ジャツカル「私のターン（融合、本当はクリアウイングシンクロドラゴンを出したかったがレッドデーモンズドラゴンズスカーライトにするか、あいつを早く解放してやらないと）我はペンデュラム召喚、現れるオッドアイズペンデュラムドラゴン、暗黒の狂犬 怨念のキラードールそして融合を発動フィールド上の暗黒の狂犬と怨念のキラードールを融合闇の力で狂いし犬よ怨念がこもりし殺人人形と一つとなりて今こそ、四天の竜を産み出さん！融合召喚！飢えた牙持つ毒竜スターヴヴェノムフュージョンドラゴン」

スターヴヴェノムフュージョンドラゴン

ドラゴン族／融合／効果

攻撃力2800 守備力2000 レベル8

トークン以外のフィールドの闇属性モンスター×2

①このカードが融合召喚に成功したとき相手のフィールドの特殊召喚されたモンスター1体を選択しその攻撃力だけこのカードの攻撃力をアップする②1ターンに1度相手フィールド上のレベル5以上のモンスターを選択し同名カード扱いとして同じ効果をターン終了時まで得る③融合召喚されたこのカードが破壊されたとき相手フィールド上の特殊召喚されたモンスターをすべて破壊する

暗黒の狂犬

獣族／効果

攻撃力1900 守備力1400 レベル4

かつては公園で遊ぶ普通の犬だったが暗黒の力により凶暴化して

しまった

怨念のキラードール

悪魔族／効果

攻撃力1600 守備力1700 レベル4

このカードが永続魔法の効果によってフィールド上から離れた場合自分のスタンバイフェイズ時に墓地から特殊召喚出来る

オッドアイズペンデュラムドラゴン

ドラゴン族／ペンデュラム／効果

攻撃力2500 守備力2000 レベル7 スケール4

ペンデュラム効果 オッドアイズペンデュラムドラゴンの①②の効果はそれぞれ1ターンに1度しか使えない①自分のペンデュラムモンスターの戦闘で発生するダメージは0に出来る②自分のエンドフェイズ時にこのカードを破壊してデッキから攻撃力1500以下のペンデュラムモンスターを1体手札に加える

効果①このカードが相手モンスターと戦闘を行う場合、このカードが相手に与える、ダメージは倍になる

ジャツカル「我はりバース3枚セットでターンエンド」

デューン「無駄なのに」

キュアシヨコラ「そうは」

キュアサンシャイン「行かない、プリキュア・ゴールドフォルテバースト」

ジャツカル「我はりバースオープンリビングゲットの呼び声、甦れ  
ダークリベリオンエクシーズドラゴン」

デューン「無駄だと言ってるのが分からないのか？」

キュアサンシャイン キュアシヨコラ「きやああああ」

デューン「無駄だと言うのがこれで分かったか？」

キュアシヨコラ「ごめんなさい、ジャツカルさん」

ジャツカル「気にするな、これで召喚条件は揃った」

デューン「何？」

ジャツカル「今こそ、奴を復活させる、そうすれば勝利は我らの手に」

デューン「くだらん、何を言うのかと思えば、そんなこけおどしが僕には効かないよ、それに僕にはレッドデーモンズドラゴンスカーライトがいる、終わるのはお前たちだプリキュア」

ジャツカル「だったら、やってみろ」

デューン「なんだと?」

ジャツカル「どうした?デューン怖いのか?当然だぜ、私のセットしたリバーズはこの状況を逆転させるカードだからな」

デューン「ふざけやがって、いいだろう、だったら、望み通りにやってやる、レッドデーモンズドラゴンスカーライトの効果発動」

ジャツカル「我はリバーズオープン超融合」

超融合

速攻魔法

このカードに対して魔法 罨 モンスター効果は発動できない。

①手札を1枚捨て自分 相手のフィールドから融合モンスターの決められた素材を墓地へ送りその融合モンスターをエクストラデッキから特殊召喚する

キュアシヨコラ「超」

キュアアクア「融」

キュアスカーレット「合」

キュアサニー「なんで分けたん」

デューン「それがお前達の勝利へのカードだと笑わせるな、今さら融合など意味がないわ」

ジャツカル「それはどうかな?」

デューン「何!!」

ジャツカル「我は手札を1枚捨て融合 シンクロ エクシーズ ペンデュラムのドラゴンを融合させる」

キュアレモネード「オッドアイズペンデュラムドラゴンはペンデュラムモンスターです」

キュアパッション「ダークリベリオンエクシーズドラゴンはエクシーズね」

キュアフローラ「スターヴヴェノムフュージョンドラゴンは融合

よ」

キュアサニー「せやけど、シンクロであるレッドデーモンズドラゴンスカールライトはあいつのフィールドやで」

デューン「そうだ、シンクロのドラゴンがない貴様ではその融合は不可能」

ジャツカル「超融合は相手フィールド上のモンスターも融合素材に出来る」

デューン「なんだと!!」

キュアマーマイド「と言うことは、レッドデーモンズドラゴンスカールライトも融合可能ね」

ジャツカル「そうだ、我はオッドアイズペンデュラムドラゴンレッドデーモンズドラゴンスカールライト　ダークリベリオンエクシーズドラゴン　スターヴヴェノムフージョンドラゴンを融合　闇より生まれし悪魔よ、人間の欲望より霸王の竜を誕生させよ、融合召喚、今こそ、かの地に降臨せよ霸王竜ズアーク」

霸王竜ズアーク

ドラゴン族／融合／ペンデュラム／効果

攻撃力4000　守備力4000　レベル12　スケール1

ペンデュラム効果　①このカードがペンデュラムゾーンにある限り相手フィールドの融合　シンクロ　エクシーズモンスターは効果を発動できない②1ターンに1度相手がドローフイズ以外でデッキから手札に加えたカードを破壊する

効果　ドラゴン族　融合　シンクロ　エクシーズ　ペンデュラムモンスター1体ずつ合計4体

このカードは融合召喚でしか特殊召喚出来ない①このカードが特殊召喚に成功したとき相手フィールド上のカードをすべて破壊する②このカードは相手の効果対象にはならず相手の効果では破壊されない③このカードが相手モンスターを破壊したときデッキ　エクストラデッキから霸王眷竜をモンスターを1体特殊召喚する④モンスターゾーンのこのカードが戦闘　効果で破壊された時このカードをペンデュラムゾーンに置く

キュアマカロン「あれが」

キュアシヨコラ「霸王竜ズアーク」

デューン「なんだそのドラゴンは」

ジャツカル「我は手札から仮面道化を召喚」

仮面道化

戦士族

攻撃力500 守備力700 レベル2

死の踊りを踊りながら手にする鎌で敵を切り刻む戦士

キュアトウインクル「今さら攻撃力500」

キュアベリー「そんな奴で何が」

キュアピーチ「多分、あのセットしたカードに何かあるんじゃない」

ジャツカル「そうだ、我はリバースオープン霸王の逆鱗発動」

霸王の逆鱗

罨

①自分フィールドに霸王竜ズアークが存在する場合霸王竜ズアーク以外のモンスターをすべて破壊して自分の手札 デツキ エクストラデツキ 墓地からカード名の異なる霸王眷竜モンスターを4体まで召喚条件を無視して特殊召喚する②墓地のこのカードを除外して自分フィールドの霸王眷竜モンスターを選択し自分の墓地 エクストラデツキに表側表示の霸王眷竜ペンデュラムモンスターを2体選び対象のモンスターの下に重ねてエクシーズ素材にする

ジャツカル「我は仮面道化を破壊そして自分のデツキ エクストラデツキ 墓地 手札からカード名が異なる霸王眷竜モンスターを4体召喚条件を無視して特殊召喚する」

デューン「何!!」

キュアサニー「あかんやん、強すぎやそれ」

ジャツカル「来い霸王眷竜ダークリベリオン 霸王眷竜クリアウイ

ング 霸王眷竜スターヴヴェノム 霸王眷竜オツドアイズ」

霸王眷竜オツドアイズ

ドラゴン族／ペンデュラム／効果

攻撃力2500 守備力2000 レベル7 スケール4

ペンデュラム効果①自分フィールド上のモンスターを1体リリースしてこのカードを破壊してデッキから攻撃力15000以下のペンデュラムモンスターを1体手札に加える

効果①自分フィールドの霸王眷竜モンスター2体をリリースしてこのカードを手札から特殊召喚する②自分のペンデュラムモンスターが相手モンスターがいる場合相手に与える戦闘ダメージは倍になる③自分 相手のバトルフェイズにこのカードをリリースして自分のエクストラデッキから表側表示のペンデュラムモンスターの中から霸王眷竜オッドアイズ以外の霸王眷竜モンスターまたは霸王門モンスターを合計2体まで選んで守備表示で特殊召喚する

デューン「ふざけるな、だったら、そいつも僕のしもべにしてやる」  
キュアパイン「まずいわ、このままじゃズアークまで」

デューン「何!!なぜ僕のしもべにならない」

ジャツカル「霸王竜ズアークは相手の効果対象にならない」

デューン「何」

ジャツカル「これで終わりだ、霸王眷竜ダークリベリオン、ダークネスリベリオン、霸王眷竜クリアウイング、怨恨のヘルダイブスラッシュ 霸王眷竜スターヴヴェノム 破滅のデスライトニング 霸王眷竜オッドアイズ 殲滅のデストラクションバースト、霸王竜ズアーク止めだ、奴のくだらん野望を終わらせろ、ダークネスフォートレスバースト」

デューン「バカな、この僕が・・・負ける」

ジャツカル「ビッグアイ クリムゾンシャドー 銀河眼の光子竜

皇 クリスタルゼロ ギャラクシーアイズダークマタードラゴン確保」

せつな「さて帰ろう」

全員「うん」

## ハピネスチャージと合流 今こそ羽ばたけ究極の鳥

あきら「それにしても今日はどこなんだろう？」

ゆかり「どんなプリキュアに会えるか楽しみねえ」

ジャツカル「そうだな」

あおい「それにしても、どこなのかな？」

ジャツカル「さつきぴかりヶ丘って書いてあったぞ」

りん「ぴかりヶ丘って言えばハピネスチャージプリキュアです」

ジャツカル「さつきと、ハピネスチャージプリキュアを探すか」

祈里「そうですね」

ジャツカル「いや、お前たちはキラキラパティスリーに戻っててい  
いぞ、我一人で探す」

せつな「分かりました」

ジャツカル「さてとどこから探索するか」

その時

白雪ひめ「全く私はやりたいようにやっただけなの、そのどこが  
行けないのよ」

氷川いおな「貴方は回りのことを考えないでやってるからダメだつ  
て言ってるの、分かる？」

大森ゆうこ「ちよつと二人とも落ち着いて、ひとまずご飯食べる？」

氷川いおな 白雪ひめ「大丈夫」

愛乃めぐみ「でもさ、あまり大声で喧嘩していると、注意されるよ」

ジャツカル「(なんだあいつら?) おい、お前ら」

愛乃めぐみ「ほら、あまり騒いでるから怒られるじゃない」

ジャツカル「何か会ったのか？」

大森ゆうこ「いいえなにもないです」

愛乃めぐみ「なんでもないです」

ジャツカル「我に偽りが聞くとと思うな、そいつら喧嘩してただろ」

愛乃めぐみ「実は……」

少女説明中

ジャツカル「確かに、好きにやっついていいとは言われたから好きにや



る、確かに、いいことだが、だがな人に迷惑をかけるのは行けないことだ」

氷川いおな「ほら、ひめ貴方が悪いのよ、私達に迷惑かけるから」  
ジャツカル「あまり怒るな、かわいい顔が台無しだぞ、笑顔の方がいい」

氷川いおな「なっ・・・それは」

白雪ひめ「あれっ？いおな照れてるの？」

氷川いおな「ち、違うわよ（だけどなんなのこの胸の高鳴りすごくドキドキする）」

ジャツカル「ちゃんと出来るんじゃないか、お前らには・・・な、我にはもう笑顔なんて無い」

氷川いおな「えっ」

その時

ジャツカル「もしもし、あきらかどうした？いやまだだハピネスチャージプリキュアを探してるんだがいなくてな」

愛乃めぐみ「この人、私達を探してるの？なんのために」

大森ゆうこ「分からないわ」

白雪ひめ「そんなの決まってるでしょ、幻影帝国の一人だからでしょ、いおなも敵に惚れちゃったね」

氷川いおな「でも違うと思うわ」

ジャツカル「悪いな、仲間から電話だった、それじゃ我は行くからな」

白雪ひめ「待ちなさいよ」

愛乃めぐみ「ちよつとひめ貴方の勘違いでしょ」

氷川いおな「それに敵だって確証は」

白雪ひめ「仕方ないでしょ、今がチャンスだしそれに弱そうだし」  
大森ゆうこ「ちよつと」

プリチェンミラー「かわルンルン」

キュアプリンセス「天空に舞う蒼き風 キュアプリンセス」

ジャツカル「なんだ、お前らがプリキュアだったのか？」

キュアプリンセス「貴方を私が倒す」

ジャツカル「ちつ、また勘違いかよ、面倒くせえな」

キュアプリンセス「いくよ、プリンセスカッター」

ジャツカル「ちつ、仕方ねえな、我はブラックボンバーを召喚」  
ブラックボンバー

機械族／チューナー／効果

攻撃力100 守備力1100 レベル4

このカードが召喚に成功したとき自分の墓地の機械族・闇属性・レベル4モンスターを1体表側表示で特殊召喚する。この効果で特殊召喚したモンスターの効果は無効になる

氷川いおな「何あれ爆弾？」

ジャツカル「リバース3枚セットターンエンド」

キュアプリンセス「何がしたいのかは知らないけど私が倒す」

ジャツカル「我はりバースオープン 罨カード針蟲の巣窟」

針蟲の巣窟

罨カード

自分のデッキから5枚墓地に送る

ジャツカル「この効果で自分のデッキの上から5枚墓地に送る」

キュアプリンセス「意味分からないけどそんなことして何になるの？」

ジャツカル「これは掛けだ、来たぜ、我はライトロードビーストウォルフを特殊召喚」

ライトロードビーストウォルフ

獣戦士族／効果

攻撃力2100 守備力300 レベル4

このカードは通常召喚出来ない。このカードがデッキから墓地に送られたときこのカードを特殊召喚する

キュアプリンセス「そんな狼1匹出したところで何になるの？」

プリチェンミラー「かわルンルン」

キュアプリンセス「シャーベットバレエ」

ジャツカル「フォームチェンジか」

キュアプリンセス「プリキュア・アラバスクシャワー」

ジャツカル「甘いな、罨カードオープン緊急同調」  
緊急同調

罨

バトルフェイズ中にシンクロ召喚を行う

ジャツカル「我はレベル3のブラックボンバーにレベル4のライトロードビーストウォルフをチューニング！雷撃の拳よ 邪悪な者を粉碎せよ！シンクロ召喚！轟け稲妻ライトニングウォリアー」

キュアプリンセス「嘘！新しいのが出てきた」

ジャツカル「さらにリバースオープン血の代償」

キュアプリンセス「くつ、どんな効果を持つてるか分からない以上は不可能ね」

大森ゆうこ「すごい、彼あそこまで強いなんて」

氷川いおな「すごい、素敵」

愛乃めぐみ「ダメだいおなちゃんが恋に落ちてる」

ジャツカル「我は次はロケット戦士を召喚」

ロケット戦士

戦士族／効果

攻撃力1500 守備力1300 レベル4

この効果は自分のバトルフェイズ中のみ有効。このカードが受けた戦闘ダメージは0になる。このカードの攻撃を受けたモンスターはターン終了時まで攻撃力が500さがる

ジャツカル「我はさらに血の代償の効果で500支払い風来王ワールドワインド召喚」

風来王ワールドワインド

悪魔族／効果

攻撃力1700 守備力1300 レベル4

①自分フィールド上に1500以下の悪魔族チューナーがいるときこのカードを特殊召喚する。この方法で特殊召喚した場合このターン自分はシンクロモンスターしか特殊召喚出来ない②墓地のこのターンを除外してデッキから1500以下の悪魔族チューナーを1体手札に加える

ジャツカル「貴様にはこれだ、我はロケット戦士と風来王ワイルド  
ワインドでオーバーレイ2体のモンスターでオーバーレイネット  
ワークを構築エクシース召喚！全てを凍らす令嬢よ、奴を凍らし勝利  
を収めよ、現れよ、No. 102 神葬令嬢ラグナゼロ」

神葬令嬢ラグナゼロ

天使族／エクシース／効果

レベル4モンスター×2

1ターンに1度このカードのORUを1つ使い相手フィールド上  
の表側表示で存在する元々の攻撃力と異なる攻撃力を持つモン  
スターを1体選択し破壊しデッキから1枚ドロウする

その頃、キラキラパティスリーでは

あきら「ジャツカルさん、遅いなあ」

ゆかり「なんかあったんじゃない？」

あきら「そうかな」

ゆかり「どうしたの？」

あきら「この気配ナンバーズだよ」

せつな「誰かがナンバーズを使用したって事ですか？」

あきら「もしくは誰かがナンバーズに憑依されたのかも」

ゆかり「とにかく行きましょう」

その頃、ジャツカルは

ジャツカル「どうした？ナンバーズの前に臆したか？」

キュアプリンセス「そ、そんなわけ無いでしょ」

ジャツカル「だったら、勘違いだつて認めな」

氷川いおな「そうだよ、ひめ、認めた方がいいよ」

キュアプリンセス「嫌」

ジャツカル「はあ、仕方ない、ならやれラグナゼロ」

その時

あきら「ジャツカルさんなにしてるんですか？」

ジャツカル「お前からどうして？」

ゆかり「ナンバーズの気配がしたから来たら面白いことになってる  
んですもの」

せつな「ゆかりさん、そんなこと言っていないでください」  
いちか「皆さんあれを」

エレン「あれはNo.102神葬令嬢ラグナゼロ」

ジャツカル「手を出すな、こいつになんとしてでも自分の勘違いを認めさせるしかないからな」

あきら「また勘違いされたのね」

キュアプリンセス「今だ、プリンセスカッター」

あきら「やれやれ、どうする？ゆかり・・・あれっゆかりは？」

エレン「あそこにいます」

キュアマカロン「せーの」

キュアプリンセス「誰？」

キュアマカロン「キュアマカロン出来上がり」

大森ゆうこ「キュアマカロン」

愛乃めぐみ「彼女もプリキュア」

キュアプリンセス「仲間が来たからって変わらないわ」

キュアマカロン「貴方は勘違いしてるようだけど、彼は私達の味方よ、敵では無いわ」

キュアプリンセス「そんなわけ無いでしょ、そんな変なの出してさ」

キュアマカロン「それが彼の戦闘スタイルだからよ」

キュアプリンセス「・・・ごめんなさい、勘違いで」

キュアマカロン「どうします？ジャツカルさん」

ジャツカル「勘違いするのは勝手だが、よく人の話を聞け、あとそこにいるのは分かっている、出てこい」

ナマケルダ「私の気配に気づくとはさすがですな」

ジャツカル「悪いが、我はそういう闇の気配には敏感でね」

キュアシヨコラ「あいつは？」

愛乃めぐみ「あいつは、ナマケルダ幻影帝国の幹部よ」

エレン「幹部ねえ」

いちか達変身中

ナマケルダ「他にもプリキュアがいたとは面倒ですな、サイアーク」  
キュアホイップ「何あれ」

キュアフォーチュン「あれは幹部達が生み出すサイアークつて奴よ、幻影帝国は人間の心の隙をついてくるのよ」

ジャツカル「気に入らねえな、そうやって他の者の心を弄ぶなどよ」  
キュアシヨコラ「それよりなにこれ？」

キュアホイップ「なんかカビだらけ」

キュアハニー「これは、不幸エリアつて呼ばれるエリアよ、幹部達によつて違うけど、あいつはカビにするのよ」

案山子サイアーク「サイアーク」

キュアマカロン「最悪ね、スイーツの力を得ている私達には」

ジャツカル「全くだ、カビだらけの場所は私の趣味ではない（とはいつてもフィールド魔法が来ない以上はどうすることも出来ねえな）」

キュアシヨコラ「このフィールドでは私達は」

ジャツカル「だが、フィールド魔法が出ない」

キュアホイップ「シヨコラ マカロンフィールド魔法が出るまで頑張つてみよう」

キュアシヨコラ キュアマカロン「そうね、分かったわ」

キュアビート「行くわよ、ハートフルビートロック」

キュアラブリー「プリキュア・パッションダイナマイト」

案山子サイアーク「サイアーク」

キュアラブリー「全く、効いてない」

キュアプリンセス「どういう事？」

キュアシヨコラ「まさかあいつが効かないつてのは」

ジャツカル「多分、ナンバーズが憑依してる」

キュアビート「ジャツカルさん」

ジャツカル「どうした？」

キュアビート「あいつの背中に80の文字が」

ジャツカル「ナンバーズ80だと？」

キュアフォーチュン「そんなにヤバイわけ？そのナンバーズ80つて」

ジャツカル「ナンバーズ80は狂装霸王ラプソディ・イン・バーサー

ク。奴は鎧のナンバーズそして装備モンスターの攻撃力を1200  
アップさせる」

キュアパツション「つまり攻撃 防御ともに優秀って事ね」

ジャツカル「そう言うことだ、我は霸王門零と霸王門無限でペン  
デュラムスケールをセツテイニング！ペンデュラム召喚現れよ、RRワ  
イルドヴァルチャー」

RRワイルドヴァルチャー

鳥獣族／効果

攻撃力1600 守備力2000 レベル6

①このカードが召喚 特殊召喚に成功したとき自分のメインフェ  
イズにこのカードをリリースしてレベルの合計が6になるように手  
札 墓地からRRを2体特殊召喚する

ジャツカル「我は、ワイルドヴァルチャーをリリース来やがれRR  
スカルイーグル2体そしてリバースセットし2体のスカルイーグル  
でオーバーレイ運命の黒き翼よ、今羽ばたけエクシーズ召喚RRデビ  
ルイーグル」

キュアシヨコラ「デビルイーグル、懐かしいわね」

キュアマカロン「そうね」

ナマケルダ「そんな鳥1匹出しても無駄ですぞ、行け、サイアーク」  
案山子サイアーク「サイアーク」

キュアパツション「何、あのデビルイーグルって鳥全く話にならな  
い」

キュアシヨコラ「いや、まだだよ」

キュアパツション「えっどういう事？」

キュアマカロン「見てれば分かります」

ジャツカル「我は、速攻魔法RUMデスダブルフォースを発動」

キュアビート「RUM？」

キュアホイップ「説明します、RUMデスダブルフォースは破壊さ  
れたRRのランクの2倍のRRにランクアップさせるんです」

キュアマカロン「それひまりの口癖だよね」

キュアホイップ「つつい使いたくなってしまうって」

一方、ひまりは

ひまり「くしゅん」

あおい「どうした？ひまり風邪か」

ひまり「大丈夫です」

はるか「無理はダメだよ」

ひまり「はい」

その頃、ジャツカル達は

ジャツカル「我は・・・来たぜ」

キュアマカロン「どうしたの？」

ジャツカル「ついに来た、フィールド魔法が」

キュアシヨコラ「本当ですか？」

キュアホイップ「だったら、早く変えましょう」

ジャツカル「ああ、ナマケルダとか言ったな」

ナマケルダ「なんだ？」

ジャツカル「悪いが、このフィールドだとダメだ、私の趣味ではないフィールドチェンジだ」

ナマケルダ「貴方に何ができると言うのだ？まあ無理ですぞ」

ジャツカル「それはどうかな？我は、ダイナミックパワーロードを発動」

ダイナミックパワーロード

フィールド魔法

①フィールド上のダイナミストモンスターの攻撃力 守備力を300アップさせる②自分のダイナミストモンスターが戦闘を行う場合、相手はダメージストップ終了時まで魔法 罫は発動できない

ナマケルダ「なんだですとこれは!？」

キュアフォーチュン「フィールドが変わった」

キュアハニー「一体なんで」

ジャツカル「これはフィールド魔法の効果で張り替えたのだ」

ナマケルダ「おのれ、こうなったら行けチヨイアーク」

チヨイアーク「チヨイチヨイ」

ジャツカル「我は」



案山子サイアーク「サイアーク」

ジャツカル「何!!ダイナミックパワーロードの効果が消えただ!!まさか!!」

案山子サイアーク「サイアーク」

ジャツカル「くつ、我にレボリユーションファルコンだけじゃなくダメーじまで、あいつのナンバーズはギミックパペットジャイアントキラーにショックルーラーそしてプレインコートにブリリアントか」  
キュアビート「今のは?」

ジャツカル「あいつのナンバーズとても厄介だ」

キュアビート「そうなんですか?」

ジャツカル「ああ、なら我は、RUMラプターズフォースを発動」  
RUMラプターズフォース

速攻魔法

①自分のフィールド上のRRが破壊されたときそのモンスターより1つ上のランクのRRを特殊召喚する

キュアホイツプ「新しいRUM」

キュアマカロン「確かレボリユーションファルコンはランクは6」

キュアビート「と言うことはランク7のRRね」

ジャツカル「強力なる兵器庫の鳥よ、怒れるひづめで敵を裂き反逆の力で敵を撃てランクアップエクシースチェンジ現れよ、RRアーセナルファルコン」

RRアーセナルファルコン

鳥獣族／エクシース／効果

攻撃力2500 守備力2000 ランク7

レベル7のモンスター×2

①1ターンに1度ORUを一つ使い、デッキから鳥獣族 レベル4のモンスター1体を特殊召喚する②RRモンスターをエクシース素材にして持っている場合このカードその数まで1度のバトルフェイズ中に攻撃できる③RRモンスターをエクシース素材として持っているこのカードが墓地に送られたときエクストラデッキからRRアーセナルファルコン以外のRRエクシースモンスターを特殊召喚、

墓地のこのカードをORUにする

ジャツカル「次は、RUMレイドフォース」

RUMレイドフォース

①自分のフィールド上のエクシーズモンスター1体を対象としてそのモンスターの1つ高いRRモンスター1体を特殊召喚する②墓地のこのカードと手札のRRを除外して自分の墓地のレイドフォース以外のRUM魔法カードを1枚手札に加える

ジャツカル「勇猛果敢なるハヤブサよ、宇宙の果てより爆撃せよ現れる、RRサテライトキャノンファルコン」

RRサテライトキャノンファルコン

鳥獣族／エクシーズ／効果

攻撃力3000 守備力2000 ランク8

鳥獣族レベル8×2

①このカードRRモンスターを素材にしてエクシーズ召喚に成功したとき相手のフィールド上の魔法 罫カードを全て破壊する②このカードのORUを1つ使い相手の表側表示のモンスターの攻撃力は自分の墓地のRRの数×800ダウンする

キュアシヨコラ「すごい、ランク10のRRモンスター」

キュアフォーチュン「ここまで来るときすがにあのサイアークも」

ジャツカル「ただの案山子ですな」

キュアマカロン「ふふふ、面白いわ」

ジャツカル「まずは雑魚掃除だな、行けサテライトキャノンファルコン」

キュアビート「すごい、宇宙まで」

ジャツカル「お前ら下がってろ」

全員「はい」

ジャツカル「雑魚どもを消し去れエターナルオブバード」

チョイアーク「チョイ、チョーイ」

ナマケルダ「あの数のチョイアークを」

キュアラブリー「一瞬で消し去った」

ジャツカル「見せてやる、お前らにランク10のRRを」

キュアホイップ「ランク10!？」

キュアシヨコラ「どこまでランクアップするのよ」

キュアパツシヨン「ランクアップの祭りね」

ジャツカル「RUMスキップフォース」

RUMスキップフォース

魔法

①自分フィールド上のRRモンスターを1体選びそのモンスターよりランクが2つRRを1体を自分のモンスターに重ねてエクシーズ召喚扱いとして特殊召喚する。②自分の墓地からこのカードとRRモンスターを1体除外して自分の墓地のRRのエクシーズモンスターを特殊召喚する

ジャツカル「究極至高のハヤブサよ、戦場に倒れ行きし戦友の無念を受け継ぎ邪悪を滅ぼす力となれ!ランクアップエクシーズチェンジ!次元を越えて飛翔せよRRアルティメットファルコン」

RRアルティメットファルコン鳥獣族/エクシーズ/効果

攻撃力3500 守備力2000 ランク10

鳥獣族レベル10モンスター×3

①このカードは他のカード効果を受けない②このカードのORUを1つ使い相手のフィールドのモンスターの攻撃力は10000ダウンし相手はカード効果を発動できない③このカードがRRモンスターをエクシーズ素材にしてるとき次の効果を得る●お互いのエンドフェイズごとに相手モンスターの攻撃力は1000ポイントダウンし相手に表側表示のモンスターがない場合は相手に1000のダメージを与える

キュアシヨコラ「これで終わりだ、アルティメットファルコン、奴等を蹴散らせファイナルオーバーラスト」

案山子サイアーク「ゴクラーク」

ナマケルダ「くつ、この私が負けるはずなど無いですぞ、ぐあああ  
あ」

全員「・・・」

ジャツカル「さてと終わったし戻るぞってどうした?」

あきら「い、いえ、何でもないです」

氷川いおな「少しやり過ぎな気もしますけど」

ジャツカル「気にするな、とにかく戻るぞ、あいつらが心配してる」

全員「は、はい」

## 奇跡の光 ゼアルIV（フォース） 出来上がり

ある日、シドニーでは

キュアサザンクロス「ファントム、待ちなさい」

ファントム「なんだ？まだ歯向かうか」

キュアサザンクロス「貴方はここで食い止める」

ファントム「無駄なことを、楽に封印してやる、エターナルゲージ」

キュアサザンクロス「えっ、きやああああ」

ファントム「次は日本に行くか」

その頃、日本では

あきら「ジャツカルさん」

ジャツカル「どうした？」

あきら「記憶の方はどうですか？」

ジャツカル「結構戻りつつある」

あおい「ナンバーズも集まっていますしね」

いおな「三人とも中がいいのね、もしかして三人は付き合ってるんですか？」

あおい「あきらさんはそうだけど、私は違います、恋のライバルです」

いおな「だったら、その恋のライバルに私も入れて貰えるかしら？」

あきら「えっ、ちよつと」

その時

氷川まりあ「いおなちよつといい？」

いおな「お姉ちゃんどうしたの？」

氷川まりあ「キュアサザンクロスがファントムによってやられた

わ、次は日本よ」

いおな「えっ!!分かったわ、彼女達に伝えとくわ」

氷川まりあ「?なんで？」

いおな「彼女達もプリキュアなの、ファントムに狙われる可能性が高いのよ」

氷川まりあ「分かったわ、お願い」

あおい「何かあったんですか？」

いおな「ごめんなさい、実はファントムって奴が日本に来るの」

あおい「ファントム？」

いおな「ファントムはプリキュアハンターって呼ばれていてただプリキュアを狩ることだけを楽しみにしてるの」

あきら「そんな奴が日本に」

いおな「ええ、お姉ちゃんからローマでキュアサザンクロスがファントムにやられたって」

あおい「ふーん、プリキュアって世界中にいるんだ」

その時

ジャツカル「それはそうだろ、その場所を守る奴がいないと敵の思うつぼだからな」

いおな「ジャツカルさん」

ジャツカル「話は聞かせてもらった、そのファントムって野郎気に入らねえ、我がぶつ潰す、プリキュアハンターだか狩人だか知らねえが、本当の狩りを見せてやる」

ゆかり「つまりそのプリキュアハンターって奴を倒せばいいのね面白いわ」

ジャツカル「そう言えば、せつな見なかったか？連絡がとれないんだが、他の奴らもだ」

いおな「知らないわ」

ゆうこ「そう言えば、街をぶらぶらしてくるって言ってたわ」

ジャツカル「だが連絡が・・・まさかファントムにやられたか？」

ゆうこ「めぐみ ひめ「ファントム!!」」

いちか ひまり「ファントム？」

めぐみ「ファントムはプリキュアハンターなの」

ひまり「プリキュアハンター」

ジャツカル「・・・」

あきら「どこに行くんですか？」

ジャツカル「そのファントムって野郎を探してぶつ潰す、喧嘩売る相手を間違えたことを教えてやる」

いちか「行っちゃった」

ゆかり「そう言えば、ハンターって言ってたけどどういう」

いおな「そうね、簡単に言えば」

氷川まりあ「ここからは私が説明するわ、私は氷川まりあ、いおなの姉よ、そしてフアントムにやられたことがあるの」

いちか「えっ」

氷川まりあ「フアントムは倒したプリキュアを鏡に封印するの、あと、自分の手駒として扱うようね」

あおい「封印を解除する方法は？」

氷川まりあ「無いわ、封印を解除する方法なんて」

その時、外から爆音が聞こえる

あおい「今のは？」

いちか「もしかして」

めぐみ「フアントムが」

フアントム「プリキュア出てこい」

キュアラブリー「待ちなさい、フアントム」

キュアプリンセス「ここからは通さない」

キュアシヨコラ「私達が相手だ」

フアントム「まだ、プリキュアがいたのか？なら仕方ない、お前達も潰す」

その頃、ジャツカルは

ジャツカル「どこにいやがるフアントム出てきやがれ、一体どこにいる？見つけたらただではすみません、私の仲間をやってくれたんだからな」

その時、爆音が響く

ジャツカル「今のは、もしかしたらあそこに、フアントムが・・・

あそこって確か・・・まずいあいつらが危ねえ、間に合ってくれ」

その頃、ホイップ達は

あきら「はあはあ」

いちか「あれがフアントムの力」

ひまり「どうするの？」

ゆかり「かなり強いわ」

めぐみ「あいつつってあんなに強かったっけ」

ひめ「それはないけど」

ゆうこ「ヤバイよこれ」

いおな「一体何が？」

ひまり「皆さん、あいつナンバーズに憑依されています」

全員「えっ」

ゆかり「それって何番」

ひまり「ナンバーズ101と98と65と58と57です」

ゆかり「厄介ね、ただでさえナンバーズが5体も憑依してるのにその1体が100越えてるなんて」

ファントム「これで終わりだ、エターナル」

その時

ジャツカル「伝説の闇の力を得し魔導師よ、高度な魔術で敵を撃て、エクシーズ召喚現れよ、伝説の闇の魔導師レジエンダリーマジシャンオブダーク」

伝説の闇の魔導師

魔法使い／エクシーズ／効果

攻撃力2500 守備力2100 ランク7

レベル7モンスター×3

このカードはエクシーズ召喚でしか特殊召喚出来ない。魔法使い族モンスターをORUにしているこのカードが直接攻撃によって相手のライフを0にしたときこのカードにコントローラーはマツチに勝利する

あきら「ジャツカルさん」

ジャツカル「大丈夫か、お前ら？」

全員「はい」

ジャツカル「行け！レジエンダリーマジシャンオブダーク、奴を蹴散らせ、ダークマジック」

ファントム「無駄だ」

キュアラブリー「気をつけてください、ファントムは5体のナン



バースに憑依されてます」

ジャツカル「奴がファントムかしかもナンバーズも一緒にいるとはな貴様を狩り取る理由が出来たぜ」

ひまり「しかし、あいつは57 58 65 98 101です」

ジャツカル「面倒だな、トレスラグリーンにバーナーバイサーそしてジャツジバスターにホープレス S・H・Ark・Knightか」  
ファントム「消えろ」

ジャツカル「レジエンダリーマジシャンオブダークが奴のORUに・・・ならばナンバーズにはナンバーズだ、来い、ペンデュラム召喚来よ！超電磁タートル、朽ち果てた武将」

超電磁タートル

機械族／効果

攻撃力0 守備力1800 レベル4

超電磁タートルの効果はデュエル中に1度しか使用できない。①相手のバトルフェイズ時にこのカードを墓地から除外してバトルフェイズを終了させる

朽ち果てた武将

アンデット族／効果

攻撃力1000 守備力1500 レベル4

このカードが召喚に成功したとき手札からゾンビタイガーを1体特殊召喚する事が出来る。このカードが直接攻撃に成功したとき相手はランダムに1枚捨てる

ジャツカル「2体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築エクシーズ召喚、我の大罪よ、蠢く姿に変え悪を食らう蜘蛛となれ、エクシーズ召喚現れるNo.70デッドリーシン」

No.70デッドリーシン

昆虫族／エクシーズ／効果

攻撃力2400 守備力1200 ランク4

レベル4モンスター×2

①1ターンに1度このカードのORUを使い相手フィールドのモンスター1体を次のエンドフェイズ時まで除外する②このカードが

攻撃したダメージステップ終了時に発動できる。このカードの攻撃力は300アップしランクが3上がる

ジャツカル「さらに我は装備魔法火器付機甲鎧を発動」

火器付機甲鎧

装備魔法

昆虫族モンスターのみには装備可能①装備モンスターの攻撃力は700アップする

ジャツカル「これをデッドリーシンに装備」

デッドリーシン 攻撃力2400↓攻撃力3100

あきら「デッドリーシンの攻撃力が3100になった」

フアントム「やるじゃねえか」

ジャツカル「行け！デッドリーシン」

フアントム「下らんチョイアーク」

ジャツカル「雑魚には用はない消えろ」

チョイアーク「チョイ、チョイ」

ジャツカル「ちっ、だがデッドリーシンの効果発動」

フアントム「無駄だ」

ジャツカル「ちっ、ジャツジバスターの能力か」

フアントム「まとめて消えろ」

ジャツカル「ぐっ・・・何!!俺のライフが700に、バーナーバイ

サーの能力か」

フアントム「まずは貴様から封印してやる」

ジャツカル「くっ、どうすれば・・・あきら大丈夫か?」

あきら「なんとか」

フアントム「これで終わりだ」

ゆかり「待ちなさい、私はまだ立てるわ」

ジャツカル「ゆかり、止めろ」

フアントム「面白い、貴様から封印してやる」

ジャツカル「どうすれば・・・」

その時、まばゆい光がジャツカルを包む

ジャツカル「ここはどこだ?」

九十九遊馬「諦めるな」

ジャツカル「誰だ貴様？」

九十九遊馬「俺は九十九遊馬、ジャツカルか」

ジャツカル「なぜ我の事を知っている？」

九十九遊馬「話はカイトから聞いている」

ジャツカル「カイトから？」

九十九遊馬「ジャツカル、あんたあのあきらって娘の事思ってるんだろ？」

ジャツカル「それがどうした？」

九十九遊馬「だったら、助けてやれ、かつとビングだ」

ジャツカル「かつとビングだと？」

九十九遊馬「かつとビングは常にチャレンジする事だ」

ジャツカル「無駄だ、我のナンバーズはやられた、ゆかりが封印されそうになってるのに何も出来ねえ、笑えよ、我を」

九十九遊馬「いや、出来る、相手が強くてもかつとビング魂があれば必ず勝てる」

ジャツカル「そうか」

アストラル「君の力はまだ未知数だ、だからこそナンバーズは君の記憶とっているんじゃないか」

ジャツカル「今度は幽霊かよ、それでなんだ？我を地獄から迎えに来たのか？」

九十九遊馬「こいつはアストラルだ」

アストラル「ナンバーズは元々は私の記憶だった、しかし、君の力に呼応してナンバーズは君についた」

ジャツカル「たとえそうだとしてもファントムには勝てねえ、奴にはナンバーズが5枚ついている、それにそのうちの1枚はオーバーハンドレットナンバーズだ」

アストラル「確かにオーバーハンドレットナンバーズはドン・サウザントが生み出したカードだ、だが君なら勝てるはずだ、CNOに進化させられる君ならそして君は私も知らないSNOまで生み出した、君になら私の力を与えられる、さあどうする？」

ジャツカル「ああ、やってやるよ、いちかもひまりもあおいもゆかりもそしてあきらも封印させねえ、そして封印された連中をもとに戻す、ファントムをぶっ倒して」

アストラル「それが君の答えか、分かった君に私の力を与えよう」  
ジャツカル「さていくぜ、かつとビングだよな」

九十九遊馬「おう、行ってこい、そしてそのファントムって野郎にぶちかましてこい」

ジャツカル「ああ」

そう言うのと元に戻る

ジャツカル「元に戻ってきた」

あきら「ジャツカルさん」

ジャツカル「心配かけたな」

ファントム「これで貴様を封印する」

ゆかり「ここまでね」

ジャツカル「ゆかりに手出しするな」

ファントム「なんだ？貴様もう打つ手がないのにどうしようと言うのだ？」

ジャツカル「確かに無いしかし、なければ作ればいい、かつとビングだ我、行くぞ、あきら、我に力を貸してくれ」

あきら「分かりました」

その時、ジャツカルとあきらが光出す

あきら「これは」

ジャツカル「かけてみるか、アストラル貴様の力に、ファントム、お前に見せてやるぜ、希望をそして奇跡の光を、我は我自信とあきらでオーバーレイ、2つの魂交わりて闇を断ちきる光とならん、エクシ―ズチエンジ希望の光ゼアルIV出来上がり」

ファントム「なんだと!!」

ゆかり「ジャツカルさんとあきらが」

あおい「エクシ―ズした」

いおな「ゼアルフォース」

ひまり「あんな姿見たことありません」

フアントム「何になろうとそんなこけおどしが俺に効くか、こいつから封印するエターナル」

ゼアルIV（ジャツカル）「調子に乗るなよクズ野郎が」  
ゆうこ「はやい・・・」

精神空間の中

あきら「これは・・・」

ジャツカル「我とあきらの新しい力だ」

あきら「新しい力」

フアントム「おのれ」

ゼアルIV（あきら）「キラキラキラキラキラ」

ゼアルIV（ジャツカル）「封印解除」

りん「助かった」

せつな「えっ、ちょよ、あれどういう状況というか誰」

ゆかり「あれはジャツカルさんとあきらがエクシーズしたゼアルIVです」

れいか「ゼアル」

かれん「フォース」

やよい「かつこいい」

フアントム「ふざけるな、この俺が」

ゼアルIV（ジャツカル）「絶対許さねえ、フアントム」

フアントム「貴様なんかには負ける俺では無い」

ゼアルIV（ジャツカル）「最強デューエリストのデュエルは必然ドロ―

カードすらも創造する」

あかね「それってズルやん」

ゼアルIV（ジャツカル）「我のターンドロ―・・・来たぜ」

ゼアルIV（あきら）「私はペンデュラム召喚、現れなさい真紅眼の凶星竜メテオドラゴン、レッドウルフ」

真紅眼の凶星竜メテオドラゴン

ドラゴン族／デュアル／効果

攻撃力1800 守備力2000 レベル6

①このカードはフィールド 墓地にある時通常モンスターとして

扱う②フィールド上の通常モンスター扱いのこのカードを通常召喚としてもう一度召喚出来る。その場合このカードは効果モンスターとなり以下の効果を得る●このカードがモンスターゾーンに存在する限りこのカード意外のフィールド上のレッドアイズモンスターは戦闘 効果では破壊されない

レッドウルフ

悪魔族／効果

攻撃力1400 守備力2200 レベル6

①自分がリゾネーターモンスターの召喚に召喚に成功したときこのカードを手札から特殊召喚するがこのカードの攻撃力は半分になる

レッドウルフ 攻撃力1400↓攻撃力700

フアントム「今さらそんなもの出しても無駄だ」

ゼアルIV（あきら）「それはどうかしら？」

フアントム「何!!」

ゼアルIV（あきら）「私はレッドアイズの凶星竜メテオドラゴンとレッドウルフでオーバーレイ」

ゼアルIV（ジャッカル）「海底に沈みし大陸よ、現代に蘇り力を示せ、エクシーズ召喚」

ゼアルIV（あきら）「No. 6先史遺産アトランタル」

No. 6先史遺産アトランタル

機械族／エクシーズ／効果

攻撃力2600 守備力3000 ランク6

レベル6モンスター×2

このカードがエクシーズ召喚したとき自分の墓地のNo. を1体選択してこのカードに装備出来る。このカードの攻撃力は効果で装備したエクシーズモンスターの攻撃力の半分の数値アップするまた1ターンに1度このカードのORUを1つ使い装備モンスターを墓地に送り相手のモンスターの攻撃力を半分にする。この効果を使用した場合バトルフェイズは行えない

フアントム「そんな雑魚で何が出来る」

ゼアルIV（あきら）「私は手札からRUMバリアンズフォースを発動、私はアトランタル1体でオーバレイ混沌たる大陸よ、今こそ世界を変え新たな世界の扉を開けカオスエクシーズチェンジ！現れなさい、CN06先史遺産カオス・アトランタル

CN06先史遺産カオス・アトランタル

機械族／エクシーズ／効果

攻撃力3300 守備力3300 ランク7

レベル7モンスター×3

このカードの効果が発動したターン相手を受けるダメージはすべて0になる。1ターンに1度相手フィールドのモンスターを1体選択して1000ポイントアップの装備扱いで装備する。またNO.6先史遺産アトランタルをORUにしてるとき以下の効果を得る●このカードのORUを3つ使い装備したNO. をすべて墓地に送って相手ライフを100にする

フアントム「そんな奴でどうしようと言うのだ？」

ゼアルIV（あきら）「まずはバリアンズフォースの効果発動、このカードを使いエクシーズ召喚したとき相手のORUを1つ奪う、つまりあなたのORU1個貰うわ」

ゼアルIV（ジャツカル）「そして貴様がいるってことは貴様の中のナンバーズもいるって事だ、我は裁断魔人ジャツジバスターを選択しカオス・アトランタルに装備」

なお「うまい、これなら効果を無効には出来ない」

ゼアルIV（あきら）「私はカオス・アトランタルの効果発動、ジャツジバスターとORUを3つ使いあなたのライフもといこの場合は命を100つまり死ぬ寸前に変える、インフェルノゲート」

フアントム「バカな・・・」

ゼアルIV（ジャツカル）「我はリバース2枚セットしてターンエンド」

きらら「何で攻撃しないのよ」

ゼアルIV（ジャツカル）「カオス・アトランタルの効果を使用したターン相手の受けるダメージはすべて0になるからだ」

きらら「ふーん、強いけど代償も大きいって事ね」

ファントム「ふざけるな、この俺がお前らごときに」

ゼアルIV（あきら）「リバーズ発動、攻撃の無力化」

攻撃の無力化

カウンター罠

相手の攻撃宣言時に発動可能。相手の攻撃を無効にしてバトルフェイズを終わらせる

ゼアルIV（あきら）「攻撃を無効にしバトルを終わらせる」

ファントム「この俺が」

ゼアルIV（ジャツカル）「貴様もこれで終わりだ」

ゼアルIV（あきら）「バトル、カオス・アトランタルで攻撃キラキラキラキラキラ、ツイーン・バニツシユメント」

ファントム「この俺が、こんな奴らにぐああああ」

ゼアルIV（あきら）「ミッション成功」

そう言うと元に戻る

ゆかり「戻った」

あきら「ゼアルIV、すごい力」

ジャツカル「ナンバーズ回収トレスラグーン バーナーバイサー

ジャツジバスター ホーププレス S・H・Ark・Knight 回収  
完了」



## 打倒レツド 闇を斬れホープレイヴイクトリー

あきら「新しい力ゼアルIV・・・凄い力だった」

ゆかり「あきらがいる?」

あきら「どうしたのゆかり」

ゆかり「ちよつとね、ゼアルIVについてなんだけど」

あきら「何?答えられるなら答えるよ」

ゆかり「ゼアルIVって私にもなれるかしら?」

あきら「それは分からないなあ、私の気づいたらゼアルIVになってたから」

あおい「ゆかりさんの場合はジャツカルさんとゆかりさんでオーバレー(性的な)痛つ、なにするんですか?あかねさん」

あかね「あかねで、こういう健全なところでそう言う性的とかって下ネタはあかん」

やよい「いいじゃん別に、あかねちゃんのかち」

あかね「やよい、ケチとはなんやねんケチとは」

あきら「なんか騒がしいね」

ゆかり「なんか楽しそうね」

きらら「それより、ゼアルIVになったときってどんな感じ?」

あきら「そ、そうだね、ジャツカルさんと心が一つになったって感じでした」

ことは「はー!すごい」

やよい「心と体もだよね、そしてあんなk」

あかね「言わせへん、そこから先は絶対に言わせへんからな」

その頃、別のところでは

ひめ「そう言えば、こないだのナンバーズの件どうするの?」

ゆうこ「そうね、確かに暴走させる事があるならとても危険ね」

めぐみ「確かにそうだよね」

いおな「・・・」

相楽誠司「おーい、皆」

めぐみ「誠司」

ひめ「どうしたの？」

相楽誠司「いや、たまたま見つけたからな、それより、いおなの様子おかしくないか？」

ゆうこ「そうなのよ、今日ずっとあんな感じ」

相楽誠司「そうなのか、それより、何の話してたんだ？」

めぐみ「何でも無いよ、そうだよねいおなちゃん、あれっ、いおなちゃんは？」

ひめ「あそこ」

ゆうこ「信号赤だよ」

めぐみ「まずいよ、バイク来てる」

相楽誠司「全く」

ジャツカル「危ねえだろ、どこ見てほつつき歩いてんだ、死にてえのか」

相楽誠司「ごめんなさい、ちよつとよそ見してて」

めぐみ「あれっ、ジャツカルさん？」

ジャツカル「あれっ、めぐみ達じゃねえか、どうしたんだ？」

ひめ「ジャツカルさんこそ」

ジャツカル「我はただ車屋に」

ゆうこ「誠司大丈夫？」

誠司「俺は大丈夫だ、それより、いおなが」

ジャツカル「いおな大丈夫か？」

いおな「は、はい」

相楽誠司「それよりさ、お前ら」

ジャツカル「というか、お前ら」

ジャツカル 相楽誠司「知り合いか？」

ゆうこ「そっか、二人とも初対面だよね」

相楽誠司「相楽誠司です」

ジャツカル「我はジャツカルだ、すまんさつきは、こいつらの知り合いとは思ってなくてな」

相楽誠司「気にしないでください、こつちも飛び出したのが悪かったです」

ジャツカル「それより、あんたさ、めぐみの事好きだろ」

相楽誠司「えっ、いや、そんなんじゃないんだけどな、めぐみとはただの幼なじみで」

ジャツカル「まあ照れるなって、それより、車屋ってどこにある？」  
相楽誠司「車屋はこの角を曲がって次の信号を左に曲がれば着くけど」

ジャツカル「助かる」

相楽誠司「もしかしていおな、ジャツカルさんの事が好きなのか？」  
いおな「ちがつ、そんなんじゃない」

相楽誠司「じゃ、俺こっちだから」

めぐみ「気を付けてね」

レッド「見つけた、憎しみの結晶の適合者を」

そしてその夜

相楽誠司「俺が、めぐみの恋人・・・そんなわけない、ただの幼なじみだし」

その時

レッド「見つけたぞ、憎しみの結晶の適合者」

相楽誠司「なんだお前は？憎しみの結晶の適合者？何の事だ？」

レッド「俺はレッド、お前に与えてやる」

相楽誠司「なっ、うわあああああ」

そう言うとレッドの腕に10 32 42 43 72の数字が  
誠司の腕に37 47 50 79の文字が浮かび上がるそして次  
の日

みなみ「それにしてもどうする？」

トワ「確かにそうですわね」

あきら「ナンバーズが私以外の世界にばらまかれてしまったって事  
になっってしまうと厄介だよな」

その時

ダーク誠司「見つけたぞ、プリキュア」

ゆかり「敵!!」

めぐみ「嘘でしょ、あいつは」

ことは「待ってナンバーズに憑依されてる」  
リコ「行くよ皆」

少女変身中

キュアトウインクル「よし、さっさと方つけますか、プリキュア・  
トウインクルハミング」

キュアシヨコラ「やった？」

キュアマカロン「いえ、まだよ」

キュアトウインクル「えっ」

キュアアクア「あれって」

キュアホイップ「ゴゴゴゴレム!!」

ゴゴゴレム

岩石族／効果

攻撃力1800 守備力1500 レベル4

守備表示のこのカードは1ターンに1度戦闘では破壊されない

キュアジェラート「ジャツカルさん」

キュアシヨコラ「なんで敵を」

キュアピーチ「まさか裏切ったの」

キュアラブリー「ジャツカルさんまさか彼を傷つけたくないの？」

キュアパイン「どういう事？」

キュアプリンセス「あいつは、私の友達の相楽誠司って子なの」

キュアハニー「簡単に言えば罪も無い一般人なの」

キュアビート「じゃあ、どうするの？」

キュアパッション「とにかく、助けるしか」

キュアスカレット「どうやって？」

キュアピース「そうだよね」

キュアミューズ「ピースあざとい」

キュアピース「あざとくないもん」

キュアフォーチュン「じゃあ、ジャツカルさんはそれに気づいてゴ

ゴゴレムで守ったって事？」

キュアミント「そうだよね」

ジャツカル「気をつける、そいつはナンバーズによって操られてる」

キュアベリー「ナンバーズによってっ」

キュアフォーチュン「じゃあ、誠司は自分から？」

ジャツカル「いや、何者かが誠司を洗脳しナンバーズを渡した」

キュアハニー「いったい誰が？」

ジャツカル「レッド・・・」

キュアカスタード「レッド？」

キュアラブリー「でもレッドは私達で倒したわ」

キュアフローラ「でもなんで分かったんですか？」

ジャツカル「そいつの手荷物から記憶を読みとった」

キュアマーマイド「そうだったんですか」

ダーク誠司「お前ら俺を忘れるな」

ジャツカル「そうだったな、安心しろ我が元に戻してやる」

ダーク誠司「行くぞ」

ジャツカル「無駄だ、ゴゴゴレムは1ターンに1度破壊されない効果を持つ」

ダーク誠司「そうか、だったらこれならどうだ？」

ジャツカル「直接攻撃だ!!くっ」

キュアアクア「ジャツカルさん」

ジャツカル「大丈夫だ、しかし、あれは、ナイトメアシャークの能力か」

ダーク誠司「今度はこれだ」

キュアフローラ「ゴゴゴレムが」

キュアシヨコラ「破壊された」

ジャツカル「くっ、厄介な、ブラックコーン号の能力か」

キュアリズム「大丈夫ですか？」

ジャツカル「ああ、こうなったら霸王門零と霸王門無限でペンデュラムスケールをセッティング、ペンデュラム召喚来よ!コスモクイーン デビルゾア Aマインド 幻獣機エアロスバード」

デビルゾア

悪魔族

攻撃力2800 守備力1900 レベル8

真の力をメタル化によって発揮されると言われているモンスター

幻獣機エアロスバード

機械族／効果

攻撃力1600 守備力400 レベル3

①1ターンに1度エアロスバード以外の墓地の幻獣機を除外して自分のフィールド上に幻獣機トークン(機械族／風／レベル3／攻撃力0／守備力0)を1体特殊召還する②このカードのレベルは自分のフィールド上の幻獣機トークンのレベルの合計分上がる③自分のフィールド上に幻獣機トークンが存在するときこのカードは戦闘・効果では破壊されない

Aマインド

機械族／チューナー

攻撃力1800 守備力1400 レベル5

A O Jの思考回路を強化するために開発された高性能ユニット。ワーム星雲より飛来した隕石から採取された物質が埋め込まれており高いチューニング力を誇る。その未知なるパワーの謎は未だ解明されていない

キュアフォーチュン「一気に5体も同時召喚した」

キュアマカロン「あれは彼のペンデュラム召喚よ」

キュアカスタード「説明します、ペンデュラム召喚はペンデュラムスケールと呼ばれる物が存在しております。今回の場合は霸王門零がスケール0霸王門無限がスケール13つまり1〜12のモンスターが同時召喚出来るんです。ちなみにペンデュラムモンスターは破壊される場合は墓地ではなくエクストラデッキに戻ります。ペンデュラム召喚の範囲は手札のモンスター及びエクストラデッキのペンデュラムモンスターを召喚出来るんです。しかもそこからエクシーズやシンクロに繋がられるのが強みです、ただし、魔法カード扱いともなりますのでサイクロンや魔法 罨破壊を持つモンスターの効果対象にもなってしまうです」

キュアフォーチュン「つまり簡単に言えばペンデュラムはスケール内のモンスターの同時召喚そして破壊される場合は墓地ではなくエ

クストラデッキに行く。ペンデュラム召喚からシンクロ エクシ  
ズに繋がられるのが強みって事ね」

キュアプリンセス「凄いフォーチュン」

キュアフォーチュン「あんたには理解出来ないわ」

ジャツカル「我はコスモクイーンとデビルゾアでオーバーレイ、逆  
巻く銀河よ、眩き閃光を解き放ち復讐の鬼神眼に宿せ エクシーズ召  
喚来い銀河眼の光波竜」

銀河眼の光波竜

ドラゴン族／エクシーズ／効果

攻撃力3000 守備力2500 ランク8

レベル8モンスター×2

①1ターンに1度このカードのORUを1つ使い相手フィールド  
の表側表示モンスターを1体対象にエンドフェイズ時までコント  
ロールを得る。この効果でコントロールを得たモンスターの効果は  
無効化され攻撃力は3000となり銀河眼の光波竜として扱う。こ  
の効果の発動後、このターン終了時までこのカード以外の自分のモン  
スターは直接攻撃出来ない

キュアサニー「ギャラクシーアイズ、s」

キュアジェラート「ギャラクシーアイズの新規来たー」

キュアアクア「なんか綺麗」

キュアマーチ「そうだね、確かに綺麗だね」

キュアサニー「ちやうねん、ギャラクシーアイズって事は殺意が高  
いやろ絶対、それにうちが喋ろうとしたのにセリフ被せへんとい  
て」

キュアルージュ「そうかな」

ミルキイローズ「絶対ない」

キュアサニー「いやいや絶対あるやろ」

ジャツカル「我は銀河眼の光波竜1体でオーバーレイ、銀河の竜よ、  
光の刃をその手に持ち邪悪な闇を打ち払えランクアップエクシーズ  
チエンジ、現れよ銀河眼の光波刃竜」

銀河眼の光波刃竜

ドラゴン族／エクシーズ／効果

レベル9モンスター×3

このカードは自分のランク8のギャラクシーアイズエクシーズモンスターの上に重ねてエクシーズ召喚することも出来る。このカードはエクシーズ召喚の素材に出来ない①1ターンの1度このカードのORUを1つ使いフィールドのカード1枚を破壊する②エクシーズ召喚したこのカードが相手モンスターの攻撃または効果で破壊されたとき自分の墓地から銀河眼の光波竜を特殊召喚する

キュアシヨコラ「ギャラクシーアイズが進化した」

キュアジェラート「さらに新規ギャラクシーアイズ来たー」

キュアマカロン「面白くなるわね」

キュアサニー「もう、ツツコまんて、ここまで来たら殺意というレベルじゃない気もするんやけどな」

キュアルージュ「そしてサニーは考えるのをやめた」

キュアサニー「変なこと言わんでええわ」

ジャツカル「キュアラブリー、お前が誠司の事を大切に思ってるなら、助けたいと願えそうすれば必ず奇跡は起こる」

キュアラブリー「だけど・・・」

キュアプリンセス「やってみよう」

キュアハニー「そうだよ」

キュアフォーチュン「うん」

キュアラブリー「誠司を救いたい」

キュアプリンセス「誠司お願い元に戻って」

ダーク誠司「無駄だ、そんなこと、これでも食らえ」

キュアサンシャイン「そうはいかない、サンフラワーイージス」

ダーク誠司「何!？」

キュアハニー「お願い思い出して」

キュアフォーチュン「闇の呪縛を解き放って」

ダーク誠司「ふぎけるな・・・くっ、なんだ」

キュアラブリー「誠司」

ダーク誠司「頼む、ジャツカルやってくれ」



ジャツカル「分かった、必ず救ってやる、銀河眼の光波刃竜、サイ  
ファーブレードアタック」

ダーク誠司「ふざけるな小娘ども、この俺がお前らなんかの友情の  
力などにぐああああああ」

キュアラブリー「誠司大丈夫？」

ジャツカル「彼は大丈夫だ、お前に憑依していたナンバーズ回収さ  
せてもらうぞ、希望織竜スパイダーシャーク ナイトメアシャーク  
ブラックコーン号 BK新星のカイザー回収完了」

キュアマリン「これで一件落着っしゅ」

ジャツカル「それはどうかな？」

キュアマリン「は？一件落着じゃないの？」

ジャツカル「そこにいるのは分かってるんだ、隠れてないで出てこ  
いよ、この事件の黒幕レッド」

レッド「よく分かったね、さすがですね」

ジャツカル「貴様がレッドか？」

レッド「俺がレッドだ、まさか他にもプリキュアがいたとはよろし  
く」

キュアマリン「なんだ、いいやつじゃん」

ジャツカル「・・・」

キュアマーンライト「どうしたの？」

ジャツカル「おい、いつまで演技をしてる？さっさと本性を見せた  
らどうだ？」

レッド「君は鋭いね感覚が」

ジャツカル「悪いな、そういうのには、結構敏感なんだ、それに礼  
儀正しいふりして騙すって手段は何度も知っているからな」

レッド「やはりお前には気づかれたか」

ジャツカル「貴様が誠司を操ったのは分かっている」

キュアラブリー「貴方だけは許さない」

キュアブロッサム「関係のない人を巻き込んであげく、ナンバーズ  
を使って殺させようとした貴方は許しません、私堪忍袋の緒がキレま  
した」

キュアマリン「海より広い私の心もここらが我慢の限界よ」  
キュアメロディ「ラブリーの愛する人を戦いに巻き込んで絶対に許さない」

キュアリズム「貴方には気合いのレシピを見せてあげるわ」  
ジャツカル「行くぞ、シヨコラ」

キュアシヨコラ「はい」

ジャツカル「我は、我自身と」

キュアシヨコラ「私でオーバーレイ」

ジャツカル「エクシースチェンジ ゼアルIV」

キュアシヨコラ「出来上がり」

キュアサニー「うわあ、出たよ、インチキフォームが」

キュアピース「かつこいい」

ゼアルIV（ジャツカル）「懺悔の用意は出来てるかレッド」

キュアフローラ「さあ、お覚悟は宜しくて？」

レッド「下らない、これでも食らえ」

ゼアルIV（ジャツカル）「そうは行くか、銀河眼の光波刃竜」

キュアミント「銀河眼の光波刃竜が」

キュアパイン「破壊された!!」

レッド「簡単には死なせないぞ」

キュアピーチ「銀河眼の光波刃竜が」

キュアマーチ「よみがえった」

ゼアルIV（ジャツカル）「いや、あれは、シャークドレイクの効果だ、

破壊したモンスターの攻撃力を1000下げて復活させもう1度攻撃を行う」

キュアマカロン「つまり弱体化+追加攻撃厄介ね」

レッド「これでも食らえ」

キュアサンシャイン「させない、サンフラワーイージス」

レッド「無駄な足掻きを」

キュアジェラート「まずい」

ゼアルIV（キュアシヨコラ）「させないよ」

キュアサンシャイン「ありがとう」

ゼアルIV（キュアシヨコラ）「気にしないで」

レツド「こうなったらこれはどうだ、うおおおおお」

キュアハニー「嘘、増えた」

ゼアルIV（ジャツカル）「今度はスターシッピギヤラクシートマホークの能力か」

キュアベリー「プリキュアエスポワールシャワー」

ゼアルIV（キュアシヨコラ）「銀河眼の光波刃竜の効果発動、このカードが破壊された時、墓地から銀河眼の光波竜を特殊召喚」

レツド「無駄だ」

ゼアルIV（ジャツカル）「今度はラインモンスターチャリオッツ飛車の効果か」

レツド「消えろ」

ゼアルIV（キュアシヨコラ）「光波刃竜！光波竜」

ゼアルIV（ジャツカル）「ならばゴブリンドバークを召喚そして手札から魂を狩る者を特殊召喚、2体のモンスターでオーバーレイ、現れよ希望皇ホープ」

レツド「無駄だ、今さらなにを出しても無駄だ」

ゼアルIV（ジャツカル）「それはどうかな魔法カード バリアンズフォース」

ゼアルIV（キュアシヨコラ）「ホープ1体でオーバーレイ未来に輝け希望の光 深き闇を切り裂き我らに勝利をもたらせカオスエクシージエンジCN039希望皇ホープレイヴィクトリー」

CN039希望皇ホープレイヴィクトリー

戦士族／エクシーズ／効果

攻撃力2800 守備力2500 ランク5

ラベル5モンスター×3

このカードが攻撃するときダメージステップ終了時まで相手は魔法 罠カードは使用できない。このカードが希望皇ホープをORUにしているとき以下の効果を得る。●このカードが相手の表側表示モンスターに攻撃宣言したとき、このカードのORUを1つ使いターン終了時まで相手の効果を無効にしてこのカードの攻撃力はそのモン

スターの攻撃力分アップする

レッド「そんな奴で何が出来る?」

ゼアルIV(ジャツカル)「出来るんだよ、それが」

レッド「何?」

ゼアルIV(キュアシヨコラ)「バトルホープレイヴィクトリーで攻撃」

レッド「無駄だよ、俺には効かん」

ゼアルIV(キュアシヨコラ)「ホープレイヴィクトリーの効果発動ORUを一つ使い相手の効果を無効にしてそのモンスターは攻撃力分アップする」

ゼアルIV(ジャツカル)「今出てるのは、シャークドレイクだろ? シャークドレイクの攻撃力は2800それにホープレイヴィクトリーの攻撃力2800に加えると?」

レッド「バカな、5600!!」

ゼアルIV(キュアシヨコラ)「正解だよ、ホープ剣ビクトリウムスラッシュ」

レッド「バカな、この俺が・・・貴様みたいな奴に負けるなど」

ゼアルIV(ジャツカル)「これで」

ゼアルIV(キュアシヨコラ)「これで白輝士イルミネーター 海咬龍  
シャークドレイク スターシップギヤラクシートマホーク 魂魄傀  
儡鬼ソウルマリオネッター ラインモンスターチャリオツツ飛車回  
収完了」

いつき「これで行ったね(あつ、元に戻った)」

ジャツカル「ああ、それにしてもあきらに我のセリフをとられるとはな」

あきら「一回言ってみたかったんです」

ジャツカル「やれやれだ」

## 今こそ力に GOデルタアクセルシンクロ

あおい「今度はどこかな？」

ひまり「えっと大貝町って書いてあります」

みゆき「大貝町って確かドキドキプリキュアがいる場所だよ」

ゆかり「ドキドキプリキュアねえ」

あきら「そう言えばジャツカルさん」

ジャツカル「どうした？」

あきら「以前の決闘竜スイーツ、妹にプレゼントしてあげたんですが」

ジャツカル「あれっ、あきら妹いたのか？」

あきら「あつ、はい、みくって言うんですけど、体の方が悪くて入院してるんです」

ジャツカル「大変だな、それで、どうだったんだ？」

あきら「あのスターダストマフィンでしたっけ？あれすごく喜んでました、あと出来れば、チョコレートも入れてくれませんか？」

ジャツカル「チョコレートもか？構わんぞ」

あきら「あとですね、エンシエントアイス、あれ食べにくいって言ってました、特に羽の部分が」

ジャツカル「あつ、悪いな、今度直しておく」

ゆかり「そう言えば私もマカロン食べてみたんだけどすごく美味しかったですわ」

ジャツカル「ゆかりもありがとう」

あおい「確かに、あのエンシエントアイスすごくよかった」

ひまり「ブラックフェザープリンもよかったです」

ジャツカル「一応、今、少しは残ってるんだ、昼飯ついでに食うか？」

アラモード5人「はい」

ジャツカル「よかったらお前らもどうだ？」

なお「いいんですか？」

ジャツカル「ああ」

いちか「よし、じゃあキラキラパティスリー開店」  
ジャツカル「ちよつと台所借りるぞ」

いちか「はい」

ジャツカル「さてどうするか？そうだ、これなら」

きらら「すごく美味しいわ」

みなみ「本当、まるでプロが作ったようね」

そして20分後

ジャツカル「お前から出来たぞ」

あきら「えーとこれは？」

ジャツカル「ベエルゼウスチョコレート、ベエルゼタルト ドラゴ  
キユートスブラウニー ドラゴネクロミルフィーユ アルティミト  
ルエクレア アルティマヤマドレーヌだ」

いちか「そのアルティミトルって？」

ジャツカル「アルティミトルビシバルキンが名前の由来だ」

あおい「そう言えばジャツカルさんのスイーツ結構好評でしたよ、  
それにジャツカルさんのスイーツ求めて買いに来てくれる人が多い  
んですよ」

ジャツカル「そうか？まあ気に入ってくれる人がいてくれてよかつ  
たよ、今度はスイーツではなくデュエルで笑顔にしたい」

あおい「ふあっ!!いきなりどうしたんですか？」

いちか「あおちゃんがお姫様抱っこされてる」

ジャツカル「すまん、ついついあおいを見てたらしたくなってるな」

あおい「／／／」

いちか「あおちゃん照れてる」

あおい「照れてねえよ」

いつき「顔赤いよ」

めぐみ「確かに」

ジャツカル「あおいすまん、闇の気配がしてる、ちよつと行ってく  
る」

あおい「分かりました」

その頃、別な場所では

相田マナ「何？あのジコチュー、強い」

菱川六花「だけど、以前のジコチューとは変わらない」

四葉ありす「それほど闇の力が増幅してるって事ですわ」

剣崎真琴「だけど、このような力が一体どこから？」

円亜久里「わたくしもあのようなジコチューは初めてで」

マーモ「今度こそプリキュアも終わりね、バイバイ」

菱川六花「まずい」

剣崎真琴「こう言うときに変身出来れば」

その時

ジャツカル「轟く怒りの念動力よ、地獄の悪魔を産み出さん、シンクロ召喚、出でよサイコデビル」

サイコデビル

サイキック族／シンクロ／エクシース

攻撃力2400 守備力1800 レベル6

チューナー＋チューナー以外のサイキック族モンスター1体以上

1ターンに1度メインフェイズ時に相手の手札をランダムに1枚選択しその種類（モンスター 魔法 罠）を当てる。当たった場合は次の相手エンドフェイズ時まで攻撃力が1000あがる

トランプジコチュー「ジコチュー」

マーモ「何？誰だ？」

ジャツカル「てめえの相手は我だ」

剣崎真琴「何あれ・・・」

菱川六花「悪魔？」

四葉ありす「彼は一体」

ジャツカル「お前らは休んでろ」

円亜久里「それは出来ませんわ、わたくし達も戦いますわ」

ジャツカル「危険だから下がってろ」

トランプジコチュー「いかさまは最高だぜ」

ジャツカル「ちっ、サイコデビル」

相田マナ「気をつけてあいつトランプの騎士を召喚してくるわ」

ジャツカル「下らん、トランプの騎士だと？だったら封じてやるよ、

私は魔法カード超こいこいを発動」

超こいこい

魔法カード

このカードは1ターンに1枚しか発動できない①自分のデッキの上からカードを3枚めくり花札衛可能な限り召喚条件を無視し特殊召喚する。このカード効果で特殊召喚されたモンスターはすべてレベルが2になるそれ以外のカードは除外し除外したカード×1000ポイント失う②墓地からこのカードを除外し自分のモンスターを1体リリースして手札をから花札衛モンスター1体を特殊召喚する

ジャツカル「我は3枚めくりそのなかの花札衛モンスターを特殊召喚する。我は花札衛紅葉に鹿 牡丹に蝶 萩に猪を特殊召喚これによつて3体の花札衛モンスターはレベルは2」

花札衛紅葉に鹿

戦士族／特殊召喚／効果

攻撃力1000 守備力1000 レベル10

このカードは通常召喚出来ない。花札衛紅葉に鹿以外の自分のフィールドの花札衛モンスターを1体リリースして特殊召喚する①このカードが特殊召喚に成功した場合自分はデッキから1枚ドローし、お互いに確認するそれが花札衛モンスターだった場合は相手フィールドの魔法 罨カードを1枚選んで破壊する、違った場合はそのカードを墓地へ送る

花札衛牡丹に蝶

戦士族／特殊召喚／チューナー／効果

攻撃力1000 守備力1000 レベル6

このカードは通常召喚出来ない。自分フィールド上の花札衛モンスターを1体リリースして特殊召喚する①このカードが特殊召喚に成功した場合、自分は1枚ドローするお互い確認するそれが花札衛モンスターだった場合は相手のデッキの上からカードを3枚確認して好きな順番でデッキの上か下に戻す②フィールド上のこのカードをシンクロ素材とする場合このカードを含むシンクロ素材となるモンスターはレベルが2となる



花札衛萩に猪

戦士族／特殊召喚／効果

攻撃力1000 守備力1000 レベル7

このカードは通常召喚出来ない。花札衛萩に猪以外の自分のフィールド上のモンスター1体をリリースした場合のみ特殊召喚出来る①このカードが召喚に成功したときデッキから1枚ドローして花札衛モンスターだった場合相手のモンスター1体選んで破壊する違つた場合は墓地に送る

剣崎真琴「ねえ六花」

菱川六花「何？」

剣崎真琴「萩に猪とか牡丹に蝶とか紅葉に鹿って何？」

菱川六花「それ全部花札だよ」

ジャツカル「我はレベル2となつた萩に猪 紅葉に鹿 牡丹に蝶をチューニングその力こと猪の如く その強きこと鹿の如く その美しきこと蝶の如く 怒濤なる猛攻で敵を倒せ！シンクロ召喚！出だよ！花札衛 猪鹿蝶」

花札衛 猪鹿蝶

戦士族／シンクロ／効果

攻撃力2000 守備力2000 レベル6

チューナー＋チューナー以外のモンスター2体

①このカードがモンスターゾーンにある場合自分の花札衛モンスターが守備表示モンスターを攻撃した場合、その守備力を攻撃力が上回つてゐるぶんだけ、貫通ダメージを与える②1ターンに1度、自分の墓地の花札衛モンスター1体を除外して次の相手のターン終了時まで相手は墓地のカードの効果が発動出来ず墓地からモンスターは特殊召喚出来ない

マーモ「下らない、ジコチュー」

トランプジコチュー「ジコチュー」

相田マナ「あれはトランプの騎士」

四葉ありす「さつきよりも数が多いですわ」

ジャツカル「下らん、特殊召喚してきたかだったら我はリバース

カード発動イカサマ御法度、これで貴様が手札から特殊召喚したトランプの騎士どもは手札に退場願おうか」

イカサマ御法度

①1ターンに1度相手が手札から特殊召喚した時手札から特殊召喚されたモンスター全て手札に戻す②フィールド上に花札衛シンクロモンスターが存在しない時、このカードは墓地へ送られる

マーモ「何!!トランプの騎士達が!!」

その頃、別な場所では

みゆき「ねえ皆でさ、マナちゃん達に会いに行かない?」

のぞみ「そうだね、彼女達の事も紹介したいし」

その時

レジーナ「あらっ? マナ達のところには行かせないわよ」

いちか「貴方は?」

レジーナ「私はレジーナ、キングジコチューの娘よ」

はるか「キングジコチュー?」

レジーナ「はあ、パパの事も知らないなんてあんた達なんなの?」

ゆかり「私達はプリキュアよ、だけど、別な世界のね」

レジーナ「ふーん、あなた達もプリキュアだったんだ、いいわこの私が遊んであげるわ、キングジコチューの娘である私が遊んであげるんだもの光栄に思いなさい」

きらら「いらっ、さっきからあんた聞いてれば態度がムカつくのよ」

少女達変身中

キュアサンシャイン「プリキュア・ゴールドフォルテバースト」

キュアジェラート「ウオオオオオオ」

レジーナ「くっ、やるじゃない」

キュアマーチ「プリキュア・マーチシュート」

レジーナ「だけどね、私もやられてばかりじゃ無いのよ」

キュアビート「武器!!」

キュアベリー「ベリーソード」

キュアシヨコラ「キラキラキララキラキララ」

レジーナ「なっ!!やるじゃない」

その頃、ジャツカルは

ジャツカル「(あいつナンバーズの力を得てやがる、しかもあれはダイヤモンドクラブキング)」

TGワンダーマジシャン

魔法使い族／シンクロ／チューナー

攻撃力1900 守備力0 レベル5

チューナー+チューナー以外のTGと名のついたモンスター1体以上

このカードがシンクロ召喚に成功したときフィールド上の魔法罫カードを1枚破壊する。フィールド上のこのカードが破壊されたときデッキからカードを1枚ドロウする。また相手のメインフェイズ時自分のフィールド上のこのカードをシンクロ素材としてシンクロ召喚出来る

TGハイパーライブリアン

魔法使い族／シンクロ／効果

攻撃力2400 守備力1800 レベル5

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

①このカードがフィールド上に存在し自分または相手がこのカード以外のシンクロモンスターをシンクロ召喚したとき表側表示で存在している場合自分はデッキから1枚ドロウする

剣崎真琴「やっぱりさつきと同じ、急に強くなった」

菱川六花「ジコチューにあんな力あったかしら?」

四葉ありす「なかつたはずですわ」

相田マナ「でも急に強くなるっておかしいわ」

ジャツカル「あれはあいつの能力じゃない」

円亜久里「どういう事ですの?」

ジャツカル「あれは我が記憶のカードナンバーズが奴に憑依してることに間違いはない、多分、能力上からしてNo.52ダイヤモンドクラブキングだろう」

菱川六花「ダイヤモンド」

四葉ありす「クラブ」

菱川六花 四葉ありす「キング？」

ジャツカル「だがこれで終わりだ、TGハイパーライブリアンで攻撃、浄化の波動」

マーモ「くつ、ジコチューが覚えてらっしゃい」

ジャツカル「さてあとは向こうか」

その頃、ホイップ達は

キュアシヨコラ「つ、強い」

レジーナ「ふふん、他の世界のプリキュアも弱いよね、これで終わりよ」

ジャツカル「TGワンダーマジシャンで攻撃」

レジーナ「何よまだ仲間がいたの？」

ジャツカル「我が仲間が世話になったな」

レジーナ「ふぎけないで、あんたなんか」

ジャツカル「我はレベル5TGワンダーマジシャンにレベル5TGハイパーライブリアンそしてレベル2TGレシプロドラゴンフライをチューニング、リミッター解放レベルMAXレギュレーションオールクリアー悠久の力が次元を越え新たな希望の扉を開くGODEルタアクセルシンクロ カモンレベル12TGハルバートキャノン」  
TGハルバートキャノン

機械族／シンクロ／効果

攻撃力4000 守備力4000 レベル12

シンクロモンスターのチューナー1体+チューナー以外のシンクロモンスター2体以上

このカードはシンクロ召喚でしか特殊召喚出来ない。このカードがフィールド上に表側表示で存在する場合1ターンに1度だけモンスター召喚 反転召喚 特殊召喚を無効にし破壊する事が出来る。このカードがフィールド上から破壊されて墓地へ送られたとき自分の墓地のTGと名のついたモンスターを1体特殊召喚する

キュアマカロン「TGハルバートキャノン」

キュアピース「かっこいい」

レジーナ「ふぎけないで、こうなったら、待ってなさい」

キュアパッション「どっか行っちゃった」

レジーナ「待たせたわね、暴れなさいジコチュー」

カマキリジコチュー「ジコチュー」

ジャツカル「悪いが召喚してきたばっかで悪いが退場してもらおうぞ、TGハルバートキャノンの効果を発動1ターンの1度、相手モンスターが召喚 特殊召喚 反転召喚してきたときそれを無効にして破壊する」

レジーナ「なっ!!破壊!!」

ジャツカル「打ち砕け、ハルバートキャノン、ハルバートトライデント」

カマキリジコチュー「ラブ ラブ ラーブ」

ジャツカル「これで終わりだ、TGハルバートキャノン」

その時

相田マナ「待って!!」

ジャツカル「何!!」

相田マナ「レジーナもうやめよう、私達が争うのは」

レジーナ「マナ・・・」

ジャツカル「下らん、TGハルバートキャノン、攻撃」

相田マナ「プリキュア・ラブリンク」

ジャツカル「貴様、プリキュアだったのか」

キュアハート「寂しかったんだよね、誰も自分の事を分かってくれなかったから、だからそう言う態度をとっちゃうんだよね、だけど、大丈夫、私がついてるから」

レジーナ「マナあ、分かったもう止める、マナが言うんだもん」

ジャツカル「・・・」

キュアハート「貴方ももうやめて、私だって世界中を笑顔にしたいの」

ジャツカル「笑顔・・・デュエルで笑顔を・・・分かった、止めてやる、ただ今度余計な事をすればお前を問答無用で叩ききる、いいなレジーナ「うん」

洗脳されたジャツカル ショコラの怒りと新たな  
ホープ

あきら 「ゆかり」

ゆかり 「どうしたの？」

あきら 「ジャツカルさん、見なかった？」

ゆかり 「見てないわ」

あきら 「そう」

ゆかり 「なんで？」

あおい 「それはこれだよ、イラスト？違いのテラバイトを見つけたから渡したいんだけど」

ひまり 「あおいちゃん、ナンバーズに触れて大丈夫なの？」

あおい 「うん、なんともないみたい」

せつな 「そう言えば、ジャツカルさんならマナさんと一緒に買い物へ行ってたわよ」

レジーナ 「マナと」

あきら 「一緒に」

レジーナ あきら 「買い物」

せつな 「(なんで息ピツタリなのかしら) そうだけど、レジーナさんはともかくなんであきらさんも？」

ゆかり 「気にしないで、あきらは焼きもち妬いてるだけだから」

せつな 「そう」

その時

いちか 「大変、大変」

あきら 「どうしたの？」

いちか 「マナさんからんだけど、ジャツカルさんが行方不明なの」  
あきら 「ジャツカルさんが・・・行方不明」

れいか 「あきらさん、大丈夫ですよ、多分、ジャツカルさんが行方不明なんて考えられません」

あきら 「そうですね、きっと事件に巻き込まれたんだよ」

いちか「恋人が心配なのは分かります、まずは探しに行きましょう」  
真琴「恋人？」

あおい「そう、ジャツカルさんとあきらさんは恋人同士」  
いおな「とにかく探しに行かないと」

あきら「そうね」

ありす「私も探すのお手伝いしますわ、ジャツカルさんの事を四葉財閥の勢力を持って全力で探しますわ」

あきら「ありがとうございます、皆さん」

マーモ「バカね、本当に貴方達の探してる人はすでに、私のものなのに、そうよね、ジャツカルさん」

ジャツカル「ああ、すべてはマーモのために、この身も心もすべて」  
マーモ（ふふふ、洗脳して正解だったわ、これで、あいつらも終わりにね）どこへ行くのかしら？」

ジャツカル「プリキュアの抹殺に行ってくる」

マーモ「そうよろしくね（イーラやベールは彼の力借りなくてもいいって言ってたけど、彼も強いんだから）」

あきら「ジャツカルさん、どこ行つたんだろう」

ゆかり「あきら、心配なのは分かるわ、でも少しは落ち着いて」

真琴「仕方ないわ、恋人が行方不明なんて聞いたら落ち着いてられないもの（私だつてアン王女が行方不明になつたつて時は落ち着けなかったし）」

その時、爆音が聞こえる

あきら「なに今の爆音？」

ゆかり「分からないわ、だけど向こうからね」

リコ「一応、変身した方がいいわね」

マナ「そうだね」

その頃、別な場所では

ジャツカル「行け、ファイアウオールドドラゴン 強欲のサラメーヤ、

プリキュアを誘きだし、抹殺せよ」

ファイアウオールドドラゴン「ギャオオオオオ」

強欲のサラメーヤ「グルルルル」

キュアジェラート「なんだよこれ」

キュアマジカル「いくらなんでも酷すぎるわ」

キュアホイップ「待つてください、何かいます」

キュアハート「確かにいるね」

キュアマカロン「出てきなさい」

強欲のサラメーヤ「グルルルル」

キュアシヨコラ「あれは強欲のサラメーヤ？なんでここに？」

強欲のサラメーヤ「グルルルル」

キュアフォーチュン「まずいわ、サラメーヤは今にもシヨコラに飛びかかりそう）フォーチュンスターバースト」

キュアシヨコラ「何をするの？」

キュアフォーチュン「サラメーヤは今にもシヨコラ貴方を襲いそうだったのよ」

キュアシヨコラ「えっ、でも・・・」

ジャツカル「サラメーヤの反応が消えたファイアウオールドラゴン、ポイントPO地点に迎え」

ファイアウオールドラゴン「ギャオオオオオ」

キュアロゼッタ「気をつけてください、そちらに何かに向かっていきます」

ファイアウオールドラゴン「ギャオオオオオ」

キュアジェラート「ファイアウオールドラゴン!!どうしてここに？」

ファイアウオールドラゴン「ギャオオオオオ」

キュアダイヤモンド「危ない!!」

キュアジェラート「どうしたんだよ、ファイアウオールドラゴン」  
その時

ジャツカル「よくファイアウオールドラゴンの攻撃を交わせたな」

キュアシヨコラ「ジャツカルさん」

キュアソード「よかった、無事みたいね」

キュアシヨコラ「ジャツカルさんどこ行ってたんですか？心配しました」



ジャツカル「・・・ファイアウォールドラゴン、こいつら目障りだ、消せ」

キュアシヨコラ「えっ、消せって私です、あきらです」

ジャツカル「邪魔だ、所詮抹殺対象が何を言うのやら」

キュアホイップ「抹殺対象ってどういう事」

ジャツカル「ファイアウォールドラゴンで攻撃」

キュアフォーチュン「フォーチュンスターバースト」

キュアハート「一旦、退こう」

全員「分かったわ」

キュアマカロン「シヨコラ、早く」

キュアシヨコラ「どうしてジャツカルさんが・・・どうして」

ジャツカル「逃げたか、だが必ず抹殺する」

ゆかり「あきら、大丈夫、何か理由があるはずよ、ジャツカルさんが裏切るはずが無いわ」

あきら「・・・」

あおい「そうですよ」

あきら「・・・」

あかね「ゆかりさん達ご飯やで」

ゆかり「分かったわ、今いく」

あおい「あきらさん、ご飯だよ」

あきら「いらない」

いちか「行きましょう、冷めちやいますよ」

あきら「いらないって言ってるでしょ、放っておいてよ」

いちか「ごめんなさい」

あきら「何やってるんだろう、私、いちかちゃんに八つ当たりしても変わらないのに、どうしてジャツカルさんが私達を抹殺なんか」

れいか「あれっ？あきらさんは？」

いちか「いらないって言ってました、精神的にショックだったんだと思います」

響「何かあったの？」

ゆかり「実はジャツカルさんが私達を抹殺対象としか見てなくて、

それで」

奏「どういう事？」

なお「ジャツカルさんには何か理由があるんだと」

ひめ「だから信用出来ないって言ったのよ、最初から私達を利用するつもりで」

みなみ「それは無いと思うわ」

えりか「じゃあなんで抹殺するなんて言い出すのよ、おかしくない」

エレン「もしかしたら、ジャツカルさんは洗脳されてるとすれば」

ことは「はー？　どういう事？」

真琴「確かにその可能性はあるわ、彼の目に光は無かった」

せつな「じゃあ、誰が」

亜久里「考えられるのはジコチューの誰かって事ですわね」

ひめ「そうだとしても私は信用出来ないわ、だってそうじゃない彼は、別の次元から来たんでしょ、それなら辻褃が会うでしょ」

やよい「なんのために？」

ひめ「それは世界を滅ぼすために決まってるでしょ」

あおい「いい加減にしてよ、ジャツカルさんはそんなことしない」

いちか「あおちゃん」

ひまり「そうですね、動機がないじゃないですか」

ゆかり「そうね、ひまりの言う通りよ」

くるみ「動機・・・もしかしたら、動機は瑠璃って娘を助けたいがためにやってるのだとしたら」

りん「確かにそれなら説明はつくわ」

こまち「彼は、瑠璃って娘を拐われてエクシード次元を滅ぼされる」

かれん「それなら十分な動機ね」

あおい「でも、エクシード次元を滅ぼしたのも瑠璃って娘誘拐したのもアカデミアって連中だよ」

うらら「だったら、ジャツカルさんがそのアカデミアって連中の仲間だとしたら」

あきら「いい加減にしてよ、みんなしてジャツカルさんを悪者扱い、

私は彼を信じてる」

ゆかり「あきら!!」

祈里「みんなさすがに言い過ぎよ、そもそもジャツカルさんがそのアカデミアって連中の仲間だって証拠は一個もないじゃない、あきらさんの気持ちも考えてあげなよ」

いちか「私とゆかりさんであきらさんを探しにいけます」

ゆかり「えっ?ちよつと、なんで私も?」

いちか「いいじゃないですか」

その頃、あきは

あきら「どうして変わってしまったのジャツカルさん、本当に私達を利用してたの?」

エレン「あきらさん」

あきら「エレンさん」

エレン「少し私の話してもいい?」

あきら「はい」

エレン「私ね、昔、ハミイって友達がいたの、それでね、ずっと一緒だと思ってた、だけど私は嫉妬心でマイナーランドに魂を売ったの、本当に私はバカな事をしたって思ってる、せつかくの友達だったのに、そして迷ってた時、私は洗脳されたの、メフィストによって、だけど私は友達を・・・ハミイを救いたいって思ったから奇跡がううんキュアビートになれたの、だからあきらさんだって信じて、自分の恋人の事を」

あきら「分かってるんです、信じてあげたいんです・・・頭では分かっているんですが、いざってなってしまうと・・・」

せつな「私もそうだったわ」

あきら「せつなさん」

せつな「私も昔はラブ達の敵だったの、最初は幸せなんて下らないうって思ってた、けどラブ達と知り合って幸せもいかなかったって思ってた、だけど私はラビンスに生まれメビウスの配下だった、そして私はメビウスによって寿命が一回は尽きたの、だけど、プリキュアに転生出来た、みんながいたからううんみんなが私を信じてくれたから

ここまで頑張れたでもラブ達の仲間になって初めは違った、敵だった私が仲間になっていいのかなってんだけど、確かにそうだった、私は仲間になるには多くの人を傷つけたんだけど、ラブ達が支えてくれたから、精一杯頑張れた、あきらさんもジャツカルさんを信じて元の優しいジャツカルさんに戻ってほしい、そう思えば元に戻ってくれるよ」

あきら「せつなさん・・・」

いちか「そうですね、あきらさん」

あきら「いちかちゃん・・・ごめんね、さつき八つ当たりしちやつて」

いちか「大丈夫です」

ゆかり「そうよ、洗脳されてたとすれば、元に戻す方法だってあるわよ」

いおな「そうよ、私だって今のあきらさんと同じ目にあったもの」  
あきら「いおなさんも?」

いおな「私は最初は幻影帝国にお姉ちゃんがやられて復讐に走っていた、けど、だけどさ、めぐみ達がいたから変わった・・・そんな矢先お姉ちゃんが洗脳されて戻ってきた最後は私達の技で浄化したの、だからさ、ジャツカルさんへの思いがあれば大丈夫だよ」

その時

ファイアウオールドラゴン「ギャオオオオオ」

せつな「まずいわ、見つかった」

ジャツカル「ターゲット確認、葬り去る、やれ、ファイアウオールドラゴン　ゼンマイオー　　デリストピアガイ　　アンデットスカルデーモン」

DHEROデリストピアガイ

戦士族／融合

攻撃力2800　守備力2400　レベル8

DHEROモンスター×2

デリストピアガイの①②の効果はそれぞれ1ターンに1度しか使えない①このカードが特殊召喚に成功したとき自分の墓地からレベル4以下のDHEROモンスターを1体選択し、そのモンスターの攻

撃力分のダメージを与える②このカードの攻撃力が元々の攻撃力と異なる場合フィールド上のカードを1枚破壊して元々の攻撃力になる。この効果は相手ターンでも使用可能

アンデットスカルデーモン

アンデット族／シンクロ／効果

攻撃力2500 守備力1200 レベル6

ゾンビキャリア+チューナー以外のアンデットモンスター2体以上

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限りフィールド上のアンデット族モンスターはカード効果では破壊されない

ゼンマイ装攻ゼンマイオー

機械族／エクシーズ／効果

レベル5モンスター×2

①1ターンに1度このカードのORUを1つ使いフィールド上にセットされたカード2枚破壊する

ジャツカル「貴様らもこれで終わりだ」

エレン「みんないくよ」

キュアシヨコラ「そうだ、ジャツカルさんは洗脳されてるだけなんだよね」ジャツカルさん、元の優しいジャツカルさんに戻って」

ジャツカル「何言ってる？これが本当の我だ」

キュアシヨコラ「違う、本当の貴方じゃない、私には分かる」

ジャツカル「目障りだな、消せ、デイストピアガイ」

キュアパッション「そうはいかない、プリキュア・ハピネスハリケン」

ジャツカル「何!!」

キュアビート「ハートフルビートロック」

キュアフォーチュン「フォーチュンスターバースト」

ジャツカル「何!!デイストピアガイ ファイアワールドドラゴンゼンマイオー」

キュアシヨコラ「私が貴方の洗脳を解いてあげる、はああああ」

ジャツカル「我は手札から除雪機関車ハッスルラッセルを特殊召

喚」

キュアマカロン「ここでハッスルラッセル」

ジャツカル「我は深夜急行騎士ナイトエクスプレスナイトを召喚」  
キュアビート「レベル10が2体」

ジャツカル「我は2体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築 闇より生まれし宮殿よ 今こそ我の前に姿を現せエクシース 召喚 来よ！超巨大空中宮殿ガンガリディア」

超巨大空中宮殿ガンガリディア

機械族／エクシース／効果

レベル10モンスター×2

このカードのORUを1つ使い相手フィールド上のカードを1枚破壊して相手に1000のダメージを与える。ガンガリディアの効果は1ターンに1度しか使えずこの効果を発動するターンこのカードは攻撃出来ない

ジャツカル「さらにRUMバリアンズフォースを発動、ガンガリディア1体でオーバーレイ、1体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築エクシース召喚混沌より生まれし要塞よ、邪魔する者をすべて消し去れ！現れよ！CX超巨大空中要塞バビロン」

CX超巨大空中要塞バビロン

機械族／エクシース／効果

攻撃力3800 守備力4000 ランク11

レベル11モンスター×3

このカードが戦闘でモンスターを破壊したとき破壊したモンスターの元々の攻撃力の半分のダメージを相手に与える。またこのカードが超巨大空中宮殿ガンガリディアをORUにしているとき以下の効果を得る●このカードが戦闘によってモンスターを破壊したときこのカードのORUを1つ使いもう一度続けて攻撃をする

キュアビート「なっ、ランク11のエクシースモンスター!!」

キュアマカロン「それよりも」

キュアシヨコラ「大きすぎる（体が震えてる、あのCX超巨大空中要塞バビロンに対しての恐怖？それともバビロンの得体の知れない

能力にたいしてなの？でもジャツカルさんを元に戻さないといけない」

ジャツカル「これで消し飛ばしてやる、バビロンで攻撃ネオマキシマ砲」

キュアマジカル「そうはいかない」

キュアハート「マイスイートハート」

ジャツカル「無駄だ、消え去れ」

全員「きやあああああ」

ジャツカル「消去完了、話にならないな」

キュアシヨコラ「待って」

ジャツカル「なんだと!!ネオマキシマ砲を受けても立ってられるだ  
と!!」

キュアシヨコラ「私は・・・私は・・・貴方を救う」

ジャツカル「なぜだ!!バビロンで攻撃マルチプル!!くっ、なんだ、今の記憶は」

キュアマカロン「記憶が戻りかけてる」

ジャツカル「なんだこの記憶は、我は知らん、こんな記憶など」

キュアシヨコラ「ジャツカルさん、前言ってましたよね私に奪われた仲間は必ず奪い返すって、その言葉今、実行してあげるわ」

ジャツカル「まだだ、ペンデュラム召喚シグナルレッド XXセイ

バーエマーズブレイド 水晶機巧スモーガー」

水晶機巧スモーガー

機械族／効果

攻撃力1000 守備力1800 レベル3

水晶機巧スモーガーの①②の効果は1ターンに1度 いずれか1  
つしか使用できない①自分のフィールドの表側表示のカード1枚を  
対象に発動できる。そのカードを破壊してデッキからクリストロン  
チューナー1体を特殊召喚する。ターン終了時まで自分は機械族シン  
クロモンスターしかエクストラデッキから特殊召喚出来ない②墓  
地のこのカードを除外してデッキからクリストロン魔法 罫カード  
を手札に加える

XXセイバーエマーズブレイド

昆虫族／効果 ①このカードが破壊されたときデッキからレベル4以下のXセイバーを特殊召喚する

ジャツカル「我は、シグナルレッド エマーズブレイド スモーカーでオーバーレイ！脅威なる電磁波よ、邪悪な者を吸い寄せろ！現れる！No. 34電算機獣テラバイト」

電算機獣テラバイト

機械族／エクシーズ／効果

攻撃力0 守備力2900 ランク3

レベル3モンスター×3

1ターンに1度ORUを使い相手フィールド上の表側表示のレベル4以下のモンスターのコントロールをエンドフェイズ時まで得る

キュアシヨコラ「私はジャツカルさんを正気に戻す、絶対に」

ジャツカル「くっ（なんだこの記憶は・・・）おのれ、まだだ、ペンデュラム召喚トワイライトロードシャーマンルミナス TGワウルフ リグラスリツパー」

トワイライトロードシャーマンルミナス

魔法使い族／効果

攻撃力 1000 守備力 1000 レベル3

①1ターンに1度自分の手札 墓地からライトロードモンスターを1体除外してトワイライトロードシャーマンルミナス以外の除外されてるライトロードモンスターを1体特殊召喚する。②1ターンに1度このカード以外の自分のライトロードモンスターが効果を発動した場合デッキの上から3枚墓地へ送る

TGワウルフ

獣戦士族／効果

攻撃力 1200 守備力 0 レベル3

レベル4以下のモンスターが特殊召喚に成功したときこのカードを手札から特殊召喚する。フィールド上に存在するこのカードが破壊され墓地へ送られたターンのエンドフェイズ時、自分のデッキからワウルフ以外のTGモンスターを1体手札に加える



リグラスリップー

植物族／リバーズ／効果

攻撃力 1600 守備力 1000 レベル3

①このカードがリバーズしたときお互いのプレイヤーは手札1枚を選んで捨てる②このカードがモンスターとの戦闘で破壊されたとき、そのモンスターの攻撃力 守備力を500ダウンさせる

ジャツカル「さらに3体でオーバレイ来い！テラバイト」

キュアマジカル「あれはもう1体のテラバイト」

キュアマカロン「いつの間に」

キュアシヨコラ「お願い元に戻って」

ジャツカル「がつ、うぐっ」

キュアシヨコラ「ごめんなさい、少し気絶しててください」

その時

マーモ「使えないわね・・・」

キュアハート「あいつはマーモ、前回ジャツカルさんに追い払われたはず」

マーモ「ええ、確かにね、だけど、リベンジに来たのよ、彼を洗脳してね、それに彼悩んでたようだしね」

キュアマカロン「そんなことでジャツカルさんを」

キュアホイップ「ふぎげ」

キュアシヨコラ「ふぎけるな、それだけのためにジャツカルさんを洗脳し私達と戦わせた、彼はね瑠璃って娘のことで悩んでたのよ、それを都合のいいように、操って許さない」

キュアビート「シヨコラ」

キュアシヨコラ「あんただけは許さない、私が相手になってあげるわ」

キュアパッション「・・・」

マーモ「そう、でも貴方ではどうすることも出来ないボロボロじゃあね」

キュアシヨコラ「だったら動かなければいいのよ、ジャツカルさん借ります」

マーモ「ふーん、貴方が代わりにやるのねいいわよ」

キュアシヨコラ「ふぎけないで、貴方だけは……貴方だけは絶対に許さない」

そう言うのとエクストラデッキが光出す

キュアシヨコラ「これは……新しいホープ……試してみるかな、

私は電算機獣テラバイト2体でオーバーレイ」

キュアマジカル「テラバイト2体で」

キュアマカロン「エクシーズ!!」

キュアシヨコラ「希望の剣よ、今こそ新たな姿を見せ、その拳に怒りを込め、新たな皇と生まれ変われ!エクシーズ召喚!現れなさいランク12No.93希望皇ホープカイザー」

No.93希望皇ホープカイザー

戦士族/エクシーズ/効果

攻撃力 2500 守備力 2000 ランク12

ORUを持った同じランクのNo.エクシーズモンスター2体以上

①1ターンに1度自分のメインフェイズ時にこのカードのORUの種類の数だけエクストラデッキからランク9以下で攻撃力3000のNo.を効果を無効にして特殊召喚する(同じランクは1体まで)その後ORUを1つ使用する。このターン相手が受けるダメージは半分になり自分は特殊召喚出来ない。フィールド上に他のNo.がいるときこのカードは戦闘 効果では破壊されない

キュアシヨコラ「マーモ貴方は許さない、行きなさいバビロンホープカイザー」

マーモ「待ちなさい私が悪かった」

キュアシヨコラ「ふぎけないで、これで終わりよ」

マーモ「なっ、きやあああああ」

キュアシヨコラ「やった」

ジャツカル「ううん、ここは?」

あきら「ジャツカルさん」

ジャツカル「我はいつたい」

あきら「貴方は操られてただけです」

ジャツカル「我が……すまない、あきら、我が弱かったばかりに」

あきら「いえいえ、貴方のせいではありません」

ジャツカル「すまない」

あきら「でもよかったです、元に戻って」

ゆかり「ええ」

## ナンバーズ総進撃 キングジコチュウを倒せ

ジャツカル「私の弱さが敵に操られてしまった、くそっ、もっと力が」

あきら「ジャツカルさん」

ジャツカル「私のせいであきら達を殺そうとしてしまった・・・我にはここにいるべきでは無いか・・・」

あきら「ジャツカルさん、そんなことはありません」

ジャツカル「あきら、なぜここに？」

あきら「すみません、聞いてしまいました」

ジャツカル「そうか・・・気にしないでくれ」

あきら「あの、ジャツカルさん」

ジャツカル「どうした？」

あきら「あのこれを」

ジャツカル「これはホープカイザー・・・いったいどうすれば？」

ゆかり「あきらが生んだナンバーズよ」

ジャツカル「そうなのか・・・ありがとうな」

あきら「ジャツカルさん元気無いね」

マナ「やつぱり前回、マーモに操られていたのが精神的に来てるんじゃないかな」

あきら「そうかもしれない」

六花「もうご飯だよ」

ジャツカル「ああ、今行く」

六花「それにしてもジャツカルさん元気無いね」

マナ「まああんなことがあったらへこむよ」

ジャツカル（我はこれからどうすればいいのか、分からない、いったいどうすれば）

そして20分後

ジャツカル「ご馳走さま、私は部屋に戻る」

いちか「どうしたんだろう、やつぱり前回の事が精神的にきいてるのかな」

あかね「そうやろ、多分」

ひまり「デュエルで笑顔を」

亜久里「はい？」

ひまり「デュエルで笑顔を、以前ジャツカルさんはそう言っていました」

真琴「だけど、精神的に来るだろうね、いくら洗脳されてたとはいえジャツカルさんのやったことはデュエルで笑顔をじゃなく人を傷つけてしまったんだから」

ひめ「最低だよ、本当に」

えりか「そうそう」

祈里「二人ともそれは言い過ぎだよ」

ジャツカル「いや、そいつらの言う通りだ、我は最低だよ」

ラブ「ジャツカルさん」

めぐみ「そんなことはありません、ジャツカルさんは誠司を助けてくれたじゃないですか」

ジャツカル「あれはたまたまだ」

ゆうこ「本当にどうしたんだろう」

かれん「まるで魂が無くなったみたいね」

こまち「そうね、ゾンビのような生きる屍のようね」

のぞみ「そうだ、ジャツカルさんを元気づけるぞけてーい」

りん「でもどうやって」

美希「相当ダメージ受けてるみたいだし、きついなと思う」

せつな「でも分かるな、私も、初めてプリキュアに転生してラブ達の仲間に誘われた時も精神的に辛かったわ、自分の犯してしまった罪が」

その頃、ジャツカルは

ジャツカル「ダメだ、ドローしようとする、あの時の忌まわしき記憶がまとわりつく、我がこの手で皆を」

みなみ「ちよつといいかしら？」

ジャツカル「みなみか？どうした？」

みなみ「私が言えた事では無いと思いますが、私も怖いものはあり

ます、一つや二つじゃない何個も、だけど、プリキュアになって私は変わりました」

ジャツカル「そうか、だが我は怖い、また皆を傷つけてしまうそして失ってしまう恐怖に」

きらら「もしダメなら私達も手伝います」

トワ「あきらさん達から聞きましたわ、貴方はデュエルで笑顔を、そう言ったようじゃないですか」

ジャツカル「ああ、だが我がやったことは笑顔にするどころか傷つけた、そんなんじやエクシーズ次元を滅ぼしたアカデミアの連中と変わりはない」

はるか「私達はアカデミアって連中は分かりませんが、貴方には心があるじゃないですか？あおいさんから聞きました、アカデミアって連中は平気で罪のない人達をカードに変えていつてるようじゃないですか」

ジャツカル「確かにそうかもな」

せつな「私も貴方のような過去に悩まされてきましたがラブ達とあつて変わりました」

エレン「過去は変えられなくても未来は変えれます」

ジャツカル「・・・」

いつき「ボク達だつて貴方が必要なんです、カードを退くのに抵抗があるなら代わりにボク達でやります」

みゆき「私達だつて、ウルトラハッピーに慣れるように一生懸命戦っているんだよ、ジャツカルさんもそれは分かっているはず、私達だつて倒せない奴も出てくる、だからジャツカルさんの力を貸してほしいの」

れいか「ジャツカルさん、確かに貴方はデュエルの道を踏み外しました、ですが、貴方が自分自身を攻めることでは無いです。貴方を利用したあのマーモット幹部が悪いんですから、寄り道 回り道 脇道 すべて道です」

つぼみ「今のジャツカルさんは心の花が枯れています、ですが、貴方には自信を持ってください」

あきら「私じや何も出来ないかも知れない、だけど、貴方は強いはずです。それに貴方はまだやることがあるんですよね？ だったら、諦めないで立ち上がってください」

ゆかり「そんなんじや瑠璃って娘は救えないわよ、今の貴方を見たら瑠璃ちゃんは何んて思うかな」

あかね「そうやで、ジャツカルさんは強い、いくら過ちを犯しても立ち直るはずやったそうやろ」

亜久里「そうですね、私がマナや六花に教えているプリキュア5つの誓いの2つ教えますわ、まあ貴方はプリキュアでは無いので聞き流しても宜しいのですが、一つ、プリキュアたる者いつも前を向いて歩き続けること、一つプリキュアたる者自分を信じ決して後悔しないことですわ」

あおい「そうですね、私達は信じてるんです、貴方がまた復活することを」

マナ「そうだよ、胸のキュンキュン止まってるよ」

その時

ダビィ「皆、敵の気配ダビィ」

ラケル「この気配はキングジコチューケル」

六花「ありがとう、皆、いくよ」

あきら「必ず信じてますから、貴方が復活することを」

ジャツカル「・・・」

霸王眷竜スターヴヴェノム「いいのですか？ 行かなくて」

ジャツカル「仕方ない事だ、我は怖い、また皆を傷つけてしまうと  
思うと」

霸王眷竜クリアウイング「マスター、あいつらだって貴方の復活を望んでおります」

ジャツカル「だが・・・」

霸王眷竜ダークリベリオン「我らも貴方の復活をいいえ全米チャンプだったころのキングとしての復活を望んでおります、我らも期待しておりますぞ」

霸王眷竜オッドアイズ「闇の気配が強くなっております、早くいか

ないと手遅れになりますぞ」

ジャツカル「あーあ、もう、しゃあねえな、お前らもあいつらに似てきたな、行くぞ、我が覇王の眷属どもよ」

一方ホイップ達は

キュアトウインクル「何あの強さ」

キュアマカロン「強いわね」

キュアシヨコラ「ジャツカルさんがいてくれれば、こんな奴」

キュアソード「キングジコチューってあんなに強かったっけ？」

キュアハート「それはないと思った」

キングジコチュー「貴様らプリキュアも終わりだな、これからはわたしたちジコチューの世界に変わるのだ、消え去るがよい」

その時

ジャツカル「銀河の力を秘めたる竜よ、迷いを捨てもう一度栄光を掴み取れエクシーズ召喚No.62銀河眼の光子竜皇」

No.62銀河眼の光子竜皇

ドラゴン族／エクシーズ／効果

レベル8モンスター×2

このカードが戦闘を行う場合ORUを一つ使用しダメージ計算時のみこのカードの攻撃力はフィールド上のモンスターのランクの合計×200ポイントアップする。銀河眼の光子竜を素材としてる場合効果で破壊された時自分の2回目のスタンバイフェイズ時に攻撃力を倍にして特殊召喚する。銀河眼の光子竜を素材としてない場合このカードが相手に与えるダメージは半分になる

キュアシヨコラ「ジャツカルさん」

ジャツカル「待たせたな我がキングだ」

キュアマカロン「復活したのね、よかった」

キングジコチュー「なんだ貴様？」

ジャツカル「貴様ではないキングだ」

キュアジェラート「キングと言うことは全米チャンプだったころの記憶が目覚めたのね」

キングジコチュー「キングだとふざけるな、キングはこのわたしだ」



ジャツカル「キングはこの我だ、この世に2人のキングは必要ない」  
キングジコチュー「おのれ・・・」

ジャツカル「我はテラバイト2体でオーバーレイ、希望の拳よすべ  
てを砕く力となれ、現れよ、希望皇ホープカイザー」

キュアソード「でもたった2体でどうする気なの？」

ジャツカル「確かに今は2体だな、だけど、これからもっと増やす」  
キュアマーマイド「でもどうやって？」

ジャツカル「ホープカイザーの効果発動1ターンに1度自分のメイ  
ンフェイズ時にエクストラデッキからORUの種類の数までランク  
9以下で攻撃力3000以下のNo. を効果を無効にして特殊召喚  
する。ただし同ランクは1体までに限られその後ORUと使用する  
がな、そしてこの効果を使用した場合はライフ半分になり我は特殊召  
喚出来ない」

キュアサニー「うわあ、つまりフルボッコと言う名の殺意やないか」

キュアハニー「つまり残り3体も特殊召喚出来るわけね」

キュアトウインクル「うわあ、インチキ効果ね」

ジャツカル「我が特殊召喚するのはNo. 88ギミックパペットデ  
ステニーレオ No. 79BK新星のカイザー No. 42スター  
シツプギヤラクシートマホーク」

No. 88ギミックパペットデステニーレオ

機械族／エクシーズ／効果

攻撃力3200 守備力2300 ランク8

レベル8×3

1ターンに1度自分の魔法 罨ゾーンにカードが存在しない場合  
発動出来る。ORUを1つ使いデステニーカウンターを1つこの  
カードに置く。この効果を発動するターン自分はバトルフェイズは  
行えない。このカードにデステニーカウンターが3つ乗った時この  
カードのコントローラーはデュエルに勝利する

No. 79BK新星のカイザー

戦士族／エクシーズ／効果

攻撃力2300 守備力1600 ランク4

レベル4モンスター×2

1ターンに1度自分のメインフェイズ時に発動出来る。自分の手札・墓地からBKモンスターを1体選んでこのカードの下に重ねてORUにするこのカードの攻撃力はこのカードのORUの数×100ポイントアップする。またこのカードが相手によって破壊され墓地へ送られたときこのカードが持っていたORUの数まで自分の墓地からBKと名のつくモンスターを選択して特殊召喚出来る。

No.42スターシッパギャラクシートマホーク

機械族／エクシーズ／効果

攻撃力0 守備力3000 ランク7

レベル7モンスター×2

1ターンに1度このカードのORU2つ使用し自分のフィールド上に可能な限りバトルレイグルトークン（機械族・風・レベル6・攻撃力2000 守備力0）を可能な限り特殊召喚する。この効果を発動したターン相手プレイヤーが受けるダメージは0となる。またこの効果で特殊召喚したトークンはエンドフェイズ時に破壊される。

ジャツカル「さあ、来い、貴様の力見せてもらうぞ、リバースセットしてターンエンドだ」

キングジコチュー「下らん、貴様らなど消し去ってくれるわ、消えろ」

ジャツカル「罨を警戒せず来るかだが罨発動攻撃の無力化これで貴様の攻撃は無効」

キュアラブリー「何でここで？」

キュアカスタード「確かに効果を使えないのに、残す意味は」

ジャツカル「いや、見せてやる、我の力（もう恐れぬ、前を向いて歩き続けることそして自分を信じて後悔しないこと）行くぞ、ドロ、来たぜ我はRUMアージエントカオスフォース発動」

RUMアージエントカオスフォース

魔法

自分フィールド上のランク5以上のエクシーズモンスターを選択し、そのモンスターよりランクの1つ高いCN。またはCXを1体特

殊召喚する。ランク5以上のモンスターが特殊召喚されたとき墓地のこのカードを手札に戻す、この効果はデュエル中に1度しか使えない

ジャツカル「我は、デステニーレオをランクアップ、混沌よ、今こそ気高き百獣の王を新たな姿に変えたまえ！出でよ、ランク9ギミックパペットデイズスターレオ」

CN088ギミックパペットデイズスターレオ

機械族／エクシーズ／効果

攻撃力3500 守備力2500 ランク9

レベル9モンスター×4

このカードはデイズスターレオを対象とするRUMと名のつく魔法カードのみで特殊召喚する。フィールド上のこのカードはカード効果の対象にならない1ターンに1度このカードのORUを1つ使い相手に1000ダメージを与える。また自分のエンドフェイズ時に相手のライフが2000ポイント以下でこのカードにORUがない場合、このカードのコントローラーはデュエルに勝利する

キュアビューティ「でもそんなことしてなにに？」

ジャツカル「行け！銀河眼の光子竜皇」

キュアダイヤモンド「無理よ、いくらそのドラゴンでも勝てないわ」  
ジャツカル「いや勝てる、銀河眼の光子竜皇の効果発動、ダメージ計算時のみフィールド上のモンスターのランクの合計×2000ポイント攻撃力が上がる」

キュアロゼッタ「BK新星のカイザーのランクは4ですわ」

キュアマジカル「スターシップギャラクシートマホークは7よ」

キュアミラクル「銀河眼の光子竜皇のランクは8」

キュアシヨコラ「ホープカイザーのランク12」

キュアホイップ「デイズスターレオはランクは9ね」

キュアミント「ランクの合計は40」

ミルキイローズ「そして×200って事は」

キュアパッション「攻撃力8000アップ」

キュアパイン「銀河眼の光子竜皇のもとの攻撃力は4000」

キュアビューティ「合計は12000です」

キュアマーチ「これなら行ける」

ジャツカル「殲滅のプライムフォトンストリーム」

キングジコチュー「くっ、なんて攻撃力だ、だが食らえ」

キュアベリー「ジャツカルさんのナンバーズが」

キュアフェリーチエ「破壊された」

キュアドリーム「待ってホープカイザーが破壊されてない」

ジャツカル「ホープカイザーは他のナンバーズがいるとき戦闘 効果では破壊されない」

キングジコチュー「くっ」

ジャツカル「我は、再びホープカイザーの効果発動、来いNo. 3

9 希望皇ホープ No. 74 マジカルクラウンミッシングソードN

o. 46 神影龍ドラッグルーオン」

No. 46 神影龍ドラッグルーオン

ドラゴン族／エクシーズ／効果

攻撃力 3000 守備力3000 ランク8

ドラゴン族レベル8モンスター×2

自分のフィールド上にこのカード以外のモンスターが存在しない時1ターンに1度このカードのORUを1つ使い以下の効果から1つ選択して発動する●手札からドラゴン族モンスターを1体特殊召喚する●相手フィールド上のドラゴン族モンスター1体のコントロールを得る●相手ターン終了時まで相手のドラゴン族モンスターはモンスター効果を発動できない

No. 74 マジカルクラウンミッシングソード

サイキック族／エクシーズ／効果

攻撃力2700 守備力2300 ランク7

レベル7のモンスター×2

このカードのORUを1つ使いこのカードを対象とする魔法 罫効果モンスターの効果の発動を無効にして破壊する。その後フィールド上のカード1枚を破壊する

ジャツカル「リバースセット、来なキングジコチュー」

キングジコチュー「ふざけるな、このわたしを甘く見やがって、消えろ」

ジャツカル「はあ、魔法の筒」

魔法の筒

罨

相手の攻撃宣言時に攻撃を無効にしてそのダメージを相手に与える

キングジコチュー「ぐああああ」

ジャツカル「私の番だ、ドロー、見せてやる、ランクアップだけがすべてじゃないってことを」

キュアパイン「どういう事?」

キュアマカロン「ランクアップがすべてじゃないって」

ジャツカル「我は、RDMヌメロンフォール発動」

RDMヌメロンフォール

自分のホープモンスターを1体選択してランクの低いホープモンスターをエクシーズ召喚扱いで特殊召喚するこの効果で特殊召喚されたモンスターは以下の効果を得る●このカードが相手モンスターと戦闘する場合、バトルフェイズ中は相手モンスターの効果は無効化される

ジャツカル「希望の剣、今こそ記憶を取り戻し原初の姿で我が元に来よ、エクシーズ召喚現れよ、希望皇ホープルーツ」

No.39希望皇ホープルーツ

戦士族／エクシーズ／効果

攻撃力500 守備力500 ランク1

レベル1モンスター×2

自分または相手モンスターが攻撃したときORUを1つ使いそのモンスターの攻撃を無効にしエクシーズモンスターの攻撃を無効にした場合はこのカードの攻撃力はそのモンスターランク×500アップする

キュアシヨコラ「ランクダウンマジック?ランクアップマジックは知ってるけど」

キュアサニー「なんでや、何でランクダウンさせるねん、しかもホープってホープ系統どんだけあんねん」

ジャツカル「あいつを倒すためだ、仕方ないだろ」

キュアソード「でもランク1では倒せないわ」

ジャツカル「だからこうする、手札のRUM RRレボリューションフォースを墓地へホープルーツ1体でオーバレイ希望の力よ、今こそ神聖な龍となりて我らに勝利をもたらせ、ハイパーランクアップエクシーズチェンジ！出でよ、ランク10 No. 99希望皇龍ホープドラグーン」

希望皇龍ホープドラグーン

ドラゴン族／エクシーズ／効果

攻撃力4000 守備力2000 ランク10  
レベル10モンスター×3

このカードは手札のRUM魔法カードを1枚捨て自分フィールドの希望皇ホープモンスターの上に重ねてエクシーズ召喚する。①1ターンに1度自分の墓地のNo. モンスター1体を守備表示で特殊召喚するこの効果で特殊召喚されたモンスターは効果は無効化される②このカードを対象とするモンスターの効果が発動したときORUを1つ使いその発動を無効にして破壊する

キュアシヨコラ「No. 99希望皇龍ホープドラグーン」

キュアマカロン「なかなか面白いことになってるじゃない」

キュアサニー「あかん、もはや殺意の塊どころちやうねん、もろ殺意しか無いようにみえるんやが」

キュアピース「かつこいい」

キュアハツピー「ほんとだね」

ジャツカル「これで終わりだ、ホープカイザー ホープドラグーンマジカルクラウンミッシングソード ドラッグルーオンで一斉攻撃」

キングジコチュー「バカなこのわたしが滅ぶなどだが人間がいる限りわたしは甦るぐあああああ」

ジャツカル「ノックアウト」

キュアソード「すごい」

キュアマカロン「本当ね」

キュアジェラート「燃えてきたー」

ジャツカル「お前ら、待たせたな」

キュアシヨコラ「お帰りなさい、ジャツカルさん」

すべてを爆撃せよ 迫り来るダークフォール

あおい「そう言えば、次はどこ？」

ジャツカル「夕凧町だつてよ」

りん「ここつてブルーム達がいる街よ」

ジャツカル「じゃあ、我はちよつと散歩してくるわ」

あきら「えっ、ちよつと、ジャツカルさん」

ゆかり「Dホイールで行つちやったわね、あきらも行きたかったのかしら？」

あきら「そ、そんなわけないよ」

ゆかり「そうかしら」

あきら「そ、そうだよ」

いちか「それにしても、ジャツカルさんもすっかり調子を戻りましたね」

エレン「そうですね」

その頃、ジャツカルは

ジャツカル「それにしても、どうするかな」

その時

キノコウザイナー「ウザイナー」

キュアイーグレット「うう、あいつの胞子で動けない」

カレハーン「さあ早く、満と薫の場所を教えろ」

キュアブルーム「誰が教えるものですか」

カレハーン「そうか、なら貴様ら消えろ」

キュアイーグレット「くっ、ここまでなの」

ジャツカル「黒き鋼鉄の城よ、地響き上げ敵陣に突っ込むがいい、シンクロ召喚！突撃せよ！リアルジェネクスクロキシアン」

カレハーン「何？」

キュアイーグレット「なんなの？」

キノコウザイナー「ウザイナー!!」

ジャツカル「リアルジェネクスクロキシアン、奴を威嚇攻撃だ、こいつらを連れて仲間の元へ行く」



その頃、いちか達は

のぞみ「それにしても、どうする?」

ひまり「とにかく喫茶店でジャツカルさんを待ちましよう」  
りん「そうね」

のぞみ「水を持ってきますね」

みゆき「私も行く」

あかね「あの二人で大丈夫なんか?」

奏「私も行くわ」

つぼみ「お願いします」

その時

のぞみ「うわあ」

奏「はあ、やっぱり」

霧生満「大丈夫?」

のぞみ「大丈夫です」

奏「のぞみさん、何やってるのよ」

のぞみ「ごめん」

みゆき「それよりさ、咲さん達を探すのにどうするかって問題なんだけど」

奏「そうだね」

霧生満「咲って日向咲の事?」

奏「そうですけど」

霧生薫「何が目的で探してるの?」

奏「知り合いなの?あなた達?」

霧生薫「質問を質問で返さないで、まあでも知り合いだけど」

みゆき「私達はプリキュアで敵を倒すのに協力してほしくて」

霧生満「あらっ?あなた達もプリキュアだったの?」

霧生薫「咲達の他にもプリキュアっていたのね」

霧生満「私は霧生満」

霧生薫「霧生薫よ、よろしく」

奏「私達とあそこにいる人達は仲間です」

霧生満「ご一緒してもいいかしら?」

奏「ええ」

少女達自己紹介中

霧生満「そう、つまり闇の力が何かによって甦ったって事」

霧生薫「もしかしたら私達も狙われるかもね」

せつな「そっか、満さんと薫さんも元々は敵でしたね」

その時、窓からレボリユーションファルコンが飛んでくる

霧生満「痛い、誰よ・・・って何よこの鳥」

あきら「なんでレボリユーションファルコンが」

霧生満「レボリユーションファルコン？」

ゆかり「ええ、レボリユーションファルコンは」

その時

ジャツカル「やばっ、大丈夫か？」

あきら「大丈夫です、ジャツカルさん」

美翔舞「満さん 薫さん」

霧生薫「彼は？」

日向咲「仲間です、私達の」

霧生満「そう」

カレハーン「満に薫、今すぐダークフォールに戻れ」

霧生満「嫌よ」

霧生薫「咲達を裏切る事なんて出来ない」

ジャツカル「貴様らは下がってろ、我は、魔法カード融合を発動、手

札のアマゾネスの聖戦士とアマゾネス女王を融合美しき戦士よアマ

ゾネスの気高き女王と一つとなりて新たな命を生み出さん融合召喚

！来い国を統べりしアマゾネスの女帝 アマゾネス女帝」

アマゾネス女帝

戦士族／融合／効果

アマゾネス女帝＋アマゾネスモンスター

①このカードがモンスターゾーンに存在する限り、このカード以外のアマゾネスカードは戦闘 効果では破壊されない②自分のアマゾネスが守備表示モンスターを攻撃した場合その守備力が攻撃力が越えた場合貫通効果を与える③融合召喚されたこのカードが戦闘もし

くは効果で破壊されたとき自分の手札 墓地からアマゾネス女帝1体選んで特殊召喚する

ジャツカル「手札からアマゾネスの斥候を召喚」

アマゾネスの斥候

戦士族／効果

攻撃力800 守備力1200 レベル3

このカード名の①効果は1ターンに1度しか使用できない①このカード以外のアマゾネスモンスター1体を相手に見せこのカードを手札から特殊召喚する②このカードが戦闘で破壊されたとき自分の墓地のアマゾネスの斥候以外のアマゾネスモンスターを1体選択して手札またはデッキに戻す

ジャツカル「枯れ葉野郎来やがれ」

きらら「何よあいつ」

咲「あいつカレーパンだよ、ダークフォールの幹部」

カレハーン「カレーパンじゃねえカレハーンだ」

ジャツカル「貴様、今度余計な事を言うとか口を縫い合わすぞ」

カレハーン「ふざけやがって、ウザイナー」

キノコウザイナー「ウザイナー」

霧生満「まずい」

霧生薫「ここは私達が」

ジャツカル「退いてろ、罠カード発動アマゾネスの弩弓隊」

アマゾネスの弩弓隊

罠

相手の攻撃宣言時に自分のアマゾネスモンスターが存在する場合のみ発動可能。相手フィールド上のすべてのモンスターは表側攻撃表示になり（リバース効果は発動しない）攻撃力は500ダウンしなければならぬ。相手はすべてのモンスターで攻撃しなければならぬ。

ジャツカル「このカードは相手モンスターを表側攻撃表示になり攻撃力は500ダウンしてすべてのモンスターで攻撃しなければならぬ、つまり貴様だけ逃げようとしても無駄だと言うことだ」

カレハーン「いいだろう、貴様の奴から葬ってそれから満達を倒す、ウザイナー」

あきら「まずいアマゾネスの斥候を狙ってきた」

カレハーン「まずは一匹、よくやったぞ、ウザイナー」

キノコウザイナー「ウザイナー」

ジャツカル「貴様、視力いくらだ？」

カレハーン「何？」

ジャツカル「貴様は目が悪いのか？もしくはただの馬鹿か？」

カレハーン「何が言いたい」

ジャツカル「貴様はアマゾネスの斥候を葬ったと思ってるがミスだ」

カレハーン「何!!」

ジャツカル「我がフィールドをよく見ろ」

ゆかり「アマゾネスの斥候が」

あきら「破壊されてない」

カレハーン「どう言うことだ」

ジャツカル「アマゾネス女帝の効果エンプレスガードによりアマゾネスと名のつくモンスターはこのカードがフィールド上にいる限り戦闘 効果では破壊されない」

美翔舞「と言うことは、あのアマゾネス女帝ってカードがあるかぎり、アマゾネスの斥候は破壊はされないって事」

せつな「そういうこと」

霧生満「でもなんで彼は見ず知らずの私達を？」

のぞみ「それが彼のやり方ですから」

霧生薫「じゃあ、あの戦闘スタイルも」

うらら「はい」

ひまり「彼はデュエルで笑顔をつて言っていました」

霧生薫「笑顔ねえ」

霧生満「忘れてたわね、長い間」

霧生薫「さあ、見せてもらおうかしら、貴方のやり方を」

カレハーン「ふざけるな、だったら消えろ」

ジャツカル「罨カード発動、沈黙のダークスピリット」  
沈黙のダークスピリット

罨

相手の攻撃宣言時その効果を無効にして他のモンスターを対象を  
移し代わりに攻撃させる

ジャツカル「我は、そのキノコを選択して攻撃させる」

カレハーン「何!!」

マナ「だけど、アマゾネスの斥候はアマゾネス女帝の効果で破壊は  
されない、胸がキュンキュンする展開だよ」

六花「マナはしやぎすぎ」

霧生満「確かに面白い展開になりそうね」

霧生薫「満・・・そうね」

カレハーン「ふざけるな、貴様ごときに」

あきら「まずい」

ゆかり「いきましょ」

カレハーン「食らいやがれ」

キュアシヨコラ「そうは」

キュアマカロン「させない」

キュアジェラート「うおおおお」

キュアカスタード「ジャツカルさん、ここは私達に任せてください」

キュアホイップ「私達でどうにかします」

ジャツカル「助かる」

カレハーン「何者だ貴様ら」

5人「キラキラプリキュアアラモード」

カレハーン「キラキラプリキュアアラモード?聞いたことねえが、

他にもプリキュアがいたとはな」

ジャツカル「よそ見は厳禁だぞ」

カレハーン「何!!」

ジャツカル「我は、手札からダークリゾネーターを召喚」

カレハーン「邪魔をするな」

キュアシヨコラ「まずい」

ジャツカル「我は、シグナルレッドを特殊召喚」

カレハーン「何!!」

ジャツカル「我は、シグナルレッドとダークリゾネーターを墓地へ  
電脳世界を駆ける騎士よ、今こそ邪悪を貫き通せリンク召喚！電影の  
騎士ガイアセイバー」

電影の騎士ガイアセイバー

機械族／リンク

攻撃力2600 LINK3 リンクマーカ―右／左／下

モンスター2体以上

ジャツカル「電影の騎士ガイアセイバーでキノコ野郎に攻撃、スパ  
イラルスラッシュ」

キノコウザイナー「ウザイナー!!」

ジャツカル「あとはお前だ」

カレハーン「くそつ、だったらまとめて消してやる」

キュアカスタード「まずい、きやああああ」

キュアマカロン「くつ、あいつ無差別破壊」

キュアシヨコラ「と言うことはジャツカルさんのアマゾネス女帝に  
ガイアセイバーは」

キュアホイップ「破壊された!!」

キュアジェラート「と言うことはアマゾネスの斥候は破壊出来るつ  
て事だよね」

カレハーン「おのれ、さんざん手間を取らせやがってこれである雑  
魚も葬れる」

ジャツカル「アマゾネス女帝の効果発動、このカードが戦闘もしく  
は効果で破壊されたときデッキまたは墓地からアマゾネス女王の特  
殊召喚する」

キュアシヨコラ「これなら、アマゾネス女王とアマゾネスの斥候が  
存在する」

カレハーン「消えろ」

ジャツカル「まずい狙いはアマゾネスの斥候か」

キュアブルーム「そうは行かない」

キュアイーグレット「貴方の思い通りにはさせない」  
キュアホイップ「あなた達は」

キュアブルーム「私はキュアブルーム」

キュアイーグレット「キュアイーグレットよろしく」

カレハーン「さあ、太陽の泉の場所を教えろ」

キュアブルーム「知っていても教えないわ」

キュアイーグレット「そうよ、あなた達なんかの好き勝手にはさせない」

キュアブルーム「早く、ジャツカルさん」

ジャツカル「ああ、分かった、行くぞ、我は、アマゾネスの斥候とアマゾネス女王を墓地へ来いすべてを爆撃する竜よ、その力で奴らを葬りされ、リンク召喚！来い！トポロジックボマードラゴン」

トポロジックボマードラゴン

サイバース族／リンク／効果

攻撃力3000 LINK4 リンクマーカ―上／左下／下／右下

効果モンスター2体以上

①このカードがモンスターゾーンに存在しフィールド上のリンクモンスターとのリンク先にこのカード以外のモンスターが特殊召喚された場合お互いのメインモンスターゾーンのモンスターをすべて破壊する。このターンこのカード以外のモンスターは出来ない②このカードが相手モンスターを攻撃したダメージ計算後、その相手モンスターの攻撃力だけダメージを与える

カレハーン「何!!ここに来て新たなドラゴンだ!!」

ジャツカル「行くぞ、トポロジックボマードラゴンで攻撃、爆撃せよ」

キラキラプリキュアアラモード「キラキラキラルンフルチャージ」

キュアブルーム キュアイーグレット「プリキュアツインストーリーム」

キラキラプリキュアアラモード「スイーツワンダフルアラモード」

ジャツカル「ボマーエクスプロージョン」

キラキラプリキュアアラモード キュアブルーム キュアイーグレット ジャツカル「スイーツストリームエクスプロージョン」

カレハーン「何だど!!この俺が、こんな連中にぐあああああ」

あかね「・・・なあ、エグすぎせえへん?」

ジャツカル「なんでだ?」

あかね「そうやろ、ケーキに閉じ込め衝撃波?で大ダメージを与え  
そして一気に爆撃って」

ジャツカル「いいじゃん別に」

あきら「そうですね、たまにはいいと思いますよ」

ゆかり「その方が面白そうだし」

あおい「結構楽しめるからさ」

あかね「・・・もうええわ」

りん「そしてあかねちゃんは考えるのをやめた」

あかね「りんさん余計な事は言わんでええ」

霧生満「薫」

霧生薫「何?満」

霧生満「さっきのどう思う?」

霧生薫「たまにはいいんじゃないかしら?彼のお陰で笑顔になれた  
し」

霧生満「そうね」

霧生薫「笑顔になったのいつぶりだっけ?」

霧生満「咲達と出会って数ヶ月たった頃ね、私達がアクダイカーン  
様に封印されて復活したときね」

霧生薫「そうだったわね」

霧生満「あの時は嬉しかったわ、だけど、彼からはもっと違う嬉し  
いって感じじゃなく純粹に楽しんでるってのがこっちまで伝わって  
きたもの」

霧生薫「どこいくの?満」

霧生満「彼にお礼を言うわ、だってここまで楽しませてくれたしそ  
れに笑顔になれたもの、あの、ジャツカルさん」



ジャツカル「なんだ？何かあったのか？」

霧生満「ありがとございます、私達を楽しませていいえ笑顔にさせてくれて」

ジャツカル「あつ？気にするな、だが他の次元でも私のデュエルが通じるってのが分かったからな」

霧生薫「他の次元？」

ジャツカル「ああ我は、エクシーズ次元ってところから来た、ただの次元旅行者だ、あんた、笑顔が似合うな」

霧生満「／／／」

日向咲「あれっ、満さん照れてるんですか？」

霧生満「照れてない!!」

## 眠らされた街 2体の竜の轟く咆哮

満「ねえ、ちょっといい？」

ゆかり「何かしら？」

満「彼つて恋人つているの？」

ゆかり「いるわよ、そこにいるあきらがそう」

満「そう・・・残念ね」

あきら「どうしたの？ゆかり」

ゆかり「また恋のライバルが1人増えたわね」

あきら「えっ、ちょっと何言ってるの？」

いちか「それにしても楽しそうですね、私も入ってもいいですか」

あきら「いちかちゃんこれは遊びじゃないんだよ」

いちか「そうですよね」

ジャツカル「・・・」

ひまり「どうしたんですか？」

ジャツカル「分からないがスターヴヴェエノムフュージョンドラゴンとオツドアイズペンデュラムドラゴンの様子が変なのだ」

ひめ「もしかしてドラゴンどうしも恋愛中とか」

いおな「ひめからかわないの」

ひめ「はい」

ジャツカル「それはそうと、あおいはなんで見てるわけ？」

やよい「あおいさんナズエミテルンデイス!!」

りん「はいはい、ちゃんとしやべろうね」

あかね「普通の言葉で喋らんとあかんで」

やよい「えっ、ちょっと」

あおい「実は・・・オツドアイズペンデュラムドラゴンとスターヴヴェエノムフュージョンドラゴンの様子を見に来たんです」

ジャツカル「こいつらの？」

あおい「はい」

ジャツカル「なんで？」

あおい「実は前回、オツドアイズペンデュラムドラゴンとスターヴ

ヴェノムフュージョンドラゴンが共鳴してるかのように光ってます」

あきら「それは知らなかったな」

ゆかり「私も」

舞「そう言えば、今朝も何回か共鳴してるようでしたよ」

ジャツカル「そうなのか？どんな風に？」

舞「何て言えばいいんだろう」

薫「簡単に言えば魂が共鳴してるかのようにでしたけど」

ひまり「そう言えば、新しいカードが追加されてませんか？」

ジャツカル「なんでだ？」

ひまり「ほら、私が負けたくないって思ったときスカーレットノ

ヴァドラゴンのカードが出現しました」

エレン「確かに私の時も敵を倒したいって思ったとき霸王眷竜クリ

アウイングが出てきました」

ジャツカル「確かにそうだったな、えくと、変わったところは無い

ようだが」

あきら「あのジャツカルさん」

ジャツカル「どうした？」

あきら「こんなカード入ってましたか？」

ゆかり「どれ？融合ペンデュラムね、ズアークと同じらしいけど」

ジャツカル「霸王紫竜オッドアイズヴェノムドラゴン？こんなカー

ド入ってなかったぞ」

あきら「エクストラデッキ見せてもらえませんか？」

ジャツカル「本来デュエリストは相手にデッキは見せないんだ

が……まあいいだろう、ほら」

あきら「ありがとうございます、えくと、なんか見たことのないカー

ドが入ってるんですが」

ゆかり「どれ？」

あきら「例えばこれとか」

あおい「なんだこれ？白鬨気白鯨？」

あきら「他にも剣闘獣総監エーデイトルとかアマゾネス虎獅子と

か」

ゆかり「確かにDHEROダスクユートピアガイとか剣闘獣アンダバタエとか白闘気海豚とかも前見たときは無かったわね」

ジャツカル「妙な反応にそして急な新規カードのデッキ混入……ますます分からねえ、ちよつと我は、出掛けてくる、あと、我が召喚したときは初見だつて事にしてくれ」

ゆかり あおい あきら「分かりました」

ジャツカル「さてどうしようか……」

その頃、あきら達は

あきら「困つたな、なんか悪いことしちゃったかな？」

ゆかり「大丈夫でしょ」

あおい「でもなんで新規カードが混入されてたんだろう、誰も強くなりたいてって思つてないはずだけど」

あきら「もしかして……」

ゆかり「どうしたの？」

あきら「覚えてるでしょ、ジャツカルがジコチューの幹部の一人マーモに洗脳され私達と戦つたときの事」

ゆかり「確かに覚えてるわ」

あきら「ジャツカルさんがあのあと自分の弱さが敵に操られてしまった、力が欲しいって言つてたの」

あおい「つまりその言葉がカードに伝わつたつて事だよな」

その時

舞「みんな敵よ」

あきら「分かつた、今行く」

その頃、ジャツカルは

ジャツカル「なぜ我のデッキに見たこともないドラゴンが？それよりはなぜ多数の新規カードが入っていた？」

その時

ジャツカル「この気配なんだ？まさかナンバーズが？だが、一応持つてるナンバーズはすべて回収したはず、とにかく行くか」

その頃、ブルーム達は

キュアブルーム「何あいつら、あんなに強かったっけ」

霧生薫「そう言えばさ、さつき妙な数字が見えたんだけどあれ何？」

キュアシヨコラ「もしかしたら薫さんが見た数字には多分ですが、見覚えがあります」

キュアイーグレット「それって？」

キュアマカロン「多分、あの幹部2人ともナンバーズに憑依してます」

キュアパッション「なんかすぐく眠いのもナンバーズの仕業なの」

キュアジェラート「分からない・・・こんなに眠らせようとするナンバーズいるはずが・・・無いよ」

キュアホイップ「どう言えば街の人達が眠ってるんだけど」

その時

枕ウザイナー「ウザイナー」

キュアイーグレット「まさかあのウザイナーが」

キュアフォーチュン「大変、プリンセスが」

キュアブロッサム「マリンも眠ってます」

ミルキイローズ「こっちも、ドリームが寝てるわ」

キュアマーチ「こっちも、ハッピーとピースが眠ってるし」

キュアシヨコラ「ダメ、眠りそう」

キュアマカロン「あの数字って間違いなくナンバーズだよね」

キュアラブリー「あのウザイナーって奴にはナンバーズ41ね」

キュアパイン「ミズ・シタターレって幹部にはナンバーズ68ね」

キュアビート「モエルンバって奴にはナンバーズ89ね」

ミズ・シタターレ「さすがのプリキュアも苦戦しているようね」

モエルンバ「それより、これでプリキュアも終わり、そして裏切り

者の満と薫もこれで消える」

ミズ・シタターレ「やりなさいウザイナー」

枕ウザイナー「ウザイナー!!」

ジャツカル「漆黒の闇より、すべてを破壊する漆黒の竜、今蘇れ、シンクロ召喚ダークエンドドラゴン」

ミズ・シタターレ「何!!」

キュアシヨコラ「ジャツカルさん、気をつけてください、あの二人幹部なゆえにナンバーズに憑依されています」

ジャツカル「じゃあ、この眠いのは？」

キュアマカロン「それはあのウザイナーって怪物にもナンバーズが憑依しておりそのナンバーズが眠気を・・・誘っているのだと・・・思います」

ジャツカル「くっ、ここまで眠気を誘われると、こっちも、まともに集中出来んぞ」

モエルンバ「これでプリキュア達も終わり、永遠の眠りにつかせてやるぜアミーゴ」

キュアシヨコラ「そんな・・・事は・・・させない」

キュアパツシヨン「そうよ・・・何があっても・・・私達で・・・勝たなきや・・・ならない」

ミズ・シタターレ「眠そうなのは何いつてるのよ、覚悟しなさい、ウザイナー」

ジャツカル「ダークエンドドラゴン、奴等を潰せ、ダークエンドファイヤー」

ミズ・シタターレ「おのれ、そいつから消しなさい、ウザイナー」  
枕ウザイナー「ウザイナー」

ジャツカル「ダークエンドドラゴン!!・・・さすがに・・・眠気がここまで来ると・・・さすがの我もまずいかな、まずはあのウザイナーって野郎から潰したほうが先決か」

モエルンバ「どうした？もう終わりかいチャ、チャ」

ジャツカル「まだ終わりじゃねえしかし、何が一番タチが悪いってこんなクソ眠いの敵が枕だって事だな、我は、超融合を発動、手札を1枚捨てモンスターを融合させる」

キュアシヨコラ「よし、超融合なら」

ジャツカル「我は、手札のVHEROUイツチレイドとDHEROドリームガイを融合、幻影を司る魔女よ・・・夢の世界へ・・・誘う英雄よ・・・2つの魂が1つとなり・・・新たな命を・・・吹き込まん・・・融合召喚出でよ・・・スターヴヴェノムフュージョンドラゴ

ン(まずいな、眠気が増幅してまともに召喚口上が言えない状態まで追い込まれてやがる)」

霧生満「なんなの・・・あの禍々しい・・・ドラゴンは」

キュアピーチ「スターヴヴェノムフュージョンドラゴン、なんとかなる・・・かな」

キュアマジカル「多分、なるんじゃない・・・もうダメ眠くなってきた」

キュアミラクル「マジカル・・・私まで眠くなってきた」

ジャツカル「どうするか、これ以上は限界に近い連中が多いな、カスタード」

キュアホイップ「カスタードは・・・寝ちゃいましたよ・・・」

ジャツカル「仕方ない、スターヴヴェノムフュージョンドラゴン奴を始末しろ、インベイジョンオブヴェノム」

ミズ・シタターレ「迎え撃ちな、ウザイナー」

ジャツカル「こうなったら、ペンデュラム召喚、オッドアイズペンデュラムドラゴン、やれオッドアイズペンデュラムドラゴン、デュエリストアドベント」

枕ウザイナー「ウザイナー!!」

ジャツカル「なんとか厄介なのは消えた」

キュアジェラート「危なかった」

キュアマカロン「結局、あいつのナンバーズはなんだったんですか？」

ジャツカル「泥酔魔獣バグースカ」

キュアベリー「イラストからも分かるように最悪ね、このナンバーズ、酒といい眠気の増幅といい」

ミズ・シタターレ「クソツ、永遠眠りにつかせ倒そうと思ってたところを」

スターヴヴェノムフュージョンドラゴン「グオオオオ」

オッドアイズペンデュラムドラゴン「グギヤアアオ」

キュアショコラ「オッドアイズペンデュラムドラゴンとスターヴヴェノムフュージョンドラゴンが」

キュアフォーチュン「何かに共鳴してる」

ジャツカル「もしかしたら、シヨコラ」

キュアシヨコラ「はい」

ジャツカル「ゼアルIVになるぞ」

キュアシヨコラ「はい」

ジャツカル「我は、我自身の魂と」

キュアシヨコラ「私自身の魂で」

ジャツカル キュアシヨコラ「オーバーレイ」

ゼアルIV「ゼアルIV出来上がり」

キュアブルーム「えっ、何？何なの」

キュアイーグレット「何があったの」

キュアジェラート「あれはゼアルIV、ジャツカルさんとシヨコラがオーバーレイした姿だよ」

ゼアルIV（ジャツカル）「私のターン、最強デュエリストのデュエルは必然、ドローカードすらも創造する」

キュアサニー「ほんまに、チートやな、もはやデュエルがではなくすべて必然なんやないんか」

ゼアルIV（ジャツカル）「来たぜ、魔法カード融合発動、我は、オツドアイズペンデュラムドラゴンと」

ゼアルIV（あきら）「スターヴヴェノムフュージョンドラゴンを融合」

ゼアルIV（ジャツカル）「二色の眼を持つ竜よ」

ゼアルIV（あきら）「猛毒の牙持つ竜よ」

ゼアルIV「神秘の渦で交わりて新たな力を産み出さん融合召喚、現れる悪を滅ぼす運命の紫竜 霸王紫竜オツドアイズヴェノムドラゴン」

霸王紫竜オツドアイズヴェノムドラゴン

ドラゴン族／融合／ペンデュラム／効果

攻撃力3300 守備力2500 レベル10 スケール1

ペンデュラム効果 ①1ターンに1度自分フィールドの融合モンスター1体を対象とし発動できる。そのモンスターの攻撃力はター



ン終了時まで相手フィールド上のモンスターの数×1000ポイントアップする

スターヴヴェノムモンスター+オッドアイズモンスター

このカードは融合召喚及びペンデュラム召喚でのみ特殊召喚出来る①1ターンに1度相手フィールド上の表側表示のモンスター1体を対象として発動可能。エンドフェイズ時までこのカードの攻撃力はそのモンスターの攻撃力分アップして選択したモンスターと同じ名前と効果を得る。②モンスターゾーンのこのカードが破壊された時、自分のペンデュラムゾーンのカード1枚選んで特殊召喚してこのカードをペンデュラムゾーンに置く

キュアカスタード「何あのドラゴン」

キュアマカロン「オッドアイズペンデュラムドラゴンとスターヴヴェノムフュージョンドラゴンが融合した」

キュアジェラート「まるでスターヴヴェノムフュージョンドラゴンがオッドアイズペンデュラムドラゴンによって浄化されたみたい」

キュアビューティ「美しいですね」

ミス・シタターレ「今さらそんな奴を呼ぼうがわたくし勝てるはずがない」

モエルンバ「待つんだ、シタターレあの竜はヤバい」

ミス・シタターレ「関係ない、奴を潰す」

ゼアルIV（ジャツカル）「ちっ、うるさいババアだ」

ミス・シタターレ「貴様」

モエルンバ「落ちて着け奴の挑発に乗るな」

ゼアルIV（あきら）「私は霸王紫竜オッドアイズヴェノムドラゴンの効果発動、私は相手フィールド上のモンスターつまり貴方達のどちらかを選択し攻撃力分をアップさせる、私が選ぶのは貴方よ、そして貴方と同じ名前そして効果を得る」

ミス・シタターレ「貴様は許さん」

モエルンバ「待てシタターレ、今の奴の攻撃力はお前を越えている」

キュアイーグレット「つまり霸王紫竜オッドアイズヴェノムドラゴンはミス・シタターレとしても扱われるって事？」

キュアマーチ「そう言うこと」

ゼアルIV(ジャツカル)「これで最後だ、オッドアイズヴェノムドラゴンで攻撃、殲滅のヴェノムオブインフェニティ」

キュアビート「やったまずは一人」

モエルンバ「やるじゃんチャチャ、アミーゴ、サンバでもどうだい？」

ゼアルIV(ジャツカル)「悪いがダンスは苦手だな」

モエルンバ「チャチャ、それは残念だ、一気に燃やしてあげるよ、アミーゴ」

ゼアルIV(あきら)「そうは行かないわ、キラキララルンキラキラ、これを受け取ってオッドアイズヴェノムドラゴン」

オッドアイズヴェノムドラゴン「グギヤアアアオ」

ゼアルIV(あきら)「行くよ、オッドアイズヴェノムドラゴンで、攻撃、ヴェノムキラキラルバースト」

霧生薫「綺麗」

霧生満「そうね」

モエルンバ「まさか負けるとは思わなかったぜ、アミーゴ」

キュアミラクル「やった」

キュアサンシャイン「すごい」

キュアサニー「ほんまに、チートやゼアルIVは」

ジャツカル「回収完了・・・このカードは、魔天牢サンダルフォンそして電脳獣ディアブロシスだ」

キュアシヨコラ「それにしてもあのバグースカってナンバーズ、厄介だったね」

キュアマカロン「そうね」

ジャツカル「さてと、次のナンバーズ回収に向かう」

その時

??? (お願いです、早く来ててください)

ジャツカル「またあの声だ」

??? (早くしてこちらのゲートをくぐって来ててください、今まで集めたプリキュアの仲間と一緒に)

ジャツカル「しかし」

??? (私の世界にもナンバーズがありません、それに時間がありません、急いでください)

ジャツカル (消えた、どういう事だ時間が無いって)

あきら「ジャツカルさん、このゲートは？」

ジャツカル「分らんが時間が無いらしい次の世界に通じる扉だろ、とにかく行くぞ」

全員「は、はい」

## 恐ろしき計画 次元統合

ジャツカル（しかし、なぜあの声は我を呼ぶ）

あきら「ジャツカルさん」

ジャツカル「どうした？」

あきら「いえさつきから、呼んでたんですが無反応だったもので、どうしたんですか？」

ジャツカル「いや、我が初めてお前達の世界に来たときの事覚えてるか？」

あきら「えっ、まあ覚えてますけど」

ジャツカル「実はなあ我を呼ぶ声がしてなそれで来たんだ」

あきら「声ですか？」

ジャツカル「ああ、お前達を助けてくれって女性の声かな」

あきら「そうだったんですか」

ジャツカル「それで咲達の世界で戦いが終わったあとも同じ声が聞こえてな」

あきら「それで次の世界に」

ジャツカル「ああ、そうだ、それよりここはどこだ？」

咲「ベローネ学園前って書いてありました、ここにはなぎささん達がいる場所です」

ジャツカル「とにかくそいつらを」

その時

???（よく来てくれました、ジャツカルさん、貴方には九条ひかりって少女を探してもらいたいのです）

ジャツカル（なんのために）

???（貴方が知りたがってた事を知っているから）

ジャツカル「（知りたがってた事だと・・・分かった探す）お前ら悪いがなぎさって娘達を探してくれ」

ゆかり「ジャツカルさんは？」

ジャツカル「我は、九条ひかりって少女を探す」

咲「私が心当たりあります、一緒に行きます」

ジャツカル「そうだ、あきら、ゆかりあとはあおいとひまりは一緒に来てくれ」

あおい ひまり ゆかり あきら「分かりました」

そして20分後

咲「あそこに、いるはずですよ」

藤田アカネ「いらつしやい、あつ、咲ちゃん、どうしたの？それにそちらの娘達は見ない顔だけど」

咲「私の友達ですよ」

藤田アカネ「ああ、友達ねえ」

ジャツカル「それよりさ、九条ひかりって娘どこ？」

藤田アカネ「えくと君はひかりの彼氏？」

ジャツカル「いや、違うそんなんでは」

藤田アカネ「まあいいや、ひかりならもうすぐ学校から帰ってくるけどそこで待つてて」

そして20分後

九条ひかり「アカネさん、ごめんなさい遅れてしまつて」

藤田アカネ「いいつて、いいつて、それより、ひかりに会いたいわって人が来てるんだけど」

九条ひかり「私にですか？」

藤田アカネ「そう、あそこで座つてる人」

九条ひかり「分かりました」

ジャツカル（しかし、なぜ声の主は我を呼んだ）

九条ひかり「あの、私になにか」

ジャツカル「あんたが九条ひかりか？」

九条ひかり「はい」

ジャツカル「単刀直入に聞く、私の知りたかつた事を知つてるらしいがそれはなんだ？ナンバーズの事か？」

九条ひかり「えっと」

あきら「ジャツカルさん、すごく困つてますよ」

ジャツカル「失礼、我は、ここに来る前に助けてほしいという声を聞いた、それでこつちに来てからあんたを探せつて言われた、私の知

りたかった事を知ってるってな」

その時

美墨なぎさ「ちよつとあんた何ひかりに絡んでるの?」

雪城ほのか「なぎさ落ち着いて」

九条ひかり「違うんです、彼は自分の事を知りたくてそれで聞いてたんです」

美墨なぎさ「そうなのごめんなさい」

ジャツカル「別に気にするな、なれている」

九条ひかり「実は、貴方と呼んだのは女王様なんです」

ジャツカル「なぜ我を呼んだ?」

九条ひかり「実は、ある計画を阻止してほしくて」

ゆかり「ある計画?」

九条ひかり「それは」

ジャツカル「ちよつと待った」

あきら「どうしたの?」

ジャツカル「すぐ戻る、君、ちよつといいか?」

剣城みく「何?」

ジャツカル「一人でここに何しに来たの?家族は?」

剣城みく「お姉ちゃんが一人とお婆ちゃんが一人なの、病院にいたのに気づいたらここに」

ジャツカル「病院か、送り届けた方がいいか・・・だけど、ちよつと向こうで座ってようか」

剣城みく「うん」

ジャツカル「わりいな、迷子?を連れてきた」

あきら「みく!!なんでここに?」

剣城みく「お姉ちゃん」

ジャツカル「なあ、あきら、お前の妹か?」

あきら「はい、でもどうしてここに?」

ジャツカル「どうやら気づいたらここにいたらしい」

九条ひかり「やはり、影響が出てしまってます」

ジャツカル「どういう事だ?」

九条ひかり「その計画って言うのは次元統合」  
その時

隼「ジャツカルか？」

カイト「どうしてここにいる」

ジャツカル「隼 カイトお前らなんでここに？」

隼「分からないが、俺たちはアカデミアにいたはずだ」

ジャツカル「そうだ、瑠璃はどうなった？」

隼「瑠璃はもういない」

ジャツカル「なんだと!!」

隼「瑠璃はスタンダード次元の瑠璃によく似た柊柚子って娘の中でも生きている」

ジャツカル「どういう事だ？」

隼「つまり瑠璃はレイって娘の分身だった」

ジャツカル「そっか・・・それなら仕方ないな」

あおい「カイト・・・あつ、カイトさんお久しぶりです」

カイト「誰だ？お前？初めてあつたばかりだぞ」

あおい「覚えてないんですか？私です立神あおいです」

カイト「立神？ああ、あの時の電話のジャツカルはどんな様子だった？」

あおい「それが・・・」

少女説明中

カイト「そうか、ショックのあまり暴走を」

あおい「はい」

九条ひかり「あのそろそろいいですか？」

ジャツカル「すまん」

九条ひかり「それで貴方呼んだのは次元統合を止めてほしくて」

隼「次元統合だ!!」

ジャツカル「どうした？」

隼「俺たちはアカデミアへ赤羽零王の野望を止めに行った」

ジャツカル「赤羽零王の野望？」

隼「ああ、それはアークエリアプロジェクト」

ひまり「何ですか？そのアークエリアプロジェクトって」

隼「アークエリアプロジェクトは俺達のエクシード次元 シンクロ次元 融合次元 スタンダード次元の4つの次元を1つにするのが目的だった」

きさら「つまり4つの次元を1つに次元統合するって事ですか？」

カイト「そう言うことだ」

ジャツカル「ひかり、今回はそのアークエリアプロジェクトのが原因なんじゃないか？」

九条ひかり「そこまでは、まだ」

その時

バケツザケンナー「ザケンナー!!」

美墨なぎさ「嘘!!ザケンナー?」

ジャツカル「隼 カイト下がってろ」

バケツザケンナー「ザケンナー」

隼「なに!!次元の裂け目だと」

カイト「まずい、吸い込まれる」

隼 カイト「うわあああああ」

ジャツカル「隼」

あおい「カイトさん」

あきら「あの二人は多分、別次元に送られたのかと思われます」

剣城みく「お姉ちゃん」

あきら「みく!!」

ジャツカル「まずい、来い!幻のグリフォン」

幻のグリフォン

鳥獣族

攻撃力2000 守備力0 レベル4

山岳に隠れすむ伝説のモンスター。その翼はひと羽ばたきで嵐を巻き起こすという。ハーピィとは中が悪く狩場を巡って争いが耐えないらしい

ジャツカル「幻のグリフォン、彼女を助けろ」

幻のグリフォン「キルルル」



剣城みく「ありがとう」

あきら「ありがとうジャツカルさん」

ジャツカル「お前の妹だ、しばらくは仕方ないから、一緒にいさせ  
た方がいい」

あきら「でも」

ジャツカル「心配なのは分かるが次元の裂け目に吸い込まれたらど  
こへいくか分からないだぞ、そんな中で敵に襲われてみる、デュエ  
リストでもプリキュアでも無いみくちゃんが一人でどう生きていく  
？」

あきら「そうですね、でも病院は」

ジャツカル「それなら、我が何とかする」

ゆかり「大丈夫何ですか？」

ジャツカル「ああ、我ならどんな病だろうと治せるからな」

みなみ「とにかくあいつを倒さない」と

少女達変身中

バケツザケンナー「ザケンナー」

ジャツカル「みくちゃん、ここで待つてな、我がそしてあんたの姉  
があいつを倒す」

剣城みく「うん」

ビーサード「ほう、他にもプリキュアが大勢いたとはな・・・」

キュアブラック「ビーサード、まさか生き返ったの」

キュアブロッサム「もしかして次元統合のせいだとすれば」

キュアホワイト「隼つて人が言つてたアークエリアプロジェクトが  
原因だとすればそれを止める」

ビーサード「邪魔だ、消えろ」

キュアマリン「危なかった」

ビーサード「行け、ザケンナー」

バケツザケンナー「ザケンナー」

キュアシヨコラ「まずい、きやああああ」

剣城みく「お姉ちゃん」

ビーサード「耳障りですね、消えなさい」

キュアシヨコラ「みく、逃げろ」

剣城みく「えっ」

ジャツカル「まずい、幻のグリフォン」

幻のグリフォン「キルルル」

キュアマカロン「幻のグリフォンが」

キュアシヨコラ「石になっていく」

ジャツカル「ちっ、みくちゃん大丈夫か？」

剣城みく「うん、でも」

ジャツカル「大丈夫だ、幻のグリフォンはバーチャル映像だがさすがにまずいな」

キュアビート「あいつ関係の無い娘を狙うなんて」

ジャツカル「待てビート」

キュアビート「えっ」

ジャツカル「ここは我がやる、久しぶりにぶちギレたぜ、行くぞ！

クズ野郎来いベヒゴン」

ベヒゴン

水族

攻撃力1350 守備力1000 レベル4

かなり変わった海へび。大きな口と大きな牙が特徴

ジャツカル「我は、レベル4の幻のグリフォンとベヒゴンでオーバーレイ」

キュアパッション「嘘!!エクシーズ召喚が出来ない」

ジャツカル「どういう事だ・・・もしかしたら石化したらエクシーズ召喚の素材には出来ないのか、やられたぜ、リバースセットしターンエンド」

バケツザケンナー「ザケンナー」

キュアブラック「何今の？」

シャイニールミナス「どうしたんですか？」

キュアブラック「今ザケンナーの腕に数字が」

キュアホワイト「数字」

ジャツカル「気をつけろそうだとしたら奴はナンバーズに憑依され

ている」

キュアホワイト「ナンバーズって？」

ジャツカル「私の記憶のカードだ、来るぞ」

バケツザケンナー「ザケンナー!!」

キュアブラック「きやああああ」

キュアホワイト「ブラック」

ジャツカル「我がやる、妖仙獣左鎌神柱と妖仙獣右鎌神柱でペンデュラムスケールをセツティング、ペンデュラム召喚、出でよ剣闘獣スパルテイクス 剣闘獣ノクシウス」

剣闘獣アウグストル

鳥獣族／効果

攻撃力2200 守備力1600 レベル8

このカードが剣闘獣モンスターの効果によって特殊召喚されたとき手札から剣闘獣モンスター1体を表側守備表示にして特殊召喚する。このカードが戦闘を行ったバトルフェイズ終了時にこのカードをデッキに戻すことで剣闘獣アウグストル以外の剣闘獣を1体特殊召喚する

剣闘獣ノクシウス

獣戦士族／効果

攻撃力0 守備力1000 レベル5

①相手が直接攻撃宣言時このカードを手札から特殊召喚してこのカードに対象を移しダメージ計算を行う②このカードが剣闘獣モンスターの効果で特殊召喚されたときデッキから剣闘獣モンスターを1体墓地へ送る③このカードが戦闘を行ったバトルフェイズ終了時にこのカードをデッキに戻すことで剣闘獣ノクシウス以外の剣闘獣を1体特殊召喚する

キュアパイン「剣闘獣ノクシウスはレベル5剣闘獣アウグストルはレベル8どうする気なのかしら」

ジャツカル「融合召喚を行う」

キュアカスタード「でも手札がありません」

ジャツカル「ああ、だけどこいつらは特別だ、我は、剣闘獣アウグ

ストルと剣闘獣ノクシウスをデッキに戻し融合」

キュアジェラート「デッキに戻すだけで融合召喚!!」

ジャツカル「尊厳ありし名を持つ皇帝の称号よ罪深き罪人の名を持つものよ、2体の力が共鳴し鞭振るう指揮官を今こそ呼び出さん融合召喚我が元において現れよ剣闘獣の指揮官！剣闘獣総監エーデイトル」

剣闘獣総監エーデイトル

獣戦士族／融合／効果

攻撃力2400 守備力3000 レベル8

レベル5以上の剣闘獣モンスター×2

自分のフィールドの上記のカードをデッキに戻した場合のみエクストラデッキから特殊召喚出来る（融合は必要としない）①1ターンに1度エクストラデッキから剣闘獣総監エーデイトル以外の剣闘獣融合モンスター1体を召喚条件を無視し特殊召喚する②自分の剣闘獣モンスターが戦闘を行ったバトルフェイズ終了時にそのモンスターを1体を持ち主のデッキ エクストラデッキに戻しデッキから剣闘獣モンスターを1体特殊召喚する

ジャツカル「我は、エーデイトルの効果発動、自分のエクストラデッキからエーデイトル以外の剣闘獣モンスターを1体呼び出す、来い剣闘獣アンダバタエ」

剣闘獣アンダバタエ

獣戦士族／融合／効果

剣闘獣アウグストル＋剣闘獣モンスター×2

自分のフィールドの上記のカードを戻した場合のみエクストラデッキから特殊召喚出来る（融合は必要としない）①このカードが上記の方法で特殊召喚に成功したときエクストラデッキからレベル7以下の剣闘獣モンスターを1体召喚条件を無視し特殊召喚する②このカードが戦闘を行ったバトルフェイズ終了時にこのカードをデッキに戻すことでデッキから剣闘獣モンスターを2体特殊召喚する

ジャツカル「バトル、エーデイトルとアンダバタエで攻撃」

バケツザケンナー「ザケンナー!!」

ジャツカル「無効か、だがアンダバタエとエーデイトルの効果発動、エーデイトルとアンダバタエをエクストラデッキに帰還そしてアンダバタエの効果でデッキから剣闘獣モンスターを2体エーデイトルの効果で剣闘獣モンスターを1体特殊召喚する、来い剣闘獣ムルミロ  
剣闘獣デイカエリイ 剣闘獣サムニテ」

剣闘獣サムニテ

獣族／効果

攻撃力1600 守備力1200 レベル3

このカードが剣闘獣モンスターの効果で特殊召喚に成功したときこのカードが戦闘で相手モンスターを破壊したとき自分のデッキから剣闘獣モンスター1体手札に加える。このカードがバトルフェイズ終了時にデッキに戻すことでデッキから剣闘獣サムニテ以外の剣闘獣モンスターを1体特殊召喚する

剣闘獣デイカエリイ

獣族／効果

攻撃力1600 守備力1200 レベル4

このカードが剣闘獣モンスターの効果で特殊召喚されたとき1度のバトルフェイズに2回攻撃する。このカードが戦闘を行ったバトルフェイズ終了時にこのカードをデッキに戻すことで剣闘獣デイカエリイ以外の剣闘獣モンスターを1体フィールド上に特殊召喚する

剣闘獣ムルミロ

魚族／効果

攻撃力800 守備力800 レベル4

このカードが剣闘獣モンスターの効果で特殊召喚されたときフィールド上の表側表示モンスターを1体破壊する。このカードが戦闘を行ったバトルフェイズ終了時にこのカードをデッキに戻すことで剣闘獣ムルミロ以外の剣闘獣モンスターを1体特殊召喚する

キュアソード「一気に3体の剣闘獣!!」

キュアハート「でも剣闘獣ムルミロと剣闘獣サムニテはレベル3よ」

キュアダイヤモンド「と言うことはエクシーズ召喚」

キュアマカロン「でも剣闘獣はデッキに戻すことで融合召喚が出来るわ」

キュアシヨコラ「と言うことは融合召喚って可能性もあるね」

ジャツカル「その前にムルミロの効果発動、剣闘獣モンスターの効果で特殊召喚されたときフィールド上の表側表示モンスターを1枚破壊する」

ビーサード「何!!」

ジャツカル「貴様のザケンナーを破壊」

バケツザケンナー「ザケンナー!!ゴメンナー」

ジャツカル「次だ、我は、剣闘獣サムニテ 剣闘獣ムルミロ 剣闘獣デイカエリイをデッキに戻し融合剣闘士の魂よ 二刀流で戦いし剣闘士よ居住していた部族と一体化した剣闘士よ、3つの魂一つとなりて今、第5代皇帝の魂を蘇らせん融合召喚！出でよ剣闘獣ネロキウス」

剣闘獣ネロキウス

剣闘獣モンスター×3

自分のフィールドの上記のカードをデッキに戻した場合のみエクストラデッキから特殊召喚出来る（融合は必要としない）①このカードは戦闘では破壊されずこのカードが戦闘を行う場合はダメージステップ終了時まで相手は魔法 罠 モンスター効果は使えない②このカードが戦闘を行ったバトルフェイズ終了時にこのカードをエクストラデッキに戻すことでデッキから剣闘獣モンスターを2体特殊召喚する

キュアジェラート「また新たな剣闘獣モンスター」

ジャツカル「いいこと教えてやる、剣闘獣モンスターの共通効果はバトルフェイズ終了時にデッキまたはエクストラデッキに戻すことで新たな剣闘獣モンスターを呼び出すことが出来るのだ」

キュアハニー「ネロキウスも剣闘獣って事は」

キュアサニー「バトルフェイズ終了時にエクストラデッキに戻りまた新たな剣闘獣モンスターを呼び出すことが出来るってわけやな」  
キュアプリンセス「すごいーい」

キュアシヨコラ「つまり剣闘獣モンスターをバトルさせたらエクス  
トラデツキまたはデツキに戻り新たな剣闘獣モンスターを呼び出せ  
融合やエクシーズを出来るってこと」

キュアマカロン「剣闘獣・・・面白いわ、仲間が戦ったら陣地に戻  
り新たな仲間を呼び出す、やるじゃない」

キュアシヨコラ「なんだろう、マカロンの目が輝いてるように見え  
る」

キュアマカロン「どうしたの？シヨコラ」

キュアシヨコラ「何でもない」

キュアマカロン「ならいいわ」

ジャツカル「これで終わりだ、ネロキウスで攻撃」

ビーサード「この俺がまさか負けるだと、あり得んぞ」

あきら「終わりましたね」

ジャツカル「ああ、んっ？これはナンバーズ71リバリアンチャー

ク、まあいい、ナンバーズは手に入った」

ゆかり「とにかくこれからどうします？」

きらら「そうね、少し見て回った方がいいわね」

ジャツカル「ああ」

この力はみくのために 要塞の隼飛び立つ

あきら「しかし、ジャツカルさんにそんな目的があったなんてね」  
ジャツカル「ああ、我も知らなかった」

ひかり「あの、ちよつといいですか？」

ジャツカル「なんだ？」

ひかり「そう言えば女王様がこんなことも言っていました、この事件を終わらせるにはヌメロンコードが必要だと」

ジャツカル「ヌメロンコード？」

ひかり「はい」

ジャツカル「どうやれば起動する？」

ひかり「分かりませんが、今 過去そして未来の3枚の光の竜が必要だとは聞いてます」

ゆかり「どういうことかしら？」

ジャツカル「分からんが手当たり次第に当たってみるか」

みく「お姉ちゃん、あの竜のマフィン作って」

あきら「ごめん、あれあたし作れないんだ」

みく「前に作って持ってきてくれたじゃん」

あきら「あれっ、ジャツカルさんしか作れないんだ」

みく「そうなの？ジャツカルさん」

ジャツカル「なんだ？」

みく「あの竜のマフィン作ってください」

あきら「ダメだよ、みく、ジャツカルさんを困らせちゃ」

ジャツカル「分かった、待ってる」

そして20分後

ジャツカル「待たせたな、スターダストマフィンあとはベエルゼウスチョコレート、チョコレート好きってあきらから聞いてたからな」  
みく「うわあ、チョコレートだ、嬉しい、ありがとうございます」  
ジャツカル「よかった、笑顔になってくれて（こいつらを失う訳には行かない、絶対に）」

あきら「どうしたんですか？」



ジャツカル「いや、みくちゃんを見てたら昔の事を思い出してね」  
あきら「そつか、ジャツカルさんは恋人失ってましたよね」

ジャツカル「ああ」

あきら「ジャツカルさん」

ジャツカル「あきら」

あきら ジャツカル「あつ」

ジャツカル「どうした？」

あきら「ジャツカルさんこそ」

ジャツカル「先言え」

あきら「はい、ジャツカルさんは今回の件が終わったらどうするんですか？やっぱり元の次元に・・・」

ジャツカル「考えてねえよ、そんなの、なつ、だけとお前たちを守つてやるから、んっ」

あきら「んっ、ジャツカルさんどうしたんですか？」

ジャツカル「なんでもない、それと盗み見して楽しいか？」

あおい「うつバレちやいました、でも二人のキスシーンは撮らせていただきました」

ジャツカル「盗み撮りとはいい度胸してるな」

あきら「／／／」

ジャツカル「あおい、後で説教な」

あおい「うっ」

いちか「あおちゃん、どうしたの？」

ひまり「何かありましたか？」

せつな「どうしたのそんなところに」

あおい「あつ、これみてよ」

いちか「ジャツカルさんとあきらさんのキスシーン」

四葉ありす「その写真10万円で買いますわ」

ゆかり「そうね、私は2万でどうかしら？」

いおな「私は3万で買うわ」

あおい「まあまあ、お金は入りませんから、欲しければあげますよなぎさ「すごい楽しそうね」

ひかり「そうですね」

満「ねえ、彼の裸の写真無いかしら？」

あおい「それならあります、ちょうどこないだジャツカルさんとあきらさんがベッドの上でくんずほぐれつしてる写真なら」

ゆかり「あらっ？それいいわね、私にもくれるかしら？」

あおい「ええ」

祈里「それって犯罪だよね」

マナ「そうだね」

エレン「バレたら、怒られると思うわ」

みく「何してるの？」

ゆかり「あらっ？みくちゃんこれみてジャツカルさんとあきららの写真」

みく「ジャツカルさんとお姉ちゃんがそんなことを、そこまで関係が進んでたんだ」

その時

ポイズニー「お楽しみのところ悪いけど、キュアブラック キュアホワイトお前たちを倒す」

なぎさ「ポイズニー!!」

エレン「待ちなさい」

ポイズニー「んっ？あんたら誰？」

あおい「私達もプリキュアだ」

ポイズニー「あんたらもプリキュアねえ、いいわ、貴方達もついでに始末してあげる」

のぞみ「さてといくよ」

少女変身中

キュアソード「先手必勝煌めけ！ホーリーソード」

キュアマリン「プリキュア・ブルーフォルテウェイブ」

ポイズニー「無駄よ」

キュアメロディ「ならば、プリキュア・ミュージッククロンド」

キュアイーグレット キュアブルーム「プリキュア・ツインストリーム」

ポイズニー「無駄だつて言ってるでしょ、分からないならこれどう？」

キュアメロディ「なっ!!」

全員「きゃああああ」

キュアシヨコラ「あいつ強い」

キュアマーチ「私達の技が全く効いてないなんて」

キュアブラツク「以前より強くなってる」

ポイズニー「キュアブラツク キュアホワイト、私は弟のキリヤの怨みを晴らしに来た」

キュアホワイト「キリヤさんの」

キュアブラツク「怨みってまだ根に持ってたの？」

キュアブルーム「復讐したってなに何も変わらないよ」

ポイズニー「黙れ!その減らず口すぐに聞けなくしてやる」  
その時

ジャツカル「究極至高の隼よ、戦場に倒れ行きし戦友の無念を受け継ぎ邪悪を滅ぼす力となれランクアップエクシースチェンジ!次元を越えて飛翔せよRRアルティメットファルコン 深紅のマントを身に纏い、怒りの剣で敵を斬れシンクロ召喚XXセイバーガドムズ」  
XXセイバーガドムズ

戦士族/シンクロ/効果

攻撃力3100 守備力2600 レベル9

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

①自分のフィールドのXセイバーモンスター1体をリリースして発動する。相手の手札をランダムに捨てる

ポイズニー「何!!」

キュアシヨコラ「ジャツカルさん」

キュアマカロン「いきなりアルティメットファルコンとは本気ね」

ポイズニー「なんだ貴様?」

ジャツカル「待たせたな、我がキングだ」

ポイズニー「キングだと?まあいい私の邪魔をするなら容赦はしない」

ジャツカル「迎え撃てXXセイバーガドムズ アルティメットファ  
ルコン」

ポイズニー「下らん、消えるがいい」

ジャツカル「アルティメットファルコン!! XXセイバーガドムズ」

ポイズニー「つまらん」

ジャツカル「・・・おい、貴様」

ポイズニー「なんだ？」

ジャツカル「お前はなんのために戦っている？」

ポイズニー「なんのためにだど？ 私は弟キリヤの怨みを晴らしに  
キュアブラック キュアホワイトに復讐をしに来た」

ジャツカル「お前、悲しいな」

ポイズニー「何？」

ジャツカル「そんなんじや、貴様の弟も泣いてるぜ」

ポイズニー「お前に何が分かる？」

ジャツカル「分かるよ、我には多くの者を失った、恋人を親友をラ  
イバルを我も最初は復讐をしていた、だがそれでは意味はない」

ポイズニー「黙れ！」

ジャツカル「そうか・・・それが貴様の答えか、いいぜ、我が貴様  
を笑顔に見せる、我のデュエルで」

ポイズニー「笑顔だど？ そんなものは必要無い」

ジャツカル「攻撃をしてくるか、いいぜ、来いよ」

ポイズニー「食らえ」

ジャツカル「無駄だ」

その時

みく「きやああああ」

キュアシヨコラ「みく!!」

ジャツカル「しまった!!」

ポイズニー「人間の命など脆いものだ」

キュアシヨコラ「待て！ みくに手出しするならこの私が許さない」

ジャツカル「待てシヨコラ」

キュアシヨコラ「あいつは許さない、絶対に」

その時、カードが光りだす

キュアシヨコラ「これなら、ジャツカルさん借ります」

ジャツカル「いいが、ただし殺るな、笑顔にする」

キュアシヨコラ「だけどあいつはみくを」

ジャツカル「みくちゃんは生きてる、シグナルレッドを特殊召喚したからな」

キュアシヨコラ「えっ」

みく「私は大丈夫だよ、この列車が守ってくれたから」

キュアシヨコラ「みく・・・だけどお前は許さない、私はみくを必ず守る。私はRUMソウルシェイブフォースを発動」

RUMソウルシェイブフォース

魔法

ライフを半分払い自分の墓地のRRモンスターを1体選択しランクの2つ高いモンスターをエクストラデッキから特殊召喚する

キュアシヨコラ「私はRRアルティメットファルコンを選択しランクアップ、究極の隼よ、信念と意思を受け継ぎ大切な者を守る砦となれ、ランクアップエクシーズチェンジ、現れなさい最後にして最大の砦RRファイナルフォートレスファルコン」

RRファイナルフォートレスファルコン

鳥獣族／エクシーズ／効果

攻撃力3800 守備力2800 ランク12

レベル12モンスター×3

①RRエクシーズモンスターを素材としているこのカードは他のカード効果は受けない②1ターンに1度このカードのORUを1つ使い除外されるRRモンスターをすべてデッキに戻す③このカードの攻撃でモンスターモンスターを破壊した時、自分の墓地のRRエクシーズモンスター1体除外して発動できる。この効果は1ターンに2度まで使用できる

ジャツカル「ファイナルフォートレスファルコン、まさか、シヨコラの怒りそして思いが新たなRRを産み出したのか、まあいい、だが、奴を殺すな」

キュアシヨコラ「分かりました、ファイナルフォートレスファルコン、行きなさい」

ポイズニー「そうはいくか、ザケンナー」

白虎ザケンナー「ザケンナー」

キュアシヨコラ「そうはいかない、ファイナルフォートレスファルコン、打ち砕けフォートレスカノン」

白虎ザケンナー「ザケンナー」

キュアシヨコラ「早い・・・だけど・・・そこよ」

白虎ザケンナー「ザケンナー!!ゴメンナー」

キュアシヨコラ「私は、ファイナルフォートレスファルコンの効果発動ORUを1つ使いファイナルフォートレスファルコンは続けて攻撃が出来る、さあ、行くわよ、ファイナルフォートレスファルコンで攻撃フォートレスカノン2撃目」

ポイズニー「この私が負けるはずはない、絶対に」

ジャツカル「防いだか、威力は落ちたな」

キュアシヨコラ「これでいくよ」

ポイズニー「まずい、きやああああ」

キュアシヨコラ「本当はあんたをここで潰したいけどジャツカルさんが潰すなって言うことだから、見逃してあげるわ」

ジャツカル「ありがとう、シヨコラ」

キュアシヨコラ「気にしないでください、ただし、必ず奴を笑顔にしてください」

ジャツカル「ああ、任せろ、我はペンデュラム召喚 死霊操りしパペットマスター インフェルノハンマー DHEROディアポリツクガイ」

インフェルノハンマー

悪魔族／効果

攻撃力2400 守備力0 レベル6

①このカードが戦闘で相手モンスターを破壊した場合フィールド上の表側表示モンスターを裏側守備表示にする

死霊操りしパペットマスター

悪魔族／効果

攻撃力0 守備力0 レベル6

①このカードがアドバンス召喚に成功したとき2000ライフを払い、自分の墓地の悪魔族を2体特殊召喚する。この効果で特殊召喚されたモンスターはこのターン攻撃出来ない

DHEROディアボリックガイ

戦士族／効果

攻撃力800 守備力800 レベル6

①墓地のこのカードを除外してデッキからDHEROディアボリックガイを1体特殊召喚する

ポイズニー「そんな連中で何が出来る？」

ジャツカル「言つただろ、お前を笑顔にするって」

ポイズニー「本当にそんなこと出来るのか？貴様に」

ジャツカル「ああ、我はレベル6インフェルノハンマー 死霊操りしパペットマスター DHEROディアボリックガイでオーバーレイ 賭場の主催者よ！その力にて勝利と言う名の栄光をエクシース召喚！EHEROピットボス」

EHEROピットボス

魔法使い族／エクシース／効果

攻撃力2600 守備力2000 ランク6

レベル6モンスター×3

このカードはエクシース召喚でしか特殊召喚出来ない。魔法使い族モンスターをORUにしているときこのカードが直接攻撃で相手のライフを0にしたときこのカードのコントローラーはマッチに勝利する

ジャツカル「さらにベヒゴンを召喚さらに二重召喚でジャイアントレックスを召喚、我はベヒゴンとジャイアントレックスでオーバーレイ漆黒の闇より聞こえし羽音よ 邪悪な闇を打ち消すがいい現れよインヴェルズローチ」

ジャイアントレックス

恐竜族／効果

攻撃力2000 守備力1200 レベル4

このカード名の効果は1ターンに1度しか使えない①このカードは直接攻撃出来ない②このカードが除外された場合このカードを特殊召喚する。この効果で特殊召喚された場合攻撃力は除外されてる恐竜族カード1枚につき×200アップする

ポイズニー「そんな奴を呼ぼうが蹴散らしてやる、そして私は弟キリヤの怨みを晴らす」

ジャツカル「もうやめようぜ、復讐なんてしてもいいこと無い」

ポイズニー「ふざけるな、この私は必ず復讐を果たす」

ジャツカル「・・・ピットボス、例の物を見せてやれ」

ポイズニー「何をするかは知らんが関係ない、まあ最後に貴様のお遊びに付き合つてやる」

ジャツカル「まずは、ピットボスの手札5枚エクシーズはホープシンクロはブリューナク 融合は彼岸の巡礼者ダンテ リンクはトポロジックボマードラゴン ペンデュラムは黄昏の忍者ジョウゲンの5枚だ」

ポイズニー「それがどうした？」

ジャツカル「それらの5枚をデッキに入れ、シャツフルそして5枚引くとどうなるか？さてどうなると思う？シャイニールミナス」

シャイニールミナス「えっ、どうなるって全部バラバラじゃないの」

キュアマリン「そうだよ、1枚も入ってないと思う」

ジャツカル「だが、すべて全く同じ位置で同じカードだったら面白いよな」

キュアプリンセス「無理ね、だってその中から全部同じカードを同じ位置にするんでしょ？難しすぎるわ」

ジャツカル「ピットボスが5枚引くとすべて同じ位置に同じカードが手札にあるって訳だ」

キュアフォーチュン「うわっ、すごい」

キュアサニー「そんなことより、早くヴェルズビュートで攻撃せんかい」

ジャツカル「サニー、我のエンタメを邪魔するな」



ポイズニー「・・・」

ジャツカル「そうだ、サニー」

キュアサニー「なんや」

ジャツカル「1000円貸してくれ」

キュアサニー「はっ?ええけど」

ジャツカル「まずは、この1000円を破り捨てる」

キュアサニー「ちよっ、人の1000円になにすんねん、変えさんかい」

キュアカスタード「大丈夫ですよきつと」

ジャツカル「こいつをピットボスに持たす、それでどうするか、ハシカチをかけて、こうすれば、倍になり帰ってくる」

ポイズニー「ふふふ、あはははは、とても面白いわ」

ジャツカル「なんだ、ちゃんと笑えるんじゃないやねえか、ポイズニー」

ポイズニー「そうかもね（私が楽しんでる・・・エンタメなどという下らない物に、この私が）こんなに笑ったのは、キリヤと一緒にいる時くらいね」

ジャツカル「マーチ、ろうそくもってねえか」

キュアマーチ「ろうそく?プリンセスキャンドルでいいなら」

ジャツカル「ああ、貸してくれ、まずは、プリンセスキャンドルをピットボスに持たせる、そして布をかけると花束になる、この花束はポイズニーお前にくれてやる」

ポイズニー「ありがとう」

ジャツカル「(今なら行けるか)ポイズニー、我が最後のエンタメを見せてやる、あるものを消し去る」

キュアハート「一体何を?」

ジャツカル「それはこいつの復讐心そして闇の力を消す!ファイナルフォートレスファルコンそしてインヴェルズローチ、ポイズニーの復讐心を闇の力を消し去れ フォートレスカノン ローチクラッシュ」

ポイズニー「私の負けね、キリヤ私が間違ってた復讐なんてしなくてもよかったんだ」

みく「すごい」

キュアマーマイド「綺麗」

キュアマカロン「まるで花火ね」

ジャツカル「やばっ、やり過ぎたか？ポイズニー大丈夫か？」

ポイズニー「ううん、大丈夫よ」

ジャツカル「あんたは弟の事を大切に思ってた、だが、それが押さえきれなくこいつらに復讐しようとしてたんじゃないのか」

ポイズニー「そうよ、私はキリヤの事を思ってただから復讐をしようとしてた」

ジャツカル「安心しろ、これからは我がついている、ポイズニーあんたを守ってやるだからもう恐れることはない、何も」

ポイズニー「ありがとう、ありがとう」

ジャツカル「我じゃ弟の代わりにはなれんと思うがそこは勘弁してくれ」

ポイズニー「はい」

## 蘇るフュージョン ホープの新たな力

あきら「ファイナルフォートレスファルコン、あれほどの力があつたなんてね」

ゆかり「そうね、面白くなりそうね」

あきら「まあ出番が無かったけどね」

ゆかり「でも最後に邪悪な闇を浄化したんだからいいんじゃない」

あおい「そう言えば、他のみんなは？」

ゆかり「今日は休みだから自分のやることをやってるわよ」

あおい「ポイズニーさんは？」

あきら「ジャツカルさんもないけど」

ゆかり「ジャツカルさんはデツキ調整、ポイズニーさんは買い物行ってくるって行つたわ」

あおい「なんだ、つまらないの」

あかね「誰かおるか？」

いちか「あかねさん、家の手伝いは大丈夫ですか？」

あかね「いやちよつとな、忘れ物してしまつて取りに来たんや」

ゆかり「だったら電話してくればよかつたのに、番号教えたはずだけど」

あかね「いや、たまたま、近くに来てたから、自分で取りに来たんや」

ゆかり「あらっ、そうだったの？」

あかね「そうや、あつたあつた、ごめんな邪魔しちやつたらしくて」

ひまり「気にしなくて大丈夫です」

ジャツカル「終わった、終わった」

あきら「お疲れ様です、ジャツカルさん」

ジャツカル「確かに疲れたな、今何時？」

あおい「今1時ですよ」

ジャツカル「マジ？もう昼過ぎてたの？」

あおい「どうします？お昼食べます？」

ジャツカル「そうだな、食べるか」

あきら「何か私を作りますか？」

ジャツカル「いや、我が作る」

あきら「すみません、ジャツカルさん」

ジャツカル「別にあきらのせいではない」

あおい「しかし、暇だ」

その時

ポイズニー「ただいま戻りました」

ジャツカル「ポイズニー、買い物は楽しかったか？」

ポイズニー「はい」

あおい「ポイズニーさんって笑顔の方がいいですよ」

ポイズニー「あらっ？ありがとうございます、あおいちゃん」

いちか「それにしても、ポイズニーさん、ジャツカルさんに浄化されてから明るくなったね」

あきら「そうだね、浄化前だったら復讐に走ってたのにジャツカル

さんのお陰かな」

ひまり「そうですね」

その時

エレン「だ、誰か・・・」

ジャツカル「どうしたんだエレン」

ひまり「大丈夫ですか？」

ジャツカル「誰にやられた？」

エレン「フュージョン・・・」

ジャツカル「フュージョン？融合次元か」

エレン「フュージョンはかつて私達プリキュアが横浜で倒した敵何です」

ジャツカル「ポイズニー」

ポイズニー「はい」

ジャツカル「エレンを頼む」

ポイズニー「分かりました」

ジャツカル「と思ったが、みくちゃんの様子も見てやる我が今寝てるからな」

あきら「すみません、お願いします」

そして20分後

キュアジェラート「しかし、なんなんだよこれ？」

キュアマカロン「全滅普通の奴じゃないわね」

キュアシヨコラ「しかし、フュージョンって奴はどこに？」

フュージョン「なんだ、プリキュアがまだいたのか？」

キュアジェラート「あんたがフュージョン？」

フュージョン「そうだ」

キュアカスタード「みんなの敵とらせてもらいます」

キュアホイップ「はああああ」

フュージョン「無駄だ」

キュアマカロン「まずい」

全員「きやああああ」

キュアシヨコラ「こういうときにジャツカルさんだったらどうするんだろう」

フュージョン「貴様らでは勝てんぞ」

キュアビューティ「気をつけてください、あいつは私達の技のエネルギーを吸収してます」

キュアマカロン「エネルギーを」

キュアシヨコラ「吸収!!」

フュージョン「これで終わりだ」

その時

ジャツカル「電腦世界住む獣よ今こそその力を示しその力で悪を撃て、現れよNo. 89 電腦獣ディアブロシス」

No. 89 電腦獣ディアブロシス

サイキツク族／エクシーズ／効果

攻撃力2800 守備力1200 ランク7

レベル7モンスター×2

このカード名の③の効果は1ターンに1度しか使用できない④1ターンに1度このカードのORUを1つ使い相手のエクストラデッキを確認してそのうち1枚を選んで裏側表示で除外する②このカー

ドが戦闘でモンスターを破壊した場合そのカードを裏側表示で除外する③相手のカードが除外された場合裏側表示で除外されている数だけ相手はデッキの上から裏側表示で除外する

キュアカスタード「開幕ナンバーズって」

キュアジェラート「さすがに本気じゃない?」

ジャツカル「そうでもしないと楽しめないからな」

キュアシヨコラ「そう言えばみくは?」

ジャツカル「ああ、ポイズニーが面倒を見てくれてる」

キュアシヨコラ「そうでしたか」

ジャツカル「まさか、まだアカデミアの残党が悪さをしていたとはな、この融合次元の手先が」

キュアミューズ「何いつてるのよ、そう言えばビートは」

ジャツカル「あいつは大丈夫だ」

フュージョン「融合次元の手先?なんのことだ?」

ジャツカル「とぼけるな、貴様らが次元統合するのは分かっている、行けディアブロシス」

フュージョン「無駄だ」

キュアシヨコラ「ジャツカルさんあいつは私達の技のエネルギーを吸収して強くなっています」

ジャツカル「なんだと!!だったら打つ手がねえ」

キュアシヨコラ「じゃあ、どうするの?」

フュージョン「愚かだな、これで最後だ」

その時、次元の裂け目が現れる

隼「RRライズファルコンすべての敵を引き裂け!ブレイブクローレボリユーシヨン」

カイト「破滅のフォトンストリーム」

ジャツカル「隼 カイト」

隼「ジャツカル大丈夫か?」

ジャツカル「ああ、気をつける、奴は」

フュージョン「貴様ら、誰だ?」

カイト「なんだあいつは?」

キュアジェラート「気をつけてください、カイトさん、黒咲さん、あいつはフュージョンです」

隼「フュージョン？融合の手先か？」

カイト「というかお前誰だ？」

キュアジェラート「もう忘れたんですか？私です立神あおいです」

カイト「あおいだと？お前変わったか？」

キュアジェラート「私達はプリキュアって呼ばれる戦士で変身するところなんです、今の私はキュアジェラートです」

カイト「そうか分かった」

ジャツカル「それよりどうしてここに？」

カイト「あの次元の裂け目を通ってきた」

隼「それに仲間を連れてきた」

ジャツカル「仲間？」

クロウ・ホーガン「黒き旋風よ 天空へ駆け上がる翼となれ！シン

クロ召喚！BFアーマードウイング」

BFアーマードウイング

鳥獣族／シンクロ／効果

攻撃力2500 守備力1500 レベル7

BFチューナー＋チューナー以外のモンスター1体以上

①このカードは戦闘では破壊されずこのカードの戦闘で発生する、ダメージは0になる②このカードが攻撃したモンスターダメージステップ終了時に発動できる。そのモンスターに楔カウンターを1つ置く(最大1つまで)③相手フィールド上の楔カウンターをすべて取り除き楔カウンターが置かれたすべてのモンスターの攻撃力 守備力は0になる

ジャツカル「そいつは？」

クロウ・ホーガン「俺はクロウ・ホーガン話は黒咲から聞いている」  
キュアホイップ「ジャツカルさん以外にも同じ戦い方をする人いたんだ」

フュージョン「貴様らの相手をしてる暇は無い、まずは貴様から始末する」

キュアトウインクル「私から!!」

フュージョン「消えろ」

キュアトウインクル「まずい、動けない時に」

ジャツカル「トウインクル!!」

キュアサンシャイン「まずいバリアが張れない」

その時

シンジ・ウェーバー「その羽で爆風を巻き起こしその一刺しで真実の道を切り開け!シンクロ召喚!来い!B・F突撃のヴオウジエ」

B・F突撃のヴオウジエ

昆虫族/シンクロ/効果

攻撃力2500 守備力800 レベル6

①このカードがこのカード以上のモンスターと戦闘する、ダメージ計算時に発動可能。対象モンスターの攻撃力は半分になる

クロウ・ホーガン「おせえよシンジ」

シンジ・ウェーバー「わりいな、次元移動の仕方分からなくてよ、とにかく大丈夫か?」

キュアトウインクル「えっ、はい」

キュアマーマイド「あの人達シンクロ使い」

フュージョン「おのれ、貴様ら異世界の連中が邪魔をするな」

カイト「悪いが次元統合などさせんぞ」

クロウ・ホーガン「確かに俺達はこの世界とは無関係だがよ、次元統合させられては困るんだよ」

シンジ・ウェーバー「てめえに見せてやるぜ、俺達コモンズの力を」  
クロウ・ホーガン「行け!アーマードウイング」

キュアレモネード「待ってください、あいつは攻撃エネルギーを吸収しています」

クロウ・ホーガン「攻撃エネルギーを吸収だと!!インチキ効果もい  
い加減にしろ」

フュージョン「消えろ、異世界の連中よ」

クロウ・ホーガン「無駄だ、アーマードウイングは戦闘では破壊されねえ」



シンジ・ウエーバー「俺は手札からB・F早撃ちのアルバレストを召喚」

B・F早撃ちのアルバレスト

昆虫族／効果

攻撃力1800 守備力800 レベル4

①このカードが破壊された場合手札から早撃ちのアルバレストを1体特殊召喚する

シンジ・ウエーバー「俺はターンエンド」

ジャツカル「我のターン（ここは仕方ない）シヨコラ行くぞ」

キュアシヨコラ「はい」

ジャツカル「我は我自身と」

キュアシヨコラ「私で」

ジャツカル キュアシヨコラ「オーバーレイ」

ゼアルIV「ゼアルIV出来上がり」

カイト「ゼアルだど・・・確か遊馬も同じことをやっていた」

ゼアルIV（ジャツカル）「シンジだっけ？お前のモンスター借りるぞ」

シンジ・ウエーバー「構わない、どうせ何も出来ないんだ」

ゼアルIV（あきら）「私は方界胤ヴィジヤムを召喚」

方界胤ヴィジヤム

悪魔族／効果

攻撃力0 守備力0 レベル1

①このカードは戦闘では破壊されない②このカードが相手と戦闘を行ったダメージステップ終了時モンスターゾーンにこのカードを永続魔法扱いとして自分の魔法 罫ゾーンに置きそのモンスターに方界カウンターを1つ置く。方界カウンターが置かれたモンスターは攻撃できず効果は無効になる③このカードが永続魔法扱いになつてるとき自分のスタンバイフェイズに特殊召喚出来る

クロウ・ホーガン「そんなモンスターでどうする気だ」

キュアジェラート「効果モンスターが2体来るよ」

隼「何がだ」

カイト「エクシーズは不可能だぞ」

ゼアルIV（ジャツカル）「分かっている、だからこうする、我は早撃ちのアルバレストと方界胤ヴィジャムを墓地へ」

ゼアルIV（あきら）「リンク召喚！トポロジックボマードラゴン」

隼「何リンク召喚だど!!」

フュージョン「おのれ異世界の連中が消えろ」

隼「まずい次元の裂け目だ」

カイト「ジャツカル、こっちの世界は頼んだぞ」

クロウ・ホーガン「絶対勝てよ」

シンジ・ウエーバー「あとは頼んだぞ」

ゼアルIV（ジャツカル）「ああ、任せろ」

ゼアルIV（あきら）「私は手札から二重召喚を発動、効果でもう1度召喚を行う、来てゴブリンドバーグさらに効果でファーニマルライオを特殊召喚」

ファーニマルライオ

天使族／効果

攻撃力1600 守備力1200 レベル4

①このカードの攻撃宣言時このカードの攻撃力は500アップする

ゼアルIV（あきら）「私はゴブリンドバーグとファーニマルライオでオーバーレイ、No.39希望皇ホープ」

フュージョン「何を出そうが無駄なことだ」

ゼアルIV（ジャツカル）「いや、無駄じゃねえな、いいこと教えてやる、今からすべてを吹き飛ばす」

フュージョン「面白い、だったらやってみろ」

キュアサンシャイン「あれは、スナツキー」

キュアラブリー「チョイアークまで」

キュアマーマイド「あんなに大量に出されたら、いくらホープでも」

ゼアルIV（ジャツカル）「いや、勝ち目はある、言っただろすべて吹き飛ばすって」

キュアフオーチユン「でもどうやって?」

ゼアルIV（あきら）「こうするの、私はホープ1体でオーバーレイ、混沌により宇宙の秩序が乱されしとき、今こそ一筋の希望、勝利へ導け、シャイニングエクシースチェーンジ混沌を撃ち破る、光の使者SN039希望皇ホープONE」

SN039希望皇ホープONE

戦士族／エクシース／効果

攻撃力2510 守備力2000 ランク4

光属性レベル4モンスター×3

このカードは自分フィールド上の希望皇ホープの上に重ねてエクシース召喚する事も出来る。自分のライフポイントが相手より300以上少ない場合このカードのORUを3つ使いライフポイントを10になるように支払い相手フィールド上の特殊召喚したモンスターをすべて破壊してゲームから除外する。その後この効果で除外したモンスターの数×300のダメージを相手に与える

キュアマカロン「希望皇ホープONE」

キュアジェラート「ホープがさらに進化した」

ゼアルIV（あきら）「私はホープONEの効果発動ORUを3つ使いライフポイントを10になるように払い、相手フィールド上の特殊召喚したモンスターをすべて除外そして除外したモンスターの数×300のダメージを与える」

フュージョン「なんだと!!」

ゼアルIV（ジャツカル）「消し飛べ、シャイニングフォース」

フュージョン「なんだと」

ゼアルIV（ジャツカル）「除外した数は60」

ゼアルIV（あきら）「その合計18000の大ダメージを受けなさい」

フュージョン「吸収出来ねえだと。だがまだだ」

ゼアルIV（ジャツカル）「だがこれで終わりだ、ホープ剣シャイニングスラッシュ」

フュージョン「バカなこの俺が・・・」

ゼアルIV（あきら）「みんな大丈夫？」

キュアアルージュ「なんとか」  
ゼアルIV（あきら）「それならよかった、もう戻ろうか？」  
全員「はい」

## 狙われたジャツカル 誕生新たな力

エレン「しかし、前は助かったわ、本当に」  
きらら「本当、シンジって人が助けに来てくれなかったら、私は死んでたわ」

ジャツカル「けど無事だったからよかったじゃねえか（それにしてもビーフォース、あれは威力すげえな）」

響「そうですね」

みく「それにしてもどうするのかな、お姉ちゃん、ジャツカルさんとの関係」

あきら「みく、あんたね」

ジャツカル「・・・」

ゆかり「それにしても、私も気になるわ」

あきら「ゆかりねえ」

あおい「ジャツカルさんがそう言えば静かだけど」

ゆかり「あきらと話したいんじゃないかしら？」

いちか「それはないと思います」

あきら「ジャツカルさんどうしましたか？体調優れないのですか？」

ジャツカル「はあ、はあ、大丈夫だ、我は」

あきら「ならいいですけど」

ジャツカル「はあ、はあ」

あおい「ちよつと待つてください、本当に大丈夫何ですか？顔色が優れませんし」

ゆかり「確かに息が早くなってる気が」

かれん「それはまずいわよ、彼、呼吸困難になってる」

あきら「ジャツカルさん、大丈夫ですか？」

ジャツカル「はあ、はあ、はあ」

ゆかり「そう言えば、息するのがさっきより早くなってる気が・・・」

ジャツカル「はあ、はあ、大丈夫だ、部屋に戻る（くっ、フラついちまう）」

あきら「ジャツカルさん、大丈夫ですか？ジャツカルさん」

かれん「まずいわ、早く水を持ってきて、ソファーに寝かせて」

響「確か、今日ご飯作ったのって、あかねさんと奏だよね？」

かれん「原因はなんなの？」

ポイズニー「多分、原因は、このワサビと蜂蜜じゃないかな、彼この2つに手をつけてたし」

エレン「確か、蜂蜜とワサビってあかねちゃんが」

あかね「うち知らんで、それにワサビと蜂蜜ってみんなも使ってたやないか」

いおな「確かにそうね それより、何を使ったの？」

あかね「これを使ったんやけど」

ゆかり「見たところは普通ね」

つぼみ「おばあちゃんに電話して聞いてみます」

かれん「お願い、ジャツカルさんの様子は？」

せつな「だめ、ますます呼吸が早くなってる」

つぼみ「ただいま戻りました」

かれん「どうだったの？」

つぼみ「実はジャツカルさんが食べた物は蜂蜜とワサビでは無かったです」

えりか「じゃあ、なんだったの？」

つぼみ「実は・・・トリカブトとドクゼリっていう毒のある植物で食べてしまった場合は呼吸困難や意識障害や痙攣を起こします、下手をすれば死に至ります」

ひまり「ジャツカルさんの症状と似てます」

あきら「あかねさん、どうしてそんな物混ぜたんですか？何でジャツカルさんを殺そうとするんですか？」

あかね「うちは知らへん」

ゆかり「ちよつとあきら落ち着いて」

祈里「でもおかしくない？蜂蜜とワサビは私達も食べてたわ、なぜ私達は異常はないの？」

こまち「考えられることは、最初からジャツカルさんを狙ったって

事ね」

いちか「でもなんのために？」

きさら「分からない」

六花「とにかく、ジャツカルさんをどうにかしないと、助からなくなってしまうです、とにかく、リコさんとことはさんは魔法で薬をお願いします」

リコ「分かったわ」

ことは「はー、任せてよ」

あきら「あかねさん、もし彼が死んだらあなたを許さない」

ひまり「あきらさん、落ち着いてください」

いちか「キラツとひらめいた」

マナ「何が？」

いちか「彼を狙った理由が」

ありす「理由？」

いちか「多分、敵はゼアルIVを封じるためだとしたら？」

あおい「だったらあきらさんも狙われてもいいんじゃない？」

いちか「そっか・・・それか、彼のデッキに敵の都合の悪いカードが入ってたとしたら」

ラブ「その都合の悪いカードって」

いちか「そっか」

なお「その都合の悪いカードがホープだったら」

あかね「確かにその可能性はあるな、ホープは殺意が高いからなあ」

ゆかり「そうとは限らないわ」

みらい「どういうことですか？」

ゆかり「FGDファイブゴツドドラゴン」

みなみ「ファイブゴツドドラゴン？」

ゆかり「ええ、このカードは光属性以外のカードでは破壊されな  
いって書かれてる」

いちか「そうか敵は全員、闇から生まれてくる」

真琴「確かに敵にとってはファイブゴツドドラゴンの召喚を封じる  
ため必要がある」

ゆかり「でもドラゴン族×5体よ」

なぎさ「確かにそれなら揃えるのはきついわ」

ゆかり「そうでもないわ、ジャツカルさんこのカードを用意してみたみたい」

あきら「龍の鏡？そのカードって」

ほのか「どうやら墓地から融合素材を除外して融合モンスターを特殊召喚するみたいです」

ひかり「確かにそれなら墓地にドラゴン族がいれば使えます」

響「じゃあ、敵は、ファイブゴツドドラゴンを恐れてジャツカルさんには？」

ゆかり「多分ね、確かにそれなら敵が不利ねファイブゴツドドラゴンなんて出されたら、ただでさえ私達の中でもファイブゴツドドラゴンを倒せるのはごく僅かね」

ゆり「確かに私達でファイブゴツドドラゴンを倒せるのって言えば」

いつき「ボクとひかりさんくらいですね」

ジャツカル「はあ、はあ、確かに犯人は我を狙ってる、だがそれが外部だとは限らない」

せつな「ジャツカルさん、無理してはだめです」

エレン「どういうことですか？」

ジャツカル「はあ、はあ、つまり、犯人は誰かに化けてるって可能性もあるって事だ、私の経験からすればそうなる、くっ、毒が回りきる前になんとかしなければ」

ゆかり「つまり、敵は私達の誰かに化けてるって事もあり得るのね」

六花「ねえ、と言うことは、リコちゃんやことはちゃんの可能性も」

ポイズニー「無いとは言えないわね」

六花「問題はいつ毒を入れたかって事」

あきら「私は許さない、ジャツカルさんを殺そうとした奴を」

ゆかり「私達も同じよ、もし敵を見つけたら、恐れているファイブゴツドドラゴンで倒す」

みく「お姉ちゃん、ジャツカルさん死んじゃうの？」



あきら「そんなことはさせないよ絶対に」

ジャツカル「我は死なんもう二度とな、我は不死身よ、簡単にくたばってたまるか」

その頃、リコとことは

リコ「あーあもう、いったいどれくらいで出来るのよ」

ことは「もう少しの我慢だよ」

その時

リコ「？」

ことは「リコどうしたの？」

リコ「さつき、そこから物音が聞こえたんだけど、ちょっと見てくる」

ことは「分かった、気をつけて」

リコ「誰よ本当に」

あかね「リコちゃん」

リコ「あかねさん、何でこんなところに隠れてるの？」

あかね「冗談言うところの場合か、うちは後ろから殴られて気がついたらここにおったんや」

ことは「どうだったのってあかねさん!!」

リコ「ここにあかねさんがいるって事は下にいたのは」

ことは「多分、偽物だよ」

リコ「私伝えてくる」

ことは「分かった」

その頃、下では

あきら「しかし、誰がやったんだろう」

ゆかり「見つけたら、私が」

その時

リコ「あかねさんはいますか？」

あかね「んっ?どうしたん？」

リコ「単刀直入に聞きます、あなた誰ですか？」

あかね「誰って日野あかねやで」

リコ「いいえ、あなたはあかねさんではありません」

あきら「やっぱり、あかねさんがジャツカルさんに毒を」

祈里「待ってあきらさん、あかねさんじゃないってどういう事？」

リコ「本物のあかねさんはロッカーに閉じ込められてました」

あきら「そう言うこと、貴方誰？」

なお「もう、隠さない方が身のためだよ」

あかね？「バレてしまつては仕方ないね、確かにお前たちのいう通り私は日野あかねではない、久しぶりだな、キュアブラック キュアホワイトそしてシャイニールミナス」

なぎさ「貴方はドックゾーンの魔女」

あきら「なぜジャツカルさんを狙つた？」

ドックゾーンの魔女「私は今まであいつのデータを調べてきた、そして分かつた、あいつの持つファイブゴッドドラゴンそしてRR、ホープ系統そしてギャラクシーアイズそれらが私達の天敵だとそのためには、封じるしかない、だったらどうするか？あいつを行動不能にするしかないと思いついたのだ、人間世界の毒の植物を使い行動不能にさせたつてわけだ」

あきら「お前だけは・・・お前だけは許さない」

ゆかり「落ち着いて、あきら、あいつは私がやる」

ドックゾーンの魔女「落ち着きなよ、ちゃんと相手は用意してあるよ」

フリーズン「なんだ？呼ばれたと思つてきてみたら懐かしい顔ぶれじゃねえか」

フローズン「まあいい誰であろうと我々には勝てない」

なぎさ「みんな行くよ」

全員「うん」

少女たち変身中

キュアジェラート「お前だけは許さない」

キュアパッション「貴方だけは必ず倒す」

フローズン「お前たちの相手は俺達だ」

キュアマカロン「皆さんはあいつらを、私が魔女を倒す」

ドックゾーンの魔女「ふん、どうあがこうと、お前では勝てない」

キュアマカロン「そうはいかない」

フローズン「貴様らは愚かすぎる」

キュアアクア「ふざけないで、プリキュア・サファイアアロー」

キュアルージュ「プリキュア・ルージュバーニング」

フローズン フリーズン「フリージングブリザード」

ドックゾーンの魔女「どうあがこうとあいつは来ない」

フリーズン フローズン「これで終わりだ」

キュアシヨコラ「ジャツカルさん、ごめんなさい、私達もう勝てません」

その時

ジャツカル「漆黒の闇より生まれし憎しみの王よ、我の怒り 憎しみ 怨みを身にまとい、邪魔する奴を即刻排除せよ、エクシーズ召喚出でよDDD超死偉王ダークネスヘルアーマゲドン」

DDD超死偉王ダークネスヘルアーマゲドン

悪魔族／エクシーズ／ペンデュラム／効果

攻撃力3500 守備力3000 ランク8 スケール1

ペンデュラム効果①1ターンに1度もう片方の自分のペンデュラムゾーンにDDカードが存在するときエクストラデッキからダークネスヘルアーマゲドン以外のDDDエクシーズモンスターを特殊召喚する

レベル8DDDモンスター×2

①このカードがエクシーズ召喚に成功したとき自分のエクストラデッキの表側表示で存在するDDペンデュラムモンスターを1体選びこのカードの下に重ねてORUとする②自分フィールド上のペンデュラムモンスターは効果では破壊されない③1ターンに1度ORUを使用し自分フィールド上のペンデュラムモンスターの数だけ相手フィールド上のモンスターを破壊する④モンスターゾーンのこのカードが破壊されたときこのカードをペンデュラムゾーンに置く

ドックゾーンの魔女「なぜ貴様動ける」

ジャツカル「悪いが我の体内には毒を消滅させる抗体があつてなその抗体のお陰で復活できたんだよ、少しは時間かかったがな、毒ごと

きで我を始末できると思うな」

ドツクゾーンの魔女「おのれ・・・」

ジャツカル「まだまだ、我はレベル3DDナイトハウリングにレベル7DD制覇王カイゼルをチューニング、まばゆき輝きよ、我が未来を照らし出し、地獄の果てより甦れシンクロ召喚顕現せよ！DD超死偉王ホワイトテストヘルアーマゲドン」

DD超死偉王ホワイトテストヘルアーマゲドン

悪魔族／シンクロ／ペンデュラム／効果

攻撃力3500 守備力3000 レベル10 スケール1

ペンデュラム効果①1ターンの1度相手モンスターの攻撃宣言時自分のDDシンクロモンスターを1体選択してそのモンスターの攻撃力以下の守備力を持つ相手フィールドのモンスターをすべて破壊して、破壊した数×1000ダメージを与える

効果 DDチューナー+チューナー以外のDDDMンスター1体以上

①このカードがモンスターゾーンに存在する限り自分フィールドのモンスターを相手効果の対象に出来ない②このカードがすでにモンスターゾーンに存在する状態でこのカード以外のモンスターが召喚 特殊召喚された場合、相手は自身フィールド上のペンデュラムモンスターを1体選ぶ。そのモンスター以外のモンスターは効果を無効化される③モンスターゾーンのこのカードが墓地に送られたときこのカードをペンデュラムゾーンに置く

キュアマカロン「貴方は絶対に許さないわ、私は貴方を倒す」

ジャツカル「我は貴様を倒す」

そう言うとマカロンとジャツカルの体が光出す

ドツクゾーンの魔女「なんだこの光は」

ジャツカル「これはゼアルVになったときと同じ光」

キュアマカロン「ふふふ、面白いわ、ジャツカルさん」

ジャツカル「ああ、我は我自身とゆかりでオーバーレイ、新たな思いが、希望を切り開く力となる、エクシーズチェンジ、ゼアルV（ハムサ）」

ゆかり「出来上がり」

キユアシヨコラ「ゆかりとジャツカルさんが新たなゼアルになった」

ゼアルV（ゆかり）「魔女、貴方はこの姿で倒す」

ゼアルV（ジャツカル）「貴様の最後を飾ってやるぜ、罘カード針蟲の巣窟、デツキの上からカードを5枚墓地へ送る」

精神世界

ゆかり「私がゼアルに慣れた」

ジャツカル「このまま奴を倒すぞ」

ゆかり「はい」

ゼアルV（ゆかり）「私は手札のダークアームドラゴンとフィールド上のDDパンドラをリリース漆黒なる龍の王よ邪魔する者を噛み砕け来てDDD覇龍王ペンドラゴン」

DDD覇龍王ペンドラゴン

悪魔族／効果

攻撃力2600 守備力2400 レベル7

①このカードが手札にある場合自分のメインフェイズに手札・フィールドからドラゴン族と悪魔族モンスターを1体ずつリリースして発動可能このカードを特殊召喚する②1ターンに1度自分の手札を1枚捨てこのカードの攻撃力はターン終了時まで500アップしてその後フィールドの魔法 罘を1枚選んで破壊する

ゼアルV（ジャツカル）「さらに、我は手札から龍の鏡を発動、墓地のドラゴン族を融合させる」

龍の鏡

魔法

自分のフィールド 墓地からドラゴン族融合モンスターを除外してそのモンスターを特殊召喚する

ゼアルV（ジャツカル）「我は墓地のダークアームドラゴン カオスエンペラードラゴン」

ゼアルV（ゆかり）「TGカタパルトドラゴン ヴェルズザツハーク 聖刻龍ネフテドラゴンを融合」

キュアシヨコラ「来るね、ファイブゴツドドラゴン」

ゼアルV(ジャツカル)「漆黒の鎧を武装した龍よ 混沌の力で破壊する龍よ」

ゼアルV(ゆかり)「悪魔を射出する龍よ 悪神により蛇を生やされし王よ 鳳凰の力を得し龍よ」

ゼアルV「真実を映す鏡で一つとなりて新たな力と姿を見せろ、現れるファイブゴツドドラゴン」

ファイブゴツドドラゴン

ドラゴン族／融合／効果

このカードは融合召喚でしか召喚出来ない①このカードは闇 地 水 炎 風属性モンスターとの戦闘では破壊されない

ドツクゾーンの魔女「バカなファイブゴツドドラゴンだ!!」

ゼアルV(ジャツカル)「貴様らの属性は水と闇ファイブゴツドドラゴンの破壊は到底無理だ」

ゼアルV(ゆかり)「ジャツカルさんを殺そうとした貴方は許すわけにはいかないわ、これで終わりよ、行きなさい、DDD超死偉王ホワイテストヘルアーマゲドン ダークネスヘルアーマゲドン ファイブゴツドドラゴン、砕け散りなさい」

フリーズン フローズン「そうはいくか、フリージングブリザード」

ゼアルV(ゆかり)「ファイブゴツドドラゴン エレメンタルバースト」

フローズン「バカな」

フリーズン「なぜだ、俺達是最強のコンビなはずなのに」

ゼアルV(ゆかり)「敗北原因は一つ、私を怒らせてしまったことよドツクゾーンの魔女「おのれ」

ゼアルV(ゆかり)「ホワイテストヘルアーマゲドン ダークネスヘルアーマゲドン、あいつを倒して」

ドツクゾーンの魔女「無駄なのは分かっている、貴様らもこれで終わりだ」

ゼアルV(ゆかり)「それは貴方よ」

ドツクゾーンの魔女「バカなこの私が……」

キュアシヨコラ「やった」

キュアイーグレット「終わった」

あきら「大丈夫ですか？ジャツカルさん」

ジャツカル「心配をかけたなすまなかった」

ゆかり「別に気にしないでください、それにあいつが悪いんですか  
ら」

ジャツカル「ありがとう」

吠えろジェラート 集いし願いフォルスシンクロ

あきら「ジャツカルさん」

ジャツカル「どうした？」

あきら「体は大丈夫ですか？」

ジャツカル「なんとかな、心配かけたな」

ゆかり「大丈夫です」

ジャツカル「だが今回助かったのは、リコとことはお陰でもある、感謝する」

リコ「べ、別に、感謝されるほどでは無いわ」

ことは「はー、気にしないで」

ひまり「だけど、無事でよかったです」

いちか「本当です、ジャツカルさんが呼吸困難になったときはとても心配しました」

ジャツカル「私の注意ミスだ、すまなかった」

つぼみ「ジャツカルさんの責任ではありません」

なぎさ「そうですよすべてドツクゾーンの魔女が原因だったんですから」

ジャツカル「それにしても奴は気に入らねえ、あかねに化けるなど」

ゆかり「お陰で新たなゼアルになれたんだしいいじゃないですか」

ジャツカル「確かに、あれは予想外だったぞ」

ゆかり「確かにそうね、でも面白かったわ」

ジャツカル「それにしても、みくちゃんはどこいった？」

あきら「みくは、遊びにいきましたよ、そろそろ戻ってきてもいいと思うんですが・・・おかしいですね」

ジャツカル「気のせいか・・・なんか嫌な予感がするんだが」

あきら「考えすぎですよ」

ジャツカル「いや、私の嫌な予感は必ず当たる」

ゆかり「まさかそんなはずは」

その時

マナ「あきらさん」



あきら「どうしたの？」

ジャツカル「やはり、嫌な予感は的中したようだ」

あきら「じゃあ、やっぱり何か嫌な予感が？」

ジャツカル「ああ、マナもしかしてみくちゃんの事か？」

マナ「あつ、はい」

ジャツカル「その悪い知らせはなんだ」

マナ「それなんですけど、あきらさんこれみくちゃんのですよね？」

あきら「確かにみくの鞆だよ、どうしたの？」

六花「近くの公園で見つけたのよ」

あきら「どういう事？なんで？」

ジャツカル「やはりな、多分みくちゃんは何者かに誘拐された」

あきら「みくが誘拐された・・・って嘘ですよねジャツカルさん」

ジャツカル「いや、嘘ではない、そして最悪な事態になりかねん」

あおい「それってどういう」

ジャツカル「まあ、犯人はそこにいるんだがな、出てこいよ、さぞ

かし自分の思いどなりに事が進んで楽しいだろうな、ええ？」

サーロイン「流石ですね、何者かは知らんが誉めてあげますよ」

咲「貴方はサーロイン」

舞「倒されたはずじゃ」

サーロイン「久しぶりですね、キュアブルーム キュアイーグレッツ

ト」

舞「貴方は許さない」

サーロイン「そうですね、しかし、我々の計画を邪魔はしないでく

ださいよ、こつちも困るんでね」

ジャツカル「(我々の計画？ということとはサーロイン一人ではなく

多数の者が関わってるって事か、多分、計画は次元統合) おい、サー

ロインとか言ったな、貴様らが進めてる計画って言うのは、次元統合

の事か」

サーロイン「さあ、どうだかな、もしそうだとしたらどうする？」

ジャツカル「貴様をぶつ潰す」

サーロイン「貴様が俺を潰す・・・見たところ貴様はプリキュア

では無いようだが？」

ジャツカル「簡単ま話だ、来いRRミミクリーレイニアス」

RRミミクリーレイニアス

鳥獣族／効果

攻撃力1100 守備力1900 レベル4

ミミクリーレイニアスの②の効果は1ターンに1度しか使えない  
①このカードが召喚 特殊召喚に成功した時、自分のメインフェイズに1度自分フィールド上すべてのRRモンスターのレベルを1上げる。②このカードが墓地に送られたターンの自分のメインフェイズに墓地のこのカードを除外しミミクリーレイニアス以外のRRカードを1枚手札に加える

サーロイン「ほう、貴様そんなことが出来るのか、いいだろう、俺が相手してやる」

なぎさ「私達も変身よ」

少女達変身中

ジャツカル「我はりバース2枚セットターンエンド」

サーロイン「何をするとと思えばそんな鳥一匹で終わりか、消えるがいい」

ジャツカル「何!!」

キュアアイグレット「まずいわ、ミミクリーレイニアスが」

サーロイン「どうした？最初の威勢は？」

ジャツカル「貴様はバカか？我のフィールドを見てみる」

サーロイン「何!!」

キュアアイグレット「ミミクリーレイニアス？殺されたはずじゃ」

ジャツカル「残念だったな、トリックだよ、我はりバースカードRRレディネスを発動していた」

キュアブラック「RRレディネス？」

キュアアカスタード「説明します、RRレディネスは、自分のフィールドにRRと名のついたモンスターがいるとき発動したターンは破壊はされないんです」

キュアホワイト「つまり、ミミクリーレイニアスはこのターン破壊

されないって事ね」

キュアホイップ「はい」

ジャツカル「我は、ここで罨カード光の護封壁を発動」

光の護封壁

永続罨

い 1000の倍数を払って、その数値以下のモンスターは攻撃出来ない

ジャツカル「我は、4000払い、攻撃力4000以下のモンスターは攻撃出来ない」

サーロイン「下らん、消えろ」

キュアシヨコラ「光の護封壁が」

キュアマカロン「破壊された!!」

サーロイン「所詮無駄だったな」

ジャツカル「いいや無駄じゃないぜ、今の行為は」

サーロイン「ふん、負け惜しみを」

ジャツカル「負け惜しみかどうかは教えてやる、我は、RRラダーストリクスを召喚」

RRラダーストリクス

鳥獣族／効果

攻撃力0 守備力1600 レベル4

①このカードが召喚またはRRカードの効果で手札から特殊召喚に成功した場合相手に600のダメージを与える②このカードを攻撃対象とした相手モンスターの攻撃宣言時に手札からRRモンスターを2体まで特殊召喚する。このターン、相手は効果で特殊召喚したモンスターを攻撃対象に出来ない

ジャツカル「さらにRRネストを発動」

RRネスト

永続魔法

RRネストの効果は1ターンに1度しか使えない①自分のフィールドにRRモンスターが2体以上存在するとき自分のデッキ 墓地からRRモンスターを1体手札に加える

ジャツカル「我は、ネストの効果でRRモンスターが2体以上いるときデッキか墓地からRRモンスターを1体手札に加える」

キュアアクア「ミミクリーレイニアスもラダーストリクスもRRね」

キュアジェラート「発動条件は満たされてるね」

キュアトウインクル「待ってよ、じゃあ、さっきの光の護封壁の意味は？」

ジャツカル「今に分かる、我はここでRRシンキングレイニアスを手札に加える、そしてミミクリーレイニアスを選択して1100ダメージを受けRRペインレイニアスを特殊召喚」

RRペインレイニアス

鳥獣族／効果

攻撃力100 守備力100 レベル1

ペインレイニアスの効果は1ターンに1度しか使えずこのカードをORUにするとき鳥獣族エクシーズモンスターにしか使用できない。①このカードが手札にある時自分のフィールドのRRモンスターを1体選びそのモンスターの攻撃力 守備力のどちらか低いほうのダメージを受けこのカードを手札から特殊召喚する、このカードのレベルは対象モンスターと同じになる

キュアトウインクル「なんで1100のダメージを受けてわざわざ100のモンスターを出すのよ」

キュアソード「何かあるわね、間違いなく」

ジャツカル「その瞬間ペインレイニアスの効果で選択したモンスターと同じレベルになる」

RRペインレイニアス レベル1↓レベル4

ジャツカル「そうだ、我はミミクリーレイニアスごラダーストリクスでオーバレイ、業火の翼よ 今こそすべてを焼き払い我が力を示すがいい！エクシーズ召喚！出でよRRブレードバーナーファルコン」

RRブレードバーナーファルコン

鳥獣族／エクシーズ／効果

攻撃力1000 守備力1000 ランク4

鳥獣族レベル4モンスター×2

①相手よりライフが3000以上少ない場合にこのカードがエクシーズ召喚されたときこの攻撃力は3000アップする②このカードが戦闘で破壊したときORUを任意の数使用して取り除いた数だけ相手のモンスターを選んで破壊する

キュアマーマイド「攻撃力1000?」

キュアフローラ「それじゃあ不利だよ」

キュアプリンセス「待ってブレードバーナーファルコンの攻撃力が」

全員「えっ?」

RRブレードバーナーファルコン 攻撃力1000↓4000

キュアマリン「攻撃力が」

キュアロゼッタ「1000から4000にアップしましたわ」

ジャツカル「ブレードバーナーファルコンがエクシーズ召喚に成功した時、その時のライフが相手より3000以上少ない場合このカードの攻撃力は3000アップする」

キュアエース「だから先に光の護封壁を使う必要があった・・・流石ですわ」

ジャツカル「まだだ、自分フィールドにエクシーズモンスターがいるときRRシンキングレイニアスを特殊召喚」

RRシンキングレイニアス

鳥獣族／効果

攻撃力100 守備力100 レベル4

シンキングレイニアスの①による特殊召喚は1ターンに1度しか出来ない。①自分フィールド上にエクシーズモンスターがいるときこのカードを特殊召喚する

ジャツカル「我はさらにペインレイニアスとシンキングレイニアスでオーバレイ暗闇より獲物を捕らえすべてを抉れ」

キュアマカロン「あの召喚口上は来るわね」

キュアシヨコラ「フォースストリクスが」

ジャツカル「現れる！RRフォースストリクス」  
キュアジェラート「来たジャツカルさんの連続エクシードコンボだ」

ジャツカル「我はフォースストリクスの効果で」

サーロイン「貴様いつまでも待たせるんじゃないよ」

キュアサンシャイン「そうはさせないよ」

キュアミント「ジャツカルさんの邪魔はさせない」

サーロイン「くっ」

ジャツカル「そしてRRネストの効果発動、このカードとフォースストリクスで2枚手札に加えるRRネストの効果でRRファジーレニアスをフォースストリクスの効果でトリビュートレイニアスを手札へ」

サーロイン「小賢しいマネを」

ジャツカル「貴様らの目的はなんだ？」

サーロイン「他の連中は知らんが俺は次元統合完了した場合すべてに時間を止めるのだ」

ジャツカル「そうはいくか、ブレードバーナーファルコンで」

サーロイン「おっと、攻撃はやめたほうがいいぞ、小娘がどうなってもいいならな」

キュアシヨコラ「みく!!」

ジャツカル「貴様・・・許さん（だがみくを失うわけにはいかない、我みりたいなものはもう生み出したくない）我はリバース2枚セツトしてターンエンド」

キュアマカロン「ジャツカルさん」

みく「私はどうなっても構わないから、だから気にしないで」

ジャツカル「そんなこと出来るか、もう我みりたいな者を作り出すのはもう見たくねえ」

キュアシヨコラ「ジャツカルさん」

サーロイン「それでいい、これでも食らえ」

ジャツカル「くっ、フォースストリクス!!我のターン、仕方ないガードオブプレムベルを召喚さらにリバース血の代償を発動500支払

いブンボーグ001を召喚」

ブンボーグ001

機械族／チューナー／効果

攻撃力500 守備力500 レベル1

①このカードの攻撃力 守備力は自分フィールドの機械族モンスターの数×500アップする②このカードが墓地に存在しフィールドに機械族が2体以上同時召喚に特殊召喚されたときこのカードを墓地から特殊召喚する

ジャツカル「さらに二重召喚発動、手札からインフェルノイドデカトロンを召喚」

インフェルノイドデカトロン

悪魔族／チューナー／効果

①このカードが召喚 特殊召喚に成功した時、デッキからインフェルノイドデカトロン以外のインフェルノイドモンスターを1体墓地へ送りこのカードをそのモンスターのレベル分上げそのモンスターと同名カードとして扱う

ジャツカル「リバース1セットエンド」

キュアマーチ「おかしいね」

シャイニールミナス「何がですか？」

キュアビューティ「さつきからチューナーモンスターしか出してないんです、普通そこで非チューナーモンスターを召喚しシンクロ召喚するはずなんですけど」

キュアホワイト「手札に無いんじゃない」

キュアピース「そうなのかな？」

ジャツカル「手札にはある」

キュアサニー「じゃあなんで出さへんのや」

ジャツカル「あと一枚チューナーを待っている」

キュアアクア「なんで？」

キュアソード「何か策があるんじゃない」

サーロイン「下らん、雑魚は消えろ」

ジャツカル「罠カードくず鉄のかかし」

くず鉄のかかし

罨

①相手の攻撃宣言時に発動可能、そのモンスターへの攻撃を無効にする。発動後はセツトする

ジャツカル「くず鉄のかかしは発動後にセツトされる、そして私のターン：．．来たぜ、我はレベル1チューナーWWスノウベルを召喚」  
WWスノウベル

魔法使い族／チューナー／効果

攻撃力100 守備力100 レベル1

①自分フィールド上に風属性が2体以上存在し風属性以外のモンスターがいないときこのカードは手札から特殊召喚出来る②このカードをシンクロ素材とした場合、そのシンクロモンスターは相手効果では破壊されない

ジャツカル「さらに血の代償の効果500払い、ブレードバーナーファルコンをリリース来いハンタースパイダー」  
ハンタースパイダー

昆虫族

攻撃力1600 守備力1400 レベル5

クモの巣の罨を仕掛け狩りをする。罨にかかったものは食べてしまおう

サーロイン「そんな雑魚どもをいくら召喚しようが無意味だ」

ジャツカル「貴様あああ」

キュアジェラート「ふざけるな、お前にとっては雑魚かも知れないけどな、私達にとっては強い仲間だ、それにシヨコラの．．あきらの妹を返せ、そうでなければお前をどんな手を使っても潰してやる」  
その時

水晶機巧グリオンガンド「小娘、見かけによらず威勢がいいじゃねえか」

キュアジェラート「あんたは？」

水晶機巧グリオンガンド「俺か？水晶機巧グリオンガンド貴様は？」



キュアジェラート「私はキュアジェラート、立神あおいだ」

水晶機巧グリオンガンド「お前の言う通りだ、俺達は単なるカードだが、俺達には魂いや精霊が宿っている」

キュアジェラート「でもどうやってチューナーは全部レベルが1ハンタースパイダーはレベルは5グリオンガンドあんたはレベルは9考えても」

水晶機巧グリオンガンド「俺はチューナーを2体以上使うことも可能だ」

キュアジェラート「分かったやってみる、サーロイン、ここからは私が相手だ」

サーロイン「貴様が？いいだろう」

キュアジェラート「ジャツカルここは私がやります」

ジャツカル「分かった」

キュアジェラート「うおおおお、燃えてきたー、私はレベル1ブンボーグ001にガードオブフレムベル、インフェルノイドデカトロンそしてWWSノウベルにレベル5のハンタースパイダーをフォルスチューニング、美しき水晶よ、その翼に思いを乗せ、その力で悪を討てフォルスシンクロ出でよ、クリストロンの救世主、水晶機巧グリオンガンド」

水晶機巧グリオンガンド

機械族／シンクロ／効果

攻撃力3000 守備力3000 レベル9

チューナー2体以上＋チューナー以外のモンスター1体

①このカードがシンクロ召喚に成功した場合そのシンクロ素材としたモンスターの数まで相手フィールド 墓地のモンスターを対象に発動可能。そのモンスターを除外する。②シンクロ召喚したこのカードが戦闘 効果で破壊された場合このカード以外の除外される自分または相手モンスター1体をそのモンスターを自分フィールド上に特殊召喚する

キュアシヨコラ「フォルスチューニング」

キュアマカロン「チューナーモンスター4体でのシンクロ召喚」

キュアアクア「すごい」

キュアジェラート「うおおお、やってやるぜ、水晶機巧グリオン  
ガンドいっけー」

サーロイン「そんな奴が俺に勝てると思ってるのか？」

キュアトウインクル「ふーん、やるじゃない、あのグリオンガンドつ  
て奴」

サーロイン「無駄な事を」

ジャツカル「無駄なのはどっちかな」

サーロイン「何!!」

キュアジェラート「打ち砕けグリオンガンド」

サーロイン「バカなこの俺が、貴様らなんかに負けるなんて言うこ  
とはあり得ないぞ、ぐあああああ」

キュアジェラート「やりー」

キュアマカロン「フォルスシンクロ・・・ふふふ、面白いわ、貴方」

キュアシヨコラ「チューナー4体でのシンクロ召喚は予想外だね」

キュアマーマイド「そうだね」

## 新たなナンバーズ 強力なシンクロモンスター超重 蒸気テツドウ〇

ジャツカル「あおいちよつといいか？」

あおい「はい」

ジャツカル「お前は どう思ってるんだ？」

あおい「何がですか？」

ジャツカル「我がこの任務が終わって元の次元に戻ることに」

あおい「そうですね、出来れば私達の世界に残って欲しいです、みくちゃんもあきらさんもゆかりさんも思ってるはずですよ」

ジャツカル「そっか・・・ありがとうございます」

あきら「ゆかり何を持っててるの？」

ゆかり「これよ私にピッタリでしょ、同じ猫だし」

あきら「でもそれはナンバーズだよと言うかそのナンバーズどうしたの？」

ゆかり「拾ったのよ」

あきら「ちよつとジャツカルさんに言ってくる」

ゆかり「ちよつとあきら私は大丈夫だから」

あきら「ジャツカルさん」

ジャツカル「どうした？」

あきら「ゆかりがナンバーズを拾ったって言ってるんです」

ジャツカル「ナンバーズを!!なんとも無いのか?ゆかりは」

あきら「今のところは何も」

ジャツカル「何も無いならいいが、一応、ナンバーズだ回収はする」

あきら「分かりました」

ジャツカル「・・・」

あきら「どうしたんですか、頭撫でるなんて」

ジャツカル「あきらがかわいくてついつい撫でたくなった」

あきら「だからと言って無言で撫でないでくださいよ」

ジャツカル「悪い悪い」

ゆかり「うふふ、面白いわ」

あおい「つまんなーい、いちか、ジャツカルさんが構ってくれない  
いちか「あおちゃん、大丈夫、私が構ってあげるから」

あおい「うん」

ひまり「あおいさんっていつからそんなに甘えん坊になったんですか？」

あおい「あ、甘えん坊じゃないし」

かれん「なんか羨ましいわね」

こまち「そうね」

りん「しかし、なかなか見せてくれるじゃない」

くるみ「まるでぞみとココさまみたいね」

りん「本当ね」

せつな「でもジャツカルさんとあきらさんってお似合いですよね」

エレン「本当」

なぎさ「最初はどちらからだったの？」

ひまり「最初はあきらさんから家に泊めてあげたんです」

きらら「以外に大胆ね、彼女」

やよい「それに私達の世界では敵と本人の前でどうどうとカミングアウトしちゃったもんね」

あきら「その事はお願ひ忘れて」

あおい「ちなみにこれが証拠です」

トワ「大胆ですね」

はるか「さすがあきらさんやるじゃない」

奏「ここまで大胆にやるなんてすごいわね」

あきら「みんなやめてよ、恥ずかしいよ」

みく「いいじゃない、お姉ちゃん」

あきら「みくまで」

いおな「やるじゃない、なかなか」

ジャツカル「盛り上がっているとこ悪いんだが、何かが来たようだ」

ゆうこ「まさか敵？」

ジャツカル「多分な」

ひめ「でもどこから？」

ジャツカル「でも分かんが近づいている・・・来るぞ」

シャドウ「あたしの気配に気づくとはやるじゃない」

ジャツカル「どうも、誉めたって何も出ないぞ」

シャドウ「あらっ、面白い子ね」

ジャツカル「ゆかり、ナンバーズの件は持っている、奴は我が潰す」

ゆかり「私達も戦います」

ジャツカル「分かった」

少女達変身中

シャドウ「他にもプリキュアがいたとはね」

キュアマカロン「私達も甘く見られたわね」

シャドウ「仕方無い、お前達の相手はこいつらだよ」

ダークドリーム「久しぶりキュアドリーム」

ダークルージュ「久しぶりの表世界」

ダークレモネード「シャドウ様の命令でお前達を倒す」

ダークミント「守る意味なんて無い、だって勝てばいいんだもの」

ダークアクア「邪魔をするなら容赦はしない」

ジャツカル（あいつら、過去の我に似ている、守る意味は無い、命令をこなす、裏の世界での生き方、そして邪魔者は容赦なく潰す）

キュアマカロン「あいつらは私達でドリーム達は」

ジャツカル「待て!!あいつら全員、我がやる、あいつらは昔の我に

よく似ている、あいつらは命令を確実に実行するための戦闘マシーン

だが確実に迷いが残ってる、まずはファーストミッションはあいつら

を笑顔にする、我のデュエルで」

キュアブラック「笑顔にするって大丈夫なの？」

キュアイーグレット「大丈夫ですよ、彼なら」

キュアブルーム「そうです、ポイズニーも笑顔にしたんですから」

ダークミント「どうしたの？もしかしておじけついた？」

ジャツカル「貴様らの相手は我一人で十分だ」

ダークルージュ「あんた一人？バカじゃないの？」

ダークドリーム「そもそもあんたはプリキュアじゃないどうやって

やるのかな？」

ジャツカル「そうか・・・だが我はあんたらを笑顔にする」

ダークドリーム「笑顔？そんなもの私は嫌いな」

ダークミント「ねえ、そろそろあいつを黙らせていいかな？ダークドリーム」

ダークドリーム「いいわよ、正直目障りだし」

ダークレモネード「ねえ、私の分もとつといてよ」

ダークミント「分かってる」

ジャツカル「仕方無い、まあ、昔の我もそんなだったかな」

ダークミント「ふーん、あんたもねえ」

ジャツカル「そうだ、御託はいい早くやれ」

ダークミント「そのつもりよ、そもそもあんたが戦えるとは思えないけどね、ダークネススプレッド」

ダークルージュ「なんだ弱いじゃん、最初の威勢はどうしたの？」

ダークレモネード「私達を笑顔にしてくれるんじゃないの？」

ジャツカル「確かに今の攻撃は効いたぜ、だけどプラマイ0だから問題はねえかな」

ダークミント「なっ、なぜ？」

ジャツカル「我は貴様の攻撃でダメージを追った時、手札からBKベイルを特殊召喚した」

BKベイル

戦士族／効果

攻撃力0 守備力1800 レベル4

自分が戦闘ダメージを受けたとき、このカードを手札から特殊召喚して受けたダメージを回復する

ジャツカル「ベイルの効果で受けたダメージ分回復させてもらった」

ダークアクア「なっ、ダークミントの攻撃を防いだ!!」

ダークルージュ「それだけじゃない、回復までするなんて」

ダークドリーム「ふーん、あいつあんなこと出来るんだ、楽しめそうね」

「ダークレモネード」だけどダークミントを倒せるかしらね」

ジャツカル「我のターン、チューナーモンスター氷結界の水影を召喚」

「ダークルージュ」チューナーモンスター？」

「ダークミント」そんな奴を呼び出したところで何の意味が？」

「キュアアクア」チューナーに非チューナー」

「キュアメロディ」この構えはシンクロ召喚」

ジャツカル「我は、レベル2の氷結界の水影とレベル4のBKベイルをチューニング悪を切り裂く刃 真実の翼となりて疾風の如く打ち倒せ！シンクロ召喚!!スターダストチャージウオリアー」

スターダストチャージウオリアー

戦士族／シンクロ／効果

攻撃力2000 守備力1300 レベル6

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

このカードの①の効果は1ターンに1度しか使えない。①このカードがシンクロ召喚に成功したとき、自分はデッキから1枚ドローする②このカードは特殊召喚された相手モンスターすべてに攻撃することが出来る

ジャツカル「行くぞ、スターダストチャージウオリアーで攻撃」

「ダークミント」そんな奴で何が出来る？」

「キュアサニー」そうやで、相手は5人それに比べてスターダスト

チャージウオリアーだけではあかん」

「キュアマカロン」それはどうかしらね？」

ジャツカル「スターダストチャージウオリアーの効果発動、このカードは特殊召喚されたモンスターすべてに攻撃する」

「キュアシヨコラ」レボリユーションファルコンと同じ効果ね」

「ダークアクア」何言ってるの？特殊召喚？そんなものではないわ」  
ジャツカル「いや、お前達はシャドウによって呼び出された、つまり、特殊召喚ということになる」

「ダークルージュ」と言うことは」

「ダークドリーム」スターダストチャージウオリアーは私達全員に攻

撃が出来るって訳」

ジャツカル「そうだ」

キュアリズム「確かにそれなら可能ね」

ジャツカル「スターダストチャージウオリアーで攻撃だ」

ダークミント「そうはさせない」

ジャツカル「エネルギー弾ごときで止められはせんぞ」

ダークミント「くっ、きやああああ」

ダークレモネード「まずいわね、こっちに来る」

ダークルージュ「くっ、ダークネスファイヤー」

ジャツカル「やるじゃねえか、スターダストチャージウオリアーを倒すとはだが小手調べに過ぎない、リバース2枚セットでエンド」

ダークミント「まだよ」

ダークアクア「下がってなさい、ここは私が行くわ」

ダークミント「頼んだよ、アクア」

ダークアクア「任せなさい、次は私が相手よ」

ジャツカル「来い」

ダークアクア「そのつもりよ」

ジャツカル「ふーん、剣ねえ、だけど罠カードガードブロック」

ダークアクア「やはりそれは罠だったのね」

ジャツカル「読んでたようだな」

ダークアクア「当たり前よ、そこまで余裕っぽくしてるんだから何かあるとはわかった」

ジャツカル「だが、ガードブロックは攻撃ダメージを0にして1枚ドロウする」

ダークアクア「構わないわ」

ジャツカル「なら次は我だギミックパペットシザーアームを召喚」  
ギミックパペットシザーアーム

機械族／効果

攻撃力 1200 守備力600 レベル4

このカードが召喚されたとき自分はデッキからギミックパペットを1体墓地へ送る



ジャツカル「これでデツキのギミックパペットを墓地へ、我はネクロドールを墓地へ、エンドだ」

ダークレモネード「あれで終わり？意味無いじゃん」

ダークミント「私も出るわ」

ダークアクア「いいわお願いね」

ダークミント「まずはその邪魔な人形から消えてもらわないとね、ダークネススプレッド」

ジャツカル「シザーアーム!!」

ダークアクア「まだ私がいるわよ」

ジャツカル「まずい!!」

ダークルージュ「なんだ、あの二人で十分じゃない」

ダークレモネード「だどいいんだけど」

ダークミント「分かったでしょ、守るなんて意味無いのよ」

ジャツカル「確かにそうかもな、昔の我もそうだった、守るなど、意味は無いと思った・・・だけど、こいつらと出会って本当に守る意味を知った」

ダークミント「そんなもの意味は無い」

キュアホワイト「何!!手札が!!」

ジャツカル「分からんが奴のスキルだとしたら」

キュアジェラート「スキルって？」

ジャツカル「そこまでは知らん」

キュアホワイト「こうなったら私達が」

ダークレモネード「そうはいかないよ」

全員「きやああああ」

ダークルージュ「手出しするからこうなるのよ」

ダークミント「悪いけどスキルでは無いわよ、ただなんとなくだけどね」

ダークドリーム「貴方も同じ境遇にあったなら分かるよね、笑顔なんて必要ないって」

ジャツカル「確かにのだが、お前達は我の術中にはまっている」  
ダークドリーム「はっ？何言ってるの？負け惜しみもいところ

ね」

ジャツカル「果たしてそうかな？ だったらやってみるか？ 我は魔法カードおろかな埋葬を発動」

おろかな埋葬

魔法カード

自分のデッキからカードを1枚墓地へ送る

ジャツカル「我は効果でギミックパペットマグネドールを墓地へ」

キュアホイップ「でもそんなことしたら、意味が無いんじゃない」

ジャツカル「確かに、だけど、これで準備は整った」

キュアビート「どういう事？」

ジャツカル「我は手札から魔法カード傀儡儀式パペットリチュールとジャンクパペットを発動」

傀儡儀式パペットリチュール

魔法

自分のライフが2000ポイント以上少ない場合自分の墓地からギミックパペットモンスターでレベル8以上のモンスターを2体選択し特殊召喚する。パペットリチュールは1ターンに1度しか発動出来ず、このターンはバトルフェイズは行えない

ジャンクパペット

魔法

自分の墓地のギミックパペットモンスターを1体特殊召喚する。

ジャンクパペットは1ターンに1枚しか使えない

キュアカスタード「ギミックパペットの蘇生カード」

ダークレモネード「バカじゃないの？ あんたの墓地にギミックパペットは2体、せいぜいジャンクパペットかパペットリチュールしか効果は適用されないわよ」

ジャツカル「本当に2体しかないのかな？」

ダークドリーム「バカじゃないの、2体でしょ」

ダークアクア「まさか、さっきミニントが墓地へ送った手札は!!」

ジャツカル「そうだ、ギミックパペットナイトメア」

ダークミニント「くっ、だけど、そいつらを蘇生させて何になる？」

ジャツカル「まあ見てろ、甦れ、我がギミックパペットどもギミックパペットナイトメア ギミックパペットマグネドール ギミックパペットネクロドール」

ギミックパペットネクロドール

機械族／効果

攻撃力0 守備力0 レベル8

このカードが墓地に存在するとき、このカード以外のギミックパペットを除外してこのカードを墓地から特殊召喚する。ネクロドールの効果は1ターンに1度しか使えない。またこのカードをORUにするときギミックパペットモンスターのエクシーズ召喚にしか使えない

ギミックパペットナイトメア

機械族／効果

攻撃力1000 守備力1000 レベル8

このカードは自分フィールド上の表側表示で存在するモンスターを1体リリースしてから特殊召喚出来る。この方法による、ギミックパペットナイトメアの特殊召喚は1ターンに1度しか出来ない。この方法で特殊召喚されたとき、自分の手札からギミックパペットモンスターを1体特殊召喚する。この効果での特殊召喚が成功したターン自分はギミックパペット以外のモンスターは特殊召喚出来ない

ギミックパペットマグネドール

機械族／効果

相手フィールドにモンスターが存在し自分フィールドにギミックパペットモンスターのみが存在する時、このカードを手札から特殊召喚出来る

キュアサニー「マグネドールはともかくネクロドールは怖いわ」

キュアトウインクル「ナイトメアってモンスターキモい」

キュアビューティ「大変です、マーチが気絶しちゃってます」

キュアフローラ「マーメイドも気絶してます」

キュアメロディ「ビートも気絶してる」

キュアサニー「あかん気絶者が出とる、そりゃあ気絶もしたくなる

わ、ネクロドール怖いし、なあルージュ」

キュアアクア「ダメルージュも同じ」

キュアマジカル「あれっ、ハッピーは？」

キュアピース「ダメ、ハッピーはあそこですごい怯えている」

キュアミラクル「大丈夫なのかな」

ジャツカル「我は3体のモンスターでオーバーレイ、百獣の王よ、王者の風格にて我を勝利へと導けエクシーズ召喚No. 88ギミックパペットデステニーレオ」

No. 88ギミックパペットデステニーレオ

機械族／エクシーズ

攻撃力3200 守備力2300 ランク8

レベル8モンスター×3

1ターンに1度、自分の魔法 罨ゾーンにカードが無いときこのカードのORUを一つ使いこのカードにデステニーカウンターを乗せる、この効果を発動したターン、自分はバトルフェイズを行えない、このカードにデステニーカウンターが3つ乗った時このカードのコントローラーはデュエルに勝利する

ダークドリーム「なっ、ナンバーズ!?なんなのあのモンスター」

ダークアクア「なんだか知らないけど、私達には勝てない」

ジャツカル「まだまだRUMバリアンズフォースを発動」

ダークレモネード「RUM!!なんなのよその力」

ダークドリーム「私達も出るよ」

ダークルージュ ダークレモネード「分かった」

ダークミント「ダークネススプレッド」

ダークドリーム「はあああああ」

ダークアクア「食らいなさい」

ダークレモネード「ダークネスフラッシュ」

ダークルージュ「ダークネスファイヤー」

ジャツカル「無駄だ、デステニーレオでオーバーレイ、金色の獅子よ、その大なる混沌の力で我の元へ現れよ カオスエクシーズチェンジ、出でよCN088ギミックパペットディザスターレオ」

CN088ギミックパペットデザスターレオ

機械族／エクシーズ／効果

攻撃力3500 守備力2500 ランク9

レベル9モンスター×4

このカードはN0・88ギミックパペットデステニーレオを対象とするRUMと名のつく 魔法カードの効果でのみ特殊召喚出来る。フィールド上のこのカードは効果の対象にならない。1ターンに1度このカードのORUを1つ使い相手に1000ダメージを与える。また、自分のエンドフェイズ時相手ライフが2000ポイント以下でORUが無い場合、このカードのコントローラーはデュエルに勝利する

ダークルージュ「なつ、カオスナンバーズ!!」

ダークアクア「デステニーレオをカオス化させたの」

ジャツカル「これで終わりだ、デストラクションカノン」

ダークレモネード「そうは行かない、ダークネスフラッシュ」

ジャツカル「やめておけ、お前らでは自分の主を笑顔に出来ない、それどころか笑顔に慣れない」

ダークドリーム「そんなの・・・そんなのまだ習ってないよ」

ジャツカル「だったら覚えればいいだろ(怒)」

プリキュア全員(ええ、何でキレてるのジャツカルさん)

ダークドリーム「そんな・・・」

ダークルージュ「私達が」

ダークレモネード「負ける・・・」

ダークミント「だけど、なんなのこの気持ち」

ダークアクア「負けたのに、すぐくスッキリする」

シャドウ「使えないザコどもね」

ジャツカル「貴様・・・自分のために戦ったダークドリーム達をザコ扱いだど・・・」

シャドウ「それがどうしたの?そもそもそんなザコ相手に負ける奴がどうにかしてるわよ」

キュアシヨコラ「あいつ」

ジャツカル「貴様、雑魚の一言でカードを否定する貴様にデュエリストを名乗る資格は一切無い」

キュアサニー「いやいや、その前にあいつデュエリストではあらへんやろ」

キュアマカロン「お前だけは」

キュアシヨコラ「許さない」

ジャツカル「仲間を雑魚呼ばわりしたお前は万死にあたいする、行けデイズスターレオ デストラクシオンカノン」

シャドウ「目障りね」

ジャツカル「何!! デイズスターレオを一撃だと」

キュアマカロン「きやああああ」

キュアシヨコラ「がはっ」

キュアジェラート「うおおおおお」

シャドウ「消えなさい」

全員「きやああああ」

ジャツカル「シヨコラ行けるか、ゼアルだ」

キュアシヨコラ「はい」

ジャツカル「我は我自信とシヨコラでオーバーレイ、ゼアルIV」

あきら「できあがり」

シャドウ「どういう・・・事だ」

ゼアルIV(あきら)「私はスケール0の霸王門零とスケール13霸王門無限でペンデュラムスケールをセッティング、ペンデュラム召喚」

ゼアルIV(ジャツカル)「超重武者コブC 超重武者ビッグワラG」

超重武者ヒキヤQ」

超重武者ヒキヤQ

機械族／効果

攻撃力1200 守備力1800 レベル5

ヒキヤQの効果の②の効果は1ターンに1度しか使えない①自分の墓地に魔法 罫カードが存在しない場合、このカードは手札から特殊召喚出来る。この方法で召喚した場合、自分は超重武者モンスター

しか特殊召喚出来ない②自分の魔法 罨カードが存在しない場合このカードをリリースして手札から超重武者モンスターを2体まで相手フィールド上に守備表示で特殊召喚しその後特殊召喚したモンスターの数だけ自分はデッキからドローする

#### 超重武者コブC

機械族／チューナー／効果

攻撃力900 守備力900 レベル2

このカード名の①②の効果は1ターンに1度しか使えない。①自分の超重武者モンスターが戦闘で破壊したバトルフェイズに発動可能。このカードを含む自分フィールドのモンスターでシンクロ召喚を行う。②自分の墓地に魔法 罨カードが存在しない場合自分の超重武者シンクロモンスター1体のレベルを1つ下げ墓地から特殊召喚する。この効果の発動後、ターン終了時まで自分は超重武者モンスターしか特殊召喚出来ない

ゼアルIV (ジャツカル) 「貴様はこれで終わらせる」

ゼアルIV (あきら) 「私はヒキヤQ コブC ビッグワラGでチューニング」

ゼアルIV (ジャツカル) 「大地を走りし不動の力よ 鉄の要塞くろがねとなりて戦場せんじょうを動きし力とならん、シンクロ召喚」

ゼアルIV (あきら) 「今こそ戦場に来よ超重蒸鬼テツドウ」

#### 超重蒸鬼テツドウ

機械族／シンクロ／効果

攻撃力2000 守備力4800 レベル12

超重武者チューナーモンスター+チューナー以外の超重武者モンスター2体以上

このカードはルール上超重武者として扱う①このカードは表側守備表示のまま攻撃出来るその場合守備力を攻撃力として扱いダメージ計算を行う②1ターンに1度手札を2枚捨て相手フィールドのカードを捨てた数だけ破壊する③1ターンに1度、自分のメインフェイズにお互いの墓地の魔法罨カードを全て除外して除外した数×200ダメージを相手に与える

キュアマカロン「新規超重武者」

キュアサニー「というか武者というか汽車やないか、武者要素どこいったん？」

キュアジェラート「そんなことよりなんかすごそう」

ゼアルIV（ジャツカル）「教えてやるぜ、超重蒸鬼テツドウOは守備表示、守備力は4800だ」

シャドウ「バカか、ただの守備が高い鉄の塊じゃない」

ゼアルIV（あきら）「残念だけど、あなたはこれで終わりよ」

キュアブラック「無理じゃない？守備なら」

キュアカスターD「説明します、超重武者のシンクロモンスターは守備表示のまま攻撃出来ます」

キュアイーグレット「つまり、どっちにしる攻撃出来るって事ね」

キュアカスターD「はい」

ゼアルIV（ジャツカル）「さらに我は超重武者装留グレートウォールをテツドウOに装備、グレートウォールは超重武者モンスターに装備出来る」

超重武者装留グレートウォール

機械族／効果

攻撃力1200 守備力1200 レベル3

①自分のメインフェイズに自分フィールドの超重武者モンスターに装備カード扱いとして装備する、装備モンスターの守備力は1200アップする②このカードの効果で装備対象にされたときその攻撃を無効にして装備モンスターの守備力を0にする

シャドウ「貴方はバカなのかしら？そのテツドウOってモンスターは超重蒸鬼、超重武者ではない」

ゼアルIV（ジャツカル）「残念だったな、超重武者シンクロモンスターは超重武者として扱われる」

キュアパイン「つまりテツドウOにグレートウォールは装備可能ね」

ゼアルIV（あきら）「そしてテツドウOの守備力は1200アップする、つまり守備力は4800から6000に上昇」



超重蒸鬼テツドウO 守備力4800↓守備力6000

シヤドウ「だ、だが守備力をあげても攻撃が出来なければ一緒」

ゼアルIV(ジャツカル)「いや、超重武者のシンクロモンスターは守備表示のまま攻撃出来る」

シヤドウ「何!!と言うことは」

ゼアルIV(あきら)「そう、貴方の負けよ」

ゼアルIV(ジャツカル)「裏切られたダークドリーム達の怒り受けてみる、超重蒸鬼テツドウOで攻撃ボルカノチャージ」

シヤドウ「バカな・・・この私が負けるなど、ぐあああああ」

ダークドリーム「ううん、そう言えば私達負けたんだ」

ダークルージュ「そうだね、でも楽しかった」

ダークレモネード「笑顔でいるのも悪くないわ」

ダークミント「確かに彼と戦って負けてから、だよね」

ダークアクア「これからどうする?」

ダークドリーム「うーん、どうしよう」

ジャツカル「よかつたら、一緒に来ないか?お前らが良ければだがな」

ダークミント「いいの?」

ジャツカル「ああ」

ダークドリーム「じゃあ、そうしよう」

## トイマジンを救え シンクロ召喚白鬪気白鯨

あきら「あれっ？ジャツカルさんは？」

ゆかり「ジャツカルさんなら再教育するって言った」

あきら「誰の？」

のぞみ「ダークドリーム達の」

あおい「大丈夫なの？ジャツカルさんで」

ゆかり「さあ」

その頃、ジャツカルは

ジャツカル「それでだな」

ダークアクア「ドリーム起きなよ、怒られるよ」

ダークドリーム「むにやむにや、もう食べられないよ」

ダークルージュ「完全に寝ちやつてるわね」

ダークレモネード「あのジャツカルさん」

ジャツカル「なんだ？」

ダークレモネード「ドリームが寝てるんですが」

ジャツカル「分かった」

ダークドリーム「むにやむにや、もうこれ以上はお腹いっぱいだよ

でももう少し」

ジャツカル「そんなに食いたいなら特大の技でも食らわせてやろう

か？」

ダークドリーム「わわっ」

ジャツカル「とにかく、寝るのは構わんが、場所を考えような」

ダークドリーム「うん」

ジャツカル「そうだ、お前達に新しい名前つけないとな」

ダークレモネード「新しい名前？」

ジャツカル「ほら、変身前の名前無かったじゃん、だからさ」

ダークドリーム「うん」

ジャツカル「まずは、ダークアクアだな、お前は水咲沙羅でいいか

？」

ダークアクア「え、ええ」

ジャツカル「ダークミントは西村早苗だ」

ダークミント「悪くないわね」

ジャツカル「ダークレモネードは歌音と風華で考えてるんだよな」  
ダークレモネード「あのう、歌音にしてください」

ジャツカル「分かった、西野歌音だ、ダークルージュは七瀬炎だ」

ダークルージュ「？」

ジャツカル「どうした？」

ダークルージュ「ほむらってどういう字を？」

ジャツカル「ああ、ほのおって書く、あとは、ダークドリーム、お前は夢原麻光だ」

ダークドリーム「麻光いい名前それに夢原って」

ジャツカル「ああ、お前はのぞみの妹だ、でも麻光って読みにくいよなすまないな」

ダークドリーム「大丈夫です、私の名前が麻光それにのぞみの妹」

ジャツカル「各自、自分の属性の名前だ、そうだ海行かんか？気晴らしも必要だろ」

全員「はい」

そして20分後

水咲沙羅（ダークアクア）「海ってなかなかいい場所ね」

西村早苗（ダークミント）「そうね」

西野歌音（ダークレモネード）「私、泳いでくる」

七瀬炎（ダークルージュ）「気をつけてね」

夢原麻光（ダークドリーム）「あっ」

七瀬炎（ダークルージュ）「どうしたの？」

夢原麻光（ダークドリーム）「お姉ちゃん達だ」

ジャツカル「あっ、ほんとだな、行くか？」

夢原麻光（ダークドリーム）「行きたい」

ジャツカル「悪いけど、沙羅見ててくれるかこいつらの事」

水咲沙羅（ダークアクア）「ええ、いいわよ」

ジャツカル「ありがとう、行こうか麻光」

夢原麻光（ダークドリーム）「うん」

あきら「でもジャツカルさんを置いてきてよかったの？」  
ゆかり「そうだね、さすがにまずかったわね」

その時

ジャツカル「お前から来てたのか？」

あきら「ジャツカルさん、これは違うんです」

ジャツカル「？なんの事だ？」

ゆかり「どうやら違うみたいね」

あおい「それよりジャツカルさんはなんでここに？」

ジャツカル「ダークドリーム達と気晴らし」

その頃、夢原麻光（ダークドリーム）は

のぞみ「りんちゃん」

りん「何？」

のぞみ「あそこですつとこつちを見てる人がいるんだけど」

りん「分かった、言ってくる、ちよつとあのね、ストーカーなら警

察呼びますよ」

夢原麻光（ダークドリーム）「私はお姉ちゃんを見てただけだよ」

りん「お姉ちゃんってあのね」

のぞみ「どうしたの？りんちゃん」

りん「なんかこの娘お姉ちゃんを見てただけだって、でもそのお姉

ちゃんが誰なのか」

夢原麻光（ダークドリーム）「お姉ちゃん」

のぞみ「ええええ、お姉ちゃんって私？」

夢原麻光（ダークドリーム）「お姉ちゃん寂しかった」

りん「のぞみ、あんたに妹いたの？」

のぞみ「誰かと間違つてない？」

夢原麻光（ダークドリーム）「間違つてないよ」

祈里「どうしたの？」

りん「なんかこの娘がお姉ちゃんって」

ひまり「貴方お名前は？」

夢原麻光（ダークドリーム）「夢原麻光だよ」

ひまり「のぞみさんと同じ名字」

りん「あんたやっぱり妹なんじゃないの」  
のぞみ「そんなことは無いんだけどなあ」

夢原麻光（ダークドリーム）「忘れたの、私だよ私」  
のぞみ「私って言われても」

かれん「もしかして貴方ダークドリーム？」

夢原麻光（ダークドリーム）「そうだよ」

あおい「えっ、ダークドリームって、でも名前、夢原麻光って」

夢原麻光（ダークドリーム）「うん、ジャツカルさんにつけてもらったの」

西野歌音（ダークレモネード）「遅いですよ、ジャツカルさん、麻光ちゃん」

ジャツカル「すまん、今行く」

水咲沙羅（ダークアクア）「ちよつと、歌音ダメだよ行っちゃ」

西村早苗（ダークミント）「まったくダメじゃない、戻って」

西野歌音（ダークレモネード）「分かりました」

ジャツカル「とにかく、手洗い行ってくる」

かれん「まさか、変身前の名前を貰ってたとはね」

水咲沙羅（ダークアクア）「ええ、ジャツカルさんがつけてくれたの、変身前の名前も必要だからって」

あきら「そうだったの、でも名前をつけるセンスもあるじゃない」  
その時

トイマジン「見つけたぞ、プリキュア」

ラブ「あれはトイマジン!!」

美希「なんで？浄化されたんじや」

あきら「もしかしたら、次元統合が原因だとすれば」

トイマジン「次元統合の事を知ってるとは貴様ら何者だ？」

ゆかり「悪いわね、私達もプリキュアだから」

トイマジン「まだプリキュアがいたのか僕の目的を邪魔するなら容赦はしない」

あおい「目的？」

トイマジン「僕の目的はおもちやの無い世界を作る」

うらら「なんでそんなことを？」

トイマジン「僕達おもちゃを捨てた復讐だよ」

水咲沙羅（ダークアクア）「復讐なんてダメだよ」

夢原麻光（ダークドリーム）「そうだよ悲しいだけだよ」

トイマジン「うるさい、お前達に何が分かる、行くぞ」

その頃、ジャツカルは

ジャツカル「まったく、どうするかな？（なんとかデュエルデイスは新型に変えたんだがまあいいか）この気配・・・敵か、フェニツクスは修理中で無いし、んっ？あれなら急げるか、小僧借りるぞ」

南野奏太「ちよつと待てよ」

ジャツカル「くそつ、間に合わない、こうなったらロケットブースターを装備するか」

その頃、プリキュア達は

キュアシヨコラ「くつ、強い」

キュアパイン「以前より強くなってる」

キュアベリー「これはまずいわね」

トイマジン「これで終わりだ、邪魔するからこうなるのだ」

ジャツカル「強大な海の悪魔よその力で猛威を振るい歯向かう敵を殲滅せよ、シンクロ召喚！魔轟神レヴユアタン」

魔轟神レヴユアタン

ドラゴン族／シンクロ／効果

魔轟神と名のつくチューナー＋チューナー以外のモンスター1体  
フィールド上に存在するこのカードが戦闘によって破壊されたとき自分の墓地の魔轟神モンスターを3体まで自分の手札に戻す

トイマジン「何!!ぐああああ」

ジャツカル「まったくせつかく気晴らしに来たのに邪魔すんじゃないやねえよ」

トイマジン「なんだ貴様？」

ジャツカル「貴様に名乗る必要ない」

キュアカスタード「ジャツカルさん、あいつは世界からおもちゃを消そうとしています」

ジャツカル「なんのために？」

キユアカスタード「復讐です」

ジャツカル「こいつも復讐……か、我は手札からゴブリンドバ―グを召喚そしてアギドを特殊召喚」

アギド

天使族／効果

攻撃力1500 守備力1300 レベル4

このカードが戦闘によつて墓地へ送られた時、サイコロを振り。自分の墓地から出た目の数と同じレベルを持つ天使族を1体特殊召喚する（6が出た場合はレベル6以上を含む）

ジャツカル「復讐なんて止める、いくら子供達が捨てるからと言つて復讐など間違つてる方向だ」

トイマジン「黙れ、貴様には分からない、捨てられし者の恨みや憎しみが」

ジャツカル「……そうか、ならお前に見せてやる、お前を同じ捨てられたものを我はゴブリンドバ―グとアギドでオーバーレイ、人間に捨てられし人形ひとがたよ、怨みたる思いで目的を遂げよ！エクシース召喚！プリンセスコロン」

プリンセスコロン

天使族／エクシース／効果

攻撃力500 守備力2200 ランク4

レベル4モンスター×2

このカードがエクシース召喚に成功したとき墓地のおもちや箱を1体特殊召喚できる。自分フィールド上にこのカードを攻撃対象にできず、カードの効果対象にもできない。また自分フィールド上の通常モンスターが戦闘または効果で墓地へ送られた場合このカードがORUを1つ使い、自分のデッキ・墓地から通常モンスターを1体選択し特殊召喚する

ジャツカル「貴様にも分かるはずだ、プリンセスコロンの気持ちだ」

トイマジン「知らん、そんな奴の気持ちなど」

キユアジェラート「それよりさきさつきから気になってたんだけど、

なんでスケートボードに乗ってんのかな？」

キュアシヨコラ「さあ」

プリンセスコロ「貴方には分かるはずよ、捨てられたおもちや達の怨みや憎しみの声がだけでもう一度信じてみない？人間を」

ダークプリキュア5「喋ったあああ」

ダークルージュ「えっ、何？喋れるの？」

プリンセスコロ「失礼ね、喋れるわよ」

ダークレモネード「なんかすごくかわいい」

プリンセスコロ「ほ、誉めてもなにも出ないわよ、それより話は戻すけどもう一度だけ信じて見て人間を」

トイマジ「黙れ、お前みたい人間にちやほやされて育ったわけではない」

ジャツカル「コロンの言葉も響かないとは復讐に飲まれて遅すぎたか」

トイマジ「目障りな人形が消えろ」

ジャツカル「無駄だ、プリンセスコロンは自分のフィールド上に他のモンスターがいるとき攻撃対象及び効果対象にはならない」

キュアトウインクル「そっか、彼のフィールドには魔轟神レヴュアタンがいる」

キュアアクア「つまりプリンセスコロンは攻撃対象にはならない」

トイマジ「だったらそっちから破壊する」

ジャツカル「くっ、魔轟神レヴュアタンが」

キュアマーマイド「まずいわ、レヴュアタンがいなくなったことにより、プリンセスコロンの攻撃が届くようになってしまう」

トイマジ「これでそいつに届く」

ジャツカル「まずいな、何か召喚しねえと、私のターン魔神アークマキナを召喚」

魔神アークマキナ

悪魔族／効果

攻撃力100 守備力2100 レベル4

①このカード相手にダメージを与えた時に発動できる。自分の手



札・墓地から通常モンスター1体選んで特殊召喚する

キュアホイップ「これなら、またプリンセスコロンは攻撃対象にはならないね」

ジャツカル「我はタタカワナイトを召喚」

タタカワナイト

戦士族／効果

攻撃力1500 守備力0 レベル4

相手のカードの効果によって自分の魔法・罠カードの発動が無効になつた場合、このカードを手札から墓地へ送つて発動できる。相手に1500ポイントダメージを与える

ジャツカル「我はアークマキナとタタカワナイトでオーバーレイ、全てを凍らすドラゴンよ 鋼鉄の体で悪を砕け！エクシーズ召喚！カチコチドラゴン」

カチコチドラゴン

ドラゴン族／エクシーズ／効果

攻撃力2100 守備力1300 ランク4

レベル4モンスター×2

このカードが戦闘で相手モンスターを破壊したときこのカードのORUを1つ使いもう一度だけ攻撃を行う事ができる。この効果は1ターンに1度しか使用できない

ジャツカル「我はリバースカードを3枚セットターンエンドだ」

トイマジン「無駄だ、現れよおもちやども、奴を攻撃しろ」

ジャツカル「罠カード発動星墮つる地に立つ閃こう」

スターダスト・リ・スパーク

スターダスト・リ・スパークは1ターンに1枚しか発動できない。

①特殊召喚された相手モンスター1体の直接攻撃宣言時、そのモンスターが自分のライフポイント以上の場合に発動可能。その攻撃を無効にしてエクストラデッキ・墓地からスターダストモンスターを1体選んで特殊召喚できる。

ダークルージュ「スターダスト・リ・スパーク？」

キュアトウインクル「何か凄そうな効果でもありそうね」

ジャツカル「貴様の特殊召喚されたモンスターの直接攻撃してきたときその攻撃を無効にしてエクストラデッキからスターダストモンスターを1体特殊召喚する、漆黑なる閃光よ、今、太古の記憶を呼び覚ましかの地に降臨せよ！いでよ！閃こう竜スターダスト」

閃こう竜スターダスト

ドラゴン族／シンクロ／効果

攻撃力2500 守備力2000 レベル8

チューナー＋チューナー以外のモンスター1体以上

1ターンの1度自分フィールドに存在する表側表示に存在するカードを1枚選択して選択したカードはこのターンに1度だけ戦闘およびカード効果では破壊されない。この効果は相手のターンでも使用可能

キュアシヨコラ「あれが、決闘竜の1体」

キュアパイン「閃こう竜」

キュアマカロン「スターダスト」

ダークミント「とても綺麗ね」

トイマジン「だけど無駄だ、消えろ」

ジャツカル「レヴュアタンを狙うのだが、閃こう竜スターダストの効果が発動1ターンに1度戦闘および効果では破壊されない」

トイマジン「くっ、愚かな、だが、もう一度は耐えられない」

ジャツカル「確かに、だが罠カード発動ドレインシールド」

ドレインシールド

罠

①相手のモンスターの攻撃宣言時、攻撃モンスター1体を対象としてそのモンスターの攻撃を無効にして攻撃力分回復する

ジャツカル「ドレインシールドの効果で回復する」

トイマジン「くっ」

ジャツカル「我はさらに罠カードマジシャンズナビゲートを発動」

マジシャンズナビゲート

罠

①手札からブラックマジシャン1体を特殊召喚する。その後レベ

ル7以下の魔法使い族 闇属性モンスターを特殊召喚する。②自分  
フィールドにブラックマジシャンが存在する場合、墓地のこのカード  
を除外して相手の表側表示の魔法 罨カードを1枚選択して効果を  
無効にする。このカードが墓地へ送られたターンは発動できない

ジャツカル「我は手札からブラックマジシャンを特殊召喚さらに  
デツキから封印師メイセイを特殊召喚」

ブラックマジシャン

魔法使い族

魔法使いとしては攻撃力 守備力とともに最高クラス

封印師メイセイ

封印の呪符を使いこなす事ができる数少ない人物。その経歴は未  
だに謎に包まれている

ジャツカル「バトル、ブラックマジシャンで攻撃ブラックマジック」  
トイマジン「ぐああああ」

ジャツカル「止めだメイセイ生物封印の呪符」

キュアパイン「プリキュアヒーリングブレア」

ジャツカル「何!!メイセイ!!」

キュアパッション「ちよつとパインどういう事?」

ジャツカル「貴様、敵を庇うとはどういう事だ?」

キュアパイン「ごめんなさい、だけど、トイマジンは悪くはないの、

だからトイマジンを殺さないで」

ジャツカル「・・・」

ダークルージュ「何いつてるのよ、あいつはげんに私達を攻撃して  
るのよ」

キュアパイン「だけど、かつての心があるなら、救ってあげたい」

ジャツカル「(これは・・・エクストラデツキが・・・)分かった、

なんとかしてあいつを救う」

キュアパイン「ありがとうございます、ジャツカルさん」

ジャツカル「あいつを笑顔にする」

トイマジン「笑顔だど?そんなもの怨みに比べては小さいものだ」

ジャツカル「いや、我が必ず笑顔にして見せる」

トイマジン「だまれ（さあ、スターダストの効果を使つてこい）」  
ジャツカル「ブラックマジシャンを破壊してくれてありがとな」  
トイマジン「何!! スターダストの効果を使わなかった!!」

キュアイーグレット「なんでスターダストの効果を使わなかったんですか? もし使つていたら破壊は1度だけ守れたんじゃない」

ジャツカル「いや、これでいい、我はプリンセスコロンの効果を発動、通常モンスターが破壊されたときORUを一つ使いデッキから通常モンスターであるガンロックを特殊召喚」

ガンロック

岩石族

攻撃力1000 守備力1300 レベル4

両肩についてるマシンガンを乱射しながら体当たりしてくる

キュアシヨコラ「そつかだからジャツカルさんはスターダストの効果を使わずにブラックマジシャンを破壊させたんだ、プリンセスコロンの効果を発動するために」

ジャツカル「我は手札からチューナーモンスター氷結界の水影を召喚」

氷結界の水影

水族／チューナー

攻撃力1200 守備力800 レベル2

自分フィールド上に存在するモンスターがレベル2以下のモンスターのみの場合このカードは相手プレイヤーに直接攻撃する

ジャツカル「我はレベル2の氷結界の水影にレベル4のガンロックをチューニング、運命を決める大海原よ、その海底に潜む魚を今、目覚めさせん! シンクロ召喚! 来よ! ホワイトオーラドルフィン白闘気海豚」

白闘気海豚

魚族／シンクロ／効果

攻撃力2400 守備力1000 レベル6

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

①1ターンに1度相手フィールド上の表側表示モンスターを1体選択してそのモンスターの攻撃力はターン終了時まで元々の攻撃力

の半分になる②このカードが相手によって破壊されたときこのカード以外の水属性モンスターを除外してこのカードをチューナー扱いで特殊召喚する

トイマジン 「下らん何を出そうが僕には勝てない、消えろ」

キュアハニー 「ちよつと、白鬨気海豚、すぐやられたわ」

キュアブルーム 「大丈夫なの？」

ジャツカル 「いや、それも我の計算内だ」

トイマジン 「何が計算内だ、ただの強がりにはしか見えないぞ」

ジャツカル 「強がりか、本当にそうか試してやる、我は白鬨気海豚の効果発動、我は氷結界の水影を除外そして白鬨気海豚を復活」

トイマジン 「何!!」

ジャツカル 「我は名工 虎鉄を召喚」

名工 虎鉄

獣戦士族／効果

攻撃力500 守備力500 レベル2

リバーズ 自分のデッキから装備魔法を1枚選択し手札に加える

ジャツカル「確かに、一見はな、我はリバーズカードセットしてターンエンド」

ダークドリーム 「でも意味無いよね」

トイマジン 「そんなんでどう勝つと言うのだ、ただ2体出しただけじゃないか」

ジャツカル 「どうしたトイマジン？怖いのか？」

トイマジン 「ふざけるな、まずはその雑魚かた潰してやる」

ジャツカル「名工 虎鉄を狙うのは確かに正解だけどな、リバーズカード発動、緊急同調」

ダークレモネード 「緊急同調？」

キュアホイップ「あれつてバトルフェイズ中にシンクロ召喚出来るカードだよな、でもチューナーモンスターいないよね」

ジャツカル 「それはどうかな？」

キュアビート「？」

ジャツカル 「我はレベル6白鬨気海豚とレベル2名工 虎鉄を

チューニング 暗黒海に眠る大なる遊魚 今、次元を越え生と死の狭間の時空の海にて現れよ、シンクロ召喚白闘気白鯨<sup>ホワイトオーラホエル</sup>」

白闘気白鯨

魚族／シンクロ／効果

攻撃力2800 守備力2000 レベル8

①このカードがシンクロ召喚に成功したとき、相手フィールドの表側攻撃表示モンスターを全て破壊する②このカードは1度のバトルフェイズ中に2回まで攻撃出来る③このカードが守備表示モンスターを攻撃した場合貫通ダメージを与える④このカードが相手によって破壊されたときこのカード以外の水属性モンスター除外してこのカードをチューナー扱いとして特殊召喚する

キュアムーンライト「シンクロ召喚を行えた？」

キュアハート「どうして？」

ジャツカル「白闘気海豚は破壊されたとき自分の墓地の水属性モンスターを除外してチューナー扱いとして復活する事ができる」

ダークミント「だから、シンクロ召喚が出来たってわけね」

ジャツカル「トイマジン、本当の自分を思い出せ」

トイマジン「ふざけるな、この僕に本当の僕は無い」

ジャツカル「それが貴様の本気か・・・なんて酷い顔だ」

キュアピーチ「そこまで顔は酷くないと思う」

ジャツカル「まあいい、貴様に思い出させてやる、私のデュエルで笑顔をな、行け！白闘気白鯨ホワイトオーラパワー」

トイマジン「そんなのが効くか」

ジャツカル「フルパワーだ、白闘気白鯨」

トイマジン「バカな、僕が」

プリンセスコロシ「思い出して、貴方の本当の願いを」

トイマジン「僕の本当の願い・・・負けたよ、本当に」

ジャツカル「やり過ぎたか」

トイマジン「いてて」

ジャツカル「あれは？」

キュアピーチ「あれがトイマジンの正体です」

ジャツカル「大丈夫か？トイマジン」

トイマジン「大丈夫」

ジャツカル「もう一度人間を信じてみないか？」

トイマジン「もう一度・・・信じてみる」

ジャツカル「そうか・・・なぜ人間を憎むようになったそれだけは聞かせろ」

トイマジン「僕はある少女に捨てられたんだ・・・それで」

ジャツカル「確かにお前の気持ちも分からなくは無いけどさ、持ち主だってあんたが嫌いで捨てたとは思わない、よく大切にしていた物には神様がつくって言うのを聞くがそれをつくも神って言うんだがトイマジンあんたもその一種かも知れん、あんたの持ち主も捨てるのには迷ったはずじゃないのか、だけど何らかの理由があったから捨てざるを得なかった、これだけは言うけど、子供には悪い奴もいるだけだし、全員が全員じゃないんだ、まあ、亡くなった恋人が言った言葉だけだな、我は帰るじゃあな」

トイマジン「待って」

ジャツカル「なんだ？」

トイマジン「ありがとう、あと、プリンセスコロンドっけ？その子にも伝えて、ありがとうって」

ジャツカル「ああ、分かった（いい笑顔だなトイマジン）」

ダークドリーム「なんだろう、涙が出てきた」

キュアドリーム「私も」

キュアジェラート「またジャツカルさんのデュエルで一人笑顔を取り戻したね」

キュアカスタード「そうですね」

## 操られたいちか 進化する星屑の竜

炎「そう言えばジャツカルさんはどこ？」

ゆかり「見てないわ」

いちか「いらつしやいませ、キラパティへ」

奏太「・・・」

ひまり「どうしたんですか？」

奏太「ちよつとね、スケボーを返してもらいに来ただけど」

あおい「？」

ジャツカル「戻ったぞ」

奏太「あの時の、スケボー返してくれるかな」

ジャツカル「スケボー？あそこにあるだろ、まあ、借りたのは助かったぞ」

奏太「あのな、あんたが勝手に」

ジャツカル「口の聞き方には気をつけるガキが」

奏太「なんだと!!」

奏「もう、何よ、朝っぱらから」

ジャツカル「奏、このガキをどうにかしろ」

奏「えっ？何してるの、奏太」

ジャツカル「知り合いか？」

奏「私の弟です」

ジャツカル「ちゃんとしつけとけ生意気すぎだ」

奏太「違うんだ姉ちゃん、僕はただスケボーを」

奏「言い分けはしない、ジャツカルさんに謝りなさい」

奏太「・・・分かったよ、悪かったな」

奏「バカ、奏太、ちゃんと謝りなさい」

奏太「嫌だね」

奏「ごめんなさい、うちの奏太が迷惑かけて」

ジャツカル「全くだ、ちゃんとこいつをしつけとけ」

奏「はい」

炎「いったいなにしたんですか？」



ジャツカル「ちよつとね、スケボーを借りただけだ」

歌音「そうだったんですか」

ジャツカル「それに我は3つの事をやっただけだ、1つ目お前らを守ることに2つ目フェニックスに変わる物を作ること3つ目デュエルディスクを新しくする事だ」

沙羅「そうだったんですか、それで完成したんですか？デュエルディスクは？」

ジャツカル「ああ、お陰さまでな」

早苗「そう言えばフェニックスって？」

ひまり「説明します、フェニックスってのはジャツカルさんのDホイールの名前です、その理由は赤い炎が描かれておりまるで不死鳥のようなのでフェニックスと名付けたようです、ちなみにDホイールというのはジャツカルさんがデュエルで使うバイクの事でシンクロ次元ではDホイールを使ったライディングデュエルを行っているようです、ちなみにDホイールは自動操縦で運転しなくても、自動的に来てくれるのがフェニックスの特徴です、他にも飛行能力や変形能力や自己再生も備えられています」

炎「自己再生や変形能力って本当にバイクなの？」

ジャツカル「そうだ」

沙羅「それって完全に生物かなんかよね」

ジャツカル「よく言われる」

なお「あれっ、みんな」

ジャツカル「なおかどうした？」

なお「れいか見ませんでしたか？」

ジャツカル「いや」

あきら「見てないですけど」

ゆかり「どこかにいると思うわ」

なお「そうですか」

奏太「僕はもう帰るから」

奏「気を付けてね」

その時

マナ「みんな外が」

ジャツカル「外がどうした？」

六花「なんか別の場所に来たらしいの」

ジャツカル「どこだここは？」

歌音「お菓子ばかり」

あきら「キラキラルが多いけど」

ゆかり「どこかしら」

りん「ここって」

かれん「間違いないわ、ここはスイーツ王国」

ジャツカル「つまり別世界って事か、これも次元統合が影響してるのか？」

うらら「分かりません」

ジャツカル「そうか・・・ちよつと見回りしてくる、これでな」

エレン「それは？」

ジャツカル「Dボードと呼ばれるものだそしてこれが新型デュエルディスクだ」

炎「このDボードがジャツカルさんが言ってたDホイールに変わる物ですか？」

ジャツカル「そうだ」

あきら「そう言えばフェニックスは？」

ジャツカル「フェニックスはちよつと壊れたから修理に出してるんだ」

ゆかり「そうだったのね、通りで最近見ないなって思ってたんですよ」

あおい「それより、私達は待ってましようか？」

ジャツカル「そうだな、ゆかりは我と同行それ以外はここに残れ」  
全員「分かりました」

ジャツカル「ゆかりは捕まってる、下手したら落下は免れないからな」

ゆかり「分かったわ」

ジャツカル「じゃっ、行ってくるわ」

あきら「気をつけて」

ジャツカル「ああ」

響「いいなあ、私も乗ってみたかった」

せつな「まあまあ」

きらら「まるでデートね」

みなみ「そうね」

その頃、ジャツカルとゆかりは

ゆかり「ジャツカルさん」

ジャツカル「どうした？」

ゆかり「デュエルディスクも変わったって言っていましたけど、ここが変わったんですか？」

ジャツカル「今まではこうやって手札を持ってたけど、このデュエルディスクは手札を持たないようにすんだんだ」

ゆかり「へえ、それなら楽ね」

ジャツカル「ああ、こうやって画面が出てそのデッキのところに触れば簡単にドロウ出来るわけだ、それ以外にも、デッキの中からカードを選ぶ場合も同じでデッキに触れてそこから選びたいカードを選択し触れるだけだし、映ってる部分になればこうやってスライドさせれば次のところへ行くわけだ」

ゆかり「結構便利なのね」

ジャツカル「Dボードにした理由はDホイールでも行けないところがあつてなそこも行けるようにしたのがDボードだ、他は今までと同じだから、大丈夫だ」

ゆかり「変更点はそこだけなのね、面白いわ」

ジャツカル「まあ、初めは慣れないとは思いますが慣れてけばいいさ、さて戻るぞ」

ゆかり「はい」

その頃、なぎさ達は

なぎさ「暇だ」

ほのか「なぎさだらしないわよ」

なぎさ「そういわれても」

炎「・・・」

麻光「どうしたの、炎ちゃん黙っちゃって」

炎「なにか来る」

ラブ「ジャツカルさん達じゃない？」

炎「ううん、闇の気配」

沙羅「ということは敵って事ね」

炎「うん、間違いないよ」

ムシバーン「見つけたぞ、キュアドリーム」

のぞみ「ムシバーン!!」

あきら「あいつは？」

かれん「あいつはムシバーン、以前、デザート王国を乗っ取り私達

をお菓子にしようとして食べようとしてた奴よ」

きらら「うわっ、趣味悪、あんな奴に食べられたくないわ」

いちか「スイーツが関わってるなら、私達も手伝います」

そう言うと言身する

キュアホイップ「キュアホイップできあがり」

キュアジェラート「キュアジェラートできあがり」

キュアカスタード「キュアカスタードできあがり」

キュアシヨコラ「キュアシヨコラできあがり」

ムシバーン「貴様らもプリキュアだったか、しかもうまそうな名前

だな、まずは貴様らからお菓子にして食ってやる」

その頃、ジャツカルとゆかりは

ジャツカル「この気配・・・」

ゆかり「どうしたの？」

ジャツカル「少しは急ぐか、行くぞ、イーグル」

ゆかり（そのDボードの名前、イーグルにしたのね）

ムシバーン「これで終わりだ、プリキュア」

ジャツカル「魅惑の女悪魔よ 煉獄から生まれし真空管よ 沼地の

王と一つとなり虚無の扉いざ開かん、融合召喚インフェルノイドテイ

エラそして2枚目の融合を発動手札のシャドールハウンドとザリガ

ンを融合、影に潜みし猟犬よ巨大なハサミで獲物をとらえしザリガニ

よ、聖なる渦で一つとなりて墮天使となった天使とやらん融合召喚現れよ、エルシャドールアノマリリス」

インフェルノイドティエラ

悪魔族／融合／効果

攻撃力3400 守備力3600 レベル11

インフェルノイドネヘモス+インフェルノイドリリス+インフェルノイドモンスター1体以上

① このカードは融合召喚に成功したときその融合素材にしたモンスターの種類みよつて以下の効果を得る●3種類以上 お互いはそれぞれ自分のエクストラデッキからカードを3枚墓地に送る●5種類以上 お互いのデッキの上からカードを3枚墓地に送る●8種類以上 お互いはそれぞれ除外されている自分のカードを3枚選んで墓地に戻す●10種類以上 お互いは手札のカードをすべて墓地へ送る

エルシャドールアノマリリス

悪魔族／融合／効果

攻撃力2700 守備力2000 レベル9

シャドールモンスター+水属性モンスター

このカードは融合召喚でのみエクストラデッキから特殊召喚できる①このカードがモンスターゾーンに存在する限り、お互いに魔法罫の効果で手札 墓地からモンスターを特殊召喚できない②このカードが墓地へ送られたとき自分の墓地のシャドールモンスターを1体手札に加える

ムシバーン「貴様、誰だ？」

ジャツカル「我の名はジャツカル、貴様の下らん計画をぶつ潰す者だ」

ムシバーン「俺の計画をぶつ潰すだと面白い」

ジャツカル「貴様ごときにキラキラルは渡さん」

ムシバーン「キラキラル？なんの事だ」

キュアドリーム「気をつけてください、あいつは美味しいお菓子を食べたいって欲望で動いています」

ジャツカル「やはりキラキラルが目的か？」

キュアシヨコラ「うーん、ジャツカルさんが言ってることは会つて  
るようで会ってない気が」

ムシバーン「だからキラキラルってなんだ？」

ジャツカル「黙れ御託はいいさつさと来い」

キュアサニー「あかん、敵との会話が全く噛み合っていない」

ジャツカル「敵との会話が噛み合わないのは当然だろデュエリスト  
なら」

キュアサニー「デュエリストってそう言うもんなん？」

キュアハツピー「さあ」

ジャツカル「やれ、インフェルノイドテイエラ エルシャドールア  
ノマリリス」

ムシバーン「無駄だ」

ジャツカル「くつ、エルシャドールアノマリリス インフェルノイ  
ドテイエラ!!」

ムシバーン「どうした？もう終わりか？」

ジャツカル「我はブンボーグ001を召喚、さらに手札から二重召  
喚を発動、我はかつて神と呼ばれた亀を召喚」

かつて神と呼ばれた亀

水族／効果

攻撃力0 守備力1800

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限りお互いに攻  
撃力1800以上のモンスターは特殊召喚できない

ジャツカル「ブンボーグ001とかつて神と呼ばれた亀でチューニ  
ング、水の力、幻の竜今産み出さん、シンクロ召喚！来よ！シンクロ  
チューナーたつのこ」

たつのこ

幻竜族／シンクロ／チューナー／効果

シンクロ召喚したこのカードをシンクロ素材にして手札のモンス  
ター1体も素材にできる①このカードがモンスターゾーンにある限  
りこのカードはこのカード以外のモンスターの効果を受けない」

キュアシヨコラ「シンクロチューナーということは次のターンにシンクロ召喚する気だね」

ジャツカル「確かに普通なら次のターンでシンクロ召喚って思うが我はこのターンでシンクロ召喚をする」

ダークルージュ「待って、このターンでシンクロ召喚ってモンスターはたつのこしかいないのよ、どうやってするの?」

ジャツカル「なければ作ればいい」

全員「?」

ジャツカル「我はレベル3たつのこにレベル3災いの像をチューニング」

キュアマカロン「待って、災いの像ってフィールドにいないわ」

ジャツカル「ああ、災いの像は我が手札にある、たつのこをシンクロ素材にするとき手札のモンスター1体を使用することができる」

キュアフォーチュン「ということは手札のモンスターでのシンクロ召喚って事ね」

ジャツカル「そう言うことすべてを砕く拳よ、邪悪を砕け!現れよ!マイティウオリアー」

マイティウオリアー

戦士族/シンクロ/効果

攻撃力2200 守備力2000 レベル6

このカードが戦闘によってモンスターを破壊したとき相手モンスターへの攻撃力の半分のダメージを与える

ジャツカル「バトルだ、マイティウオリアーで攻撃」

ムシバーン「ぐああああ、おのれ」

キュアホイップ「あとは私が」

ジャツカル「待て、ホイップ」

ムシバーン「こうなったらこれでもどうだ」

キュアジェラート「?ホイップ?」

キュアカスタード「どうしたんですか?」

ジャツカル「待て行くな」

キュアカスタード「えっ」

ムシバーン「行け、キュアホイップ」

キュアホイップ「分かりました」

キュアメロディ「ホイップどうしたの？」

ジャツカル「洗脳か」

キュアハニー「どういうこと？」

ジャツカル「分からん」

キュアムーンライト「とにかくどうすればいいの？」

ジャツカル「さあな、だが許せんのはドリームお前だ」

キュアドリーム「何ですか？」

ジャツカル「お前分かってたんだろ」

キュアドリーム「わ、分かってました」

ジャツカル「なぜ教えなかった？」

キュアドリーム「何年も前だったので忘れてました、ごめんなさい」

ジャツカル「これからは気をつけろ」

キュアドリーム「はい」

ジャツカル「我は、霸王門零と無限でペンデュラムスケールをセツ

テイング、ペンデュラム召喚レベル2テンタクルプラントレベル2B

F銀盾のミストラル」

銀盾のミストラル

鳥獣族／チューナー

攻撃力100 守備力1800 レベル2

フィールド上に存在するこのカードが破壊されたときこのターン

自分が受ける戦闘ダメージは0になる

テンタクルプラント

植物族

攻撃力500 守備力600

近くに動く者がいれば青いつるを伸ばして攻撃してくる

ジャツカル「我は、レベル2テンタクルプラントと銀盾のミストラ

ルでチューニング、シンクロ召喚！美しき水晶の輝きよ！漆黒の闇を

照らせシンクロチューナー水晶機巧クオンダム」

水晶機巧クオンダム



機械族／シンクロ／チューナー

攻撃力1800 守備力2000 レベル4

チューナー＋チューナー以外のモンスター1体以上

①相手のメインフェイズ及びバトルフェイズに発動できこのカードを含むモンスターをシンクロ素材としてシンクロ召喚する②シンクロ召喚したこのカードが戦闘・効果で破壊されたとき墓地のクリストロンモンスター1体を特殊召喚する

ムシバーン「何をやろうか無駄だ、やれ、キュアホイップ」

キュアホイップ「分かりました」

キュアシヨコラ「ホイップ正気に戻るんだ」

キュアホイップ「・・・」

キュアトウインクル「何を言っても無駄みたい」

キュアマーマイド「どうすればいいの？」

ジャツカル「なんとかして、奴を倒さないと」

キュアアクア「ムシバーン、ホイップを元に戻しなさい」

ムシバーン「ダメだ」

キュアマーチ「どうにかして正気に戻す方法は無いの？」

キュアルージュ「忘れちゃって」

キュアビューティ「困りましたね、迂闊に攻撃は出来ませんし」

ジャツカル（どうにかしてホイップを奴から解放しないと）

その時、謎の光に包まれる

ジャツカル「くそつ、今度はどこだ？いちかをホイップを救わなければならぬのに」

不動遊星「君がジャツカルか？」

ジャツカル「あんたは？」

不動遊星「俺は不動遊星」

ジャツカル「なぜ俺の事を知っている？」

不動遊星「クロウから聞いた」

ジャツカル「クロウから？」

クロウ「久しぶりだな、ジャツカル」

ジャツカル「クロウ」

クロウ「あの、いちかって女の子を救いたいんだろ？」

ジャツカル「ああ、だがムシバーンって野郎の洗脳能力が強すぎる」  
ジャツク・アトラス「下らん、そのムシバーンだがなんだか知らんが、貴様もキングなら自分のデツキを信じる貴様の持つスターダストやレッドデーモンズドラゴンが泣いているぞ」

ジャツカル「我のデツキのスターダストやレッドデーモンズドラゴンが」

十六夜アキ「少し説教染みちゃうけど私達チーム5Dsは仲間の力が会って戦ってこれたそして自分のデツキを信じて戦うことが出来た」

ジャツカル「我の仲間」

龍可「あなたもシグナーの龍を受け継いでるなら必ずそのムシバーンって奴を倒せるはずよ」

ジャツカル「シグナーの龍？スターダストドラゴン達の事か？」

龍可「そうだよ、スターダストドラゴン レッドデーモンズドラゴン ブラックフェサードラゴン ブラックローズドラゴン エンシエントフェアリードラゴン パワーツールドラゴンの事」

ジャツカル「そっか」

ブルーノ(アンチノミー)「君も限界を超えたシンクロ召喚が出来るならこんなところで諦めるな」

ジャツカル「そっか・・・そうだよな、そう言えばクロウと遊星以外名前を聞いてなかったな」

ジャツク・アトラス「俺はジャツク・アトラスだ」

十六夜アキ「十六夜アキよ」

龍可「龍可よ、よろしく」

龍可「龍可だよ」

ブルーノ(アンチノミー)「僕はブルーノ、いやアンチノミーどっちでもいい」

ジャツカル「そっか、絆を信じればいちかだつて救える・・・か、よっしゃ、いっちよ、ムシバーンをぶっ飛ばしてくるか」

ジャツク・アトラス「そうだ、貴様もキングなら必ず立ち上がれそ

してムシバーンって野郎をぶっ飛ばせ」

十六夜アキ「貴方なら必ずそのいちかちゃんって娘を救い出せるわ」

龍亜「そうだよ、だから諦めないで」

龍可「絶対救えるわ、貴方の力なら」

クロウ「そうだけ、そのムシバーンって野郎の呪縛から仲間を救い出してやれ」

ブルーノ（アンチノミー）「君なら必ず、倒せる、新たな窮地に達する事が出来る」

不動遊星「そうだ、俺達は見ていた君の今までの戦いを、そしてあのゆかりって娘がやったアクセルシンクロを使うんだ、君のフィールドにはシンクロチューナーの水晶機巧クオンダムと非チューナーのマイティウオリアーがいる」

ジャツカル「ああ、任せろ、我が今こそ新たな力を手に入れる、さて行ってくるか、ありがとな」

不動遊星「ああ、必ず救ってあげるんだぞ」

ムシバーン「貴様らもこれで終わりだ、止めをさせキュアホイップ」

キュアマカロン「ここまでとはね」

キュアシヨコラ「さすがに無理みたい」

その時

ジャツカル「ムシバーン、貴様の悪事もそこまでだ」

ムシバーン「何!!」

ジャツカル「貴様に見せてやるぜ、アクセルシンクロを」

キュアマカロン「アクセルシンクロ!!」

キュアシヨコラ「やるのねアクセルシンクロを」

ジャツカル「遊星、ジャツク、クロウ、龍可、アキ、龍亜そしてブルーノ、お前達が仲間を信じたように我も仲間を信じ自分のデツキを信じる）行くぞ、ムシバーン、我はレベル6マイティウオリアーにレベル4水晶機巧クオンダムをチューニング、希望の閃光に紡がれし願い 絆の力が新たな力と姿を生み出さんアクセルシンクロオオオオオオオオオ」

ムシバーン「何!!消えただと奴はどこに!!」

キュアホイップ「この光は・・・」

キュアジェラート「とても暖かい」

ジャッカル「我が元に来よ真閃こう竜スターダストクロニクル」

真閃「こう竜スターダストクロニクル」

ドラゴン族／シンクロ／効果

攻撃力3000 守備力2500 レベル10

シンクロモンスターのチューナー＋チューナー以外のモンスター1体以上

このカードはシンクロ召喚でしか特殊召喚できない①1ターンに1度、自分の墓地のシンクロモンスター1体を除外してこのカードはターン終了時まで他のカードの効果を受けない。この効果は相手ターンでも使用可能②このカードが相手によって破壊されたとき除外されている自分のドラゴン族シンクロモンスターを1体特殊召喚する

ムシバーン「バカな、俺の洗脳を解除したと!!」

キュアホイップ「私は、いったい、それにあの竜は」

キュアジェラート「ホイップ正気に戻ってよかった」

キュアカスタード「あれは真閃「こう竜スターダストクロニクルです」

キュアホイップ「スターダストクロニクル?」

キュアマカロン「ジャッカルさんがアクセルシンクロをして生み出された竜よ」

ジャッカル「貴様にきく」

ムシバーン「なんだ?」

ジャッカル「貴様はなんのために次元統合を使用とする?」

ムシバーン「そんなのは俺がお菓子を・・・お菓子を食えばいい」

ジャッカル「下らん、そんなもの俺のいや俺達の希望の力で打ち砕いてやる、このスターダストクロニクルで」

ムシバーン「貴様もキュアドリームと同じ事を言うのか、愛だの勇気だの希望だの下らない」

ジャツカル「下らねえか、好きなかだけ言えいいだがなムシバーン、下らねえのは貴様の野望だ、それに貴様は我を怒らせた、下らねえ理由でホイップを操り自分勝手な理由で次元統合をする……懺悔の用意は出来ているか？ムシバーン!!」

ムシバーン「懺悔だと？懺悔するのは貴様らの方だ」

ジャツカル「そうか……なら仕方ない、貴様にはスターダストクロニクルでぶっ潰す、行けスターダストクロニクルシャイニングメテオミラージュアタック閃光流星残像撃」

ムシバーン「バカな、この俺がぐああああ」

ジャツカル「くたばれくそつたれが、ターンエンド」

キュアマカロン「すごい」

キュアドリーム「私達があればほど苦戦したムシバーンを」

ミルキイローズ「たった一撃で」

ジャツカル「我は戻るからな」

キュアシヨコラ「ま、待ってください、ジャツカルさん」

## サラマンダー男爵の力 強力なCNO

沙羅「ねえ、ジャツカルさん見なかった？」

早苗「見てないわよ」

歌音「私も見てないよ」

麻光「あつ、なんか、あきらさんと舞さんとどこかへ行ったよ」

ポイズニー「そう言えば、買い物行ってくつて言つてたわ、確かDボード？その部の部品に一部ミスがあつたらしくて買いにね、多分、このスーパーにいると思うわ」

沙羅「あつ、そう行つてくる」

その頃、ジャツカルと舞とあきららは

ジャツカル「確かこの辺りに売つてたはずだが・・・あつた」

舞「でもなんでミスなんかしたんですか？」

ジャツカル「俺も記憶に無いんだよね」

舞「そうですか？」

ジャツカル「夕飯でも買つてくか？」

あきら「はい」

舞「えつと魚はつとあつた」

あきら「舞さん」

舞「はい？」

あきら「誰かお酒入れた？」

舞「入れてないけど」

あきら「あとで戻してくるかな」

そして20分後

ジャツカル「終わったか？」

舞「今日はお刺身ですよ」

ジャツカル「刺身か、いいな・・・あれっ？」

あきら「どうしました？」

ジャツカル「中に入つてた酒どうした？」

あきら 舞「えっ」

ジャツカル「なんだ？そのえつって」

あきら「あれ、ジャツカルさんが入れたんですか？」

ジャツカル「そうだが」

舞「すみません、戻しちゃいました」

ジャツカル「なんで？」

あきら「私達未成年ですから」

ジャツカル「・・・取ってくる」

そして20分後

あきら「というかジャツカルさんってお酒飲めたんですね」

ジャツカル「んっ？知らなかったのか？」

舞「初耳です」

ジャツカル「ほら、これが証拠だ」

あきら「あっ」

沙羅「ジャツカルさん」

ジャツカル「沙羅、どうした？」

沙羅「その私、すみません」

ジャツカル「？」

沙羅「Dホイルのパーツ壊しちゃいました」

ジャツカル「ああ、これ？別に使わないものだったから、大丈夫」

沙羅「そうだったんですか、よかった、私が壊しちゃったと思いました」

そしてキラパティ

沙羅「ご飯出来ましたよ」

ジャツカル「そうか、今行く」

そして食事開始20分後

ジャツカル「最近雑魚ばっかで嫌になる、もっと強い奴はおらんのか」

響「えっ、えっ、ジャツカルさんどうしたんですか？」

あきら「彼、酔ってるわね」

ひまり「そうなんですか？」

舞「だって彼飲んでるのお酒なもの」

沙羅「ジャツカルさんってお酒飲めたのね」

ポイズニー「ジャツカルさんって酔うとああなるんだ」  
ゆかり「ふふふ、面白いわね」

あかね「なんでや」

ジャツカル「よっしゃ、敵の気配じゃあ、さっさと潰しに行くぞ」  
奏「あつ、ちよ、ジャツカルさん」

そして20分後

サラマンダー男爵「プリキュア出てこい」

キュアブロッサム「そこまでですサラマンダー男爵」

サラマンダー男爵「来たか、キュアブロッサムそして・・・誰だ？  
貴様ら」

キュアドリーム「私達もプリキュアよ」

サラマンダー男爵「貴様らもか」

キュアジェラート「目的はなんだ、次元統合か」

サラマンダー男爵「次元統合？そんなのは興味ない、俺はデューン  
やプリキュアに復讐し心を満たすだけだ」

キュアマカロン「そんなことのために街を」

キュアメロディ「絶対に」

ジャツカル「おい、うっせえぞおっちゃん」

キュアビート「ちよつと無理しないでくださいよ」

サラマンダー男爵「貴様、今、俺に対しておっちゃんだと？」

ジャツカル「聞こえなかったのか？もう一度言ってやろうか？」

キュアパッション「ちよつと落ち着いて」

キュアサニー「あかん酔ってる勢いで戦闘体制になってるやん」

キュアマカロン「ますます面白いわ」

キュアルージュ（ダメだ早くゆかりさんをなんとかしないと）

ジャツカル「さっさと来いよ、おっちゃん」

サラマンダー男爵「貴様、一度にならず二度もゆるさん」

ジャツカル「あー、沈め」

サラマンダー男爵「なんだと!!」

キュアサンシャイン「す、すごい」

キュアアキラ「一撃」



ダークミント「というか、今、デュエルディスクでやったよね」  
ジャツカル「もつと楽しませてよ」

サラマンダー男爵「このクズ野郎が」

ジャツカル「クズの一言でカードを否定する貴様などデュエリストを名乗る資格は無い」

キュアサニー「せやからデュエリストちやうでそいつ、あとカードを否定したのとはちやうと思う」

ジャツカル「腐った野郎だ」

全員「・・・」

ジャツカル「どうした？」

ダークレモネード「あつ、いや、何でも」

キュアマーマイド「ねえ、ジャツカルさんあいつ死んでんじやない？」

ジャツカル「あいつがこの程度で死ぬか、生きてるよ、せつかく強い奴と戦えると思つてたんだがな」

キュアホイップ「なんだろう、酔つててもいつものジャツカルさんだ」

キュアトウインクル「というか、ジャツカルさん完全にデュエルディスクで殴つてましたよね、壊れてませんか？」

ジャツカル「大丈夫だ、問題ない」

キュアロゼッタ「あの」

ジャツカル「なんだ？」

キュアロゼッタ「ちゃんとデュエルしてくださいな」

ジャツカル「したじゃんデュエル（物理）を」

キュアロゼッタ「いえ、そう言う意味じゃ」

サラマンダー男爵「おのれ、貴様」

ジャツカル「なんだまだ生きてたのかおつちやん」

サラマンダー男爵「貴様、お前を始末する」

キュアアクア「そうはいかないわ、プリキュア・アクアトルネード」

キュアハート「マイスイートハート」

キュアブラック キュアホワイト「プリキュア・マールスク

リユーマックス」

サラマンダー男爵「無駄だ」

ジャツカル「我は霸王門零と無限でペンデュラムスケールをセツティング、ペンデュラム召喚EHEROエツジマン ブラックマジシャン」

EHEROエツジマン

戦士族／効果

攻撃力2600 守備力1800 レベル7

①このカードが守備表示モンスターを攻撃した場合守備力が攻撃力が越えていた場合、貫通ダメージを与える

ジャツカル「行くぞ、エツジマンとブラックマジシャンでオーバーレイ赤き眼を持つ竜よ 鋼鉄の力を得てすべてを倒せ！来い！  
レッドアイズフレアメタルドラゴン  
真紅眼の鋼炎竜」

真紅眼の鋼炎竜

ドラゴン族／エクシーズ／効果

攻撃力2800 守備力2400 ランク7

レベル7モンスター×2

①ORUを持ったこのカードは効果では破壊されない②ORUを持ったこのカードがモンスターゾーンに存在する限り相手が魔法罫を使う度に相手に500のダメージを与える③1ターンに1度このカードのORUを1つ使い自分の墓地のレッドアイズ通常モンスターを1体特殊召喚する

ジャツカル「かかってこいや」

サラマンダー男爵「おのれ、貴様」

ジャツカル「行け真紅眼の鋼炎竜デスメガフレア」

キュアハニー「なんだろう、いつもと変わらない気がする」

ジャツカル「こいつでも食らいやがれ」

サラマンダー男爵「無駄だ」

ジャツカル「真紅眼の鋼炎竜!!」

キュアスカーレット「レッドアイズフレアメタルドラゴンが」

キュアシヨコラ「破壊された」

ジャツカル「バカめ計画通りだ」

キュアマカロン「彼すごい酔ってるわね、いつもよりテンションMAXだし」

キュアパッション「計画通りって言うてるけど酔ってるからじゃないよね」

キュアプリンセス「多分ね」

ジャツカル「我は、儀式魔法レッドアイズトランスマイグレーション発動」

レッドアイズトランスマイグレーション

儀式

ロード・オブ・ザ・レッドの降臨に必要な①自分の手札・フィールドからレベルの合計が8以上になるようにモンスターをリリースまたは墓地のレッドアイズモンスターを除外し手札からロード・オブ・ザ・レッドを儀式召喚する

キュアシヨコラ「あれは儀式魔法」

キュアジェラート「確か以前はローガーディアンってモンスターだったよね、今回はなんだろう」

ジャツカル「いいこと教えてやる、儀式召喚にはフィールドまたは手札のモンスターをリリースすることで特定のモンスターを呼び出す」

サラマンダー男爵「ということはフィールドにいないってことは手札からか」

ジャツカル「いや、手札にはモンスターは1枚も無いあるとすればこのカードで召喚されるモンスターだけだ」

サラマンダー男爵「バカか、だったらなんのために出した」

キュアフローラ「確かにね、それじゃあ儀式召喚は出来ないじゃない」

ジャツカル「それはどうかな、一ついいものを見せてやる、赤き炎に包まれし竜よ、新たな姿に生まれ変われ！儀式召喚！来いロード・オブ・ザ・レッド」

サラマンダー男爵「なんだと!!」

キュアマリン「手札にモンスターが無いって言っておいて儀式召喚って」

キュアラブリー「どういうこと?」

ジャツカル「レッドアイズトランスマイグレーションにはもう一つの効果がある、それは、手札またはフィールドのモンスターをリリースする以外にも墓地のレッドアイズモンスターを除外するだけではないのだ」

サラマンダー男爵「だが貴様の墓地にレッドアイズモンスターは・・・まさか!!」

ジャツカル「そうだ貴様が破壊してくれた真紅眼の鋼炎竜だ」

キュアブロッサム「確かにね、レッドアイズフレアメタルドラゴンもレッドアイズモンスターです」

キュアカスタード「つまり効果は有効ってことですね」

キュアマーチ「確かにそこまで計算してレッドアイズフレアメタルドラゴンを墓地に送るなんて思わなかった」

キュアビューティ「確かに酔ってるとは思えません」

サラマンダー男爵「そこまで計算してさっきのレッドアイズフレアメタルドラゴンをわざと破壊させたのか?」

ジャツカル「今ごろ気づいたの、遅いよ」

サラマンダー男爵「おのれこの俺をよくも罠にかけよったな」

ジャツカル「騙される方が悪いんじゃない」

サラマンダー男爵「ふざけるな、消えろ」

ジャツカル「ロード・オブ・ザ・レッド!!」

サラマンダー男爵「所詮、貴様らでは俺には勝てない」

ジャツカル「お前は勘違いをしている」

サラマンダー男爵「なんだと!!」

ジャツカル「我は、ペンテュラム召喚来い巨大戦艦カバードコア  
巨大戦艦ビッグコアMkII 巨大戦艦ビッグコアMkIII

巨大戦艦カバードコア

機械族／効果

攻撃力2500 守備力800 レベル7

このカードの召喚時にカウンター2つ置く。このカードは戦闘によつては破壊されない。戦闘を行った場合、ダメージステップ時にコイントスで裏表を当て。ハズレのカードのカウンターを1つ使う。カウンターの無い状態で戦闘を行った場合ダメージステップ終了時にこのカードを破壊する

巨大戦艦ビッグコアMkII

機械族／効果

攻撃力2400 守備力1100 レベル6

このカードが特殊召喚に成功したときこのカードにカウンターを3つ置く。このカードは戦闘では破壊されない。このカードが戦闘を行った場合、ダメージステップ終了時にこのカードに乗っているカウンターを1つ使う。このカードがカウンターの無い状態で戦闘を行った場合ダメージステップ終了時にこのカードを破壊する。自分のフィールド上にモンスターが存在しない場合このカードはリリース無しで召喚する事ができる

巨大戦艦ビッグコアMkIII

機械族／効果

攻撃力2700 守備力1900 レベル8

①相手フィールドにモンスターが存在し自分のフィールドにモンスターが存在しない場合、このカードは手札から守備表示で特殊召喚出来る。②このカードは召喚 特殊召喚に成功したときこのカードにカウンターを3つ置く③このカードは戦闘では破壊されない④このカードが戦闘を行ったダメージステップ終了時にこのカードのカウンターを1つ使う。カウンターが無くなったらこのカードを破壊する⑤墓地のこのカードを除外して自分の墓地の巨大戦艦モンスターをすべてデッキに戻す

ジャツカル「あとさ、ここじゃやりにくいから、フィールドチェンジだ」

キュアシヨコラ「ということは来るのね、あれが」

キュアイーグレット「あれですか？」

キュアマカロン「まあ見てれば分かるわ」

キュアカスタード「初めは驚きますよ」

キュアハート「？」

サラマンダー男爵「面白い、フィールドチェンジだと、いいだろう」  
ジャツカル「そうか・・・フィールド魔法巨大要塞ゼロス発動」

巨大要塞ゼロス

フィールド魔法

①このカードの発動時の効果処理としてデッキからボスラッシュを1枚手札に加える②自分フィールドの巨大戦艦は相手の効果対象にならず効果では破壊されない③1ターンの1度自分のメインフェイズに手札から巨大戦艦モンスターを1体特殊召喚する④自分フィールドに巨大戦艦モンスターが召喚 特殊召喚されたときそのモンスターに自身の効果で使用するカウンターを1つ置く

キュアダイヤモンド「なにこれ!!」

キュアソード「要塞だよね」

キュアブルーム「いきなり要塞が出てきた」

キュアカスタード「説明します、これはフィールド魔法って言うってモンスターに与える自分の強化や相手の弱体化または強化はせずにサポートだけのものもあります、ちなみに今回の場合はフィールドの張り替えていいいます」

ダークルージュ「つまり、この巨大要塞ゼロスってフィールドも何か特殊な効果を持つてるって事ね？」

ジャツカル「巨大要塞ゼロスはまずはボスラッシュを手札に加える効果、巨大戦艦の攻撃力 守備力を500アップの強化、そして巨大戦艦を特殊召喚する効果最後に巨大戦艦モンスターにカウンターを増やす効果の4つだ」

サラマンダー男爵「おのれこざかしい」

ジャツカル「無駄だ、巨大戦艦どもは戦鬪では破壊されない」

サラマンダー男爵「おのれこうなったら、うおおおお」

ダークアクア「姿が」

ダークドリーム「変わった」

ジャツカル「ならば」

その時

バッドエンドハッピー「バッドエンドシャワー」

ジャツカル「何!!」

キュアハッピー「あれはバッドエンドプリキュア!!」

バッドエンドピース「あははは、久しぶり」

バッドエンドサニー「あの時の礼はじっくりとさせてもらおうで」

バッドエンドビューティ「貴方に負けるなど美しくない」

バッドエンドマーチ「どうせ構わないよ全員ぶっ潰すから」

ジャツカル「やれやれ、お陰で酔いが覚めたぜ、いいぜ、まとめて相手してやる」

ダークルージュ「待って」

ジャツカル「どうした？」

ダークルージュ「私は貴方を守りたい、貴方は私たちに心を教えてくれたそして笑顔をだから彼女達も笑顔にしてあげて」

ジャツカル「わかった・・・んっ？これは・・・ダークルージュお前の願いが新たなCNOを生み出した、こいつはお前が呼べ」

ダークルージュ「分かりました」

ジャツカル「我は、罨カードシャドール影依の原核を発動」

影依の原核

このカードは発動後効果モンスター（魔法使い族・闇・レベル9・攻撃力1450 守備力1950）となりモンスターゾーンに特殊召喚する。この効果で特殊召喚されたときこのカードはシャドール融合モンスターカードに記された属性の融合素材の代わりに出来る。このカードは罨カードとしても扱う②このカードが効果で墓地に送られた時影依の原核以外の自分の墓地のシャドール魔法 罨カードを1枚手札に加える

サラマンダー男爵「貴様らこの俺を忘れるとはいいい度胸だな」

ジャツカル「そうだったな、お前を先にぶっ潰さないと、ペンデュラム召喚来い真竜剣士マスターピース」

真竜剣士マスターP

ドラゴン族／効果

攻撃力2950 守備力2950 レベル9

このカードは通常召喚出来ない。自分フィールドの竜剣士マスターPと竜魔王モンスターを1体づつリリースした場合のみ特殊召喚出来る①1ターンに1度魔法 罨 モンスター効果が発動されたときその発動を無効にして破壊する②フィールドのこのカードが相手によって破壊されたときデッキから竜剣士と竜魔王モンスターを1ずつ特殊召喚する

ジャツカル「我は、影依の原核と真竜剣士マスターPでオーバーレイ運命を司る巨大な星よ、その力で地上を焼き払えエクシーズ召喚、出でよNo.9天蓋星ダイソンスファイア」

天蓋星ダイソンスファイア

機械族／エクシーズ／効果

攻撃力2800 守備力3000 ランク9

レベル9モンスター×2

ORUを持つてるこのカードが攻撃されたバトルステップ時に1度だけ攻撃を無効にする。このカードがORUが無い状態で攻撃対象にされたとき自分の墓地のモンスターを2体選んでORUにする。また、このカードより攻撃力が高いモンスターが相手フィールドに存在するときメインフェイズ1にORUを1つ使いこのターンこのカードは相手プレイヤーに直接攻撃出来る

サラマンダー男爵「なんだ、あれは!!」

キュアシヨコラ「あれがダイソンスファイア」

キュアジェラート「大きすぎる」

ジャツカル「ダークルージュ、こいつを使い」

ダークルージュ「分かりました、私はRUMアージェントカオスフォースを発動」

RUMアージェントカオスフォース

魔法

自分のフィールド上のランク5以上のエクシーズモンスター1体を選択して発動できる。選択したモンスターよりランクの1つ高いCN。またはCXと名のついたモンスターを自分のモンスターに重



ねてエクシーズ召喚扱いとして特殊召喚する。またこのカードが墓地にあつてランク5以上のエクシーズモンスターが特殊召喚されたときこのカードを墓地から手札に戻す。この効果はデュエル中に1度しか使えない

キュアサニー「ダイソンスファイアをランクアップってさらに大きくなるって事なんか」

ダークルージュ「私はダイソンスファイアでオーバーレイ、混沌の星よ、地上のすべてを焼き払今こそ勝利を我が手にカオスエクシーズチエンジ現れよCN09天蓋妖星カオスダイソンスファイア」

CN09カオスダイソンスファイア

機械族／エクシーズ／効果

攻撃力3600 守備力3200 ランク10

レベル10モンスター×3

このカードが相手モンスターと戦闘を行う場合ダメージ計算を行わずこのカードのORUにすることが出来る。1ターンの1度このカードのORUの数×300ダメージを相手に与える。またこのカードが天蓋星ダイソンスファイアをORUにしているとき以下の効果を得る●1ターンの1度このカードのORUを任意の数使用しその数×800のダメージを与える

サラマンダー男爵「バカな!!」

キュアイーグレット「さらに大きくなった」

キュアハート「ちよつと大きすぎるけど、胸がキュンキュンだよ」

ダークルージュ「このまま行くよ、カオスダイソンスファイアで攻撃」

サラマンダー男爵「そんなことしても俺には・・・なんだとバカな

この俺が押されてるだと、ぐあああああ」

バッドエンドハッピー「やるじゃん」

ダークルージュ「あとはお願ひします」

ジャッカル「ああ、あいつらを絶対に笑顔にして見せる」

バッドエンドサニー「うちらを笑顔？」

バッドエンドピース「無理無理」

バッドエンドハッピー「笑顔なんて下らないよ、私が幸せならそれ

でいいの」

ジャツカル「そうかな？まあいいが、我は、魔轟神ウルストスを召喚」

魔轟神ウルストス

悪魔族／効果

攻撃力1500 守備力200 レベル4

自分の手札が2枚以下の場合自分のフィールド上に表側表示で存在する魔轟神モンスターの攻撃力は400ポイントアップする

ジャツカル「我は、リバース3枚セットしてターンエンド」

バッドエンドハッピー「それで終わり」

バッドエンドマーチ「ここは私に任せてもらえるかな？あんな大したことのない奴私、一人で十分、バッドエンドシユート」

ジャツカル「しまった!!」

バッドエンドマーチ「魔轟神ウルストスだっけ？撃破」

バッドエンドサニー「なんやほんまに大したことあらへんな」

ジャツカル「貴様らに一つマジツクを見せてやる、確かに普段なら破壊され墓地へ行くがこの場合はどうかかな」

バッドエンドビューティ「一体何を」

ダークアクア「待って、あそこ」

バッドエンドハッピー「あれっ、何で？」

バッドエンドピース「すごいすごい（あれっ？今の私楽しんでる）」

キュアマカロン「ウルストスは破壊されたはずじゃ」

ジャツカル「残念だったなトリックだよ、我は、時の機械タイムマシーンを発動した」

時の機械タイムマシーン

罨

自分または相手モンスターが戦闘で墓地に送られた時、そのモンスターをそのコントローラーのフィールドに同じ表示形式でそのモンスターを特殊召喚する

バッドエンドマーチ「そんなカード伏せてたんだ、すごいじゃない」

バッドエンドサニー「なんや、二人とも楽しんでんやん」

バッドエンドマーチ「確かに私たち楽しんでる）なんだか知らないけど、見てると楽しくなってる」

キュアピース「バッドエンドピースとバッドエンドマーチが笑顔に」

バッドエンドサニー「くだらへん、うちに笑顔は必要ないで、バッドエンドファイヤー」

バッドエンドビューティ「行きます、バッドエンドブリザード」

ジャツカル「まずい、ウルストス!!だが罨カードハーフォーストツプ発動」

ハーフォーストツプ

罨

相手のバトルフェイズ時のみに発動可能相手は次の効果から選ばなければならぬ●バトルフェイズ終了時まで自分フィールドに存在するすべてのモンスターの攻撃力を半分にする●バトルフェイズを終了する

ジャツカル「貴様に選択権をやる。バトルを終了するか、もしくは仲間もろとも自分の攻撃力を半分にするか」

バッドエンドビューティ「くっ、バトル終了を選びます」

ジャツカル「私のターンドロ・・・もつと美しい場所に案内してやる、我は、フィールド魔法スターライトジャンクションを発動」

スターライトジャンクション

フィールド魔法

スターライトジャンクションの①②の効果はそれぞれ1ターンに1度しか使えない①自分のフィールドのチューナー1体をリリースしてリリースしたモンスターと異なるシンクロンモンスターをデッキから1体特殊召喚する」

②相手のターンに自分がエクストラデッキからシンクロンモンスターを特殊召喚した場合フィールドのカードをそのカードを持ち主のデッキに戻す

バッドエンドビューティ「美しいわ」

バッドエンドサニー「確かにな」

バッドエンドハッピー「私たちいつの間にか笑顔になってる」  
ジャツカル「これでラストだカオスダイソンスファイアで攻撃」  
バッドエンドハッピー「これで終わりね」  
バッドエンドピース「まあ楽しめたからいいけど」  
バッドエンドマーチ「そうだね」  
ジャツカル「勝ったし帰って寝るか」  
バッドエンドハッピー「待って」  
ジャツカル「なんだ」  
バッドエンドハッピー「私たちも仲間に入れて」  
ジャツカル「・・・好きにしろ」

## 恐怖！暗黒方界邪神降臨

満「そう言えば、ジャツカルさんはどこにいったの」

舞「なんかバッドエンドハッピー達を教育してるわよ」

薫「彼も大変そうね」

満「まあ、私たちも彼のデュエルを見て笑顔を取り戻したし」

その頃、ジャツカルは

ジャツカル「一応、教育は終わりだ」

バッドエンドプリキュア5人「ありがとうございます」

ジャツカル「そうだ、お前達に新たな名前をあげなきゃな、まずはバッドエンドビューティ是水嶋青葉でバッドエンドマーチは七瀬緑里バッドエンドピースは霜村雷華バッドエンドサニーは川上明里バッドエンドハッピーは北村桜だ、以上」

川上明里（バッドエンドサニー）「しかし、新しい名前ええやな」

水嶋青葉（バッドエンドビューティ）「しかし、雷華って名前初めてです」

霜村雷華（バッドエンドピース）「私も聞いたことないよ」

炎「あれっ、もう終わったの？」

北村桜（バッドエンドハッピー）「はい、新しい名前も貰いました」  
麻光「よかったじゃない」

霜村雷華（バッドエンドピース）「私は霜村雷華よろしく」

川上明里（バッドエンドサニー）「川上明里や、宜しくな」

水嶋青葉（バッドエンドビューティ）「水嶋青葉です宜しく」

七瀬緑里（バッドエンドマーチ）「七瀬緑里だよ」

北村桜（バッドエンドハッピー）「北村桜です」

歌音「いい名前じゃない」

あきら「新しい名前貰ったんだね、よろしく」

北村桜（バッドエンドハッピー）「はい」

ゆかり「うふふ、よろしくね、えっと」

北村桜（バッドエンドハッピー）「北村桜です」

ゆかり「よろしく」

川上明里（バッドエンドサニー）「何してんねん、桜」

北村桜（バッドエンドハッピー）「明里ちゃん、ううん、ちよつとね」  
早苗「なんか楽しそうね」

あかね「なあ、ちよつとええか？」

ゆかり「どうしたの？」

あかね「ひまりちゃん、どこ言ったか知らへんか？」

ゆかり「知らないわ」

あきら「そう言えば、ひまりちゃんはスイーツの材料を買いに行つたけど」

歌音「あかねちゃんに言つてたよ」

川上明里（バッドエンドサニー）「ちゃんと話聞かへんとダメやろ」

あかね「誰？あんだ？」

川上明里（バッドエンドサニー）「ちゃんと自分の分身を忘れるなんて酷ないか？」

あかね「まさか、あんだバッドエンドサニーなんか？」

川上明里（バッドエンドサニー）「今は川上明里つて名前やけどな」

七瀬緑里（バッドエンドマーチ）「ダメだよ明里、オリジナルをからかつちゃ」

水嶋青葉（バッドエンドビューティ）「そうですよ」

川上明里（バッドエンドサニー）「せやけどな、事実やし」

霜村雷華（バッドエンドピース）「あははは、自分をおちよくるの楽しい」

やよい「何するの？」

霜村雷華（バッドエンドピース）「酷いなあ私の事もう忘れたの？」

やよい「あなたはバッドエンドピース？」

霜村雷華（バッドエンドピース）「そうだよ、今は霜村雷華だけどね」  
その時

アフロディテ「あの」

あきら「はい」

アフロディテ「ちよつと聞きたいことが」

あきら「なんでしよう」

アフロディテ「アコは今どこに？」

あきら「いえ、分からないです」

エレン「アフロディテ様？」

あきら「エレンさん、知り合いですか？」

エレン「ええ、アコちゃんの母親でメイジャーランドの女王のアフロディテ様」

ゆかり「えつと女王様って事は」

あおい「アコさんはお姫様って事よね」

アフロディテ「そうです」

ジャツカル「戻ったぞ・・・この方は？」

アフロディテ「私はアフロディテメイジャーランドの女王です」

ジャツカル「女王様ねえ、我が名はジャツカル、よろしく、女王様」

アフロディテ「こちらこそ」

ジャツカル「・・・(貴様誰だ？貴様からは闇の気配を感じる、我は闇の気配にはとても敏感でね、さつさと正体を現した方がいいぞ)」

アフロディテ？(貴様には、隠せないようだな、そうだ、俺はこの女の体に乗っ取っているのだ)

ジャツカル(さつさと正体を現した方がいいぞ、さもなければ貴様をその体から引きづりだすまえにな)

あきら「どうしたんですか？ジャツカルさん」

ジャツカル「ちよつといいか？」

あきら「はい」

ジャツカル「あのアフロディテって女王様から闇の気配を感じる」  
あきら「どういう事ですか？」

ジャツカル「分からないが、闇の中に一つの光おそらくそつちが彼女の本当の意味多分、何者かに憑依されてるんだと思う」

響「アフロディテ様、どうしてここに？」

アフロディテ「ちよつと、アコの事が心配でね」

奏「じゃあ、アコちゃんの様子を見る」

アフロディテ「ええ、私の娘ですから」

その時、斬撃が放たれる

響「えっ、何？」

ジャツカル「よくやった左京」

極刀の武者 左京

戦士族／ペンデュラム

攻撃力2900 守備力2600 レベル7 スケール10

ペンデュラム効果 1ターンに1度自分のモンスターゾーン  
の戦士族ペンデュラムモンスター3体を除外して自分のモンスター  
ゾーンのペンデュラムモンスター1体を選択する。このターンそのモ  
ンスターが直接攻撃で相手のライフを0にしたとき自分はマツチに勝  
利する

夢現の闘宴は終に決す。強者は勝鬨の声を上げよ

響「ちよつとジャツカルさん、何するの？」

ジャツカル「下がってる貴様ら」

奏「何でよ」

ジャツカル「貴様、アコの親だと言ったな」

アフロデイト「そうよ、それが？」

ジャツカル「それは事実かもしれないが本当の目的はプリキュアの抹  
殺もしくは復讐そしてノイズの復活だろ？」

アフロデイト「何言ってるの？」

エレン「そうよ、アフロデイト様がノイズの復活なんか望んでるわ  
けは」

ジャツカル「お前達は黙ってる、こいつらは騙せても我は騙せんで、  
貴様からは貴様からは闇の気配を感じる、さあ、答えろ、てめえは誰  
だ？答えないなら引きずり出してやろうか？その体から」

エレン「アフロデイト様、なんか言ってください」

アフロデイト「まさか俺の気配を読み取れる奴がいたとはな、も  
う少いでノイズの復活が出来ると思ってたんだがな」

響「いったい何を」

アフロデイト「そうだ、俺はこの女の体を乗っ取っているのだ」

ジャツカル「御託はいい、さっさと正体を見せろ」

アフロデイト「それは無理だ」



ジャツカル「そうか・・・なら引きづりだす来いメイセイ、退魔分離の呪符」

アフロディテ? 「何!!ぐあああああ」

ジャツカル「引きづりだしてやったぜ」

ハウリング「おのれ、貴様を甘く見ていたぜ」

響「あいつはハウリング」

ジャツカル「馬鹿馬鹿しい、ハウリングだがスプリングだか知らねえが無関係な者を利用する、我の一番嫌う手だ」

ハウリング「おのれ、貴様ごときに」

響「みんな・・・行くよ、あいつを必ず倒す」

少女変身中

バッドエンドピース「なにあいつすごくムカつく」

キュアピース「本当だね」

ジャツカル「行くぞ、我はEHEROオーシャンを召喚」

EHEROオーシャン

戦士族／効果

攻撃力1500 守備力1200 レベル4

①1ターンに1度自分のスタンバイフェイズに自分のフィールド・墓地のEHEROモンスターを1体手札に戻す

ハウリング「その程度で奴で何が出来る?」

ジャツカル「確かめてみるか?」

ハウリング「いいだろう、だったらそのEHEROを消し去ってやろう」

ジャツカル「速攻魔法マスクチェンジ」

キュアマカロン「久しぶりねマスクチェンジ」

ジャツカル「我は、EHEROオーシャンを墓地へ、強力な酸を持ちし英雄よ、その力で歯向かう者を溶かしつくせ変身召喚! チェンジタイプアシッド」

MHEROアシッド

戦士族／融合／効果

攻撃力2600 守備力2100 レベル8

このカードはマスクチェンジの効果でしか召喚出来ない。このカードの特殊召喚に成功したとき相手フィールドの魔法 罫カードをすべて破壊し相手フィールドのモンスターすべての攻撃力を300ダウンさせる

バッドエンドピース「なんかかつこいいの来たー」

キュアピース「なおちゃん、HEROだよ」

バッドエンドマーチ「どうでもいい」

キュアマーチ「すこぶるどうでもいい」

キュアパッション「融合？でも融合カード無しで融合って」

キュアカスタード「説明します、MHEROはアシッドに限らず、HEROモンスターをマスクチェンジやフォームチェンジって呼ばれるカードで墓地へ送り、特殊召喚出来るカードなんです、ジャッカルさんはそれを融合召喚ではなく変身召喚って言ってます」

バッドエンドピース「キュアピース」かつこいい」

キュアサニー「変身召喚って明らかにやよいが食いつきそうな言い方やな」

バッドエンドビューティ「すでに食いついてますよ」

バッドエンドハッピー「かつこいい」

キュアハッピー「本当だね」

キュアサニー「・・・なのであの4人は意気投合してんねん」

バッドエンドサニー「あんたらはともかくこちらはコピーみたいなものやし」

キュアマカロン「そうよね、気があってもおかしくは無いわよね」

キュアサニー「なあ、一応、聞くけど何か変なこと企んでへんか？」

キュアマカロン「別に」

キュアアクア「変身召喚とはやるじゃない」

キュアミント「そうね」

ハウリング「おのれ」

ジャッカル「バトルだ、MHEROアシッドで攻撃、ポイズンクラッシュ」

ハウリング「くっ」

キュアシヨコラ「あとは」

キュアマカロン「私達で」

キュアメロディ「仕留める」

ジャツカル「おい、待て」

ハウリング「邪魔だ」

キュアシヨコラ「まずい」

キュアマカロン「きやあああああ」

ジャツカル「だから待てって言ったのに」

ハウリング「愚かな、貴様らでは勝てないのは目に見えている」

ジャツカル「くっ、何か引かないとまずいな（クリームゾンノヴァ、これで2枚目あと1枚それさえくれば）」

ハウリング「これで終わりだ」

キュアミント「そうは、行かないプリキュア・ミントシールド」

ハウリング「邪魔だ」

キュアミント「まずい、きやあああああ」

ジャツカル「私のターンか……これなら、時間稼ぎにはなるか……  
ファイヤークラーケンを召喚」

ファイヤークラーケン

水族

攻撃力1600 守備力1500 レベル4

水の中でもボウボウと燃え盛る炎に包まれたイカ

ジャツカル「リバーズ2枚セットターンエンド」

ハウリング「下らん、そんなことして何になる？ さっさとその雑魚も終わらせる、食らえ」

ジャツカル「こいつは賭けだ、罨カード発動、業炎のバリアファイヤーフォース」

業炎のバリアファイヤーフォース

①相手のモンスターの攻撃宣言時相手フィールドの攻撃表示モンスターをすべて破壊し自分はこの効果で破壊したモンスターの元々の攻撃力の合計した半分の数値を受ける。その後、自分が受けたダメージと同じ数値分相手にも与える

ジャツカル「こいつで我が食らったダメージは1200よって貴様も1200分のダメージを食らいやがれ」

ハウリング「何!!ぐあああああ」

ジャツカル「さあ、お互いに食らおうぜ」

ハウリング「くっ、貴様らごときに」

ジャツカル「ライフは残ったがこっちのダメージが限界になってきたな」

ハウリング「今ので限界になってきやがった・・・次で決まるか」

ジャツカル「我のターンドロ・・・(我のライフは残り2100こいつで仕留めるか)どうやら神は貴様を許す気は無いらしい」

ハウリング「なんだと!!」

ジャツカル「我は、魔法カード融合を発動、手札の暗黒方界神クリムゾンノヴァ3体を融合 悪魔の闇今変化する、今こそ開けパンドラの箱よ、その箱開きしとき、邪悪に滅びを与えよ、融合召喚!暗黒方界神クリムゾンノヴァトリニティ」

暗黒方界神クリムゾンノヴァトリニティ

悪魔族／融合／効果

攻撃力4500 守備力3000 レベル10

暗黒方界神クリムゾンノヴァ×3

このカードは上記のカードを融合素材にした融合召喚でのみ特殊召喚出来る①このカードは相手の効果対象にならず相手の効果では破壊されない②このカードが攻撃したとき相手ライフを半分にする③このカードが戦闘でモンスターを破壊したときこのバトルフェイズ中はもう一度攻撃出来る④自分が効果ダメージを受けた場合その数値分だけ相手にも与える

ジャツカル「覚悟しなよハウリング」

キュアシヨコラ「すごい、暗黒方界神クリムゾンノヴァトリニティ」

バッドエンドピース「あんなのいたんだ」

ハウリング「おのれ消えろ」

ジャツカル「無駄だ消え去れ、クリムゾンノヴァトリニティで攻撃

その瞬間クリムゾンノヴァトリニテイの効果発動、貴様のライフ、つまり命を半分にする」

ハウリング「何!!」

ジャツカル「これで終わりだ、トリニテイデスバースト」

ハウリング「バカな、この俺がこんなところで負けるはずは、だが、次元統合を望む奴はまだいる、これからが本当の地獄を見る番だ、ぐあああああ」

川上明里（バッドエンドサニー）「よっしや、やったで」

ジャツカル「ああ、そうだな」

あきら「どうしたんですか？」

ジャツカル「いや奴の言ったことを考えててな」

ゆかり「これから地獄を見る番だってことですよね」

ジャツカル「ああ、だが、誰が来ようとか関係ない、来るものは潰すのみ」

響「それこそがジャツカルさんです」

## 闇を斬れ ジヤステイスソード

緑里「それにしても、あそこまでやるとはね」

雷華「そうだね、少しやりすぎじゃない」

明里「それを雷華が言うんか？」

やよい「そうだよ」

雷華「うーん、そうかな？」

青葉「それより、緑里少しは食べ過ぎじゃないですか？」

ゆかり「いいのよ、いっぱい食べてもらって」

ジャツカル「でも本当に食べすぎには注意しろよ」

緑里「はい」

ジャツカル「ならいいが」

あきら「それより、どうします？」

ジャツカル「何がだ？」

あきら「これからです」

ジャツカル「そうだな・・・とにかく次元統合を」

その時

???「我らの力を今こそ解放せよ」

ジャツカル「あきら、なんか言ったか？」

あきら「いえ、なんでですか？」

ジャツカル「さつき、声が聞こえたんだ、お前らの世界に来たのは別だ」

???「我らは絵本の国に閉じ込められている」

ジャツカル「絵本の国？どこにある？」

???「案内する、絵本の国に魔の手が迫っている」

ジャツカル「待て！」

???「絵本の国で待っているぞ」

その時

マナ「大変、大変」

ジャツカル「どうした？」

マナ「外が」

ジャツカル「外がどうした？」

ゆかり「なにこれ」

ジャツカル「絵本の国」

「あおい「絵本の国？」

みゆき「絵本の国って以前も私達が来たことあります」

ジャツカル「そうなのか？」

れいか「確かに来ましたが、でもなんでジャツカルさんはその事を知ってるんですか？」

ジャツカル「分かんが謎の声が絵本の国で待っているって言うって  
たからな、それにあそこ」

美希「あれって桃太郎だよね」

祈里「やっぱり絵本の国だね」

ひまり「本当に絵本の国に来たんですね」

その時

ジャツカル「待ってる、どうした？」

ニコ「・・・」

ジャツカル「なんだあいつ」

ニコ「お前のせいだ、お前がすべてを忘れたから」

ジャツカル「みゆき、お前なんかやったんじゃないのか？」

みゆき「覚えてない」

あきら「でもこの子がそう言うって事だし」

ゆかり「でも何も無いならそう言うことは言わないわよ」

ジャツカル「目的はなんだ？」

ニコ「みゆき達と仲良くなりたくて呼んだの」

ジャツカル「どういう・・・事だ」

あおい「本当だよ」

いちか「でももうあの子いないよ」

その時

ジャツカル「誰だ？そこにいるのは」

金角「お前たちを倒す」

銀角「うおおおお」

ジャツカル「こいつら金角に銀角か」

はるか「ここは私に任せて」

みなみ「はるか、気をつけて」

金角「おい、はるか」

はるか「何？」

銀角「バカめ、かかったな」

はるか「えっ、きやああああ」

みなみ「はるか!!」

ジャツカル「お前ら奴らに名前を言われても返事はするな、物語通りなら吸い込まれるぞ」

あきら「じゃあどうするんですか？」

ジャツカル「我がやる、おい金角、銀角」

金角「なんだ？」

ジャツカル「我が相手だ」

銀角「貴様がか？いいだろう」

金角「貴様誰だ？」

ジャツカル「我は、ジャツカル」

金角「おい、ジャツカル」

ジャツカル「貴様ごときがキングたる我の名前を来やすく呼ぶな」  
全員「ええ」

ジャツカル「我は、手札からフォツシルダイナパキケファロを召喚」  
フォツシルダイナパキケファロ

岩石族／効果

攻撃力1200 守備力1300 レベル4

①このカードがリバースしたときフィールドに特殊召喚されたモンスターをすべて破壊する②このカードがモンスターゾーンに存在するときお互いにモンスターは特殊召喚出来ない

ジャツカル「フォツシルダイナパキケファロで攻撃」

金角「何!!ぐおおお」

銀角「おのれ、消えろ」

ジャツカル「やるじゃねえか、けどな、甘いんだよ貴様は」



銀角「何!!」

ジャツカル「お前は我がリバースを忘れている、我は、種族をサイバース族、属性を闇を選択し罨カード量子猫を発動」

量子猫

罨

①種族と属性を1つずつ宣言して発動して、このカードは発動後種族 属性を持つ通常モンスター(レベル4 攻撃力0 守備力2200)として扱いモンスターゾーンに特殊召喚する。このカードは罨カードとしても扱う

キュアマカロン「にゃーお」

全員「えっ」

キュアマカロン「あらっどうしたのかしら?」

キュアシヨコラ「今の何?」

キュアマカロン「今の?」

ダークドリーム「今のにゃーおよ」

キュアマカロン「気にしないで」

ジャツカル「かわいい」

キュアマカロン以外全員「えっ」

キュアサニー「今のセリフでジャツカルさんのハートキャッチしよった」

キュアピース「あざとい」

ジャツカル「お前が言うな」

キュアピース「うっ」

ジャツカル「デュエル続行、我は、手札から来い、バックアップセクレタリーを特殊召喚」

バックアップセクレタリー

このカード名①の方法による特殊召喚は1ターンに1度しか出来ない①自分のフィールド上にサイバース族がいるとき特殊召喚できる

キュアピース「大きい」

ジャツカル「はっ?何が?」

キュアピース「何っておっp」

キュアサニー「言わせへんで」

キュアピース「なんで」

キュアサニー「健全な場所やで、以前もいった通り下ネタは控えんかい」

キュアピース「だって」

ジャツカル「なんだおっpの方がよかったか？」

キュアサニー「ジャツカルさんも下ネタは」

ジャツカル「はっ？オツドアイスペンデラムドラゴンのどこが下ネタなんだ？」

キュアサニー「はい？」

キュアスカーレット「オツドアイスペンデラムドラゴンの略称をおっpって言うらしいですわ」

キュアサニー「紛らわしいわ」

ジャツカル「ありがと、代わりに言ってくれて」

キュアスカーレット「大丈夫ですよ」

ジャツカル「行くぞ、リンク完了レギュレーションオールクリアーアローヘッド計画実行 ターゲットサイバース族×2 オー

バードライブ リンク召喚 強力な蜂ども、その一刺しで悪魔を滅ぼせ、カモン！ハニーボット」

キュアジェラート「リンク召喚来たー、しかも口上付き」

銀角「な、なんだそいつは」

ジャツカル「バトル、ハニーボットで攻撃ポイズンニードル」

銀角「これで終わったと思うな、この世界は壊れ始めてる、魔王の手によって」

ニコ「あったこれでなんとかなる」

ジャツカル「嵌めやがったな、この嘘つきめ、みゆき達と仲良くなりたいてのは口実か？」

みゆき「やめてジャツカルさん、ニコちゃんは悪い子じゃないよ」

ニコ「思い出してくれたんだ」

ジャツカル「でもよ、お前さつき、みゆきがすべてを忘れたから悪

いって言ってたが」

ニコ「うん、最初はそうだったけど長い時間が過ぎてたし忘れても仕方ないって気づいたの」

ジャツカル「このクソツタレが」

あきら「とにかく」

そう言うのと黒い雲が出てくる

ジャツカル「なんだこの嫌な気配、もしかして声の主が言ってた絵本の国に魔の手が迫っているとは魔王の事か、しかも最悪だな、闇の気配がしやがる）誰だ、そこにいるのは？出てきなよ」

桃太郎「お前たちのせいだ、お前たちが来なければ予定が狂わなかった」

シンデレラ「見つけたお前たちを倒す」

孫悟空「お前たち、倒す、物語、破壊した」

赤ずきん「あなた達のせいで、物語は壊れた」

キュアシヨコラ「なんのこと？」

キュアカスタード「あれはすべて物語の主人公達です」

キュアパイン「じゃあ、なんで襲ってくるのよ」

ジャツカル「何かに操られている、多分、銀角が言ってた魔王って野郎にな」

孫悟空「行け、我が仲間達よ」

ジャツカル「面倒だが、我一人でやる」

キュアマカロン「私達も手伝います」

ジャツカル「分かった、気をつけるよ」

全員「はい」

ジャツカル「仕方ない、愚かな埋葬発動、デツキから墓地へ、我は、エンドだ、さあ来やがれ」

孫悟空「行け、やれ」

キュアミント「そうはさせない」

ジャツカル「ミント我は、安心しろ」

キュアミント「ですが・・・」

ジャツカル「下がれ」

キュアミント「はい」

孫悟空「どうした諦めたか？」

沙悟浄「まずはお前から倒す」

ジャッカル「どこまでも、主人に忠実で、苦勞なこつた、だけど、甘い、我は、墓地から異次元エスパー スターロビンを守備表示で特殊召喚」

異次元 スターロビン

戦士族／効果

攻撃力3000 守備力1500 レベル10

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、自分の他のモンスターは相手のカード効果対象には出来ず攻撃対象にもならない。また、このカードが墓地に存在するとき相手モンスターの直接攻撃宣言時にこのカードを表側守備表示で特殊召喚する。このカードの効果で墓地へフィールドを離れた場合除外する。スターロビンは1枚しか存在出来ない

キュアピース「すごいカッコいい」

バッドエンドピース「分かる分かる」

キュアジェラート「いつの間にあんなカードを墓地へ？」

キュアホイップ「愚かな埋葬で墓地へ送ってたんだよ、きつと」

ジャッカル「そうだ、さすがはうさぎの力を持つてるだけはあるな、

我は、野獣戦士ピューマンを召喚」

野獣戦士ピューマン

獣戦士族／効果

攻撃力1600 守備力1000 レベル4

このカードをリリースして自分のデッキ 墓地から異次元エスパー スターロビンを1体手札に加える

ジャッカル「我は、さらに二重召喚を発動、そしてコストダウン発動手札の生命吸収装置を墓地に送る」

鳳凰獣ガイルーダレベル6↓レベル4 鉄巨人アイアンハンマー

レベル8↓レベル6

コストダウン

## 魔法

手札を1枚捨て、自分の手札のモンスターレベルを2下げる」

ジャツカル「我は、手札から、鳳凰獣ガイルーダを召喚」

鳳凰獣ガイルーダ

鳥獣族／効果

攻撃力2500 守備力1200 レベル6

このカードが相手モンスターを攻撃するときダメージステップ時に攻撃力が300アップする

野獣戦士ピューマン「ガイルーダ、お前姫のところへ行つたはずじゃ」

鳳凰獣ガイルーダ「バカか、仲間を置いて行けるかよ」

異次元エスパ― スターロビン「ピューマン ガイルーダ」

全員「・・・」

ダークルージュ「何あれ？」

キュアルージュ「さあ」

ジャツカル「酷え茶番だな」

キュアマカロン「そうですね」

孫悟空「邪魔をするな、行け」

異次元エスパ― スターロビン「貴様、感動の再開を邪魔するだと、

貴様、さては暗黒帝王デッドマックスの手下か」

キュアサニー「なんでそうなるん、というか暗黒帝王デッドマックスって何？」

キュアピース「暗黒帝王デッドマックスは主役のスターロビンのラスポスだよ、あれでアイアンハンマーが来れば最高なんだけど」

キュアジェラート「誰か止めなくていいの？」

ジャツカル「・・・」

キュアマカロン「いいんじゃないさすがのジャツカルさんも退いてるし」

キュアマーチ「というか何でピースは知ってたの？」

キュアピース「調べた」

ジャツカル「我は、フィールド上にスターロビン ピューマン ガ

イルーダがいるとき鉄巨人アイアンハンマーを特殊召喚する」

鉄巨人アイアンハンマー

岩石族／効果

攻撃力900 守備力3500

自分フィールド上にスターロビン ピューマン ガイルーダがいるとき手札から、特殊召喚出来る。このカードがフィールド上に存在するとき表示形式を変更できない。また1ターンに1度自分フィールド上のモンスターを1体選択し発動する。選択したモンスターは直接攻撃できる

アイアンハンマー「俺、来たから、ロビン、手出し、させない」

異次元エスパー スターロビン 「アイアンハンマー来てくれたのか」

キュアピース「アイアンハンマー来たー」

異次元エスパー スターロビン 「貴様、うるさいぞ、貴様らもデッドマックスの手下か」

キュアトウインクル「あのね私達は」

キュアピース「私達はデッドマックスを倒す者だよ、あいつらはデッドマックスに洗脳されてるだけ、罪は無いよ」

キュアマーマイド「何でこうなるのよ」

異次元エスパー スターロビン「なんだとデッドマックスめ、罪のない人たちを洗脳するなんて許せん」

キュアピース以外全員「・・・何これ」

異次元エスパー スターロビン「今すぐ洗脳を解いてやる、とう」

桃太郎「行くぞ」

異次元エスパー スターロビン「ピューマンはあっちを、俺はこっちを、そしてガイルーダはあいつを頼む」

ピューマン「分かったぜロビン」

ガイルーダ「任せな」

異次元エスパー スターロビン「これが正義の大盤振る舞い」

桃太郎「ぐあああああ」

ピューマン「こっちも方ついたぜ」

ガイルーダ「本当に操られていたようだ」  
鉄巨人アイアンハンマー「デッドマックス 許さん 俺達 必ず  
倒す」

その時

魔王「愚かな、貴様らでは俺には勝てん」

異次元エスパ― スターロビン「なんだ、あいつは!!」

キュアビューティ「あいつは」

キュアピース「あいつは暗黒帝王デッドマックスだよ」

異次元エスパ― スターロビン「おのれデッドマックス」

ピューマン「貴様は俺達が倒す」

ガイルーダ「貴様の思いどおりにはさせんぞ」

鉄巨人アイアンハンマー「お前 倒す 平和 取り戻す」

キュアサニー「絶対ちやうやろ、デッドマックスとは」

異次元エスパ― スターロビン「デッドマックス覚悟」

魔王「消えろ」

鉄巨人アイアンハンマー「お前 ロビン やらせない ロビン 俺  
守る」

魔王「そうか、だったら消えろ」

ジャツカル「なっ、アイアンハンマー!!」

ガイルーダ「おのれよくもアイアンハンマーを」

ピューマン「許さんぞ、デッドマックス」

魔王「消え失せろ!!」

ガイルーダ ピューマン「ぐあああああ」

異次元エスパ― スターロビン「貴様は許さん」

魔王「貴様も消えろ」

異次元エスパ― スターロビン「バカな、悪に負けるだど!!」

ジャツカル「なんであいつら勝手に攻撃する」

キュアフォーチュン「ジャツカルさん、来ます」

ジャツカル「全くあいつらが勝手に攻撃するから自滅してるんじゃない

ねえか、まずい、くっ(なんとか防衛体制をとったのが正解だった)

我は、手札からBKベイルを特殊召喚、これでライフを受けた分だけ

回復する」

魔王「回復か、いいだろう」

ジャツカル「我は、チューナーモンスターカラクリ樽真九六召喚」  
カラクリ樽真九六

機械族／チューナー／効果

このカードは攻撃可能な場合は攻撃しなければならない。フィールド上に表側表示で存在するこのカードが攻撃対象にされたとき表示形式を変更する。このカードは1ターンに1度戦闘に破壊されない

ジャツカル「ハヤブサたる天空の神よ鋼鉄の力を得て、今こそ現世に蘇れメタファイズホルスドラゴン」

幻竜族／シンクロ／効果

攻撃力2300 守備力1600 レベル6

チューナー＋チューナー以外のモンスター1体以上

①このカードがシンクロ召喚に成功した場合そのシンクロ素材としたチューナー以外のモンスターの種類によって以下の効果をそれぞれ得る●通常モンスター このターンこのカード以外は自身以外のカード効果は受けない●効果モンスター このカード以外のフィールドの表側表示のカード効果を無効にする●ペンデュラムモンスター 相手フィールドのモンスターを1体選びコントロールを得る。このターンそのモンスターは攻撃出来ない

ジャツカル「メタファイズホルスドラゴンの効果発動、こいつは、通常モンスター 効果モンスター ペンデュラムモンスターを素材にすることで効果が変わる」

キュアマカロン「BKベイルは、効果モンスターさてどんな効果になるのかしら」

キュアルージュ「結構落ち着いてるようだけど、今、すごくピンチですよ」

キュアマカロン「でしようね」

キュアイーグレット「ねえ、マカロンっていつつもあんな感じ?」

キュアシヨコラ「そうだよ、気まぐれだし」



ダークルージュ「でも面白いじゃない」

ジャツカル「効果モンスターをシンクロ素材にしたことにより、貴様の効果を封ず」

魔王「ちっ、だがあめえぞ」

ジャツカル「何!!メタファイズホルスドラゴン」

キュアマカロン「まずいわね、どうしましょう」

キュアジェラート「なんで落ち着いてるんですか」

ジャツカル「いや、マカロンは正しい」

キュアカスタード「なんでですか?」

ジャツカル「デュエリストたるものいかなる状況においても冷静に行動しなければならぬ」

ダークアクア「ということとは」

キュアホイップ「マカロンは」

キュアアクア「デュエリストだってこと?」

キュアマカロン「まっ、私程度になれば余裕にもなるのよ(ドヤア)」

キュアジェラート「どや顔がムカつく」

キュアルージュ「うん、分かる」

キュアマカロン「なんか言った?」

キュアジェラート「キュアルージュ「いえ何も」

ジャツカル「さてどうするか?」

その時

「我らの力を使え」

「そうすれば奴にも勝てる」

「希望の力を信じる限り」

ジャツカル「誰だ?だが、我は、こいつらを知ってる、なぜだ?お前らが呼んでたのか、ヘルモス クリテイウス テイマイオス」

クリテイウス「さあ、我らの力を解放するのだ」

テイマイオス「奴を倒しこの絵本の国に平和を取り戻す」

ヘルモス「そのためなら力を貸すぞ」

ジャツカル「だったら貸してもらおうか、エルフの剣士を召喚  
エルフの剣士

## 戦士族

攻撃力1400 守備力1200 レベル4

剣術を学んだエルフ。素早い攻撃で敵を翻弄する

ダークレモネード「えっ、エルフの剣士の攻撃力は1400だよ」  
キュアジェラート「そんなんじや、あいつには勝てない」

魔王「どうした？諦めたか？」

ジャツカル「バカだなお前」

魔王「何!!」

ジャツカル「我は、魔法カードレジェンドオブハートを発動」

レジェンドオブハート

魔法

レジェンドオブハートは1ターンに1枚しか使えない①2000  
ポイントライフを自分フィールド上の戦士族モンスターを1体リ  
リースして自分の手札・墓地の伝説の竜魔法カードを3種類まで除外  
し除外した種類の数だけ伝説の騎士モンスターを自分のデッキ・墓地  
から選んで特殊召喚する

魔王「レジェンドオブハート？何を出そうが無意味だ」

ジャツカル「我は、3枚のカードを除外して来い伝説の騎士クリ  
ティウス ヘルモス テイマイオス」

伝説の騎士クリティウス

戦士族／特殊召喚／効果

攻撃力2800 守備力1800 レベル8

このカードは通常召喚出来ないーレジェンドオブハートの効果で  
のみ特殊召喚出来る①このカードが特殊召喚に成功したとき、フィー  
ルドの表側表示の魔法 罨を対象として発動し除外する②このカー  
ドが攻撃対象に選択されたとき自分の墓地の罨カードを1枚選択し  
自分のフィールドにセットする。この効果でセットしたターンでも  
発動できる

伝説の騎士テイマイオス

戦士族／特殊召喚／効果

攻撃力2800 守備力1800 レベル8

このカードは通常召喚出来ない。レジェンドオブハートの効果でのみ特殊召喚出来る。①このカードが特殊召喚に成功したとき、フィールド上の表側表示の魔法 罫を1枚選択しそのカードを除外する②このカードが攻撃対象になった時、自分の墓地の魔法カードを1枚選択し自分のフィールドにセットする

伝説の騎士ヘルモス

戦士族／特殊召喚／効果

攻撃力2800 守備力1800 レベル8

このカードは通常召喚出来ない。このカードはレジェンドオブハートの効果でのみ特殊召喚出来る。①このカードが特殊召喚されたときフィールド上の魔法 罫カードを1枚選択し除外する②1ターンに1度このカードが攻撃対象にされたとき自分の墓地の効果モンスター1体選択し次のエンドフェイズまでその墓地のモンスターと同名カードとして扱い、同じ効果を得る

魔王「伝説の騎士だと」

キュアマカロン「ヘルモス・・・」

キュアシヨコラ「ティマイオス・・・」

キュアマカロン キュアシヨコラ「どこかで、聞いた気が」

ジャツカル「さらに我は、魔法カード死者蘇生を発動来い、異次元エスパ― スターロビン、そして我は、伝説の騎士ヘルモス テイマイオス クリテイウスを墓地へ送り融合」

ダークアクア「融合を必要としない融合」

ジャツカル「伝説の騎士どもよ、今、魂を一つにし新たな力を今、見せよ融合召喚、出でよ合神竜ティマイオス」

合神竜ティマイオス

戦士族／融合／効果

攻撃力？ 守備力？ レベル10

伝説の騎士ティマイオス+伝説の騎士クリテイウス+伝説の騎士ヘルモス

自分フィールドの上記のカードを墓地へ送った場合のみ特殊召喚出来る①このカードは他のカードの効果を受けない②このカードが

戦闘を行うダメージ戦闘時にこのカードの攻撃力 守備力はフィールド上の一番攻撃力の高いモンスターと同じになる③このカードが戦闘で破壊されたとき自分の手札 デツキ 墓地から伝説の騎士モンスター3体を選び召喚条件を無視して特殊召喚する

魔王「今さら何を出そうが無意味だ」

ジャツカル「行け！スターロビン」

魔王「まだだ」

ジャツカル「これで終わりだ、魔王、行け合神竜ティマイオス」

合神竜ティマイオス「ジャステイスソード」

魔王「バカな、闇が、闇が消えていく、ぐあああああ」

ジャツカル「これで終わりだな、貴様も」

あきら「あれがクリティウスの力」

なお「魔王を一気に倒した」

ジャツカル「どうした？戻るぞ」

全員「は、はい」

## すべてを跳ね返せミラーフォーस्टドラゴン

真琴「マナ、これはどこにおけばいいの？」

マナ「それはあそこの棚の上だよ」

真琴「ありがとう」

いちか「それより、あきらさん、ジャツカルさんが呼んでましたよ」  
ひまり「そう言えばゆかりさんも呼んでました」

ゆかり「私も？」

いちか「はい」

あきら「行ってみるかな」

ゆかり「そうね」

あきら「何かやったかな？」

ゆかり「さあ」

かれん「何かあったの？」

あおい「分からないです」

こまち「そうなのね」

ゆかり「私達なにかやったかな？」

あきら「何もやってないよ」

ゆかり「じゃあなんで、呼ばれたのかしら」

あきら「なんでだろう、とにかく聞いてみよう」

ゆかり「そうね」

あきら「ジャツカルさん、失礼します、話と言うのは？」

ジャツカル「悪いな、話と言うのは、お前ら、ヘルモスとテイマイ  
オスについて聞いたことがあるって言ってたよな？どこで聞いた？」

あきら「すみません、そこまでは・・・」

ゆかり「私達もです」

ジャツカル「そうか、すまないな、そうだ、あきら」

あきら「はい」

あおい「どうですか？」

ジャツカル「もう終わったぞ」

あおい「そうですか？」

ジャツカル「それより・・・お前ら、敵だ」

あおい「じゃあ、行くか」

ジャツカル「そうだな」

マシユー「相田マナ・・・許さない」

ジャツカル「光の騎士よ、その剣を振るい、敵を斬れ エクシーズ

召喚輝光子パラディオス」

輝光子パラディオス

戦士族／効果

攻撃力2000 守備力1000 ランク4

光属性モンスターレベル4×2

1ターンに1度このカードのORUを2使い相手フィールドの表側表示モンスターを1体選び攻撃力を0にして効果も無効になる。またフィールドのこのカードが破壊されたときカードを1枚ドロースする

マシユー「なんだ？お前？邪魔だ」

ジャツカル「邪魔しに参った」

マシユー「ちっ（いったん退くか）」

ジャツカル「待ちやがれ」

マシユー「追ってくるぞあのバカ」

ジャツカル「貴様、何が目的だ？」

マシユー「相田マナ・・・あいつに復讐に来ただけだ」

ジャツカル「貴様も復讐に飲まれたか（こいつを笑顔にするのは手遅れか）」

マシユー「分かったらどけ」

ジャツカル「断る、マナが貴様に何をしたかは分からんがマナは怨まれるようなこととはしない」

マシユー「あいつは俺を忘れた」

ジャツカル「忘れただと？貴様、名は？」

マシユー「俺はマシユーだ」

ジャツカル「マシユー大人しく退け」

マシユー「悪いがマナに復讐する、邪魔をするな」

マネキンカーマイン「ふふふ」

パールバギー「久しぶりに蘇ったな」

シルバークロック「ワシらに勝てるかな」

ジャツカル「行け！パラディオス、輝光閃光斬」

マネキンカーマイン「ぐあああああ」

ジャツカル（おかしい弱すぎる、何かを企んでるのか・・・）

マシユー「無駄だ」

ジャツカル「再生能力か、今のままでは分が悪い、退くか」

マシユー「逃げたか、まあいい次はマナを」

あきら「ジャツカルさん、どこに行ってたんですか？」

ジャツカル「敵を追ってた、それよりマナ」

マナ「なんですか？」

ジャツカル「マシユーって奴に何かやったのか？」

マナ「なんでですか？」

ジャツカル「あいつがそう言ってた」

マナ「分からないです」

ジャツカル「マシユーは我に言った、マナが自分の事を忘れたから

復讐しに来たと」

ゆかり「心当たりは無いの？」

マナ「はい」

ジャツカル「だが分かったことは3つある、1つ、奴はクラリネッ

トを吹いていた2つ、他の仲間を特殊召喚出来る能力を持っていた、

3つ、クラリネットを吹くと特殊召喚した仲間は再生するって事」

真琴「だけど、どうしてマナを」

ジャツカル「マナがマシユーを忘れたからだろ、あれはものすごい

怨みだった、何かあったのは事実、知ってるか、マナ靈魂って言葉」

マナ「靈魂？」

ジャツカル「肉体とは別に精神的実態として存在するものだ」

六花「えーと何が言いたいんですか？」

青葉「意味が分かりません」

ジャツカル「我が言いたいことはマシユーって奴からは何かの怨み

が実体化したかもしくはその恨みが利用されてるかだ、マシユーからはまるで自分が死んだのに、マナが自分を無視したって感じの目だった、マナ、回りで死んだ奴はいないか？」

マナ「死んだ奴って・・・」

六花「そうだ、マナ、昔、愛犬が死んだって言ったよね」

マナ「うん、だけど、あれは本当に小学生のころだよ、関係ないと思う」

ジャツカル「その話聞かせろ」

マナ「・・・はい、あれは私が小学生の頃で、私の愛犬マロを散歩に連れていこうと鎖を繋いでた時なんです」

ジャツカル「なあ、念のために聞くがなぜマロって名前なんだ？」

マナ「はい、マシユマロみたいだったのでそのまま着けました」

ジャツカル「マシユマロって名前をか？」

マナ「はい」

ジャツカル「それで？」

マナ「そして行こうと散歩に行こうとした時、祖母がケガしたって電話を受けてマロをおいて病院へ向かったんです、そして戻ってみたら、マロの死体だけがあって・・・」

ジャツカル「死因はなんだ？」

六花「確かマナを追おうとして車に」

あります「それでマナちゃんは中学生になりマロの事を考えないようにしたんです」

ジャツカル（マナの愛犬の名前はマシユマロそして奴の名前はマシユー、そして不運な事故）

十二獣ドランシア（マスター、偶然とは思えませんね）

ジャツカル（ドランシアか、お前もそう思ったか）

十二獣ドランシア（はい、マシユーが言ってたマナちゃんが自分を忘れたから復讐しに来た）

ジャツカル（ああ、間違いなく自分が死んだのに忘れられたから怨んで出てきたとしか思えない、それより）

十二獣ドランシア（はい）



ジャツカル（お前ら、この世界に来てからやたらとしやべるな）

十二獣ドラংশア（気にしないでください）

ジャツカル「多分だが奴の正体が分かった」

あきら「えーとどういう」

ジャツカル「多分だがマシユーの正体それは愛犬のマロだ」

ゆかり「でも人間だったんですよね、なんで犬が人間に？」

ジャツカル「考えられるのは、マロの魂がマナを怨むあまりに本当の黒幕に利用され、人間の姿に変えられたんだろう」

あおい「本当の黒幕ってじゃあ、黒幕は別にいるって事ですか？」

ジャツカル「ああ、マナの愛犬マロの怨念に漬け込み魂までも利用してる腐りきってる野郎がな、我は怨念を利用する奴は嫌と言うほど見てきてるだが今回の場合は腐りきってるじゃすまねえ、その黒幕はそうとうなクズ野郎としか言いようがない」

あきら「ジャツカルさんそうとうキレてるわね」

ゆかり「ええ」

その時

マシユー「ようやく見つけた、相田マナ」

ジャツカル「やっぱりやって来たか、そろそろ、来るころだとは思ってたがな」

マシユー「なぜここに呼んだ？」

ジャツカル「ああ、ちよつとな、マナ」

マナ「なんですか？」

ジャツカル「あいつがマシユーだ、見たことは？」

マナ「・・・残念ですけど、あれはマロでは無いです」

あきら「違うじゃないですか」

ジャツカル「いや、確かに奴はマロだ」

マナ「違いますあれはマロでは」

マシユー「やっぱりそうだよな、相田マナ、お前は俺を忘れた」

マナ「そんなこと言ったって貴方の事は知らない」

マシユー「だったらお前を倒す」

マナ「みんな行くよ」

ゆかり「だけど、ジャツカルさんの言ったことが本当なら」

マナ「だけど・・・やるしか」

マシユー「そうは行くか」

ジャツカル「まずい」

あきら「ここは？みく？でもみくは病院じゃ」

みく「お姉ちゃん」

あきら「みく」

ジャツカル「ここは？エクシーズ次元」

瑠璃「ジャツカルさん、あの時の決着つけない？」

ジャツカル（おかしい、なぜ瑠璃が？瑠璃は確か柚子って娘のなかにいるはず・・・考えられるのは、目の前にいるのは瑠璃であって瑠璃ではないだとしたらここは・・・しかし、エクシーズ次元は壊滅した・・・考えられるのは、ここは私の思い出も世界か）

瑠璃「ジャツカルさん、どうしたの？」

ジャツカル「悪いな、我は、使命を全うしに戻るお前との決着はまたな」

瑠璃「分かった、私、待ってる、だから、行って」

ジャツカル「ああ、行ってくるぜ瑠璃（悪いな、お前は本物の瑠璃じゃない、けどお前を傷つける訳にはいかなかった、偽物と分かってても）」

マシユー「これでマナは思い出の虜になった他の奴らもだもうだれも俺を止められない」

ジャツカル「それはどうかな？」

マシユー「何!!なぜ貴様は思いの世界から出れる!!」

ジャツカル「残念だったな、瑠璃はもういないせめて他の思い出にすればよかったな」

マシユー「だが、貴様一人ではどうする気だ？」

キュアシヨコラ「私も忘れないで貰おうか」

ジャツカル「シヨコラ」

マシユー「だが貴様ら二人でどうする？」

ジャツカル「二人なら十分だ」

マシユー「なんだと!!」

ジャツカル「行くぞ、シヨコラ」

キュアシヨコラ「はい」

ジャツカル「我は我自身と」

キュアシヨコラ「私で」

ジャツカル キュアシヨコラ「オーバーレイ」

ジャツカル「2つの魂交わりしとき、新たな力、今、生まれん、エ

クシーズチェンジ ゼアルIV

キュアシヨコラ「できあがり」

マシユー「バカな・・・お前たちが合体したというのか」

ゼアルIV（ジャツカル）「そうだ、お前を倒すために」

マシユー「バカな、合体するなどありえん」

ゼアルIV（ジャツカル）「その前に、お前ら、いつまで思い出に浸ってる、そろそろ戻ってきたらどうだ？そのような偽りの映像に騙されるほど愚かではないはずだ」

あおい「偽りの映像」

ゼアルIV（ジャツカル）「よく考えたら分かるはずだ」

いちか「そうだよね、今、外国にいるお母さんがここにいるはずない」

ゆかり「そうね、まだ、平和なんて来てないわね」

ひまり「そうでした、私達の戦いは終わってません」

あおい「確かにバンドをやってる時は楽しかった、だけど・・・あたしは今の方が何百倍も楽しいんだ」

真琴「そうね、今見てるのは幻」

六花「私達はいっつを倒さなきゃならない」

ありす「わたくし達は何度でも立ち上がります」

マナ「幻なんかは負けてられない」

マシユー「バカな、この俺の力が」

ゼアルIV（あきら）「あんたの力がどんなに強くても私達は負けられない」

ゼアルIV（ジャツカル）「貴様は思い出を弄びすぎた、よって判決は

消滅」

マシユー「バカな、そんなことはありえん」

キュアサニー「みんな大丈夫か？」

キュアハート「大丈夫」

ゼアルIV（あきら）「私のターンドロ、私は手札からモンスターをセツトそして私は手札から儀式魔法精霊の祝福を発動」

精霊の祝福

儀式魔法

光属性の儀式モンスターの降臨に必要な①レベルの合計が儀式召喚するモンスターと同じになるように手札 フィールドのモンスターをリリースして光属性の儀式モンスター1体を儀式召喚する

ゼアルIV（あきら）「紅炎の騎士と放電のムスタンガンを墓地へ美しき鳥よ 今こそその姿を我が前に現し今こそ羽ばたけ 儀式召喚降臨せよ輝神鳥ヴェーヌ」

輝神鳥ヴェーヌ

天使族／儀式／効果

攻撃力2800 守備力2000 レベル8

原初の叫喚により降臨。①1ターンに1度手札のモンスター1体を相手に見せ、このターン対象のモンスターのレベルは見せたモンスターと同じになる②1ターンに1度このカード以外の自分のフィールドのモンスターがリリースされた場合自分の墓地のモンスター1体を手札に加える

ゼアルIV（ジャツカル）「リバース2枚セツト、エンド」

マシユー「貴様らに分かるか、うおおおおお」

キュアマカロン「姿が変わった!!」

キュアハート「あの姿・・・あの首輪・・・本当にマロなの？」

マシユー（魔獣体）「ようやく思い出したか、出でよ、お前たち」

マネキンカーマイン「早速呼びびね」

シルバークロック「ワシらを再び呼び出すとは」

パープルバギー「ようやくか」

ゼアルIV（ジャツカル）「貴様らを待っていた」

マネキンカーマイン「私達を」

パールバギー「待っていただけと?」

ゼアルIV(あきら)「ジャツカルさんがセットしたこのカードなんだから分かる?」

シルバークロック「なんのことかな?」

ゼアルIV(ジャツカル)「我がセットしたカードは召喚系に反応するカウンター罠 混沌の落とし穴」

混沌の落とし穴

カウンター罠

2000ポイントを払って、光属性または闇属性モンスターの召喚  
反転召喚 特殊召喚を無効にしゲームから除外する

マシユー(魔獣体)「何、カウンター罠だと!!」

ゼアルIV(ジャツカル)「これは私の予想だがそいつらは人間に捨てられた連中だろ」

マシユー(魔獣体)「そうだ」

ゼアルIV(あきら)「つまりその怨みを実体化させたもの、つまりそいつら全員、闇属性って事よ」

ゼアルIV(ジャツカル)「よって、混沌の落とし穴の効果を発動できるって訳だ」

マシユー(魔獣体)「くっ」

ゼアルIV(あきら)「そいつらは混沌の落とし穴の効果で除外つまりこの場から消えるって事」

マシユー(魔獣体)「おのれ、貴様」

ゼアルIV(ジャツカル)「罠発動 砂塵のバリアーダストフォース」

砂塵のバリアーダストフォース

罠カード

①相手の攻撃宣言時に発動可能。相手フィールド上の攻撃表示モンスターをすべて裏守備表示に変える。この効果で裏守備表示になったモンスターは表示形式の変更が出来ない

ゼアルIV(ジャツカル)「貴様には守備になってもらう」

マシュー（魔獣体）「このようなことがあつてたまるか」

ゼアルIV（ジャツカル）「我のターンだな、我は反転召喚ワームアポカリプス」

ワームアポカリプス

爬虫類族／効果

攻撃力300 守備力200 レベル1

リバース フィールド上の魔法または罫を1枚はかいする

ゼアルIV（ジャツカル）「さらに我はワームバルサスを召喚」

ワームバルサス

爬虫類族／効果

攻撃力1400 守備力1500 レベル3

このカードが召喚に成功したときフィールド上の守備モンスターを表側攻撃表示にする

キュアサニー「・・・うわっ、ワームアポカリプスもワームバルサスもキモいわ、放送事故やろ」

キュアマカロン「可愛くて結構ね」

キュアサニー「なんでや、キモイし完全に放送事故やろ、あかん、特にワームアポカリプスなんて触手やろ」

バッドエンドピース「男の触手プレイもとい獣の触手プレイとはやりますな」

キュアピース「これで薄い本がさらに薄くなりますな」

バッドエンドピース キュアピース「ぐふふふ」

キュアサニー「プリキュア・サニーファイヤー」

キュアルージュ「プリキュア・ルージュバーニング」

キュアピース バッドエンドピース「うわあ」

キュアピース「なにをするの？」

バッドエンドピース「いきなり攻撃って酷くない？」

キュアサニー「お前ら、自重せえへんかい」

キュアピース「何が？」

キュアサニー「下ネタや下ネタ」

バッドエンドピース「でも、遊戯王では男の触手プレイは定番で」

キュアルージュ「それ以上言うてはいけない」

キュアサニー「これ以上下ネタ連発して下品な作品にしようと考えたらそんなときは容赦せえへんで、こんな健全な番組やのに」

ゼアルIV（あきら）「そして二重召喚発動、私はチューナーモンスター復讐の女戦士ローズ」

復讐の女戦士ローズ

戦士族／チューナー／効果

攻撃力1600 守備力600 レベル4

このカードが相手に戦闘ダメージを与えたとき、相手ライフに500のダメージを与える

ゼアルIV（ジャツカル）「我はレベル1ワームアポカリプスにレベル4復讐の女戦士ローズでチューニング新たな加速、光の速さを越え今こそ我がもとに、シンクロ召喚、来い！シンクロチューナーアクセルシンクロン」

アクセルシンクロン

機械族／シンクロ／チューナー／効果

攻撃力500 守備力2100 レベル5

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

自分はアクセルシンクロンを1ターンに1度しかシンクロ召喚出来ない①1ターンに1度デッキからシンクロンモンスターを墓地へ送り以下の効果から1つ選択する●墓地へ送ったそのモンスターのレベル分だけこのカードのレベルを上げる●墓地へ送ったそのモンスターのレベル分だけこのカードのレベルを下げる②相手のメインフェイズにこのカードを含むフィールド上のモンスターをシンクロ素材にしてシンクロ召喚できる

ゼアルIV（あきら）「私はアクセルシンクロンの効果発動、デッキからフルールシンクロンを墓地へ、アクセルシンクロンのレベルを2上げる」

アクセルシンクロン レベル5↓レベル7

ゼアルIV（ジャツカル）「さらに死者蘇生を発動、墓地からワームアポカリプスを復活、ターンエンド」

クラリネット（こうなったら、我の力で）

マシユー（魔獣体）「うおおおおお」

ゼアルIV（ジャツカル）「何！ダストフォースの効果で表示形式は変更不可なはず」

マシユー（魔獣体）「俺の力を甘く見るな」

ゼアルIV（あきら）「私はアクセルシンクロンの効果発動、レベル7のアクセルシンクロンにレベル1のワームアポカリプスをチューニング王者の波動！今紅蓮の竜を呼び出せえん魔竜レッドデーモン」

えん魔竜レッドデーモン

ドラゴン族／シンクロ／効果

チューナー＋チューナー以外1体以上

1ターンに1度自分のメインフェイズ1でのみ使用可能。このカード以外のフィールド上の表側攻撃表示モンスターをすべて破壊する。このカードの効果が発動するターンこのカード以外は攻撃できない

キュアジェラート「うおおおおお、決闘竜来たー」

ダークルージュ「決闘竜？」

キュアカスタード「説明します、決闘竜というのは元々は闇のカードであり闇のフィールドって物を放っていました。闇のフィールドがとても強力でただでさえ闇に飲まれるかどうかがかかってるんです」

キュアブラック「なんなのよ、そのナンバーズよりヤバイのは」

キュアマカロン「でも、彼は、それを使いこなしてるんですよ」

マシユー（魔獣体）「そんな奴で何ができる？」

ゼアルIV（ジャツカル）「リバースセット、エンドだ」

マシユー（魔獣体）「下らん、消えろ」

ゼアルIV（あきら）「畏発動」

マシユー（魔獣体）「畏だと!!」

ゼアルIV（あきら）「スリーストライクバリア」

スリーストライクバリア

①相手フィールドのモンスターが3枚のみの場合発動可能、以下の効果から1つ選択する●このターン自分のモンスターは戦闘では破



壊されない●このターン自分が受けるダメージは0になる●このターン自分のモンスターが相手に戦闘ダメージを与える度にその数値だけ回復する

ゼアルIV（あきら）「私はレッドデーモンを守る」

マシユー（魔獣体）「倒せなかったか・・・まあいい次で仕留める」

ゼアルIV「我のターン・・・来たぜ貴様に次は無い、黒幕よよく聞かぬがいい我はマシユーを傷つける気は無い、貴様にチャンスをやるといつから離れるなら見逃してやるだが離れないと言うなら貴様を焼き払う」

クラリネット「・・・」

ゼアルIV（ジャツカル）「返答無しか、なら仕方無い貴様を焼き払う、

我はダブルリゾネーターを召喚」

ゼアルIV（あきら）「そして、私はレッドウルフを特殊召喚」

レッドウルフ

悪魔族／効果

攻撃力1400 守備力2200 レベル6

①自分がリゾネーターモンスターを召喚したときこのカードを手札から特殊召喚する

キュアイーグレット「チューナーと非チューナーが1体」

ゼアルIV（ジャツカル）「いや2体だ」

キュアアクア「2体？レッドウルフはチューナーでは無いわ」

ゼアルIV（あきら）「確かにアクアの言う通りレッドウルフはチューナーでは無いけど、ダブルリゾネーターは他のモンスターをチューナー扱いとする事が出来るの」

ダークミント「と言うことはレッドウルフはチューナー扱いとなるためチューナーは2体」

ゼアルIV（ジャツカル）「そして、我はスターブラストを発動、1500ライフを払いレッドウルフのレベルを6から3へ」

レッドウルフ レベル6↓レベル3

ゼアルIV（あきら）「私はレベル8のレッドデーモンにレベル3のレッドウルフとレベル1のダブルリゾネーターとダブルチューニン

グ、怒れる炎よ、王者の思いに答え齒向かう者に災いを与えよ！シンクロ召喚！今こそ目覚めよ悪魔の竜の王 えん魔竜王レツドデーモンカラミティ」

えん魔竜王レツドデーモンカラミティ

ドラゴン族／シンクロ／効果

チューナー2体＋チューナー以外のドラゴン族 シンクロモンスター1体

①このカードがシンクロ召喚に成功したときこのターン相手は効果を発動出来ない。この効果に対し相手はカード効果を発動出来ない②このカードが戦闘でモンスターを破壊した場合そのモンスター元々の攻撃力分のダメージを相手に与える③このカードが相手によって破壊された場合自分の墓地のドラゴン族・闇属性シンクロモンスターを1体特殊召喚する

マシユー（魔獣体）「バカな、あんなドラゴンをまだ呼べたのか」

ゼアルIV（ジャツカル）「我はリバースをセットしターンエンド」

マシユー（魔獣体）「下らん、さっさとそいつを消してやる」

ゼアルIV（ジャツカル）「まあ、慌てるなよ、我の伏せたのは攻撃時に相手の攻撃を跳ね返す、聖なるバリアミラーフォースだ」

バッドエンドサニー「なんで教えんねん、そんなんじや相手攻撃させへんやん」

マシユー（魔獣体）「攻撃反射か、だったら攻撃しなければすむ話だ」

ゼアルIV（ジャツカル）「そうだな、我のターン、このターンで終わらせる、我は魔法カードクリティウスの牙を発動」

クリティウスの牙

魔法

このカードのカード名はルール上伝説の竜クリティウスとしても扱う。クリティウスの牙は1ターンに1枚しか発動出来ない。①クリティウスの牙の効果でのみ特殊召喚出来る融合モンスターに記された罨カード1枚を自分の手札 フィールド上から墓地へ送る（そのカードがセットされている場合はめくって確認する）その後その融合モンスターを1体をエクストラデッキから特殊召喚する

マシユー（魔獣体）「そんなもので、何が出来る？」

ゼアルIV（ジャツカル）「お前は、勘違いしてないか？」

マシユー（魔獣体）「何？」

ゼアルIV（ジャツカル）「このカードは融合するカードだ」

キュアジェラート「でも融合って言っても手札が無いよ」

ゼアルIV（あきら）「確かに、手札は無いけど1つだけ出来るのがあるの」

マシユー（魔獣体）「何を言っている？ 貴様の手札は無い、それに貴様のモンスターはそのレッドデーモンクラミティとか言うドラゴン1体だけ、一体何と融合させると言うのだ？」

ゼアルIV（ジャツカル）「貴様はバカか、我は伏せたカードについて言ったよな？」

キュアマカロン「確か、聖なるバリアミラーフォースだったわね」

キュアサンシャイン「まさか、クリティウスの牙で融合させるのは！！」

ゼアルIV（ジャツカル）「そうだ、我は、クリティウスの牙と聖なるバリアミラーフォースを融合」

マシユー（魔獣体）「なんだと!! 畏カードとの融合だと!？」

ゼアルIV（あきら）「伝説の竜の牙よ、すべてを跳ね返すバリアよ聖なる力で一つになりすべてを跳ね返す竜を今、生み出さん融合召喚！現れよ!!ミラーフォースドラゴン」

ミラーフォースドラゴン

ドラゴン族／融合／効果

このカードはクリティウスの牙で手札・フィールドの聖なるバリアミラーフォースを墓地へ送った場合のみ特殊召喚出来る①自分のフィールド上のモンスターが攻撃対象になったときまたは相手の効果の対象になったとき相手のカードをすべて破壊する

キュアアルージュ「なんなのあの竜」

キュアフォーチュン「畏カードと融合しただけじゃない、強い力を感じる」

マシユー（魔獣体）「こざかしい、消えるがいい」

ゼアルIV（ジャツカル）「バカな奴だ、ミラーフォースドラゴンの効果発動、モンスターが攻撃対象になったとき、貴様に攻撃を跳ね返す」

マシュー（魔獣体）「何!!ぐあああああ」

ゼアルIV（ジャツカル）「さっさと出てこい、黒幕、マシューは倒した」

クラリネット「よく気づいたな」

ゼアルIV（ジャツカル）「当然だ、ごまかせると思ってたか?」

クラリネット「まあいい、勝ち目は無い、退く」

ゼアルIV（あきら）「逃がさない、レッドデーモンカラミティで攻撃アブソリュートカラミティブレイク」

クラリネット「ぐあああああ、俺が倒されても第2 第3のマシューが生まれるぞ」

ゆうこ「ミラーフォースドラゴンすごすぎじゃない」

みなみ「そうね」

## 新たな力

ジャツカル「あきら、ちよつと」

あきら「なんですか？」

ジャツカル「お前は どうしてほしい」

あきら「何がですか？」

ジャツカル「俺に残って欲しいか、それともそうでないか」

あきら「出来れば、残ってほしいです」

ジャツカル「そっか、分かった、それまで考えておこう」

あきら「はい」

ひまり「あのジャツカルさん」

ジャツカル「どうした？」

ひまり「あおいさん見ませんでしたか？」

ジャツカル「あおいなら、裏にいるぞ」

ひまり「ありがとうございます」

エレン「ジャツカルさん、お取込み中でしたか？」

ジャツカル「どうした？」

エレン「はい、実は、ここをどうしてもわからなくて」

ジャツカル「ここは、こうしてこうするんだ」

エレン「ありがとうございます」

ジャツカル「・・・」

エレン「どうしました？」

ジャツカル「闇の気配だ」

エレン「えっ、敵ですか？」

ジャツカル「ああ、この気配はフュージョンだな」

マナ「でもフュージョンは倒したんじゃ」

ジャツカル「再生能力があったなら、話は別だ」

立花「確かにね」

ジャツカル「とにかく向かうぞ」

立花達「はい」

そして別の場所

フュージョン「プリキュア、出てこい」

キュアシヨコラ「待て、フュージョン、私たちが相手だ」

キュアハート「今度こそ、貴方を倒して見せる」

キュアマカロン「私たちが相手をするわ」

ジャツカル「フュージョン、お前の相手は我々だ」

フュージョン「いいだろう、相手になってやる」

キュアダイヤモンド「トウインクルダイヤモンド」

フュージョン「無駄だ」

ジャツカル「そうだったな、奴は、攻撃すればするほど強化するんだっけ、だったら、ペンデュラム召喚、現れよ闇魔界の霸王　ダンジョンワーム　鎧武者斬鬼」

フュージョン「ほう3体同時か、そう言えばペンデュラム召喚って同時召喚出来たな、ならば現れよ、悪夢どもよ」

キュアパッション「あれは悪夢獣!!」

フュージョン「なんであろうと、関係無い」

ジャツカル「我は鎧武者斬鬼　ダンジョンワーム　闇魔界の霸王でオーバードレイ巨大な重機よ、その力で悪を打ち倒せ！エクシーズ召喚、現れよ、重機王ドボク・ザーク」

重機王ドボク・ザーク

機械族／エクシーズ／効果

攻撃力3200　守備力2000　ランク5  
レベル5×3

1ターンに1度、このカードのエクシーズ素材を1つ取り除いて発動できる。

相手のデッキの上からカードを3枚墓地へ送る。この効果で墓地へ送ったカードの中にモンスターカードがあった場合、その数まで相手フィールド上のカードを破壊する。

ジャツカル「やれ、重機王ドボク・ザーク」

フュージョン「無駄だ」

キュアシヨコラ「シヨコラ・アロマーゼ、こいつら、何体いるんだ」  
キュアラブリー「わかるのは大量にいます」

フュージョン「このバカでかい機械がうっとうしいな、消えろ」  
ジャツカル「ドボク・ザーク!!こうなったらペンデュラム召喚、極  
楽鳥 月光白兔」

月光白兔

獣戦士族／効果

攻撃力800 守備力800 レベル2

①このカードが召喚に成功した時、「月光白兔」以外の自分の墓地の「ムーンライト」モンスター1体を対象として発動できる。そのモンスターを守備表示で特殊召喚する。

②1ターンに1度、このカード以外の自分フィールドの「ムーンライト」カードの数まで、相手フィールドの魔法・罠カードを対象として発動できる。

そのカードを持ち主の手札に戻す

極楽鳥

幻竜族／チューナー／効果

攻撃力2700 守備力1500 レベル8

①このカードの攻撃力・守備力は、自分の墓地のチューナーの数×100アップする。

②1ターンに1度、手札のチューナー1体を墓地へ送り、相手フィールドのモンスター1体を対象として発動できる。そのモンスターのコントロールをエンドフェイズまで得る。

ジャツカル「我はレベル2月光白兔にレベル8極楽鳥をチューニング、光よ！大地よ！闇を浄化し新たな光を生み出し5千年の時を超え今こそこの次元に降臨せよシンクロ召喚、来い決闘竜 天穹覇龍ドラゴアセンション」

天穹覇龍ドラゴアセンション

ドラゴン族／シンクロ／効果

攻撃力？ 守備力3000 レベル10

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

このカードがシンクロ召喚に成功した時、このカードの攻撃力は自分の手札の数×800ポイントアップする。フィールド上のこの

カードが相手によって破壊され墓地へ送られた時、このカードのシンクロ召喚に使用したシンクロ素材モンスター一組が

自分の墓地に揃っていれば、その一組を特殊召喚できる。この効果で特殊召喚したモンスターの効果は無効化される。「天穹覇龍ドラゴアセンション」のこの効果は1ターンに1度しか使用できない。

ジャツカル「こいつの攻撃力は我の手札の数×800の数値になる」

キュアジェラート「ジャツカルさんの手札は4枚」

キュアブラック「ということは攻撃力は」

キュアマーチ「3200だね」

ジャツカル「バトルだ、天穹覇龍ドラゴアセンションで攻撃、天国の天弓」

悪夢獣「ぐぎやああああ」

ジャツカル「こいつら、何匹いるんだ、本当に」

フュージョン「あとは任せたぞ悪夢獣ども」

ジャツカル「待ちやがれ」

キュアメロディ「ジャツカルさん、ドラゴアセンションが」

ジャツカル「ちっ、さすがに、数が多すぎる、ならば、融合、手札のエツジマンとワイルドマンを融合、すべてを切り裂く英雄よ、強力なる野生児よ二つの魂がまじりあい、新たな力を産み出さん、融合召喚、現れよワイルドジャギーマン」

ワイルドジャギーマン

戦士族／融合／効果

攻撃力2600 守備力2300 レベル8

E・HERO ワイルドマン+E・HERO エツジマン

このモンスターは融合召喚でしか特殊召喚できない。相手フィールド上の全てのモンスターに1回ずつ攻撃をする事ができる

キュアアクア「ちよつと待って、ワイルドジャギーマンだけである大群に勝てるの?」

ジャツカル「ワイルドジャギーマンは相手モンスターすべてに攻撃できる」



キュアルージュ「ということは、ワイルドジャギーマンだけで充分って事ね」

ジャツカル「だといいたがな、行け、ワイルドジャギーマン悪夢どもを始末しろ」

キュアリズム「いった？」

ジャツカル「いや無駄だ、それどころか、ワイルドジャギーマンが倒された」

キュアリズム「どういうこと？」

ジャツカル「まさか、悪夢ごときにワイルドジャギーマンが倒されるとは・・・ならばエンドだ」

キュアビート「えっ、エンドってどうするのよ」

悪夢獣「ぐおおおお」

キュアソード「まじいわ」

ジャツカル「大丈夫だ、我は手札から、オルターガイスト・クンティエリを特殊召喚」

オルターガイスト・クンティエリ

魔法使い族／効果

攻撃力0 守備力2400 レベル5

①自分フィールドに「オルターガイスト」カードが存在する場合、相手モンスターの攻撃宣言時に発動できる。このカードを手札から特殊召喚し、その攻撃を無効にする。②このカードが特殊召喚に成功した場合、相手フィールドの表側表示のカード1枚を対象として発動できる。このモンスターが表側表示で存在する間、そのカードの効果は無効化される

キュアシヨコラ「オルターガイスト？聞いたことがないモンスターね」

ジャツカル「さらにペンデュラム召喚、現れろ、オルターガイスト・マリオネッター オルターガイスト・シルキタス」

オルターガイスト・マリオネッター

魔法使い族／効果

攻撃力1600 守備力1700 レベル4

このカード名の②の効果は1ターンに1度しか使用できない。

①このカードが召喚に成功した時に発動できる。デッキから「オルターガイスト」罠カード1枚を選んで自分の魔法&罠ゾーンにセットする。②自分フィールドの「オルターガイスト」カード1枚と、自分の墓地の「オルターガイスト」モンスター1体を対象として発動できる。対象のフィールドのカードを墓地へ送り、対象の墓地のモンスターを特殊召喚する

オルターガイスト・シルキタス

魔法使い族／効果

攻撃力800 守備力1500 レベル2

このカード名の①②の効果はそれぞれ1ターンに1度しか使用できない。

①このカード以外の自分フィールドの「オルターガイスト」カード1枚を持ち主の手札に戻し、相手フィールドのカード1枚を対象として発動できる。そのカードを持ち主の手札に戻す。この効果は相手ターンでも発動できる。②このカードがフィールドから墓地へ送られた場合、自分の墓地の「オルターガイスト」罠カード1枚を対象として発動できる。そのカードを手札に加える。

キュアマカロン 「オルターガイストモンスターが三体・・・これは、リンク召喚ね」

ジャツカル 「貴様らに見せてやる、現れる、次元を結ぶ未来回路ターゲット確認アローヘッド計画始動 対象モンスターオルター・ガイストモンスター2体以上、我は、クンティエリ シルキタス マリオネットターをターゲットにセット 死を予言する妖精よ、その力にて悪魔を滅ぼせ、リンク召喚、いでよ、オルターガイスト・プライムバンシー」

オルターガイスト・プライムバンシー

魔法使い族／リンク／効果

攻撃力2100 LINK3 リンクマーカー 右／下／右下

「オルターガイスト」モンスター2体以上

このカード名の①②の効果はそれぞれ1ターンに1度しか使用で

きない。

①自分・相手のメインフェイズにこのカード以外の自分フィールドの「オルターガイスト」モンスター1体をリリースして発動できる。デッキから「オルターガイスト」モンスター1体をこのカードのリンク先となる自分フィールドに特殊召喚する。②このカードがフィールドから墓地へ送られた場合、自分の墓地の「オルターガイスト」カード1枚を対象として発動できる。そのカードを手札に加える。

悪夢獣「ぐおおおお」

ジャツカル「罨カード発動 カウンター・ゲート」

カウンターゲート

罨カード

①相手モンスターの直接攻撃宣言時に発動できる。その攻撃を無効にし、自分はデッキから1枚ドローする。そのドローしたカードがモンスターだった場合、そのモンスターを表側攻撃表示で通常召喚できる

ジャツカル「貴様の攻撃を無効にして1枚ドロー、そして通常召喚できる場合特殊召喚する、我が引き当てたのは、レベル2のクローラー・アクソン」

クローラー・アクソン

昆虫族／リバーズ／効果

攻撃力500 守備力1800 レベル2

このカード名の①②の効果はそれぞれ1ターンに1度しか使用できない。

①このカードがリバーズした場合、フィールドの魔法・罨カード1枚を対象として発動できる。そのカードを破壊する。②表側表示のこのカードが相手の効果でフィールドから離れた場合に発動できる。「クローラー・アクソン」以外の「クローラー」モンスター2体をデッキから裏側守備表示で特殊召喚する（同名カードは1枚まで）

ジャツカル「さらに我のターン、今度はクローラー・グリアを召喚」

キュアジェラート「今度はクローラー」

クローラー・グリア

攻撃力700 守備力1500 レベル2

このカード名の①②の効果はそれぞれ1ターンに1度しか使用できない。

①このカードがリバーズした場合、フィールドの魔法・罫カード1枚を対象として発動できる。そのカードを破壊する。②表側表示のこのカードが相手の効果でフィールドから離れた場合に発動できる。「クローラー・グリア」以外の「クローラー」モンスター2体をデッキから裏側守備表示で特殊召喚する（同名カードは1枚まで）

ジャツカル「さらに再び現れる、次元を結ぶ未来回路、アローヘッド計画始動 ターゲット確認 対象モンスタークローラーモンスター2体、我は、グリアとアクソンをターゲットにセット驚異の感覚質よ、その力にて、かの次元に降臨せよ、リンク召喚、現れる、エクスクローラー・クオリアーク」

エクスクローラー・クオリアーク

昆虫族／リンク／効果

攻撃力2000 LINK2 リンクマーカー 左下／右下

①自分フィールドの「クローラー」モンスターの数によって以下を適用する。

●2体以上：自分フィールドのモンスターの攻撃力・守備力は300アップする。

●4体以上：相手はバトルフェイズ中に効果を発動できない。

●6体以上：自分のモンスターは直接攻撃できる。

(2)：表側表示のこのカードが相手の効果でフィールドから離れた場合、または戦闘で破壊された場合、自分の墓地の「クローラー」モンスター2体を対象として発動できる（同名カードは1枚まで）そのモンスターを裏側守備表示で特殊召喚する

ジャツカル「バトル エクスクローラー・クオリアークで攻撃」

悪夢獣「ぐあああああ」

ジャツカル「クオリアークの効果発動、モンスターを破壊したとき、墓地のクローラーモンスター2体を裏守備で特殊召喚する」

キュアビュウティ「ジャツカルさんの墓地のクローラーはグリアと

アクションのみ」

ジャツカル「グリアとアクションを裏守備で特殊召喚」

キュアサニー「そう言えば、ピースとマカロンどこ行ったん？」

キュアピース「ジャツカルさんはクオリアークの効果で墓地のグリアとアクションを裏守備で出した、ということは三回目のリンク召喚を行うのか、どうでしょう、解説のマカロンさん」

キュアマカロン「そうね、あのままだとリンク召喚は確定だけど、レベル2が2体だし、エクシーズって可能性もあるわ」

キュアサニー「何やっとなねん」

キュアピース「何って実況だよ」

ジャツカル「我は、グリアとアクションを反転召喚、さらに効果発動クローラーモンスターの効果は共通、リバーズすればデッキからクローラーを2体まで、裏守備で出す」

キュアピース「ということはジャツカルさんのフィールドには新たなクローラーが2体ずつつまり4体裏守備になるって事か」

ジャツカル「我はデッキから、スパイン、レセプター、ランヴィエ、デンドライトをセット」

キュアマカロン「ということは、次のターンで確実にさらに2回、リンク召喚するきね」

ジャツカル「来い、悪夢ども、リバーズ2セットでエンドだ」

悪夢獣「ぐおおお」

ジャツカル「罨発動、決別」

キュアピース「おっと、ここで、ジャツカルさんは罨カード決別を発動した」

キュアマカロン「あれは、相手の攻撃を無効にする効果ね」

悪夢獣「ぐおおおお」

ジャツカル「私のターン・・・来たぜ、我はクローラーどもを反転召喚、効果を発動出来るが発動せん、我は、まずはスパイン、レセプターを墓地へリンク召喚、来い、エクスクローラー・シナプシス、さらにランヴィエとデンドライトを墓地へ、来やがれ、来い、エクスクローラー・ニューロゴス」

エクスクローラー・シナプシス

昆虫族／リンク／効果

攻撃力1800 LINK2 リンクマーカー左／右  
地属性モンスター2体

①このカードのリンク先の「クローラー」モンスターは戦闘では破壊されず、攻撃力・守備力が300アップし、1度のバトルフェイズ中に2回までモンスターに攻撃できる。②表側表示のこのカードが相手の効果でフィールドから離れた場合、または戦闘で破壊された場合、自分の墓地の「クローラー」モンスター2体を対象として発動できる（同名カードは1枚まで）。そのモンスターを裏側守備表示で特殊召喚する

エクスクローラー・ニューロゴス

攻撃力1900 LINK2 リンクマーカー 左／右

昆虫族モンスター2体

①このカードのリンク先の「クローラー」モンスターは戦闘では破壊されず、攻撃力・守備力が300アップし、相手モンスターと戦闘を行う場合、相手に与える戦闘ダメージは倍になる。②表側表示のこのカードが相手の効果でフィールドから離れた場合、または戦闘で破壊された場合、自分の墓地の「クローラー」モンスター2体を対象として発動できる（同名カードは1枚まで）そのモンスターを裏側守備表示で特殊召喚する

キュアピース「おっとここで、ジャツカルさんは口上を省いた」

キュアマカロン「だけど、それで終わりとは思えないわね」

ジャツカル「我は、手札からニサシ、イロウ、師範を墓地に送り融合」

キュアマカロン「おっと、ここで、ジャツカルさんは属性の異なる六武衆を融合させた」

ジャツカル「失われし武士の魂よ、3つの力が一つとなり、新たな力を生み出さん融合召喚、現れいでよ影六武衆リハン」

影六武衆リハン

戦士族／融合／効果

攻撃力2400 守備力2400 レベル5

属性が異なる「六武衆」モンスター×3

自分フィールドの上記カードを墓地へ送った場合のみ、EXデッキから特殊召喚できる（「融合」は必要としない）このカードは融合素材にできない。

①ターンに1度、手札及び自分フィールドの表側表示のカードの中から、

「六武衆」カード1枚を除外し、フィールドのカード1枚を対象として発動できる。

そのカードを除外する。②自分フィールドの「六武衆」モンスターが戦闘・効果で破壊される場合、代わりに墓地のこのカードを除外できる

キュアシヨコラ「影六武衆？」

キュアサニー「真六武衆ではないんか？」

キュアピース「おっと、ジャツカルさんは影六武衆とかいうモンスターを召喚した」

キュアマカロン「影六武衆、それに六武衆の融合モンスター、ふふ、面白いわね」

悪夢獣「ぐおおおおお」

キュアサニー「あかん、リハンが」

キュアマーチ「まだ、みたいだよ」

キュアサニー「なんでや」

ジャツカル「我は時の機械タイムマシンを発動した」

キュアジェラート「そつか、時の機械タイムマシンは破壊されたとき同じ表示形式で特殊召喚できるんだったね」

ジャツカル「さてどうするか・・・（あれは・・・コアかなら）リハンあそこに攻撃だ」

悪夢獣「!!」

キュアピース「ジャツカルさんがリハンをどこかに攻撃させた」

キュアマカロン「どうやら、何かあったようだね」

キュアピース「どうでしょうか？キュアサニーさん」

キュアサニー「なんで聞くん？せやけど、何かがあったようやで」  
ジャツカル「核を見つけた破壊する」

キュアピース「おっと、核を攻撃した」

ジャツカル「これで終わりだ、忌まわしき悪夢ども」

キュアピース「おっと、ここで核を破壊どうやら悪夢獣達が消えていく」

キュアシヨコラ「ようやく終わったね」

その時、三枚のギヤラクシーアイズが光りだす

ヌメロンコード「よく、この戦いを終わらせました、貴方の1つ願  
いかなえましょう」

キュアシヨコラ「あれは？」

シャイニールミナス「あれがヌメロンコードです、どうやらプライ  
ムフォトン タキオンドラゴン、サイファードラゴンだったようです  
ね」

キュアマカロン「そっか、じゃあ、ジャツカルさんは帰ってしまう  
のね」

ジャツカル「私の願いは決まっている、消してほしいものがある」

キュアハッピー「それって・・・」

キュアマリン「まさか私達の記憶って言わないわよね」

ジャツカル「大丈夫だ」

ヌメロンコード「その消してほしいものとは」

ジャツカル「それは・・・ヌメロンコード貴様の存在だ」

キュアシヨコラ「えっ、でも、そんなことしたら戻れなく」

ジャツカル「かまわん、我はこの世界に残る、そしてこいつらとと  
もにスイーツを作る」

ヌメロンコード「：：分かりました、その願いかなえましょう、私  
自信を消滅させること、では、もう会うことはないでしょう」

ジャツカル「これでよかった、さてと、行くか」

みんな「どこへですか？」

ジャツカル「教会だ」

みなみ「何ですか？」



ジャツカル「我とあきらの挙式だ」  
いちか「ということは」  
ジャツカル「ああ、そういうことだ」  
あきら「はい、行きましよう」

## 平和な世界へ

あきら「悪夢獣との戦いが終わって2週間後」

ジャツカル「面倒だな、悪夢獣の域う残りが面倒だな」

キュアシヨコラ「そうですね、まさか悪夢獣の生き残りがいたとはな」

ジャツカル「みんなが来る前に、カタつけるか、行けヴァレルロードドラゴン轟雷のヴァレルショット」

ヴァレルロードドラゴン

ドラゴン族／リンク

攻撃力3000 LINK4 リンクマークー左／左下／右下／右

効果モンスター3体以上

②このカードはモンスターの効果の対象にならない。②1ターンに1度、フィールドの表側表示モンスター1体を対象として発動できる。そのモンスターの攻撃力・守備力は500ダウンする。この効果の発動に対して相手はカードの効果が発動できない。この効果は相手ターンでも発動できる。③このカードが相手モンスターに攻撃するダメージステップ開始時に発動できる。その相手モンスターをこのカードのリンク先に置いてコントロールを得る。そのモンスターは次のターンのエンドフェイズに墓地へ送られる

キュアシヨコラ「シヨコラ・アロマーゼ」

ジャツカル「これで終わったな、みんなが来る前にカタついたな」

あきら「そうですね」

ジャツカル「さて式の準備でもすつか」

あきら「はい」

そして20分後、予定どおり式が開始された

ジャツカル「お前のドレス姿かわいいな」

あきら「あつ、ありがとうございます」

そして2時間後

あおい「あきらさん ジャツカルさんおめでとうございます」

ジャツカル「ああ、ありがとな」

ゆかり「うらやましいわ、本当に」

あきら「そう?」

ジャツカル「それより、どうするよ、これから」

いちか「そうだ、私が二人のために、なんか作ってあげる」

ジャツカル「そうか、ありがとな」

その時

みく「お姉ちゃん」

あきら「みく」

みく「お姉ちゃんおめでどう」

あきら「ありがとう」

いちか「出来ました」

ジャツカル「なかなかよく出来てるな」

あきら「ジャツカルさん」

その時

炎「ジャツカルさん、おめでどうございます」

ジャツカル「ありがとう、炎」

早苗「まさか本当に式を挙げるなんて」

麻光「本当ね」

歌音「最初は笑顔とか必要ないって考えてたけど今になってはすごくわかる」

沙羅「うん」

炎「・・・」

沙羅「どうしたの?」

炎「あの、ジャツカルさん」

ジャツカル「なんだ?」

炎「私、ジャツカルさんの跡を継ぎたいです」

ジャツカル「俺の?別に構わんが、なんで急に?」

炎「実は、私ジャツカルさんのデュエルを見て、笑顔にしたいって思ってたんです」

ジャツカル「分かっただがこれだけは言っておく、デュエルの道は

厳しいぞ」

炎「はい、ついていきます」

ジャツカル「いい覚悟だ」

沙羅「あらっ？ということは炎ちゃんは、ジャツカルさんの後継者になるって事ね」

炎「ええ」

真琴「でもなんで急にジャツカルさんの跡継ぎに？」

炎「彼は私達に笑顔を教えてくれた、私もジャツカルさんみたいに、デュエルで笑顔にしたいと思ってるね」

ジャツカル「よく言った、炎」

あきら「いいんですか？」

ジャツカル「ああ、俺はいつでもいいぞ」

あきら「ジャツカルさん」

ジャツカル「どうした？あきら」

あきら「私も貴方の手伝い、いえマネージャーに回ってもいいですか？」

ジャツカル「かまわない」

あきら「でも、どうやって、やるんですか、私達はデュエルモンスターズは持ってませんし」

ジャツカル「そのことなら大丈夫だ、我のデッキがあるからな」

炎「それなら、安心ね」

いちか「ここじゃあれだから、キラパティで話そうよ」

ジャツカル「そうだな」

いちか「じゃあ、キラパティオープン」

そして20分後

いちか「いらっしやいませ」

あきらのファンA「あきら様」

あきら「どうしたの？こんなところに」

あきらのファンB「開いてたので、スイーツを」

あきらのファンC「あれっ、あきら様、指輪してますね」

あきら「うん、婚約したの」

あきらのファンA「誰とですか？」

あきらのファンB「あきら様に近づく虫は誰ですか」

あきら「それは言いすぎだよ」

ジャツカル「どうした？あきら、もめごとか？」

あきらのファンA「誰ですか」

あきら「私の婚約者だよ」

あきらのファンB「なっ!!あなたが!!」

あきらのファンC「あなたなんかにあきら様を取られるとは」

ジャツカル「熱狂的なファンか、やめておけ、どうせ意味はないんだ」

あきらのファンA「ムカツ、なによ」

ジャツカル「そうか、なら相手になるぞ」

あきらのファンA「なによ」

あきら「あの二人とも、落ち着いて」

ジャツカル「・・・まあ、そうだな、少し頭に血が上りすぎた」

あきらのファンA「あきら様がいうなら」

その時

ジャツカル「んっ、これって」

あきら「どうしたんですか？」

ジャツカル「いや、急にアメリカからオファーが来てな」

あきら「海外からって」

ジャツカル「どうやら、この世界にもデュエリストがいろいろ来た

ようだそれでその大会に我が呼ばれてな」

あおい「すごっ、外国からオファーって」

あきらのファンD「・・・」

あきらのファンD「海外からのオファーって彼そんなにすごいのか？」

ゆかり「私も始めてね」

ジャツカル「すまん、あきら、婚約してすぐに離れるようになって」

あきら「いいえ、大丈夫です、私もジャツカルさんの事応援してま

すね」

ジャツカル「ああ、ありがとう、まったく仕方ねえな、一発、派手に暴れてくるか」

あきら「さすがジャツカルさんです」

いちか「ジャツカルさんが海外デビューってことで私がとっておきのスイーツを作りました」

ジャツカル「なかなかいい味だ、ありがとうな、いちか」

いちか「はい、これはジャツカルさんの必勝を願って作ったものです」

あおい「このアイスは私が作ったんだ」

ジャツカル「うまかったぞ、あおい」

いちか「これもひまりんのおかげだよ」

ジャツカル「ありがとな、ひまり」

ひまり「大丈夫です」

響「ジャツカルさん、聞きました、海外デビューなんですか？」

ジャツカル「ああ」

エレン「すごいわ、海外デビューなんてさ」

ジャツカル「まあ、大したものではないが」

せつな「たいしたことですよ」

みらい「海外デビューなんてワクワクもんだあ」

リコ「みらいが海外デビューじゃないのよ」

みらい「そうだけど」

りん「いつ出発なんですか？」

ジャツカル「明日だな」

あきら「そうですか？」

ジャツカル「大丈夫だ、終わり次第戻ってくる」

あきら「はい」

ゆうこ「今日の夕飯は派手にしましょう」

奏「そうね」

ジャツカル「大丈夫だ、あきら、我は必ず勝ってくる」

あきら「はい、ジャツカルさんなら出来ます」

ジャツカル「ああ、そうだな、まあ、席とれるようなら、お前たちの分も取つとくぞ」

あきら「いいんですか？ 私たちの分を取ってくれて」

ジャツカル「気にするな」

ゆかり「世界大会ねえ、面白そうだわ」

あおい「その時は、私のロックで盛り上げてやるぜ」

ジャツカル「頼むぜ、お前のロックは盛り上がるからな」

そしてさらに数週間後

あきら「ジャツカルさんが行つて、数週間後ね、どこまで、勝ち残つたかしら」

あおい「ジャツカルさんからチケット来たよ、どうやら決勝戦を見に来てほしいだつて」

いちか「場所は？」

あおい「アメリカ ロサンゼルスだつて」

ひまり「でもどうやって、行くんですか？」

あおい「どうやら飛行機をよこしたつて、そろそろ来るらしいよ」

あきら「じゃあ、準備してくる」

そして9時間50分後

あきら「場所はどこ？」

あおい「えーと」

その時

響「あれっ、みんなどうしたの？」

いちか「あつ、響さん、私達も呼ばれたんです」

響「そうだったの、あと、他のプリキュアの皆さんも来てます」

いちか「そうだったんですか」

そして20分後

あきら「どうやら、ここね」

響「そうですね」

あおい「もう始まつてるじゃん」

ジャツカル（なかなかやるが、ヴァレルロードドラゴンの前では無意味）

対戦相手「儀式召喚サクリファイス」

あきら「攻撃力0のモンスター・・・何かあるわね」

対戦相手「サクリファイスの効果発動」

ジャツカル「無駄だ、トポロジックボマードラゴンの効果発動、このカードのリンク先にモンスターが召喚 特殊召喚された場合、すべてを破壊する」

対戦相手「何!!だがお前のモンスターも」

ジャツカル「ああ、ヴァレルロードは効果では破壊されない」

響「というと、破壊されるのは」

あきら「相手のサクリファイスだけね」

ジャツカル「砕け散れサクリファイス」

対戦相手「しまった!!」

あおい「さて、バンドの用意だ、いっくぜ」

あおい青空 *Airight* を熱唱中

ジャツカル「あいつら来てくれたのか、さてどうする? 貴様はのフィールド手札は無い、どうする?」

対戦相手「ぐぬぬ」

ジャツカル「これで終わりだ、トポロジックとヴァレルロードでダイレクトアタック」

対戦相手「ぐああああ」

奏「やった」

あかね「まさかの逆転勝利やで」

あきら「ジャツカルさん」

ゆかり「あきら」

審判「優勝はMrジャツカル」

ジャツカル「やったぜ」

アナウンサー「見事優勝しましたジャツカルさんにインタビューします、優勝の秘訣は?」

ジャツカル「そんなものは無い、しいて言うなら、皆の応援と決勝を見に来てくれた、あおいのバンドが勝利へ導いた」

アナウンサー「それでは、ジャツカルさんを勝利へ導いた、あおい



さんに聞いてみましょう、何か音楽を習っているのでしょうか？」

あおい「あたしはただ、バンドをやっているだけです、それより、私より、そこにいるあきらの方が勝利へ導いたんだと思います、だってあきららは、ジャツカルさんの妻ですから」

アナウンサー「では、ジャツカルさんの妻であるあきらさんに聞いてみましょう、ジャツカルさんを勝利に導いた秘訣は？」

あきら「べ、別に、何も、私はただ、祈ることしか出来ませんでしたし、私は何も」

アナウンサー「そうですか、では今日はこの辺で」

ジャツカル「お前らありがとうとな来てくれて」

あきら「大丈夫です」

ジャツカル「我はもう少しロサンゼルスに残る、お前らはどうするんだ？」

れいか「私たちは今日中には、日本に戻ります」

ジャツカル「そうか、分かった」

あきら「ジャツカルさんは日本に戻るんですか？」

ジャツカル「ああ、戻る予定はある、まあ戻ったら、しばらくはいるから大丈夫だ」

あきら「はい」

番外編 帰ってきたジャッカル 新たな力

ジャッカル「久しぶりの日本だな、あいつらのところに行ってみるか」

その頃、キラパティでは

あきら「ジャッカルさんがプロへ行つてちょうど2週間かあ、どうしてるかな?」

ゆかり「あらっ? あきらさみしいのね」

あきら「そんなことないよ」

いちか「あきらさんこつちをお願いします」

あきら「分かったよ、今行く」

キラ星シエル「これくらいでいいんじゃないかしら?」

あおい「そうだな」

ビブリー「全く早くしてよ、あとがつかえてるんだから」

ひまり「ごめんなさい」

黒木リオ「それより、なんで俺がこんなことを」

キラ星シエル「いいじゃない」

ペコリン「みんな闇の気配ペコ」

いちか「みんな行くよ」

5人「うん」

グレイブ「プリキュア出てこい」

キュアシヨコラ「グレイブ、やめろ」

グレイブ「ようやく出てきたか、行くぞ」

キュアパルフェ「貴方をここで倒すわ」

そのころジャッカルは

ジャッカル「この気配、闇の気配か、あいつらに会いに来たが思わぬものだな、まあいい、気に入らねえ奴は潰す」

そのころ、ホイップ達は

キュアホイップ「何あいつ、強くなってる」

キュアジェラート「どうするの?」

キュアカスタード「とにかくどうにかしないと」

グレイブ「どうした？もう終わりか？消えろ、行けネンドモンスター」

その時、ネンドモンスターが破壊される

グレイブ「何!!なぜ、ネンドモンスターが」

ジャツカル「その目障りな粘土野郎を始末しただけだ」

キュアシヨコラ「ジャツカルさん、いつの間にかこっちへ？」

ジャツカル「感動の再開は後だ、とにかくこいつの効果処理だ」

キュアマカロン「悪魔への貢物」

悪魔への貢物

魔法

フィールド上の特殊召喚されたモンスター1体を選択して墓地へ送り、手札からレベル4以下の通常モンスター1体を特殊召喚する。

ジャツカル「こいつは特殊召喚されたモンスターを破壊し手札からレベル4以下の通常モンスターを呼び出す アレキサンドライドラゴン」

アレキサンドライドラゴン

ドラゴン族／攻2000／守100

アレキサンドライトのウロコを持った、非常に珍しいドラゴン。その美しいウロコは古の王の名を冠し、神秘の象徴とされる。——それを手にした者は大いなる幸運を既につかんでいる事に気づいていない。

キュアシヨコラ「レベル4で攻撃力2000」

キュアカスタード「美しい」

キュアパルフェ「？」

キュアマカロン「彼の戦い方なのよ」

羅刹

天使族・スピリット／攻1500／守1900

このカードは特殊召喚できない。召喚・リバースしたターンのエンドフェイズ時に持ち主の手札に戻る。このカードが召喚・リバースした時、「羅刹」以外の手札のスピリットモンスター1体を相手に見せて発動できる。相手フィールド上に表側攻撃表示で存在する。モンス

ター1体を選択して持ち主の手札に戻す。この効果を発動するター、自分はモンスターを特殊召喚できない。

ジャツカル「我は、開眼せよ悪を滅ぼす希望回路対象モンスター2体、ターゲット アレキサンドライドラゴン 羅刹 現れるLANフォリンクス」

LANフォリンクス

サイバース族・リンク／攻1200 LINK2

リンクマーカー：左下／右下

モンスター2体

グレイブ「雑魚が何ができる？」

ジャツカル「まだ終わりではない、さらにペンデュラム召喚 来い

！赤き剣のライムンドス ラインモンスタースピアホイール」

ラインモンスタースピアホイール

獣戦士族 攻500／守500

1ターに1度、このカード以外の自分フィールド上の獣戦士族・レベル3モンスター1体を選択して発動できる。選択したモンスターとこのカードは、それぞれのレベルを合計したレベルになる。

赤き剣のライムンドス

戦士族／攻1200／守1300

赤き炎の剣を持った戦士。炎の束縛で動きを封じる。

ジャツカル「再び開眼せよ悪を滅ぼす未来回路対象モンスター2対ターゲット赤き剣のライムンドス ラインモンスタースピアホイール来やがれプロキシ・ドラゴン」

プロキシ・ドラゴン

サイバース・リンク／攻1400 LINK2

リンクマーカー：左／右

モンスター2体

(1)：自分フィールドのカードが戦闘・効果で破壊される場合、代わりにこのカードのリンク先の自分のモンスター1体を破壊できる。

ジャツカル「さらにもう一度開眼せよ悪を滅ぼす未来回路 対象モンスターEXデッキから特殊召喚されたモンスター2体以上 ター

ゲットLANフォリンクス プロキシ・ドラゴンをセット 美しき  
天使の一人よ新たな地に降臨せよ、来いセフィラ・メタトロン」

幻竜族／攻2500 LINK3

リンクマーク：左下／下／右下

EXデッキから特殊召喚されたモンスター2体以上

このカード名の(1)(2)の効果はそれぞれ1ターンに1度しか使  
用できない。(1)：このカードのリンク先の、EXデッキから特殊召  
喚されたモンスターが戦闘または相手の効果で破壊された場合に発  
動できる。自分の墓地のモンスター及び自分のEXデッキの表側表  
示のPモンスターの中から、モンスター1体を選んで手札に加える。  
(2)：このカード以外の、自分及び相手フィールドのEXデッキから  
特殊召喚されたモンスターを1体ずつ対象として発動できる。その  
モンスター2体をエンドフェイズまで除外する。

グレイブ「何を出そうが無駄だ」

ジャツカル「やるな、だが、行け！ティンダグル・エンジェル」

ティンダングル・エンジェル

悪魔族・リバース／攻500／守1800

このカード名の効果は1ターンに1度しか使用できない。(1)：こ  
のカードがリバースした場合に発動できる自分の手札・墓地から  
「ティンダングル・エンジェル」以外のリバースモンスター1体を選ん  
で裏側守備表示で特殊召喚する。この効果が相手ターンのバトル  
フェイズに発動した場合、さらにそのバトルフェイズを終了する。

ジャツカル「まずは1体、次はこれだ、おろかな埋葬、デッキから  
ティンダングル・ベースガードナーを墓地へ」

グレイブ「下らん消えろ」

ジャツカル「まあ焦るなペンデュラム召喚来い！城塞クジラ」

城塞クジラ

魚族・効果／攻2350／守2150

このカード名の①の効果は1ターンに1度しか使用できない。①：  
このカードが手札・墓地に存在する場合、自分フィールドの水属性モ  
ンスター2体をリリースして発動できる。このカードを特殊召喚す

る。②このカードが特殊召喚に成功した場合に発動できる。デッキから「潜海奇襲」1枚を選んで自分フィールドにセットする。③1ターンに1度、自分フィールドの水属性モンスター1体のみを対象とする。相手の魔法・罠・モンスターの効果が発動した時に発動できる。その発動を無効にし破壊する。

ジャツカル「城塞クジラの効果で潜海奇襲をセットそして伝説の都アトランティスを発動」

伝説の都アトランティス

フィールド魔法

このカード名はルール上「海」として扱う。①：フィールドの水属性モンスターの攻撃力・守備力は2000アップする。②このカードがフィールドゾーンに存在する限り、

お互いの手札・フィールドの水属性モンスターのレベルは1つ下がる。

ジャツカル「そして潜海奇襲を発動」

永続罠

①このカードの発動時の効果処理として、自分の手札・墓地の「海」1枚を選び、発動できる②フィールドに「海」が存在する場合、表側表示のこのカードは以下の効果を得る●1ターンに1度、自分フィールドの水属性モンスター1体をエンドフェイズまで除外して発動できる。このターン、自分フィールドの表側表示の魔法・罠カードは相手の効果では破壊されない。●元々のレベルが5以上の自分の水属性モンスターが相手モンスターと戦闘を行うダメージステップ開始時に発動する。その相手モンスターを破壊する。

グレイブ「そんなに何ができる？まあいい、まずはプリキュアから始末する、消えろ」

ジャツカル「我を忘れるな」

グレイブ「何!!」

ジャツカル「伝説のフィッシュャーマン」

伝説のフィッシュャーマン

戦士族・効果／攻1850／守1600

①このカードがモンスターゾーンに存在し、フィールドに「海」が存在する限り、

このカードは魔法カードの効果を受けない。②このカードがモンスターゾーンに存在し、フィールドに「海」が存在する限り、このカードは攻撃対象にされない。(この効果が適用されたモンスターしか自分フィールドに存在しない状態での相手の攻撃は自分への直接攻撃になる)

グレイブ「ちっ」

ジャツカル「我は、ティンダングル・ドロネー発動」

罨

①自分の墓地に「ティンダングル」モンスターが3種類以上存在し、相手モンスターの攻撃で自分が戦闘ダメージを受けた時に発動できる。その攻撃モンスターを破壊し、EXデッキから「ティンダングル・アキュート・ケルベロス」1体を特殊召喚する。②EXモンスターゾーンに自分のモンスターが存在しない場合、墓地のこのカードを除外し、自分の墓地の「ティンダングル」モンスター3体を対象として発動できる(同名カードは1枚まで)。そのモンスターを裏側守備表示で特殊召喚する。

ジャツカル「我は、EXデッキからティンダングル・アキュート・ケルベロスを特殊召喚」

ティンダングル・アキュート・ケルベロス

悪魔族・リンク LINK3

リンクマーカー：上／左下／右下

「ティンダングル」モンスター3体

①自分の墓地に「ティンダングル・ベース・ガードナー」を含む「ティンダングル」モンスターが3種類以上存在する場合、このカードの攻撃力は3000アップする。

②このカードの攻撃力は、このカードのリンク先の「ティンダングル」モンスターの数×500アップする。③このカードが攻撃宣言したバトルフェイズ終了時に発動できる。

自分フィールドに「ティンダングルトークン」(悪魔族・闇・星1・

攻／守0）1体を特殊召喚する。

キュアシヨコラ「ティンダングル？初めてね」

キュアマカロン「しかも攻撃力0ふふ、面白いわね」

キュアカスタード「しかもなんか怖そうな犬だし」

キュアマカロン「犬ならシヨコラと気が合いそうね」

キュアシヨコラ「合わないよ絶対」

ジャツカル「私の墓地にはエンジェル イントルダーそしてベース・ガードナーが存在しているよってアキュート・ケルベロスの攻撃力は3000アップする」

グレイブ「なんだと!!」

ジャツカル「消えるがいい、アキュート・ケルベロスで攻撃デス・

トライアル・フアング」

グレイブ「ぐあああああ」

ジャツカル「ジ・エンド」

グレイブ「ちっ、だが必ずノワール様がこの世界を闇に包む、ぐあああああ」

ジャツカル「雑魚が・・・それより大丈夫か？」

あきら「はい、ジャツカルさんはいつ戻って来たんですか？」

ジャツカル「今日戻った」

キラ星シエル「疲れたわ」

ジャツカル「あんた、キラ星シエルか？」

キラ星シエル「ウイ、そうよ」

あおい「ジャツカルさん、シエルさんと知り合いなんですか？」

ジャツカル「いや、フランスでの大会の時に聞いたことがあって有名なパティシエがいるってよ、名前がキラ星シエル、あんたの作るスイーツはパーフェクトだったな」

キラ星シエル「メルシー、ありがとう」

ジャツカル「いやちよつとな、世界大会に一区切りついたから、戻ってきた、しばらくはいれるからな」

あきら「はい」



## 新たな世界　ハグプリとの合流

ジャツカル「それにしてもここはどこだ？」

のぞみ「えーとはぐくみ市って確か、はなちゃん達がいる場所だよ  
ね」

ジャツカル「説明はどうでもいい、さっさとデュエルしてえ」

全員「ええええええ」

ジャツカル「とにかく、敵を探しに行くぜ」

あきら「えっ、ちよっ」

そのころ、別の場所では

キュアエール「うっ、このオシマイダー強い」

キュアアンジュ「どうなってるの？」

キュアエトワール「分からない」

キュアマシエリ「とにかくまずいのです」

食虫植物オシマイダー「オシマイダー!!」

バツブル「プリキュアもおしまいね、オシマイダーぶつとびーな一  
撃食らわせてあげて」

キュアアンジュ「まだ出来る」

キュアエトワール「私達は負けられない」

キュアアムール「待って、エネルギー反応と謎の生命体が接近中」

ジャツカル「もろともに　あはれと思へ　山桜　花より外に　知る  
人もなし」

バツブル「誰かしら？邪魔するのは」

ジャツカル「冥府の使者ゴーズ」

冥府の使者ゴーズ

効果モンスター

星7／闇属性／悪魔族／攻2700／守2500

自分フィールド上にカードが存在しない場合、相手がコントロールするカードによってダメージを受けた時、このカードを手札から特殊召喚する事ができる。この方法で特殊召喚に成功した時、受けたダメージの種類により以下の効果を発動する。

①戦闘ダメージの場合、自分フィールド上に「冥府の使者カイエン トークン」(天使族・光・星7・攻/守?)を1体特殊召喚する。

このトークンの攻撃力・守備力は、この時受けた戦闘ダメージと同じ数値になる。

②カードの効果によるダメージの場合、受けたダメージと同じダメージを相手ライフに与える。

バツブル「もうなによ邪魔してきて」

ジャツカル「おい貴様我とデュエルしろよ」

バツブル「はあ、オシマイダー、そいつを潰しなさい」

ジャツカル「我はそうだな：：これかな？コアキメイルベルグザーク」

コアキメイルベルグザーク

星4/地属性/戦士族/攻2000/守 200

このカードのコントローラーは自分のエンドフェイズ毎に手札から「コアキメイルの鋼核」1枚を墓地へ送るか、手札の戦士族モンスター1体を相手に見せる。または、どちらも行わずにこのカードを破壊する。このカードが戦闘によって相手モンスターを破壊した場合、もう1度だけ続けて攻撃することができる。

ジャツカル「さらにコアキメイルベルグザークの効果発動、コアキメイルの鋼核を墓地」

コアキメイル鋼核

魔法

自分のドローフェイズ時に通常のドローを行う代わりに、墓地のこのカードを手札に加える事ができる。また、自分のドローフェイズ時に手札から「コアキメイル」と名のついたモンスター1体を墓地へ送る事で、墓地のこのカードを手札に加える

ジャツカル「さらにカードを2枚セット、さあ来い」

バツブル「なめたマネをしてくれたわね、そこまでいうならオシマイダー」

キュアエトワール「下がって」

ジャツカル「下がるのはお前の方だ、速攻魔法収縮、さあ攻撃力半

分になりな」

収縮

速攻魔法

フィールドの表側表示モンスター1体を対象として発動できる。そのモンスターの元々の攻撃力はターン終了時まで半分になる

食虫植物オシマイダー「オシマイダー!!」

ジャツカル「退け、早く」

キュアエール「わかりました」

バツブル「くっ、覚えてらっしゃい」

ジャツカル「ちっ、こんなところでカードを使わされるとはな、おい大丈夫か?」

ルールー・アムール「あなたはいつたい」

ジャツカル「我はジャツカル、あとさ、静かにしてろジャツジメン

ト ダークネスメタル ダークアームド」

4人「?」

ルールー・アムール「どうやら彼の背後に何かいます」

輝木ほまれ「それってお化け?」

ジャツカル「貴様、精霊が見えるのか?」

ルールー・アムール「いえ、見えるというかエネルギー体を感じてるだけです」

ジャツカル「貴様面白いこと言うな、我はジャツカル」

野々はな「野々はなです」

薬師寺さあや「薬師寺さあやです」

輝木ほまれ「輝木ほまれ」

ルールー・アムール「ルールー・アムールです」

愛崎えみる「愛崎えみるなのです」

ジャツカル「それより、どうするかな、いちか達のところへ行こうか、それとも」

野々はな「いちかちゃん達を知ってるんですか?」

ジャツカル「ああ、一緒に来たからな」

野々はな「じゃあ、ビュートイハリーに行きませんか?」

ジャツカル「そうだな、案内してくれるか？」

その時

あきら「ジャツカルさんどこにいるんですか？」

ジャツカル「あつ、あきらか、今、はな達と一緒にいる」

あきら「そうだったんですか」

ジャツカル「ああ、遅くなるから飯は食っておけ」

あきら「はい」

その時

ビシン「久しぶりだね、プリキュア」

ジャツカル「面倒だな、失せなよ」

ビシン「君さ、誰？プリキュアとどういう関係？」

ジャツカル「んっ？我はこの世界の救世主こいつらは、ダチだ、お前たちは下がれ、こいつは我が倒す」

ビシン「ふーん君がいいよ」

ジャツカル「さて我は手札からアーマードビーだ」

アーマードビー

星4／風属性／昆虫族／攻1600／守1200

1ターンに1度、相手フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択して発動する。選択した相手モンスターの攻撃力をエンドフェイズ時まで半分にする

そのころあきら達は

あきら「私達もいこう」

ゆかり「そうね」

そして20分後

ジャツカル「さてどうするか」

ダイナレスラーギガスピノバット

シンクロ・効果モンスター

星8／地属性／恐竜族／攻3000／守 0

恐竜族チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

(1)：このカードが戦闘を行う場合相手はダメージステップ終了時まで魔法・罠カードを発動できない。

(2)：このカードがモンスターゾーンに存在する限り、相手は他のモンスターを攻撃対象に選択できない。

(3)：1ターンの1度、相手フィールドのモンスター1体を対象として発動できる。

そのモンスターを破壊する。

(4)：このカードが戦闘・効果で破壊される場合、代わりに自分フィールドのカード1枚を破壊できる

E・HEROエスクリダオ

星8／闇属性／戦士族／攻2500／守2000

「E・HERO」と名のついたモンスター+闇属性モンスター

このカードは融合召喚でしか特殊召喚できない。

このカードの攻撃力は、自分の墓地に存在する「E・HERO」と名のついたモンスターの数×100ポイントアップする

E・HEROアブソリュートZERO

星8／水属性／戦士族／攻2500／守2000

「HERO」と名のついたモンスター+水属性モンスター

このカードは融合召喚でしか特殊召喚できない。

このカードの攻撃力は、フィールド上に表側表示で存在する「E・HERO アブソリュートZero」以外の水属性モンスターの数×500ポイントアップする。

このカードがフィールド上から離れた時、相手フィールド上に存在するモンスターを全て破壊する

ビシン「ふーんやるじゃん」

ジャツカル「さてそろそろ、罨カード単一化」

単一化

罨

相手フィールドの表側表示モンスター1体を対象として発動できる。対象のモンスター以外のフィールドの全てのモンスターの攻撃力はターン終了時まで対象のモンスターと同じになる。

ジャツカル「貴様のモンスターを選択し攻撃力を同じにする、つまり貴様自信だ」

ビシン「くっ」

ジャツカル「消してやるぞ、ダイナレスラーギガスピノバット、奴を蹴散らせデストラクシヨンブレイク」

ビシン「くっ、お前も必ず倒す」

あきら「ジャツカルさん、敵は」

ジャツカル「我が倒した、とにかく、退くぞ」

全員「はい」

## すべて滅殺マキシマムとギガレイズ

ジャツカル「もう時間移動も慣れてきたな」

あきら「そうですね」

ジャツカル「そう言えばどこ？」

いちか「観星町です」

ジャツカル「まあいいや、どうせ、やることは変わんねえんだ、さつさと、探して潰しに行くか」

そのころ、別な場所では

テンジヨウ「馬鹿ね、さつさと、ペンを渡したらどうなのかしら？」

星名ひかる「嫌よ、貴方達には渡さない」

羽衣ララ「そうルン、絶対に渡さないルン」

雨宮えれな「フワもペンも渡さない」

香久矢まどか「そうですね、絶対に」

テンジヨウ「だったら消えなさい、やっておしまい私の駒たちよ」

ノットレイ「ノットレイー」

その時

テンジヨウ「何!!なんだこの光の剣は？」

ジャツカル「光の護封霊剣、我がライフを1000払い、貴様の攻撃を無効にする」

羽衣ララ「誰ルン？」

テンジヨウ「つまりその剣があるかぎり、攻撃が不可能ってことか・・・」

ジャツカル「さあどうする？」

テンジヨウ「ごさかしいマネを」

ジャツカル「無様だな、おい、退け」

香久矢まどか「しかし」

ジャツカル「とにかく、退け」

テンジヨウ「おのれ」

ジャツカル「来い、いでよ雷電龍サンダードラゴン」

星名ひかる「ドラゴン!!キラヤバ!!」

ジャツカル「雷電龍サンダードラゴン　ワイバーン、やれ」  
雨宮えれな「すみません、みんな退くよ」

そして20分後

羽衣ララ「助かったルン」

香久矢まどか「あそこで、彼が来てくれてなければやられてました」  
その時

ジャツカル「大丈夫か？」

羽衣ララ「誰ルン」

ジャツカル「我はジャツカル、デュエリストだ」

香久矢まどか「デュエリスト？聞いたことないですね」

ジャツカル「まあ、お前らには聞きなれないだろ」

星名ひかる「それより、ドラゴンってキラヤバー」

ジャツカル「お前ドラゴン好きなのか？」

星名ひかる「ドラゴンだけじゃないんです、UMAやオカルトや超常現象も好きです」

ジャツカル「ほう、あんたとは気が合いそうだ」

星名ひかる「そうなんですか!!」

ジャツカル「それより名前聞いて無かったな」

星名ひかる「星名ひかるです」

羽衣ララ「ララルン」

雨宮えれな「雨宮えれなです」

香久矢まどか「香久矢まどかです」

ジャツカル「よろしく頼む、そう言えばひかるは精霊って信じるか？」

星名ひかる「精霊ですか？信じます」

ジャツカル「そっか、デュエルモンスターズには精霊が存在している、お前には見える時が来る」

その時

はな「ジャツカルさん」

ジャツカル「はなかどうした？分かった、別に構わん、どうせ、使わないものだから」



はな「そうなんですか？」

ジャツカル「ああ」

その時

テンジヨウ「見つけたわよ」

ジャツカル「また貴様か、仕方ない、お前らは下がってな、体力回復してないんだしよ」

ララ「分かったルン」

テンジヨウ「何をしようが無駄よ、さつきより私の駒たちを増やしてきたんだから」

雨宮えれな「さすがにこの数は」

ジャツカル「案ずるな、我は、魔導召喚士テンペルを召喚そして魔導書整理でデッキトップを三枚めぐりそこから入れ替える、リバーセツト来な」

テンジヨウ「その余裕いつまでもつかしら、行きなさい私の駒たち」

ノットレイ「ノットレイ!!」

ジャツカル「かかった、罨発動進入禁止NOEntry、こいつの効果で守備にする」

テンジヨウ「そんな奴を守ったところで何になる？」

ジャツカル「まあ見てな、この瞬間テンペルの効果発動、魔導書と名のつく魔法カードが発動されたときテンペルを生贄にデッキから闇または光の魔法使い、レベル5以上のモンスターを呼び出す、来い、マジシャンオブブラックイリリユージョン、さらに魔法発動、光と闇の洗礼、これはブラックマジシャンをいけにえに混沌の黒魔術師を呼び出す」

テンジヨウ「馬鹿めブラックマジシャンはお前のフィールドには」

ジャツカル「いるんだよ、マジシヤノブブラックイリリユージョンはブラックマジシャンとして扱う」

テンジヨウ「何!!」

ジャツカル「来い、混沌の黒魔術師、さらに手札のゴーストリックイエティとゴーストリックランタンを墓地へ来い破壊竜ガンドラギ

ガレイズさらに、コストダウン手札を捨て手札すべてのモンスターのレベルを2下げる」

羽衣ララ「そんなことしたら効率が悪くなるルン」

香久矢まどか「多分、彼には彼なりの考えがあるんだと思います」

ジャツカル「さらに禁じられた聖衣の効果で混沌の黒魔術師の攻撃力を600ダウンし効果を受けなくさせる」

香久矢まどか「そんなことして、何が」

ジャツカル「おい天狗野郎、お前の駒はこのターンで全滅させてやるぜ」

テンジヨウ「?馬鹿め、お前ひとりで何ができる?しかもこの数を」

ジャツカル「出来るんだよなあそれがギガレイズの効果ライフを半分払い、墓地のガンドラモンスターの数により効果が決まる、墓地のガンドラモンスターはガンドラXのみつまりモンスターの全破壊、消え去れ」

テンジヨウ「馬鹿め、そんなのいつ」

羽衣ララ「もしかして、あのコストダウンの時に」

ジャツカル「そうだ」

雨宮えれな「でもそんなことすれば混沌の黒魔術師も」

香久矢まどか「混沌の黒魔術師は禁じられた聖衣の効果で守られています」

ジャツカル「やれデスギガレイズ」

テンジヨウ「ちっ」

ジャツカル「そしてコアキメイルの金剛核でコアキメイルの鋼核を手札にそして鋼核を除外来い、コアキメイルマキシマム」

テンジヨウ「まずいね」

羽衣ララ「あの数のノットレイを、一撃で全滅ルン」

星名ひかる「キラやば」

ジャツカル「消え去れ、コアキメイルマキシマム、マキシマムブレイカー ガンドラギガレイズ デストロイギガレイズ 混沌の黒魔術師 滅びの呪文」

テンジヨウ「覚えてろ、一時退く」

雨宮えれな「いいねえ、彼すごいじゃん」

ジャツカル「チエツクメイト」

羽衣ララ「すごいルン」

その時

エール「あれっ？終わっちゃった？」

シヨコラ「せっかく来たんだけど」

マカロン「どうやらジャツカルさんが片付けたようね」

ジャツカル「遅いぞ、まあいいさっさと戻って寝る、まっ、これからもよろしく頼むわ」

星名ひかる「はい」

## 目覚めよ幻魔の力

ジャツカル「ここはどこだ？」

あきら「えっと、おいしーなタウンって書いてますね」  
響「また別の場所？」

ゆかり「どうやら、そのようね」

奏「そういえば、ジャツカルさんは？」

ルールー「なんか、もう、行っちゃいましたよ」

全員「えっ」

そのころ、ジャツカルは

ジャツカル「それにしても、なんか腹減ってきたな、飯食うか」

そして20分後

ジャツカル「ふーん、なかなかやるじゃん、というかなんか出たな、  
なんだこれ？」

その時

和実ゆい「なんか暇だね」

芙羽ここね「そうだよね」

華満らん「そうだね」

菓彩あまね「久しぶりだな、こうやって友達と何かしてごはんを食べるっての」

和実ゆい「そうだよね」

ジャツカル「騒がしいな、まったく、というかこの妙なものはなんだ？それより・・・なにより」

ウリア「何かありましたか？」

ジャツカル「知らんけどさ、味が変わったんだが」

ハモン「妙ですね、それは」

その時

和実ゆい「レシピツピが苦しんでる」

ジャツカル「レシピツピ？」

芙羽ここね「とにかく、行こう」

ジャツカル「なんか、面白そうだな、あいつらについていくっての

も」

華満らん「そうだよね」

ローズマリー「行くわよ、デリシヤスフィールド」

ジャツカル「フィールド魔法？まあいい一応、入るか」

ナルシストルー「君達がプリキュアだね、ここで倒させてもらうよ」

ジャツカル「気に入らないね、なんかあいつ」

ナルシストルー「いでよ、ウバウゾー」

和実ゆい「行くよ」

芙羽ここね 華満らん「うん」

3人「プリキュアデリシヤスタンバイ パーティーゴー」

ジャツカル「あいつらがプリキュアか、この世界の」

ウバウゾー「ウバウゾー!!」

キュアプレシヤス「させない500キロカロリーパンチ」

キュアスパイシー「ピリット○サンドプレス」

キュアヤムヤム「バリカッターブレイズ」

ウバウゾー「ウバウゾー」

3人「きやああああああ」

ナルシストルー「まずはお前からだ、ウバウゾー」

キュアスパイシー「しまった!!」

キュアプレシヤス「スパイシー」

ジャツカル「仕方ない」

キュアヤムヤム「スパイシー大丈夫？」

キュアスパイシー「えっ、うん、ダメージはないみたい、でもなん

で？」

ジャツカル「畏発動 和睦の使者、そいつへのダメージはなくなる」

キュアヤムヤム「はにや誰？」

ナルシストルー「邪魔しないで、もらえるか？」

ジャツカル「うざったいな、お前」

ナルシストルー「なんだと？」

ジャツカル「我は永続畏発動 ハイパーブレイズ」

ナルシストルー「なんだこれは？」

ジャツカル「さらに罨3枚をいけにえに悪魔の炎で焼き払い 地獄の業火燃え上がれ 目覚めよ炎の幻魔 ウリア」

キュアヤムヤム「はにや、なにあのドラゴン」

ジャツカル「ドラゴンではない幻魔だ」

ウバウゾー「ウバウゾー」

ジャツカル「まだだ、永続魔法 失楽の霹靂、さらに魔法をいけにえに混沌より目覚め愚かな者どもに怒りの雷撃を いでよ雷の幻魔 降雷皇ハモン」

キュアプレシヤス「彼意外とすごい」

ローズマリー「貴方それよりどうやって入ったの」

ジャツカル「このフィールドを張り終わる前に侵入した」

キュアスパイシー「貴方は？」

ジャツカル「我は、ジャツカル、貴様を倒す、だが、これで終わらせるか、次元融合殺、こいつでウリア ハモン ラビエルを融合」

ナルシストルー「何をするかは分からないけど、無意味だ」

ジャツカル「混沌の司る闇の幻魔よ すべてを焼き払う炎の幻魔よ 地獄の雷鳴を撃ち落とす雷鳴よ 悪魔の力よ 一つとなり神秘の渦で一つになれ、いでよ、混沌幻魔アーミタイル」

ナルシストルー「何をする気か知らないけど、そんな奴で勝てるのか？ウバウゾー」

ジャツカル「無駄だ、次元融合殺で召喚された場合はダメージとなりアーミタイルは戦闘では破壊されない」

キュアプレシヤス「すごい」

ジャツカル「あとこのフィールドはやりにくい、変えさせてもらう、フィールド魔法 失楽園」

キュアスパイシー「えっ、なにこれ」

ジャツカル「これはこれで決めさせてもらう、爆撃怒雷撃滅波」

ウバウゾー「ウバウゾー」

ジャツカル「次はお前だ」

ナルシストルー「今日は、退かせてもらうか」

ジャツカル「つまらん」

和実ゆい「あの」

ジャツカル「なんだ？」

芙羽ここね「貴方は一体？」

ジャツカル「我はデュエリストだ、まさか、あんたらがプリキュア  
だったとはな」

華満らん「はにや、らんらんのこと知ってるの？」

ジャツカル「ああ、そうだ、他のプリキュアもつれてきたからな」

和実ゆい「そういえば、自己紹介してなかったね、私は和実ゆい」

芙羽ここね「芙羽ここねよ」

華満らん「華満らんだよ」

ローズマリー「ローズマリーよ」

ジャツカル「我はジャツカルだ、よろしく」

## マキシマム召喚 合体ゼアルVI

ジャツカル「なあ、あんたさ」

あまね「なんでしよう」

ジャツカル「何かよう?」

あまね「あつ、いえ」

ジャツカル「そうだ、あんたでいい、聞きたいことがある」

あまね「なんでしよう」

ジャツカル「飯食つてるときに出てくる幽霊みたいななんだ?」

あまね「それはレシピツピです」

ジャツカル「レシピツピ? まあいいや、そういえばあんたは?」

あまね「菓彩あまねです」

ジャツカル「あんたはプリキュアではないのか?」

あまね「私は違います」

ジャツカル「そっか」

ゆい「ジャツカルさんは一体」

ジャツカル「俺か? 俺は」

その時

あきら「ジャツカルさん、こんなところにいたんですか?」

ジャツカル「ああ、あきらか、ちよつとこの世界のプリキュアと会っ

てたからな」

あきら「じゃあ、この子達が?」

ジャツカル「そういうことだ」

あきら「私は剣城あきらよろしく」

ゆい「あつ、はい」

そして20分後

ここね「つまり、あれが彼の戦い方ってこと?」

らん「そして別の次元から来たってこと」

あきら「そういうこと」

ジャツカル「そういえばさ」

その時



ジャツカル「またか、お前ら」

ナルシストルー「また君か」

ジャツカル「ローズマリーって奴はどこだ？」

ゆい「今日はいないの」

ジャツカル「そつか、仕方ねえな、このままやるか」

キュアプレシヤス「行くよ」

キュアスパイシー「うん」

キュアヤムヤム「任せて」

キュアシヨコラ「行くよ」

ジャツカル「いでよ、ウバウゾー」

ウバウゾー「ウバウゾー」

キュアシヨコラ「シヨコラアロマーゼ」

キュアヤムヤム「バリバリカッターブレイズ」

ウバウゾー「ウバウゾー」

ジャツカル「やっぱり、うかつに攻撃表示できねえな」

ウバウゾー「しまった!!」

キュアプレシヤス「スパイシー シヨコラ!!」

ジャツカル「貴様は許さねえよ、飯の邪魔してくれたしな」

ここね「レシピッピを苦しめてる貴方たちは」

ジャツカル「貴様はこの俺が」

ここね「私が」

二人「絶対に倒す」

その時

ジャツカル「この力・・・まさか」

ここね「この感じは？」

ジャツカル「ここね、ゼアルで行くぞ」

ここね「ゼアル？」

ジャツカル「ああ、我自信とここねでオーバーレイ」

ゼアルVI（ジャツカル）「降臨ゼアルVI」

ゼアルVI（ここね）「分け合うおいしさ焼き付けるわ」

キュアヤムヤム「ここぴーと」

キュアプレシヤス「ジャツカルさんが」

二人「合体した!!」

ナルシストルー「馬鹿などということだ」

あまね「これはこっちのセリフなんだけど」

ゼアルVI（ここね）「これがゼアル」

ゼアルVI（ジャツカル）「私のターン ドロー、来たぜ、このカード

が、我はこの三枚でマキシマム召喚」

キュアシヨコラ「マキシマム召喚!!初めての召喚方」

ゼアルVI（ジャツカル）「運命の力よ」

ゼアルVI（ここね）「力を示し」

ゼアルVI（ジャツカル）「邪悪な敵を撃ち破れ マキシマム召喚 天

帝龍樹ユグドラゴ」

ウバウゾー「ウバウゾー」

ゼアルVI（ここね）「これなら、決められる、ユグドラゴで攻撃」

ゼアルVI（ジャツカル）「ラグナロク」

ゼアルVI（ここね）「トライバースト」

ゼアルVI「ストリーク」

ウバウゾー「ウバウゾー」

らん「やった」

ここね「すごい、ゼアルの力」

ジャツカル「これはゼアルの力が成長している」

## 奇跡のゼアル　ゼアル完全体

ジャツカル「それにしても、つまらんな」

あまね「あの、貴方のことを聞きました、貴方は別の次元から来たつて」

ジャツカル「確かにそうだね」

あまね「実は、私、今まで彼女達の敵だったんです、でも、私、みんなに迷惑をかけてしまつて」

ジャツカル「罪滅ぼしでもしたいと」

あまね「ええ、だけど、いい方法が無くて」

ジャツカル「あんたは、いくらでもやり直せる、それに比べて我なんかやり直したくてもやり直せない」

あまね「それつてどういふことですか？」

ジャツカル「気にするな」

その時

ウバウゾー「ウバウゾー」

ジャツカル「まつたく、面倒なことを」

あまね「ちよつと、私も」

キュアヤムヤム「大丈夫？」

キュアサニー「なんとかなつとるで」

キュアスパイシー「とにかく、あいつを何とかしないと」

その時

ジャツカル「やれ、ホープヴィクトリー」

キュアサニー「いきなりホープ系統かいな」

セクレトルー「あんたもプリキュアの仲間？」

ジャツカル「前回の奴とは、違うな、お前もあいつの仲間か」

セクレトルー「そうよ、あらつ、あんなところにいるじゃない」

ジャツカル「狙いはあまねか」

セクレトルー「裏切者がそつちにつくのね」

ジャツカル「ふざけてんじやねえよ、そいつがどんなに苦しんでたかわかつてるのか？」

セクレトルー「そんなの知ったことじゃないわ」

ジャツカル「そっか、レディーだからと言って手加減はしないぞ」

あまね「私はもう、ブンドル団には戻らない」

ジャツカル「よく言った、あまね、お前をさっさと倒す」

あまね「私は自分の意思で決めて見せる」

その時

ジャツカル「この光はまさか」

あまね「この光は・・・とても暖かい」

キュアスパイシー「あれはゼアルの光」

ジャツカル「我とあまねでオーバーレイ 完成ゼアル完全体」

ゼアル完全体（あまね）「これは・・・」

ゼアル（ジャツカル）「これはゼアル」

キュアメロディ「だけど、今までのゼアルとは違う」

ゼアル完全体（ジャツカル）「なんだか知らないが、一気にやらせてもらうか、来たぜ、ハイパーランクアップマジック ユートピア  
フォース、こいつでホープレイベクトリーをランク10のホープモン  
スターを特殊召喚しこのカードをエクシース素材にする」

セクレトルー「なんだ、その力は？」

ゼアル完全体（ジャツカル）「混沌の光を撃ち破り」

ゼアル完全体（あまね）「苦しき過去を忘却せよ」

ゼアル完全体「エクシース召喚」

ゼアル完全体（あまね）「眩き光でファイナーレをかぎせ」

ゼアル完全体（ジャツカル）「ナンバーズ99 希望皇ホープドラグ  
ナー」

キュアサニー「うわっ、出たよ、ホープ系統」

ゼアル完全体（あまね）「私はホープドラグナーの効果発動 オー  
バーレイユニットを二つ使いカオスナンバーズ80 レクイエムイ  
ンバーサーク」

キュアサニー「まさかの仲間呼びかいな」

キュアマカロン「面白くなりそうね」

ゼアル完全体（ジャツカル）「レクイエムインバーサークの効果で

ホープドラグナーに装備 攻撃力を2000アップする」

ゼアル完全体(あまね)「これで終わらせる、ホープドラグナーで攻撃、ホープ剣ブレイクスラッシュ」

ウバウゾー「ウバウゾー」

ゼアル完全体(あまね)「これが私のいえ、私達のファイナーレよ」

セクレトルー「くっ、覚えてなさいプリキュア」

ジャツカル「あまね、あんたの思い通じた、そのため、新たに進化した」

あまね「そう、ありがとう、これで私も罪滅ぼしが出来たのかな」

## 新たなナンバーズ

ジャツカル「それにしても、どこにあるナンバーズ」

ここね「あの」

いおな「ジャツカルさん」

ジャツカル「どうした？」

いおな「早く、ナンバーズを探さない」と

ジャツカル「分かっているがどこにあるのか、分からないくてな」

ゆい「あのナンバーズって？」

ジャツカル「私の記憶のカードだ」

あまね「そういえば、以前のホープドラグナーも確か、ナンバーズって」

ジャツカル「ああ、そうだ、あれは触れた人間を凶暴化させる」

らん「そんな厄介なカードなんですか？」

ジャツカル「ああ、とにかく、我はちよつと出かけてくる」

ほまれ「分かりました」

そして30分後

セクレトルー「プリキュアどもが、この私に勝てるとは思わない、来い、ウバウゾー」

ここね「あれは、ウバウゾー、でも私達が」

セクレトルー「来たわね、プリキュア達、それと貴方たちもプリキュ

アなのかしら？」

エレン「そうよ」

セクレトルー「やれ、ウバウゾー」

キュアマカロン「くっ、なかなか、やるわね」

キュアヤムヤム「任せて、バリバリカッターブレイズ」

キュアスパイシー「ピリット0ヘヴィーサンドプレス」

ウバウゾー「ウバウゾー」

キュアヤムヤム「あいつ全然、効いてない・・・んっ、あれは？」

キュアスパイシー「どうしたの、ヤムヤム？」

キュアヤムヤム「なんか、ウバウゾーの背中に番号なのが見えたの」

キュアプレシヤス「番号？」

キュアヤムヤム「うん、確か、4番」

キュアシヨコラ「それって本当？」

キュアヤムヤム「はい、本当です」

キュアシヨコラ「ジャツカルさん、ナンバーズが見つかりました、はい、はい、わかりました」

キュアスター「どうなの？」

キュアシヨコラ「くるって」

キュアフローラ「よかった」

セクレトル「何を話してるのかしら？やれウバウゾー」

ウバウゾー「ウバウゾー」

その時

ジャツカル「いでよ、超重武者ココログマーA」

セクレトル「ちっ、またか」

ジャツカル「またあんたか、仕方ない、ペンデュラム召喚 来いダイ―8、そして、超重武者つづー3を召喚、そしてレベル3ココログマーAに4のダイ―8 1のツツー3をチューニング 忍べ忍びよ、その力で敵を撃てシンクロ召喚 サルトーB」

セクレトル「なんだと」

ジャツカル「消えろ」

セクレトル「無駄よ、ウバウゾー」

ジャツカル「面倒だな、だったら、これでどうだ、聖域の歌声を発動、そして墓地に魔法 罫が無いとき、ビッグワラーGを特殊召喚 さらにペンデュラム召喚ソード―999そして、タマーCを召喚」

セクレトル「何をしようが無駄よ」

ジャツカル「それはどうかな、ビッグワラーGとソード―999

タマーCをチューニング、動かざること山のごとし、怒りの力で戦場に現れよ、シンクロ召喚 レベル10 スサノ―O」

セクレトル「なんだそいつは」

ジャツカル「これで終わらせる、クサナギソード斬」

ウバウゾー「ウバウゾー」

キュアアヤムヤム「やった」

ジャツカル「来たか、ナンバーズ」

あきら「あれ、ナンバーズ4なんですよね」

ジャツカル「そうだが」

あきら「でも降ってきたのは、2枚ですよね」

ジャツカル「ああ、通常と偽りのナンバーズが降ってきたな、チャトウヴァーリとステルススクラーケンだ」

かれん「偽りのナンバーズとかあるんですよ、こういう場合って」

ジャツカル「まあ、ゲットしたし問題はない、とにかく、次の世界に行くか」



## インフエルニティの猛攻

ジャツカル「それにしても、この街は」

マナ「そうですね」

ゆい「あれっ、ここは」

ジャツカル「知ってるのか？」

ゆい「はい、ここは、夏海まなつちゃん達が住んでる街なんです・・・ってジャツカルさんは？」

ここね「もう行っちゃったよ」

ゆい「もう、どうして？」

そして30分後

ジャツカル「それにしても、どうなってるんだが」

不良A「お前らしい加減にしろよ」

滝沢あすか「それは、お前らだろ、女の子によつてたかつて」

不良B「こいつやってもいいですか？」

不良A「構わん」

滝沢あすか「ふざけんよ」

ジャツカル「おいクズども」

不良C「なんだてめえ？」

ジャツカル「邪魔なんだよな、ガキども、耳障りだ、しかもレディーをよつてたかつて何やってるんだ？」

不良C「てめえ、いいかげんに、ぎやあああああ」

不良B「ふざけるな、ぎやあああああ」

ジャツカル「あとはてめえだけだ」

不良A「覚えてろ」

ジャツカル「貴様のおかげでレアカードが汚れたわ」

滝沢あすか「助かったよ、あんた強いんだな」

ジャツカル「別に、こんなのは軽い運動だ、そうだ、あんた、ナンバーズを見たことないか？」

滝沢あすか「ナンバーズ？」

夏海まなつ「それって、宝くじ？」

ジャツカル「違う、これと同じカードだ」

夏海まなつ「見たことないです」

ジャツカル「そっか」

その時

ローラ・ラメール「ちよつと遅いわよ」

ジャツカル「すまないな」

滝沢あすか「気にしないでくれ」

涼村さんご「あすか先輩の彼氏ですか？」

滝沢あすか「ちよつ、さんご、違うって」

一ノ瀬みのり「じゃあ誰ですか？」

ジャツカル「そっか、自己紹介してなかったな、我はジャツカルだ」

夏海まなつ「夏海まなつです」

涼村さんご「涼村さんごです」

一ノ瀬みのり「一ノ瀬みのりです」

滝沢あすか「滝沢あすかです」

ローラ・ラメール「ローラ・ラメールです」

ジャツカル「よろしく、そうだ、あとさ、この世界のプリキュアは

どこにいる？」

夏海まなつ「それ私達です」

その時

チョンギーレ「なんだ？プリキュアどもか、いでよ、ヤラネーダ」

ヤラネーダ「ヤラネーダ」

ジャツカル「なんだ、あいつ？」

夏海まなつ「あれはヤラネーダです」

ジャツカル「面白い、やってやるか」

夏海まなつ「みんな行くよ」

ジャツカル「マジでプリキュアだったか」

キュアサマー「みんな行くよ」

4人「うん」

キュアパイア「プリキュアぱんぱかパイアショット」

キュアコーラル「プリキュアもこもこコーラルデイフュージョン」

ヤラネーダ「ヤラネーダ」

キュアフラミンゴ「なんだあいつ、全然、効いてない」  
キュアラメール「なんで」

ジャツカル「あれは、そうか、お前らでは意味はない」  
キュアフラミンゴ「どういうことですか？」

ジャツカル「あいつナンバースに乗っ取られている」

キュアフラミンゴ「それってさっき言ってた」

その時

キュアメロディ「プリキュアミュージッククロンド」

キュアラメール「他にもプリキュアが」

ジャツカル「我がやる、来い、インフェルニティデーモン 罨セツト」

キュアラメール「何あれ!!」

キュアサマー「なんかすごいことになってる」

チヨンギーレ「邪魔するな、ヤラネーダ」

ヤラネーダ「ヤラネーダ」

ジャツカル「仕方ない、デプスアミュレット、手札を一枚捨て無効だ」

チヨンギーレ「ちっ」

ジャツカル「次は、こいつだ、陽気な葬儀屋、手札を3枚捨てる。そしてインフェルニティキャット」

キュアコーラル「どうなってるの？」

キュアシヨコラ「あれが彼の戦い方なの」

キュアパイア「結構変わった戦い方するんだね」

ジャツカル「手札が0の時インフェルニティキャットの効果を発動、キャットのレベルを3→4に変更」

キュアアクア「チューナーと非チューナーということは来るね」

ジャツカル「天国と地獄の狭間 煉獄より姿を現せ シンクロ召喚

オーガドラグーン」

チヨンギーレ「なんだあれは？」

ジャツカル「くらえ、インフェルニティカオスバースト」

キュアラメール「やった」

キュアフラミンゴ「すごいなあおの竜」

キュアメロディ「それは、ナンバーズですね、ナンバーズ3ですか」  
ジャツカル「ああ、これは地獄蟬王ローカストキングとゲートオブ  
ヌメロン トウリーニだ、あとは1と2多分、2枚つつあるがよくは  
分からんな」

キュアアクア「そうなんですな」

## まなつのやる気を取り戻せ 究極の奇跡

ジャツカル「ナンバーズにゼアルの進化、これはどうなってる」  
響「どうしたんですか？」

ジャツカル「ああ、最近、ゼアルの力が最近進化していてな」  
響「ゼアルの力が進化ですか？」

ジャツカル「ああ、そうだ、あと響、あまねを呼んできてくれ」  
響「分かりました」

そして20分後

あまね「何かありましたか？」

ジャツカル「ああ、ナンバーズがな、なぜかあまねに反応してたんだがな」

あまね「ナンバーズが私にですか？」

ジャツカル「ああ、こういうのは初めてだな」

あまね「そうだったんですか」

ジャツカル「ああ」

その時

ジャツカル「この気配は闇の力か、あまねは待ってる」

あまね「いえ、私も行きます」

ジャツカル「そうか、分かった」

そして20分後

キュアパッション「こいつ強い」

キュアフラミンゴ「サマーしっかりしろ」

キュアパイア「これは、まずいね」

ヌメリー「これで貴方たちも終わりね」

キュアラメール「まだよ、私達は負けない」

ヌメリー「何を根拠に、これで終わりよ」

ジャツカル「SRメンコート」

ヌメリー「何!!」

ジャツカル「間に合ったか、それでまなつはどうした？」

キュアフラミンゴ「ヤラネーダの仕業です」

キュアコーラル「ヤラネーダは人間のやる気を奪うんです」

ジャツカル「そういうことか、だったら、こつちも楽しませてもらうぞ、チューナーモンスター三つ目のダイス、レベル3三つ目のダイスにレベル4メンコートをチューニング、美しき翼 今こそ羽ばたけシンクロ召喚 クリアウイングフィストドラゴン」

キュアリズム「あのドラゴンすごくかっこいい」

ヌメリー「何よ、そのドラゴンは!!」

ジャツカル「どうしたの、来いよ」

ヌメリー「いいわよ、やれ、ヤラネーダ」

ヤラネーダ「ヤラネーダ」

キュアフラミンゴ「私達は、負けられないんでね」

キュアラメール「まなつのやる気返してもらおうよ」

その時、不思議なことが起こった

ジャツカル「この力はゼアルか」

キュアラメール「これどうなってるの」

キュアフラミンゴ「分からない」

キュアスパイシー「この力はゼアル、でもプレシヤス達も」

ジャツカル「なんだか知らないが、やってやるぜ、我とプレシヤス達でオーバーレイ、究極エクシーズチェンジ アルティメットゼアル」

アルティメットゼアル(らん)「らんらん達がゼアルに、しかもこの場にいる全員が一つに」

アルティメットゼアル(せつな)「これはゼアル：：だけど、違う」

アルティメットゼアル(ジャツカル)「アルティメットゼアルだ」

ヌメリー「なんなのその姿は!!」

アルティメットゼアル(あすか)「よくは分からないが、まなつのやる気を返してもらおう」

アルティメットゼアル(ジャツカル)「一気に行くぜ、SRルーレット、手札を1枚捨て、サイコロを振り出た目と同じになるように特殊召喚する、よし3、来い、SR赤目のダイス SRビーダマシン」

アルティメットゼアル(響)「私はレベル1の赤目のダイスにレベル

2ビーダマシンでチューニング　すべてを撃ち抜き悪を撃てシンクロ召喚HSRコルク―10」

アルティメットゼアル(らん)「さらにコルク―10にクリアウイングファイストドラゴンをチューニング　美しき翼　天空より舞い上がれ　その雄々しき翼で　敵を撃てシンクロ召喚　クリスタルクリアウイングシンクロドラゴン」

ヌメリー「ドラゴンが進化しただど!!」

アルティメットゼアル(ゆい)「今度はこれだよ、SR56プレーンを特殊召喚、さらに、墓地のSR電々大公の効果発動、このカードを除外して墓地のコルク―10を特殊召喚」

ヌメリー「まだやるわけ?」

アルティメットゼアル(らん)「まだ行くよ、らんらはコルク―10に56プレーンをチューニング、運命の鼓動　すべてを無力化し敵を倒せ　シンクロ召喚　HSRカイドレイク」

ヌメリー「馬鹿な」

アルティメットゼアル(ジャツカル)「これで終わらせる、カイドレイクで攻撃」

ヤラネーダ「ヤラネーダ」

アルティメットゼアル(あまね)「これで終わらせるよ、クリスタルクリアウイングシンクロドラゴンで攻撃　豪風のテンペストクラッシュャー」

ヌメリー「くっ、ここまでか」

ジャツカル「アルティメットゼアルか、こいつらの思いと我が力が一つになった」

ローラ「なんか、すごい力だったわ」

あすか「確かな、だけど、あれは、予想外だったけどな」  
ジャツカル「確かな」

## 到着すこやか市 ナンバーズ総合戦

ここね（どうしよう、彼と友達になりたい、でもどうすれば）  
らん「ここぴーどうしたの？」

ここね「彼と友達になりたいの」

ゆい「だったらいつも通りにやればいいんじゃない」

ここね「そうしたいんだけど、どうすればいいのかな、何か共通の話題が必要かなって」

あまね「デュエルだけ？それをやってみたっていいえばいいんじゃない？」

ここね「私に出来るかな」

ジャツカル「それにしても、ここはどこだ？」

あすか「ここはすこやか市みたいですね」

ジャツカル「ここにもプリキュアはいるのか？」

いちか「いるみたいですね」

ジャツカル「そっか、じゃあ、行ってくる」

ここね「あの」

ジャツカル「どうした？」

ここね「私も一緒に行ってもいいですか？」

ジャツカル「あっ？構わん」

ここね「ありがとうございます」

ジャツカル「なあ、何か言いたいことがあるんじゃないのか？」

ここね「何かって・・・あの、私と友達になってくれませんか？」

ジャツカル「・・・」

ここね「あの良ければ私もデュエル？ってのやってみたいなって思  
います」

ジャツカル「プロの指導でよければ付き合ってやる」

ここね「えっ、いいんですか」

ジャツカル「構わん」

ここね「ありがとうございます」

ジャツカル「それにしても、どうやってやるか」



そのころ、別の場所では

キュアグレース「何このメガビョーゲン」

キュアフォンテーヌ「かなり強すぎる」

キュアスパークル「これめっちゃまずいって」

キュアアース「確かにそうですね」

シンドイーネ「なんだか知らないけどプリキュアに勝てるわ、やりなさいメガビョーゲン」

メガビョーゲン「メガビョーゲン」

キュアスパークル「さすがにこの展開めっちゃやばいって」

メガビョーゲン「メガビョーゲン」

キュアフォンテーヌ「スパークル!!」

キュアスパークル「さすがにここまでかな」

その時

ジャツカル「雷鳴よ轟け 稲光よきらめけ。今こそ太古の眠りから

目覚め 権限せよ、我の金色の龍 神影龍ドラツグルーオン」

シンドイーネ「なんなのあの龍、あんたらの仲間？」

キュアスパークル「そんなの知るわけないじゃない」

キュアフォンテーヌ「というか何あの龍」

ジャツカル「お前の相手はこの俺だ」

キュアスパイシー「大丈夫ですか？」

キュアグレース「貴方は？」

キュアスパイシー「私はキュアスパイシー」

キュアフォンテーヌ「他にもプリキュアがいたのね」

ジャツカル「大丈夫か？」

キュアスパークル「はい」

ジャツカル「今から退け」

シンドイーネ「誰が退くか、やれメガビョーゲン」

メガビョーゲン「メガビョーゲン」

ジャツカル「仕方ない、ドラツグルーオン」

シンドイーネ「無駄よ」

ジャツカル「何だとドラツグルーオンが…そっか、お前ナンバー

ズに支配されてるな」

キュアフォンテーヌ「ナンバースって？」

ジャツカル「私の記憶のカードだ、だったら、今度はこれだ、ゴブリンドバーグ効果発動ゴブリンの偵察部隊を特殊召喚、さらに、二体でオーバーレイ 混沌の力に纏いしつむじ風 運命の力で滅ぼすがいい いでよナンバース60 刻不知のデュガレス」

キュアスパークル「何あれめっちゃすごいんだけど」

キュアスパイシー「あれは彼の戦い方よ」

キュアアース「そうなんですネ」

ジャツカル「行くぞ、デュガレスで攻撃」

シンドイーネ「無駄よ、メガビョーゲン」

メガビョーゲン「メガビョーゲン!!」

ジャツカル「面倒だね、だったらペンデュラム召喚 サンガ

ヒューガ サイバードラゴン デューデリオン」

キュアグレース「すごい、一気に呼び出した」

ジャツカル「さらにサンガとヒューガでオーバーレイ 怒りの念動のナイフよ、すべてを切り裂き敵を撃て いでよ、マジカルクラウド ノーミツシングソードそしてサイバードラゴンとデューデリオンでオーバーレイ混沌に潜む天空の城よ、今こそすべての敵を撃ち抜けナンバーズ33 オーパーツー超兵器マシユマツク」

キュアアース「すごい、なにあれ」

シンドイーネ「邪魔しないで」

メガビョーゲン「メガビョーゲン」

ジャツカル「なかなかやるな、だったら、こいつだ、独法師さらに二十召喚、グローアップバルブ、カードをセット、貴様の番だ」

シンドイーネ「何しようかしようが無駄よ、やれ、メガビョーゲン」

メガビョーゲン「メガビョーゲン」

ジャツカル「和睦の使者、これで破壊は無駄になる、そして我はラージマウスを召喚、そして独法師 グローアップバルブ ラージマウスでオーバーレイ いでよライオンハート」

キュアスパイシー「攻撃力が100？」

ジャツカル「攻撃力で判断するな、そしてペンデュラム召喚、混沌に司る眩き光よ、怒りを司れ いでよ、ナンバーズ102グローリアスヘイロー、さらに、悪魔の龍よ、怒りを解放せよいでよナンバーズ97龍影神ドラッグラビオン」

キュアスパイシー「すごい」

ジャツカル「これで終わらせる、行けライオンハート グローリアスヘイロー ドラッグラビオン」

メガビョーゲン「メガビョーゲン」

キュアスパイシー「やった」

ジャツカル「ナンバーズ3ゲット」

花寺のどか「あのありがとうございました、私は花寺のどかです」

沢泉ちゆ「沢泉ちゆです」

平光ひなた「平光ひなたです」

風鈴アスミ「風鈴アスミです」

ジャツカル「我はジャツカルだ、よろしくな」

4人「はい」

## 怒りのプレデタープランツ

ジャツカル「これは、ここをこうしてこうする」

ここね「えっと、こうして、こうするんですね」

ジャツカル「そうだ、なかなかうまいじゃねえか、とても初めてとは思わなかったがな、才能があるんじゃないのか」

ここね「そうですか？ありがとうございます」

あきら「ジャツカルさん」

ジャツカル「どうした？」

あきら「えっと、デュエルを教えってるんですか？」

ジャツカル「そうだ、ちよつと休むぞ」

ここね「はい、あのあきらさん」

あきら「どうしたの？」

ここね「あの彼プロって言ってましたけど」

あきら「そのことなんだけど、世界大会で優勝してプロ入りしたの」

ここね「彼、すごいんですね」

ジャツカル「どうした？」

ここね「いえ、なんでもありません」

ジャツカル「そっか」

その時

ジャツカル「敵か、行ってくる」

ここね「私も行きます」

ジャツカル「とにかく、行くか」

ここね「でも、ここからだと遠くないですか？」

ジャツカル「ああ、だからこれで行く」

ここね「これは、バイクですか？」

ジャツカル「これはDホイールだ、まあ、バイクって思ってくれればいいけどな」

ここね「そうなんですか」

そして40分後

キュアアース「さすがにこのメガビョーゲン強すぎる」

キュアスパークル「確かにそうだよね」

キュアフォンテーヌ「とにかく、なんとかしないとね」

キュアグレース「そうだね」

グアイワル「これで終わりだ、プリキュア」

キュアスパークル「しまった!!」

グアイワル「これで終わりだ」

ジャツカル「捕食植物セラセニアント」

グアイワル「なんだと!!」

ジャツカル「こいつに攻撃しない方がいいぞ」

グアイワル「下らん」

ジャツカル「これでどうだ？捕食植物トリアンティスと捕食植物ブ  
フォリキュラでペンデュラムスケールをセッティング ペンデュラ  
ム召喚 来いバンクシアオーガ ヘリアンフォリンクス ドロソ  
フィルムヒドラ スピノディオネア」

グアイワル「なんだそいつらは？」

ジャツカル「我は、ヘリアンフォリンクスとバンクシアオーガでリ  
ンクメーカーにセット。全てを飲み込む蛇よ、今こそ、滅びを招け  
いでよ、捕食植物ヴェルテアナコンダ」

キュアスパークル「何あれ蛇？それとも植物？」

ジャツカル「どつちもだ、我は2000ポイントを支払いデッキか  
らフュージョンを手札から発動 スピノディオネア ドロソフィル  
ムヒドラそしてヴェルテアナコンダで融合 混沌に司る、悪魔の植物  
よ、怒りとなりすべてを滅ぼせ融合召喚捕食植物トリフィオヴェル  
トウム」

キュアフォンテーヌ「なんかかっこいい」

ジャツカル「さらに効果発動、貴様のモンスターに捕食カウンター

を乗せる」

メガビョーゲン「メガビョーゲン!!」

ジャツカル「やれ、トリフィオヴェルトウム」

メガビョーゲン「メガビョーゲン」

ジャツカル「終わったな、んつ、まさかナンバーズに乗っ取られて

たとはな、ナンバーズ2か、面白い、大丈夫か？」

ひなた「なんとか大丈夫です」

ちゆ「なんとか大丈夫です」

ジャツカル「そっか、ならよかった」

アスミ「そのカードは？」

ジャツカル「ナンバーズだ、私の記憶のカードだ」

のどか「そうなんですね」

ジャツカル「まあ、これが、本来なら、トリファイオヴェルトウムには捕食カウンターを乗せたモンスターを守備表示で召喚できるが、意味はなかったな」

ここね「確かにそうですね」

ジャツカル「そのようだな」

## 聖なる騎士 新たな究極のゼアル

ジャツカル「戻ってきたな、おいしーなタウンに」

ここね「そうですね」

らん「そういえばジャツカルン」

ジャツカル「なんだその呼び方は？」

ゆい「気にしないでください」

ジャツカル「そうか、それでどうした？」

らん「別次元から来たって本当なんですか？」

ジャツカル「ああ、事実だ」

ここね「別次元ですか？」

ジャツカル「ああ、エクシース次元ってところから来た」

ゆい「そのエクシース次元ってどんなところなんですか？」

ジャツカル「ああ、いい場所だった、前まではな」

あまね「前まではってどういうことですか？」

ジャツカル「アカデミアって連中が来てからエクシース次元は滅ぼされた」

ここね「滅ぼされたってどういう」

ジャツカル「奴らは次元戦争を行おうとしている、そのための侵攻場所がエクシース次元だった」

ひなた「めつちや最悪じゃん、そのアカデミアって連中」

ジャツカル「ああ、確かにな」

その時

キュアマカロン「ジャツカルさん」

ジャツカル「どうした？電話してきて」

キュアマカロン「敵が現れて今、交戦中なんです、援軍を」

ジャツカル「分かった、敵か、行くか」

そして20分後

キュアハニー「何あいつら強い」

キュアシヨコラ「大丈夫、マカロンがジャツカルさんに連絡してくれたから」

ナルシストルー「これで君達も終わりだね」

ジャツカル「来い聖騎士ボールス」

ナルシストルー「また貴様か」

ジャツカル「悪いけど、お前ら、なんか気に入らないだから倒す、我は、聖騎士の三兄弟に聖騎士ボールスをリンクマークにセットいでよ、聖騎士の追想イゾルデ」

ナルシストルー「仕方ない、やれモットウバウゾー」

モットウバウゾー「ウバウゾー」

ジャツカル「やつてくれるじゃん、お前、だったら、これだ、焰聖騎士アストルフオ、そして二重召喚、焰聖騎士モージ、我はオリヴィエ モージ アストルフオでチューニング 怒りの剣 炎を纏え その怒りで敵を斬れ シンクロ召喚いでよ焰聖騎士シャルル」

キュアアムヤム「ヤムヤムの手伝う、バリバリカッターブレイズ」

モットウバウゾー「ウバウゾー」

キュアアムヤム「えっ、効いてないし」

キュアグレース「私に任せて、プリキュアヒーリングフラワー」

モットウバウゾー「ウバウゾー」

キュアグレース「全然、ダメ、んっ」

キュアフォンテーヌ「どうしたの？」

キュアグレース「なんか番号みたいなのが見えた、1番だって」

ジャツカル「そうか、だったら、あいつもか、ナンバーズ1をもらう、装備魔法天命の聖剣を装備、これで破壊を防ぐ」

ナルシストルー「ふざけたことをしてくれるな、だけど、操り人形をやらせてもらう」

ジャツカル「操り人形だと？それはあまねのことか？」

ナルシストルー「それがどうした？」

ジャツカル「貴様は許さん」

キュアプレシヤス「貴方は許さない」

その時

ジャツカル「これは、ゼアルの光」

キュアプレシヤス「いつもより、かなり強い」



ジャツカル「そうだな、我と」

キュアプレシヤス「私達で」

二人「オーバーレイ」

アルティメットゼアルMkⅡ「アルティメットゼアルMkⅡ」

ナルシストルー「なんだその姿は？」

アルティメットゼアルMkⅡ（ジャツカル）「アルティメットゼアルMkⅡ」

アルティメットゼアルMkⅡ（ひなた）「なにこれめっちゃすごいじゃん」

アルティメットゼアルMkⅡ（ちゆ）「なんだか分からないけど、行くよ、さらに聖剣カリバーンをシャルルに装備、そしてシャルルの効果でモットウバウゾーを破壊」

ナルシストルー「馬鹿な、モットウバウゾーが」

アルティメットゼアルMkⅡ（ここね）「これで終わらせる、焰聖騎士シャルルで攻撃」

ナルシストルー「ちつ、覚えてけよ」

ジャツカル「逃げたか」

らん「ここぴーすごい」

ここね「これもジャツカルさんのおかげだよ」

ジャツカル「お前のやり方がうまかったただけだ」

ここね「そんなことはありませんよ」

## 運命と思い

ジャツカル「一応、ナンバーズは1〜108までそろった、これで私の願いは叶う」

ここね「そういえば、ナンバーズが全部そろったらどうなるんですか？」

ジャツカル「どうなるってそりゃあ、願いが叶う」

あきら「ということはエクシード次元を」

ジャツカル「いや、そうする必要はない、もう瑠璃はいないんだ」

あおい「そういえばそうでしたね」

ジャツカル「そうだ、ここねとらんとあまね」

あまね「どうしましたか？」

ジャツカル「お前らもデュエルやってみないか？ここねは初体験だが結構なかなかうまかったし、どうだ？」

ゆい「あれっ、私は？」

ジャツカル「ゆいはダメだ、そもそも勉強も出来ないのにデュエルが出来るはずがないだろ」

らん「らんらんは、テストできなかつたですし」

ジャツカル「ああ、らんは確かにテストは出来なかつたが、ゼアルになつた時よかつたからな、育てればなかなかいい具合に育つ」

あきら「そうなんですか？」

ジャツカル「そうだ、あとあすかもなかなかの筋だと思うが」

あすか「私もですか？」

ジャツカル「ああ、一応、見た目はあるんだがな」

あまね「でも私に出来るのでしょうか、結構難しいように思えますが」

ジャツカル「確かにな、文が理解できないとちよつとあれだがな」

らん「例えば？」

ジャツカル「できるとするだな」

ゆい「どちらと同じように思えるんですが」

ジャツカル「はあ、これだからゆいは無理なんだよな、デュエルは」

ここね「えつと、するの場合は強制で出来るとなつてれば選択効果つてことなんですね」

ジャツカル「そうだ、そこがややこしいことがあるからな」

あまね「例えば、このブラックガーデンつてカードはお互いのモンスターに攻撃力半分の効果があるつてことなんですか？」

ジャツカル「あまね、いいところに気づいたな、確かに、あまねの言う通りお互いのモンスターになるがただし、召喚　特殊召喚されるたびだからな」

響「つまり、召喚　特殊召喚したら敵味方関係なしに必ず半分になるつてことですか？」

ジャツカル「そういうことだ」

ひなた「そういえば、気になつたんですが、このドレツドルートが存在するときにブラックガーデンの効果が発動した場合つて1/4に？」

ジャツカル「確かに疑問に思つただろうな、1/4ではなく1/8になる」

ひなた「そうなんですね」

ジャツカル「他に質問は？」

奏「じゃあ、私もいいですか？」

ジャツカル「どうした？」

奏「あのエラツタつてなんですか？」

ジャツカル「ああ、エラツタね、もともとの効果があるんだけどそれを弱くするのがエラツタつていう、他は？」

ここね「無いですね」

リコ「私も無いです」

ジャツカル「そつか、じゃあ、ここねとらんとあまねは考えておいてくれ」

3人「はい」

## 思いよ届け!! クリスタルクリアウイングシンクロド ラゴン飛翔

ジャツカル「なあ、ゆい」

ゆい「なんですか?」

ジャツカル「さつきからレシピツピが出ないんだけどどういこと  
?」

ゆい「おかしいですね、えつと何を食べてるんですか?」

ジャツカル「あつ? コオロギ」

ゆい「えつ、コオロギってあの?」

ジャツカル「そのコオロギ以外に何かあるのかな?」

ゆい「嫌あああああああ」

らん「ゆいぴょんどうしたの?」

あきら「何があつたの?」

ゆい「虫、嫌」

ここね「虫なんていないよ」

ゆい「違うの、ジャツカルさんが食べてるの」

かれん「えつ、本当に食べてるの?」

ジャツカル「食べる?」

エレン「いえ、私は遠慮しておきます」

ここね「一つもらってもいいかしら?」

ゆい「ここねちゃん本当に食べるの?」

ここね「うん、あつ、これおいしい」

ジャツカル「そうだろ」

ここね「エビの味ですね」

ジャツカル「そうなんだよ、それなのにレシピツピが出てこないん  
だよ」

ここね「人が集まる場所ではないですからね」

ジャツカル「そうなの?」

ここね「はい」

ゆい（さすがに昆虫のレシピツピは）

ジャツカル「そういえば、あまねはどうした？」

らん「そういえば生徒会長は見てないですね」

ジャツカル「なんか嫌な予感がするな」

らん「そうなんですか？」

その時

まなつ「ジャツカルさん、援護をお願いします」

ジャツカル「分かった」

そして20分後

ジェントルー「これで終わりだ、プリキュア」

ジャツカル「手札からSRメンコートを特殊召喚」

プレシヤス「ジェントルー!!」

ヤムヤム「はにやなんで」

ジャツカル「なんだあいつ？」

プレシヤス「実は、ジェントルーはあまねさんなんです」

ジャツカル「あまねだど!!なんであまねが？」

スパイシー「実は、洗脳されてて」

ジャツカル「そっか、だったら、奪われたものは奪い返す、我は手

札から、三つ目のダイスを召喚、レベル4メンコートにレベル3三つ目のダイスをチューニング。轟く翼、美しく羽ばたき 過去と未来を繋ぎ合わせよ シンクロ召喚 クリアウイングファストドラゴン」

ジェントルー「何、ドラゴンだと」

ジャツカル「あまね、今すぐ、元に戻してやる」

ジェントルー「私はジェントルーだ」

ジャツカル「仕方ない」

ジェントルー「私はジェントルーだ、やれウバウゾー」

ウバウゾー「ウバウゾー」

ジャツカル「仕方ないSRデュプリゲート、こいつでウバウゾーを手札に戻すと言いたいのが退場してもらう」

ジェントルー「なんだど!!」

ジャツカル「そして、手札から、SRルーレット、こいつで、電々

大公を墓地へ、サイコロを振る」

ジェントルー「なにで来ようが、無駄だ」

ジャツカル「来たぜ、3、デツキからSRビーダマシンとSR赤目のダイス、そしてビーダマシンと赤目のダイスをチューニング、美しき翼よ 今こそ羽ばたき、邪悪な心を打ち砕け、シンクロ召喚 クリスタルクリアウイングシンクロドラゴン」

ジェントルー「なんだ、そのドラゴンは!!」

その時

あまね（これを壊してジャツカルさん）

ジャツカル「あまね、分かった、クリスタルクリアウイングシンクロドラゴン、あの黒いハートを破壊しろ、旋風一閃ヘルダイブストライク」

ジェントルー「きやああああああ」

ジャツカル「あまね!!」

あまね「ありがとう、ジャツカルさん」

ジャツカル「気にするな、それよりあれは何をしてる」

スパイシー「気を付けて、新たなウバウゾーを生み出すきよ」

ジャツカル「無駄だ、クリスタルクリアウイングシンクロドラゴンはモンスター効果は受けない」

ヤムヤム「これならいけるね」

フラミンゴ「確かにね」

ジャツカル「これで、もう、くたばったな」

あまね「ありがとうございます」

ジャツカル「別に、奪われたものは必ず奪い返す、それが俺のやり方だ」

ここね「そうだったんですね」

## サイバーダークエンドドラゴン5連打

ジャツカル「それにしても、どうなってるんじや、あの名前が分かるん」

ゆい「ナルシストルーです」

ジャツカル「そのナルシストルーって野郎気に入らねえな」  
らん「ジャツカルンどうしたの？」

あきら「気にしないで、お酒が入ってるだけだから」

ジャツカル「あいつ出てこねえかな」

その時

ゆい「レシピツピが苦しんでる」

ジャツカル「よっしゃ、さっそくぶっ潰しにいくぜ」

ここね「えっ、ちよつと、行っちゃった」

あまね「あの私も行きます」

ゆい「分かった」

そして20分後

ナルシストルー「出てこいプリキュア」

ジャツカル「ようやく見つけたぜ、ナルシストルー」

ナルシストルー「また君か」

ジャツカル「お前に聞きたいことがある」

ナルシストルー「何？」

ジャツカル「あまねを洗脳したのはてめえか？」

ナルシストルー「そうだよ」

ジャツカル「そうか、なら死にたいようだな、魔法発動オーバーロー

ドフュージョン発動、フィールドのサイバーダークエツジ キール

ホーンを融合、いでよ、サイバーダークドラゴン」

ナルシストルー「何を出そうが無駄だよ」

ジャツカル「無駄かどうかは試してみるか？我はサイバーダークインヴェイジョンを発動、我は、墓地のサイバーエンドドラゴンをサイバーダークドラゴンに装備」

ナルシストルー「装備？それだけ？」

ジャツカル「そうだ」

キュアメロディ「あー、もう、始まつてる」

キュアマーマイド「それにしても、彼はモンスターに装備モンスターを付けたようね」

ジャツカル「さらに、サイクロンを発動、サイバードークインヴェイジョンを破壊」

キュアヤムヤム「自分のカードを破壊？」

ジャツカル「まだだ」

その時

あまね「あの私もやります」

ジャツカル「そっか、じゃあ、やるか」

あまね「はい」

ジャツカル「我と」

あまね「私で」

二人「オーバーレイ」

ゼアル完全体「エクシーズチェンジ　ゼアル」

ナルシストルー「なんだと、どういうことだまるで意味が分からんぞ」

ゼアル完全体（ジャツカル）「だったら、こいつでどうだ、我はサイバードラゴンを装備したサイバードークドラゴンを墓地に送り融合、混沌の力よ、我が怒りよ」

ゼアル完全体（あまね）「過去の記憶を破壊し」

ゼアル完全体（ジャツカル）「我が怒りとなり現れよ、融合召喚サイバードークエンドドラゴン」

ナルシストルー「馬鹿か、そんな奴だしても何が出来る？」

ゼアル完全体（あまね）「私はサイバードークエンドドラゴンの効果発動、墓地のサイバードラゴンを装備」

キュアフォンテーヌ「装備しただけ？」

ナルシストルー「くだらない、それだけか、やれウバウゾー」

ゼアル完全体（ジャツカル）「無駄だ、サイバードロードフュージョン発動、墓地のサイバードラゴン3体を除外、いでよ、サイバード



ドラゴン召喚」

ナルシストルー「くっ、2体目だと」

ゼアル完全体（ジャツカル）「さらに効果発動、墓地のサイバードークキールを装備」

ナルシストルー「またか」

そして20分後

ゼアル完全体（ジャツカル）「そして最後」

ゼアル完全体（あまね）「私は、サイバードークエッジを装備する」

ゼアル完全体（ジャツカル）「やれサイバードークエンドドラゴンで攻撃」

ナルシストルー「馬鹿か、そんなドラゴン1匹で何が出来る？」

ゼアル完全体（ジャツカル）「馬鹿か、サイバードークエンドドラゴンは装備したモンスターの数だけ攻撃出来る」

キュアスパイシー「サイバードークエンドドラゴンが装備してるのは5体」

キュアパッション「合計5回攻撃」

ゼアル完全体（あまね）「だったら、これよ、速攻魔法リミッター解除、これで攻撃力を倍にするわ」

キュアヤムヤム「ということは攻撃力100000のモンスターの攻撃が5回」

ゼアル完全体（ジャツカル）「覚悟しろよ、エヴェリューションダークバースト5連打」

ナルシストルー「馬鹿なこの俺に、覚えていろ」

ジャツカル「逃げたか」

あまね「ごめんなさい、私のせいで」

ジャツカル「気にするな、あまねも私の弟子だ、手出しする奴は誰だろうとぶっ潰す」

## 宝玉達のか 偽りのナンバーズ

ジャツカル「それにしても、最近暇だな」

ここね「そうですね」

ジャツカル「それにしても、どうするかな」

ゆい「そうですね」

ローラ「それよりどうするの?」

ジャツカル「なんとかなるだろ」

奏「なんとかなるならいいけど」

ジャツカル「それにしても、どうするかな?」

その時

ゆい「レシピツピが」

ジャツカル「またあのナルシスト野郎か、さっさとぶっ潰す」

そして20分後

キュアプレシヤス「おかしい、誰もいない」

キュアスパイシー「確かに」

ジャツカル「どこにいった?」

ナルシストルー「ここまで感じてくるとは君もやるね」

ジャツカル「はあ、またか、悪いけどさ、お前がいるとこつちの宝

石が曇るんだよね」

キュアヤムヤム「宝石?」

ジャツカル「とにかく、やるぞ」

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

ジャツカル「面白い、やってみるか、行くぜ、宝玉の絆を発動、我

はサファイアペガサスを手札にエメラルドタートルを魔法 罨ゾー

ンに」

キュアメロディ「あれっ、モンスターを魔法 罨ゾーンに?」

ジャツカル「宝玉獣は墓地に送られる代わりに魔法 罨ゾーンにも

行くことが可能だ」

キュアスパークル「そうなんだ」

ジャツカル「仕方ない、まずは、こいつだ、宝玉獣ルビーカバンク

ルを召喚」

ルビーカーバンクル「キュー」

キュアスパイシー「キュアヤムヤム」かわいい」

ジャツカル「カードをセツト ターンエンド」

ナルシストルー「いいだろう、消し去ってやる、モットウバウゾー」

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

ジャツカル「ルビーカバンクルが魔法 罨に行く、そして私のター

ン ドロー、今度はこいつだ、宝玉獣サファイアペガサス」

サファイアペガサス「今回はあいつを倒せばいいんだな」

ジャツカル「そうだ、やれサファイアペガサス サファイアハリ

ケーン」

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

ジャツカル「どうした、来いよ」

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

ジャツカル「我は宝玉の守護者と宝玉の先導者でペンデュラムスケールをセツトさらにペンデュラム召喚トパーズタイガー アンバーマンモス コバルトイーグル アメジストキャット」

キュアスパイシー「すごい、4体を召喚した」

トパーズタイガー「なんだあいつは？」

アンバーマンモス「どうやら敵のようだな」

コバルトイーグル「面白い、やってやる」

アメジストキャット「面白くなりそうね」

ジャツカル「やれ、一応ターンエンド」

ナルシストルー「面白い」

ジャツカル「罨発動 宝玉の玲ろうトパーズタイガーの攻撃力は守備力だけあがる」

キュアプレシヤス「トパーズタイガーの攻撃力は1600」

キュアヤムヤム「守備力は1000ということは」

ジャツカル「攻撃力は2600だ、だが、魔法 罨に行く、ちよつと足りなかったからかな？」

キュアメロディ「だったら、援護するよ」

ジャツカル「その必要はない」

キュアメロディ「どういうことですか？」

ジャツカル「我の場にはルビー サファイア トパーズ アメジスト エメラルド コバルト アンバーの7つ、貴様には例を言うぜ、我はいでよ、究極宝玉神レインボードラゴン」

キュアアムヤム「あれはドラゴン」

キュアスパイシー「綺麗」

ジャツカル「そして、レインボードラゴンと7体の宝玉獣を除外、真実の力よ、永遠となれ、すべての輝きよ、新たな龍となり降臨せよ、いでよ究極宝玉神レインボードラゴン オーバードライブ」

キュアスパイシー「さらに綺麗になった」

キュアプレシャス「すごく、なんていえばいいんだろう」

ジャツカル「そして、ペンデュラム召喚、こいつトパーズタイガー トパーズタイガー「もう一度かいだらう」

ナルシストルー「こざかしいな」

ジャツカル「レインボードラゴン オーバードライブは除外される宝玉獣の数が7体以上なら、攻撃力が7000上がる」

キュアスパークル「むっちゃ強いじゃん」

ジャツカル「トパーズタイガー終わらせろ、トパーズファンク」  
トパーズタイガー「おらあ」

ジャツカル「さらに、手札から究極宝玉獣レインボードラゴンを特殊召喚、やれ、レインボードラゴン、オーバークザレインボー、あとはキュアスパイシー「レインボードラゴン オーバードライブ、レインボースパイシーベイキン」

キュアアムヤム「えっ、何その技」

キュアスパイシー「気にしないで」

ナルシストルー「覚えてろ」

ジャツカル「まったく、面倒だな、だがナンバーズ2 シャドーモスキートが入手できたからいい」

キュアスパイシー「そうだったんですね」

## 新たな力 トリプルチューニング

ジャツカル「それにしても、どうすっかな」

あすか「あの」

ジャツカル「どうした？」

あすか「えっと、そのエクシード次元ってどんなことなんですか？」  
ジャツカル「ああ、昔はよかったな、だが、今は違う」

ローラ「あすか、聞いちやいけないことを聞いたんじゃないの？」  
ジャツカル「気にするな」

ここね「そういえば、ナンバーズってそんなに危険なんですか？」  
ジャツカル「ああ、人間の心の闇を増幅する」

ゆい「そうなんですネ」  
ジャツカル「ああ、そういえば、今更なんだがレシピッピってなんだ？」

ローズマリー「レシピッピってのは、人々のいる場所には必ず存在  
していて、飲食する場所に現れるの」

ジャツカル「それって誰でも、見えるのか？」

ゆい「誰でもってことではないです」

ジャツカル「そうなのか、それと、ブンドル団ってなんだ？」

ここね「ブンドル団はレシピッピを奪っておりナルシストルの生  
み出すモットウバウゾーのエネルギー源になるだけじゃなく記憶も  
消失するんです」

ジャツカル「それで何をすればいい？」

ローズマリー「ブンドル団からレシピボンってのを取り戻すのよ」

ジャツカル「そういうことか、それより敵だな」

ゆい「レシピッピが苦しんでる」

ジャツカル「いくか」

ゆい「はい」

そして20分後

ナルシストルー「さあ、来なよプリキュア」

ジャツカル「やれ、レッドデーモンズドラゴン アブソリユートパ

ワーフォース」

ナルシストルー「やはり君は面倒だね」

ジャツカル「なあ、レシピボンつての返してくれないかな？」

ナルシストルー「それは無理だね」

ジャツカル「そっか、力づくでもやるしかないか」

キュアスパイシー「えっ、ちよつと本気過ぎない」

キュアリズム「彼は気に入らないのはどんな手段を使っても倒すからね」

キュアプレシャス「そうなの？」

キュアフローラ「そうなの」

ジャツカル「そうだ、面倒なことはしたくないんだがね、あまね、ゼアル完全体で行くぞ」

あまね「えっ、はい」

ジャツカル「我と」

あまね「私で」

ジャツカル「あまね「オーバーレイ」

ゼアル完全体「ゼアル完全体」

ナルシストルー「なんだよ、本当にお前」

ゼアル完全体(ジャツカル)「我はクリムゾンリゾネーターを召喚さらに効果発動」

ゼアル完全体(あまね)「テツキからチューナーモンスター バリア

ダブルリゾネーターを特殊召喚」

キュアフラミンゴ「チューナー？」

キュアジェラート「チューナーを3体召喚？ダブルチューニングして、それで残りの体のチューナーはどうするんだ？」

キュアリズム「多分、次で新たなモンスターを出してシンクロするんじゃない」

ゼアル完全体(ジャツカル)「違うな、我がやるのは、こうするんだよ、我はレッドデーモンズドラゴンにバリア クリムゾン ダブルをトリプルチューニング」

キュアシヨコラ「トリプルチューニング!!」

キュアマカロン「これは初めてね」

ゼアル完全体(ジャツカル)「地獄の炎よ、悪魔の魂よ」

ゼアル完全体(あまね)「ジェントルにゴージャスに」

ゼアル完全体(ジャツカル)「愚かなる患者どもに」

ゼアル完全体(あまね)「最大のフィナーレを」

ゼアル完全体(ジャツカル)「シンクロ召喚 スカーレットスーパー  
ノヴァドラゴン」

ゼアル完全体(あまね)「食卓の最後を、この私が飾ろう」

キュアスパークル「スカーレットスーパーノヴァドラゴン」

キュアスカーレット「それに、トリプルチューニングって」

ナルシストルー「なんだ、そのドラゴンは」

ゼアル完全体(ジャツカル)「さらに、針虫の巣窟発動、自分のデツキの上から5枚ボツシュートする、そして墓地に送られたのがダークリペアラ― レッドリゾネーター ジュツテナイト 竜核の守護者、チューナー5枚」

ナルシストルー「それがどうした？」

ゼアル完全体(あまね)「甘いわね、スカーレットスーパーノヴァドラゴンは墓地のチューナーの数×500なのよ」

ナルシストルー「となると合計8枚ってことか」

ゼアル完全体(ジャツカル)「違うな、合計は9枚だ」

ナルシストルー「どういうことだ？」

ゼアル完全体(ジャツカル)「レッドデーモンズドラゴンもシンクロモンスターそのためチューナーを使う」

キュアスカーレット「ということは、合計4500アップ!!」

ゼアル完全体(ジャツカル)「そうだ、攻撃力は8500だ」

ナルシストルー「なんだと!!」

ゼアル完全体(ジャツカル)「これで終わりだ」

ゼアル完全体(あまね)「アブソリュートスーパーノヴァフォース」  
ナルシストルー「くっ、覚えている」

ジャツカル「まっ、こんなものか」

あまね「確かにそうですね」

生まれるナンバーズ1000 新たなスターヴヴェ  
ノム

ジャツカル「それにしても、どうするか（だけど、なんでナンバーズがあまねに反応してる?）」

まこと「どうしたんですか?」

ジャツカル「なんか、ナンバーズがあまねに反応してるんだよな  
まこと「何ですか?」

ジャツカル「分からない」

響「そうなんですか」

ジャツカル「ああ、そうだ、なぜかは分からない」

奏「でもなんでですか?」

ジャツカル「さあな」

あまね「どうかしたのですか?」

ジャツカル「いや、なんか、あまねにナンバーズが反応してるんだ、  
しかもそれがなかなか収まらない」

ここね「なんでですか?」

ジャツカル「さあな」

その時

ジャツカル「敵か、とにかく、行くか」

そして20分後

セクレトルー「プリキュア出てきなさい」

ジャツカル「今回は貴様か」

セクレトルー「貴方はあの時の」

ジャツカル「とにかく、倒させてもらうぞ」

セクレトルー「貴方に倒せるかしら?」

ジャツカル「ああ、大丈夫だ」

キュアソード「大丈夫なの?」

ジャツカル「ああ、大丈夫だ、まずは、ターンエンド」

キュアスパイシー「えっ、ターンエンド、何もやってないよね」



キュアヤムヤム「そうだよね」

ジャツカル「奴をなんとかしないとな」

キュアスパイシー「そうですね、でも、貴方をここで倒すわ」

セクレトルー「馬鹿ね、何も出さないで、私のモットウバウゾーに勝てるのかしら？これは一気にケリをつけるわ、やりなさい、モットウバウゾー」

ジャツカル「馬鹿め、我は捕食植物セラセニアント」

セクレトルー「なっ、攻撃時に召喚されるとは」

ジャツカル「次は、我だ、我は、融合発動、手札のヘリアンフォリンクスとセラセニアントを融合。悪魔を捕食する植物よ 邪悪を破壊する植物よ、力を示し現れよ、融合召喚 捕食植物キメラフレシア」  
キュアヤムヤム「あれは、キメラ？ラフレシア？」

ジャツカル「どっちもだ、さらに、プレデタープライムフュージョン発動、手札のダーリングゴブラとキメラフレシアを融合」

キュアメロディ「ちよつと待って、せっかく召喚したキメラフレシアを融合素材にするなんて」

ジャツカル「混沌を司る、悪魔の植物よ 凶悪の蛇と融合し植物よ、悪魔の力で神秘の渦で合わさりて今、新たな命を生み出せ融合召喚いでよ、スターヴヴェノムプレデターフュージョンドラゴン」

キュアシヨコラ「あれは、スターヴヴェノムフュージョンドラゴン？」

キュアマカロン「違うみたい」

ジャツカル「スターヴヴェノムプレデターフュージョンドラゴンよ、奴を粉碎しろ、ダークネスフラワー」

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

ジャツカル「邪魔をするからこうなるのだ」

セクレトルー「覚えてろ」

ジャツカル「やった」

ここね「そうですね」

しかし、まだ知らなかった、新たなナンバーズが誕生していたことを

## 新たなプリキュア キュアファイナーレ ナンバーズ 総出撃

ジャツカル「やはり、ナンバーズたちがあまねに反応している、なぜだ？」

ここね「どうしたんですか？ やっぱりナンバーズが生徒会長に反応してるのが気になってるのですか？」

ジャツカル「ああ、そうだ」

らん「それにしても、何かいいのがないのかな？」

ジャツカル「さあな」

そのころ、あまねは

あまね「なんで私にナンバーズが反応してるのか、私に何かあるのか・・・でも何かがあるとしたら一体」

ジャツカル「あまね、どうした？ なんでも相談に乗るが」

あまね「あつ、大丈夫です」

ジャツカル「そつか、ならいいが」

その時

ジャツカル「敵か」

そして20分後

ナルシストルー「どうした、プリキュア、弱いな」

キュアシヨコラ「くっ、やっぱり強すぎる」

その時

ジャツカル「ペインゲイナーやれ」

キュアスパイシー「ジャツカルさん、生徒会長」

あまね「ナルシストルー、これ以上レシピツピを苦しめないで」

ナルシストルー「それは無理だな」

ジャツカル「さてどうするか（だがここに来る前にDNA改造&移植手術で光属性の悪魔族に変えたからよかったがさてどうするか）」

ナルシストルー「まあいい、邪魔をするなら、その気持ち悪い蜘蛛ごと消してやるよ」

あまね「これ以上は何も傷つけさせない」  
その時

あまね「この光は、だけど、なんでも行ける」

ジャツカル「ナンバーズたちがあまねに反応している」

ナルシストルー「なんだと!!」

キュアヤムヤム「生徒会長が」

キュアプレシヤス「プリキュア」

キュアファイナーレ「ジエントルにゴージャスに咲き誇るスウィート

ネス キュアファイナーレ 食卓の最後を、この私が飾ろう」

ジャツカル「ナンバーズの反応が消えた、まあいい、行くか、キュアファイナーレ」

キュアファイナーレ「ジャツカルさん、私は・・・」

ジャツカル「多分、ナンバーズが力を与えたんだろ」

キュアファイナーレ「ナンバーズが、私に」

ジャツカル「とにかく、やるしかねえな、我はゼアルフィールドを発動、そして、逃げ惑う民を召喚、さらに、逃げ惑う民とハイドロクホークでオーバーレイ、混沌の闇に響く羽音よ、怒りの力で敵を蹴散らせ エクシーズ召喚いでよ、蚊学忍者シャドーモスキート」

ナルシストルー「そんな雑魚に何が出来る、とはいえ、お前も厄介だな、モットウバウゾー」

ジャツカル「無駄だ、シャドーモスキートの効果発動、オーバーレイユニットを使い、幻覚カウンターを乗せる」

キュアシヨコラ「幻覚カウンター？」

ジャツカル「そして、幻覚カウンターがあるモンスターの攻撃力分のダメージを与える」

ナルシストルー「ちっ、面倒な奴だな」

ジャツカル「どうした、その程度か？」

ナルシストルー「ふざけた真似をしてくれたな」

ジャツカル「次は・・・来たぜ、RUMアストラルフオーズ、これで光属性 悪魔族にしたペインゲイナーを2ランクアップさせる」

キュアヤムヤム「2ランクアップって」

キュアメロディ「ペインゲイナーのレベルは11」

キュアスパイシー「その2ランクアップってことはランク13!!」

ジャツカル「混沌の闇より現れし、全てを無に変える悪魔よ、今こそこの地に降臨せよ、エクシーズ召喚 いでよ、C i N o 1 0 0 0 夢  
幻虚光神ヌメロニアヌメロニア」

キュアマカロン「カオスイマジナリーナンバーズ」

キュアリズム「なにあのカード、初めて見る」

ジャツカル「どうやら、あまねの思いがナンバーズに届いたらしい  
そうしたら、このカードが現れた、まっ、これだけは言っておくがヌ  
メロニアスを持ってなくてよかったな、運がいいな、お前、あとゼア  
ルフィールドの効果とゴシップシャドーの効果でエクシーズ素材を  
増やす」

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

ジャツカル「オーバーレイユニットを使い相手の攻撃を無効にしそ  
の攻撃力分だけ回復する」

ナルシストルー「なんだと!!」

そして20分後

ナルシストルー「なんだ、この力は」

ジャツカル「どうした？その程度か、やれジャツジデビル」

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

ジャツカル「まだだ、今度は手札からRUMザ・セブンス・ワンを  
見せ現れよ、混沌の力を司り、怒りの力で敵を撃てエクシーズ召喚ネ  
オギヤラクシーアイズタキオンドラゴン」

ナルシストルー「くっ、まだ出てくるか」

ジャツカル「プレシヤス スパイシー ヤムヤム同時攻撃で行く  
ぞ」

3人「はい」

ジャツカル「殲滅のタキオンストリーム」

3人「プリキュアMIXハートアタック」

モットウバウゾー「ごちそうさまでした」

ナルシストルー「ちっ」

ジャツカル「逃がさんぞ、カオスキマイラドラゴン、やれ」

カオスキマイラドラゴン「グギヤアアアアオ」

ナルシストルー「くっ」

ジャツカル「とどめ行くぞ、ファイナーレ」

キュアファイナーレ「ええ」

ジャツカル「その前に、レクイエム・イン・バーサークをファイナーレに装備」

キュアファイナーレ「これがナンバーズの力、これなら、行ける、ナルシストルー、レシピツピを苦しめてた罪を償ってもらおう」

ナルシストルー「お前なんか」

キュアファイナーレ「これでファイナーレだ、デリシヤスレクイエムファイナーレファンファーレ」

ナルシストルー「ちっ、これは面倒な奴が増えたな」

ジャツカル「あまね、まさか、あんたがプリキュアに慣れたとはな」

あまね「私もそれは初めてだ」

ジャツカル「そうだったのか」

あすか「そういうえば、ヌメロニアスを持ってなくてよかったなって言ってたけどどういう意味なんだ？」

ジャツカル「もし、ヌメロニアスの効果で特殊召喚したら、やばかった」

マナ「そんなにですか？」

ジャツカル「ああ、もし、出してたら、攻撃力は10万になっていて、強制攻撃そして、攻撃しなければこちらの勝利になってた」

あかね「それに攻撃無効にライフ回復やろ、どんだけチートやねん」  
ジャツカル「さあな、だけど、ナンバーズがあまねに反応してたのはプリキュアになるのを知っていたからだったのか」

## 強敵 時械神

ジャツカル「さて、あまねがプリキュアになったってことだし、祝いで、やるか」

うらら「いいですね」

ジャツカル「さて、いっちょよ、やったるか」

かれん「お酒が入ってるわね」

あまね「・・・」

ジャツカル「どうしたあまね？」

あまね「私に本当にプリキュアの資格があるのかと思ひまして」

ジャツカル「どういうことだ？」

あまね「私は、洗脳されてたとはいえ皆を苦しめました、そんな私にプリキュアになる資格なんか」

ジャツカル「なあ、あまね」

あまね「何でしょう」

ジャツカル「俺も、お前と同じで洗脳された時があつた、だけど、ダークリベリオン達がどうしても復帰しろっていうからな」

あまね「そうだったんですか？」

ジャツカル「ああ、我もその時に笑顔を作るデュエルではなく、傷つけるデュエルをしてしまった」

あまね「でも」

ジャツカル「自信がないなら、お前の持つてる変身アイテムを我に渡せ」

あまね「何ですか？」

ジャツカル「資格がないというなら、預かるだけだ、それにあんたは迷いが見える」

あまね「・・・分かりました、あともう一つ聞いていいですか？」

ジャツカル「なんだ？」

あまね「その後ろにいるドラゴンって」

ジャツカル「驚いたな、あんたにも精霊が見えるのか」

あまね「えっ、はい」

ジャツカル「そっか、一応、預かっておく、あんたの決心が決まったら、返す」

そして20分後

ジャツカル「せっかく、あまねの祝いでもやろうとしてるときに邪魔しよって」

響「あの大丈夫なんですか？」

ジャツカル「問題はない」

ここね「私達も、行こう」

ゆい「そうだね」

そして20分後

セクレトルー「プリキュア出てきなさい」

ジャツカル「今回はお前か？」

セクレトルー「まさか、あんたが来るとはね」

ジャツカル「せっかく、あまねの祝いをやろうとしてるのにさ、邪魔するなよ」

セクレトルー「面白い、やれウバウゾー」

ウバウゾー「ウバウゾー」

ジャツカル「仕方ない」

キュアメロディ「うわっ、始まつてるじゃん」

キュアトウインクル「確かにそうだよね」

キュアスパイシー「大丈夫なの？」

キュアプレシヤス「大丈夫じゃない」

ジャツカル「カードを四枚セットし、いでよ、時械神メタイオンウバウゾー「ウバウゾー」

ジャツカル「無駄だ、戦闘 効果では破壊されない」

セクレトルー「まったく目障りだね」

ジャツカル「メタイオンの効果でデッキに戻る」

キュアスパイシー「デッキに戻る？なんでまた」

ジャツカル「そして、我は虚無械アイン発動」

キュアヤムヤム「何あれ」

ジャツカル「ドロー、我は手札から、陽気な葬儀屋を発動、手札か

らサンダイオンを戻し、そして、アインの効果でデツキに戻しアイン・ソフをセツト、我は、ハイロンを召喚」

キュアソード「レベル10のモンスターをいけにえ無しに召喚した!!」

ジャツカル「エンド」

セクレトル「馬鹿にされたものね、やれウバウゾー」

ウバウゾー「ウバウゾー」

ジャツカル「畏発動、アインソフオウル」

ウバウゾー「ウバウゾー」

ジャツカル「我はハイロンをデツキに戻し、さらに、来い、究極自戒神セフィロン、そして効果発動、いでよ自戒神ラフィオンを効果を無効にし攻撃力を4000にする」

セクレトル「なんだと」

ジャツカル「さらに、手札から、カミオンを召喚」

セクレトル「ちっ」

あまね「私も戦う、なんとしても」

ジャツカル「そっか、覚悟は決まったようだな、こいつは返す」

あまね「ありがとうございます」

ジャツカル「さらに手札をすてコスモブレインを特殊召喚、さらに手札から、クリストロン シトリイを召喚」

キュアスパイシー「ここで2体のモンスター?」

ジャツカル「我はコスモブレインにシトリイをチューニング 集いし願いが新たな時を紡ぎ出す 新たな時を超え かの地に降臨せよ

いでよ、時械神祖ヴルガータ そしていでよ時械巫女」

キュアヤムヤム「あのモンスターでどうするの?」

ジャツカル「待ってろ、カードをセツトしターンエンド」

セクレトル「やれ、ウバウゾー」

ウバウゾー「ウバウゾー」

ジャツカル「畏発動 拷問車輪」

ウバウゾー「ウバウゾー!!」

ジャツカル「次は、我だ、我は、時械巫女をいけにえに自械神サン



ダイオン」

キュアファイナーレ「攻撃力4000の時械神!!」

キュアメロディ「すごい」

キュアビート「それどころか、アインソフオウルの効果で戻らない」

ジャツカル「そして、セフィロンの効果でラフィオンを特殊召喚」

キュアヤムヤム「攻撃力が4000になった」

キュアフローラ「これで5体」

ジャツカル「行け、ヴルガータ」

キュアスパイシー「攻撃力0のモンスターで攻撃？」

ジャツカル「そして、ヴルガータの効果でウバウゾーを除外」

キュアプレシヤス「やった」

ジャツカル「これで終わりだサンダイオンとセフィロンそしてラフィオンで攻撃」

セクレトル「くっ、ここまでか」

ジャツカル「どうやら、ウバウゾーは戻ってこないようだな」

あまね「ありがとう、私のために」

ジャツカル「気にするな、仲間だろ」

あまね「はい」

## 悪夢、インフイニテイダークホープ

ジャツカル「それにしても、どうすればいいかな」

あまね「ジャツカルさん」

ジャツカル「どうしたあまね」

あまね「前はありがとうございました」

ジャツカル「別に気にするな、それにあんたには守るものがある、だが我にはもう守るべきものが無い」

ここね「それって、瑠璃って人のことですか？」

ジャツカル「ああ、そうだ、誰から聞いた？」

ここね「あきらさんです」

ジャツカル「そつか・・・」

ゆい「ここねちゃん、何か聞いちやいけなかったんじや」

ここね「確かに、その可能性はあったのかもね」

ジャツカル「とにかく、それにしても・・・」

りん「ジャツカルさん、敵です」

ジャツカル「どうした、りん」

りん「敵です」

ジャツカル「分かった行くか」

そして20分後

ナルシストルー「どうしたプリキュア、その程度か？」

キュアドリーム「それにしても、どうなってるの？」

キュアスパークル「というか、あのウバウゾー二つのものが合体してる」

キュアスカーレット「確かにそのようですわね」

ナルシストルー「これで終わらせてあげるよ」

ジャツカル「シグナルレッド」

ナルシストルー「また君か、仕方ない、君から消してあげるよ」

ジャツカル「そうか、なら、やってみるか」

キュアスパイシー「気を付けてください、あのウバウゾーはいつもとは違います」

ジャツカル「二つのものが融合してるのか、面白い、行くぜ、二つの口を持つ闇の支配者、さらに、二つの口を持つ闇の支配者とシグナルレッドでオーバーレイ、呪われた力で悪を滅ぼせ、エクシース召喚 No30 破滅のアシッドゴーレム」

キュアヤムヤム「なんか、あのナンバース怖い」

ジャツカル「さらに、エクシースギフトを発動エクシース素材を二つ使い、2枚ドロ」

ナルシストルー「やれ、モットウバウゾー」

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

キュアミント「させない、プリキュアミントシールド」

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

ジャツカル「行くぜ、その前にアシッドゴーレムの効果発動、我に2000のダメージを受ける」

キュアフォンテーヌ「そんなこと、意味ないんじゃ」

ナルシストルー「馬鹿か、ついに自爆するようになったか」

ジャツカル「馬鹿はどつちだ、今のでダメージメイジを特殊召喚、そして効果ダメージを受けたときに、我は、さらに受けたダメージ分を回復する」

ナルシストルー「なんだと!!」

ジャツカル「さらに我はドラゴンゲイヴを召喚さらにカゲトカゲを特殊召喚する」

キュアエール「すごい、ここまで召喚できるとは」

ジャツカル「さらに二体のモンスターでオーバーレイ いでよ、No39 希望皇ホープ」

キュアサニー「うわっ、来たよ、チートモンスター」

ジャツカル「さらにホープレイからホープONEさらにランクアップマジックさらにアストラスフォース発動、いでよ、No39 ビヨンドザホープ」

キュアサニー「さらにチートになったなあ」

ジャツカル「そして、ヌメロンネットワークを発動」

キュアファイナーレ「景色が変わった」

キュアスパイシー「どうなってるの」

キュアマカロン「これは、フィールド魔法の影響よ」

キュアプレシヤス「フィールド魔法？デリシヤスフィールドみたいなのかな？」

ジャツカル「ヌメロンネットワークの効果でデッキのヌメロンカードを墓地に送りその効果と同じになる」

キュアレモネード「すごく強いね」

キュアサニー「というかチート満載やん」

ジャツカル「これで、RDMヌメロンフォールを墓地にそして、いでよホープルーツ」

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

ジャツカル「ちつ、しつこい野郎だ」

キュアアクア「私たちも援護します」

ジャツカル「いや、その必要はない、あまね行くぞ」

キュアファイナーレ「ええ、そのつもりだ」

ジャツカル「我と」

キュアファイナーレ「私で」

二人「オーバーレイ」

ゼアル完全体「ゼアル完全体降臨」

ナルシストルー「なんだその姿は!!」

ゼアル完全体（ジャツカル）「ゼアル完全体」

ゼアル完全体（キュアファイナーレ）「ナルシストルー、レシピツピを

返してもらおうぞ」

ナルシストルー「ふぎけるな」

ゼアル完全体（キュアファイナーレ）「HRUMユートピアフォース、これで、レベル10のモンスターにランクアップさせる、私はホープルーツでハイパーランクアップ」

ゼアル完全体（ジャツカル）「混沌より、生まれし漆黒の翼」

ゼアル完全体（キュアファイナーレ）「ジェントルにゴージャスに咲き誇るスウィートネス」

ゼアル完全体（ジャツカル）「闇の力で敵を撃て、エクシーズ召喚N

〇XXインフィニティダークホープ」

ゼアル完全体（キュアファイナーレ）「食卓の最後を、この私達で飾ろう」

キュアスパイシー「何あのホープ」

キュアシヨコラ「見たことない」

ナルシストルー「なんだ、あの力は、まあいいお前のモンスターから潰してやる」

ゼアル完全体（ジャツカル）「馬鹿め、インフィニティダークホープの効果で復活させる、そして、ライフを回復させる」

ナルシストルー「なんだと!!」

ゼアル完全体（キュアファイナーレ）「ナルシストルー、これで終わらせる、ホープ剣ダークネスファイナーレスラッシュ」

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

キュアスパイシー「やった」

ジャツカル「終わったな」

キュアファイナーレ「そうだな」

## 剣闘獣の力

ジャツカル「それにしても、何するかな？」

トワ「そうですね」

ジャツカル「一応、ナンバーズはすべてそろったしな、どうするか  
な」

エレン「そうですね」

ジャツカル「そうなのよ、どうするかだよな」

ゆい「あの」

ジャツカル「どうした？」

ゆい「たこ焼きパーティーをやるうとしてるんですがジャツカルさん  
はどうですか？」

ジャツカル「そうだな、たまには誰かと飯食うのも悪くないな」

そして20分後

ジャツカル「なんか、悪いな、誘ってもらって」

ここね「気にしないでください」

あまね「私達も助かって、貰ってるのは事実だし」

らん「そうそう」

ジャツカル「まあ、とにかく、やるか」

ゆい「そうですね」

そして20分後

ジャツカル「まったく、なんでこういう時に敵が来るかな」

ゆい「行きましょう」

ジャツカル「ああ」

そして30分後

ジャツカル「見つけたぞ、ナルシストル」

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

ヤラネーダ「ヤラネーダ」

ジャツカル「なんでモットウバウゾーだけじゃなくてヤラネーダも  
いるのかな」

キュアスパイシー「どういうこと、なんでモットウバウゾーだけ

じやなくヤラネーダも?」

キュアフラミンゴ「分からない」

ジャツカル「まあいい、仕方ない、俺がやるか」

ヤラネーダ「ヤラネーダ!!」

ジャツカル「手札から、剣闘獣ノクシウスを特殊召喚」

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

ジャツカル「だったら、こっちは、これだ剣闘獣エクイテ召喚、やれ、エクイテ」

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

ジャツカル「そしてエクイテの効果発動、エクイテをデッキに帰還」

キュアスパイシー「デッキに戻るの?」

キュアファイナーレ「でもなんで?」

ジャツカル「そして、剣闘獣ウエスパシアスを特殊召喚」

キュアフラミンゴ「となると、剣闘獣は攻撃し終えたらデッキに戻りそして、新たな剣闘獣を呼び出すってことか」

ジャツカル「そういうことだ」

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

ヤラネーダ「ヤラネーダ」

キュアサンシャイン「させないよ」

ジャツカル「助かった、次は、これだ、剣闘獣サムニテを召喚、そして再起する剣闘獣を発動、自分のフィールドに同じ種族がないとき発動が可能なカードだ」

キュアファイナーレ「ノクシウスは獣戦士族ね」

キュアメロディ「サムニテは獣族」

ジャツカル「ああ、そうだ、いでよ、剣闘獣ディケル」

キュアマカロン「ディケルは融合素材には出来ないわね」

ジャツカル「我は、サムニテとディケルをリンクマーカーにセット、運命の剣闘獣達よ、新たな命を生み出すがいい、リンク召喚 剣闘獣ドラガシス」

キュアシヨコラ「剣闘獣のリンクモンスター!!」

ヤラネーダ「ヤラネーダ」

ジャツカル「やれ、ドラガシス」

ヤラネーダ「ヤラネーダ!!」

キュアシヨコラ「やった」

ジャツカル「そしてドラガシス デツキに帰還そして、来い剣闘獣  
ラクエル 剣闘獣アन्दル」

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

キュアスパイシー「そんなことはさせないよ、ピリツのサンドプ  
レス」

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

ジャツカル「助かったぜ、私のターン ドロー我は、剣闘獣アトリ  
クスを召喚、そして、デツキに帰還せよ、ウエスパシアス ラクエル  
アन्दル 混沌の力を纏いし剣闘士たちよ、神秘の渦にて新たな命  
を生み出さん、融合召喚 剣闘獣ドミティアノス」

キュアマーマイド「新たな剣闘獣を呼び出した」

ジャツカル「さらに、速攻魔法 団結する剣闘獣を発動、手札のア  
ウグストルとアレクサンデルを融合 混沌の力を持つ剣闘士たちよ、  
新たな命を吹き込ませ剣闘獣の指揮官を目覚めさせよ、融合召喚 剣  
闘獣総監エーデイトル」

キュアスパークル「ここで二体の剣闘獣!!めっちゃすごい」

ジャツカル「さらにエーデイトルの効果を発動、召喚条件を無視し、  
EXデツキから剣闘獣を特殊召喚する、いでよ、ネロキウス」

キュアフォンテーヌ「あの流れで3体の剣闘獣の融合モンスター  
!!」

ジャツカル「これで終わらせろ、エーデイトル ネロキウス ドミ  
ティアノス」

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

ジャツカル「まったく、戻ってきつさとたご焼きパーティーやるぞ  
ここね「えっ、はい」



## DDD異次元の王 倒せゼツタイヤラネーダ

ジャツカル「面倒なことなことになるそうだな」

ここね「そうなんですか？」

ジャツカル「ああ、私の予感によく当たる」

ゆい「それにしても、どうするんですか？」

らん「うーん」

あまね「それにしても、どうするんですか？」

ジャツカル「まずは、この世界の脅威を排除する必要がある」

あきら「そうですね」

その時

あすか「敵が現れて私達じゃ何もできそうにない、援護を頼む」

ジャツカル「分かった」

そして20分後

ジャツカル「あいつは、ウバウゾーでもモットウバウゾーでもねえな、なんだ？」

キュアフラミンゴ「あいつは、ゼツタイヤラネーダです」

ジャツカル「となるとヤラネーダの強化形態ってことか？」

キュアラメール「そういうことになるわね」

ジャツカル「ちようどいい、試したいデツキがあつたしな、お前が

最初のモルモットだ」

ゼツタイヤラネーダ「ヤラネーダ」

ジャツカル「無駄だ、DDケルベロスを召喚」

ゼツタイヤラネーダ「ヤラネーダ」

ジャツカル「やはり、強化体、強いな、だったらこいつだ、DD魔

導賢者コペルニクス」

ゼツタイヤラネーダ「ヤラネーダ」

ジャツカル「ちっ、さすがにこれはまずいか」

キュアスパイシー「ジャツカルさん、ゼアルVIで行きましょう」

ジャツカル「分かった、我自信と」

キュアスパイシー「私でオーバーレイ」

ゼアルVI「降臨ゼアルVI」

ゼアルVI（キュアスパイシー）「分け合うおいしき、焼き付けるわ」  
ゼツタイヤラネーダ「ヤラネーダ」

ゼアルVI（ジャツカル）「我は、スケール1ガリレイとスケール10  
ケプラーでペンデュラムスケールをセッティング ペンデュラム召  
喚、いでよ、DDケルベロス DDリリス」

ゼアルVI（キュアスパイシー）「私はDDリリスの効果発動 エクス  
トラデツキからDDケルベロスを手札に、さらに、DDケルベロスと  
リリスでオーバーレイ」

ゼアルVI（ジャツカル）「混沌に司る力よ 我が怒りとなりて 新た  
な王を誕生させよ、エクシーズ召喚 DDD怒涛王シーザー、さらに  
シーザー1体でオーバーレイ、怒りの弾丸 敵を撃ち抜く力となれ、  
いでよDDD狙撃王テル」

ゼツタイヤラネーダ「ヤラネーダ」

ゼアルVI（ジャツカル）「我のターン ドロー、手札から魔神王の禁  
断契約書を発動 手札のDDケルベロスとDDグリフォンを融合」

ゼアルVI（キュアスパイシー）「地獄に住まう悪魔の番犬よ 大空に  
飛ばたく悪魔の爪よ 神秘の渦で一つになりて 新たな戦士を生み  
出さん 融合召喚 来てDDD神託王ダルク、さらにリボンリボン  
を装備」

ゼツタイヤラネーダ「ヤラネーダ」

ゼアルVI（ジャツカル）「迎え撃て神託王ダルク」

ゼツタイヤラネーダ「ヤラネーダ」

ゼアルVI（キュアスパイシー）「やるわね、だけど、リボンリボン  
の効果でダルクは戻ってくるわ」

ゼツタイヤラネーダ「ヤラネーダ」

ゼアルVI（ジャツカル）「やるな、だが、我らのターン この瞬間、  
魔神王の禁断契約書の効果で2000のダメージを受ける」

キュアヤムヤム「でもそんなことしたら」

ゼアルVI（ジャツカル）「大丈夫だ、ダルクがいる限りダメージでは  
なく回復になる、そして、異形神の契約書を発動、そしてペンデュラ

ム召喚 DDパンドラ DDオルトロスそしてダークシーレス  
キューを召喚」

ゼアルVI(キュアスパイシー)「私はDDパンドラにDDオルトロス  
にダークシーレスキューをチューニング 暗黒の力 新たな時代を  
切り開き 新たな世界を守り抜け シンクロ召喚 DDD超死偉王  
ホワイトテストヘルアーマゲドン」

キュアファイナーレ「すごい連続召喚」

キュアフラミンゴ「どうやら、DDDは契約書を使ってやるってこ  
とか」

ゼアルVI(キュアスパイシー)「さらに、狙撃王テルでオーバーレイ  
運命の力よ、運命告げる新たな力 フワフワサンド de 心にスパ  
イス エクシーズ召喚 DDDしやち王デスマキナ 分け合うおい  
しき焼き付けるわ」

ゼアルVI(ジャツカル)「そして、異形神の契約書の効果発動、シン  
クロが成功したため効果の対象にはならずそしてダークシーレス  
キューがシンクロ素材になったため1枚ドロ」

キュアパイン「すごい、ここまでやっていけるとは」

ゼアルVI(キュアスパイシー)「これで終わらせる、ダルク デスマ  
キナ ホワイトテストヘルアーマゲドン、倒して」

ゼツタイヤラネーダ「ヤラネーダ」

ひなた「めっちゃすごいんだけど」

ジャツカル「さて帰るか」

ゆい「そうだね」

## 黒き翼 羽ばたく

ジャツカル「今回はどうするか」

ローズマリー「あらっ、貴方一人なのね」

ジャツカル「ローズマリーか、ゆい達はもうした？」

ローズマリー「多分、外に行ってると思うわ」

ジャツカル「そっか、それにしても、どうするか、それにしても、どうなってるのか」

その時

ジャツカル「敵か」

ローズマリー「私も行くわ」

ジャツカル「頼む」

そして20分後

ローズマリー「デリシャスフィールド」

ジャツカル「突入しろ、アームズウイング」

キュアメロディ「こいつ強くない？」

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

セクレトルー「無駄よ」

その時

ジャツカル「黒き翼を翻し、轟く剣で敵を撃て シンクロ召喚 A

B F五月雨のソハヤ」

セクレトルー「またあんた？とことん邪魔したいようね」

ジャツカル「悪いけど、こつちも暇じゃないんだ、さっさと決めさせてもらう」

キュアヤムヤム「ジャツカルン」

ジャツカル「今度は、こいつだ、B F竜巻のハリケーン」

キュアメロディ「チューナーか、守らないと」

キュアスパイシー「守るのは任せて」

キュアミント「そうだね」

セクレトルー「やりなさい、モットウバウゾー」

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

キュアミント「プリキュアエメラルドソーサー」

ジャツカル「次は、こいつだ、BF蒼天のジェットを召喚、さらにハリケーンとジェットでチューニング、漆黒の翼を翻し 秘めたる刃で斬りさけ シンクロ召喚 ABF天隠れのサヨ」

キュアスパイシー「行くよ、ピリット。へヴィーサンドプレス」  
モットウバウゾー「モットウバウゾー」

ジャツカル「やつぱり二つのものが合体してるのはさすがにきつい  
か、だったら、これだBF黒槍のブラストを特殊召喚そして、チュー  
ナーモンスター空風のジンを召喚、そして、ブラストとジンでチュ  
ニング」

キュアヤムヤム「というと、1と4でレベル5」

ジャツカル「行くぜ、漆黒の翼翻し 今こそ羽ばたけ黒翼の戦士よ  
シンクロ召喚煌星のグラム、さらに、モンスター効果で弔風のデス  
を召喚さあ、こっからシンクロと行こうか、その前にデスの効果で  
アームズウイングのレベルを5に」

キュアミラクル「でもシンクロ召喚にはチューナーが必要なはずな  
のに」

キュアビート「彼のフィールドにはチューナーはいないよね」

ジャツカル「ソハヤもサヨもブラックフェザーをシンクロ素材とし  
てる場合チューナーとして扱えるが今回はソハヤをチューナー扱い  
する」

キュアファイナーレ「すごい、ここまでの連続シンクロ召喚」

ジャツカル「いくぜ、ソハヤにサヨとアームズウイングでチュ  
ニング 漆黒の翼翻し 雷鳴と共に現れ、邪悪な敵を打ち倒せ いでよ  
ABF神立のオニマル」

キュアプレシャス「レベル12のABF」

ジャツカル「こいつがシンクロモンスターのみにシンクロ召喚され  
た場合は恋う劇力が3000上がる」

キュアファイナーレ「五月雨のソハヤも雨隠れのサヨもアームズウ  
イングもすべてシンクロモンスター」

セクレトル「ということは攻撃力は」

キュアリズム「6000」

ジャツカル「これで終わりだ、サンダーボルトブレイク」

モットウバウゾー「ごちそうさまでした」

セクレトルー「ちっ、かなり厄介ね」

ここね「すごい、あの神立のオニマルってモンスター」

響「私達が苦戦したモットウバウゾーを」

ゆい「簡単に倒した」

ジャツカル「さて、戻るか」

## 闇のフィールを撃ち破れ

あすか「ジャツカルさん」

ジャツカル「どうした？」

あすか「いえ、その、私に、以前、デュエルの腕はいいと言っ  
てましたよね」

ジャツカル「ああ、そうだ」

あすか「でもなんで私なんですか？ローラとかでもいいのでは」

ジャツカル「いや、我は見る目はあるからな、お前が一番、腕が  
いからな」

あすか「そうだったんですか」

その時

ここね「ジャツカルさん、あつ、すみません」

あまね「どうやら話中だったようね」

ジャツカル「大丈夫だ・・・」

ここね「どうしたんですか？」

ジャツカル「なあ、敵は強くなってるだろ」

あまね「確かに強くなってますね」

ジャツカル「もし、次、強敵が現れた場合だが、危険なカードを使  
うかもしれない」

ここね「それってナンバーズですか？」

ジャツカル「いや、ナンバーズじゃないが決闘竜と呼ばれるカード  
だ」

あまね「それって、ジャツカルさんの近くにいる？」

ジャツカル「あつ？なんだいたのかスターダスト、まあいい、話を  
戻すが、スターダスト使う」

ここね「分かりました」

ジャツカル「敵か、仕方ない、スターダストを使わな  
いで行ければいいんだがな」

そして20分後

キュアプレシヤス「あのウバウゾー、普通じゃない」

キュアビート「あれは、モットウバウゾーとネガトーンが合体して  
る」

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

ジャツカル「運命の力 絆を繋げシンクロ召喚ジャンクバーサー  
カー」

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

ジャツカル「なんだこれは、不幸のメロディ？しかし、モットウバ  
ウゾーにそんな能力ってなかったはずだ」

キュアビート「あのモットウバウゾーはネガトーンが合わさってい  
ます」

ジャツカル「ちつ、面倒なことをしてくれるな、しかも、ジャンク  
バーサーカーを倒すとはな（仕方ない、あれを使うか）」

キュアスパイシー「まさか、あのカードを出すんですか」

ジャツカル「仕方ないだろ、あれを出さないと」

キュアスパークル「あれって？」

キュアスパイシー「決闘竜です」

キュアカスタード「決闘竜!!なんでそんなカードを」

ジャツカル「仕方ないだろ、行くぜ、レベル5クイックシンクロン  
を特殊召喚、そしてシールドウオリアーをチューニング、閃光の龍よ、  
新たな姿を見せて見よ、シンクロ召喚閃こう龍スターダスト」

セクレトル「無駄よ、何を出そうと」

ジャツカル「くつ、やはり、このフィールに耐えきれるかどうか」

キュアプレシヤス「ジャツカルさん」

ジャツカル「離れる、この力はやばい、さすがにこの我でもこれは  
キツイ」

キュアファイナーレ「これは、まずい」

ジャツカル「やれ、閃こう龍スターダスト」

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

ジャツカル「くつ、やはりこれは」

キュアスパイシー「これは、まずいわ」

キュアヤムヤム「これ大丈夫なんだよね」



キュアスパークル「分からない」

ジャツカル「やれ、スターダスト、奴を徹底的にぶつ潰せ」

キュアフラミンゴ「まさか、闇の力に取り込まれた!!」

ジャツカル「奴をさっさとやれ」

キュアシヨコラ「ジャツカルさん、落ち着いて」

キュアマカロン「シヨコラさすがにまずいわ」

キュアフィナーレ「こうなったら私がスターダストを使いこなす」

キュアフローラ「ちよつと、フィナーレ」

ジャツカル「さっさと終わらせろ、貴様何をする!!」

キュアフィナーレ「ジャツカルさん、貴方言ってくれましたよね、私にプリキュアになる資格はないって言った時、過去は過去、つかみ取れ未来つて」

ジャツカル「放せ」

キュアフィナーレ「そうは、させない」

ジャツカル「まさか、我が」

キュアフィナーレ「くつ、これが、決闘竜の闇の力、なんなのこの力は」

ジャツカル「無理だ、お前がスターダストを使いこなせるわけがない」

キュアフィナーレ「大丈夫です、私は、負けない、私はキュアフィナーレだから」

その時

スターダスト「小娘、気に入った」

キュアフィナーレ「君はスターダストか」

スターダスト「俺が力を貸してやる、まさか、小娘が闇の力を跳ね飛ばすとはな、あんたは？」

キュアフィナーレ「キュアフィナーレ」

スターダスト「シンクロモンスターをあと2体チューナー1体とあと1体だ」

キュアフィナーレ「分かった、墓地にレベル2のチューナーはある、しかもレベル4のモンスターも死者蘇生、墓地からフォーミュラーシ

ンクロンを復活、そしてリビングデッドの呼び声でアームズエイドを復活。そして、スターブラストを発動1000払いスターダストをレベル6に」

ジャツカル「あいつどうする気だ？」

キュアファイナーレ「私はレベル2のフォーミュラーシンクロンにレベル4のアームズエイドそしてレベル6となったスターダストをチューニング 眩き光が現れし時、今こそ、新たな力を誕生せん、シンクロ召喚 今こそ最高のファイナーレを聖こう神龍スターダストシフル」

ジャツカル「あいつ、スターダストをさらに進化させただど!!」

セクレトルー「なんだその龍は」

キュアファイナーレ「セクレトルー、スターダストシフルでレシピッピを取り戻す、行け、スターダストシフル 超新星最終弾丸」

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

キュアスパイシー「ファイナーレすごい」

ジャツカル「あいつ、スターダストに気に入られたな」

あまね「すまなかった、勝手に先走って」

ジャツカル「気にするな、デュエリストなら先走ること重要だ」  
ここね「そうなんだ」

## ライディングデュエルアクセラレーション

ジャツカル「さて、今回はこれで行ってみるか」

ここね「ジャツカルさん」

ジャツカル「どうした？」

ここね「あの、その、私のデュエルの腕はどうですか？」

ジャツカル「ああ、別に大丈夫だ」

ここね「よかった、とても心配で」

ジャツカル「そっか」

ここね「あの私、外出してきます」

ジャツカル「ああ、分かった、まったく、我も教え子が出来たって  
思えばいいのかな」

しばらくして

キュアソード「ジャツカルさん、敵です」

ジャツカル「分かった」

そして20分後

キュアフラミンゴ「これは、厄介だね」

キュアサマー「確かに、そうだよね」

その時

ジャツカル「いでよ、スネークパーム」

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

セクレトルー「面倒だね、まあいいわ、あんたもここで潰すわ」

ジャツカル「面白い、一気にやらせてもらう」

キュアスパークル「ちよつと待って、なんでバイク乗ってるの」

ジャツカル「なんでって久しぶりにやってみようかなって思って」

キュアファイナーレ「いや、そういうことでは・・・デュエルをやる  
のになんでバイクに乗ってるんですか？」

ジャツカル「ああ、ライディングデュエルつてのをやろうとだな」

セクレトルー「あんたら、私を無視してるんじゃないわよ」

ジャツカル「あつ、そうだったな」

キュアシヨコラ「確かに、久しぶりだね、ライディングデュエル」

ジャツカル「行くぜ、ゾルガ来い、そして、カゲトカゲを特殊召喚。さらに、ゾルガとスネークパームとカゲトカゲでオーバレイ、運命の白騎士よ。新たな力を今見せよ、いでよ、白騎士イルミネーター」

キュアマカロン「ナンバーズ、出てきたわね」

ジャツカル「さらに、イルミネーターの効果発動、手札を捨て1枚ドロ」

キュアメロディ「1枚ドロだけ？」

セクレトル「やれ、モットウバウゾー」

ジャツカル「行くぜ、今度は、こいつだ、ゴブリンドバグ、さらに手札からゴゴギガースを召喚、さらに、ゴブリンドバグとゴゴギガースでオーバレイ、深淵より浮上する方舟よ。暗黒の世界より浮上せよエクシース召喚ナンバーズ101 S・H・Ark Knight」

キュアスパークル「あれは？」

キュアフォンテーヌ「ナンバーズ101」

ジャツカル「さらにバリアンズフォースを発動、混沌より現れる黒騎士よ、我が、怒りとなりて現れるカオスナンバーズ101 S・H・

Dark Knight」

キュアスパイシー「なんかかっこいい」

キュアファイナーレ「なんだろう、強い力を持つてる」

セクレトル「やれ、モットウバウゾー」

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

ジャツカル「やれ、S・H・Dark Knight、ダークネストライデント」

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

セクレトル「くっ、覚えてろ」

ジャツカル「よし、撃破」

あまね「なかなか、あのナンバーズやるな」

ジャツカル「当然だ、なんせナンバーズだからな」

## 地獄のえん魔竜王

ジャツカル「さて、どうするか?」

ここね「ジャツカルさんは、この世界に残ってよかったですか?」

ジャツカル「構わない」

ここね「そうなんです」

ジャツカル「それにしても、どうするかの問題だ」

あまね「問題?」

ジャツカル「ああ、敵が強くなっている」

ゆい「確かに、そうですね」

ジャツカル「さてどうするかだな」

そして20分後

ジャツカル「この気配、敵か・・・だが、これは敵が二体攻めてきたようだな、とにかく、行くぞ」

4人「はい」

そしてさらに20分後

キュアメロディ「それにしても、どうすればいいの」

キュアリズム「分からない」

キュアビート「確かにそうね」

その時

ジャツカル「混沌の力よ、炎の力で悪魔よ、よみがえれ、シンクロ  
召喚レツドデーモンズドラゴン」

ナルシストルー「またか」

セクレトルー「どうするのよ」

ジャツカル「ほう、お前ら二人が相手とはな、まあいい、ぶっ潰す」

ナルシストルー「いいだろう、お前達を倒す」

ジャツカル「珍しいな、お前ら二人が相手とはな、まあいい、やっ  
てやる」

セクレトルー「やれ、モットウバウゾー」

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

ジャツカル「ちっ、面倒だな、だったら、これだ、シンクロモンス

ターが存在しているとき、クリムゾンリゾネーターを特殊召喚、そして、レッドリゾネーターとクロックリゾネーターを特殊召喚」

セクレトルー「何をしようと無駄よ」

ジャツカル「そっか、だったら、お前ら、行くぜ」

キュアメロディ「分かったわ」

キュアビート「あれですね」

ジャツカル「我と」

キュアフローラ「私達で」

ジャツカル「オーバーレイ」

アルティメットゼアルMkII「アルティメットゼアルMkII見参」

セクレトルー「なんなのよ、あの姿は」

ナルシストルー「知らないな、初めて見る姿だ、それにしても、プリキュアと合体したのか」

アルティメットゼアルMkII（キュアヤムヤム）「行くよ、ヤムヤムはレッドデーモンズドラゴンとクリムゾン レッドリゾネーターをダブルチューニング 孤高の絶対破壊神よ 神域より舞い降り終焉をもたらせ きらめくヌードルエモーション レッドデーモンカラミティ おいしい独り占め許さないよ」

ナルシストルー「仕方ない、やれモットウバウゾー」

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

アルティメットゼアルMkII（キュアヤムヤム）「行くよ、アブソリュートヤムヤムラインズ」

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

セクレトルー「使えないわね、モットウバウゾー」

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

アルティメットゼアルMkII（キュアフローラ）「無駄よ、レッドデーモンカラミティの効果でレッドデーモンズドラゴンを特殊召喚」  
セクレトルー「なんだと!!」

アルティメットゼアルMkII（キュアビート）「私はバイスドラゴンを特殊召喚、さらに、クロックリゾネーターとバイスドラゴンでチューニング 王者の咆哮 煉獄の炎で焼き払い 新たな道を切り

開け シンクロ召喚 爪弾くは魂の調べレッドデーモンズドラゴン  
スカーライト、さらにカードをセットし、ダブルリゾネーターを召喚、  
そして、異発動キングスカーレット」

セクレトルー「馬鹿な、二体のドラゴンだと!!」

アルティメットゼアルMkⅡ(キュアファイナーレ)「まだよ、レベル  
8のレッドデーモンズドラゴンスカーライトにキングスカーレット  
とダブルリゾネーターをダブルチューニング、怒れる暴君 王者の鼓  
動と交わりてジェントルにゴージャスに咲き誇るスイートネス  
シンクロ召喚 レッドデーモンズドラゴンタイラント 食卓の最後  
をこの私達で飾ろう」

アルティメットゼアルMkⅡ(キュアフラミンゴ)「王家の神殿を発  
動しバスターモードを発動、灼熱の鎧をまといし赤き竜 王者の力  
よ、降臨せよ はたためく翼レッドデーモンズドラゴン／バスター」

セクレトルー「なんだ、ドラゴン2体だと!!」

アルティメットゼアルMkⅡ(キュアフラミンゴ)「くらえ、レッド  
デーモンズドラゴン／バスター アブソリユートクリムゾンスマツ  
シュ」

アルティメットゼアルMkⅡ(キュアファイナーレ)「これで終わり  
だ、灼熱のクリムゾンファイナーレファンファーレ」

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

ここね「やったね」

らん「やっぱりアルティメットゼアルMkⅡは大変だよ」

ひなた「そうだよね」

ジャツカル「帰るぞ」

ここね「はい」

## 深紅の眼と強靱の刃

ジャツカル「それにしても、早く敵出てこないかな」

ゆい「いきなり、何言ってるの」

ジャツカル「気にするな、とにかく出かけてくる」

ここね「分かりました」

そして、20分後

ジャツカル「それにしても、このフェニックスの部品をどこで買えるかな、つておい危ないだろ」

???「ごめんなさい、ちよつと急いでて」

ジャツカル「何を急いでた？」

???「あまねに用事があつて」

ジャツカル「あまねに？伝えることがあつたなら伝えておくぞ」

???「あまねを知ってるの？」

ジャツカル「ああ、知っている」

???「実は、生徒会長をやめるつて言ってたんです、それで」

ジャツカル「あいつは、いろいろあつたらしいからな、それでちよつと精神的にも参ってるんだろ、まあ、今はなんとか、回復はしたからな、大丈夫だ、まあ、あまりそういうことには触れないで置いてやれ」

???「だけど」

ジャツカル「あれはあいつの問題だ、大丈夫だ、それに生徒会よりやらかなきゃならないことがあるからな」

???「そういえば、貴方は？」

ジャツカル「我はジャツカルだ、あんたは？」

???「私は、山倉もえです」

ジャツカル「あいつなら、何とかなる、気にするな」

山倉もえ「分かりました」

ジャツカル「そういえば、バイクの部品つてどこで買える？」

山倉もえ「あつ、それなら、そこを右に曲がつたところに車やがあるんでそこでなら」

ジャツカル「分かった、と思ったがこんな時に出てきやがつたか」



山倉もえ「どうしましたか？」

ジャツカル「いや何でもない、行くわ」

山倉もえ「彼ならあまねをなんとかできそう」

そして20分後

キュアメロディ「なんかあいつ強い」

キュアシヨコラ「多分、以前出てきたモットウバウゾーと別の奴が

混ざり合った奴じゃ」

キュアフォンテーヌ「あれは、メガビョーゲンと合わさってる」

セクレトルー「これで終わりよ、プリキュア」

ジャツカル「苦紋様の土像発動」

セクレトルー「面倒な奴が来たわね」

ジャツカル「我は、手札から、スケープゴートを発動、トークンを

4体召喚、そして手札から、レッドアイズブラックドラゴンを」

キュアフォーチュン「黒い竜!!」

ジャツカル「さらに愚かな埋葬でレッドアイズブラックドラゴンを墓地へ、そして、死者蘇生でレッドアイズブラックドラゴンを特殊召喚」

キュアスパークル「すごい、レッドアイズブラックドラゴンを」

キュアプレシャス「2体も呼び出した」

ジャツカル「さらに、レッドアイズブラックドラゴン2体でオーバレー、赤き眼の龍たちよ、怒りの力で鋼の力を得て現れよ、いでよレッドアイズフレアメタルドラゴン」

キュアスパイシー「すごい、なんなのあのモンスター」

セクレトルー「やれ、モットウバウゾー」

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

ジャツカル「無駄だ、手札から天使のサイコロを発動、これでどう

だ・・・よし、6これで600ポイントアップ」

キュアヤムヤム「攻撃力は2800に600アップってことは」

キュアファイナーレ「3400」

ジャツカル「やれ」

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

ジャツカル「だったら、これだ、レッドアイズフュージョン、手札の蒼炎の剣士とデツキのレッドアイズブラックドラゴンを融合、赤き眼を持つ竜よ 青き炎を操る剣士よ 神秘の渦で交わりて新たな力生み出さん 融合召喚レッドアイズスラツシユドラゴン」

セクレトルー「なんだと」

ジャツカル「そして、こいつだ、ヘルモスの爪を発動、ヘルモスの爪とトリガーブルムを融合、名もなき竜の爪よ 引き金を引く竜よ 新たな力を降臨せん 融合召喚 いでよ、レッドアイズブラックドラゴンソード」

キュアスパイシー「新たなレッドアイズ？」

キュアフラミンゴ「だけど、剣だよな」

ジャツカル「レッドアイズブラックドラゴンソードをキュアファイナーレに装備させる」

キュアスパイシー「すごい、この力は？」

キュアシヨコラ「あれはクリティウスの牙と同じカード」

ジャツカル「行くぞ、ファイナーレ」

キュアファイナーレ「分かった」

ジャツカル「終わらせろ、レッドアイズスラツシユドラゴン スラツシユオブエツジ」

キュアファイナーレ「レシピツピをこれ以上苦しめさせるわけにはいかない、プリキュアレッドアイズファイナーレファンファーレ」

モットウバウゾー「ごちそうさまでした」

ジャツカル「終わった、さっさとパーツ買いに行くか」

ここね「行っちゃったね」

ゆい「そうだね」

## 輝け 銀河の眼

ある日のしんせん中学校

担任「えつと、今日は、このクラスに転校生が来ます、みんな、仲良くやってね」

全員「はい」

ゆい「転校生って誰が来るんだろう」

らん「そうだよね」

ここね「うーん」

担任「じゃあ、入ってきてください」

ここね「えつ、なんで？」

ジャツカル「初めましてジャツカルだ、えつと、この中には知り合いもいるけど、まあ、よろしく頼むわ」

担任「じゃあ、ジャツカル君の席は」

ジャツカル「ちよつといいかな」

担任「なんででしょう」

ジャツカル「席はさ、ここねの隣だつてのは予想はついているけどさ、なんで女子の服装なんだ、おかしいやろ、我は男やぞ、なんでや!!」

担任「そういわれましても急だったので、用意出来なかつたんでジャツカル「はあ、まあええわ、とにかく、ここねの隣やな」  
そして休み時間

ジャツカル「まったく、とにかく、このデツキの調整をだな」

遠藤いろは「ジャツカルさんはどこから来たの？」

玉木わかな「ジャツカルさんは何の部活に入るの？」

長瀬えな「芙羽さんとはどんな関係なの？」

ジャツカル「あー、これは落ち着いてデツキ調整できねえな）一人づつ答える、まずは、何部に入るかってのは決めてないし、ここねとは友達だ、どこから来たって言われてもな、伝わっかな、エクシーズ次元つてどこから来たんだけどな」

遠藤いろは「エクシーズ次元つて？」

ジャツカル「なんといえればいいんだろうな、ハートランドって言うても伝わらないし、そういえば、夜の写真であればあるが」

高田りさ「なんか綺麗な場所」

ジャツカル「ああ、前まではな、今はもうない、戦争によつて滅んだ」

遠藤いろは「ごめんなさい、そんなこと知らなくて」

ジャツカル「別にいい」

その時

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

ジャツカル「ちつ、なんでこんなときに」

長瀬えな「あれは、前、学校に出た怪物!!」

ジャツカル「お前らはそこにいろ（ゆい らん ここね、行くぞ）」  
ゆい「そうだね」

ここね「うん、とにかく、変身しよう」

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

ジャツカル「いでよ、フォトンスラツシャー」

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

ジャツカル「させるか、さらに、フォトンバニツシャー」

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

ジャツカル「ちつ、まだできてないんだがな」

その時

キュアスパイシー「ジャツカルさん大丈夫ですか？」

キュアファイナーレ「私達がついてる」

キュアヤムヤム「だからヤムヤム達に任せて」

ジャツカル「助かる、さらにフォトンアドバンサーを特殊召喚、さらにフォトンクラツシャーを召喚」

キュアプレシヤス「すごい、一気に4体も召喚した」

ジャツカル「さらに、バニツシャーとスラツシャーでオーバーレイ  
眩き光の幻影竜 今こそかの地を守り抜け いでよ、ギャラクシー

ステルスドラゴン、さらにカードをセットだ、来い」

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

キュアヤムヤム「させないよ、バリバリカッターブレイズ」

ジャツカル「あいつ強すぎるな、どうなってるんだ？」

キュアファイナーレ「多分、レシピツピを複数使ってるから強くなってるの」

ジャツカル「面倒だな」

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

ジャツカル「罨発動 エターナルギヤラクシー こいつで、4つ高いランクのギヤラクシーまたはサイファアを特殊召喚する、闇に輝けし銀河よ 復讐の鬼神に宿りて新たな姿を今見せよ、いでよ、ギヤラクシーアイズサイファードラゴン」

キュアプレシヤス「行くよ、1000キロカロリーパンチ」

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

その時

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

キュアスパイシー「もう一体!!」

ジャツカル「カードセット、二体同時に倒してやる」

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

ジャツカル「罨発動 サイファードビット、これでサイファードラゴンのエクシース素材を1増やす、そして、RUMサイファアセンツション、逆巻く銀河よ 守り抜く力を得て、未来を照らす道しるべとなれ エクシース召喚 いでよネオギヤラクシーアイズサイファードラゴン」

キュアスパイシー「すごい、ランクアップした」

ジャツカル「一匹は任せていいか？」

キュアヤムヤム「任せて」

キュアプレシヤス「プリキュアMIXハートアタック」

キュアファイナーレ「プリキュアデリシヤスファイナーレファンファーレ」

ジャツカル「これで終わりだ、戦慄のサイファーストリーム」

モットウバウゾー「ごちそうさまでした」

ジャツカル「終わった、お前ら大丈夫か？」

高田りさ「はい、助かりました」

遠藤いろは「貴方すごいですね」

ジャツカル「まあ、いつものことだ」

## DDD再び

ジャツカル「なんか、この女子の征服にも慣れてきたな」

高田りさ「前はありがとうございます」

ジャツカル「気にするな」

高田りさ「あの前回のドラゴンはなんだったんですか？」

ジャツカル「あれか、あれは、ソリッドヴィジョンだ」

長瀬えな「ソリッドヴィジョン？」

ジャツカル「簡単に言えば、立体映像だ、このデュエルディスクにカードを置けば、こうやって、モンスターの立体映像が現れる」

長瀬えな「すごいですね、最近は」

ジャツカル「まあ、そうだろうな、あと別に敬語じゃなくていい」

ここね「・・・」

ゆい「どうしたの、ここねちゃん」

ここね「結構、人気だなんて思ってた」

らん「もしかして、焼きもち妬いてる？」

ここね「そんなことはないよ」

あまね「凶星だな」

ゆい「生徒会長」

品田拓海「なあ、ちよつといいか？」

ジャツカル「どうした？」

品田拓海「いや、それにしても、その技術どうなってるのかと思っ  
てな」

ジャツカル「デュエルディスクか？なんといえはいいのかな、別次  
元の技術だから、説明がね、難しい」

品田拓海「そっか、それより、あのドラゴンはあんたのか？」

ジャツカル「そうだ」

品田拓海「俺は品田拓海だ、ゆい達とは一つ上の学年だな」

ジャツカル「我はジャツカルだ、よろしく頼むわ」

品田拓海「そうだな」

ジャツカル「もういいか？あいつらが待ってるんでな」

品田拓海「悪かったな」

ジャツカル「気にするな」

そして20分後

ジャツカル「敵か、こういう時に面倒な」

そして別の場所では

ヤラネーダ「ヤラネーダ」

メガビョーゲン「メガビョーゲン」

キュアグレース「くっ、これまずいよ」

キュアフォンテーヌ「そうだよね」

キュアフラミンゴ「大丈夫、ジャツカルさん達が来てくれる」

その時

ジャツカル「ペンデュラム召喚DDプラウドシユバリエ DDD覇

龍王ペンドラゴン」

キュアスパイシー「大丈夫？」

キュアフォンテーヌ「大丈夫、ありがとう」

キュアアース「助かりました」

ジャツカル「気にするな」

チヨンギーレ「なんだ、お前か邪魔するな」

ダルイゼン「何、君達？」

ジャツカル「面白い、ブンドル団ではないのか、まあいい、お前ら

も潰す」

チヨンギーレ「面白い、やれ、ヤラネーダ」

ヤラネーダ「ヤラネーダ」

ジャツカル「邪魔をするか、面白い、我は覇龍王ペンドラゴンをい

けにえに時の闇に潜むパラダイム。必然の力が因果律の悪魔を目覚

めさせる、いでよDDD運命王ゼロラプラス」

キュアヤムヤム「攻撃力が決まってないモンスター？」

ジャツカル「さて、どっちがいいかな」

チヨンギーレ「面白い、やれヤラネーダ」

ヤラネーダ「ヤラネーダ」

ジャツカル「まずは、お前だ、ゼロラプラスで攻撃」



キュアアクア「攻撃力？のモンスターで攻撃？」  
ジャツカル「こいつの効果で相手モンスターのもともとの攻撃力の倍になる」

キュアスパークル「めっちゃ強いじゃん」

ジャツカル「次は、お前だ」

ダルイゼン「やれ、メガビョーゲン」

メガビョーゲン「メガビョーゲン」

ジャツカル「次は、これだ、DDグリフォンを特殊召喚」

ダルイゼン「仕方ない、あんたからやってやるよ」

キュアスパイシー「そうは、させないよ、シンデレラフィット」

メガビョーゲン「!!」

ジャツカル「いくぜ、こいつは、どうだ、ペンデュラム召喚 魔導賢者トーマス DD壊薙王アビスラグナロク、そしてトーマスとアビスラグナロクでオーバーレイ 混沌よ、地獄となり現れる漆黒の闇DDD超死偉王ダークネスヘルアーマゲドン」

ダルイゼン「何？」

ジャツカル「さらに、これだ、魔神王の禁断契約書を発動。我はカオスアポカリプスとヘルアーマゲドンを融合 運命の力よ、敵を倒し新たな時代を作り出せ融合召喚DDD超死偉王パープリツシユヘルアーマゲドン」

キュアファイナーレ「パープリツシユにダークネス、以前のホワイテストと同じね」

ジャツカル「やれ、パープリツシユヘルアーマゲドン ダークネスヘルアーマゲドンで攻撃さらに、ゼロラプラスで攻撃」

ヤラネーダ「ヤラネーダ」

ダルイゼン「ちっ、覚えている」

ジャツカル「逃げたか、まあいい、どうせ、勝てないんだ」

のどか「えつと、ジャツカルさん」

ジャツカル「なんだ？」

のどか「なんで女子の制服なんですか？」

ジャツカル「それしかなかったって言われた、だから、これを着て

いる、我は戻る」  
「ここね」待ってください」

## 燃えろ転生炎獣ヴァイオレットキマイラ

ジャツカル「それより、どうするかな」

ゆい「結構、慣れてきてますね」

ここね「確かに、ジャツカルさんの女子の制服、似合ってますね」

ジャツカル「そんなにか？」

ここね「はい」

ジャツカル「それにしても、どうするかな」

らん「次の授業始まるよ」

ジャツカル「そっか、じゃあ、行くか」

その時

ジャツカル「まったく、なんでこういう時に敵が出てくるのかな、先  
行ってるぞ」

らん「分かりました」

そして20分後

ナルシストルー「どうかな？プリキュア、新たな力は」

キュアフローラ「ゼツボーグとモットウバウゾーが合体してる」

キュアグレース「確かに、そうだよね」

セクレトルー「終わりだ」

その時

ジャツカル「転生炎獣パロー、特殊召喚」

キュアマーマイド「今のは!!」

ジャツカル「まったく、また合体パターンか、それにあいつらが授  
業中だからな、さっさとやるか」

キュアスパークル「それにしても、どうするの」

ジャツカル「我は、墓地に転生炎獣が3体以上いる時Bバイソンを  
特殊召喚。さらに、転生炎獣モル召喚」

キュアグレース「バイソンに何あれ？」

キュアエール「多分、モグラじゃないの？」

ジャツカル「さらに、モルとBバイソンでリンクマーカーにセット。

混沌の力 熱き炎で燃え上がれ リンク召喚 いでよ、転生炎獣ヒー

トライオ」

ナルシストルー「リンク召喚だ!!」

その時

キュアプレシヤス「すみません、遅れました」

ジャツカル「授業終わったのか？」

キュアスパイシー「はい」

キュアファイナーレ「今は、なんか、すごそうなのが出てきてるな」

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

キュアスパイシー「させない」

ジャツカル「しかし、これは、どうするかな？」

その時

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

ジャツカル「なんだ、お前は？」

ブラックペツパー「私はブラックペツパー、プリキュアの仲間だ」

ジャツカル「敵ではなさそうだな」

ブラックペツパー「援護する」

ジャツカル「さらに、これだ、転生炎獣ウルヴィー召喚、そして、罨

発動、サラマングレイトギフトを発動、さらに、マジックプランター

で墓地に送り2枚ドロ、さらに、転生炎獣ミリアを特殊召喚」

キュアヤムヤム「新たなモンスターが2体？」

ジャツカル「今度は、これだ、2体のモンスターでリンクマーカー

にセット 唸れ、強力な爪よ 炎を燃え上がり力を今、転生せよ、リ

ンク召喚 転生炎獣サンライトウルフ」

キュアファイナーレ「今度は、狼？」

ジャツカル「さらに、手札から、フュージョンタグを発動しヴァイ

オレットキマイラと同名カードとなり、フュージョンオブファイアを

発動、現れる 新たな体に集い凶悪なる獣よ、新たな武器を携えて悪

夢の魔獣蘇れ融合召喚 転生炎獣ヴァイオレットキマイラ」

ナルシストルー「くだらない、貴様から潰してやる、まずは、その

ライオンからだ」

ジャツカル「速攻魔法 転生炎獣の超転生発動」

キュアフォンテーヌ「転生炎獣の超転生？」

ジャツカル「我は、転生炎獣ヒートライオをリンクメーカーにセツト、地獄の炎よ 浄化の力でヒートライオの新たな力を呼び覚ませ  
転生リンク召喚 転生せよ 新たな咆哮とともに現れよ、転生リンク  
召喚 転生炎獣ヒートライオ」

キュアシヨコラ「転生」

キュアフラミンゴ「リンク召喚!!」

ジャツカル「やれ、ヒートライオ ハウリングフレア」

モットウバウゾー「モットウバウゾー!!」

ジャツカル「さらに、最後だ、やれ、ヴァイオレットキマイラ、バー  
ニングアビス、さらに、ヴァイオレットキマイラの効果発動、ダメー  
ジ計算時に1度攻撃力を倍にする」

キュアファイナーレ「ヴァイオレットキマイラの攻撃力は2800」

キュアスパイシー「その倍ってことは、5600」

ジャツカル「さらに、ヴァイオレットキマイラを融合素材にした場  
合、貴様の攻撃力を0にする」

キュアサマー「でも、ヴァイオレットキマイラを素材にしてないよ  
ね」

キュアビート「そっか、フュージョンタグでヴァイオレットキマイ  
ラになっている」

ジャツカル「そういうことだ」

ナルシストルー「しまった!!」

ジャツカル「これで終わりだ」

ナルシストルー「ちっ、覚えている」

あまね「やった」

ここね「そうだね」

あきら「そういえば、なんで女性の服を着てるんですか？」

ジャツカル「急だったからな、これしかないって言われた、まあ、こ  
れでも結構なれては来たみたいけどな」

ちゆ「そうだったんですか」

## 混沌幻魔現る 放て虚無幻影羅生悶

担任「あのジャツカル君」

ジャツカル「なんですか？」

担任「男子の制服来たんだけど」

ジャツカル「女子の制服でいいわ、慣れてきたら着やすくなった」  
担任「そう、なんかごめんね、すぐに用意出来なくて」

ジャツカル「別に」

そして次の日

ジャツカル「久しぶりの休みだな」

ここね「そうですね」

らん「どうする？」

ジャツカル「何も、いいことねえからな」

トワ「しかし、どうしますの？」

ジャツカル「どうしようか」

その時

ジャツカル「はあ、せつかくの休みもなしに敵が出てくるのか」

そして20分後

キュアスパークル「どうなってるの、誰もいないのにモットウバウゾーが出てくるって」

キュアマーマイド「分からない、だけど、ゼツボーグも現れてるし」

キュアスパークル「それに、なんでビョーゲンズのメガビョーゲンが」

キュアパイア「しかも、ゼツタイヤラネーダも」

キュアアクア「それにホシイナーまで」

ジャツカル「やれトーチゴーレム」

ゼツボーグ「ゼツボーグ」

ジャツカル「トーチゴーレム!!なんで、モットウバウゾー以外の奴が出てきてるのかな？」

キュアミント「分かりません、モットウバウゾーと戦ってたなら、突然」

ジャツカル「そっか、なら、一気に行くか、我は、混沌の召喚神を召喚し、さらに、幻魔の殉教者を発動、そして、手札をすべて捨て3体のトークンを特殊召喚」

キュアスパークル「トークンを召喚？」

ジャツカル「そして、次は来る前に呼び出した、混沌の招来神をリリースして、ラビエル―天界蹂躞拳を特殊召喚」

ホシイナー「ホシイナー!!」

キュアファイナーレ「やった？」

ジャツカル「いやまだだ」

キュアマーマイド「まだなの？」

ジャツカル「ああ、我のターンか：：来たか、魔法発動フュージョ  
ン」

キュアサニー「融合じゃ、あかんの？」

ジャツカル「我に聞くな、我はハモン ウリア ラビエルを融合、悪魔の究極幻魔よ、混沌の力で潰し、悪魔を時空の果てに吹き飛ばせ、いでよ、混沌幻魔アーミタイル―虚無幻影羅生悶」

キュアプレシヤス「あのモンスターは以前の」

キュアヤムヤム「でも、以前とは違うみたい」

ジャツカル「さあ、来いよ」

ゼツタイヤラネーダ「ゼツタイヤラネーダ」

ジャツカル「無駄だ」

ゼツタイヤラネーダ「!!」

ジャツカル「我のターン ドロ―、我は、虚無幻影羅生悶の効果を発動、このカードを相手に渡す」

キュアソード「なにやってるのよ」

ジャツカル「まだだ、そして、全てを除外する」

ゼツタイヤラネーダ「!!」

キュアフローラ「すごい」

ジャツカル「そして、混沌幻魔アーミタイルを特殊召喚する」

キュアスパイシー「敵をすべて除外してアーミタイルの召喚」

キュアファイナーレ「そして、アーミタイル―虚無幻影羅生悶―の攻

撃力は0」

キュアフローラ「これで終わりだ、アーミタイルで虚無幻影羅生悶  
で攻撃」

ジャツカル「やった」

キュアスパイシー「結局なんだったんだろう」

ジャツカル「そうだな、ナルシストルーもいなかったしな」

キュアプレシヤス「そうですね」



## 新たな弾丸 ヴァレルの脅威たち

ジャツカル「それにしても、今日は休みか、なんかつまらんな、そうだ、ここねとあまね」

ここね「どうしました？」

ジャツカル「どこか行かないか？」

あまね「いいんですか、私達で」

ジャツカル「かまわん」

そして20分後

あまね「そういえば、ジャツカルさんはどこに住んでるんですか？」

ジャツカル「我は、野宿だ」

ここね「お風呂とかはどうしてるんですか？」

ジャツカル「近くの銭湯があるからな、問題はない」

ここね「あの良ければ私の家でよければ泊まりますか？」

ジャツカル「いいのか？だが両親には悪いんじゃないのか？」

ここね「二人とも海外にいます、部屋が余ってるんですよ」

ジャツカル「そっか、じゃあ、そうさせてもらうわ」

そして2時間後

ジャツカル「少し休憩でもすつか」

ここね「そうですね」

ジャツカル「何か飲むか？」

ここね「すみません、なんか」

あまね「私達の分も出してもらって」

そして10分後

ジャツカル「すまん、ちよつとなコーヒーでな」

あまね「そういえば、そのコーヒー結構いいコーヒーですけど」

ジャツカル「これ持参していたものだ、結構うまいんだよな、ブルー

アイズマウンテン」

ここね「それっていったいいくらするんですか？」

ジャツカル「これ？これね、3000円だ」

あまね「3000ってさすがに高すぎでは？」

ジャツカル「我は普通だが、ちよつくら花摘み行ってくるわ」

ここね「えっ、はい」

ジャツカル「それにしても、暇だな、マジで、一体何があつたんだ？あまね、回りの客の様子がおかしいんだが」

あまね「多分、ナルシストルーがレシピツピを奪つたためその食べ物に関する思い出も亡くなるんだ」

ジャツカル「そっか、ちよつくら行くか」

二人「はい」

そして20分後

ナルシストルー「今日は二人足りないな、まあいい、お前達から倒してやるよ、モットウバウゾー」

ジャツカル「やれヴァレルロードドラゴン、天雷のヴァレルブラスト」

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

ナルシストルー「また君か、しつこいな」

ジャツカル「おいてめえのせいでコーヒーがまずくなるんだよ、てめえにでもコーヒーの代金払ってもらうか、ああ？」

キュアプレシヤス「なんか、怒ってない？」

キュアリズム「確かに、あそこまでブチ切れてるのは初めてかな」  
キュアスパイシー「多分、コーヒー飲むのを邪魔されたからじゃないかな？」

いかな？」

キュアヤムヤム「でもたかがコーヒーだよね」

キュアファイナーレ「彼の飲んだのは一杯3000のコーヒーだ」  
全員「高っ」

キュアサニー「なんやそれぼつたくりやないか」

ジャツカル「仕方ねえだろ、ブルーアイズマウンテンなんだから、とにかく、潰す、我はクイックリボルブを発動、墓地からヴァレットキャリバー、さらにティアマトンを特殊召喚、さらに、ティアマトンにヴァレットキャリバーをチューニング」

キュアスパークル「チューナーだったんだ、あのヴァレットキャリバーってモンスター」

ジャツカル「怒りを司る闇の弾丸よ、猛々しき力を得て怨みの一撃  
撃ち抜くがいい、シンクロ召喚いでよ、ヴァレルロードSドラゴン、ま  
だだ、さらに、復活の福音発動、墓地からメタルヴァレットドラゴン、  
さらに永続魔法ヴァレルサプライヤー発動、さらに墓地からシルバ  
ヴァレットドラゴン」

キュアフォーチュン「さらに、レベル4が2体」

キュアシヨコラ「エクシーズ召喚!!」

ジャツカル「我はシルバーヴァレットドラゴンとメタルヴァレット  
ドラゴンでオーバーレイ天翔ける龍よ 怒りの弾丸を撃ち尽くし、二  
つの雷鳴となり交わりて地獄の一撃、今放たんでよヴァレルロード  
Xドラゴン」

キュアフラミンゴ「ここまでやるとは」

キュアサマー「すごい」

ジャツカル「さらに、ラピッドトリガーを発動、我はゲートウェイ  
ドラゴン2体で融合、電脳世界に宿りし怒りと憎しみが交差するとき  
怨念や呪いを今弾丸となり怒り狂えいでよヴァレルロードFドラ  
ゴン」

キュアラメール「融合にシンクロにエクシーズ」

キュアアンジュ「このターンで3回も」

キュアマカロン「本気で潰す気ね」

ジャツカル「ヴァレルロードドラゴン Sドラゴン Fドラゴン

Xドラゴンで攻撃」

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

ナルシストルー「覚えている、次は必ず」

ジャツカル「まったく、奴がいるとせつかくのブルーアイズマウン  
テンがますぐなる、まあいい、世話になるぞ、ここね」

ここね「はい」

## 新たに羽ばたく黒き翼

ジャツカル「それにしても、どうするか」

ここね「ジャツカルさん」

ジャツカル「ここねか、すまないな、世話になって」

ここね「気にしないでください」

ジャツカル「学校行くか」

ここね「はい」

そして20分後

ジャツカル「それにしても、授業が簡単すぎて暇だな」

ゆい「うーん、どうすればいいのかな」

ジャツカル「これは、ここをこうすればすぐ住む」

ゆい「あつ、ありがとうございます」

らん「じゃあ、ここは？」

ジャツカル「ここはこうしてこうだ」

あまね「ジャツカルも大変だな」

ジャツカル「気にするな、慣れている、それより、敵だな」

そして20分後

キュアメロディ「こいつ強すぎる」

セクレトルー「どうしたの、プリキュアもう終わり？」

キュアリズム「まだ、行ける」

その時

ジャツカル「レベル4の南風のアウステルにレベル3白夜のグラ

ディウスをチューニング 黒き旋風 天空に舞い上がる翼となれい

でよBFアーマードウイング」

キュアフラミンゴ「ジャツカルさん」

セクレトルー「面白い、邪魔だ」

ジャツカル「今回は貴様が相手か、面白い、だが、アーマードウイ

ングは戦闘では破壊されない」

セクレトルー「ちっ」

ジャツカル「我は、さらに行くぜ、我は、手札からブラスト2体を

特殊召喚する、そして極北のブリザードを召喚し、墓地のゲイルを特殊召喚」

キュアソード「連続召喚、すごい」

キュアシヨコラ「ブラックフェザーはそういうデツキなのよ」

ジャツカル「さらに、レベル4ブラストにレベル2ブリザードをチューニング邪悪な風よ吹きすさべ、新たに、かの地に降臨せよ、シンクロ召喚レベル6シンクロチューナー魔風のボレアース、そして、デツキから、フェーンを墓地にレベルを2にする」

キュアスパイシー「レベルを下げた？」

ジャツカル「そして、リバースカードをセットし来い」

セクレトルー「面白い、だったら、これで決める」

キュアヤムヤム「させないよ、バリバリカッターブレイズ」

セクレトルー「させないよ、モットウバウゾー」

モットウバウゾー「モットウバウゾー」

キュアファイナーレ「反射能力!!」

ジャツカル「だが、甘い、手札からカウンター罫ブラックバードクローズ、貴様の能力を無効にしブラックフェザードラゴンを特殊召喚する」

セクレトルー「ちっ」

ジャツカル「我は、ダマスカスを召喚し、レベル2となったボレアースにダマスカスをチューニング天空に羽ばたけ黒き翼 シンクロ召喚 煌星のグラムさらに、効で蒼天のジェット」

キュアサニー「どんだけやんねん」

ジャツカル「それがBFにいいところだ、さらに、ブラックフェザードラゴンと蒼天のジェットを除外し、黒き翼よ、新たな力を得て天空へ舞い上がれいでよ、ブラックフェザーアサルトドラゴン」

キュアサンシャイン「新たなドラゴン」

ジャツカル「そして、アウステルを除外し、ブラックフェザーアサルトドラゴンに黒羽カウンターを乗せる」

キュアスパイシー「黒羽カウンター？」

キュアファイナーレ「だったら、これはどう、プリキュアデリシャス

ファイナーレフアンファーレ」

セクレトルー「させないよ」

ジャツカル「無駄だ、貴様が効果を使った時、黒羽カウンターを乗せる」

キュアスパークル「そういうこと、だったら、プリキュアヒーリングフラッシュユ」

セクレトルー「無駄だと言ってるでしょ」

キュアスパークル「フレフレハートスター」

セクレトルー「何度もするのは学習能力がないのね」

ジャツカル「馬鹿が、ここでブラックフェザーアサルトドラゴンの効果、黒羽カウンターが4つ以上になってるのなら相手のモンスターを全滅させる」

セクレトルー「何!!」

ジャツカル「これで終わりだ」

セクレトルー「くっ、ここで退いてあげるわ」

ジャツカル「終わったな」

ここね「そうですね」

## 取り戻せレシピツピを

ジャツカル「このデツキで面白そうだな」

ここね「どうしたんですか？」

ジャツカル「ああ、ちよつと今日面白いデツキを考えたんだ」

ここね「どんなデツキなんですか？」

ジャツカル「それは戦闘になれば分かる」

あまね「気になるな」

ここね「そういえば、みんなで私の家に来て欲しくて」

ジャツカル「そういえば、なんかここねの家がすごく豪華なんだが」

らん「ここぴーの家はレストラン デュラクって店なんです」

ジャツカル「どおりで広かったわけか、納得いった」

そして次の日

ゆい「ここか、すごく楽しみ」

ジャツカル「ゆい、お前はしゃぐな、こういうところでは無礼な行

動は慎むことだ」

あまね「確かに、ジャツカルの言う通りだ」

らん「とにかく、何か、注文しよう」

その時

ナルシストルー「これでレシピツピをもらった」

ジャツカル「まったく、こういう時になんで邪魔しに来るかな」

ゆい「みんな、行くよ」

3人「うん」

ジャツカル「おい、ナルシ野郎、レシピツピを返してもらおうといいたいところだが、お前のおかげで貴様に八つ当たりじゃなくてマジで潰せるからな」

キュアスパイシー「えっ、どういうこと？」

ジャツカル「さて行くか、我は、儀式魔法ハンバーガーのレシピを

発動」

キュアヤムヤム「えっ、何そのおいしそうなの」

ジャツカル「我は、手札の寿司天使モンキーロールと寿司天使スパ

イダーロールをいけにえに食われるものの怨み今こそ思い知れ、いでよハングリーバーガー」

キュアファイナーレ「なんか、凶暴なハンバーガーが出てきたな」

ジャツカル「さらに、我は、いくらの軍貫を召喚し、手札からしやりの軍貫を特殊召喚」

キュアプレシヤス「お寿司だ、腹ペコったー」

ジャツカル「さらに、しやりといくらでオーバーレイ レシピツピの怒りよ、敵を撃ち抜けエクシーズ召喚 弩級軍貫ーいくら型一番貫」

キュアヤムヤム「しかも、さらに寿司が出てきた」

キュアスパイシー「なんか、おいしそう」

ジャツカル「そして、しやりをエクシーズ素材としてるなら一枚ドロイヤレハングリーバーガーで攻撃」

モットウバウゾー「モットウバウゾー!!」

キュアファイナーレ「すごい」

キュアヤムヤム「というか、モンスターから、レシピツピが見える」  
ジャツカル「我のターンだな、次はフィールド魔法 軍貫処「海せん」を発動、さらにしやりを見せてうにを特殊召喚、さらにしやりを召喚2体のモンスターでオーバーレイ 混沌の弾丸よ、レシピツピの怒りを撃ち放て、エクシーズ召喚いでよ超弩級軍貫ーうに型二番艦」

キュアプレシヤス「うわあ、完全に我慢できない」

ジャツカル「そして、一枚ドローできる、そしてエクシーズギフトでさらに2枚ドローするがうにといくらのエクシーズ素材を使う、さらに死者蘇生を発動、そしてしらうおの軍貫も召喚」

キュアヤムヤム「どんだんお腹すいてきた」

キュアスパイシー「私も」

ジャツカル「そして、しらうおとしやりでオーバーレイ、いでよ、空母軍貫ーしらうお型特務艦そして1枚ドロー」

キュアプレシヤス「これは、もう我慢できなくなってきた」

ジャツカル「キラートマト召喚、バトル、一斉攻撃だ」

モットウバウゾー「ごちそうさまでした」



ジヤツカル「終わった、さて食事するか」  
ゆい「食べ物系のモンスターばかりだったから、腹ペコだった」  
ここね「そうだね」

現れよ、CiNo1000夢幻虚光神又メロニアス又メロニア

ジャツカル「それにしても、面白いことねえかな」

ここね「何もありませんね」

ジャツカル「とにかく、なんとか、するか」

ゆい「ジャツカルさん」

ジャツカル「どうした？」

らん「前回のモンスターからレシピツピが見えたんだけど」

ジャツカル「ああ、食いものだったからな」

あまね「そういえば、ナンバーズはどうでしたか？」

ジャツカル「ああ、これで完全に1〜1000まですべてそろった」

その時

あすか「ジャツカルさん、とにかく、早く、来てください、敵がかなり」

ジャツカル「分かった、行くか」

4人「はい」

そして20分後

セクレトルー「どうやら、ここまでのようだ」

ジャツカル「やれ、やつちまいなギミックパペット ジャイアント

キラー ファイナルダンス」

セクレトルー「しまった」

ジャツカル「今回はナルシ野郎じゃないのか、まあいい邪魔するなら消す」

キュアラメール「ジャツカルさん、助かったわ」

ジャツカル「行くぜ、ペインゲイナー」

キュアソード「でもナンバーズを何体出しても、無駄だと思います」

ジャツカル「あー、仕方ない、奴を出したくないけど出すか」

セクレトルー「何を出そうと無駄よ」

ジャツカル「無駄かどうかは試してやるよ、RUMバリアンズ

フオース」

キュアフラミンゴ「でも何をランクアップを？」

ジャツカル「教えてやるよ、我は、ペインゲイナーでオーバーレイ」  
キュアメロディ「CN084つてあるんだっけ？」

ジャツカル「混沌の神よ、今こそ我が力で蘇り悪魔の力 今現れよ  
CN01000夢幻虚神ヌメロニアス」

セクレトル「無駄よ、消えなさい」

ジャツカル「効果破壊か、無様だな」

キュアスパイシー「確か、効果破壊したつてことは」

キュアファイナーレ「あのナンバーズが来るのか、セクレトル、お前のファイナーレだ」

セクレトル「何を馬鹿なことを」

ジャツカル「それは、こつちのセリフだ、我は地獄の神よ、現世に蘇り 光さす世界を闇で包め カオスエクシーズチェンジ いでよ、

破滅の神 CIN01000夢幻虚光神ヌメロニアスヌメロニア」

キュアルージュ「チートカード来たよ」

キュアサニー「というか、今回はヌメロニアスの効果で出しとるつてことは、あの効果が使えらるつてことやん」

ジャツカル「そうだ」

セクレトル「馬鹿か、そんなモンスターで何が」

ジャツカル「夢幻虚光神ヌメロニアスヌメロニアの効果、攻撃力を10万にする」

セクレトル「だけど、たかが攻撃力が高いだけのデカブツなんかに」

ジャツカル「じゃあ、だが無駄だ、こいつに絶対攻撃だ」

セクレトル「絶対攻撃!!」

ジャツカル「そして、夢幻虚光神ヌメロニアスヌメロニアの効果発動オーバーレイユニットを使い攻撃を無効 ダークネスバリア」

セクレトル「馬鹿ね、攻撃無効にして回復とか何を考えてるのかしら？」

ジャツカル「いいんだよ、消えろ、ファイナルオーバージャツジメ

ント」

セクレトルー「馬鹿な、モットウバウゾーが!!」

ジャツカル「このカードが戦闘をしない場合、貴様の強制敗北となる」

セクレトルー「攻撃してもしなくても負けるってインチキ効果もい  
い加減に死なさい」

キュアサニー「確かに、そうやな」

ジャツカル「愚かな、弱すぎる」

あまね「でもなんとか勝ったな」

ここね「そうだよね」

## 昆虫たちの怒り

ジャツカル「久しぶりの日本だ、なんか悪いな送ってもらって」

???「いいのよ、娘がお世話になってるから」

ジャツカル「そういえば、ここまで名前を聞いてなかったな、我はジャツカル」

???「私は芙羽はつこ」

ジャツカル「芙羽ってことはここねの？」

芙羽はつこ「はい母です」

ジャツカル「それより、よかったのか我なんて乗せて」

芙羽はつこ「気にしないで、旦那は忙しいから、それに娘がお世話になってるし」

ジャツカル「すまないな、我はただの居候だしな」

はつこ「ここでいいかしら？私はこれから別の場所を仕事があるから、まあ、ゆつくりしてって」

ジャツカル「ああ、すまないな、さて久しぶりのここねの家だ、ゆつくりしてくか」

そして20分後

ここね「ジャツカルさん、今までどこ行ってたんですか？」

ジャツカル「ああ、ちよつと外国でも活躍してたからな、そういうえびさ、イースキ島だっけ？あそこでさ、ゆいとあったんだが」

あまね「その人はマイラ王女だ」

ジャツカル「王女だったのか、それにしても、ゆいに似てたんだが」らん「まあ、らんらん達も最初は分からなかったし」

その時

ジャツカル「まったく、こういう時に敵かよ、少しは休ませろ、疲れてるのによ、まあいい、行くか」

そして20分後

キュアマカロン「あの新しい幹部、強いわね」

スピリットルー「プリキュアこれで終わりでごわす」

キュアメロディ「さすがに、これはきついかな」

その時

ジャツカル「ギロチンクワガタ、やれ」

スピリットルー「何者でござす?」

ジャツカル「なんだ、貴様? セクレトルーでもナルシストルーでもねえな?」

キュアファイナーレ「あいつは、ブンドル団の新幹部のスピリットルーです」

ジャツカル「ほう、ロボットか、面白い」

スピリットルー「まあいい、まずは、お前からやってやるでござす、やるでござす、ゴツソリウバウゾー」

ゴツソリウバウゾー「ウバウゾー」

ジャツカル「ほう、面白い、少しはやらそうだな、だったら、我はデビルツムリを召喚」

キュアコーラル「む、虫!!」

ジャツカル「さらに、こいつだ、装備魔法レーザーキャノンアーマーを装備、さらに2枚セットだ」

スピリットルー「そんなことしても無駄でござす」

ジャツカル「だったら、やってみろ」

ゴツソリウバウゾー「ゴツソリウバウゾー」

ジャツカル「速攻魔法 超進化の繭を発動、このカードでデビルツムリをいけにえに召喚条件を無視し特殊召喚する、来い、究極完全体グレートモス」

キュアスパークル「虫だけに召喚条件を無視」

キュアフォンテーヌ「フフ、ちよつとやめてよ、スパークル」

ゴツソリウバウゾー「ゴツソリウバウゾー」

キュアスパイシー「させない、クラスティパンバリア」

キュアプレシャス「2000キロカロリーパンチ」

ゴツソリウバウゾー「ゴツソリウバウゾー」

ジャツカル「なかなかやるな、さらにこれだ、さらに我は進化の繭を召喚し装備魔法火器付機甲鎧を装備」

キュアヤムヤム「攻撃力0のモンスターに装備しても意味ないよ」

キュアビート「大丈夫、彼は意味のないことはしないよ」

ジャツカル「我は、進化の繭をいけにえに混沌の怒りの昆虫よ、悪魔の力を身に宿し新たな力となり、甦れ、いでよ完全体グレートインセクト、さらに永続罨 蝕みの鱗粉を発動」

スピリットルー「そんなことしても、無駄でござす」

ジャツカル「面白い、究極完全体グレートモス モスハリケーン」

ゴツソリウバウゾー「ウバウゾー」

ジャツカル「ラストだ、完全体グレートインセクト モスバースト  
レーザー」

キュアサニー「なんで虫なのになんでレーザーやねん」

ジャツカル「気にするな」

スピリットルー「今日はここまでにしてやるでござす」

ジャツカル「まったく、イースキ島帰りで疲れてるのに、まったく」

いちか「そういえばどうやって戻ってきたんですか?」

ジャツカル「ああ、ここねの母親が送ってきてくれてな」

ここね「そうだったんですか、でも寂しかったです」

## 新たな超銀河

ジャツカル「新幹部か、面白くなってきた、今までの奴よりは少しは楽しめそうだ」

響「あー、出てるジャツカルさんの悪い癖が」

うらら「そういえば、ジャツカルさん、この間CM出てましたね」

ジャツカル「ああ、あれね、我がイースキ島で撮影しているからな」

りん「とうか、すごいですね、CMも出るって」

ジャツカル「仕方ない、まったく、敵が空気を読まねえな」

ゆい「みんな行くよ」

そして、20分後

スピリットルー「プリキュア出てくるでござす」

ジャツカル「行け、ギャラクシーアイズプライムフォトンドラゴン」

スピリットルー「虫の次は龍でござすか、だが、現れるでござす、

くつつくでござす、ゴツソリウバウゾー」

ゴツソリウバウゾー「ゴツソリウバウゾー」

ジャツカル「面白い、だったら、これだ、聖なる音を響かせよ、力

とし、新たな運命を辿りつけ、いでよ、諧調光師グラディエール」

ゴツソリウバウゾー「ゴツソリウバウゾー」

ジャツカル「無駄だ、ゴツソリウバウゾーの属性は闇」

キュアコスモ「デスドルドの属性も闇ニヤン」

ジャツカル「これでグラディエールは破壊されない」

ゴツソリウバウゾー「ゴツソリウバウゾー」

キュアファイナーレ「スピリットルー、レシピツピを返せ」

スピリットルー「それは無理でござす」

ジャツカル「返す気はないか」

キュアファイナーレ「これ以上、お前達の好き勝手はさせない、お前

達を倒す」

その時

???「小娘が、その力、気に入った」

キュアファイナーレ「君はギャラクシーアイズプライムフォトンドラ



ゴン？」

???「俺は、ネオギャクラシーアイズプライムフォントドラゴンだ、まあいい、キュアファイナーレだったな、俺を使え」

キュアファイナーレ「でもどうやって」

ネオギャクラシーアイズプライムフォントドラゴン「俺をギャラクシーアイズプライムフォントドラゴンの上に重ねて出せる」

キュアファイナーレ「分かった、ジャツカルさん、ゼアルで行く」

ジャツカル「ああ、我と」

キュアファイナーレ「私でオーバーレイ」

ゼアル完全体「ゼアル完全体」

スピリットルー「お前らそんなことも出来るでござるか」

ゼアル完全体（キュアファイナーレ）「行くぞ、ギャラクシーアイズプライムフォントドラゴンでカオスエクシースチエンジ 新たな銀河よ 混沌の力を身にまとい新たな力を今見せろ、現れるネオギャクラシーアイズプライムフォントドラゴン」

スピリットルー「ドラゴンが進化した!!おいどんのデータでもそんなデータは」

ゼアル完全体（ジャツカル）「お前に任せる、ファイナーレ」

ゼアル完全体（キュアファイナーレ）「ああ、任された、ネオギャクラシーアイズプライムフォントドラゴンの効果でエクシース素材にしてるレベル ランクの合計×100となる」

キュアパイア「24×100」

キュアフラミンゴ「2400アップか」

ゼアル完全体「これで終わらせる、ネオギャクラシーアイズプライムフォントドラゴン 混沌のプライムファイナーレファンファーレ」

ゴツソリウバウゾー「ごちそうさまでした」

あまね「これは、私が生み出したカオスナンバーズ」

ジャツカル「よくやったな、あまね」

あまね「はい」

## 新たな世界

ジャツカル「それにしても、ここはどこだ？」

いちか「そうですね」

ジャツカル「まあいい、ちよつくら行ってくる」

あきら「大丈夫ですか？」

ジャツカル「問題ない」

そして20分後

ジャツカル「それにしても、どうにかしねえとまずいか、なんか騒がしいな」

???「これで終わりだ、プリキュア、俺様のランボーグに勝てるはずがないのねん」

「私達は負けない」

「僕たちは負けるわけにはいかない」

「私達はヒーローです」

「どうあがこうが、終わりだ、やれランボーグ」

「しまった!!ってあれ？」

「何もない」

「あれ何？」

ジャツカル「超重武者ココログマーA、てめえの攻撃時に特殊召喚した」

???「誰ですか？」

ジャツカル「我は、ジャツカルだ」

「私はキュアスカイです」

「キュアプリズムです」

「キュアウイングです」

「キュアバタフライよ」

ジャツカル「お前らもプリキュアだったとはな、まあいい、おいその豚野郎」

???「俺様はカバトンだ、まあいい、そいつからやれランボーグ」

ジャツカル「無駄だ、特殊召喚したココログマーAは破壊されない、

お前、目障りだな、いでよヌスー10特殊召喚、さらにホラガーEを特殊召喚、レベル10のヌスー10とホラガーEでチューニング怒れ大地よ 動かざることに山の如く 邪悪蠢く戦場に現れるシンクロ召喚 超重天神マスラー0」

キュアバタフライ「なんかすごいのが出てきた」

キュアウイング「なんか、かっこいい」

ジャツカル「さらに、手札から、グレートウォールをマスラー0に装備、覚悟しろよ、カバ野郎」

カバトン「カバトンだつて言ってるだろ」

ジャツカル「黙れ、トンカツにでもして食ってもいいんだぞ」

カバトン「やれランボーグ」

ランボーグ「ランボーグ」

キュアプリズム「危ない」

ジャツカル「やれマスラー0天地創造斬」

ランボーグ「スキッター」

ジャツカル「次は、お前だ」

カバトン「覚えている」

ジャツカル「クズが、逃げやがったな、大丈夫かお前ら？」

???「はい、ありがとうございます」

ジャツカル「気にするな、なんかあの野郎気に入らなかっただけだ」

???「改めまして、私はソラ・ハレワタルです。スカイランドつてところから来ました」

ジャツカル「スカイランド？お前、異世界の人間か？」

ソラ「はい」

???「お話し中すみません、私は虹ヶ丘ましろです」

???「ツバサです」

???「私は聖あげはです」

ジャツカル「よろしくな」

ソラ「そういえばジャツカルさんはどこから来たんですか？」

ジャツカル「俺か？俺はあそこだ」

ましろ「空？」

ソラ「ということとは、貴方もスカイランド出身なんですか？」

ジャツカル「宇宙だ、まあ、別世界のな」

ツバサ「ということとは、宇宙人？」

ジャツカル「お嬢ちゃんは分かってるな」

ツバサ「僕、男の子です」

ジャツカル「あつ？ そうなのか、まあ、我は惑星タウラスってところから来た、まあ、帰ればいいんだがな」

あげは「どういうことですか？」

ジャツカル「もう、我の故郷はない、星の寿命でな」

ましろ「そうだったんですか」

## 漆黒の宝玉獣

ソラ「それにしても、彼かっこいいですね、まさにヒーローです  
ましろ「そうだね」

あまね「あれが彼の戦い方だ」

ツバサ「そうなんだ」

ジャツカル「そうだ、ここはどこだ？」

ましろ「ここはソラシド市です」

ジャツカル「そうなのか、ちよつと、出かけてくるか」

そして20分後

ジャツカル「それにしても、Dホイールの部品はどこにある？」

その時

あげは「ジャツカルさん」

ジャツカル「あげはか？なぜ車を運転してる？」

あげは「私18歳なんです」

ジャツカル「18？それなら、問題はねえな……」

あげは「どうしたんですか？」

ジャツカル「敵だ、またあいつか」

そして20分後

キュアスカイ「以外にやりますね、だったらヒーローガールスカイ

パンチ」

ランボーグ「ランボーグ」

カバトン「これで終わりだ」

ジャツカル「てめえか、ラジオン」

カバトン「カバトンだ」

ジャツカル「どっちでもいいか、すでに準備できている、ペンデュ  
ラム召喚、いでよ、サファイアペガサス コバルトイーグル アン  
バーマンモス アメジストキャット」

キュアプリズム「すごい、一気に召喚した」

サファイアペガサス「あいつか」

コバルトイーグル「面白い、来い」

アンバーマンモス「すごしは手ごたえがあるのか？」

アメジストキヤット「少しは楽しめそうね」

ランボーグ「ランボーグ」

ジャツカル「アンバーマンモスの効果を発動、サファイアペガサスの攻撃を移す」

アンバーマンモス「あいつ、なかなかやる」

ランボーグ「ランボーグ」

ジャツカル「ちっ、やるな、だつたら、これでどうだ、毘発動、メタバース、デツキからフィールド魔法を発動する」

キュアファイナーレ「デツキから、フィールド魔法」

ジャツカル「我は、アドバンスドダークを発動する、フィールド墓地のモンスターを闇属性に変える」

キュアスパイシー「属性変更」

キュアウイング「何の意味が？」

ジャツカル「我は、このカードを出そう、A宝玉獣トパーズタイガー」

キュアバタフライ「あれはさっきのトパーズタイガーだっけ？」

キュアスカイ「でも、なんか、様子がおかしいよ」

トパーズタイガー「貴様をここで潰す」

ジャツカル「やれ」

トパーズタイガー「トパーズネイル」

ランボーグ「ランボーグ」

ジャツカル「そして、墓地の闇属性を7体除外していでよ、レインボーダークドラゴン」

レインボーダークドラゴン「グギャアアアアオ」

ランボーグ「ランボーグ」

レインボーダークドラゴン「オーバーザダークレインボー」

ランボーグ「ランボーグ」

キュアプリズム「すごい」

キュアウイング「すごく強い」

ジャツカル「さて、戻るか」

あまね「ちよつと」

## 黒き翼とオレンジのツバサ

ジャツカル「それにしても、どうすればいいかが問題なんだよな」  
ソラ「何かあったんですか？」

ジャツカル「いや、なんでもない」

ましろ「そうだったんですか」

ジャツカル「ああ、そうだ、出てくるか」

ここね「気を付けてください」

ジャツカル「大丈夫だ、そうだ、ツバサ」

ツバサ「なんですか？」

ジャツカル「気晴らしにいいだろ、一緒に来い」

ツバサ「いいんですか？」

ジャツカル「ああ、構わん」

そして20分後

ツバサ「あの」

ジャツカル「なんだ？」

ツバサ「なんとも、思わないんですか？」

ジャツカル「何がだ？」

ツバサ「男の子の僕がプリキュアだってことに」

ジャツカル「別に、男だろうが女だろうが関係ねえよ、それがあんなの運命さだめならいいんじゃないやね、それとも何か不満か？」

ツバサ「いえ」

ジャツカル「それならいい、この気配、ツバサしつかりつかまってるよ」

ツバサ「えっ、はい」

ジャツカル「久しぶりに行くぜ、フェニックス」

ツバサ「このままやるんですか？」

ジャツカル「それが？」

ツバサ「危ないって、降りてやった方が」

ジャツカル「大丈夫だ、ツバサ変身しておけ、飛ばすぞ」

その頃、別の場所では



キュアメロディ「あいつ、強い」

キュアプレシャス「これは厄介だね」

ジャツカル「羽ばたけ 黒翼の剣士 邪悪な敵を切り裂くがいい  
シンクロ召喚 B F 煌星のグラム」

ランボーグ「ランボーグ」

カバトン「またお前か」

ジャツカル「黙れスマホン」

カバトン「カバトンだ!!」

ジャツカル「まあいい、次はB F空風のジンにB F陽炎のカームを  
チューニング 黒き翼よ 絆を紡ぐ追い風となり今こそかの地に降  
臨せよ シンクロ召喚 A B F五月雨のソハヤ」

カバトン「邪魔だ、やれランボーグ」

ランボーグ「ランボーグ」

ジャツカル「ちつ、だったら、蒼天のジェットを捨て五月雨のソハ  
ヤを破壊から守る」

ランボーグ「ランボーグ」

キュアバタフライ「させないよ」

キュアプリズム「させないよ、ヒーローガールプリズムショット」  
ランボーグ「ランボーグ」

あげは「強い」

ましろ「あのランボーグ危険すぎる」

ランボーグ「ランボーグ」

キュアスパイシー「させないよ」

キュアファイナーレ「プリキュアファイナーレブーケ」

ジャツカル「だったら、これはどうだ、竜巻のハリケーン」  
キュアヤムヤム「竜巻のハリケーンって意味被ってない？」

キュアビート「それは言っちゃダメ」

カバトン「やれランボーグ」

ジャツカル「しまった!!」

カバトン「よくやったランボーグ」

ジャツカル「ちつ、だが、こいつはどうだ、手札からB Fツインシャ

ドウ」

キュアグレース「あれは新規ブラックフェザーの罠」

ジャツカル「このカードは墓地もしくはは除外されてるカードをデッキに戻しシンクロ召喚する」

キュアスパークル「うわっ、墓地からシンクロかあ」

ジャツカル「我は竜巻のハリケーンに蒼天のジェットをチューニング 漆黒の翼羽ばたかせ秘めたる刃で風を斬りその力で守り抜けシンクロ召喚 雨隠れのサヨ」

ランボーグ「ランボーグ」

ジャツカル「無駄だ、サヨは2回まで破壊を耐えられる」

キュアフローラ「すごい、破壊態勢も持ってるの」

ジャツカル「それにしても、どうするか」

キュアウイング「僕は負けるわけにはいかない」

ジャツカル「これは、ほう、面白い、ウイング」

キュアウイング「どうしたんですか？」

ジャツカル「お前に任す、デルタアクセルシンクロでこいつを出せ」  
キュアウイング「分かった、僕は、レベル5のグラムにソハヤそしてサヨをチューニング 黒き翼よ 思いにこたえ雷鳴とともに現れよ デルタアクセルシンクロ 飛翔せよ A B F 神立のオニマル」

ランボーグ「!!」

ジャツカル「神立のオニマルはすべてシンクロモンスターのみにでシンクロした場合攻撃時に3000攻撃力があがる」

キュアファイナーレ「そっかサヨもソハヤもグラムもシンクロモンスター」

キュアエール「そのうちのサヨとソハヤはチューナー扱いになっている」

キュアウイング「これで終わりだよ、神立のオニマルで攻撃サンダーボルトフラッシュ」

ランボーグ「スキッター」

カバトン「くっ、覚えている」

ツバサ「僕にもできた」

ジャツカル「よくやったな、ツバサ」  
ツバサ「はい」

ましろんは私が守る 目覚める虎子王と女帝王

ジャツカル「あげは」

あげは「どうしました？」

ジャツカル「ましろとはどういう関係なんだ？」

あげは「私とましろんは幼馴染です」

ジャツカル「そうだったのか、我にもいたんだがな」

ソラ「そういえば、ジャツカルさんのその戦い方は？」

ジャツカル「これは私の星で流行ってたカードゲームだ」

ソラ「なんかすごくかっこいいです」

ジャツカル「そうか？私の星では普通だったからな」

ましろ「その黒いカードは？」

ジャツカル「それには触れるな!!」

ましろ「えっ、なんでですか？」

ジャツカル「そのカードには人間の心の闇を増幅させる」

ましろ「危なかった」

ここね「それは、とても危険カードだけど、ナンバーズはラッキー  
ストライプやおしゃもじソルジャーってカードには人間には無害  
みたいだよ」

ましろ「そうなんだ」

ツバサ「あの、あのブラックフェザーってのは」

ジャツカル「ああ、連続召喚を得意なカード軍だ」

あげは「そういえば、以前、闇の力を分かったのですか？」

ジャツカル「闇の気配には敏感だからな」

その時

キュアフラミンゴ「ジャツカルさん、敵です、今すぐ援護を」

ジャツカル「ああ、分かった、行くぞ」

ソラ「はい」

そして20分後

キュアスカイ「あれは、ランボーグ？」

ジャツカル「いや、あれは、ランボーグとウバウゾーが融合してい

る」

キュアプリズム「つまり、合成ってことですか？」

ジャツカル「ああ、そうだ、まあいい我はアマゾネスを戦士長を特殊召喚、さらに手札からアマゾネスの賢者を見せアマゾネスの斥候を特殊召喚、最後にアマゾネスの聖戦士を召喚」

キュアビート「あれは、アマゾネスの新カード」

ジャツカル「さらに、カードを2枚セットだ」

ランボーグ「ランボーグ」

ジャツカル「邪魔だ、我はアマゾネスの秘湯とアマゾネス拝謁の間を同時発動」

キュアパッション「さらに、新規2枚」

キュアフローラ「というか、アマゾネスの秘湯のイラスト明らかにダメでしょ」

ジャツカル「無駄なことだ、アマゾネスの拝謁の間の効果でアマゾネスの聖戦士を手札に戻し秘湯の効果で女王を手札に」

キュアプリズム「あとは、私に任せて、ヒーローガールプリズムショット」

ランボーグ「ランボーグ」

ジャツカル「何跳ね返しただと!!」

キュアプリズム「きゃあああああ」

ランボーグ「ランボーグ」

キュアバタフライ「プリズム!!」

ランボーグ「ランボーグ」

キュアバタフライ「ましろんは私が守る、手出しはさせない」  
その時

ジャツカル「これは、そっかバタフライ」

キュアバタフライ「なんですか？」

ジャツカル「お前の思いにデッキが答えた、これでも使え」

キュアバタフライ「分かりました、私は魔法カード融合を発動、アマゾネス女王と鎖使いを融合 思いの力で生まれる新たな力よ アマゾネス女帝」

ジャツカル「さらに、フュージヨンリカバリーで融合とアマゾネス女王と手札に戻し発動」

キュアバタフライ「運命の女王よ 拳で砕く戦士よ、新たな力となり永遠の戦士となれ、融合召喚 アマゾネス女帝王」

ランボーグ「ランボーグ」

ジャツカル「無駄だ、いでよ、アマゾネスの剣士」

ランボーグ「ランボーグ」

ジャツカル「我は2枚目の融合を発動、戦士長とアマゾネスペットタイガーを融合」

キュアバタフライ「美しき部族を率いる戦士長よ 凶悪な猛獣よ

神秘の渦で一つとなり新たな力となれ 融合召喚アマゾネスペットキングライガー」

ジャツカル「これで貴様はキングライガーしか攻撃出来ない」

キュアバタフライ「これで終わりよ、女帝王 キングライガー攻撃」

ランボーグ「スキッター」

キュアバタフライ「ましろん大丈夫？」

ましろ「うん、ありがとう」

## ヒーローの出番です 漆黒のヒーロー現る

ソラ「私はヒーローになれるのでしょうか」

ましろ「大丈夫だよ」

ソラ「ましろさん、だけど」

ジャツカル「何をグダグダ悩んでいる？」

ソラ「ジャツカルさん、実は私はヒーローになれるのかなって思っています」

ジャツカル「ヒーローか・・・なれるだろうな、私のヒーローは使い方によっては闇に落ちる時もある」

ましろ「闇に」

ジャツカル「ああ、敵が出てきたら見せてやるよ、まあフラグになるんだがな」

あげは「それ言ったら本当に出てくるのでは」

ジャツカル「まあ、そうなったら都合がいいがな、ソラ」

ソラ「なんででしょうか？」

ジャツカル「気晴らしにドライブにでも一緒に行くか？」

ソラ「はい、私でよければ」

ツバサ「大丈夫なのかな」

あすか「大丈夫でしょ、彼ならな」

その頃、ソラは

ジャツカル「お前はなぜヒーローになりたいがる？」

ソラ「幼少期のころに危険な禁断の森に迷い込んでしまって、自律行動する巨大植物の蔭につかまりそうになって泣きそうになったときに助けられたんです」

ジャツカル「そっか、我のところにもあつたな、迷い込んではいけねえ場所が、とにかく敵だし、行くか、見せてやるよさっきの言葉の意味」

ソラ「えっ、ちよつと」

そして20分後

キュアウイング「あのランボーグ早い」

キュアサマー「とにかく動きを止めないと」

キュアラメール「だけど、どうするの?」

ランボーグ「ランボーグ」

キュアバタフライ「しまった!!」

その時

ジャツカル「吹き飛ばせ嵐 邪悪な力を今こそ滅ぼせ融合召喚 い  
でよエレメンタルヒーロー Great TORNADO やれだ  
ウンバースト」

ランボーグ「ランボーグ」

ジャツカル「あのランボーグ早いな」

ランボーグ「ランボーグ」

ジャツカル「TORNADOを倒すとは、だがこれはどうだ?魔法  
カード ミラクルフュージョン 墓地のフェザーマン バーストレ  
ディを除外、融合召喚エレメンタルヒーロー サンライザー」

キュアプリズム「新たなヒーロー」

キュアマカロン「面白くなってきたわね」

ジャツカル「さらに、並行世界融合を発動バーストレディとフェ  
ザーマンを融合 いでよフレイムウイングマン」

キュアシヨコラ「さらに融合モンスター」

ランボーグ「ランボーグ」

ジャツカル「行くぞ、スカイ」

キュアスカイ「はい」

ジャツカル「ヒーローにはヒーローらしい舞台つてのがあって  
ね、フィールド魔法 摩天楼スカイスクレーパー」

キュアウイング「景色が変わった」

キュアバタフライ「綺麗」

ジャツカル「行くぞ、スカイ」

キュアスカイ「はい、ヒーローガールスカイパンチ」

ジャツカル「フレイムウイングマン スカイスクレーパーシ  
ュー  
ト」

ランボーグ「ランボーグ」



ジャツカル「なんだと!! フレイムウイングマンとサンライザーが」  
キュアスカイ「私は負けません ヒーローとして闇の力も使つて見  
せます」

ジャツカル「これは、スカイ、お前がこいつを使え」

キュアスカイ「分かりました、私はダークフュージョン シニス  
ターネクロムとアダスターゴルドを融合します。闇に落ちし英雄  
たちよ、今こそ闇の力で新たな力を今ここに融合召喚E―HEROマ  
リシヤス・ベイン」

ジャツカル「使えたな」

キュアスカイ「これが闇に落ちたHERO」

ジャツカル「奴を倒せ」

キュアスカイ「はい」

ランボーグ「ランボーグ」

キュアスカイ「そこです、マリシヤス・ベイン イービルヒーロー  
スカイパンチ」

ランボーグ「ランボーグ」

ジャツカル「マリシヤス・ベインと合体攻撃を繰り返すとはな、あ  
いつもヒーローに近づいてるのかもな」

## 舞い戻る死神

あげは「ジャツカルさんはどこに住んでるんですか？」

ジャツカル「どこつて野宿かな、まあ、世界によつて他の奴らの家に居候つて形になつてるがな」

あげは「でしたら、私のところに来ませんか？」

ジャツカル「いいのか？」

あげは「はい」

そして、その夜

ジャツカル「それよりよう、あのラジオンは何が目的なんだ？」

ソラ「ジャツカルさんどうしたんですか!!」

響「大丈夫、彼酔っぱらつてるだけだから」

ましろ「そうなんですね」

ジャツカル「とにかく、あのラジオンは」

ソラ「カバトンです」

ジャツカル「そいつは何が目的なんだ？」

ツバサ「そこまでは分からないです」

ジャツカル「そっか、とにかく、あいつを潰してえ」

あまね「そういうえば、ジャツカルさんは今はどこに住んでるんですか？」

ジャツカル「ああ、今は、あげはの家で世話になつてる、それより、あいつ来たか」

ツバサ「とにかく僕たちも行こう」

ソラ「そうですね、心配ですし」

その時

まなつ「ジャツカルさん、駄目です」

ソラ「どうしたんですか？」

まなつ「ジャツカルさんがお酒飲んだのにDホイールに乗つていこうと」

ここね「それはまずいです」

ジャツカル「そっか、それもそうだな」

そして20分後

カバトン「プリキュア出てくるのねん」

ジャツカル「うるせえぞ、スマホン」

カバトン「カバトンだ、やれランボーグ」

ランボーグ「ランボーグ」

ジャツカル「貴様相手はこれでどうだ？インフェルニティビショップ、さらにカードをセット」

ランボーグ「ランボーグ」

ジャツカル「デプスアミュレット 手札を捨て攻撃を無効にする」  
ランボーグ「ランボーグ」

ジャツカル「我はインフェルニティワイルドキャット、さらにハンドレスフェイクで手札をすべて除外、そしてインフェルニティワイルドキャットの効果でレベルを1上げ4にする」

キュアバタフライ「レベルを上げた？」

ジャツカル「我は、レベル4のインフェルニティワイルドキャットにレベル4インフェルニティビショップをチューニング」

キュアウイング「インフェルニティワイルドキャットがレベル4」

キュアラメール「インフェルニティビショップがレベル4」

キュアプリズム「レベルの合計は8」

ジャツカル「混沌の力を司る地獄の業炎で焼き払え、いでよ煉獄竜オーガドラグーン」

キュアフラミンゴ「なんかかっこいい竜が来たな」

ジャツカル「これで終わらせてやるよ、オーガドラグーン 煉獄のヘルインフェルノ」

ランボーグ「ランボーグ」

ジャツカル「弱いな、なんか悪いな、お前らの出番なくなった」

ソラ「気にしないでください」

あげは「そうですね」

## 転生リンク召喚 転生炎獣

ジャツカル「そういえばあげはの家に来てから1週間だな」

あげは「どうしたんですか？」

ジャツカル「なんか、暇だなと」

あげは「そうだったんですか」

ジャツカル「ああ、悪いとにかく出かけてくるわ」

あげは「分かりました」

そして20分後

ジャツカル「それにしても、どうするか」

ましろ「危ないよソラちゃん」

ソラ「大丈夫です、私に任せてくれませんか」

ましろ「本当に危ないって」

ジャツカル「それにしても、どうするかって危ねえな、どこ見てやがる」

ソラ「ごめんなさい」

ジャツカル「ソラか、よく見て歩け、まったく」

ソラ「すみません」

ジャツカル「まったく」

その時

ツバサ「ジャツカルさん」

ジャツカル「どうした？」

ツバサ「敵が」

ジャツカル「こういう時に」

その頃、別の場所では

キュアルージュ「こいつ強い」

キュアアクア「そうね」

ジャツカル「運命の力 聖なる炎で焼き払え リンク召喚 転生炎

獣パイロフェニックス」

キュアグレース「ジャツカルさん」

ジャツカル「まったく、邪魔するなよ」

キュアバタフライ「大丈夫ですか？」

ジャツカル「大丈夫だ、やれパイロフェニックス」

ランボーグ「ランボーグ!!」

ジャツカル「交わすか、面白いだったらこれならどうだ、転生炎獣ウルヴィーさらに転生炎獣の意思を発動 転生炎獣Jジャガー」

キュアプリズム「2体の転生炎獣？」

ジャツカル「さらに、転生炎獣Jジャガーとウルヴィーをリンクマーカーにセット 燃える獅子よ 怒りの力で敵を討て リンク召喚 いでよ転生炎獣ヒートライオ」

キュアファイナーレ「炎の獅子？」

ジャツカル「さらにカードをセット さらに転生炎獣の聖域来なよ」

ランボーグ「ランボーグ」

キュアスカイ「危ない」

キュアスパイシー「大丈夫彼なら」

ジャツカル「速攻魔法転生炎獣の超転生を発動、ヒートライオでリンクマーカーにセット」

キュアメロディ「ヒートライオ1体でリンク召喚？」

ジャツカル「転生リンク召喚 いでよヒートライオ」

キュアバタフライ「ヒートライオを再び召喚した？」

ランボーグ「ランボーグ」

ジャツカル「そうはいくか、畏発動 威嚇する方向これでお前は攻撃できない」

キュアスカイ「行くよ、プリズム」

キュアプリズム「分かったよスカイ」

ジャツカル「ヒートライオ ヒートソウル」

キュアスカイ キュアプリズム「プリキュアアップドラフトシャイニング」

ジャツカル キュアスカイ キュアプリズム「ヒートアップドラフ

トソウルシャイニング」

ランボーグ「スキッター」

ジャツカル「終わったな」

響「すごい、転生リンク召喚」

奏「そうだね、まさか1体でリンク召喚するとはね」

## 融合幻魔の力

あげは「ジャツカルさんは何か夢ってあったんですか?」

ジャツカル「夢? ねえな、昔はあったが今はねえ、あげははあるのか?」

あげは「そうですね、保育士ですね」

ジャツカル「そっか、なんとか行けるんじゃないやねえの、そういえば、あげはは大学行くのか?」

あげは「私はソラシド福祉保育専門学校です」

ジャツカル「専門学校か、となると2年だな、まっ、我はこいつがあればいいがな、ちよつとDホイールを修理に出してくる」

あげは「私が送っていきます」

ジャツカル「助かる」

そして20分後

ジャツカル「悪かったな、送ってもらって」

あげは「気にしないでください」

ジャツカル「こういう時になんで敵が出てくるんだか」

あげは「私も行きます」

ジャツカル「悪いな」

あげは「はい」

そして20分後

キュアスカイ「このランボーグ強い」

キュアドリーム「でも私達は負けない」

ジャツカル「やれラビエル、粉碎せよ」

キュアウイング「ジャツカルさん」

ジャツカル「面倒だな」

キュアフローラ「いきなり幻魔って本気じゃん」

ジャツカル「それにしても、これならどうだ、罨を3枚をいけにえにウリア、さらに魔法3枚をいけにえにいでよハモン」

ランボーグ「ランボーグ」

ジャツカル「しまった!!」

キュアプリズム「きゃあああああ」

ジャツカル「やばい」

ましろ「これはまずい」

キュアバタフライ「ましろん」

ランボーグ「させるか、罨発動メタバース デツキから失樂園を発動」

キュアフィナーレ「デツキからフィールド魔法を？」

ランボーグ「ランボーグ」

ジャツカル「あいつましろを」

ましろ「きゃあああああ」

ジャツカル「お前徹底的にやってやるよ」

キュアバタフライ「ましろんをよくも許さない」

その時、不思議なことが起こった

キュアバタフライ「この光は？」

ジャツカル「まさか……そうか、我はバタフライと我でオーバーレイ」

ゼアルバタフライ「完成ゼアルバタフライ」

ゼアルバタフライ（キュアバタフライ）「これは？」

キュアスカイ「ジャツカルさんとバタフライが」

ましろ「合体した？」

ゼアルバタフライ（ジャツカル）「これは新たなゼアル？」

ゼアルバタフライ（キュアバタフライ）「なんだか知らないけど、私がやってやる、魔法発動次元融合殺を発動」

ゼアルバタフライ（ジャツカル）「今こそ開け幻魔の門 漆黒より蘇り怒りの力で敵を潰せ 融合召喚 混沌幻魔アーミタイル」

ゼアルバタフライ（キュアバタフライ）「融合 ラビエル天界蹂躞拳

ドラゴエディア レインボーダークドラゴンを融合 混沌に生まれよ 怒りの力よ」

ゼアルバタフライ（ジャツカル）「邪悪な力で今こそ生まれよ 三つの力よ一つとなれ」

ゼアルバタフライ（キュアバタフライ）「アゲてひろがるワンダホー



幻魔帝トリロジグ

キュアウイング「あれは」

キュアスパークル「新たな融合幻魔」

ゼアルバタフライ(キュアバタフライ)「行くよ、アーミタイルで攻撃」

ランボーグ「ランボーグ」

ゼアルバタフライ(キュアバタフライ)「トリロジグで攻撃 爆裂滅殺拳」

ランボーグ「スキッター」

ジャツカル「やったか」

あげは「今の力は？」

ジャツカル「あれはゼアルだ、あんたがましろを思う心がゼアルの力を覚醒させた」

あげは「そうだったんですか」

## 王者の鼓動と新たなナンバーズ

ジャツカル「どこにあるんだろうな、ナンバーズは」

あまね「ジャツカルさん」

ジャツカル「あつ、どうした？」

あまね「あのこれ」

ジャツカル「なんだこれ？」

あまね「これは私の家のチョコレートです、よければ」

ジャツカル「ああ、頼む、とにかく、出かけるか」

あげは「あのバイクないですよね、私のピヨちゃんでは出かせんか？」

ジャツカル「ピヨちゃん？」

あげは「はい、私のハマーの名前です」

ジャツカル「ああ、悪いな」

そして20分後

あげは「あの」

ジャツカル「どうした？」

あげは「以前のゼアルって？」

ジャツカル「よくは分らんが、思いが強いと変身？出来る」

あげは「そうだったんですね」

ジャツカル「この気配」

あげは「敵ですか？」

ジャツカル「それもあるが、見つけた」

その時

マスターキービートル「マスターこの気配」

ジャツカル「気づいたのか、お前も」

あげは「何がですか？」

ジャツカル「あげはじゃない」

あげは「？じゃあ誰に？」

ジャツカル「ああ、マスターキービートル、精霊だ」

あげは「そうなんですか？」

ジャツカル「とにかく、あげは敵のところへ行くぞ  
あげは「えっ、はい」

そして20分後

ソラ「あのランボーグ強いです」

ましろ「バツタモンダー何したの」

バツタモンダー「知るか」

ツバサ「知らないってじゃあなんであんなに強く」

その時

キュアバタフライ「大丈夫？」

ソラ「気を付けてください、あのランボーグ強すぎます」

キュアバタフライ「なんで？」

ジャツカル「カバトンじゃねえのか、おいその虫やろう」

バツタモンダー「なんだ？」

ジャツカル「お前が素材を使つてランボーグを作ろうが貴様の勝手  
だ」

バツタモンダー「それがどうした、外野が黙つてろ」

ジャツカル「人の話を聞け、だけどな、私の物を返してもらおう」

バツタモンダー「なんの話かは知らねえな」

ジャツカル「そっか、だったら、潰してやるよ」

ランボーグ「ランボーグ」

ジャツカル「我は、バイスドラゴンを特殊召喚、さらにダークリゾ  
ネーターを特殊召喚、さらに、レッドウルフを特殊召喚、カードをセッ  
トを2枚セットする」

キュアスカイ「いったいあれで」

キュアルージュ「あれは、チューナーと非チューナーってことは」

ジャツカル「レベル3のダークリゾネーターにレベル5のバイスド  
ラゴンをチューニング 王者の鼓動 怒りの力で滅ぼせ シンクロ  
召喚 レッドデーモンズドラゴン」

キュアウイング「赤い龍？」

ジャツカル「行くぞ、レッドデーモンズドラゴン アブソリユート  
パワーフォース」

ランボーグ「ランボーグ」

キュアファイナーレ「交わされた」

ジャツカル「やるな、だが」

ランボーグ「ランボーグ」

ジャツカル「ちつ、レッドデーモンズドラゴンを粉碎してくれたな、  
だったら、私のターン……仕方ない、お前をぶつ潰す、行くぞ、レ  
ベル5以上のモンスターがいる時、こいヴィジョンリゾネーター」

キュアレモネード「あれは、リゾネーターの新規？」

ジャツカル「バタフライ、行くぞ」

キュアバタフライ「はい」

ジャツカル「バタフライと我自身でオーバーレイ ゼアルバタフラ  
イ」

バツタモンダー「なんだこの力は？」

ゼアルバタフライ(ジャツカル)「そして、レベル6のバイスドラゴ  
ンにレベル2のヴィジョンリゾネーターをチューニング 王者の鼓  
動 今こそ新たな力を得て、強力な力で粉碎せよ シンクロ召喚」

ゼアルバタフライ(キュアバタフライ)「アゲてひろがるワンダ  
ホー」

ゼアルバタフライ(ジャツカル)「いでよ、スカーレットデーモン」  
バツタモンダー「行け、ランボーグ」

ゼアルバタフライ(キュアバタフライ)「速攻魔法発動アブソリユー  
トパワーフォース」

キュアプリズム「レッドデーモンズドラゴンの技と同じ名前の速攻  
魔法」

ゼアルバタフライ(キュアバタフライ)「アブソリユートパワー  
フォースの効果でレッドデーモンズドラゴンの攻撃力を1000  
アップ」

バツタモンダー「馬鹿か、レッドデーモンズドラゴンとかいう龍は  
さつき破壊した」

キュアアクア「そうよ、レッドデーモンズドラゴンはいないわ」

ゼアルバタフライ(ジャツカル)「馬鹿か、スカーレットデーモンは

レッドデーモンズドラゴンとして扱う」

ゼアルバタフライ（キュアバタフライ）「行くよ、2つの色を一つに！レッド！ホワイト！元氣の力、アゲてこ！」

ゼアルバタフライ（ジャツカル）「これで終わりだ、アブソリユートメテオ」

ランボーグ「ランボーグ」

バツタモンダー「ちっ、覚えている」

ジャツカル「やったぜ、これでようやくナンバーズ1〜1000まですべてそろった、これでわが手に」

ソラ「疲れました」

ましろ「そうだね」

## 新たな力 地縛の力

ジャツカル「これで我が記憶がそろった」

あげは「あの」

ジャツカル「どうした？」

あげは「ナンバーズってなんですか？」

ジャツカル「ああ、私の記憶のカードだ」

あげは「記憶の？」

ジャツカル「ああ、そうだ」

ましろ「今から、ちよつと市役所に行ってきます」

ジャツカル「市役所？」

ましろ「はい、あの私の漫画のコンテストに出すんです」

ジャツカル「そっか」

そして20分後

ジャツカル「それにしても、何が…この気配、あの虫野郎か、行くか」

その頃、別の場所では

キュアスカイ「このランボーグ、やりますね」

キュアプリズム「でも前回よりはまだいい方ですね」

キュアアクア「そうね」

ジャツカル「またかこの虫野郎」

バツタモンダー「お前は、あの時の」

ジャツカル「邪魔をするな、始皇帝の陵墓を発動、そして2000

ライフを払いの問題地縛神コカライア」

バツタモンダー「なんだこのこれは」

ジャツカル「貴様らなど話にならん、コカライア潰せ」

ランボーグ「ランボーグ」

ジャツカル「ちつ、やってくれたな、だったら、これはどうだ、魔法カード融合」

キュアアクア「融合？」

ジャツカル「まずは、地縛神Wiragocha Rascasと地

縛神 Aslla Piscuを融合」

キュアウイング「2体の地縛神を融合？」

ジャツカル「地上絵に描かれし猿とコンドル、悪魔に司り 新たな力を得るがいい 地縛戒隸ジオクラーケン」

キュアプリズム「あれは、イカ？」

バツタモンダー「そんなものなど意味はないんだよ」

ジャツカル「違うな、こいつはただ、自分の夢をかなえるため努力している、そんなものなどとは違う」

バツタモンダー「そんなものに出来る？」

キュアプリズム「私は夢を叶える」

ジャツカル「貴様みたいな虫野郎とは違うんだよ」

その時

キュアプリズム「これは」

ジャツカル「行くぞ、プリズムと我でオーバーレイ、誕生ゼアルプリズム」

ゼアルプリズム（キュアプリズム）「これは、ゼアル」

ゼアルプリズム（ジャツカル）「プリズム、融合を覚え」

ゼアルプリズム（キュアプリズム）「分かりました、魔法カード融合、

ジオクラーケンとヴァサーゴを融合」

ゼアルプリズム（ジャツカル）「漆黒の破壊神よ 触手蠢く地より現れよ」

ゼアルプリズム（キュアプリズム）「ふわりひろがる優しい光」

ゼアルプリズム（ジャツカル）「地縛戒隸ジオグラシャラボラス」

キュアアクア「何あれ、あんな地縛神見たことない」

キュアルージュ「地縛戒隸って言っていましたよ」

キュアウイング「優しい光とは程遠いんだけど」

ゼアルプリズム（ジャツカル）「ランボーグの攻撃力 守備力を皆無にする」

ランボーグ「ランボーグ!!」

ゼアルプリズム（キュアプリズム）「これで終わらせる、ヒーロー  
ガールマイアスマシヨット」

ランボーグ「ランボーグ!!」  
バツタモンダー「ちっ、またしても」  
ジャツカル「やったな」  
ソラ「そうですね」  
ましろ「よかった」



## 舞い上がれ新たな青い目の龍

ソラ「あのジャツカルさん」

ジャツカル「どうした？」

ソラ「ナンバースってカード全部、揃ったって言っていましたけど、何にも怒らないんですか？」

ジャツカル「ああ、ヌメロンコードは消えたからな、何も無い」

あげは「ヌメロンコード？」

ジャツカル「なんでも願いが叶う便利なものだ」

ツバサ「なんで消えたんですか？」

ジャツカル「我が消した」

ツバサ「そうだったんですか」

その時

キュアファイナーレ「ジャツカルさん、敵です」

ジャツカル「分かった」

ソラ「私達は先に行つてます」

ジャツカル「ああ、そうか、任せる」

そして20分後

バツタモンダー「馬鹿め、邪魔をするからこうなるのだ」

キュアスパイシー「強すぎる」

バツタモンダー「外野が邪魔するから」

その時

ジャツカル「いでよ、青眼の白龍 滅びのバーストストリーム」

ランボーグ「ランボーグ」

バツタモンダー「またお前k」

ジャツカル「速攻魔法、究極融合、フィールドと手札の青眼の白龍 2体を融合、混沌の力、怒りとなり現れよ、いでよブルーアイズアル テイメツトドラゴン」

バツタモンダー「貴様、ふざけたk」

ジャツカル「さらにアルテイメツトバーストを発動、これで3回攻撃出来る」

キュアバタフライ「すごい」  
キュアスカイ「3回攻撃はすごいです」  
バツタモンダー「ふぎけるなこの外野どもg」  
キュアウイング「違う、ましろさんは外野じゃない」  
ジャツカル「そうだ、こいつは貴様とは違う」  
その時  
キュアウイング「この力は」  
ジャツカル「行くぞ、ウイング」  
キュアウイング「はい」  
ジャツカル「我は、ウイングと我自身でオーバーレイ、混沌の翼が  
舞し時運命となれ」  
キュアウイング「天高くひろがる勇氣」  
ジャツカル「ゼアルウイング」  
ゼアルウイング（キュアウイング）「これは、すごい」  
ゼアルウイング（ジャツカル）「今度は魔法発動 銀龍の轟咆、甦れ  
青眼の白龍、ウイングこいつを墓地に送って召喚しろ」  
ゼアルウイング（キュアウイング）「えっ、はい、僕は青眼の白龍を  
墓地に送り、美しく舞え美しいツバサ」  
ゼアルウイング（ジャツカル）「その力で羽ばたくがいい」  
ゼアルウイング（キュアウイング）「天高くひろがる勇氣 ブルーア  
イズタイラントドラゴン」  
バツタモンダー「ふぎけるな、なんだその龍は」  
ゼアルウイング（キュアウイング）「ブルーアイズタイラントドラゴ  
ンで攻撃 ひろがるウイングバーストストリーム」  
バツタモンダー「覚えておけ」  
ツバサ「すごい、これがゼアルの力」  
ソラ「すごいです」  
ましろ「そうだね」  
あげは「とてもすごいよ、少年」  
ツバサ「ジャツカルさんのおかげだよ」

## スカイランドへ 奇跡を起こす超銀河

ジャツカル「それにしても、どうするか」

ソラ「あの」

ジャツカル「どうした？」

ソラ「今からスカイランドに行くんですが、一緒にどうですか？」

ジャツカル「いいのか？」

ソラ「はい」

ジャツカル「分かった、同行しよう」

そして20分後

ソラ「ここがスカイランドです」

ジャツカル「そつか、ここがか」

ツバサ「あの今から、行きます」

ジャツカル「ああ、分かった、我はここにしよう、まあ、敵が出た場合は別だがな」

そして20分後

ジャツカル「まさか、ここまで敵がいるとはね」

???? 「ここまでか」

???? 「ベリイベリー!!」

ベリイベリー「くっ、ここまでか」

??? 「大丈夫か？」

ベリイベリー「大丈夫、だけど、なんでダメージが」

銀河光子竜「グギヤアアアアオ」

ジャツカル「おい、お前大丈夫か？」

??? 「誰だ？」

ランボーグ「ランボーグ」

ジャツカル「銀河光子竜の効果発動、オーバーレイユニットを一つ使いこいつでいつか、手札からフォトンバニツシャーを特殊召喚そしてフォトンスレイヤーを特殊召喚、そして銀河光子竜の効果でレベル8に」

ランボーグ「ランボーグ」

ジャツカル「さらに、フォトンバニツシャーとフォトンスレイヤーをリリース 来い銀河眼の光子竜を特殊召喚、そして2体のレベル8でオーバーレイ 逆巻く銀河 次元を超えかの地に降臨せよ、いでよ、銀河眼の光波竜」

??? 「なんだあの龍は」

ジャツカル「さあ、貴様を潰す」

ランボーグ「ランボーグ」

ジャツカル「今度はこれだ、RUM光波昇華を発動、混沌に逆巻く銀河の力 新たな次元に新たな超銀河を巻き起こせ、エクシース召喚 超銀河眼の光波龍」

??? 「ドラゴンの進化した!!」

ベリイベリー「それにしても、どうなってるんだ」

ジャツカル「これは進化じゃないランクアップだ、まあいい、やれ超銀河眼の光波龍、これでも食らえ、戦慄のサイファーストリーム」

ランボーグ「ランボーグ!!」

ジャツカル「お前達では倒せない」

??? 「なかなか、やるな」

ジャツカル「気にするな、我はジャツカル」

??? 「私は青の護衛隊の隊長シヤララだ」

??? 「俺は、副隊長のアリリだ」

ベリイベリー「私はベリイベリーだ、さっきは助かった」

ジャツカル「気にするな、ただソラ達と一緒に同行しただけだ」

ベリイベリー「そう、ソラはなのか？」

ジャツカル「ああ、大丈夫だ」

その時

キュアバタフライ「ジャツカルさん」

キュアスカイ「あれっ、もう終わってしまいましたか？」

ジャツカル「ああ、終わった」

キュアプリズム「そうだったんですね」

## 恐怖 暗黒界域

ベリイベリー「前は助かった、ありがとう」

ジャツカル「ああ、気にするな」

シヤララ隊長「そういえば、その力は？」

ジャツカル「これか？これは」

ソラ「実は彼、別な世界？から来たみたいなんです」

ベリイベリー「別な世界？」

ジャツカル「ああ、そうだ」

その時

アリリ副隊長「大変だ、敵だ、しかもかなりの数だ」

ジャツカル「こういう時に」

ソラ「みんな行きますよ」

あげは「うん」

ジャツカル「さて、我也行くか」

そして20分後

バツタモンダー「お前達もここで終わりだ」

キュアマカロン「なかなか強いわね」

キュアバタフライ「そうですね」

バツタモンダー「これで終わりだプリキュア」

その時

ジャツカル「おい虫野郎、お前に選択をやる」

バツタモンダー「選択だと？いいだろう」

ジャツカル「まずは未開域のツチノコを貴様に見せ貴様は手札から

一枚選択しなければならぬ」

バツタモンダー「くだらないな、一番右だ」

ジャツカル「このカードを墓地に送り、ツチノコを特殊召喚、いい

こと教えてやる、今、貴様が墓地に送ったのは暗黒界の魔神レイン」

バツタモンダー「それがどうした？そんな蛇一匹で何が出来る？」

ジャツカル「馬鹿か、私のフィールドを見て見ろ」

バツタモンダー「なんだと？」

キュアウイング「あれは？」

キュアプリズム「もしかして、レイン？」

キュアバタフライ「でもレインって墓地に送ったよね、なんでフィールドに？」

ジャツカル「レインは墓地に送られると復活する、そしててめえのフィールドのモンスターをせん滅する」

ベリイベリー「ということは」

シャララ隊長「全滅ってことか」

ジャツカル「さらに、手札から未界域のビッグフットを相手に見せ、選べ」

バツタモンダー「だったら、今度は右」

ジャツカル「暗黒の鬼神ケルトを墓地へ未界域のビッグフットを特殊召喚しケルトを特殊召喚」

そして20分後

キュアアクア「ここまでは暗黒界の魔神王レインと暗黒界の龍神グラファ2体」

ジャツカル「そして、暗黒界の登極グラファとレインを除外し融合混沌の龍神よ悪魔の魔神と一つになり暗黒の門をいま開け、融合召喚 暗黒界の龍神王グラファ」

キュアファイナーレ「龍神王!!」

キュアスパイシー「すごい」

ジャツカル「これで終わりだ、グラファで攻撃だ」

バツタモンダー「覚えている」

ジャツカル「終わったな」

ひかる「未界域キラヤバー」

ましろ「でも、倒した」

あげは「そうだね」

ツバサ「でもランボーグを倒せるね」

ソラ「そうですね」

## 轟け 運命のTG

ジャツカル「それにしても、どうするか……ひかるどうした？」  
ひかる「未界域でしたっけあれすごく、キラヤバです」

ジャツカル「あっ？ああ、未界域はUMAつまり未確認生物をモチーフにしている」

ひかる「そうなんですネ」

ジャツカル「それにしても、どうするかな」

ソラ「ジャツカルさん」

ジャツカル「どうした？」

ソラ「シャララ隊長がおよびです」

ジャツカル「なんだ？まあいいだろう」

そして20分後

ジャツカル「なんか用か？」

シャララ隊長「急に呼び出してすまない、だが助かったがこれからも敵は来る」

ジャツカル「別に構わん、ただ、邪魔する敵はねじ伏せる」

シャララ隊長「そうか、なら安心だな」

その時

ベリイベリー「大変だ、敵が」

ジャツカル「我が行く、試したいことがあるからな」

そして20分後

ランボーグ「ランボーグ」

ジャツカル「怒れる龍よ、愚かなものを滅ぼすがいい、シンクロ召

喚 TGオーバードラグナー」

ランボーグ「ランボーグ!!」

キュアファイナーレ「ジャツカルさん」

キュアスパイシー「TGって初めてだね」

ジャツカル「我は、TGオールクリアを発動し、TGモンスターはすべて機械族になる」

キュアスパークル「すべてを機械族？」

ジャツカル「我は、TGサイバーマジシャンを召喚、そして、我はレベル1のTGサイバーマジシャンと手札のTGロケットサラマンダーをチューニング、いでよ、シンクロチューナーTGマイティストライカー」

ランボーグ「ランボーグ」

ジャツカル「馬鹿か、さらに我はTGカタパルトドラゴンを召喚さらに、TGメタルスケルトンを特殊召喚」

キュアシヨコラ「レベル2とレベル3」

ジャツカル「さらに、カタパルトドラゴンとメタルスケルトンをチューニングいでよ、TGパワーグラディエーター」

キュアマカロン「なんか面白そうね」

ジャツカル「さらに、マイティストライカー パワーグラディエーター オーバードラグナーでチューニング デルタアクセルシンクロ 怒れる力よ、滅びとなり 新たな力を打ち砕け 現れよ TGグレイブ・ブラスター」

キュアフラミンゴ「攻撃力4000!!」

そして数分後

ジャツカル「さらにTGスターゲイディアン ハイパーライブラリアン レシプロドラゴンフライをチューニング デルタアクセルシンクロ 運命の力よ、怒りとなり新たな世界を切り開け TGハルバードキャノン」

キュアスパイシー「攻撃力4000が」

キュアウイング「2体!!」

ジャツカル「これで終わりだ、ハルバードキャノン グレイブ・ブラスター」

ランボーグ「ランボーグ!!」

ジャツカル「雑魚がすつこんでろ」

ツバサ「すごい」

あげは「そうだね」

あすか「攻撃力4000を2体も出すとはやるなあまね「そうだな」



## 敵を討て 三幻神

ジャツカル「よっしゃ敵をぶっ潰してやる」

あまね「少しは落ち着いたらって、酒を飲んでののか」

ジャツカル「よし、あまね」

あまね「なんですか？」

ジャツカル「Dホイールを運転してくれ」

あまね「無理です、免許ありません」

ジャツカル「じゃあ、運転してくか」

ましろ「ダメですから」

あげは「なんなら私が運転しましょうか？」

ジャツカル「ああ、頼む」

エル「運転ダメ」

ジャツカル「そうだなというか、エルちゃんってこんなに喋れたか？」

ましろ「喋れるようになったんですよ」

ジャツカル「そっか」

そして20分後

キュアファイナーレ「ジャツカルさん」

ジャツカル「なんだ？」

キュアファイナーレ「敵が多くて、援護お願いします」

ジャツカル「よっしゃ、行くぜ、行くぞ、あげは」

キュアファイナーレ「えっ、はい」

そして20分後

キュアプリズム「あいつ強い」

ミノトン「さすがはプリキュア、敵として敬意を表する」

キュアスパイシー「あいつ普通の敵とは違うみたいだね」

その時

ジャツカル「ランボーグを生贄にいでよ、ラーの翼神龍スファイア

モード降臨」

ミノトン「誰だ？」

キュアウイング「ジャツカルさん」

ジャツカル「なんだあいつ？バツタ野郎でもカバトンでもないのか？」

キュアスカイ「あいつは、ミノトンです」

ジャツカル「今までの敵とは違うようだな」

キュアマジエステイ「とにかく、あいつは強いです」

ジャツカル「ああ、って誰だお前」

キュアマジエステイ「キュアマジエステイです」

ジャツカル「えつとそういうことじゃねえ」

キュアスカイ「マジエステイはエルちゃんです」

ジャツカル「ああ、エルちゃんか、ってエルちゃんってまだ赤子じゃなかったか？変身出来たのか？」

ミノトン「お前は誰だ？プリキュアの仲間か？」

ジャツカル「仲間というかダチだ」

ミノトン「面白い、来な」

ジャツカル「そのつもりだ、行かせ、スファイアモードを生贄に、いでよ、ラーの翼神龍」

ミノトン「面白い、そのモンスターを」

ジャツカル「何を言ってる？ラーはモンスターではない、神だ」

ミノトン「ほう、神か、相手にとって不足はなし」

ジャツカル「お前はバツタ野郎やカバトンとは違うようだな、面白い、だったら、罨発動 蘇りし天空神、いでよオシリスの天空竜」

キュアバタフライ「すごい、2体の神」

ジャツカル「オシリスの天空竜の攻撃力は6000、さらに伏せていた速攻魔法 粉碎せし破壊神、墓地から復活せよオベリスクの巨神兵」

キュアファイナーレ「すごい、神が3体」

ジャツカル「さらに、ゴッドブレイズキャノンを発動ハルバートキャノンとグレイブ・ブラスターを生贄にラーの攻撃力分だけアップする」

キュアソード「ハルバートキャノンとグレイブ・ブラスターの攻撃

力は4000」

キュアプリズム「攻撃力は12000」

キュアウイング「オシリスの攻撃力は5000にオベリスクの巨神兵は4000」

キュアバタフライ「これならいける？」

ジャツカル「やれ」

ミノトン「来い、ランボーグを葬った力見せて見ろ」

ジャツカル「いいだろう、オベリスク ゴツドハンドクラッシャー

オシリス 超電導波サンダーフォース ラー ゴツドブレイズ

キャンオン」

ミノトン「そんなのは、なんだこの力は」

ジャツカル「終わりだ」

ミノトン「さすがは神の攻撃だ、今日は、退いてやろう、お前のような強者と戦えるのは面白い、今度こそ、倒す ミノトントン」

ジャツカル「いつでも受けてやるよ、ミノトン」

あげは「やりましたね」

ましろ「そうだね」

あまね「さすが神の力、強力だな」

ソラ「そうですね」